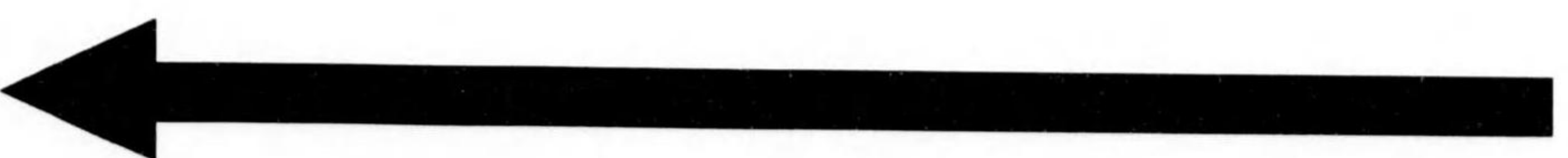


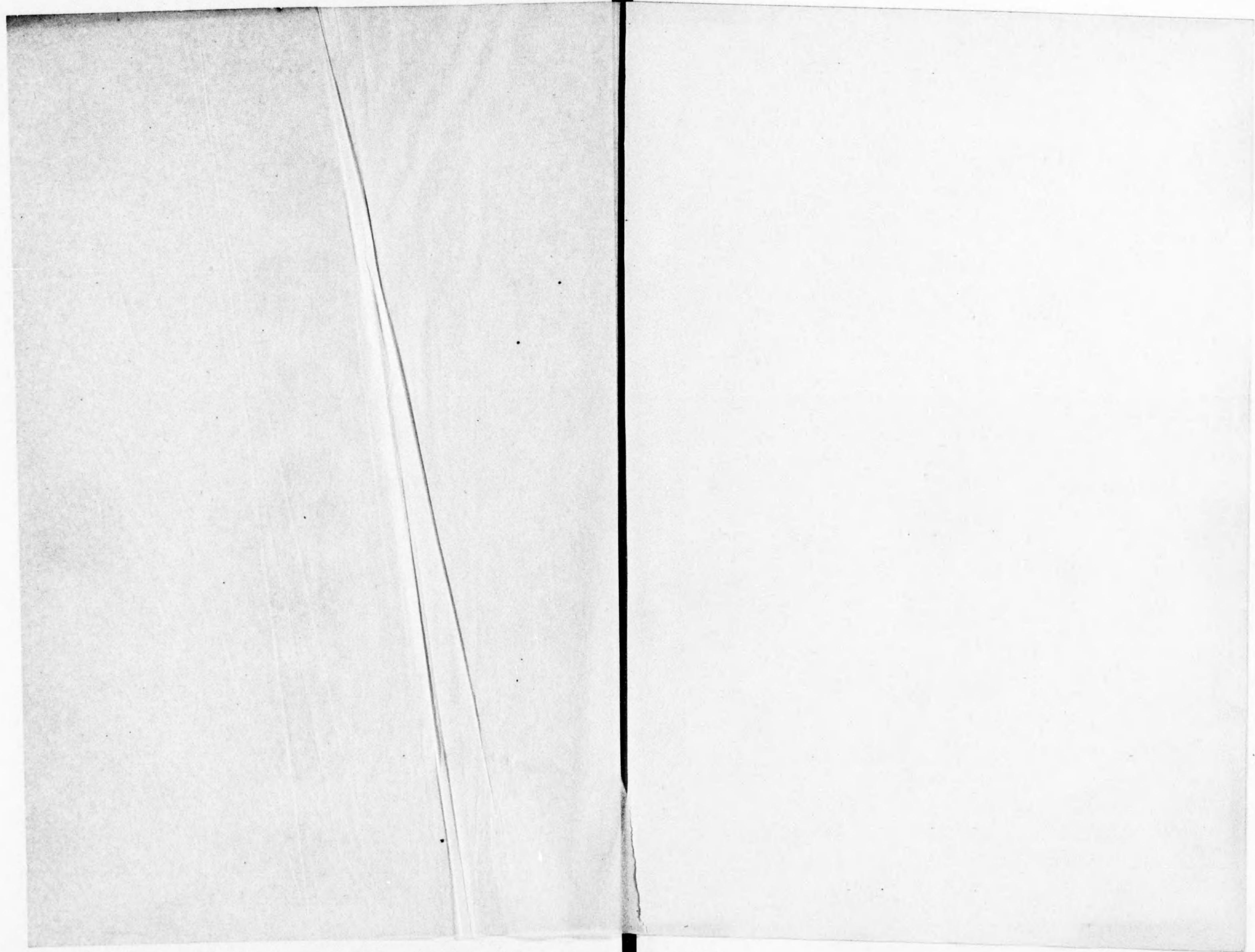
始





282  
CA 1







支那人名辭書

下  
卷



282  
CN1



支那人名辭書

下卷

12803



モ

モウガウ 蒙鶯 (秦)將と爲て韓の地を攻め三川郡を置き趙を攻めて三十七城を取りまた韓を攻めて十三城を取り魏を攻めて二十城を取る。始皇の七年、卒す。子武。

モウキ 蒙毅 (秦)武の子。恬の弟。位、上卿に至る。蒙恬外事に任じ、毅常に内謀を爲す。故に諸將相と雖も敢て之と抗する莫し。

モウコカウ 蒙古綱 (金)本名胡里綱。咸平府臨安の人。諸官を歴。綱下を御する。信實必副、遷し借す。邢州の軍之に屬するを嫌まず、元光元年省騎に亂入し綱及び僚屬を殺す。

モウコク 蒙毅 (周)楚の大夫。昭王、魏より郢に反る。毅、五官を典り法を得て百姓大に信る。王之を封せんと欲す。毅辭し逃る。

モウジュン 蒙潤 (元)高僧。玉岡と號す。海鹽の人。順氏、德順、演福、下竺、靈山に歷住す。宗風大に振ふ。至正二年示寂す。年六十八。著す所、四教備論註あり、世に行はる。

モウテン 蒙恬 (秦)武の子。咸陽侯に置ふ。始皇、恬を遣し兵三十万を率ゐて、北、長城を築かしむ。始皇、沙丘に崩す。趙高、胡亥、詔を矯めて太子扶蘇を殺す。恬、藥を吞んで自殺す。恬、始めて筆を作る。枯木を以て管とし鹿毛を注し羊毛を被とす。兎鹿竹管に非ざる也。

モ

モウア 蒙武 (秦)蒙之子。恬の父。始皇の二十三年、秦の將となり王翳と共に楚を攻めて大に之を破り項燕を殺す。二十四年、また楚を攻めて楚王を虜にす。

モウラン 木蘭 (南北朝)女子。梁の時父に代て邊を成ると十二年、人其女たるを知らず。歸て成邊詩一篇を賦す。杜牧木蘭の廟に題して曰く、彎弓征戰作男兒、夢裏曾經轟雷震、幾度思歸還把酒、拂雲堆上祝朝妃と。

モンコクレン 門克勒 (明)蒙昌の人。泰州教諭たり。洪武二十六年秩滿奉朝朝。帝召して經史及び政治の得失を問ふ。克勒直言無諂す。賢善を授けらる。亮直を以て重んぜらる。禮部尙書に擢てられ、尋て疾を以て卒す。

モンムクワン 門無關 (元)或は云はく無準の弟なりと。道釋人物を備く。

ヤウアツ 楊暹 (五代)吳主第二世。字は承天。行密の長子。嗣て四年其下に弒せらる。年二十三。追尊して烈宗景皇帝といふ。ヤウアジン 羊鴛仁 (南北朝)字は少穆。鉅平の人。魏より梁に歸し度晋侯に封せらる。魏景の藩城を攻むるや、雅仁所部を率ゐて入援。景に獲らる。以て兵部尙書と爲す。

ヤ

ヤウアン 羊安 (南北朝)明經を以て括蒼尉を授けらる。括蒼山に隱る。一日背蓮觀の道士と阮客濁に飲す。酒中忽ち地に仆る。七日にして乃ち覺め云く、初め一人を見る。自ら雲興と云ふ。遊へて洞中に入る。石間に物あり出出す。曰く此背蓮芝なり、之を食へば仙を得と。惜取りて之を食ふ。是より惟水を飲み、身の輕きを覺ゆ。日に行くと數百里。後委羽山に入る。人之を見る莫しと云ふ。

ヤウアンコク 楊安國 (宋)光輔の子。五經を以て及第す。仁宗の時、崇政殿説詩たり。之を久うして天章閣侍講學士に進む。尙書刑部太常を歴列して卒す。尙書禮部侍郎を贈らる。經筵に在る二十七年、仁宗稱して其行義の淳實なる巋巋に比すと云ふ。

ヤウイ 楊暉 (晉)無終の人。蒙の弟。字は士倫。幼時叔父耽之を奇とし曰く、此兒は吾家の標秀、佐時の器と。

ヤウイウ 陽烏 (南北朝)字は元略。夏陽の人。累世豪族たり。父猛は孝武の四遷に従ひ、功を以て都陽伯に封せられ征東將軍揚州刺史たり。雄豪を奉朝請に起し、軍功を以て安平縣侯に封せらる。子孫相襲ぐを得。邑陽郡守に拜し、平州刺史に累遷す。

ヤウイジュ 楊鷲 (宋)字は彝甫。長洲の人。行義を以て隱居す。方惟深と時を同うし吳中の二老と號す。承奉耶を以て致仕す。平居鷲を以て自信し、世間に傾巧の事好みて傳覽を務め、黙して深湛の思を運す。嘗て以爲らく、經は易より大なるなしと、故に大玄を作り、傳は論語より大なるなしと故に法言を作り、史篇は倉頡を善しと爲し故に訓義を作り、篇は虞夏より善きはなしと故に州箴を作り、賦は離騷より深きはなしと故に反して之を廣め、辭は相如より麗なるはなしと故に甘泉、長楊等の四賦を作り以て之に擬す。遂に機擬の機を受く。然れども敢て意に介せず。常に云ふ、以て千載の揚子雲を俟つと。子烏、神童の目あり、天す。(雄自ら楊を揚に改めて一族と別つ)

ヤウイ 楊暉 (南北朝)無終の人。蒙の弟。字は士倫。幼時叔父耽之を奇とし曰く、此兒は吾家の標秀、佐時の器と。

ヤウイウ 陽烏 (南北朝)字は元略。夏陽の人。累世豪族たり。父猛は孝武の四遷に従ひ、功を以て都陽伯に封せられ征東將軍揚州刺史たり。雄豪を奉朝請に起し、軍功を以て安平縣侯に封せらる。子孫相襲ぐを得。邑陽郡守に拜し、平州刺史に累遷す。

ヤウイジュ 楊鷲 (宋)字は彝甫。長洲の人。行義を以て隱居す。方惟深と時を同うし吳中の二老と號す。承奉耶を以て致仕す。平居鷲を以て自信し、世間に傾巧の事



ヤウイセ

あるを知らず。 (明)雲南路南の人。 萬曆中、貢生より貴陽通判を授けられ、畢 節衛事を理す。秩滿ちて同知に進められ仍 旧節衛を治む。天啓中、安邦彦、貴陽を圍 む。以成鐵骨を具へて援を乞ふ。書發して 賊已に至る。戰て却く。賊の至る益乘し。 以成吏をして印を懷せしめ、問道より省に 趨かしめ、身から吏氏を督して拒守す。援 兵至り賊逃る。而て衛吏阮世爵、内應を爲 す。城遂に陷る。以成倉皇樓を投ず。賊之 を繫へて去る。乃ち書を以て賊中の情形を 述べて竹筒中に眞め、弟以恭を遣して雲南 に變を告げしめんとす。敵納溪に至り賊其 書を得、以成を併せて殺す。按察使事を贈 らる。後ち光祿廟を贈られ、世々錦衣千戶 を庶せらる。

ヤウイツシウ 楊一洲 (明)字は伯海。楊 州人。衛を善くす。

ヤウイツセイ 楊一清 (明)字は和寧。其 先は雲南安寧の人。父景に従つて巴陵に居 り。奇策を以て翰林秀才に擧げらる。成化八 年の進士。憲孝武世の四朝に歴事し人臣の 首位に達す。大禮の議合はずして致仕す。 嘉靖九年疽背に發して死す。帝賜諡を贈し、 太保を贈り文襄と諡す。

ヤウイツホウ 楊一鵬 (明)河津の人。崇 禎九年の郷試に擧げらる。尉氏知縣たり。 南めて數月、李自成の運兵來り犯す。城破 る。賊を罵て死す。

ヤウイツ

ヤウイツホウ 楊一鵬 (明)臨湘の人。崇 禎中、戶部尚書兼右倉部御史總督漕運巡撫 江北四府に歷す。賊竊く江北に逼る、竟に 守を失して棄市せらる。

ヤウイン 楊頌 (宋)湖妓。手づから法華 經を寫す。筆を擧ぐる毎に必先づ齋素盥沐 して衣を更む。

ヤウイン 楊引 (明)吉水の人。學を好み 詩文を能す。太祖召見して食を賜ふ。官に 徵せられて就かず。平素養生の術あり、老 に達て視聽衰へず。壽を以て終ふ。

ヤウウカイ 楊子楷 (明)里居行人。崇禎 五年、紫金梁等遠州に逃す。子階、主事張 友程、佐知孫宇呈章と拒守す。力風して城 陷る。子階執へられ賊を罵りて死す。光祿 少卿を贈らる。

ヤウウヘイ 楊子陸 (明)劍州の人。郷に 擧げられ武定府同知を歴官す。崇禎三年、 普名聲反す。巡撫王伉、軍事を監紀せしむ。 兵敗れ、執はれて死す。

ヤウウン 楊偉 (漢)敞の子。字は子幼。 宣帝の時、中郎將たり。殿中に居り廉潔私 なし。孫曾宗に答ふる書に云く、煮羊無焦、 斗酒自ら勞ふ、酒後耳熱し、天を仰ぎ缶を 拊て烏々と呼ぶ、人生行樂のみ、富貴を須 づ何れの時ぞと。

ヤウウンヨク 楊興翼 (金)字は之英。樂 平の人。天性雅重自ら律する。其甚だ殿に して、人を待つは則ち寛なり。其國家の事 に於ける、知りて言はざるなし。官、資善大

に先ん。克捷すれば功を下に推す。邊に 在ること二十餘年、契丹之を懼り目して楊 六郎と爲す。子文廣。

ヤウオウジュン 楊應詢 (宗)益州郫の人。 眞宗の楊淑妃の族。信安保定軍を歴知し、 河北安撫使となる。政績あり。雄州を知し 兵を治め粟を積む。契丹敢て犯さず。後定 州眞定大名副都總管たり。卒して康理と諡 す。

ヤウオウリヨウ 楊應龍 (宋)字は汝濟。 徽宗の時、朝散大夫敏求が孫。外間に居り 文武の才あり。嘗宗に仕へ官武功大夫兩浙 西路兵馬鈐轄たり。暮年丐祠して建寧府を 主管し冲祐親使たり。嘗て進授冊五萬言を 著はし又知見錄凡そ三十卷性齋詩稿若干卷 あり。子光輔。

ヤウオウリヨウ 楊應龍 (明)烈の子。性 殺を嗜む。官四川播州宣慰司使たり。萬曆 十七年城に據りて叛す。百十有四日にして 討滅せらる。

ヤウオク 楊億 (宋)字は大年。浦城の人。 祖文逸、南唐の玉山令たり。億玉山人來る と夢み、覺て億を生む。數歳言ふ能はず。 一日家人之を抱き樓に登り其首に觸る。即 ち吟じ曰く、危樓高百尺、手可摘星辰、不 敢高聲語、恐驚天上人。七歳善く文を屬 す。從祖徽之嘗て與に語り嘆つて曰く、吾門 を與す者は汝に在りと。雍正の初、億年十 一試みられて童科に中る。太宗召見して一 賦二詩を試む。頃刻にして成る。中書に送

ヤウウン

夫に至る。金氏の高文大冊多く其手に出づ。 貢舉を興ること三十年、門生天下に半ばす。 卒する時年五十九。文獻と諡す。

ヤウウンリン 楊雲林 (明)花鳥を畫くに 工なり。

ヤウエイ 楊英 (隋)煬皇帝を見し 子、管軍万戸を以て太祖に従ひ、累擢せら れて湖廣行省參政たり。營陽侯に封せられ 千五百石を食む。洪武十一年八月卒す。芮 國公を追封し武信と諡す。子通。

ヤウエイ 楊榮 (明)字は勉仁。建安の人。 初名子榮。建文二年の進士。編修を授けら る。五朝に歴事して少師に累進す。乞て歸 り、道に卒す。時に正統五年なり。卒する 年七十。太師を贈り文敏と諡す。

ヤウエイ 楊水 (明)字は時秀。餘姚の人。 成化八年の進士。竹々寫すに清風爽韻其人 と爲りの如し。

ヤウエイ 楊銳 (明)字は進之。蕭縣の人。 南京右府倉書に擢てられ、總兵官に拜す。 十年効龍せられ、年を逾へ卒す。

ヤウエウ 楊珖 (晉)駿の弟。駿の女、武 帝の后たるを以て權勢頗る盛なり、兄弟三 人、時に三楊と稱せらる。衛將軍たり。駿 の敗るゝや共に死す。

ヤウエキ 楊益 (漢)南雄路總管たり。政を 爲す安詳。務めて淫を禁じ利を興す。祀靈 私謁を受けず。吏民之を悦ぶ。

ヤウエツガン 楊說巖 (元)道釋人物を畫 くに。尤も寫貌に工なり。

ヤウエン 楊炎 (唐)侃の弟。字は公南。 秦爽にして氣を尙ぶ。父の喪に慕に廬し、 號墓聲を廢せず。詔して其闔に表す。炎二 世孝行を以て聞ゆ。門に六闕を樹つるに至 る。徳宗の時、相に拜す。片言を以て人主 の意を移し兩税法を作る。天下俱に其利を 受く。

ヤウエン 楊揆 (宋)字は純父。臨川の人。 少くして賦詞を能くす。薦を以て秦樞圖社 果幕府に參す。凡ち治法征謀多く揆に資す。 安豊兵を被る、揆奇策を以て圍を解く。未 だ幾ならずして孟洪の幕に參す。大將來謁 す。洪坐ながら其拜を受く。揆嘆じ曰く信 に兜登は毛錐子に如かずと。是に於て復進 士を棄とし遂に登第す。後、官潭州節度推 官に至る。

ヤウエン 楊冠 (明)字は宛叔。金陵の名 妓。詩を善くして麗句あり。草書を善くす。 茗上の茅止生に睡ぐ。止生其才を重んじて 殊に之を禮遇す。

ヤウエンシ 楊嶺志 (宋)維の族人。泉石 に在りて仕進を棄ます。桃源山に隱居す。 崇寧間、號を冲眞處士と賜ふ。

ヤウエンセウ 楊延昭 (宋)太原の人。業 の子。太宗の朝崇儀使を以て保州を知し、 屢契丹を敗る。後ち高陽關副都部署たり。 延昭、智善く戦ひ、號令嚴明、士卒と甘苦 を同す。敵に逢ふ毎に必ず身を以て行陣

ヤウエツ

ヤウオウ

ヤウオン



弟子業を受る者數百人。後魏之を徵す。固辭す。之に逼る。乃ち往く。既に見えて拜せす。與に語るも言はず。舍を命ず。既にして上疏して還るを求む。秦に歸り、乃ち教授絶えず。

ヤウカイ 楊可 (宋)綿竹の人。允恭の子。咸平の初の進士。文を感ずるを喜ぶ。吏幹あり。召試せられて戸部權判官、知洪潤壽潭州に歴す。累遷して都官員外郎に至る。弟告。

ヤウカイ 楊珍 (唐)崔季讓の女を娶る。崔家圖籍に富む。珍娶後其門に遊び、悉く取りにて觀覽す。腹を捫て曰く、已に之を經箭に放つ。

ヤウカイ 楊偕 (宋)字は次之。中部の人。少くして神放に従ひ學ぶ。進士に擧げらる。性剛にして忠朴。官に在り數上書して時政を論ず。郭皇后の廢せらるゝや、偕孔道輔等と力爭す。元兵入寇す。偕に詔し強壯を選び、麟府に策應せしむ。偕奏して兵法を以て事に從はんことを請ふ。是に於て軍政肅然たり。累遷して翰林侍讀學士たり。工部侍郎を以て致仕す。所著兵書十五卷文集十卷あり。

ヤウカイ 楊徽 (宋)新喻の人。紹興間、進士に擧げられ吉水縣を治す。荒を救ひ政聲あり。累官して司農少卿に至り明州を知す。沿海小寇あり、備悉く之を擒にす。海盜晏然たり。獨平生廉介自ら持す。博覽強記後めに師法とせらる。郷人今に至り之を

學に嗣る。ヤウカイゲン 楊開元 (清)字は用九。康熙四十二年の進士。官、編修たり。業を南雷の門に受く。尤も河漕の利害に明なり。ヤウカウ 楊縉 (明)商邱の人。萬曆八年の進士。知縣より御史に擢せられ、右倉部御史に遷む。事を以て劾罷せらる。尋て清寇來り犯す。起つて兵部右侍郎に補す。機を失するに坐し崇禎二年法に伏す。

ヤウカウ 楊浩 (明)濟寧の人。英宗の時、累官して右副都御史巡撫延綏に至る。曾て河東鹽運判官に在る時、成帝の臨行を諫止す。ヤウカウチウ 楊剛中 (元)字は志行。上元の人。文を爲る奇典簡派。世俗凡近の語を屑とせず。翰林待制に官す。霜月集あり。其甥李恒、文を以て江東に鳴る。ヤウカウホン 陽孝本 (宋)字は行先。潯人。嘗て蒲宗孟に館し將歸らんとす。蒲欲す所を問ふ。曰く書を欲するのみと。蒲書を市ひ以て贈る。歸つて通天殿に懸る。こと二十載。一時の名士樂んで之と遊ぶ。後官直秘閣たり。李存と同日に挂冠して隱る。崆峒の二老と號す。

州刺史淮南節度使に拜す。行密次第に宣滌和楚の諸州を略取す。又孫儒を敗り其の衆を併せ、惟より以南、江より以東の諸州悉く之を下す。是の時唐昭宗岐に在り、行密を吳王に封す。又撃つて梁兵を敗る。年五十四にして歿す。追尊して太祖武皇帝といふ。行密寛雅にして士心を得。其將蔡勣、廬州に叛し悉く行密の墳墓を毀る。備敗らる。及び諸將皆其墓を毀り以て報せんと請ふ。行密曰く儒を以て惡を爲す、吾豈之に傲ふべけんやと。嘗て從者張洪をして劍を貢うて侍らしむ。洪劍を抜きて行密を撃つ。中らずして死す。復洪が善き所の陳紹を用ひ劍を貢はしめて疑はず。又嘗て其將劉信を罵る。信忿り孫儒に奔る、行密左右を戒めて追ふなからしむ。曰く信豈我に負くものならんや、酔うて去るも醒れば必ず來らんと、明日果して來る。

らる。天啓崇禎の交、兵部尙書に進み太子少傅を加ふ。後魏を蒙り、崇禎八年戊所に卒す。

ヤウカク 楊鶴 (明)鶴の從弟。崇禎四年の進士。史に官たり。才名あり。順天巡撫に擢らる。京師陥りて南に歸る。福王立ちて兵部右侍郎兼督川湖軍務と爲す。ヤウカクアイ 羊角哀 (周)燕人。左伯桃と友たり。楚王の善く士を待つを聞き、乃ち與に楚に入る。雨雪に値ひ糧少し。伯桃乃ち糧を併せて哀に與へ往きて楚に事へしめ、自ら空樹の中に餓死す。哀楚に至り上大夫となる。乃ち楚王に言ひて禮を備へて伯桃を葬る。

ヤウカクヒン 楊岳城 (清)初の名は載福。字は厚益。湖南姜化の人。咸豐三年曾國藩水師を治す。援きて營官とす。岳州の敗るゝや、水潰散す。獨り岳城の一營のみ拒戦す。湘潭城遂に復す。四年六月曾公湖の捷、賊舟百數十を焚き、舟三十四、大礮十三を奪ひ、進みて南洋に屯す。是より寇復上らず。復密戰台を攻め賊舟を沈むること無算。此より勇略を以て名あり。會く陳輝龍、城陵磯の敗あり。水師の損失大半。岳城の軍獨り完し。七月湖北軍に會し進みて金口の北に屯す。岳城復寇屯を衝く。寇礮三板を轟撃し人、皆奔立す。賊望見して色を相失す。明日武昌漢陽皆復す。十月大に田家鎮を破る。是に於て湘軍水師の名天下に聞ゆ。未だ幾ならずして、武昌漢陽皆陷る。

五年五月金口に會屯し、屢賊を破る。六年進みて沙口に屯す。沙口は武昌を距る下游三十里。岳城壯士を募り、千石の大船に駕し、硝黃蘆荻を實たし大綫を施し、衝て賊屯に入る。是により賊舟能く戰ふ者皆燬す。十一月武漢の二城同日に復す。又武昌縣及黃陂を復す。鄒元龍平小池諸寇の舟を焚き、大小戰船五十八を奪ふ。七年八月小池口を拔く。九月湖口に克ち、小孤山を奪ひ、彭澤を攻め、銅陵を復す。江南肅清す。十年安慶に克つ。同治二年九江州に克つ。萬餘の寇、一の脱する者無し。馬三百餘匹を獲。三年金陵に駐り江の南北を控す。是の時に當り浙江の寇、江西に竄る。朝廷命じ師を江西に督し兼て皖南を防がしむ。未だ幾ならず陝甘總督の命を拜し江寧を平ぐ。在任二年乃ち疾を引き歸る。光緒十年法蘭西を起す。朝廷岳城を起して軍務を督辦せしむ。岳城師を率の閩に入る。泉州より台灣に渡り巡撫劉銘傳と籌り戰守す。和議成て湘に還る。後八年家に卒す。勇略と諡す。

ヤウカクイ 楊嘉楨 (清)宜春の人。邑の諸生。順治丙戌の春、其父兵を山塘に避く。兵將に至らんとす。嘉楨同道より水を渡り父に報す。水湍急にして潮流せられ深處に至り、頂滅す。猶水面に躍出し曰く、速に走れ速に走れと。遂に水に溺れて死す。

あり。豊城縣侯に封せられ光祿勳に從る。ヤウカン 羊侃 (南北)字は祖忻。梁父の人。少より瑰璋、膂力人に絶ぐ。馬箭を善くす。嘗て襄州の饒廟に於て壁を隔て直上五尋に至り橫行七跡を得。酒樽に數石人あり、侃執り以て相擊ち、悉く破碎す。雅より女史を好む。嘗て詔に應じて詩を賦す。帝曰く吾聞く仁者は勇ありと、今日勇者仁あり、謂つべし鄭魯の遺風、英賢絶えずと。性豪侈にして音律を善くす。初め衡州に赴き、兩艦船に三間の通梁水齋を起し、飾るに金玉錦綉を以てし、編屏を設け女樂を列す。潮に乗じて纜を解き波に隨ひ酒を置く。綠塘傍水、觀者填咽す。大同中詔あり。侃に命じて魏使賓客三百餘人を延かしむ。食器皆金玉雜寶。夕に至り侍婢百餘人俱に金花燭を執る。侃、酒を飲ます。性寛厚。嘗て南より還り澁口に至りて置酒す。客張纒才なる者あり、酔て火を船中に失す。延燒七十餘艘。燼く所の金帛勝けて數ふべからず。侃聞きて酒を命じ罷ます。獨才懶懶自ら逃ぐ、侃追還して之を慰諭する厚きを加ふ。







**ヤウキヨウ** 楊暉 (三國)丞相諸葛亮の主簿なり。亮嘗て自ら簿書を校す。暉入直し諫めて曰く、治を爲すに體あり、上下相侵すべからず、是の故に古人稱す坐して道を論ずる之を三公と謂ひ、作つて之を行ふ之を士大夫と謂ふ、故に丙吉は横道の死人を問はずして牛喘を問ひ、陳平肯て錢穀の數を知らず自ら主るものありと云ふ彼賊に位分の體に違ふ、今明公治を爲す乃ち躬自ら簿書を校し、流汗終日亦勞せずやと。亮之を謝して反す。暉卒して亮垂泣すること三日。

**ヤウキヨウ** 楊凝 (唐)遷の弟。大歷中、兄と共に登第す。  
**ヤウキヨウイ** 楊恭懿 (元)字は元甫。奉元の人。力學強記。争亂の間と雖も嘗て書を廢せず。尤も易禮春秋に深し。父歿して哀毀禮に踰ゆ。參議中書省事を以て召す。就かず。卒す年七十。  
**ヤウキヨウジン** 楊恭仁 (隋)仁壽中、甘州刺史たり。政に臨み細微に苛ならず。人之に安んず。文帝其父に謂て曰く、特に朕が其人を得たるのみに匪ず、乃ち爾が善く子を教ふるなりと。

**ヤウキヨウシヨク** 楊凝式 (五代)滂の子。文詞あり、筆札を善くす。梁唐晉漢周に歴事す。常に心疾を以て致仕す。洛陽に居り。官太子太保に至る。  
**ヤウキヨクエ** 楊玉英 (明)女子。建寧の人。青史に涉り吟詠に善し。年十八。官時

中に許嫁す。時中獄に繋がる、父母他傳を受く。英之を聞き遺物を婢に託し、竊に廢室に入り自經して死す。婢遺物を出たし父母に付して之を啓く。詩あり云ふ。崑山一片玉、既售與下和、和足苦被割、玉堅不可磨、若再付他人、其如平生何と。

**ヤウキヨククワ** 楊玉科 (清)字は雲階。湖南善化の人。同治三年峽英の賊下に隸して營官たり。向ふ所功あり。六年從て鎮維に克ち逆首白金品を食にす。八月陶三春を精獲營に食にし、又張項を海馬姑に獲す。逆黨悉く散す。同治十一年大理の回匪、杜文秀、楊榮、蔡廷棟等百三十人を平け皆誅に伏す。光緒元年雲南提督を署し蘇逆を討平し、全滇肅清す。十年法人崑山を攻めしとき戰歿す。武烈と諡す。  
**ヤウキヨクザンノセフ** 楊玉山妾 (明)張氏。南京の人。妾と爲て月を輪の婦の妬を以て歸さる。後十餘年楊氏果りに其産を傾け快々として明を失ふ。張氏直ちに其家に造り湯藥に侍し、二男二女に奉事す。隆年楊死す、張其柩を守り去らず。志を失ひ他に往かず以て歿す。

**ヤウキヨゲン** 楊巨源 (唐)字は景山。蒲州の人。貞元の進士。文宗の太和中、河中少尹たり。詩一卷あり。  
**ヤウキヨジン** 楊居仁 (金)字は行之。大興の人。進士に第す。天興の末、舉家黃河に投じて死す。  
**ヤウキヨジン** 楊居仁 (元)開化縣尹。饒

兵縣治を陷る。衆皆散じて去る。居仁自ら衣冠して堂上に坐す。賊至り執ふ。大に罵りて殺さる。  
**ヤウキヨセイ** 楊居政 (唐)開元中、知鞏州たり。城を築き寇を禦ぐ。賊敢て犯さず。前守蒙延冰其弟延錫と賊に害せらるゝを以て、田宅を削し其二子をして之に居らしむ。後延冰の孫傳の登第せるは實に居政の力に居り。

**ヤウクウ** 楊高 (明)楊士奇を見よ。  
**ヤウクウシユン** 楊遇春 (清)字は時齋。四川崇慶の人。乾隆四十四年武鄉試に擧げらる。官陝甘總督に至り一等昭陽侯に封ぜられ、紫禁城騎馬紫光圍圖像を賜ふ。卒して太子太傅兵部尚書を贈り忠武と諡す。遇春結髮戎に従ひ、大小數十戰。皆戦ら矢石を冒し、或は冠翎皆碎け、或は袍袴皆穿つ。未だ毫髮の傷を受けず。軍を治る、こと數十年。未だ嘗て妄りに一人を殺さず。威名海の内外に震ふ。

**ヤウクン** 楊訓 (宋)字は公發。浦城の人。川陝茶幹を歴、山陽東陽二縣令に調せらる。學問精博。嘗て禮記解二十卷を著す。初め訓業を王安石の門に受く。時に蔡京と同學す。後ち京、國に當る。余深見て京が見んと欲するの意を道ふ。訓曰く某三十、力を學問に勤め今は老いたり、榮除は望む所に非ず、豈能く僕々として諸公と嶺嶠の行を爲さんやと。故に卒に常調に老ゆ。人咸之を高しとす。子公度。

**ヤウクワ** 楊果 (元)字は正剛。祁州蒲陰の人。懷孟路總管と爲る。老を以て致仕して家に卒す。年七十五。文獻と諡す。性明敏、丰姿に美なり。文章に工みに尤も樂府に長す。又諧謔を善くし聞く者絶倒す。西庵集あり世に行はる。  
**ヤウクワイ** 楊暉 (周)郷に居りて三たび逐はれ、君に事へて三たび去る。趙簡子用ひて相とす。其國大に治まる。  
**ヤウクワイ** 楊暉 (宋)成都の人。杜門委巷の下、書を著はし詩を賦す。人知る者なし。邵伯温部使者たりしとき其學行甚高く簡甚簡なるを薦む。報あらず。卒するに及び學者諡して清恭先生と爲す。

**ヤウクワイ** 楊繪 (宋)綿竹の人。少より奇警。讀書五行俱に下る。名西州に聞ゆ。進士上第。荆南府を遷判す。事に遇へば双を迎へて解く。仁宗其才譽を愛して知諫院と爲し侍讀を兼ねしむ。繪諫官其言を得ざるを以て去つて釋せず。後ち果官して翰林學士たり。繪表裡洞達、事毎に一に誠に出づ。精神に推重せらる。  
**ヤウクワイキ** 楊恢基 (清)字は石樵。山西の人。雖將令たり。書を好み水山花卉を石田に學ぶ。著、融心齋集あり。

**ヤウクワウ** 楊廣 (隋)煬帝を見よ。  
**ヤウクワウキウ** 楊光休 (明)漢の楊雄、自ら楊を改めて楊と爲し以て族人と別つ。其後に光休あり。  
**ヤウクワウコウ** 楊皇后 (晉)武帝の后。

名は黽。字は瓊芝。弘農華陰の人。父又宗。母趙氏早く卒す。后舅家に依る。舅妻仁愛にして后を乳養す。長ずるに及び後母段氏に隨ひ其家に依る。后少くして聰慧、書を善くす。姿美麗、女工に閑へり。善く相する者あり嘗て后を相す極めて貴かるべしと。文帝聞て世子の爲めに聘す。悼王軌、惠帝、楊平公主を生む。武帝即位して立てて皇后と爲す。帝皇太子の暗愚にして大統を奉ずるに堪へざるを以て密に后に語る。后曰く嫡を立つるは長を以てし、賢を以てせず、豈動かす(けむ)やと。后病む、胡貴嬪の立ちて太子廢せられむを慮る、終ら臨み帝の膝を枕して曰く、叔父駿の女徳色あり願くは陛下以下六宮に備へよと。帝泣て之を許す。泰始十年明光殿に崩す、時に年三十七。

**ヤウクワウコウ** 羊皇后 (晉)惠帝の后。名は獻容。泰山南城の人。賈后既に廢せられ、孫秀驕して后を立つ。大安元年を以て后と爲る。帝崩し太弟立たば嫂叔と爲り、太后と稱するを得ざるを慮り、前太子を立てむと謀り果たます。懷帝即位して后を尊び、惠帝皇后と爲す。弘訓宮に居り。洛陽破れて劉曜に没す。曜位を惜し以て皇后と爲す。因て問く曰く晉司馬家兒に如何。后曰く胡ぞ並べ言ふべし、陛下は胡某の聖主、彼は亡國の暗夫、夫婦父子相庇ふ能はず。賈天子と爲り、要す凡庶の手に辱しむ、賈生を思はず、何ぞ復今日あるを圖

らむ、巾箒を奉せし以來、始めて天下に丈夫あるを知ると。曜喜び甚だ之を愛寵す。曠の二子を生みて死す。  
**ヤウクワウコウ** 羊皇后 (晉)景帝の后。名は徽瑜。泰山南城の人。父衛、上黨太守。母は陳留の蔡氏。漢の蔡邕の女。后聰敏才行あり。景皇后崩し、景帝更に吳質の女を娶る。既にして黜けらる。復た后を納る。子なし。武帝禪を受け弘訓宮に居り、弘訓太后と號す。泰始九年蔡氏を追贈して濟陽縣君と爲す。咸寧四年太后崩す、時に年六十五。

**ヤウクワウコウ** 楊皇后 (晉)武帝の后。名は正。字は季蘭。元后の從妹。咸寧二年立つて皇后と爲る。嫡良にして婦徳あり。渤海王を生む、早く薨す遂に子無し。太康九年内外夫人命婦を率めて朝ら西郊に桑とす。太子妃賈氏妬忌なり、帝之を廢せむとす。后切に其父の社稷に功あり、且つ賈妃妬忌の性を矯正すべきを言ふ。后又數々賈妃を誡しむ。賈妃后の己を助くるを知らず。深く后を恨む。帝崩し尊んで皇太后と爲す。賈后凶悖。石父駿を忌み、遂に亂を爲すを誣ひ駿を誅す。遂に太后を廢して庶人と爲す。有司賈后の旨を希ひ、太后既麗氏を廷尉に付し刑を行はむと請ふ。麗氏刑に臨み太后抱持號叫し賈后に詣り母の命を全うせむと請ふ。省せられず。太后侍御十餘人あり、賈后之を奪ひ誅を絶らて崩す。年三十四。賈后妖巫を信ず、太后冤を先帝



に訴へむを長れ、乃ち覆して之を殲す。成帝成康七年に至り、群臣の上表に従ひ武帝に配食し、臨して悼と曰ふ。

ヤウクワウコウ 楊皇后 (南北) 周の宣帝の後。名は麗華。隋文帝の長女。性柔婉にして妬忌せず。後文帝の異圖あるを知り意頗る不平なり。禪代を行ふに及び憤慨愈甚。文帝内甚だ之を愧つ。大業五年煬帝の報按に幸する。従ひ河南に祖す。

ヤウクワウコウ 楊皇后 (宋) 眞宗の妃。益州の人。年十二にして眞宗に東宮に侍す。眞宗位に即くに及びて婉儀に進み又修儀と爲る。妃通敏にして智思あり、章献に奉順して忤ふ所なし。後淑妃を加へらる。始仁宗乳母に在る時、章献妃をして護視せしむ。妃恩意動備す。仁宗位に即くに及びて章献遺詔して尊んで皇太后と爲す。居る所の宮を保護と曰ひ保慶皇太后と稱す。年五十三にして薨す。莊惠と諡す。後改めて章惠と爲す。

ヤウクワウコウ 楊皇后 (宋) 寧宗の后。會稽の人。初め韓皇后崩するや、后曹美人と俱に寵あり。韓氏背寧宗に勤めて曹を立てんとす。后頗る書史に涉り古今を知り性亦機警。帝竟に之を立つ。后深く仇曹を街み陰かに史彌遠等、謀て之を殺す。後帝の大漸に方り詔を矯めて皇子を廢して帝を立つ。是を理宗と爲す。皇后を尊んで皇太后と曰ひ、同じく政を聽く。崩して恭聖仁烈と諡す。

ヤウクワウチウ 楊宏中 (宋) 字は充雨。侯官の人。韓侂胄李沐をして趙汝愚を論罷せしむ。宏中時に太學生たり、徐範張衝將傳周端朝の輩と闘に伏して上書し、李沐を寬し以て天下に謝せんと乞ふ。侂胄大に怒り宏中を太平州に送りて編管す。海内稱して六君子と曰ふ。

ヤウクワウチウ 楊皇后 (隋) 第二世。姓は楊。名は麗。一名英。小字阿麗。文帝の第二子。位に即いて土木を窮極し奢侈度なく、天下騒然として盜賊蜂起す。帝南遊して江都に在り、唐公李淵遙に之を廢して恭帝を立つ。後其將字文化及等に殺さる。在位十二年。改元一、大業。帝學を好み作る所詩文甚だ多し。

ヤウクワウヒツ 楊光弼 (宋) 字は長佐。德六世の孫。紹興壬戌を以て大廷に射策す。上親ら第の三人に擢て、常州軍事を授け判官とす。眞州教授に改む。太學初めて興り學官を妙選す。光弼と陳鵬飛とを召して同封し、即日並に博士に除す。宣義郎に改め信州を通判せしむ。後中書舍人たり。

ヤウクワウウ 楊宏武 (唐) 字は少。修謹。高宗の永徽中、累りに吏部郎中太子中書舍人たり。高宗東のかた泰山に封せしむ。帝に從ひて還る。詔して吏部五品を補授し西台侍郎に遷る。帝嘗て讓めて曰く、爾戎司に在りて官を授く、多く其才に非ざるは何ぞや。宏武曰く臣、要剛悍、此れ其關する所

敢て違はず。以て帝の武后の言を用ふるを諷す。帝笑つて罪せず。

ヤウクワウホ 楊光輔 (宋) 密州安邱の人。馬善山に居て教授す。州守王博文薦めて太學助教とす。孫奭の襄州を知るとき又薦めて太常寺奉禮郎州學士とす。仁宗召し至り命じて尙書を説かしむ。光輔無逸を諫す。時に年七十餘。論說明暢。帝悦び留めて學官となさんと欲し、以て國子監丞とす。家に老す。

ヤウクワウホ 楊光輔 (宋) 應龍の子。承節郎に終ふ。子滋。

ヤウクワウエン 楊光遠 (五代) 字は德明。沙陁部の人。初名阿檀。唐莊宗の騎將と爲り、嘗て契丹と戦ひ一臂を折る。之に久して幽州馬步軍都指揮使と爲る。光遠文字に通ぜず、然れども辯智あり。唐を歴て晋に仕ふ。晋高祖以て宣武軍節度使侍衛馬步軍都指揮使と爲す。光遠自ら重兵を握り外に在るを以て、謂へらく高祖己を畏る。始めて恣横を爲す。高祖毎に之を優容す。其子承祚をして長安公主に尙せしめ、次子承信等皆官爵に超拜す。已にして高祖、光遠を西京留守に遷し其兵職を奪ふ。光遠大に怨望し、陰に寶貨を以て契丹に奉じ、河洛の間を劫掠す。出帝の時遂に契丹を引いて入寇す。晋の將李守貞大に契丹を敗る。光遠退いて城に嬰つて固守す。其子承勳等降を勸む聽かず。乃ち光遠を切して之を幽し、承信承祚等と晋に歸す。光遠遂に殺さる。

ヤウクワク 陽奮 (周) 字は子賤。單父の宰となる。陽奮に過つて曰く、子亦以て僕を送るあるか。陽奮曰く、吾れ少くして賤し、知民の術を知らず、釣道二あり、請ふ以て子を送ん、夫れ給を扱し餌を餌り、迎て之を吸ふ者は陽奮なり、其魚たる薄うして美にすべからず、存するが如く亡するが如く、其食するが若く食せざるが若きは助なり、是魚たる博くして味厚し、子賤曰く善し。是に於て未だ單父に至らず、冠蓋相迎ふる者道に交接す。子賤曰く、車之を驅れ車之を驅れ、夫の陽奮の謂ゆる陽奮なる者至ると。是に於て單父に至り其耆老賢に請ひ、之と事と共にす。單父大に治まる。

ヤウクワク 楊暉 (宋) 字は元輝。天資英邁。年二十にして薦に預り再び國學に擧げらる。崇寧中進士第に擢んで、濠州羅離主簿に調せらる。中興甘肅を表進す。從政郎より郴州司録に遷り、宣徽郎に改む。朝に還り業くる所の文二十卷を表進す。天子其才を奇とし知大審監に擢づ。奉議郎に遷る。上疏して旨に稱ひ主管官に除せらる。宣和五年明堂を新制す。明堂頒朔布政府司令に除せらる。奉朝大夫に轉じ、出て勳州を知し、朝奉大夫に陞る。文集三卷官游集十卷あり。

ヤウクワク 楊奐 (元) 字は煥然。乾州奉天の人。金末進士に試みられて第せず。汴京降る、微服して北に渡る。試に應じて賦論の第に中る。薦を以て河南路課税管管し、

廉訪使、兼ぬ。年七十疾篤し、屬を引き大笑して卒す。諡を文憲と賜ふ。著に選川集六十卷、大典近鑑三卷、正統書六十卷あり世に行はる。

ヤウクワク 楊桓 (元) 字は武子。兗州の人。慨然志を立て疾病にあらざれば未だ嘗て偃臥せず。至元の末、監察御史に拜す。大德三年卒す。生平博く群書に涉り、尤も纂輯の學に精はし。六書統を著す。

ヤウクワク 楊完者 (明) 苗師。至正七十年衆を率ひ杭州より來り徽州に寇す。時に徽州新附にして守禦未だ備はらず。勢頗る熾む。年を越て誅せらる。

ヤウクワク 楊華容 (唐) 華陰の人。楊炯の妻。詩を善くす。

ヤウクワク 楊暉 (南北) 河間の人。祖元、父剛、並に至孝を以て名を知らる。慶泰儀典に頗る書記に涉る。孝廉に察し以て待養せしむ。不幸にして其母疾あり。襟帶を解かざることを旬。母の憂に居るに及び哀毀骨立す。土を負ひ墳を成す。北齊其門に表し粟帛を賜ふ。隋の高祖禱を受け、平城太守を授く。卒する年八十五。

ヤウクワク 楊炯 (唐) 華陰の人。幼にして聰敏、善く文を屬す。神童に擧げられて校書郎を授けられ、崇文館學士と爲る。儀鳳中、太常博士蘇知幾上表して、公稱以下の冕服に、別に節文を立んことを請ふ。乃ち有司に下して議せしむ。炯議を獻じて其非を論じ事理明晰にして筆鋒雄厚なり。是に由て

竟に知幾の請ふ所を殺む。既にして詹事司直に遷り、又俄として從父弟の故に坐し、出されて梓州司法參軍と爲り、竟に益州令と爲る。張敬節を作りて之に贈り、以て其苛酷を戒しむ。幾くもなく官に卒す。張說いふ、楊益川の文は縣河注水の如く之を酌めども竭きずと。王勃盧昭陽駱賓王と當時の四傑と稱せらる。又集あり世に行はる。

ヤウクワク 楊暉 (宋) 泗州の人。初め太宗の帳下に隸す。材勇を以て稱せらる。從つて太原を征す。及び蜀を平ぐ。累遷して單州刺史たり。後領軍大將軍賀正州團練使と爲る。







儒者たり。太祖に従つて江を渡り、郎中を以て理軍に擢らる。傳書文字を掌ること十餘年、頗る能異せらる。應天府尹に歴し官に卒す。子實。

ヤウゲンジュン 楊彦詢 (五代)字は成章。河中寶鼎の人。少くして青州の王師範に事ふ。人と爲り聰悟、遂に親信せらる。師範梁に降りて殺され、彦詢歸する所なし。乃ち魏に之を棲師厚に事へて客將と爲り、又唐の莊宗に事へて引進副使と爲る。石敬瑭の大原を鎮せしとき廢帝其志あるを虞り彦詢をして節度副使と爲す。敬瑭遂に晉に反す。諸將彦詢を殺さん欲す。敬瑭許さず。後晉の時、感德軍節度使に拜せられ又安國軍に徙る。天福七年鎮國に鎮す。政を爲すに惠あり。卒する年七十四。太子太師を贈らる。

ヤウゲンセイ 楊玄成 (隋)帝征伐を好む。玄成、陰に將領たるを求む。帝之を嘉して曰く、將門には將ありと、蓋し虚言に非ずと。

ヤウゲンハウ 羊玄保 (南北)南城の人。宋の武帝の時、丹陽尹會稽吳郡太守に歴す。文帝其廉潔慕然なるが故に鎮りに名郡を授く。政を爲すに殊績なしと雖も去つて後必ず思はる。財利産業を營まず。儉薄にして時に清名あり。

ヤウゲンハク 楊彦伯 (唐)新塗の人。幼にして穎敏。大順間、童子科に擢らる。昭宗之を親試す、彦伯應對詳雅なり。帝左

で潭州の事を攝す。軍兵直成す、浮言を以て衆を動かす者あり。立るに主將を召し首惡數百人を誅す。浮言遂に息む。所著五峰集二十卷あり。

ヤウコウレイ 楊弘禮 (隋)素の猶子。唐の太宗の遼東を征するや、弘禮が文武の才あるを以て兵部侍郎に擢んで馬歩二十四軍を領して賊背に跳出せしむ。向ふ所據斷す。帝山上より其貌伏精華人人力を盡すを窺見して嘆じて曰く、越公の兒耶、故に家風ありと。

ヤウコク 楊谷 (宋)上虞の人。次山の子。寧宗の楊皇后の甥なるを以て新安郡王に封ぜらる。子蕃孫。

ヤウコク 楊告 (宋)綿竹の人。允恭の子。咸平中、右諫議大夫に累官し、江寧府に知たり。

ヤウコクコウ 楊國興 (明)定遠の人。太祖に事へ、右翼元帥を以て宜興を守る。曾て叛將陳保二を討平し、神武衛指揮使に進む。昌門に戦没す。子益。

ヤウコクジヤウ 楊克讓 (宋)通海の人。周末進士に擢げられ第せず。宋の初、四川轉運副使たり、蜀民其善政に懐く。後廣州を知して卒す。克讓少より學を好み、経籍を手寫す。歴官して廉潔、至る所擊あり。子希周。

ヤウコクタイチヤウコウシユ 楊國大長公主 (宋)太宗の女。至道三年宣慈長公主に封せらる。崇寧に下嫁す。明道二年薨す。和

右に謂て曰く、是れ劉晏の徒と。御製の詩を賜ふ。後安福を幸す。境内堵を安んず。

ヤウコ 陽虎 (周)魯の季氏の家臣。擅恣暴横。其刃を易置すると蔡蕃の如く、遂に諸陽剛に入つて叛く。定公九年討つて之を俘にす。道より逃げて宋に奔り、遂に晉に往。趙氏に歸す。

ヤウコ 羊固 (晉)仕へて臨海太守たり。客を饒する甚だ盛んなり。論者、固の豊腹を以て羊羹の客饒する宜しきに隨ふの眞率なるに如かずとす。

ヤウコ 羊祜 (晉)二三三頁を見よ。清河王暉、固を擧げ歩兵校尉領に除す。汝南王悅、郡中令たり。時に悦年少く行不法なり。固上疏して極諫す。悦甚だ之を敬憚す。懼火に悦び以爲らく其人を擧げ得たりと。

ヤウコウ 煬公 (周)魯の君。姫姓。名は照。考公の弟。國を享くること六年。

ヤウコウ 楊厚 (漢)統の子。字は仲桓。統天文推歩の術に明かなり。厚少より父の業を學ぶ。順帝の時、使を遣はし徵して長安に至らしめ、問ふに歴數を以てす。厚陳するに漢三百五十年の厄を以てし、帝に勸め法を備へて改め以て災異を消伏せしむ。果官して侍中となり、諸郡に拜す。後病を附して歸て教授す。門徒三千餘人に至る。卒する年八十二。郡人臨して文父と曰ふ。

ヤウコウ 楊洪 (三國)武陽の人。諸葛亮嘗ふに事を以てす。果選して蜀郡太守たり。

洪、清忠欽亮、公を憂ふる家の如く、繼母に事へて至孝なり。

ヤウコウ 楊佺 (明)字は本初。諸暨の人。白鹿山に退居す。樓冠を戴き羊裘を披て、經を帯び嘯歌自ら樂む。白鹿生と號す。太祖官に拜せむとす起たず。家僮石の儲なきも財に臨み甚廉なり。郡人以て法と爲す。

ヤウコウ 楊洪 (明)字は宗道。六合の人。璵の子。父の職を襲き成祖に従つて北征す。千戸に進む。累遷して左都督たり。景帝の國を監するるとき昌平伯に封ぜらる。後ら侯に進み、奉天翊衛宣力武臣を授けらる。景泰元年八月、疾を以て官に卒す。顯國公を贈り武襄と諡す。

ヤウコウ 楊臣 (清)字は子載。南昌の人。乾隆の朝、舉人。九歲詩を以て名あり、汪君軻と相伯仲す。時に兩才子と稱す。

ヤウコウソク 楊公則 (南北)字は君翼。天水の人。父仲懷戦死す。公則父に隨ひ軍に在り、年未だ弱冠ならず、陣を冒して父の尸を抱き、號哭幾んど絶つ。徒歩して喪を負ひ田に歸る。此より名を著はす。荊州節度使を知す。嘗て敵と對壘す。矢胡床を貫き左右皆色を失ふ。公則談笑初の如し。

ヤウコウド 楊公度 (宋)訓の子。字は元宏。政和中登第す。福建提舉、常平司主管に歴官す。趙鼎嘗て其才を薦む。秦檜の弟梓、公度と年同す。公度の學問を稱に稱す。或は勸めて往て見せしむ。公度其父の余深に答ふる言を誦して之を謝す。公度嘗

増さぬす。

ヤウコクチウ 楊國柱 (明)振の從父。崇禎九年宣府總兵官たり。十二年十月、振と偕に往て松山を援ひ、伏に遭ひ難に殉す。贈節制の如し。

ヤウサ 楊佐 (宋)宣州の人。進士に及第し、陵州推官たり。江推發運使天掌關待制列都水監に累遷す。皆能名あり。英宗の時、契丹に使して還に卒す。詔して喪を護して歸らしめ贈するに黄金を以し其家を郵む。

ヤウサイ 楊濟 (晉)驪の弟。驪の女武帝の後たり、楊家外戚を以て勢威あり。兄弟三人、時に三楊と稱せらる。驪が敢るゝに及び共に死す。

ヤウサイ 楊岐 (宋)陪林の人。功名を以て自ら負ふ。金人の劉豫を立つるや、岐張洙に白すらく、白刃を得て驛中に横行し當に劉豫并に虜酋を手刃し、以て丞相に報すべしと。洙其言を壯とし遂に之を遣はす。戰十士と偕に金に至り驛り降る。金之を官に任ず。反間を行ひ劉豫果して廢せらる。謀を行はんと欲するに及びて十士已に入ら亡ふ。遂に歸計を決す。洙其名を以て聞す。從事を賜ひ通州永陵縣に知とす。

ヤウサイ 楊載 (元)字は仲弘。福建浦城の人。博く群書に渉る。薦を以て尚書院編纂官と爲り、武宗實錄を修む。尤も詩を以て名あり。其詩宋李の陋を一洗す。嘗て學者に語りて云ふ、詩は常に材を撰腕に取り、音節は唐を宗と爲すべしと。

洪、清忠欽亮、公を憂ふる家の如く、繼母に事へて至孝なり。

ヤウコウ 楊佺 (明)字は本初。諸暨の人。白鹿山に退居す。樓冠を戴き羊裘を披て、經を帯び嘯歌自ら樂む。白鹿生と號す。太祖官に拜せむとす起たず。家僮石の儲なきも財に臨み甚廉なり。郡人以て法と爲す。

ヤウコウ 楊洪 (明)字は宗道。六合の人。璵の子。父の職を襲き成祖に従つて北征す。千戸に進む。累遷して左都督たり。景帝の國を監するるとき昌平伯に封ぜらる。後ら侯に進み、奉天翊衛宣力武臣を授けらる。景泰元年八月、疾を以て官に卒す。顯國公を贈り武襄と諡す。

ヤウコウ 楊臣 (清)字は子載。南昌の人。乾隆の朝、舉人。九歲詩を以て名あり、汪君軻と相伯仲す。時に兩才子と稱す。

ヤウコウソク 楊公則 (南北)字は君翼。天水の人。父仲懷戦死す。公則父に隨ひ軍に在り、年未だ弱冠ならず、陣を冒して父の尸を抱き、號哭幾んど絶つ。徒歩して喪を負ひ田に歸る。此より名を著はす。荊州節度使を知す。嘗て敵と對壘す。矢胡床を貫き左右皆色を失ふ。公則談笑初の如し。

ヤウコウド 楊公度 (宋)訓の子。字は元宏。政和中登第す。福建提舉、常平司主管に歴官す。趙鼎嘗て其才を薦む。秦檜の弟梓、公度と年同す。公度の學問を稱に稱す。或は勸めて往て見せしむ。公度其父の余深に答ふる言を誦して之を謝す。公度嘗

ヤウサイ 楊最 (明)字は殿之。射洪の人。正徳十二年の進士。工部主事を授けらる。通を山西に督し、其民の貧を憫み、奏報を缺たずして職を返る。勅せられて復死す。隆慶元年右副都御史を贈り忠節と諡す。

ヤウサイインフクワ 楊賽因不花 (元)本名漢英。字は熙載。其先太原の人。生れて五歳父卒す。其母携へて上都に至る。世祖之を憫み父の職を賜かしめ、名を賽因不花と賜ふ。大徳間、播南の寇亂、内侵す。兵を率ひて之を討す。疾を以て軍に卒す。忠宣と諡す。

ヤウサイコウ 楊再興 (宋)岳飛の部將。兀朮、龍虎大王に合して飛に逼る。再興單騎を以て其軍に入り、兀朮を擒にせんと欲して獲ず、數百人を手殺して還る。兀朮憤ること甚し、力を併せ復來り、兵十二萬を臨清に頓す。再興三百騎を以て敵に小商橋に逼る。二千餘人を殺し、萬戸千戸に及ぶ。再興戦死す。後其屍を得て之を焚き戰骸二升を得たり。

ヤウサツ 楊察 (宋)字は隱甫。合肥の人。進士に擧げられ累官して戶部侍郎に至り、三司使に充つ。察風儀美にして文を爲るに敏なり。其制詰を爲る意を用ひざるが若し稿成るに及び皆推覆あり。事に遇ひ明決にして吏職に勤む。卒して吏部尚書を贈り宣懿と諡す。

ヤウサン 陽贊 (南北)滑州司馬たり。永和二年魏主善親ら兵を督し滑を攻む。台城



の東北崩る。東郡太守王景度先づ出奔す。...

ヤウサン 楊慕 (南北朝) 慶陵の人。少くし...

ヤウサン 楊澄 (明) 靈縣の人。永樂末の...

ヤウサン アンノツマ 楊三安妻 (唐) 李氏。...

ヤウシ 楊賜 (漢) 字は伯賦。華陰の人。...

ヤウシ 羊祉 (南北朝) 字は甄佑。性剛直に...

ヤウシ 楊嗣 (宋) 濠州の人。太祖太宗の...

ヤウシ 楊氏 (宋) 漁者楊翁の女。容貌美...

ヤウシ 楊芝 (清) 饒唐の人。人物仙佛鬼...

ヤウジ 楊時 (宋) 字は中立。南劍將樂の...

程師に洛に從ふ。時年已に四十。願に事ぶ...

ヤウシキ 楊士奇 (明) 名は寓。字を以て...

ヤウシキ 楊士奇 (明) 名は寓。字を以て...

ヤウシウ 楊子雨 (明) 天啓二年、山東の...

ヤウシウ 楊周荆 (元) 龍に工なり。...

ヤウシ 楊簡 (漢) 彪の子。字は徳祖。...

ヤウシ 楊簡 (漢) 彪の子。字は徳祖。...

ヤウシウ 羊琇 (晋) 字は輝舒。泰山の人。...

ヤウシウ 羊琇 (晋) 字は輝舒。泰山の人。...

ヤウシウ 楊秀清 (清) 初名嗣龍。廣...

ヤウシウ 楊秀清 (清) 初名嗣龍。廣...



き、起居注を授けらる。吳の元年司農卿に除し、明年戸部尚書に改む。暮りに周官に法り、農勸を勤め、租調を輕減し、民力を休養す。帝其能を稱す。陝西行省參政を以て卒す。

ヤウシケウ 楊子喬 (明) 鄒湖の賊首なり。正徳間、宸濠の叛くや、衆を率ゐて之に應じ、肆に劫掠を行ふ。擒へて磔せらる。ヤウジケウ 楊時喬 (明) 字は宜選。上饒の人。嘉靖四十四年の進士。工部主事に除し、税を杭州に擔す。隆慶中、時政要務を言ひ奏納せらる。萬曆の初、南京太僕丞より吏部左侍郎に至る。卒して吏部尚書を贈り、端溪と諡す。

ヤウシケン 楊思權 (五代) 邠州新平の人。梁に事へて控鶴右第一軍使と爲る。唐莊宗 梁を滅して以て夾馬都指揮使と爲す。明宗の時、右羽林都指揮使となり兵を將ゐて興元を戍す。潞王從珂の反するや思權之を扶く、從珂立ち思權を以て右龍武統軍左衛上將軍と爲す。天福八年卒す。太僕を贈らる。

ヤウシコウ 楊師厚 (五代) 斤溝の人。梁の時、果りに戦功を立て、天雄節度使たり。太祖の晉と戦ふや、乃ち招討使となり勁兵を率領す。朱友珪之を圍らんと欲し、召して事を計る。其吏行く勿れと勸む。師厚曰く吾れ梁に負ふ、今往くと雖も其れ我を如何んと。乃ち京師に朝す。末帝の時、封せられて郡王と爲る。

ヤウジツ 楊次山 (宋) 上虞の人。少くして學を好み文を能くす。大學生に補せらる。寧宗の楊后の兄なるを以て恩に爵ひ果封せられて會稽郡王に至る。次山能く權勢を避く、時論之を賢とす。子谷石。

ヤウシシヤウ 楊嗣昌 (明) 字は文龍。武陵の人。萬曆三十八年の進士。杭州府教授り戸部郎中に遷官す。崇禎中、入閣して相と爲る。既にして李自成燕京を陥れ、莊烈帝經死す。福王亦清兵に害せられ、國勢愈蹙る。嗣昌憂懼して遂に食はず。隆武元年三月卒す。年五十四。

ヤウシチウ 楊思忠 (明) 字は孝夫。平定の人。嘉靖二十年の進士。禮科給事中を歴事して伴を奪はる。隆慶元年起つて吏科掌事を兼り南京戸部侍郎を以て致仕す。

ヤウシフ 楊榘 (宋) 字は通老。長溪人。楊方楊而と俱に朱文公に師事して高弟たり。時に三楊と號す。榘司農寺簿に累官す。癸酉していふ、君子を進め小人を退け、左右の請に拘ふ勿れ、以つて中書を重くし、執政の人を劾め、可否相濟して以て愛に任ず、廉靜の操を賞獎し、奔競の風を絶つべしと。國子博士に除せらる。臺臣或は干むるに私を以てす。答て曰く蓋に紀綱あり、學に規矩あり、當に各其職を守るべしと、除せられて安慶を知す。湖南提刑江西運判に移る。卒して其像を學に嗣る。所著 樂議悅室文集あり。

ヤウシフ 楊榘 (明) 常熟の人。進士たり。景帝の時、言を上る。帝之を嘉して安州を知せしむ。

ヤウシフキツ 羊曇吉 (晉) 狀元の子。少時庭中涼に乗ず。忽ち天開け、其内雲霞爛爛、機關參差、光明山岳を下照するを見る。曇吉驚懼遂に死す。乃ち閉つ。曇吉書寫に勤む、乞々倦まず。

ヤウシン 羊斟 (周) 宋の華元御士たり。元羊を殺し士に食せしめて而かも斟に及ばず。後元師を帥ぬ鄭を禦ぎ、將に戦はんといふ。斟曰く曷昔の羊、子政を爲す、今日の御、我政を爲さんと。與に鄭の師に入り、遂に敗らる。

ヤウシン 楊震 (漢) 華陰の人。統の子。字は伯起。明經博覽。生徒千を以て數ふ。諸儒之が爲に語りて曰く、關西の夫子楊伯起と、嘗て鰲雀の三大鱧魚を銜みて講堂前に飛集するあり。都諸進みて曰く、蛇鱧は

卿大夫の象なり、其數三は三台なり、先生此より升らんと。湖に客居し、州郡の命に答へざるもの數十年。衆人之を晩暮と謂ふ。震の志愈篤し。郭橐圃て之を醉し、荆州刺史東萊太守に遷す。震之に當る。郡道昌邑を経ぐ。故學する所荆州の茂才王密あり。昌邑令たり。夜金十斤を嚮き以て震に遺る。震曰く、故人君を知る、君故人を知らざるは何ぞや。密曰く、暮夜知る者無し。震曰く、天知る、地知る、子知る、我知る、何ぞ知る者なしとせんと。密愧ぢて出づ。震性清廉、子孫蔬食歩行す。故舊其産業を開くを勸む。震肯かずして曰く、後世をして稱して清白の吏の子孫と爲さしめん、此を以て之を遺す亦厚からずや。太尉に遷官す。時に安帝の乳母王聖の女伯榮、宮掖に入して姦路を傳通す。震上言し曰く、政は賢を得るを以て本とし、治は職を去るを以て務とす、方今九德未だ事とせず、嬖倖庭に充つ、宜しく速に阿母を出し外舍に居らしむべく、伯榮を斷絶し往來せしむる莫れと。帝從ふと能はず。秋實、李固の兄固の爲めに官を震に求む。震曰く、此の如きは則ち宜しく尚書を勸あるべしと。實大に之を恨み、震怨望すと誣奏す。帝使を遣はし震が印綬を収めて遣歸す。城西夕陽亭に至り、慷慨して門人に謂て曰く、死は士の常分、吾恩を蒙りて上司に居り、姦臣の狡猾を疾みて誅する能はず、嬖女の傾亂を恐みて禁する能はず、何の面目か復た日月を視

んと。遂に醵を飲みて卒す。帝之を聞き詔して震が二子を以て郎と爲し錢百萬を贈り禮を以て改葬せしむ。葬むるの日大鳥あり高さ丈餘、震が墓前に集り、畢りて始めて飛び去る。帝大に感悟し、詔して復た中牢の具を以て之を祀る。子秉。

ヤウシン 楊震 (宋) 永睦の人。宣和の初、禮部に試みられ第一たり。丞相趙鼎其才を薦む。館職に召試し荆蜀形勢の說を論ぜしむ。督府構立に除し、四蜀を撫諭せしむ。吳玠の饋遺禮に過ぐ、最其意を阻するを欲せず。既に還り悉く之を郡督に上り以て用を佐く。



一百餘種世に行ける。隆慶の初、光祿少卿を贈り、天啓中、文憲と追諡す。

ヤウシン 楊信 (明) 洪の從子。字は文實。幼にして洪に從て敵を撃つ。指揮軍事に果

ヤウシン 楊普 (清) 字は子龍。常熟の人。書を善くし、山水清秀、玉石谷の高弟たり。

ヤウジン 楊仁 (漢) 閩中の人。韓詩を學習す。孝廉に擧げられ北國に補す。上、時

ヤウシンチウ 楊震仲 (宋) 成都の人。氣節を賣ひ當世に志あり。淳熙初の進士に第

ヤウシンキ 楊振熙 (明) 臨海の人。兩淮鹽運使たり。福王の難に死す。

ヤウシヤウジヨ 楊相如 (唐) 南昌の人。聰明にして古に博し、神龍の初の進士。當

ヤウシヤク 楊焯 (宋) 金華の人。嘉定中、教授す。學政修舉、以て京に繼ぐに足る。

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

て往かず。先づ書を家人に遺りて曰く、武興の事、之に從へば節を失す、從はざれば

ヤウシンミン 楊信民 (明) 名は誠。字を以て行はる。浙江新昌の人。郷舉より工科

ヤウシヤウ 楊敏 (漢) 華陰の人。莊重謹長、昭帝の時、御史大夫に至る。靈光張安世、

ヤウジヤウ 陽城 (唐) 字は亢宗。素性學を好み、貧にして書を得る能はず。求めて

ヤウシヤクフツ 楊錫綬 (清) 字は方榮。號は開院。江四清江の人。雍正五年の進士

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

子益之を厭苦す。城方に二弟及び客と日夜痛飲す。人能く其際を窺ふ無し。皆以爲らく

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮

ヤウシヤク 楊焯 (明) 字は伯珍。富平の人。年二十、初て書を讀む。家貧なり。窮



輔死す。太祖柴夫人卒す。妃色ありて賢なるを聞き、遂に娶りて繼室と爲す。天福中、妃卒す大原近郊に葬る。廣順元年九月追冊して淑妃と爲す。

ヤウシユケン 楊守謙 (明)字は允亨。志學の子。徐州の人。嘉靖八年の進士。屯田主事より副都御史、巡撫保定兼督紫荆關に累遷す。俺答、京に寇す。諸將と之を防ぎて克たす。坐して戮せらる。刑に臨み慨然として曰く、臣勤王を以て反つて罪を獲、讒賊の口、實に聖聽を蔽ふ、皇天后土臣が此心を知る、死すとも何ぞ恨んぞと。

ヤウシユズキ 楊守隨 (明)字は惟貞。鄭人。侍郎守謙の從弟。成化二年進士に登り、御史を授けらる。漕運を巡視し、大同の軍餉を覈し、江西を巡按す。至る所風采を以て憚らる。六年六事を疏陳す。工部尙書に進み、仍大理寺を掌る。尋て致仕す。卒す年八十五。太子少保を贈り康簡と諡す。

ヤウシユン 楊俊 (三國)字は秀才。河内獲嘉の人。魏武の時、亂兵方に起る。河内四達の衝に處り、必ず戰場たるを以て乃ち老幼を扶持して宗密の山間に詣る。同行する者百餘家。使貧乏を賑濟し有無を共通し、宗族親故の人掠せられて奴僕となる者凡て六家、後皆財を傾けて之を贖ふ。後魏に仕へて官中陽太守に至る。

ヤウシユン 楊駿 (晉)武帝の后楊氏の父。車騎將軍に拜し、臨晉侯に封ぜらる。弟班濟と共に時人三楊と號す。武帝崩じて

楊氏太后と爲る。惠帝妃賈氏性妬婢、太后街む所あり。帝に誣ふるに驍が反謀あるを以て遂に之を殺す。班濟共に死し、太后亦廢せらる。

ヤウシユン 楊俊 (明)洪の子。初め舍人を以て從軍す。正統中、累官して都指揮僉事たり。景帝の時、右都督に累進す。後事に坐し民に斥けらる。子珍。

ヤウシユン 楊準 (三國)漢の大尉雲の後。太常卿たり。雲より準に至るまで七世、皆名徳あり。

ヤウシユンキツ 楊循吉 (明)字は君謙。吳縣の人。成化間の進士。禮部主事を授けらる。性多病數々疾を移して出でず。遂に致仕を請ふ。年三十一。廬を支硎山下に結び經史を課讀す。卒する年八十九。其詩文を集め松蘿室集と爲す、他作る所十餘種幾んど千卷に及ぶ。

ヤウシユンキヨク 楊運昂 (遠)字は益誠。范陽の人。重熙間の進士。樞密院副承旨に累遷す。簿書叢奏するも一目五行俱に下り割決流るゝが如し。敷奏詳敏、上之を嘉す。太安中暴かに卒す年五十七。守司空を贈り諡して康懿と曰ふ。子暉、昭文館直學士に終る。

ヤウシユンミン 楊俊民 (明)博の子。字は伯章。嘉靖四十一年の進士。戶部主事より禮部郎中を歴。隆慶萬曆の間、累官して兵部左侍郎たり。太子太保を加へらる卒して少保を贈る。後東征韓帥の功を叙して少傅兼太子太傅を贈る。

ヤウシユリヤウ 楊守亮 (五代)復恭の養子。興元節度使たり。父復恭の逃れ來るや之を納るゝに坐して殺さる。

ヤウシユレイ 楊守禮 (明)字は秉節。蒲州の人。正徳六年の進士。戶部主事に除せらる。嘉靖の初、湖廣僉事に遷り、事に坐し謫せらる。右副都御史巡撫四川に累遷し、屢寇を討ちて功を積む。親の喪を以て歸る。會々俺答、京師に薄る。朝廷守禮を起し、も趣かず。已にして寇退く。亦行かず。之に久うして卒す。

ヤウシヨ 楊嘉 (明)字は仲舉。吳人。少にして孤、兄に従つて武昌を成る。徒に授けて自ら給す。宣宗の時、吏部に試み翰林院檢討を授けられ修撰に進む。正統中、禮部右侍郎に進み、景泰三年尙書に擢て致仕して蘇を給せらる。明年卒す。年八十五。子璋。

ヤウシヨ 楊恕 (宋)狂の曾孫。字は仲如。篤學力行。憲司知事に歴歷す。宋の將に危がらんとするや、忠義を以て自ら勵まし、食せざるもの數日。葵塘に赴きて死す。

ヤウシヨウブ 楊繩武 (明)雲南彌勒の人。崇禎中庶吉士より御史に改め又右僉都御史

に進み總督に擢てらる、征功を以て銜督師を加ふ。崇禎十二年官に卒す。兵部尙書を贈り錦衣を賜ひ百戸を世襲せしむ。

ヤウシヨク 羊續 (漢)字は與祖。平陽の人。祖、司隸校尉たり。父、備、累官して太常に至る。續功臣の後を以て南陽盧江二郡の太守に累官して諸寇を討平す。民の疾苦を訪ひ、散衣羸馬、清介自ら持す。府丞嘗て生魚を送る。續受けて之を懸く。丞又進む。續乃ち前に懸る所の者を出して以て其意を杜ぐ。獻帝の時、續を太尉に拜す。時に三公に進む者、皆東國の禮三萬を輸す。續乃ち細袍を擧げ之を示し曰く、臣の有る所惟此れのみと。帝悦びすして罷む。子衡。

ヤウシヨク 楊滉 (元)字は彦清。眞定藁城の人。章程學を習ひ、書算に工みなり。中統の初、中書掾と爲る。鈔法を定め便宜を計る。混心計精折、時論其能を推す。官戸部侍郎に至る。

ヤウシヨケイ 楊汝經 (明)睢州の人。崇禎十年の進士。戶部主事を授けられ、井陘兵備僉事に擢つ。三年、登封の土寇李際遇、亂を倡へて兵を起す。十七年甘肅陷り、巡撫林日瑞難に殉す。汝經、右僉都御史に超拜して之を行ぐる。行て林縣に次す。京師の陷るを聞き、南京に赴かんとして東門に至り、壯士百餘騎を率ゐて還る。林縣の僞官を討つ。賊に遇ひ戰敗れて捕へらる。僞官其縛を釋、屢々之に降を説けども從

はず。默に斃る。

ヤウシヨシ 楊汝子 (唐)元稹白居易詩を石上に賦す。汝子後れて其佳の警句を成すと、云く文章舊價留驚掖、桃李新陰在麗庭と。歸りて人に語り曰く、今日元白を壓倒す。

ヤウシヨシウ 楊所修 (明)初め魏忠賢の黨なり。左副都御史を歴。逆案に入り徒と爲り、贖ひて民と爲る。崇禎十四年、張獻忠襄陽を陷る。盛以恒を佐けて城守す。二月中賊奄ひ至る。是に於て賊を罵て死す。

ヤウスネチウ 楊粹中 (宋)眞定の人。建炎の初、濮州を知す。時に金人大に入り城を攻む。粹中固守するもと月餘にして城陷る。粹中浮圖に登り下らず、粘罕其忠義を嘉し、許すに不死を以てす。粹中竟に風をすして死す。事聞し徽猷閣待制を贈る。

ヤウセイ 楊政 (漢)字は子行。京兆の人。

後ち范升に易を受く。諺に曰く、説經蓋々、楊子行升と。升嘗て默に繋がる。政、升の子を抱きて駕を候し、叩頭して曰く、范升の子孤なり、哀むべしと。上右正をなして政を擡出せしむ。政憐を乞うて已ます。即ち升を救す。政發に仗るを以て名天下に聞ゆ。

ヤウセイ 楊政 (宋)字は直夫。原州臨安の人。父忠、太宗の朝、金人と戰て死す。政甫めて七歳、哀號成人の如し。其母之を奇とし曰く、其親に孝なる者は必ず君に忠なり、此兒吾門を大にせん。後孝を移して忠を顯はし、官を積て懷慶路經略撫使に至る。詔して其母を封じて感義夫人とす。母卒す。喪に居り禮を盡す。起つて復兵を將ひ金勝を拒ぐ。功効顯著、太尉に至る。

ヤウセイ 楊誠 (明)楊信民を見よ。

ヤウセイ 楊清 (明)鄒湖の賊黨なり。正徳間、茶を督し宸濠の叛を佐く。遂に誅せらる。

ヤウセイ 楊靖 (明)山陽の人。字は仲寧。洪武十八年の進士。吏科に選ばれて度支部より戶部侍郎に擢てらる。累遷して刑部尙書兼太子賓客たり。並に二祿を給ふ。已にして事に坐し免す。會々龍州の役起る。復徴して左都御史に拜す。洪武三十年七月郷人に代り訴冤の狀草を作るに坐し、御史に劾せらる。帝怒り遂に死を賜ふ。時に年三十八。

ヤウセイエン 陽成延 (漢)創業の功臣。梧陽侯に封ぜらる。



ヤウセイイオン 楊世恩 (明)崇禎中、湖廣副總兵に歴官す。連りに賊を平けて奇功を奏す。十二年冬宜城の役に戦歿す。

ヤウセイイケイ 楊濟溪 (元)竹を蓄くに工なり。

ヤウセイシヤウ 楊章 (明)道州の人。父泰、浙江長亭巡檢と爲る。妻何氏出なし。丁氏の女を納れて妾とし成童を生む。甫て四歳にして姦卒す。何氏欄を扶けて歸らんとす。丁氏の父、之の子を興へて其母を奪はんとす。母乃ち銀錢を募りて何と別る。越へて六年、何殺するに臨み半鐘を授けて其故を告ぐ。成章嗚咽命を受く。母を尋ねて遇ふ所なし。母已に東陽の郭氏に適き、子を生みて張と曰ふ。弘治十一年、計らず張と遇ひ、各半鐘を出すに之に合す。遂に東陽に至りて母子始めて相聚る。成章三たび往て母を迎へて遂げず。母卒するに及び、墓に置ること三載にして返る。嘉靖十年部臣請うて成章子國子學錄を授け、張に花紅半鐘を賜ふ。

ヤウセイシヨ 陽成齊 (周)晋の隱士なり。

ヤウセイハウ 楊止芳 (明)天啓間、小校を以て從軍し貴州の賊を勦す。功を積みて副總兵に至る。桃紅關功に叙し署都督同知を加ふ。崇禎七年十月洛陽を授ひ、戰敗れて陣歿す。太子少師左都督を贈る。

ヤウセウ 楊紹 (南北)字は子弘。華陰の人。少より慷慨志略あり。果りに征伐に従ひ功あり。鄧州郡守となる。性剛直にして

威惠あり、百姓之に安んず。累遷して驍騎大將軍と爲る。

ヤウセウ 楊捷 (清)字は月三。義州の人。順治元年衆を率ひて投誠す。遊擊を授けられ官提督に至る。捷兵を知り訓練方あり。向ふ所皆捷つ。鄭成功の江寧を犯すや、捷之を擊破す。臺灣に卒す。大傳を贈り敏壯と諡す。

ヤウセウクワ 楊若華 (晉)沙門竺僧度の妻。才貌あり。度俗を捨てて出家するや、若華度に書を興へて歸らんことを勸む。度可かず。若華其志の堅きを見て亦感悟入道す。ヤウセウゲフ 羊昭業 (唐)大順中、順靈と同じく史を修す。時に僕射劉子長清名あり。高逢休の書を求めて先容と爲し之に謁す。雲滯に書を啓き之を觀れば、但云ふ昭業一尺三寸の汗脚を將つて、龍尾の道を陥まんを擬すと。一語の雲に及ぶなし。雲、嘆息するのみ。

ヤウセウジュツ 楊昭述 (宋)字は宗魯。賦性醇雅にして議論に長ず。遠近の人争うて子弟を遺し之を師とす。陳襄、浦城澤を去り、郭先生を以て昭述を待つ。嘉裕中、襄名出身し、池州石埭尉を授けらる。始めて至り、秀民を選び進て之を教ふ。邑人は於て相率ひて學に趨き、楊夫子を以て昭述を稱す。刺史、昭述を見て曰く、謂ゆる楊夫子に非ざるを得んやと。遂に之を薦む任滿る雷州海康縣令を知し、年を踰え疾を以て卒す。

ヤウセウソウノツマ 楊紹宗妻 (唐)王氏。華州華陰の人。祿に在り母亡す。繼母に鞠愛せらる。父遠を征し歿し、繼母又卒す。時に年十五。乃ち二母の柩を擧げ、父の像を立てて以て葬り墓に廬す。永徽中、詔して物段并に粟を賜ひ以て門に旌表す。

ヤウセキ 楊述 (宋)清神の人。少より文名あり。嘗て黃庭堅に謁して學術の邪正を論ず。是より學者指歸あり。時に王安石の新經を用ひ、孔安國の訓詁を屏黜す。述曰く吾強て束縛して進身する能はずと。遂に棄て去る。子曼、城固主簿にして石羊鎮酒樓を監す。

ヤウセキ 楊石 (宋)上虞の人。次山の子。寧宗の楊皇后の甥なるを以て永寧郡王に封せらる。

ヤウセキ 楊絳 (遼)真輦の人。太平間に及第す。南院樞密副使に累遷す。興宗舊臣を以て厚く之を待す。續帝に謂て曰く、何の代か賢ならむ、世祖るれば則ち獨其身を善くす、主聖なれば則天下を兼濟すと。太康中、遼四王に封せらる。致仕して太保を加ふ。子貴中、興中府に知たり。

ヤウセキチウ 楊績中 (宋)申積中を見よ。

ヤウセツ 楊江 (宋)字は漢と號す。兄枋と共に朱熹に學び、大楊小楊と稱す。

ヤウセツ 楊哲 (遼)字は昌時。安次の人。幼にして五經の大義に通す。聖宗其穎悟を聞き、詔して詩を賦せしむ。太平間、進士乙科に擢んづ。重熙間、樞密部承旨、樞度

支使に累遷す。咸雍の初、齊王に封せらる。召して同德功臣を賜ふ。樞密使に拜し趙王に改封せられ、太康五年遼西郡王に遷りて薨す。

ヤウセツ 楊節 (明)字は居倫。餘姚の人。善く菊を蓄く。弘治末の。

ヤウゼツベン 羊舌盼 (周)晋の人。博論多聞なり。

ヤウセフ 楊涉 (五代)馮嗣の人。殿の長子。唐の昭宗の時、吏部尚書と爲り、哀帝の時、相に拜せらる。涉世々名家、禮法を守り性特に謹厚、不啻にして唐の亂に遭ふ。相に拜せらるゝの日、家人と相對して泣下る。顧みて其子凝式に謂て曰く、吾此綱維を脱する能はず、禍將に至らんすと。唐亡び梁に事へて門下侍郎同中書門下平章事と爲り、位に在ること三年、首を俛れて施爲する所なし。後數年にして卒す。

ヤウセン 羊千 (周)書を著す。

ヤウセン 楊璇 (漢)字は機平。會稽の人。孝廉に擧げらる。靈帝の時、零陵太守たり。是の時蒼梧桂陽の寇起り、吏人恐懼す。璇乃ち馬車數十乘を製し、又兵車數千を爲り輿に載ひ、大に之を破る。境内以て寧し。荊州刺史凱、璇之功を賞すと誣ふ。璇車數遠す。乃ち指を噬み血書して關に詣り之を上る。詔して璇を原し諱に謝す。三遷して渤海太守となる。張溫之を薦め、右尚書僕射に遷る。

命たり。上言す、宜しく周公孔子を封すべしと。詔して之に従ふ。又魏勝等四人を薦む。

ヤウセン 羊蘭 (南北)齊の大中大夫たり。明帝崩す。蘭、入り臨みて、披髮號慟俯仰し頓遂に地に脱す。衆皆微笑す、大哭して曰く、此禿鷲の啼き來るを認むるか。

ヤウセン 楊選 (明)字は以公。章邱の人。嘉靖二十三年登第す。行人より御史に改め、易州兵備副使に擢てらる。俺答の寇起る。總督蕭遼副都御史に改めらる。時隆慶十五年を上る。敵を却けて兵部右侍郎に進む。後數々利あらず、坐して市に戮せらる。隆慶の初、故官に復す。

ヤウセン 楊瑄 (明)字は廷獻。豊城の人。景泰五年の進士。御史を授けらる。天順中、直言以て罪を得、南丹に謫成せらる。憲宗立ち、浙江副使に擢す。按察使に進み、官に卒す。

ヤウゼンクワイ 楊善會 (隋)華陰の人。大業中、郎令たり。清正を以て聞ゆ。後賊を擊つ功を以て清河郡丞に拜せらる。時山東亂を思ひ盜に從ふ者市の如く郡縣陷

没相繼ぐ。能く賊を抗する者は惟善會のみ。ヤウツ 楊素 (隋)字は道道。才文武兼れ、志遠大を懷き功名を以て自ら許す。周主之に謂て曰く、富貴ならざるを憂ふる勿れ。素曰く、臣富貴を圖るに心無し、但富貴の臣に逼るを恐るゝのみと。高祖に従ひ天下を定む。群臣其右に居る莫し。功を以て上柱國を加へ、越國公に封せらる。猶子弘禮。

ヤウソウ 楊琮 (唐)字は孝璋。上津令たり。天下亂るゝに會し官を去る。秦王と里居を同す。武徳の初、王府參軍兼庫直たり。隋太子の事平らぎ親王宰相一人に詔し入て宴せしむ。而して琮獨り預る。太宗復舊賦を賜ひ申るに恩意を以てす。河東二州の刺史を歴。

ヤウソウキ 陽會輔 (唐)會輔二巻を撰す。

ヤウソウクン 楊崇勳 (宋)衢州の人。祖守斌、父全美、皆官指揮使に至る。崇勳兵法を知り、前代典範の事に及ぶ。眞宗の時、郡教授たり。仁宗の時、同平章事に拜し定州を判す。卒して恭毅と諡す。

ヤウソウゲフ 楊宗業 (明)天啓中、援遼總兵官たり。清兵に瀋陽に敗れて戦死す。都督同知を贈る。

ヤウソウジン 楊宗仁 (清)字は天爵。漢軍正白旗人。康熙三十五年、監生より熱利知縣を授けらる。湖廣總督に累官し太子少傅を加へらる。勤敏にして民を受す。春秋



には輕騎郊に出て農に耕種を勤め、兩吏を  
駕馭する殿にして殘ならず。武備を訓練し、  
隨防を修築して餘力を遺さず。卒して名宦  
祠に祀り清端と諡す。御製の像贊に、廣瀨  
如冰、耿介如石の句あり。

ヤウソウハク 楊崇白 (明)新安の人。白  
捕を善くす。

ヤウソウホン 楊崇本 (五代)幼より李茂  
貞に養はれ、其姓を冒して名を繼微といふ。  
茂貞、崇本を表して靜離軍節度使と爲す。  
梁太祖邠州を攻む、崇本迎へ降る。太祖其  
姓を復せしめ名を崇本と賜ふ。既にして太  
祖其妻を奪ふ。崇本怒り又茂貞に歸す。乾  
化四年其子彦魯の爲に弑せらる。

ヤウソウワン 楊素 (清)字は筠澗。一字  
は退菴。陝西宜君の人。順治九年の進士。  
官巡撫に至る。尤著なる者は吳三桂を糾彈  
するの一端に在り。湖北を撫する時、會夏  
逢龍節に當り、人情惛擾、一夕數々驚く。適上  
元の節に當り、令して民間に燈火を張り魚  
龍百戲を陳べ、城門を洞開して士民の出入  
縱觀に任す。人心大に定る。其機變類れ此  
の如し。

ヤウソウチウ 楊存中 (宋)本名は沂中。  
字は正甫。紹興間名を存中と賜ふ。代州崞  
縣の人。魁梧沈毅。少より警敏にして書を  
誦すること數百言。力能く人に絶す。慨然  
人に語り曰く、大丈夫當に武功を以て富貴  
をくべし、焉ぞ俯首し腐儒たるを用ひ

んやと。是に於て孫吳の兵法を學ぶ。騎射  
を善くす。宣和の末、山東の群盜を平け、  
功を積み忠節に至る。靖康の初、金人汴  
を圍む。上將を張俊に問ふ。俊存中を以て  
對ふ。召見して袍帶を賜ふ。時に元帥府の  
草創に關し、存中晝夜扈衛して幄に寝れ、  
頃刻も側を去らず。帝其忠謹を知り之を親  
信す。李昱、任城に據り久しく克たず。存中  
數騎を以て入つて數百人を殺す。帝高に  
乘じて望見するに存中の介冑盡く赤し其重  
創を被るを意ひ召して之を試むるも皆賊血  
に汚さるゝなり。帝之を壯とし飲むるに酒  
を以てす。關門祇候に遷る。高宗立ちて貴  
州團練使に遷り、尋て御前右軍統領と爲る。  
建炎二年劉錡と藕塘に戦ひ自ら騎將を以て  
其脇を衝き、大に呼び曰く己に賊を破ると。  
敵の將士愕いて曰く、適きよ將軍の勇當  
るべからざるを見る、果して楊殿帥なりと。  
即ち遁け去る。後、檢校少保開府儀同三司  
兼領殿前都指揮使を加ふ。少帥趙密、謀て  
其權を奪ふ。罷められて太傅醴泉觀使と爲  
り、進んで同安郡王に封せらる。未だ幾な  
らずして劉汜、金と戦ひ瓜州に敗る。復  
存中を起し、虞允文と協力して之を拒かし  
む。仍其恩賜を誦す。帝宰相に請り曰く、楊  
存中唯命のまゝに東西を、忠誠無二、朕の  
郭子儀なりと。金使和を請ふ。存中其使を  
斬り、悉に恢復を圖らんと乞ふ。未だ幾な  
らずして金人復淮南を攻む。存中に詔して  
江淮の軍事を都督せしむ。陸降するるとき五

ヤウタイエン 楊大淵 (元)天水の人。宋  
敗れ城を以て降附す。吳蜀を取るの計を言  
ふ。憲宗、待郡都行省と爲し往て吳蜀を伐  
たしむ。連戰皆勝つ。漢城未だ下らずして  
卒す。閩中郡公に追封し蕭翼と諡す。

ヤウタイウ 楊滔 (唐)中書舍人と爲る。時  
に草創を促命す、而して東門鎗を持して他  
に適き、舊本の檢視するなし。乃ち憲を斷  
ちて之を取る。時に斷憲舍人と號す。

ヤウダウ 羊箇 (漢)續の子。魏に仕へて  
上黨令たり。太守孫登其專對の才あるを表  
す。子祐。

ヤウダウヒン 楊道賓 (時)字は惟彦。晉  
江の人。萬曆十四年の進士。修撰より國子  
祭酒少詹事禮部右侍郎に歴遷し、翰林院事  
を掌り、左侍郎に轉り掌部事に改む。嘗て  
時政を陳して省せず。年を踰へて官に卒す。  
禮部尚書を贈り文恪と諡す。

ヤウダク 楊卓 (明)字は自立。泰和の人。  
洪武四年の進士。吏部主事を授けらる。年  
を逾へて廣東行省員外郎に遷る。獄を決す  
ること掌を指すが如し。疾を引き致仕す。

ヤウダジシ 楊榮兒只 (元)河西寧夏の人。  
少して孤なり。仁宗に藩邸に事へて甚倚重  
せらる。性剛直にして苟合せず。即位の後、  
數日間に乗つて政事を言ふ。相と爲ること  
兩歳にして罷む。英宗の朝、鐵木迭兒に疾  
まれ終に瀕を以て殺さる。泰定帝立ちて詔  
を下して夏國公に追封し襄愍と諡す。

ヤウダツ 楊暉 (隋)字は士達。鄭趙三  
州の刺史たり。文帝天下の牧宰を差品す。  
遂其第一たり。擢て工部尚書に拜す。楊  
素毎に曰く、君子の貌と君子の心と有る者  
は、惟楊暉のみと。

ヤウダツフ 楊達夫 (金)字は晉卿。遼州  
三原の人。泰和三年の進士。素より才幹あ  
り。鄆縣主簿と爲り事簡易に従ひ、吏民之  
を樂む、其の山水の勝を愛し、且時方に多  
難なるを以て官を棄て、隱居し、因て家す。  
日に詩酒を以て自ら娛み了に宣情なし。元  
兵至り、遂に害せらる。

ヤウタン 羊曇 (晉)謝安の甥。安姓顧元  
と暨を賭す。曇に謂て曰く、暨を以て汝に  
乞ふと。曇少くして謝に知らる。安亡して  
後、曇樂を憂むる年を彌り、行くに四州の  
路を出てす。嘗て石頭に大醉し、路に扶け  
られ樂を唱へて覺せず州門に至る。左右自  
して曰く、此れ西州門なりと。曇悲感已ま  
ず。馬策を以て門扉を叩き、曹子建の詩を  
吟じ曰く生存華屋處、零落歸山丘と。慟哭  
して去る。

ヤウタン 楊暉 (五代)乾武の初、南詔、  
播州を陷る。暉、本と太原人。慕に應じて  
兵を領し播州を復す。能く諫すに威徳を以  
てし、際々に恩信を以てす。蠻人畏服す。  
五代以來、子孫其職を世襲す。宋の開禧間、  
太師を贈らる。

ヤウタン 楊且 (明)榮の曾孫。字は晉叔。  
弘治中の進士。太常卿に歴官す。劉瑾に忤  
ひて排せらる。瑾敗れて右都御史に累遷す。

鞍勒を賜ふ。時に諸軍各分地を守りて相統  
一せず。存中諸將を集めて之を調護す。是  
に於て始めて更々相互援す。乾道二年卒す。  
武恭と諡す。存中天資忠孝勇敢。大小二百  
餘戰、身五十餘創を被る。密衛に出入する  
こと四十餘年、最も過ち寡し。嘗て克敵時  
動しと雖も驕張し難きを以て遂に己の意を  
以て馬皇營を創む。巧思工製、發して中り  
易し。遂入其精に服す。

ヤウダイ 楊帝 (隋)煬皇帝を見よ。  
ヤウダイイ 楊大異 (宋)字は同伯。醴陵  
の人。胡宏に従ひ春秋を受く。嘉定年間の  
進士。衡陽主簿より龍泉尉に遷る。皆憲政  
あり。後、元兵城都に入る。大異制使丁蘭  
に従ひ巷戰し、身數槍を破りて死す。諱且  
復蘇して死るゝを得。後召對して時政を極  
言す。直秘閣に進む。

ヤウダイガ 楊大雅 (宋)字は子正。錢塘  
の人。十歳にして雪の賦を作る。日に書を  
誦すること數萬言。交趾犀を獻す。大雅犀  
の賦を獻す。咸平中上書して自ら爲る所の  
文二十餘萬言を獻す。直集賢院ること二  
十餘年遷らず。或は其世に遊び、自ら守る  
を笑ふ。大雅曰く吾れ世に學ばず聖人に學  
ぶ、吾がある所に人々を導く、嘗て之を天子  
に獻す、今就附して以て進まんやと。久う  
して始めて修撰知制誥に進み、諫大夫集賢  
學士に拜し、亳州を領す。所著大雅集五十  
卷職林二十卷兩漢傳聞二十卷あり。

ヤウダイコウ 楊太后 (宋)度宗の妃。宮

ヤウタイシ 楊泰之 (宋)晉神の人。少  
り志を學に刻し、臥すに榻を設けざること  
凡そ十歳。慶元の初、及第し官を累れて富  
順縣及晉州に知たり。異政あり、後ち大  
理少卿に遷り、出て重慶府を領す。所著文  
篇甚だ多し。

ヤウタイシウ 楊體秀 (明)江右の人。善  
く蘭蕙竹石を畫く。  
ヤウタイゼン 楊大全 (宋)晉神の人。乾  
道中の進士。温州尉に調せらる。召されて  
登聞鼓院を監す。時に光宗久しく重華宮を  
省せず。大全書萬言を爲り以て諫む。時に  
忠直を稱す。寧宗の朝、司農寺丞に累官  
す。會御史の禮位ある已に久しく朝臣大全  
を力薦するものあり。大全に屬する者往て  
見る。大全、笑謝し決して往かず。明日遂  
に外を乞ひ出、全州を知す。

ヤウタイド 楊泰奴 (明)女子。仁和の人。  
楊得安の女。天順四年母疫を病て愈はず。泰  
奴三たび胸肉を割きて母に食せしむ。效あ  
らず。一日胸を割き肝一片を取り替へす。  
進へるに及び、衣を以て創を裹み劑に和し  
て進む。母遂に愈ゆ。母宿に瘰癧疾あり亦愈  
す。

ウタイ  
ヤウタイ  
ヤウタイ



嘉靖の初、勅して致仕せしむ。年七十餘にして卒す。

ヤウチ 陽尼 (南北)無終の人。博く群籍に通ず。魏に仕へ幽州中正たり。孝文軒に臨み諸州の中正に令して各知る所を擧げしむ。尼、齊州大中正房千秋と共に各其子を擧ぐ。帝曰く昔一郡あり名往史に垂る、今二奚あり當に東牒に開すべし。

ヤウチウ 羊仲 (漢)隱士。求仲と同じく車を治むるを以て業とす。時に二仲と號す。

ヤウチウ 楊忠 (明)寧夏の人。世々中簡指揮に官す。功を以て指揮僉事に進む。廉介にして謀勇あり。正徳五年、安化王眞鐸反す。其黨丁廣、巡撫安惟學を殺さんとする。忠側に在り罵て曰く、賊狗敢て上を犯さんとするやと。廣怒て之を殺す。死に迄るまで罵ること益厲し。官を贈り、屍を了へ喪して忠烈の門と曰ふ。

ヤウチウエイ 楊仲英 (明)至正十七年、兵を寧國に擧へ太祖に抗す。已にして力支へず、門を開き降る。

ヤウチウカイ 楊仲開 (元)何許の人なるを知らず。雷を工にす。

ヤウチウキ 楊仲希 (宋)字は季達。新津の人。徽なりし時、成都の某氏に客たり。主人の少婦出で之を調す。仲希色を正うし之を拒む。其夜、妻夢に一人あり告げて曰く汝の夫他郷に獨處し、暗室を欺かず、神明之を知る、當に多士に魁たるべしと。次年果して第一に擢らるる。

ヤウチウゲン 楊仲元 (外)晉朝の人。士に第して宛邱簿に調せらる。光武魏三州を略知す。累官して光祿卿たり。諸子を戒め曰く、吾れ官に居ること五十年、未だ曾て私恩を以て人に加へず、刑杖の微と雖も、苟も兩比あれば敢て輕しく法に處せず、是を以て報國と爲すのみと。

ヤウチウシヤウ 楊仲昌 (唐)字は莫卿。玄宗の時、經に通ずるを以て對策す。玄宗第一に擢んで蒲州法曹參軍判を授く。異等に入り監察御史坐遷り、累以て孝義令と爲る。太守蕭愨其政を表す。下邳に徙り吏部郎中に終ふ。仲昌常に父の邑租を分ち宗族を賑す。身射ら約を以て善く人と交る。士樂みて之に従ひ遊ぶ。

ヤウチウセン 楊仲宣 (南北)字は元就。幼にして俊敏。魏の孝章帝の時、爾朱隆、洛に入り收捕す。時に仲宣年九歳。兵人を牽挽し曰く、諸尊を害せん欲せば乞ふ先づ死なせんと。兵刀を以て其右臂を斫斷す。猶死を請ひ已まず。遂に先づ之を殺す。

ヤウチウブ 楊仲武 (金)字は德威。保安の人。大定三年武勝軍節度使に除し陝西四路轉運使に進む。

ヤウチウエン 楊仲遠 (宋)興元の人。張浚、興元に貳吏たり。錢川中に閉ひて曰く、公嘗て梁洋に往來す、其人士從游する者ありや。曰く、楊冲遠は以て師とすべく、雍退翁は以て友とすべしと。

ヤウチン 楊椿 (南北)字は延壽。天南の人。學、文章あり。魏の孝文帝敎して入て後宮に侍せしむ。幽後の妻啓は悉く其辭なり。

ヤウチン 楊椿 (宋)眉山の人。省試第一たり。憲節に累任す。甚風績あり。移秦檜に附かざるを以て政を罷めて家居す。紹興の末、始めて兵部尚書兼權翰林學士より參知政事に除せらる。卒して文安と諡す。

ヤウチン 楊椿 (元)字は子壽。平江の人。遂至る樵或衣して兵卒を督し守る。黎明守臣皆遁る。椿弓矢を持し、民伍を督し接戦す。遂に城下に死す。

ヤウチンリヨウ 楊鎮龍 (元)台州の人。世祖の時、衆を寧海に聚め、偕して大典圖と稱し、東陽及浙東等に寇す。後ち敗死す。

ヤウチヤウジユ 楊長儒 (宋)萬里の子。字は伯子。號は東山潜夫。番禺の帥たり。俸錢七十緡、悉く以て下戸に代りて輪租す。毎に客に對し曰く、士大夫は清廉、便ち是れ七分入りと。權貴に忤ひて勅去せらる。陳庸中、玉璽冰絲絃の二詩を作りて行を送る。紹定元年、數文閣直學士を以て致仕す。年七十九にして薨す。

ヤウチヨク 羊陟 (漢)靈帝の時、靈綱八顧中の人。少より清直。三遷し書令たり。

ヤウツウケツ 楊通杰 (明)通照の弟。通照條下に詳にす。

ヤウツウセウ 楊通照 (明)銅仁の人。母

周氏疾あり。弟通杰と争うて拜請す。萬曆三十六年、群酋の流其家に至る。母執へ去らる。二人追隨數十里、賊母を繫ふを見るや、大に罵りて聲山谷に震ふ。賊に謀せられて死す。通照年二十五。通杰二十二。泰昌元年、旌して双孝の門と曰ふ。

ヤウテイ 陽定 (漢)順帝の時の中常侍。永和年中、張遂等と結び曹陽詭賈を請して之を陷擠せんとす。事覺はれて殺さる。

ヤウテイ 楊遠 (宋)字は振仲。大異の子。少より志節あり。桂林主簿を授けられ能聲あり。擢られて監利縣を知す。蕭を以て江寧府を通判す。庶務叢集、事に隨ひ裁決す。德裕の初、湖南安撫司參議たり。李希と協力守戦し、善く奇を出し變に應ず。城の西北隅破る。選兵を揮ひ巷戦す。日に増築して城復完す。將士を策勵し死を以て之を守らる。城破れ還水に赴き死す。

ヤウテイ 楊鼎 (明)字は宗器。陝西咸寧の人。正統四年の進士。編修を授けらる。景泰天順の間、戸部尚書に累進し、太子少保を加へらる。致仕して卒す。太子少保を贈り莊敬と諡す。子時賜。

ヤウテイ 楊砥 (明)字は大用。澤州の人。洪武末の進士。行人右司副を授けらる。建文永樂の交、太僕寺卿に累進す。母の喪に哀毀し、未だ家に至らずして卒す。

ヤウテイクワ 楊廷和 (明)字は介夫。新縣の人。湖廣提學僉事春の子。成化十四年、父に先ちて進士に登り庶吉士より

檢討を授けらる。性沈靜、文を爲る簡暢。弘治二年憲宗實錄を修撰す。曾て劉瑾及江彬を勅誅す。兩朝に歴舉して機務に參し、獻養する所多し。後事に坐して、職を削らる。嘉靖八年六月卒す。年七十有一。隆慶の初、復官して太保を贈り文忠と諡す。

ヤウテイシウ 楊益秀 (明)華陰の人。進士より順慶知府を歴て罷め歸る。賊城を攻む、有司を佐け賊を禦ぎ以て死す。

ヤウテイシヤウ 楊廷璋 (宋)字は陽玉。眞定の人。累功を以て、右千牛衛上將軍に至る。嘗て涇州を鎮し惠愛多し。吏民請うて牌を立て鐘を頌す。廷璋、人となり謙謹、小吏に對すと雖も未だ嘗て怠容あらす。幕中名士多し。子坦、塤、皆進士及第す。坦は官屯田員外郎に、塤は都督郎中に至る。

ヤウテイスイウ 楊廷樞 (明)長洲の人。崇禎三年の進士。南京已に陷る。廷樞難を鄧尉山中に避く。時に四方兵を弄する者群起して廷樞を推す。當事者廷樞を執へ好言を慰む。廷樞痛罵して已まず。之を殺す。首已に隨ひ、壁中より出て、益門人を厲すと云。

ヤウテイハウ 楊呈芳 (明)山海衛の人。魯山の知縣となり惠政あり。練總督思賢、進士宗麟等と不軌を謀る、呈芳之を捕斬す。崇禎中、李自成來り攻む、城陷りて死す。

ヤウテイフ 楊歸貞 (明)瀘州衛の人。郭

恒に字す。恒、萬曆の初、湖南に客游して歸らず。父他勝を納る、女守て隠かす。二十六年恒歸る、乃ち禮を成す。

ヤウテウキ 楊維基 (明)州籍の人。家を世職に起し官を積み大同總兵に至る。天啓崇禎の交、左都督に進み太子少保を加へらる。清寇を知らるを以て太子少師を累加せらる。二年官に卒す。子御審。

ヤウテウセイ 楊朝正 (清)字は匡齋。漢軍鎮白旗人。侍衛より出て東昌府を知す。既に至り、民の利病を訪ひ銳意興革す。春秋編く郊野を歴て農桑を課し、歲暮高年者を訪ひ之に資ひ、其賢者は尤も尊異す。邑早す。香を焚き天を呼て曰く、若し知府罪あらば願くば身に體を受ん、百姓を累はす無れと、壇前に伏して子より哀に至る。大に雨り四境に霑し。卒して名宦祠に記る。

ヤウテウソウ 楊超曾 (清)字は孟班。湖南武陵の人。康熙五十四年の進士。官吏部尚書に至る。超曾性孝友、文學に優り、經世の才を負ふ。官に蒞つて力を民事に盡す。遂京に在りしとき、奏して莊頭の議を罷め、萬戸をして其居に安んずるを得しむ。粵四に在りしとき、盧田に加賦すること凡そ數萬畝。兩江に在りしとき、松太廢田の額租を免じ、其利澤民に及ぶ。皆以て數計すべからず。卒して文敏と諡す。

ヤウテウトウ 楊朝棟 (明)應龍の子。萬曆十七年應龍叛し、其討平せらるるに及び、生擒せられ市に陳せらる。



ヤウテキ 楊適 (宋)字は安道。熱心人。年七十餘、行義を以て聞ゆ。仁宗嘗て賜ふに粟帛を以てす。官を遣はし詔を捧げ並に袍笏を以てして之を起す。辭して受けず。大隱先生と號す。

ヤウテツ 楊叔 (宋)字は晏如。北海人。幼より政警。建隆の初、進士に擧がり青州司戸參軍を歴。決獄平允、同長する所無し。大祖其名を知り禁中に召試す。著作左郎に改む。出て兗州を治す。大將曹彬兵を分ち以て行かむ。既に境に入る。僞師郭再興兵を擁し自ら固む。激軍騎進に入り、諭すに威信を以てす。土裏羅黎二姓聚りて乱を謀る。激之を平ぐ。度支郎中に累官す。

ヤウテン 楊敏 (宋)字は樂道。新蔡の人。進士に擧がり、累官、殿中丞たり。湖南の猶賊を討平す。後、龍圖閣直學士に累遷し諫院を知す。清介にして家に餘貨無し。卒して右諫議大夫を贈る。

ヤウテンケイ 楊天惠 (宋)鄆縣の人。幼より警敏。嘗て韓愈歐陽脩文集を讀み、從行數十數篇を作る。老宿の師儒相傳へて驚嘆す。元豐中の進士。徽宗の時、上書し宮禁の事を言ふ甚だ劉切なり。後、諫籍に入る。文集あり。世に行はる。

ヤウテンミン 楊天民 (明)字は正甫。山陽太平の人。萬曆十七年の進士。知縣より禮科給事中に擢でらる。言を以て駁されて卒す。天啓中、光祿少卿を贈る。

ヤウトウ 楊統 (漢)新都の人。天文推歩を乞ひ通判吉州知縣事たり。召して編修官に除す。首として重華宮廟するを乞ふ。辭甚だ懇切なり。憲宗立るに秘書郎に除し、出で吉州を知す。儒學の禁興り、汝愚、熹の黨に坐し方亦罷めらる。贛州に居り門を閉ちて書を讀み自ら漢野と號す。嘉定の更化に召されて右侍郎たり。考工郎に進む。三月ならずして復職して以て去る。

ヤウハク 楊栢 (宋)存齊と號す。弟岳、字溪と號す。嘗て朱熹を師とし、其門人晏敦復を友とし、得る所益々深し。世に大楊小楊と稱す。

ヤウハクキ 楊邦基 (金)字は德憲。華陰の人。學を好み文を能くす。天眷二年の進士。諸官を歴、永定軍節度使に徙り致仕して卒す。生平善く山水人物を畫き以て當世に名あり。

ヤウハクサン 楊芳鑑 (清)字は華鏡。江蘇無錫の人。康熙の朝、拔貢より廷試に應じて知縣を得、戶部員外郎に累官す。芳鑑文名を負ひ、詩は嶽山昌谷の間に出入して自ら其體を成す。又體文に工に、驚奇絶

ヤウハク 楊博 (明)字は惟約。蒲州の人。御史曠の子。嘉靖八年の進士。知縣より職方郎中に累官す。覆轡に隨つて九邊を巡る。吏部に累遷して少師に進み太子太師を兼ね。中外に出入すると四十餘年。三たび疏して乞うて歸り、年を踰えて卒す。太傅を贈り墓設と諡す。

ヤウハク 楊瑛 (清)僱師の人。農を力む。水至る。弟茂を以て妻と子を就せ水を過く。母之を呼べとも應へず。瑛母を負ひ水に浮び、神堤灘に掲げ、救免するを得たり。

ヤウハクイウ 楊伯雄 (金)字は希雲。皇統二年の進士。諸官を歴、河中尹に徙りて卒す。年六十五。莊獻を諡す。弟伯傑伯仁。ヤウハクゲン 楊伯元 (金)字は長淵。開封尉の人。諸官を歴て安武軍節度使に遷る。泰和三年致仕して卒す。官に在り才幹を以て多く委任せらる。諡と諡す。

ヤウハクシウ 楊伯儒 (附)馮翊の人。易

星術に習ふ。建初中、彭城令となる。歳大旱す。統、陰陽消伏を推す。縣蒙澤に界す。太守統をして郡の爲に雨を求めしむ。雨即ち大に降る。是より禍福を推背するに應驗あらざるはなし。朝廷の災異多く之に諮詢す。子厚。

ヤウトウ 楊棟 (宋)紹定二年、進士第一たり。宗、少卿となる。進對す。理示曰く、是は正心脩身の學に止るか。棟對て曰く、臣が學ぶ所三十年、只此の一説、之を事に用ふれば治を爲すに至りて簡易なりとす。後、禮部尚書に累官し進んで參知政事たり。後、資政大學士を以て奉祠して卒す。少保を贈らる。棟の學は周程に本づき、海内の重望を負ふ。所著崇道集平舟文集あり。

ヤウトウメイ 楊東明 (明)字は啓修。虞城の人。萬曆中、給事中たり。言を以て貶官せらる。光宗を経て熹宗に至り、刑部右侍郎に擢てらる。既に歸りて卒す。崇禎の初刑部尚書を贈る。

ヤウトクカン 楊德幹 (唐)相州刺史と爲る。四郡を歴。至る所威嚴あり。時人語り曰く、寧食三斗粟、莫逢楊德幹と。

ヤウトクヒ 楊德妃 (宋)仁宗の妃。定陶の人。初め美人と爲る。端麗機敏、音律に妙なり。嘗て一たび目を過ぐれば素習の如し。郭后と相善らず。后既に廢せられ妃亦遣出せらる。後復召されて熈好と爲り、修儀に至る。熙寧中卒す。年五十四。德妃を贈る。

ヤウトクリン 楊德麟 (唐)女子。司馬楊敬の女。年十三にして六韻を以て詩を成す。奉慈寺に遊びて詩一絶を題す。自ら稱して關西夫子二十七代の孫と曰ふ。

ヤウトン 羊敦 (南北)字は元禮。泰山鉅平の人。平生簡素を尚び、書史に博涉す。父靈引の王事に死するを以て給事中に除せられ、累遷して廣平太守たり。能名あり。歳饑に屬す。人をして藜根を探り之を食せしむ。疾苦あるに遇へば、家人衣を解き米を質し以て供す。朝廷其清白を以て穀一千斛給し以て賜ふ。卒して吏民奔り哭す。吏部尚書を贈り貞と諡す。

ヤウドロウ 楊度汪 (清)字は助齋。無錫の人。乾隆丙辰、拔貢を以て鴻臚科に舉試す。庶吉士を授け德興知縣に改めらる。著に雲暉樓詩集あり。

ヤウチイ 楊寧 (明)字は彦謹。歙人。宣德五年、進士。刑部主事に除す。正統景泰の交、禮部尚書に歴進す。英宗復位の初、致仕し年を踰へて卒す。

ヤウノウ 楊能 (明)洪の從子。字は文敬。洪に從つて軍功を累れ、開平衛指揮使より都指揮僉事に進む。景泰天順の交、左都督に擢て武強伯に封せらる。陣に死す。

ヤウハ 楊播 (南北)字は善慶。弘農の人。本の字は元休。孝文に改めらる。母王氏は文明太后の姑。嬪々を征す。賊圍み急なり。播乃ち精騎三百をして其船を操らしめ、大に呼び曰く、我渡んと欲す、能く戰ふ者は

絶、世、盈川の復生と謂ふ。晚年衝抗關中の錦江書院に主たり。四川通志を修む。著に吟翠軒初集あり。

ヤウハク 楊瑛 (宋)瑛郷の人。詩を善くす。士大夫多く傳誦す。毎に牛に乗りて村店に往來す。自ら東里野民と號す。嘗て嵩山窮絶の處に入り、凡て數年、所著詩歌百餘篇あり。既にして召見せられ、還りて歸耕賦を作り以て志を見はす。眞宗諸陵に謁するの道鄭州に出で、使を以て束帛を賜ふ。

ヤウトク 楊栢 (宋)存齊と號す。弟岳、字溪と號す。嘗て朱熹を師とし、其門人晏敦復を友とし、得る所益々深し。世に大楊小楊と稱す。

ヤウハクキ 楊邦基 (金)字は德憲。華陰の人。學を好み文を能くす。天眷二年の進士。諸官を歴、永定軍節度使に徙り致仕して卒す。生平善く山水人物を畫き以て當世に名あり。

ヤウハクサン 楊芳鑑 (清)字は華鏡。江蘇無錫の人。康熙の朝、拔貢より廷試に應じて知縣を得、戶部員外郎に累官す。芳鑑文名を負ひ、詩は嶽山昌谷の間に出入して自ら其體を成す。又體文に工に、驚奇絶

ヤウハク 楊博 (明)字は惟約。蒲州の人。御史曠の子。嘉靖八年の進士。知縣より職方郎中に累官す。覆轡に隨つて九邊を巡る。吏部に累遷して少師に進み太子太師を兼ね。中外に出入すると四十餘年。三たび疏して乞うて歸り、年を踰えて卒す。太傅を贈り墓設と諡す。

ヤウハク 楊瑛 (清)僱師の人。農を力む。水至る。弟茂を以て妻と子を就せ水を過く。母之を呼べとも應へず。瑛母を負ひ水に浮び、神堤灘に掲げ、救免するを得たり。

ヤウハクイウ 楊伯雄 (金)字は希雲。皇統二年の進士。諸官を歴、河中尹に徙りて卒す。年六十五。莊獻を諡す。弟伯傑伯仁。ヤウハクゲン 楊伯元 (金)字は長淵。開封尉の人。諸官を歴て安武軍節度使に遷る。泰和三年致仕して卒す。官に在り才幹を以て多く委任せらる。諡と諡す。

ヤウハクシウ 楊伯儒 (附)馮翊の人。易



を以て山に隠る。文帝召し與に語る。答ふる所無し。衣服を賜ふ、之を捨て去る。其勇を論ずるの辭、皆先儒の旨に異り、思理支那獨得に出づ。常人の及ぶ所に非ず。ヤウハクジン 楊伯仁 (金)字は安道。伯仁の弟。天性孝友。諸書目を過ぐれば誦を成す。皇統中進士に登る。太子右監兼侍御史、濟州刺史、禮部侍郎、左諫議大夫兼太常卿等を歴す。文辭典雅、時に呂惠輪同賦を以て天下に甲たりと雖も、辭令尙未だ伯仁に優らず。

ヤウハクシヤウ 羊百章 (唐)呂氏春秋二

州の人。大定三年登第す。請官を歴て承安四年尚書左丞に進み、致仕して卒す。

ヤウハクエン 楊伯淵 (金)字は宗之。遼の中書舍人丘文の子。楊伯雄の從兄。早くして孤、母に事へ奉を以て聞ゆ。既に長じて財を疎んじ、施を好み喜んで古書を收む。天會四年進士の第を賜はる。請官を歴して平州府尹に山東東路轉運使知泰安軍に遷り

高政あり。大定三年致仕して家に卒す。

ヤウハクツウ 楊伯通 (金)字は吉甫。私州の人。大定三年登第す。請官を歴て承安四年尚書左丞に進み、致仕して卒す。

ヤウハクツウ 楊伯通 (唐)字は致之。進士に登り、又拔解科に中る。累官して左司郎中たり。蘇州刺史たり。民を治する必ず教ふるに長に、擢に功に慈なるを以て先とす。弟收。

ヤウハン 楊端 (宋)字は公濟。臨海の人。進士に擧げられ、密和二州の推官たり。楊州を訓判す。歐陽修其詩を稱す。蘇軾杭州

に知たりしき、嶺州事を通判す。賦と唱和居多なり。後謫州を知して卒す。所著詩文數千篇、草安集と號す。

ヤウハンソン 楊蔭孫 (宋)上虞の人。谷の子。節度使と爲る。子鎮、理宗の女周漢公主に尙す。

ヤウバンリ 楊萬里 (宋)字は廷秀。吉水の人。進士に擧げられ、零陵丞に調せらる。時に張浚謫居す。萬里これを寓せしむ。勉めて正心誠意の學を講す。里遂に誠を以て善に名け、人號けて誠齋先生といふ。奉新を改知す。孝宗の時、召されて國子監博士となる。後、實文閣待制を以て致仕す。寶

慶閣學士に進む。諡して文節と曰ひ、學に祠る。萬里、三朝に際遇し始終一節、愛君憂國の心、皎然日月と光を争ふ。孝宗稱す其仁者は眞あり。又曰く、書生兵を知る者は惟萬里一人のみぞ。孝宗の朝、韓侂胄の邊策を開くと聞き、謂へらく必ず國を悞らんと。憂憤食せず、自ら十四首を書し筆を擲ち几に墜つて歿す。時に年八十。子長

ヤウヒ 楊變 (南北)字は叔鸞。父鸞は魏の瀘州安東府の長吏たり。鸞魏の孝莊の時、四克州に於て流民を督饒して功あり。薛方城伯を賜ふ。廣平王開府中郎を歴、起居注に遷る。

ヤウヒ 楊妃 (唐)玄宗の妃。華州華陰の人。曾祖士遠は隋の納言たり。父知慶、太尉たり。帝東宮に在りしとき、雲霓の初を以

て宮に入り、良媛となる。時に太平公主帝を忌む、而て宮中の左右兩端を持し、威悉密す。聞ゆ。媛方に媚り、帝自ら安んぜず、密かに侍讀張說に語つて曰く、事を用ふる者吾が子多きを欲せず、命を奈何せむと。說劑を挾み以て帝を曲室に入れ自ら之を煮しむ。夢想あり、乃ち止む。男を生む、是を肅宗となす。帝位に即き、實廢さなす。後寧親公主を生み乃ち薨す。元獻皇后と諡す。

ヤウヒ 楊真 (明)元果の子。博學強記。同翰を以て名を知る。初め大名知縣を授けられ、仕へて周府に至る。

ヤウビ 楊笑 (宋)災水の人。狀貌雄偉。初め後周に仕へて、鎮撫都指揮使たり。宋の初、北海軍使たり。政簡易を尙び、民之を德さす。蜀を平ぐるの功を以て、端州防禦使に累遷す。卒して侍中を贈る。美凡そ賜予と奉諡を得れば、盡く親戚數萬に周給す。卒するの日、家に餘財無し。

ヤウヒウ 楊彪 (漢)饒の曾孫。賜の子。獻帝の時、太尉に拜せらる。時に董卓權を專にし、都を遷し以て諸侯の兵を避んと欲す。彪曰く、關中殘廢、洛に都すること已に久し、故なく宗廟を損し、國を棄てば、恐くは百姓驚動し、必ず關東の亂あらんと。卓色を作して曰く、公國を遷せんと思はるやと。遂に奏して彪の官を免す。卓死して起つて司徒たり。郭汜李傕の亂、節を盡し主を衛る。魏の文帝立つ。拜して太尉となさんとす。固辭す。乃ち之を免す、之に几

杖を賜ひ待つに實禮を以てす。饒より賜に至るまで三葉宰相たり。饒より彪に至るまで四世太尉たり。故に東京の楊氏は漢の名族たり。彪の子儀。

ヤウヒキヨ 楊遵舉 (宋)瓊州の人。時に李守、使を奉じて瓊に至り、道にして之に遇ひ其家に至る。其隨父皆年百二十餘。祖宋剛、年百九十五。次に鶴窠を見るに小兒あり、頭を出して下視す。宋剛、守に謂て曰く、此れ九代の祖なり、歸ちち食けず其年を知らずと。

ヤウヒン 楊邠 (五代)冠氏の人。漢に仕へて官。中書侍郎兼吏部尚書同平章事に至る。人となり頗る簡靜にして吏事に長す。屢々事に因て隱帝の意に忤ひ、遂に殺さる。周太祖即位して弘農王に追封す。

ヤウビン 陽晏 (唐)字は公業。平州の人。荊州刺史に歴官す。盧從史既に縛せられ、路軍潰ゆ。騎卒五千あり、從史の常に子をして視る者なり、晏に奔る。吳門を閉て入れず。衆皆哭して曰く、奴節を失す、今公完城あり、又度支の錢百萬府に在り、少しく之を賜て爲に天子に表して、旌節を求めんと。晏福を關鑿して之を遣る。衆感悟して遂に軍に還る。靈帝之を嘉して、易州の刺史に遷す。

ヤウヒヨウ 楊滂 (唐)字は虛受。詩文を善くす。弟凝、凝と並に重名あり、大歴中俱に登第す。三楊と稱す。子敬之。

ヤウフ 楊阜 (三國)字は公成。天水眞人。

ヤウフク 楊復光 (唐)僖宗の時、節義を以て自ら高す。謀略あり。王芸仙反す。周巖賊命を受く。嘗て夜復光を召して飲す。復光往き泣て曰く、丈夫恩義利害を顧みれば禽獸と等しきのみと。巖流涕し、因つて盃を持して盟ひ、即ち子を遣はし賊を斬らしむ。

ヤウフクワ 楊不花 (元)梁兒貝の子。才氣あり、書を善くす。後家難に遭ひ益々自ら名節を勵ます。天曆の初、通政院判將に除す。陝西亂れ陝の守吏皆逃る。不花獨出て禦ぎ、陣潰れ殺さる。至順二年禮部尙書を贈り、以て其忠を褒す。

ヤウフチウ 楊父仲 (宋)字は時發。棟の從子。幼にして孤なり。母胡氏節を守り自ら誓ひ諸子を教養す。父仲遂に春秋に達し、淳祐間、兩學に入り、兩に試みられ皆第一たり。寶祐の初、進士に登る。太常丞兼崇明尉に累官す。書を説く毎に積感を以て帝意を動す。官工部侍郎兼國子祭酒に至る。泉州を知して卒す。見山文集あり。

ヤウブツウ 楊武進 (隋)華陰の人。性果烈。馳射を善くす。西南夷を討つ功を以て白水郡公に封せらる。後羌人邊患をなす。朝廷其威名を以て岷蘭二州の總管を授

明帝の時、少府卿たり。帝北芒を平げ台觀を作り以て孟津を望んとす。阜上疏して諫めて曰く、堯は茅茨を尙び萬國其居に安んじ、禹は宮室を卑うして天下其業を樂む、殷周に至るに及び桀は璇室象廊を作り、紂は瓊宮麗台を作り、以て其國を喪ふ。晋靈は草華を築きて身禍を受け、秦皇は阿房を作り二世にして滅ぶ、夫れ萬民の力を度らずして以て耳目の欲に従ふ、未だ亡びざる者有らずと。數言て稱を著げ遷峻半袖を被る。阜聞て曰く、此れ禮に於て何の法服ぞと。數默然たり。是より法服にあらざれば阜を見ず。

ヤウフ 羊孚 (晉)字は子道。泰山の人。靈寶賦を作り云く、晉清以化乘氣以霏遇象龍鮮贊即潔成輝と。桓胤遂に以て扇に書す。

ヤウフ 楊扶 (唐)浦江の人。武源令たり。交州刺史に遷る。至る所恩惠あり。州人之が爲に楊樹儀政多奇と諡ふ。

ヤウフ 楊溥 (五代)吳主第四世。行密の第四子。初め丹陽郡公に封せらる。兄隆演死して徐溫の爲めに立てらる。立て七年、帝と稱す。徐溫の子知誥、太師大元帥たり、政其手に在り齊王となる。溥遂に位を禪る矣亡ぶ。在位十九年。睿皇帝と諡す。

ヤウフ 楊溥 (明)字は弘濟。石首の人。建文二年の進士。編修たり。永樂中、旨に忤ひて囚はる。仁宗即位の初、釋して翰林學士に擢て、太常卿を歴、宣德正統の交、少保武英殿大學士に歴遷す。十一年七月卒

す、年七十五。太師を贈り文定と諡す。

ヤウフク 楊復 (宋)長溪の人。業を朱子に受く。苦幹と相友とし善し。祭禮十四卷儀圖十四帙を著はす。又著に家禮雜說附註二説あり。

ヤウフクワウ 楊復光 (唐)僖宗の時、節義を以て自ら高す。謀略あり。王芸仙反す。周巖賊命を受く。嘗て夜復光を召して飲す。復光往き泣て曰く、丈夫恩義利害を顧みれば禽獸と等しきのみと。巖流涕し、因つて盃を持して盟ひ、即ち子を遣はし賊を斬らしむ。

ヤウフクワ 楊不花 (元)梁兒貝の子。才氣あり、書を善くす。後家難に遭ひ益々自ら名節を勵ます。天曆の初、通政院判將に除す。陝西亂れ陝の守吏皆逃る。不花獨出て禦ぎ、陣潰れ殺さる。至順二年禮部尙書を贈り、以て其忠を褒す。

ヤウフチウ 楊父仲 (宋)字は時發。棟の從子。幼にして孤なり。母胡氏節を守り自ら誓ひ諸子を教養す。父仲遂に春秋に達し、淳祐間、兩學に入り、兩に試みられ皆第一たり。寶祐の初、進士に登る。太常丞兼崇明尉に累官す。書を説く毎に積感を以て帝意を動す。官工部侍郎兼國子祭酒に至る。泉州を知して卒す。見山文集あり。

ヤウブツウ 楊武進 (隋)華陰の人。性果烈。馳射を善くす。西南夷を討つ功を以て白水郡公に封せらる。後羌人邊患をなす。朝廷其威名を以て岷蘭二州の總管を授



け以て之を鎮せしむ。ヤウフン 養奮 (漢)字は叔府。講林州の人。博く古蹟に通ず。邪人之を重んず。布衣を以て方正に擧げらる。蓋し一時名儒なり。其終ふ所を知る莫し。

ヤウブンアン 楊文安 (元)字は泰叔。降を以て監軍と爲る。蜀境を平定す。入謁し論議して以て献す。諸蠻を降す。中書左丞に擢拜せられ、江四省事を行ふ。月を論えて官に卒す。

ヤウブンウツ 楊文蔚 (清)浙江上虞の人。母病む。股を割き以て進む。病、霍然たり。ヤウブンガク 楊文岳 (明)字は斗望。南亮の人。萬曆四十七年の進士。行人たり。天啓崇禎の間、兵部右侍郎に擢てられ、總督保定山東河北軍務たり。李自成を討つて克たずして執へられ、竟に殺せらる。時に崇禎十四年九月なり。

ヤウブンクワウ 楊文廣 (宋)延昭の子。狄青に従ひ南征す。廣西討伐たり。宜邕二州を知す。英宗州して名將とす。後、果選して興州防禦使兼鳳州副都官たり。後宗州に徙り歩軍都虞候に遷る。遂に地界を争ふ。文廣地界を獻じ、并に幽燕燕を取らんとして未だ報あらずして卒す。

ヤウブンケン 楊文乾 (清)宗仁の子。曹川より州官を知して廣東巡撫に至る。官に在りて隠して法あり。悉く能く職に稱ふ。ヤウブンシ 楊文思 (南北)字は温才。素の從叔。後魏州刺史たり。甚だ忠政あり。

去るに及びて吏民之を思ひ、爲に呼ん立てて德を頌す。冀州刺史に轉す。熈帝即位し、徵して民部尚書とす。ヤウブンセウ 楊文昭 (元)山水を畫くに工なり。

ヤウブンツウ 楊文聰 (明)字は龍友。貴陽の人。浙江參政孔の子。萬曆末、官兵部侍郎に遷る。山水及び書を善くす。博識にして古を好む。宋人の骨力ありて而も其結を去り、元人の風雅ありて而も其佛か去り巨然として惠崇の間に出入す。人となり豪俠にして自ら喜ぶ。崇禎の季年遂に國難に死す。

ヤウブントク 楊文徳 (明)張士誠に屬し泰興に據り以て明師に抗す。至正戊寅の役遂に擒斬せらる。ヤウヘイ 楊榮 (漢)華陰人。雲の中子。字は叔節。陳霸先兗州の刺史たり。清白を以て稱せらる。乘忠貞慕然にして大臣の節あり。嘗て曰く、我に三不惑あり、酒色財と。實は四知、畏れ、榮は三惑を去る、亦佳對なり。乘の子賜。

ヤウヘイ 楊丙 (宋)晉江の人。少より力學し左氏春秋に精し。進士に第す。左司諫に累官す。嘗て論ず賊臣は常に大臣より始む。且いふ大臣私を爲さざれば小臣敢て干む。且いふ大臣私を爲さざれば小臣敢て干む。而して後以て人の私を爲すべしと。刑部侍郎中書舍人に累遷す。著す所易說及禮記解、四拔稿、諫垣存あり。

ヤウヘキジキ 楊祥邪 (南北)初め魏に仕へて東益州の刺史たり。天下の騷擾に乗じ、州に據りて叛す。未だ幾ならずして敗死す。ヤウホ 楊輔 (宋)遂寧の人。進士に擧げらる。才は以て用ふるあるに足り、明は以て森を知るに足る。累官して龍圖閣學士兼江准制置使たり。君を愛し國を憂へ知つて言はざる無し。兄弟五人、自ら孝友を爲し、孝を以て著聞す。卒して莊憲と諡す。

ヤウホ 楊輔 (明)雲南太和の人。五經に通じ藝術に工に、意を仕進に絶つ。庭前に大桂樹あり。板を樹上に縛し、題して桂樓と曰ふ。其中に起臥す。躬耕數畝、親に甘脆を供す。孝經を註すること數萬言。一日硯乾く。樓を下り水を取むとす。硯池忽ち滿つ。是より常と爲る。時人之を異とす。父母歿して石窟山に入る。壽八十に至る。一日沐浴して子孫を見て曰く、明日吾行くと。果して卒す。

ヤウホ 楊補 (明)字は日補。長州人。書を善くし、梅竹に工なり。萬曆二十六年生れ、順治十四年卒す、年六十。ヤウホ 楊輔 (明)吉水の人。官御史たり。仁宗即位す。十事を上疏す。衛王府右長史に擢てらる。盡心獻替、未だ嘗て苟も一錢を取らざる。清廉此の如し。宣德の初に卒す。ヤウホウ 楊風 (漢)黃巾の徒なり。靈帝の中平二年、乱を作して天下に横行す。既にして敗れて死す。

ヤウボウ 羊茂 (三國)字は季實。東郡太

討つ。内莊の敗に中軍たり詔して死を免す。後長田の賊を討て功あり。副都兵に終ふ。ヤウメイジ 楊名時 (明)字は不羣。徽州の人。萬曆間の畫家。(名時、一に明時に作る)。

ヤウメイジ 楊名時 (清)字は寶實。一字は凝齋。江蘇江陰の人。康熙三十年の進士。累官して吏部尚書たり。文章を爲る悉く經訓に本く。南書房に入直す。聖祖叩くに易說を以てし、旁ら象數に及ぶ。名時正對瞻順する所なし。上、清操風者四字を御書して之を賜ふ。事に坐し獄に繋がる。軍數萬門外に洵々として曰く、楊公刑を受けば我輩は反あるのみと。名時痾に居て朝に立ち、官に在みて士に訓ふるに、一言一事も中心の誠に出でざる無し。故に其徳の人を感ずる深きのみ。嘗て易經隨記、詩經記解、楊子全書あり。

ヤウメイフク 楊明復 (宋)字は復翁。臨海の人。操履純正。博く經籍に通ず。著述に周易會粹、尚書暢旨、詩學發微、冠婚葬祭圖あり。蒲城先生と號す。ヤウヤケイ 楊治卿 (明)銅毛を畫くに工なり。

ヤウユキ 養由基 (周)楚の大夫。射を善くす。柳葉を去る百步、之を射て百發百中す。晉楚鄢陵に戦ふ、基射て七札を撤す。再發盡く盡る。晉師乃ち止まる。ヤウユキ 楊山義 (宋)字は直之。開封の人。家世將たり。建炎の初、京師守を失す。

守たり。冬月は白羊皮に坐し、夏月は一輪木の板牀に坐す、界に出て糧穀を買ひ之を食す。

ヤウホウガイ 楊邦乂 (宋)字は希稷。吉水の人。建炎の初、建康に伴たり。金の兀朮の兵至る。守將杜充、戰敗れ、遂に官屬を率ゐて降る。邦乂獨り風せず。血を以て衣襟に大書して曰く、寧ろ趙氏の鬼となさず、他邦の臣とならずと。兀朮、人を使し、曉ふに官を以てす。終に風せず。大に罵り死を乞ふ。遂に殺さる。事聞す。直樞閣を贈り、忠義と諡す。制に云く、懦夫は生を受して名は死後に稱せられず、烈士は節を死きて死に泰山より重き有り。紹興中、重れて田三頃を賜ふ。

ヤウホウチヨク 楊奉直 (宋)開封の人。家世、將たり。建炎の初、京師守を失ふ。率直軍前正將を以て扈從して抗に至る。既にして遂復た抗に至る。率直敵を擧いで功あり。子由義。

ヤウボク 楊傑 (漢)福昌の人。武帝の時、樓船將軍と爲る。南粵を伐ちて功あり。後、梁侯に封ぜらる。

ヤウボク 陽驚 (晉)無終の人。父耽、基容氏に仕へ官東夷校尉に至る。驚器識沈遠。始め平州別駕たり。屢安時置國の術を獻す。後太尉を以て致仕す。性儉約にして常に敵車騎に乗る。死するに及び殮財無し。弟裕。

ヤウボシユク 楊氏叔 (明)紫溪道人と號す。

す。山水を畫き、絶佳なり。ヤウホセイ 楊輔清 (清)洪秀全の黨。秀清の弟。秀全等敗るゝに方り、閩浙の間に匿匿す。復乱を煽に作す。幾くならずして誅せらる。

ヤウホセイ 楊少青 (清)通江縣の人。嘉慶中、徒を聚め亂を作し、王家寨に據る。幾もなく敗れて擒へらる。

ヤウマウヨウ 楊孟容 (宋)眉山の人。累官して懷安軍を知す。治平の時に在り、濮陽に與りて合はず。熙寧の間に在り、新法を議して又合はず。元祐中致仕を乞ふ。哲宗清節の二字を書して之を賜ふ。

ヤウマン 羊曼 (晉)字は延相。貽の從孫。任達にして酒を嗜む。阮放等と八人、同志友とせし善し、並に名士たり。時に州里稱して阮放を宏伯とし、軟璽を方伯とし、胡毋輔之を達伯とし、卞壺を義伯とし、蔡謨を期伯とし、阮孚を誕伯とし、劉毅を委伯とし、曼を驕伯とし、兖州八伯と號して古人の八俊に擬す。累官して陽尹に至る。時に客を饒する宜しきに擬ふ。時に羊固臨海の大守たり。客を饒する甚だ盛なり。論者固の豊腹を以て曼の眞率に如かずとす。

ヤウメイ 楊名 (明)字は實卿。遂寧の人。嘉靖八年の進士。編修を授けらる。上書して旨に忤ひ、謫せらる。後釋され還り卒す。弟台。

ヤウメイカイ 楊明楷 (明)銅仁烏羅司の人。天啓中、王三善に従て貴州の賊安邦彦を

討つ。内莊の敗に中軍たり詔して死を免す。後長田の賊を討て功あり。副都兵に終ふ。ヤウメイジ 楊名時 (明)字は不羣。徽州の人。萬曆間の畫家。(名時、一に明時に作る)。

ヤウメイジ 楊名時 (清)字は寶實。一字は凝齋。江蘇江陰の人。康熙三十年の進士。累官して吏部尚書たり。文章を爲る悉く經訓に本く。南書房に入直す。聖祖叩くに易說を以てし、旁ら象數に及ぶ。名時正對瞻順する所なし。上、清操風者四字を御書して之を賜ふ。事に坐し獄に繋がる。軍數萬門外に洵々として曰く、楊公刑を受けば我輩は反あるのみと。名時痾に居て朝に立ち、官に在みて士に訓ふるに、一言一事も中心の誠に出でざる無し。故に其徳の人を感ずる深きのみ。嘗て易經隨記、詩經記解、楊子全書あり。

ヤウメイフク 楊明復 (宋)字は復翁。臨海の人。操履純正。博く經籍に通ず。著述に周易會粹、尚書暢旨、詩學發微、冠婚葬祭圖あり。蒲城先生と號す。ヤウヤケイ 楊治卿 (明)銅毛を畫くに工なり。

ヤウユキ 養由基 (周)楚の大夫。射を善くす。柳葉を去る百步、之を射て百發百中す。晉楚鄢陵に戦ふ、基射て七札を撤す。再發盡く盡る。晉師乃ち止まる。ヤウユキ 楊山義 (宋)字は直之。開封の人。家世將たり。建炎の初、京師守を失す。



父奉直は軍前正將を以て屢從して杭に至る。未だ幾ならずして廢復杭に冠す。奉直數を外に擯ぎ、由義母を奉じて地を遺官に避く。廢復至る。母は河に沈み、由義執へらる。累日にして逸す。領漕の薦に第せず。吏部朱松延請して其子熹に誨ふ。後父の恩を以て右階監軍南軍に補す。隆興の初、盧仲賢、虜に使し命を辱しむ。由義行かんことを請ふ。關門候充舉を以て金國に使す。虜之を折き拜せしむ、屈せずして歸る。官刑部侍郎に至る。朝散大夫に轉す。子九鼎。

ヤウヨウケン 楊維雄 (清)字は白四。一字は以齋。杭州海寧の人。順治十二年の進士。官兵部侍郎に至る。雍正十二年、疏は前後三十上まつる。嘗て一日九疏を上り、清朝諫官第一たり。其清廉にして法を執る、人之を包孝肅に比すと云ふ。著に梅野奏疏、政學篇等の書あり。

ヤウヨウハク 陽飛伯 (漢)嘗て義漿を設け行人に給ふ三年。一人あり飲み訖り問てヨ、何ぞ榮養無き。答へ曰く種なしと。其人懷中に菜子一升を取り之を與へ、且曰く此を種うれば美玉を生じ、并に好婦を得んと。之を種みて數歳。北平徐氏に女あり、雍伯之を求む。徐氏曰く、璧一雙を得れば當に婚を爲すべしと。雍伯之を種うる處に求め、白璧五雙を得て以て聘す。其地を名けて玉田と曰ふ。十男を生む。皆俊異、位卿相に至る。

ヤウヨク 楊翊 (宋)字は正臣。揚州に聖あり。天聖八年擢でられて進士に第し、泉州安南尉を授けらる。偶微病を得、檄を投じ去る。郡太守之を留む、可らず。未だ幾ならずして疾愈ゆ。或は之に仕を勸む、願はず。詩酒を以て自ら娛しむ。平淡簡古、晋宋間の風度あり。翊蔡君謨と同年、尤も相厚し。慶歴の初、君謨諫官を以て告を給はり迎待す。道に僊陽を經、因に詩十九韻を作り翊に遺りて云く、作詩欲招隱、翻愧林泉人。京に遷るに及び又同列を率ゐ之を薦む。堅臥して起きず。嘗て武夷に游び勝處に至る毎に必ず頌咏あり。

ヤウヨクエン 楊沃衍 (金)少うして北兵屯田の小吏たり。後正大二年左監軍に進む。三峯山敗る、や釣州に走り自ら縊る。年五十二。

ヤウヨリフ 楊興立 (宋)字は子權。浦城の人。業を朱熹に受く。遂昌縣を知す。道を以て人に淑す。學者多く之を宗とす。稱して船山先生とす。所著朱子語錄二十卷あり。ヤウリウエン 楊隆演 (五代)吳主第三世。字は鴻源。行密の第二子。立つとき年九歳。徐温政を專にす。隆演長じて快々、遂に疾んで卒す。年二十四。高祖宣皇帝と諡す。ヤウリン 楊綸 (漢)字は仲理。東昏の人。少くして丁鴻に師事し古文尚書に習ふ。稱辟皆歎かす。後侍中に拜せらる。上書して直辭不遜なるを以て免歸す。後將軍梁商の

長吏たり。諫諍して合はず。出て常山王傅に補す。疾を以て自ら止む。王命を稽むるに坐して免す。

ヤウリン 楊鏞 (唐)馮翊の人。戶部尚書と爲る。

ヤウリヨウ 楊凌 (唐)字は恭履。遷の弟。大歴中の進士。貞元中協律郎たり。章蘇州の楊協律に寄すといふ者は是なり。先名記に云く、楊氏兄弟は魏州弘農の人、凌、大理評事を以て卒す、最も善しと。

ヤウレイチン 楊靈珍 (南北)初め魏に事へて仇池の鎮將たり。後梁の武帝に降り征虜將軍に拜す。尋て事に坐して斬らる。

ヤウレン 楊廉 (明)字は方震。豊城の人。崇の子。家學を承け文行を以て稱せらる。成化末の進士。南京戶科給事中に拜す。禮樂錢穀より星曆算數に至るまで具に其本末を識る。學者月湖先生と稱す。家居二年にして卒す、年七十四。太子少保を贈り文恪と諡す。

ヤウワイ 楊淮 (明)字は東川。無錫の人。正徳十二年の進士。戶部主事を授けらる。再遷して郎中たり。尋りに京推通三倉の積弊を革む。大禮を力争して杖を受けて卒す。家人屋を賣り以て斂む。後太常少卿を贈る。

ヤウワウ 楊汪 (唐)馮翊の人。殿の次子。翰林學士と爲る。

ヤウワウキウ 楊王休 (宋)象山の人。初め業を僧舎に肄ふ。雪背に積み自ら覺えず。乾隆中の進士。仕へて蓄慶尉となる。奸家を祖治す。人鐵門少府と稱す。累遷して禮部侍郎に至る。子煒、官工部尚書に至る。

ヤウワウソン 楊王孫 (漢)城固の人。黄老の術を治む。家幾千金、厚く自ら奉養す。終に臨み其子に告げ曰く、我れ死せば裸葬

して以て我が眞に返せと。ヤウワン 楊綰 (唐)字は公權。華陰の人。少くして孤貧、母に事へて至孝。大歴中、相に拜せらる。制下り朝士相質す。奢侈の者靡然として行を改む。館性清儉、獨り一室に處り、圖書を左右にし凝塵席に滿るも濡如たり。世以て山濤楊震に比す。卒するに及び帝嘆じ曰く、天吾が大平を致すを欲せざるか、何ぞ吾が楊綰を奪ふの速なると。文簡と諡す。

ヤウフ 楊輝 (宋)字は士奇。億の弟。天禧の初、頭を獻じ、武進士を賜ふ。衢州龍游縣を知し、單州を遷列し、權開封府判官たり。皆清慎を以て聞ゆ。累遷して翰林學士と爲り、中書舍人に進む。卒して禮部侍郎を贈る。

ヤウフキ 楊維 (宋)武陵の人。進士の第に登る。幼より穎悟。嘗て宮柳詩百篇を撰し以て進む。上大に稱賞し、清白傳家の四字を御書して之を賜ふ。

ヤウフ井 楊輝 (宋)象山の人。王休の子。官、工部尚書に至る。

ヤウフ井カン 楊維翰 (明)字は子固。方塘と號す。明初の人。鐵崖の兄なり。晩年巖關竹石を畫く。俱に極めて精妙。柯九思之を推遜して方塘竹と云ふ。著作甚だ富む。ヤウフ井ソウ 楊維聰 (清)字は海石。海鹽の人。藍魚に工に、險鳴沐蘭神に入らざる無し。渾滑恬脫、水光行露の間に隱見し、蕩々として生るが如し。片鱗半甲人争ひて

之を寶とす。ヤウフキチウ 楊惟中 (元)字は彦誠。弘州の人。孤童子を以て太宗に奉ふ。年二つにして四城三十餘國に使を奉じて徳威を宣布す。數年にして歸り皇子湖の宋を伐つに會ひ、命を奉じて軍前に中書省の事を奉行す。惟中乃伊洛の遺書を収めて燕京に送り、還るに及びて太極書院、周敦頤祠を建て、俊秀識度ある者を選び、道學生の爲に儒士趙復王粹等を延きて其間に講授せしむ。俄に中書省に拜せらる。後京兆宣撫使に遷る綱紀肅然たり。江淮京湖南北路宣撫使と爲る。蔡州に卒す。忠肅と諡す。

ヤウフキテイ 楊維禎 (元)字は廉夫。晴豐の人。氣度高曠。山水の間に周游す。早歳吳山鐵冶嶺に居り、萬卷樓を築き、韞囊寶を傳へ、書を其上に讀む。故に鐵崖と號す。後ち鐵崖を得て之を吹く。鐵崖子と號す。著書三百餘卷あり。元亡びて後、明の太祖、諸儒を召して禮樂を講するに及び、維禎が前朝の老文學なるを以て、使を遣し幣を奉じて其門に詣らしむ。謝して云ふ、豈に老婦の將に木に就かんとして再び嫁を理する者あらん耶と。卒する時年七十五。

ヤウフキホウ 楊維鵬 (明)字は彦冲。松江の人。書を善くし、董思白を師とし頗る心印を得たり。思白晩年應酬の作恒に其手に出つといふ。

ヤウケンキヨウ 楊允恭 (宋)綿竹の人。少うして個儻任俠。初め丁燾給職を討じて



州に至る。尤恭策を以て之を干す。綿漢の  
取巡按に署せらる。太宗の時、賊を捕へ、果  
官して荆湖江浙都巡檢使たり。尤恭、心訂  
あり好んで事を言ふ。子可、告。

ヤウキンジョウ 楊允純 (明)字は翼少。  
松江華亭の人。嘉靖二十三年の進士。行人  
より兵科給事中に擢でらる。襄陽四事を陳  
す。戶科左給事を以て病を謝し歸り、復故  
官に起つ。僂患の起るや、源を推し奸倭を  
辨ず。爲に尋て葉市す。種示立ちて光祿少  
卿を贈り、天啓の初、忠恪と諡す。

ヤウエツクワ 楊日華 (宋)河南の人。官  
太常少卿、三司副使に至る。弟日殿。  
ヤウエツゲン 楊日殿 (宋)河南の人。日  
華の弟。進士に及第し校書郎に試みられ、  
襄陽州を歴知し、累遷して集賢院學士た  
り。河中府を知し、樞直學士を加へられ、  
益州を知し、蜀人に信愛せらる。

ヤウエン 羊瑗 (南北)分王年曆五卷を著  
す。  
ヤウエン 楊瑗 (明)當塗の人。菜を畫て  
生意あり。  
ヤガフカカン 野合可汗 (唐)回紇主。懷  
信可汗の子。

ヤカンテキキン 也罕的斤 (元)麗刺魯の  
人。祖麗。兒魯立、太祖に屬して功あり。  
父魯立、憲宗に從て功あり。也罕的斤  
千戸の封を襲き、戰功あり。至元七年宋  
兵成都に入る。也罕的斤擊退して大に之れ  
を敗る。世祖其功を嘉し、蒙古麗刺魯河

四漢軍萬戸に擢て眉州を成らしむ。後ち水  
陸二軍を督し西南諸國を征討す。建都烏蒙  
金齒等の十二部皆降る。宣慰司を置きて振  
旅して還る。位四川行樞密副使に至る。  
ヤクシヨク 龔玩 (唐)諸姓世家十卷を撰  
む。

ヤクゲンフク 龔元福 (宋)晉陽の人。膽  
氣あり騎射を善くす。晋の大福中、擊て契  
丹を敗り、功を以て累加して檢校太尉に至  
る。宋の初、檢校太師を加へらる。卒して  
侍中を贈らる。元福老ゆと雖ども筋力衰へ  
ず。人其強兵を領するに足ると言へば、必  
ず大に喜ぶ。時に驍將と稱せらる。

ヤクシヨウ 龔滋 (漢)河内の人。天性機  
智なり。嘗て耶と爲り、獨り臺上に直す。  
衆實にして、衣衾なし、毎に糠飯を食ふ。  
帝臺に入り見て之を嘉みし、詔して朝夕の  
食を賜ふ。南陽の太守に歴官す。  
ヤクシヨク 約續 (上古)賢人なり、韓子  
に見ゆ。

ヤジキツヂ 也兒吉尼 (元)字は尙文。唐  
兀氏。江西平章に累官す。善く兼心を結ぶ。  
一時の驍將多く之に歸す。明兵至り城破る。  
風せすして死す。  
ヤシユンタイ 野峽台 (元)雍古部の人。  
賊兵と交戦す、援兵至らず。賊の飛槍を以  
て死す。涼國公に追討し忠壯と諡す。

ヤセンコツト 也先忽都 (元)名は均、字  
は公乘。太平の子。少にして學を好み翰林  
侍讀學士に累遷す。父の再出て、相と爲る

に及びて知樞密院事を授けらる。至正十九  
年群盜遼陽を掠むるや師を率ゐて往て之を  
討つ。時に朝廷の譴責日に甚しく、罷めら  
れて上都留守と爲り、遂に宛に死す。  
ヤセンチムウル 也先斃木兒 (元)忽哥赤  
の子。至大の初、營王に進封す。皇慶の初、  
福州路、福安縣萬三千六百戸を賜ひ、其歲  
賦を食ましむ。泰定間出て、北邊を鎮す。  
ヤソク 也速 (元)蒙古の人。太尉月淵察  
兒の子。宣政院參議に歴す。至正の間、丞相  
脱脫に從つて南征す。也速巨石を以て敵を  
爲り其外城を破る。累官して中書平章政事  
に至る。各所に轉戦して功あり。字羅帖木  
兒誅せらるるに及びて右丞相と爲る。明師  
山東を取るや也速莫州を棄て敗れて遂に還  
る。

ヤソクガイ 也速該 (元)烈祖神元皇帝を  
見よ。  
ヤソクダフジ 也速答兒 (元)紐璽の子。  
智勇父に類す。至元中、四川西道宣慰使に  
歴遷す。大德八年烏蒙叛を征し、縻海に  
感し歸り成都に至り卒す。

ヤフ 野夫 (元)回紇の人。工に山水を畫  
く。兼て馬遠、夏珪を學びて其筆法を得。  
ヤリツア 耶律注 (遼)字は敬賢。少して  
魯識あり。人公輔を以て之を期す。太祖の  
時未だ官を授けられずと雖も常に大事に任  
ず。會同中、北院大王に遷る。晋を伐つに  
及び先鋒となり、梁漢軍と瀋州に戰つて之を  
敗る。太宗道に崩じ、南方州郡多く叛く。

士馬困乏して軍中爲す所を知らず。注諸將  
に號令し編すに軍法を以てす。世宗即位し  
て宮戸五十を賜ひ子越を加ふ。卒する年五  
十四。

ヤリツアカイ 耶律阿海 (元)本と遼の故  
族。世々金に仕ふ。阿海勇力絶倫。尤も諸  
國の語に通ず。金季使命を奉し漠北に至り  
太祖に見ゆ。遂に機謀に參預し戰陣に出入  
す。功を積み大師に拜し中書省の事を行ふ。  
卒して忠武公に追封す。

ヤリツアシ 耶律阿思 (遼)字は徽表。獨  
頼の子。清寧の初、威儀郎君に補せらる。獨  
射を善くするを以て獵事を掌る。渤海近事  
詳確に進む。重元の亂、遼魯古を射殺し、  
號を靖亂功臣と賜ふ。大安の初、北院大王  
と爲り、四年漆水郡王に封せらる。壽隆元  
年道宗崩す。阿思順命を受く。天祚立ち、  
子越を加ふ。阿思政を執り賂を受けて寬賈  
する所多し。後風疾を以て致仕す。尙父を  
加へ趙王に封せらる。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

ヤリツアソクホ 耶律阿魯保 (遼)字は特  
里典。五院部の人。幼にして慷慨大志あり。  
天慶の初、國の危亡を知り、前後進諫甚だ  
切なり。金に使して執へらる。既にして逃  
れ歸り都巡捕使に轉ず。魏王溥儀の時、  
之を招けども應ぜず。其書を封獻す。遼王  
天祚奔虜し、阿魯保を召す。時に至らざる  
を以て仄心あるを疑ひ、並に淳に招かるる  
を怒り之を殺す。人其死の罪にあらざるを  
以て痛惜する者多し。

し、趙王に封せらる。後北院に拜し魏王に  
進み、咸雍五年太師を加へられ、詔して四  
方の軍旅、便宜を以て軍に従ふを許す。勢  
中外に震ひ、門下饋賂絶せず。太康元年皇  
太子始めて朝政に預り法度修明なり、乙辛  
謀を退するを得ず。事を以て皇后を誣ひ  
て之を殺す。又太子を害せんと欲し、誣ふ  
るに反謀を以てす。遂に上京に囚へて之を  
殺す。帝稍乙辛を疑ひ出して輿中府を知せ  
しむ。七年冬、藥物を覺て外國より輸入す  
るを以て死に當す。其黨救解して來州に幽  
す。後ち宋に奔らんと謀り覺れて殺せら  
る。乾統二年孫を殺し屍を戮せらる。

ヤリツイソクホ 耶律乙不哥 (遼)字は習  
然。幼にして學を好み尤も卜筮に長ず。嘗  
て人の爲めに葬地を擇ぶ。曰く後三日牛人  
に乗り、人牛を逐うて過ぐる者あり、即ち  
土を啓けと。期に至り果して一人あり乳饋  
を負ひ、特牛を引て過ぐ。因て悟る所謂牛  
人に乘る者是なりと。遂に土を啓らく。又  
鷹を失ふ者占ふ。曰く鷹は汝の家東北三  
十里、濼西榆上に在り。往て之を求めて果  
して之を得たり。

ヤリツイソクホ 耶律乙不哥 (遼)字は習  
然。幼にして學を好み尤も卜筮に長ず。嘗  
て人の爲めに葬地を擇ぶ。曰く後三日牛人  
に乗り、人牛を逐うて過ぐる者あり、即ち  
土を啓けと。期に至り果して一人あり乳饋  
を負ひ、特牛を引て過ぐ。因て悟る所謂牛  
人に乘る者是なりと。遂に土を啓らく。又  
鷹を失ふ者占ふ。曰く鷹は汝の家東北三  
十里、濼西榆上に在り。往て之を求めて果  
して之を得たり。

ヤリツイソクホ 耶律乙不哥 (遼)字は習  
然。幼にして學を好み尤も卜筮に長ず。嘗  
て人の爲めに葬地を擇ぶ。曰く後三日牛人  
に乗り、人牛を逐うて過ぐる者あり、即ち  
土を啓けと。期に至り果して一人あり乳饋  
を負ひ、特牛を引て過ぐ。因て悟る所謂牛  
人に乘る者是なりと。遂に土を啓らく。又  
鷹を失ふ者占ふ。曰く鷹は汝の家東北三  
十里、濼西榆上に在り。往て之を求めて果  
して之を得たり。

ヤリツイソクホ 耶律乙不哥 (遼)字は習  
然。幼にして學を好み尤も卜筮に長ず。嘗  
て人の爲めに葬地を擇ぶ。曰く後三日牛人  
に乗り、人牛を逐うて過ぐる者あり、即ち  
土を啓けと。期に至り果して一人あり乳饋  
を負ひ、特牛を引て過ぐ。因て悟る所謂牛  
人に乘る者是なりと。遂に土を啓らく。又  
鷹を失ふ者占ふ。曰く鷹は汝の家東北三  
十里、濼西榆上に在り。往て之を求めて果  
して之を得たり。



ヤリツイラフカツ 耶律夷臘葛 (遼)字は... 蘇散。本宮分人。合魯の子。應曆の初、殿前都點檢と爲る。上引て布衣の衣を爲し、一切機密の事必ず與かる。穆宗酒に酔し、人か殺す。人、雄を監する者あり、又鹿を監する者あり。並に一雄一鹿を失ふを以て、獄に下され死に當す。穆宗諷めて曰く、人命は至重なり、豈禽獸の故を以て之を殺すべけんやと。死を以て之を争ひ免るゝを得たり。秋獵す。遼の法、鷹の岐角なる者惟天子のみ射ることを得。上命して射しむ。豈に應じて踏る、上大に悦ぶ。賜ふに金銀名馬及び黒山の東抹眞の地を以てす。穆宗穆宗の試せらるゝや、守衛不謹に坐して誅せらる。

ヤリツウシ 耶律羽之 (遼)字は寅底晒。小字兀里。幼にして豪爽不群なり。長して學を嗜しみ諸部語に通ず。太祖經營の初、多く軍謀に預かる。天顯元年命して東丹王中警省右丞相と爲す。羽之事に在りて、勤恪威信並び行はる。詔して東丹の國民を梁水に徙す。羽之鎮撫方あり國人安堵す。會同の初、特進を加へらる。子和里、東京留守に終る。

ヤリツエウシツ 耶律瑤質 (遼)字は拔里董。侯古の子。篤學廉介、經世の志あり。統和間、累遷して積慶宮使に至る。聖宗其正直を嘉みし、陳請する所多く嘉納せらる。王詢、欺を納る。瑤質其奸計を知り、之を納るべからずと云ふ。詢果して遁。擢ん

と共に陵遲せられて死す。ヤリツカツロ 耶律曷魯 (遼)字は控温。一字洪隱。迭刺部の人。曷魯性質厚、肺腑の親を以て轉運の寄に任ず。凡て軍國の事、其議にあらざれば行はれず。奚部を討つ。其長尤里、險に備つて居す。太祖能く下すなし。曷魯一箭を持して往て諭す。尤里其言に感じて乃ち降る。初め太祖謙讓して位に即くを肯せず。群臣皆勸進するも聽かず。曷魯説くに天時人事幾と失ふべからざるを以てす。太祖之を許す。曷魯、軍國の事を總べ、撫輯方あり、畜牧益々滋し。冊を受け拜して阿魯敦子越と爲る。神冊三年七月疾篤し、車駕臨視す。遂に薨す年四十七。太祖二十一年の功臣中曷魯獨り心腹と爲る。既に葬る其阡を名づけて子越谷と曰ふ。石を立てて功を紀す。

ヤリツカフヂウ 耶律合住 (遼)字は粘衮。近族を以て入侍し、毎に征伐に従ひ功あり。重熙六年長寧宮使を兼ね、遂に鎮國軍節度使を攝し卒す。生、智にして文あり。戎政に曉暢す。事に臨み明敏議論を善くす。范陽を鎮する時、數騎を領し雄州北門に詣り、郡將と馬を立て兩國の利害、及び周師邊を侵すの本末を陳す。辭氣慷慨。左右之を壯とす。是より邊境數年無事なり。識者謂ふ合住の一言は數十萬の兵に實ると。ヤリツガフロ 耶律合魯 (遼)字は胡觀。性柔佞苟合を喜ぶ。清寧の初、弟吾也と俱に耶律乙辛に附し、太子を譖害す。遂に委

て、四蕃部詳穩に拜す。政績顯著なり。官に卒す。ヤリツエンカ 耶律燕哥 (遼)字は善寧。太祖の異母弟。鐸離四世の孫、太師轄里斯の子。人となり狡佞にして敏なり。清寧間、左護衛太保に除せらる。累遷して左夷萬軍に拜す。耶律乙辛延いて耳目と爲す。凡そ聞見する所必ず告ぐ。忠良を殺害する多く與に之を謀る。擢てられて契丹行宮都部署と爲り南府宰相に拜す。三年西京留守と爲る。

ヤリツエンテイセキ 耶律寅底石 (遼)字は阿辛。太祖の同母弟。遺詔を受け太師政事令を守り、命じて東丹王を輔けしむ。淳欽皇后司徒劉沙をして路に殺さしむ。重熙間、許王に追封す。ヤリツオク 耶律德 (遼)太祖皇帝を見よ。ヤリツカイシ 耶律海恩 (遼)字は鐸衰。轉營の庶子。人となり機警にして口辯あり。北王府郎君たり。會同五年詔に應じ關に赴き時事を直言す。年僅に十八。嘗て帝に従つて晋を伐つて功あり。後ち謀反に坐して獄中に死す。ヤリツカイリ 耶律海里 (遼)拔里得の子。性儉素にして聲利を喜ばず。射獵を以て自ら娛む。閑に居ると雖も人之を敬する貴官の如し。母の嘗、察制と乱す。人をして海里召さしむ。之を拒く。亂平らむの嘗、子の故を以て免る。保寧の初、彰國軍節度使に拜し、惕隱に遷る。秩滿ちて疾を稱し

任せらる。累りに北院大王に拜せらる。吾也も亦南院大王に至る。卒す。時に二賊と稱す。ヤリツカンハツ 耶律韓八 (遼)字は喇隱。側廬にして大志あり。太平中、匹馬京師に來游す。帝微服出獵し、見て之を問ふ。曰く我は北院部の人、來て官を覓むるのみと。帝與に語り其才を悦び命じて南京の疑獄を決せしむ。情を量り理に據り、人宛ある者なし。重熙六年北院大王に進む。愈々忠謹を竭くし、知つて言はざるなし。十七年卒す年五十五。上聞て悼惜、使を遣はし弔祭し、葬具を給す。ヤリツカンリウ 耶律韓留 (遼)字は速寧。明識あり、行戦に篤く、尤も詩に工なり。開泰の初、烏古敵烈部都監と爲る。敵烈部叛す。討つて之を平らぐ。性苟も合はず。樞密蕭解里に忌まる。上韓留を召用せん欲す。解里其目病を言ひ遂に廢む。四年召して北面林牙と爲す。帝諭して曰く朕、卿が目疾を聞く、故に之を待つのみ。對て曰く、臣驚拙にして權貴に事ふる能はず、是を以て早く天顏を觀るを得ずと。方に大に用ひんとして卒す。

ヤリツカロウウコ 耶律何魯掃古 (遼)字は烏古隣。清寧の初、安州團練使となり邊部の來侵を平らげ、功を以て左僕射を加へらる。道宗崩後、山陵の事を總ぶ。乾統三年、南院大王と爲る、尋て卒す。ヤリツキウカ 耶律休哥 (遼)字は遜寧。

ヤリツカ 耶律休哥 (遼)字は遜寧。少くして公輔の器あり。數々征討して功あり、向ふ所敵なし。北院大王と爲り、親征に從ふ。玄甲白馬を賜ひ、精騎を率ひ、宋軍を擊破し數將を生獲して以て獻す。御馬金盃を賜ひ之を勞す。統和四年宋將曹彬と戦ひ之を走らせ、俘獲甚多し。太后其功を嘉みし拜を免し、名いはず。宋人之を畏れて敢て北向せず。兒啼を止めむと欲せば、敵ち曰ふ子越休哥至ると。十六年十二月丙戌薨す。是夕計聞す帝太后と痛惜、朝を廢むること三日、詔して祠を南京に立つ。休哥生平智略宏遠。敵を料ること神の如く、百戰未だ嘗て多く不率を殺さす。ヤリツギセン 耶律義先 (遼)仁先の弟。天性忠直、舉止嚴重なり。重熙十三年駕に從ひ西征し戦功最多し。南院宣徽使たり。時に蕭革、寵を恃み擅恣なり。義先帝に革の狡佞にして大に用ふれば必ず國家を誤らんを奏す。言甚だ激切なり。帝納れず。他日宴に侍し博を命ず。義先、革と當に對すべし。辭して曰く、臣縱ひ不肖を退くる能はざるも、安んぞ國賊と博せむやと。帝大に怒る。皇后の救に細く解くを得る。後ち進んで富春に王たり。薨する年四十二。清寧間許王を追贈す。

て仕へず。宋の曹彬、米信等來侵す。海里敵を却くるの功あり。漆水郡王に封じ、上京留守に遷る。薨す。詔して家貧しきを以て葬具を給す。ヤリツカイリ 耶律海里 (遼)字は涅刺昆。遼聲湖古可汗の裔。素より太祖の威德に服す。佐命の功あり。太祖託して耳目と爲す。數々征討に從ふ。始め遼聲、敵糧を置き、海里に命じて之を領せしむ。天顯中、渤海を征するに從ひ、忽汗城を破る。師還りて卒す。ヤリツカウゼン 耶律浩然 (金)工に山水を畫く。

ヤリツガウロアツ 耶律敷盧幹 (遼)天祚帝の長子。甫めて鬻亂、馬を馳せ射を善くす。後ち晉王に封せらる。人の善を道ふを樂み、人の不能を矜れむ。一時號して長者と稱す。内外心を歸す。蕭奉先(秦王定の男)其秦王に善あるを恐る。保大二年、金兵奄至す。奉先曰く金兵遠を亡すの心なし、晉王を欲するのみ、若し社稷の計を爲し、一下を惜まざれば金兵戦はずして歸るべしと。上之を信ず。或は敷盧幹に亡くるを勸む。辭して曰く安んぞ敷盧幹の身を以て、臣子の大節を失はむと。遂に死に就く。上素服すること三日。諸軍皆流涕す。ヤリツカツカ 耶律滑哥 (遼)轉營の子。性陰險。嘗て父を弑す。太祖其凶逆を知るも雖も務めて恩寵を廣め攫くるに惕隱を以てす。復刺葛等の叛に與る。遂に其子復只

ヤリツギ 耶律義先 (遼)仁先の弟。天性忠直、舉止嚴重なり。重熙十三年駕に從ひ西征し戦功最多し。南院宣徽使たり。時に蕭革、寵を恃み擅恣なり。義先帝に革の狡佞にして大に用ふれば必ず國家を誤らんを奏す。言甚だ激切なり。帝納れず。他日宴に侍し博を命ず。義先、革と當に對すべし。辭して曰く、臣縱ひ不肖を退くる能はざるも、安んぞ國賊と博せむやと。帝大に怒る。皇后の救に細く解くを得る。後ち進んで富春に王たり。薨する年四十二。清寧間許王を追贈す。ヤリツギセン 耶律義先 (遼)仁先の弟。天性忠直、舉止嚴重なり。重熙十三年駕に從ひ西征し戦功最多し。南院宣徽使たり。時に蕭革、寵を恃み擅恣なり。義先帝に革の狡佞にして大に用ふれば必ず國家を誤らんを奏す。言甚だ激切なり。帝納れず。他日宴に侍し博を命ず。義先、革と當に對すべし。辭して曰く、臣縱ひ不肖を退くる能はざるも、安んぞ國賊と博せむやと。帝大に怒る。皇后の救に細く解くを得る。後ち進んで富春に王たり。薨する年四十二。清寧間許王を追贈す。



賈獻の功あるを以て南府宰相に拜す。十五年出で、東北路詳穩と爲り卒す。  
 ヤリツキヤウ 耶律希亮 (元) 耶律楚材の孫。字は明甫。九歳にして能く詩を賦す。世祖に従つて乱を定む備を用ひて以て済。武宗立つに及びて特に翰林學士承旨に除せられ、國史を兼修す。希亮因て世祖の嘉言善行を類次して以て進む。英宗其書を取つて禁中に置く。泰定四年京に卒す。年八十一。漆水郡公に追封し忠嘉と諡す。希亮至孝、疾病と雖も書史を廢せず。著す所の詩文及び従軍紀行録三十卷。名けて懷軒集と曰ふ。

ヤリツクワイギ 耶律懷義 (金) 本名は李遼。遼の族なり。金に降りて宗翰に従ふ。後ち四北路招討都監となり雲中に卒す。年八二。

ヤリツクワカ 耶律化哥 (遼) 字は弘隱。騎射を善くす。乾亨の初、北院林牙と爲る。宋を伐つ功あり北院大王と爲る。又先鋒と爲り、宋を侵し、功を以て南院大王と爲る。開泰元年功を以て幽王と爲し、命じて四邊を經略せしむ。兵を益して深く入る、蕃人風を習て奔潰す。羊馬及び輜重を獲たり。路白抜烈に由り阿蘭圖回鹘に遇ひ之を掠む。都監懷州繼て至る。始めて其誤るを知る。蓋此部は實に降順する者なり。因て悉く俘獲を遣へす。諸蕃此に由て附かず。竟に王爵を削り、侍中を以て大同軍節度使を領せしむ。卒す。

ヤリツクワカツリ 耶律化葛里 (遼) 益部の異母弟。應曆の初、族子なるを以て傳禮せらる。三年或は皆く衛王宛と逆を謀る。獄に下さる。辭を飾り免るゝを得たり。四年春復た反を謀り誅に伏す。

ヤリツクワシヤウ 耶律和尙 (遼) 字は特抹。重熙の初、監候郎君に補せらる。人と爲り滑稽多智。天平軍節度使に累遷し檢校太師を加へらる。生平美行あり、數々財を以て親友を恤む。酒を嗜み事を事とせず、故に柄用を獲す。晩年沈酒尤も甚しく人稱して酒仙と爲す。

ヤリツクワツテイ 耶律轄底 (遼) 字は涅烈。蕭祖の孫、夷萬葉帖刺の子。幼より黠にして辯險、侯者多く之に附く。于越釋魯と向じく國政を知す。太祖將に位に即かんとす、轄底に讓る。辭して曰く、皇帝は聖人、臣豈敢て當らんやと。乃ち子孫と爲る。太祖自ら將として西南諸部を伐つに及び、轄底、刺魯等を誘ひ亂を爲す。太祖還て赤水城に至る、轄底懼れて走る。榆河に至り追兵に獲らる。將に之を刑せんとす。太祖之に語て曰く、叔父の罪死に當る、朕敢て赦さず、事の國に便なる者あらば宜しく悉く之を言ふべし。轄底曰く迭剌部、人衆く勢強し、故に多く亂を爲す宜しく分けて二と爲し以て其勢を弱くすべしと。  
 ヤリツクワンド 耶律官奴 (遼) 字は突隱。沈厚多學、遼朝の世宗に諱なり。酒を嗜み佚を好む。徵されて宿直將軍と爲る。重熙

十年疾を以て官を去る。歐里部の人蕭哇と友とし善し。哇亦志操あり、常に俱に林下に騰詠して自ら樂しむ。時に二逸と稱す。乾統尚卒す。

ヤリツケイケン 耶律奚蹇 (遼) 益部の異母弟。應曆の初、族子を以て優禮せらる。三年衛王宛と逆を謀。獄に下さる。辭を飾り免を獲。四年復叛を謀り遂に誅せらる。ヤリツケンチウ 耶律顯忠 (宋) 王繼忠を見よ。

ヤリツケンテキ 耶律賢邁 (遼) 字は阿古眞。海里の弟。學を嗜み大志あり。滑稽世を玩び人知る者なし。惟々屋質のみ之を器とす、人に謂て曰く是の人國に當らば天下幸甚しと。應曆中朝臣多く言を以て讒を得。獨り靜退に樂み游獵自ら娛み、親朋と言ふも時事に及ばず。會々烏古を討じて還り、右皮室詳穩に擢てらる。景宗の藩に在る、其規導に賴る。即位の後ち特進同中書門下平章事を加ふ。累りに四北路兵馬都督部署に進む。生平忠介廣敏、誠を推し人を待つ。燕息と雖も政務を忘れず。累年の滯獄悉く之を決す。疾を以て職を解く。明年四年平耶王に討す。薨する年五十三。子觀光、大同軍節度使と爲る。

ヤリツコ 耶律古 (遼) 鑄鑄の仲弟。字は涅刺昆。初名は曷馬葛。太祖嘗て曰く此兒骨相非常、左右に在らしむべからずと。頗る之を忌む。後ち太祖四討す、國內亂作。古與からず。太祖嘗て曰く吾患(なし)と。

遼に古を召し、其策を用ひて之を殄滅し、賜賚甚だ厚し。神冊の末、南伐す。老古の麾下に隸して唐兵と鬪營中に戦ふ。老古傷を遺して往て問はしむ。對ふるに古に於て疑ふべきなきを以てす。上の意乃ち釋く。即ち代へて以て右皮室詳穩と爲す。卒して後太祖左右に隨る、古の死するは猶長松の自ら倒るゝが如し、吾が之を伐るに非ずと。  
 ヤリツコウ 耶律吼 (遼) 字は曷魯。人と爲り端整にして胸を好む。太宗の親征に従ひ汴に入る。諸將皆内帑の珍異を取る。吼獨り馬鎧を取る。帝崩して遺詔なし、軍中憂懼爲す所を知らず。吼、北院王耶律注に請り俱に歸し永康王を立つ。功を以て探訪使を加へ、賜ふに寶貨を以てす。吼其賜を辭して族人の痛復する者を出さむと請ふ。帝賢として之を許す。仍て宮戸五十を賜ふ。時に七賢傳を作る者あり、吼其一に居り。天祿三年卒す年三十九。

ヤリツコウコ 耶律弘古 (遼) 字は胡篤。化哥の弟。聖宗と嘗て寶血を割し友と爲る。禮遇尤異なり。太平元年、同政事門下平章事と爲り、出で、彰國軍節度使と爲る。重熙十三年子越を加へらる。病て卒す。計開す。上哭して曰く惜むべし善人喪ぶと。統和に返り寤す。

ヤリツコクヨク 耶律谷欲 (遼) 字は休堅。六院部の人。阿古只の子。性冲澁にして禮法あり、文章に丁なり。開泰中、嶺南城節

度使に累遷す。俄に南院大王に擢んづ。風俗日に顯るゝを歎じて老を請ふ。典宗命して時友と爲す。詔を奉し遼國上世の事跡及び諸帝實績を編す。大安七年卒す年九十。  
 ヤリツココ 耶律虎古 (遼) 字は海都。親烈の孫。少して穎悟。然諾を重んず。保寧十年宋に使ひして還り奏す、宋必ず河東を攻めむ、事に先だち備を爲すべしと。韓匡嗣問ふ何を以て之を知る。對て曰く、諸國の國、宋皆併取す、惟河東のみ未だ下らず、今宋武を講し戦を習ふ、意必ず漢に在り。明年宋果して大原を取り勝に樂じて燕に逼る。帝其能く事を料るを以て之を善とす。統和の初、皇太后制を稱す。召して京師に赴く。復た事を以て韓德讓と相許ふ。怒に因て腰帶の執る所の戎杖を取り、其脇を擊ちて卒す。

ヤリツコテツ 耶律古迭 (遼) 本宮分人。素より戲弄を好み、細檢を喜ばず。哲力人に過ぎ、擊鞠を善くす。重熙の初、護衛と爲り宿直の官に歷す。十三年、先鋒となり夏を討す。夏人兵を伏せて之を掩ふ。古迭力戰馳射す、弦に應じて軋ら介る。夏の兵當る能はず。典聖宮太保に改めらる。後ち重元の亂に従ひ驅散れて追擒せらる。降して死す。

ヤリツゴヤ 耶律若也 (遼) 合魯の弟。清寧の初、兄と俱に乙辛に依附して太子を圖害す。遂に委任せられて南院大王に拜す。時人二賊と號す。

ヤリツサクコ 耶律朔古 (遼) 字は彌骨頂。太祖の養子。既に室し右皮室詳穩と爲る。渤海を伐ち功あり。天顯七年三河島百部部詳穩を授けらる。民其政に安んず。會同間、從て石重貴を征す。晉將杜重威、衆を擁して津沱河に拒く。朔古、趙延壽と中渡橋に據ること月餘、重威遂に降る。太宗崩す、其喪を奉して上京に歸る。世宗即位し、皇太后を佐け師を出たすに因り、是に坐して官を免す。薨て卒す。

ヤリツサツカツ 耶律察割 (遼) 字は歐辛。一名麻答。太祖の同母弟安端の子。性酷虐にして騎射を善くす。鏡禁にして心狡なり。人以此を懼す。太祖之を識りて曰く、此れ兇頑なり、懼に非ず、其目は風塵の如く、面に反相ありと。世宗の時、奉賊の功を以て泰寧王に封じられ魏州を守る。多く宋人を屠し、面を割き目を抉し髪を抜き腕を断ちて之を殺す。出入するに常に鉗鑿挑刺の具を以て自ら隨ふ。賊處の前後に人の肝脛手足を挂け、言笑自若たり。入りて女石烈軍を領し、中に入らず。帝厚く之を恩遇す。察割亂を謀らんを欲して果さず。遇、帝周を伐つて詳青山に至り、太后と國國皇帝を行宮に祭り、軍臣皆辭ふ。察割乃ち耶律益都と謀り、帝及び后を試し、因て位を僭す。海安王瑋、耶律屋質兵を以て之を圍み、其諸子と併せて之を誅す。

ヤリツサツラツ 耶律撒剌 (遼) 字は董隱。性忠直沈厚。清寧の初、西南路招討使に累



選す。耶律乙辛の大罪及び奸惡を陳し、進諫する者三たび。左右之が爲めに贊懐す。遂に出たして始平軍節度使と爲す。乙辛其黨と謀り、廢立を謀ると謀ふ。上怒り使を遣はし死を賜ふ。乾統間、漆水郡王に追封し三子に官爵を追贈す。

ヤリツサツラツチク 耶律撒刺竹 (遼)孟父房孫の孫。性兇暴。清寧中、宣徽使に累遷し、殿前都點檢に改めらる。耶律重元と乱を謀る。濼河の役、適々敗所に在り、乱を聞き獵犬を劫して以て従ふ。既に至り、耶律重元古の已に死するを知り大に悔恨し、重元に死戦を勸む。重元從はず。遼明戦死す。

ヤリツシチウ 耶律質忠 (遼)字は沃衍。小字札刺。年四十まで仕へず。聖宗其賢を知り召して宿衛に補す。權貴多く之を短る。高麗に使して爲に留めらる。二十年。著述あり四亭集と号す。後高麗罪を謝して質忠を送り還す。帝郊迎し同載して歸り、其忠を賞して樞密使を授けんと欲す。固辭して受けず。聖宗崩す、慟哭し絶えて復た蘇へる。尋て卒す。

ヤリツシボツ 耶律只沒 (遼)字は和魯。世宗の子。敏給にして學を好む。契丹漢字に通じ詩を能くす。嘗て宮人と私す。穆宗怒りて擄掠して獄に繋ぐ。景宗立ちて之を釋し、賜ふに私する所の宮人を以てす。朔寧王に封せらる。保寧八年事に坐して爵を奪はれ、烏古に貶す。放鶴の詩を賦して蘇へる。尋て卒す。

微し還さる。統和の初、皇太后制を稱す。命して芍藥の詩を賦せしむ。詔して舊爵に復す。

ヤリツシエン 耶律信先 (遼)現引の子。仁先の弟。騎射を善くす。重熙十四年左護衛太保と爲る。十八年右祇候郎君班詳穩を兼む。上嘗て欲する所を問ふ。對て曰く先臣現引陛下と分、同氣の如し。然るに王封に及ばず、偏し恩を地下に蒙むを得ば、臣の願ひ畢ると。上大に感じて燕王に追封す。清寧間、南面休牙と爲り卒す。

ヤリツジンセン 耶律仁先 (遼)字は紇隣。小字查刺。父現引、興宗引きて刺血の友と爲す。仁先魁偉爽秀にして智略あり。北院樞密使に陞り、宋に使し和議を定め、歳に銀絹十萬を増して還す。七月獵に従ふ。太子重元逆を謀る。帝恐惶して北院院に幸せむと欲す。止めて曰く陛下若し扈從を會て行かば、賊必ず其後を躡せむと。帝悟り悉く委するに討賊の事を以てす。乃ち諸軍を招集して行營を爲り兵仗を脩め、奮撃して賊を敗り亡ぐるを追ふ二十餘里。重元數騎と遁れ去る。帝仁先の手を執て曰く、乱を平くるは皆卿の功なりと。尙父を加へ宋王に追封す。後依人に忌まれ出て、南京留守と爲る。至れば則ち孤寡を恤み姦惡を禁す。宗人風を聞き震服す。遂安八年五月薨す年六十。家人に遺命して葬を薄す。

ヤリツジヤウカ 耶律常哥 (遼)女子。適香の妹。幼にして爽秀、成人の風あり。長

するに及び、操行簡潔自ら誓つて嫁せず詩文を能くす。苟も作詩せず。前人の得失を見て、能く品藻す。咸雍間、文を作り以て時政を述ぶ。其言深味あり。太康三年皇太子、事に坐し謫せらる。兄適魯、鎮州に貶す。常哥布衣蔬食す。曰く皇儲無罪廢に遭ふ、我輩豈美食安寢の時ならむ。後、家に卒す年七十。

ヤリツシヤシン 耶律斜軫 (遼)字は韓隱。曷魯の孫。性明敏、生産を事とせず。蕭思溫其經國の才あるを薦む。景宗召見し、問ふに時政を以てす。占對剴切、是に由て器重せらる。乾亨の初、宋再び河東を攻む、斜軫赴き援ひ、麾下に萬矢齊しく發す。敵氣敗れて退く。統和の初、皇太后制を稱す、以て樞密副使と爲す。後屢く戦功あり賞養甚多し。李繼業と戦ひ朔州を復し、七月捷を奏し繼業の首を函にして以て獻す。十九年復南伐す。九月癸卯軍に卒す。

ヤリツシヤテツセキ 耶律得温 (遼)字は鐸益。早く太祖の幕下に隸す。太祖即位して腹心部を掌とる。佐命功臣の一に居り。天贊の初、北院夷離董と爲る。帝四征して流沙に至る。諸夷潰散す。命して以て撫集せしむ。威聲大に振ふ。渤海を討するに従ひ、扶餘城を破る。忽汗、已に降り復た叛く。諸將地を分ちて之を攻む。諸且斜温赤、士を勵まし鼓譟陣に登る。敵驚懼攻て禦くなし、遂に之を破る。天顯中卒す年七十。

ヤリツジニツシヤ 耶律朮者 (遼)字は能

典。人と爲り魁偉にして推辯なり。乾統の初、祇候郎君に補し觀察使を加へらる。天慶五年、詔を受けて都統耶律韓里察の戦を監す。敗るゝ及び鎮州刺史に左遷せらる。耶律重敏の亡去を聞き、麾下を引きて之に會す。道に執へて行在所に送らる。上問ふ汝何ぞ叛く。對て曰く、今小人朝に滿ち、賢臣重斥せられ、祖宗祿の業、一旦土崩す。此舉は身の爲めに計るにあらずと。因て厲聲上の過惡、社稷危亡の本を陳す。遂に殺さる。

ヤリツシユン 耶律濬 (遼)小字は耶魯幹。道宗の子。幼にして聰慧、學を好み書を知らる。道宗嘗て天授と謂ふ。上に從く獵す矢遺發して三中す。上曰く、朕が祖宗以來、騎射絶倫、威天下に震ふ、是の兒家風を墜さすと。入立立ちて皇太子と爲る。母后が耶律乙辛の讒に因りて害せらるゝに及び、太子憂色あり。乙辛常に自ら安んぜず、蕭十三と俱に譏諷す。帝之を信じて別室に幽す。終に太子を廢して庶人と爲す。尋て害に遇ふ。後上其冤を知り悔恨す。諡して懷太子と曰ふ。

ヤリツジヨ 耶律恕 (金)字は忠厚。本名將里。人となり謹愼にして志有り。讀書を喜み、契丹大小字に通ず。來歸して冀室の軍に隸す。諸官を歴、入つて參知政事となり太子少保を授けらる。正隆元年平耶律王に封せられ、致仕して卒す。年六十九。

ヤリツシヨセイ 耶律庶成 (遼)字は喜隱。

小字陳六。吳九の子。學を好み、目も過ぐれば忘れず。尤も詩に工なり。方脈書を傳す、人皆通習す。時に禁中に入り、疑議を參決し、賞錢及び詩書を撰成す。又法令を終定す。帝之を嘉し方に通用せむとす。詔人に誦ひられ官を奪はる。吐蕃に使ひし止まること十二年、清寧間始めて歸る。帝其誦を知り、詔して官に復す。詩文あり世に行はる。

ヤリツセイヤウ 耶律世良 (遼)六院部人。才敏給にして國朝の典故に練達す。韓德讓、薦めて以て代らしむ。開泰の初、檢校太尉同政事門下平章事を加へらる。數々戦功を顯はし俘獲を獻す。賞資甚だ多し。後ち北部護府に至り、追兵を郭州に破り、斬首數萬級。南海に次し、惡疾を以て軍に卒す。

ヤリツセキリウ 耶律石柳 (遼)字は剛究。六院部の人。性剛直にして經世の志あり。耶律乙辛の奸佞を見て心切に之を惡む。遂に誦られて鎮州に流さる。天祥初て位に即き、召して御史中丞と爲す。上書して乙辛の姦佞專權を言ふ。再奏す報せられず。聞く者嘆惋せざるなし。乾統中、遂に靜江軍節度使を授けらる。

ヤリツツ 耶律蘇 (遼)字は雲樹。昆行六爲の人。太祖の異母弟。性柔順にして上に事ふると忠謹。言、情を隱すなし。太祖尤も之を愛す。時に亂後に因て名族多く讒に罹る、南府宰相の位久しく處し。薨數々宗

室 擄らび任せむことを請ひ、上之に従ふ。天贊元年九月丙午、南院夷離董遷里と與に地を西南に略す。乙卯俘を獻す。天顯の初渤海を征するに従ふ。九月壬戌薨す。二十功臣の一。

ヤリツツウシン 耶律宗信 (宋)王繼忠を以て見よ。

ヤリツツクサツ 耶律速撒 (遼)字は阿敏。性忠直簡毅、武事を練る。應曆の初、突呂部節度使に累遷す。向ふ所擧を奏す。前後賜資を得る甚多し。皇太后制を稱す。諸蕃の利害を具して之を奏す。太后益々之を信任す。凡そ戎陣に臨み、士卒と其苦を同うし、獲る所の資は將校に均賜す。威信大に振ふ。邊に在る二十年にして卒す。

ヤリツツサイ 耶律楚材 (元)字は晉輔。遼の東丹王突欲八世の孫。金の尙右丞樞の子。博く群書を極め天文地理律曆術數の既に通ず。文を爲る宿構する者の如し。太祖の燕京を定むるや召して之を見る。太宗の時中書令と爲る。楚材帝を輔けて僭篡する所多し。世に賢相と稱す。帝崩するに及びて憂を以て卒す。年五十五。贈特厚に厚し。之を諡する者あり曰く、其相位に在ると久しく天下の財賦半其家に入ると。乃ち士に命じて嚴視せしむれば其威嚴する所唯琴玩十餘及古今の書畫金石遺文數千卷あり。文宗の至順元年廣寧王に追封し、文正と諡す。湛然居士集十四卷あり。

ヤリツタイイク 耶律順昱 (遼)字は順寧。



其部軍末撥の子。人と爲り性端直なり。會同中、九石烈部を領す。天統三年政事令を兼ぬ。漆水郡王に封ぜらる。

ヤリツタイン 耶律暹子 (遼)字は勝。兀里の孫。人と爲り射を善くし、工に巧なり。敵將に因て介るる者、其状を論し以て示す。敵人皆其神妙を嘆す。保寧九年漢に奉使し、兩國好を通ずる長久の計を言ふ。劉繼元深く禮重を加ふ。宋兵と戦ひ常に矢石を冒して先登す。宋軍大に潰走す。後宋兵易州に屯するを聞き、兵を率ゐ易州に至りて卒す。

ヤリツタウイン 耶律道隆 (遼)字は留隆。倍の子。ヤリツタウコ 耶律棠古 (遼)字は清遠。其刺の後、太康中果通して大將軍に至る。性強毅率直、人不善ければ必ず百を盡くして歸す。故を以て久しく調せられず。天慶二年勳烈叛く。召して高古部節度使に拜す。至れば即ち叛者を討し、私財を出たし以て困乏を厭ふ。部民大に悦ぶ。保大元年、致仕す。明年復た高古部を鎮せしむ。勳烈五千人を率ゐて來り攻む。棠古を率ゐて之を破る。太子大傅を加へらる。年七十二にし卒す。

ヤリツタウコ 耶律唐古 (遼)字は唐隆。唐古の子。性剛直、善く文を屬す。統和二十八年其父の安民治政の法を述べて以て進む。内閣副使、通譯、秦州刺史を歴、殿

に科條を立て庶民を養ふ。西蕃來使す、詔して守禦の計を屬す。精敏を著し以て軍田を給するを勳む。數州を歴知し、至る所賦役寛平、人民大に喜ぶ。十四年俄に致仕す。卒する年七十八。

ヤリツタクシン 耶律鐸 (遼)字は敬。積慶宮人。統和間、宋を退す、鐸勇を取り介背に被らせて自ら謀し、敵陣に出入して格殺すること甚衆し。大皇帝見して喜び、厚く之を賞す。重熙間、天德軍節度使を歴。戰艦三十艘を造る。上に兵を置き、下に馬を立つ、規模堅壯にして大に上旨に稱ふ。又兵を率ゐ河濱に會す。帝戰艦に御して宋を撃ち大捷して歸る。親ら酒を賜ふ。帝其衣裘に手書して曰く、勳烈忠君、舉世無雙と。擢て官に卒す年七十。子低烈、觀察使を歴。

ヤリツタクシン 耶律鐸 (遼)字は敬。六院部の人。幼にして志節あり。天贊三年渤海を伐たむとす、謀めて曰く、四夏必ず我後を圖む、請ふ先づ四討せむと。太祖之に従ふ。洋氣島后制を稱するに及び、惡みて之を囚ふ。嘗て曰く、鐸勇若くは汝を釋すべし。既にして復た召す。鐸勇曰く、未だ朽ちず釋すべしむと。后聞て驚嘆し召して之を釋す。天顯二年卒す。

ヤリツタクロアツ 耶律鐸魯 (遼)性廉。約義を重んず。咸雍中、南京留守に果遷す。召さるるととき部民慰留す。太康の初、内閣副使に改め、北面林牙と爲る。太康間、

南府宰相に拜せられ、壽隆の初、致仕して郷里に退居す。子善古、烏古部節度使と爲る。人を遣はして來り迎ふ。既に至る、積慶甚富めるを見、責めて曰く君に事ふるは、國を富まし民を安んずべしと。駕を命し歸る。尋て卒す。善古、後遂に殺さる。

ヤリツタツフヤ 耶律達不也 (遼)字は胡。仁先の子。太康六年西北路招討使を授けらる。諸部酋長を率ゐて入朝す。時に朝廷結息を務め、多く柔順の者を擧げ、招討使と爲す。達不也性溫柔、含容尤甚し。邊防益々廢す。後諸部酋長に害せらる。年五十八。侍中を贈り貞烈と諡す。

ヤリツタツレツ 耶律鐸烈 (遼)字は涅魯。人と爲り沈厚多智、任重の才あり。然れども邊幅を飾めず、故に顯稱なし。年四十餘初めて仕ふ。賦役を均しし糾察を勤め、部人之に化す。屢々漢人の侵入を拒ぎて功あり。後宋師至る。命して行軍都統と爲す。諸道の兵を統し、救授して功あり。乾亨の初、召見し問ふに政事を以てす。俄に疾を以て薨す年七十九。生平兵を用ふるに賞罰信明、士卒の心を得。河東の地敵に併せられざるは、鐸烈の力なり。

ヤリツタツフヤ 耶律塔不也 (遼)擊鞠を善くするを以て稱せらる。咸雍の初、祇候耶律に補せらる。耶律乙辛の太子を廢すや、密に其罪言なるを奏す。天慶元年行宮部都監に擢す。天慶元年出て、西北路招

討と爲り疾て卒す。

ヤリツテウ 耶律 (元)梵材の子。字は成作。宗宗に從て蜀を征し屢奇計を出す。阿里不哥の反するや、婦妻子を棄て、朔方より來歸す。世祖其忠を嘉す。中統二年中書左丞相に拜し遼金史を監修す。至元の初、興して法令三十七章を定む。民之を便とす。錫又詔を奉じて官職入符舞を製す。後事に坐して罷められ家資半を沒せらる。山に徙居して後遂に卒す。至順元年號寧王を追贈し文忠と諡す。

ヤリツチンカド 耶律陳家奴 (遼)字は輔辛。魏祖の弟。書史に通じ詩を善くす。重熙中、牌印耶君に補す。西此諸部入犯す。拜せられて烏古部節度使と爲り、往いて討ず。甲一、馬二を賜ふ。其酋を擒にし朝に送る。乾統二年致仕す。卒す年八十。

ヤリツチヨウゲン 耶律重元 (遼)小字字吉貝。聖宗の次子。材勇絶人、眉目秀朗、言笑寡く、人望んで之を畏る。太平三年奉國王に封せらる。聖宗崩じて興宗立ち、飲哀皇后制を稱し、密に重元を立てんことを謀る。重元傳じて之を興宗に白す。益重んぜられ皇太弟に封せらる。道宗位に即き、病と詐り車駕の臨問を待ち因て試逆を行はんとす。事發れて自殺す。詔して其家を族す。

ヤリツテウラフ 耶律廉 (遼)字は遠。天顯中、中台省右相に除せらる。會同二年晉

を伐ら功あり。尋て相州を平ぐ。後ち耶律察割の逆に與して誅せらる。

ヤリツテウリ 耶律 (遼)字は海。人と爲り風神爽秀。費に工みにして尤も善く風を駕す。嘗て聖宗の眞容を寫して以て獻す。後ち罪を以て遷度す。朝廷南朝の御容を得むと欲す。召して南院宣徽、同知賀正に拜す。宋主の容を寫し以て歸る。清寧間復た宋に使ひす。主宴を賜ふ。瓶花面を隔て、未だ其眞を得ず。陸離に一視す。境に及び驚き以て示す。錢者其神妙遠末も差はざるに驚く。咸雍中太子太保を加へられ卒す。

ヤリツテキラツ 耶律敵刺 (遼)字は合魯。遼聖、鮮買可汗の子。騎射を善くし、頗る禮文を好む。太祖其忠實を知り委するに軍事を以てす。内亂を平らぐるの功を以て、奚六部吐里と爲る。

ヤリツテケレフ 耶律 (遼)字は烏。曷魯の弟。諸惡寛恕を以て器とせらる。太祖位に即き入て輔佐に侍す。神冊三年曷魯に代り送刺部夷離革と爲る。後ち山四を徇へ至る所の城堡皆下る。錫賚甚厚し。天顯二年南京留守と爲る。十年卒す。年五十六。

ヤリツテケレフ 耶律敵 (遼)字は烏。少より詐多し。世宗即位して耶律都林牙に拜せらる。耶律察割を誅するに與りて功あり、殿々人心を得、而も未だ顯用せられず。陰に不軌を懷き事覺はれ誅に伏す。

ヤリツテキロ 耶律敵魯 (遼)字は微。醫術に精し。人疾あれば其形色を察し、即ち病源を知る。耶律斜軫の妻、沈痾あり醫治難なし。敵魯曰く心着熱あり、藥石の及ぶべきにあらずと。是に於て大に鉦鼓を前に撃ち、翌日狂叫怒罵す。數日遂に愈ゆ。其治法多く此の如し。年八十卒す。子孫世々太醫の選に預かる。

ヤリツテツカ 耶律涅哥 (遼)永興宮分人。喜孫の子。仕へて近侍たり。事に坐して誅せらる。

ヤリツテツラツ 耶律迭刺 (遼)太祖の同母弟。人と爲り敏給なり。太祖常に其智なるを言ふ、卒然として功を圖るは吾が及ばざる所、緩く以て事を謀るは我が如しと。天顯元年中臺左大相と爲る。是歳卒す。

ヤリツテツリ 耶律迭里 (遼)玄祖の仲子。曷木の孫。幼にして多病、大祖常に撫育を加ふ。天贊三年南院夷離蓋と爲る。渤海を征して俘獲其衆し。太宗の嗣を請して言ふ、帝位は曷木に傳ふべしと。太后の旨に忤ひ詔獄に下さる。東丹王に黨附するを以て、炮烙の刑を加へ之を殺し、其家を籍す。

ヤリツテツロコ 耶律涅魯古 (遼)重元の子。小字耶魯。性險狠。興宗一見し目に反相あるを知る。後果して父を勸めて道宗を弑せんと謀り、事發覺す。涅魯古矢に當りて死す。

ヤリツトクワウ 耶律德光 (遼)太宗皇帝を見よ。



ヤリツドクワ 耶律奴瓜 (遼)字は延寧。蘇の孫。骨力あり善く軍を調す。統和中、松遼を撃破し盛く陥る所の城邑を復す。軍還る。諸將小將軍を加ふ。六年宋の游兵を定州に敗る。東京統軍使を授け、金銀崇祿大夫を加ふ。後凡慮を伐ちて利を失ひ階を削らる。十九年宋を伐ちて望都に至り、其將王繼忠を擒にし、俘殺甚多し。功を以て同政事門下平章事を加ふ。開泰の初尙父を加へらる。

ヤリツトサン 耶律達山 (金)其系遠登氏より出つ。世々顯族たり。仕て金吾南大將軍に至る。四路招討使を授けられ、宋を伐ち大に之を破る。天會十年尙書左僕射に遷り致仕して卒す。年九十一。

ヤリツトツロフ 耶律突呂不 (遼)字は師哀。幼にして聰敏學を嗜む。太祖之を器重す。天贊二年烏子機骨を佐け副元帥と爲る。軍を出す毎に功あり。賜寶刀。淳欽皇后の時、飛騎中傷する者あり。后怒る。懼れて亡匿す。太宗其罪なきを知りて召還す。天顯の末、特進檢校太尉を加ふ。會同五年卒す。

ヤリツトロキン 耶律阿魯曷 (遼)石重貴、杜重威を討するに從ふ。諸將入馬の護衛を以て、師を緩にし後圖を爲さむと請ふ。帝之を然りとす。圖營營色を厲まして曰く、陛下安逸を樂まば隨つて四境を守れ、既に疆宇を擴大にせむと欲して師を出だし遠攻す、若し中路にして止まば奈何、先づ其師

道を絶たば、事成らざるなからんと。帝喜び之に從ふ。重威、果して降る。功を以て獲賜甚だ厚し。明年春軍に卒す。

ヤリツバイ 耶律倍 (遼)小字は圖欲。太祖の長子。立ちて皇太子と爲り、未だ即位するに及ばずして從弟の爲に害せらる。後に從弟の爲に害せらる。後に從弟の爲に害せらる。後に從弟の爲に害せらる。

ヤリツバカ 耶律馬哥 (遼)字は訛特懶。休哥の孫。興宗の時、散騎を以て入見す。上同ふ。刑佛を奉ずるや。對て曰く臣每且太祖、及び先臣の遺訓を誦す、未だ佛を奉ずる暇あらざると。成雍中、匡義軍節度使に累遷す。大康の初、致仕して卒す。

ヤリツハクケン 耶律伯堅 (元)字は壽之。祖州の人。氣豪俠にして名士と游ぶ。至元間、清苑縣尹に轉す。縣西に塘水あり、勢家據り塘を爲る。民利を失ふを以て來り訟ふ。伯堅を殺り、其水を決し田に灌ぐ。賦を輕くし備を薄うす。清苑に在ること四年。民之を親しむこと父母の如し。石を立て其墓を頌す。

ヤリツバツトク 耶律拔里得 (遼)字は孩那。太祖の弟刺葛の子。親愛を以て任ぜらる。會同七年石重貴を討ち德州を圍み之を下す。九年再び濼州河に次し、杜重威を降し戰功多し。世宗の初、中京留守に遷り、卒す。

ヤリツハテキ 耶律順的 (遼)字は徹威。性孤介、清寧 初、遷て易州に知たり。官を去り、部民留るを請ふ、之を許す。成雍

八年彰國軍節度使に改む。上大宰古山に獵す。行宮に謁す。帝邊軍を問ふ。對て曰く應州南境より、天池に至るまで皆我が耕牧の地、清寧間、邊將不謹、宋に侵され練陂内に移る、宜しき所にあらざり。帝之を然りとす。後宋に使し其侵地を得。命して往て其疆界を定めしむ。召して南府宰相に任じ英國公に封す。北院樞密使に轉す。康誥公に奉し知つて爲さるるなし。大安中致仕し卒す。子懷珠、北院樞密副使たり。

ヤリツバロク 耶律馬六 (遼)字は陽慶。人さ爲り長懐にして物を容る。性寛和體弱に善し。或は面折する者あるも恬然聞かざるが如し。故を以て上益、親押す。重熙七年北院宣徽使に拜す。龍運軍節度使に遷る。帝常に兄を以て之を呼ぶ。卒する年七十。子奴古達、南京宣徽使に終る。

ヤリツホコ 耶律蒲古 (遼)字は提隱。武男を以て稱せらる。統和の初、涿州刺史と爲る。從ひて高麗を伐ちて功あり。太平二年鴨綠江に城き命せられて之を守る。鎮に在ること五年治績あり。尋て東京統軍使に遷る。政に在りて諸部懾服す。軍に從ひ隨々功あり、錫宴甚だ厚し。十一年子鐵驪の爲めに弑せらる。

ヤリツボント 耶律盆那 遼劉哥の弟。殘忍多力。皮膚蛇皮の如し。兄と俱に察割の亂に預り、殘夷せらる。

ヤリツホロ 耶律蒲魯 (遼)字は乃展。幼にして聰敏。七歳能く契丹大字を識し、漢

文を習ふ。十年經籍に通ず。重熙中進士に登る。主文者契丹は進士を試みるの條なきを以て之を闕く。仍て牌印耶魯と爲る。試に應し詩を賦す。帝嘉賞して曰く、文才此の如し必ずしも武事を能くせず。蒲魯曰く臣騎射を練習すと。帝未だ之を信せず。一日獵に從ひ、三矢三兎に中る。帝之を奇とす。寵遇漸々隆んたり。清寧の初、卒す。

ヤリツマウカン 耶律孟簡 (遼)字は復易。劉家奴の子。六歳父出獵す。曉天星月の時を賦せしむ。聲に應じて成る。父大に之を奇とす。耶律乙辛、之を忌みて調度す。林泉勝地に遊び、終日歸るを忘る。放懷詩二十首あり。太康中、郷に歸るを得。乾統中、六院部太保に遷る。事を處する文法に拘はらず。常に曰く上古の時、薄書法令なくして天下治まる、蓋し薄書法令は、聖人治を致すの本にあらざると。昭德軍節度使に遷り卒す。

ヤリツマツシ 耶律抹只 (遼)字は留隱。皇族を以て入侍す。景宗擢て、林牙と爲す。保寧間、樞密副使に遷る。滿城の敗に獨り抹只の部伍亂れず。餘に旌鼓を懸へて歸る。乾亨四年諸軍を統へ、宋軍と戦ひて之に克つ。開遠軍節度使に遷り漆水郡王に封す。歳暮早して給せず、税粟を薄うす。貧民之を便とす。統和の末に卒す。

ヤリツマロコ 耶律磨魯古 (遼)字は遠隱。虎古の子。人さ爲り智識あり射を善くす。統和四年宋、燕を侵す。太后親征し、命し

て前鋒手と爲す。流矢に中り拔て復進む。頃らくして創甚しく戰ふ能はず。后命して境上を巡視せしむ。北院大王に累遷す。七年宋を伐ち先鋒と爲り、其將李忠吉を定州に破る。軍に在り疾を以て卒す。

ヤリツヨクオン 耶律欲穩 (遼)字は轄刺干。解里俱突呂不部の人。簡獻皇后諸子と離に離りし時嘗て之に傍て以て免る。太祖其功を思ひ詔して廟廷に配享す。欲穩人と爲り殿重にして清世の志あり。太祖を佐けて功あり。命して近部を典どり、諸族親親の意を過む。天顯の初、卒す。諸帝多く其子孫を取て友と爲す。弘義宮分中の八房と稱するは皆其後なり。弟禮里、奚六部禿里に終る。

ヤリツヨト 耶律余睹 (遼)宗室の近族の子。金兵起る。屢自ら效さんと請ひ、功を以て累遷して金吾衛大將軍東路都統軍たり。保大中、駙馬蕭昱等と廢立を謀りて事覺る。遁れて邊に走り、邊部に斬らる。首を京師に傳ふ。

ヤリツラウ 耶律期 (遼)字は歐新。性輕佻にして多力なり。人虎斯と呼ぶ。初め陣に隨つて屢功あり。累遷して六院大王に拜す。廢朝の亂、兩端を持す。穆宗即位して殊に伏し其家屬を誅す。

ヤリツラウコ 耶律老古 (遼)字は散順。母は欽皇后の姊。幼にして宮掖に養はる。長じて沈沈勇略あり。太祖の輔下に隨して佐命の功臣に列す。刺葛の亂、我不備に乗

し掩襲の計を功す。老古士卒を勸し以て其防を爲す。道黨備へあるを知りて遁る。功を以て右皮室詳穩を授け、宿衛を典どる。燕趙を侵し唐兵に遇ふ。老古勇を持し直らに其鋒を侵し、數創を被り歸りて卒す。太祖深く之を惜む。

ヤリツラツカツ 耶律刺葛 (遼)字は率順。太祖の同母仲弟。初め別隊に拜す、性愚檢。涅烈部を討破するの功を以て心稍驕り、諸弟迭刺、寅底石、安端と反を謀る。帝、殊を加ふるに忍びず、出して迭刺部の夷夷と爲す。六年再び反を謀る、事發はれ、人を以て罪を謝せしむ。帝冷めて之を許し以て自ら新にせしむ。刺葛許り降り、七年遂に兵を擧げて叛す。太祖と戦て敗れ又自縛して降る。神罰二年刺葛其子養保里と叛して幽州に入り、人に殺さる。

ヤリツリ 耶律履 (金)字は履道。東丹王七世の孫なり。善く鹿を獵く、熊神として祖の風あり、人馬亦佳、儀竹尤も妙なり。

ヤリツリウカ 耶律劉哥 (遼)字は明隱。寅底石の子。幼より驍猛。好んで人を陵侮し、長じて益々兇狡。太宗之を惡み、邊徼を守らしむ。曾て李胡の兵を破り、揚隆に拜せらる。已に叛徒あり請せらる。

ヤリツリウケイ 耶律履慶 (遼)字は燕隱。小字養賢奴。聖宗の同母弟。歲入歲恒王に封せられ尋て梁王に徙る。十七年南征して宋師を敗る。開泰の初守大師を加へ政事令を兼れ、更て曹國王に封し大元帥に拜す。ハ

ヤリツマ 1177

ヤリツマ 1177

ヤリツマ 1177

ヤリツマ 1177



年九月入観す。上親から迎勞す。因て同じく松山に獲す。十二月乙酉遷て北安州に至り、温泉に浴す。疾みて薨す。計開す上爲めに哀慟して初を罷むること七日。皇太弟を追贈し、曹巫闕山に葬る。

ヤリツリウセン 耶律隆先 (遼)字は顯隱。景帝の時、平王に封じ東京を留守せしむ。賦税を薄うし刑罰を省き録寡を恤む。高麗を伐ちて功あり。薨じて曹巫闕山の道隱谷に葬る。人々爲り聰明博學詩を善くす。闕苑あり世に行はる。

ヤリツリヤウ 耶律良 (遼)字は習然。燕趙王の近侍と爲る。起居注に遷る。秋山の獵に秋遊賦を進め、鴨子河の幸に捕魚を遣ふ。上之を嘉し寵遇日に進し知制誥に遷り部署司を兼ね。御製の時文を編し、清寧集と號す。上亦其の詩を自して慶會集と爲し、親ら序文を製す。重元の亂に其密かに之を奏す。帝疑て信せず。夏曰く臣若し妄言せば、甘んじて斧鑕に伏せんと。平亂らぐ功を以て行宮都部署に遷る。尋て卒す。忠成と謚す。

ヤリツリコク 耶律蕤 (遼)字は勉辛。天祚五年、武寧節度使を授けらる。廢割の反するや、耶律敵獵と計を合せ之を誘ひ手取す。穆宗の朝に至り、物に觀觀の心あり。事泄れて三族を夷せらる。

ヤリツラクシツ 耶律屋質 (遼)字は敵蒙。人々爲り簡靜にして器識あり。事に遇うて能く斷す。博學にして能く天文を知る。會

同間、世宗太后と兵を構へ人心恟々たり。李胡、世宗の臣僚家屬を執ふ。屋質太后に從ひ太后に白して曰く、太弟と永康王と皆太祖の子孫、神靈は他族に移す可らずと。太后の悟るに乘じ間に居りて周旋し、竟に和解せしむ。李胡を貶し永康を立てんことを願ふ。太后其忠に感ず。世宗即位して益々其忠誠を喜ぶ。天祚五年右皮室詳穩と爲る。察割帝を弑するを聞き、亟に人を選ばし諸王を召し、禁衛に諭し壽安王を迎へて位を定め、兵を出だし賊を誅せしむ。種宗位に即き命じて國事を知せしむ。應曆五年北院大王總山四事と爲す。五年五月癸亥薨す年五十七。景宗痛悼し朝を罷むること三日。帝命じて文を製し石に勒し、祠を立て享祀し以て之を謚す。

ヤリフアントンコウシユ 野立安教公主 (元)太祖の女。巴爾朮阿而忒的斤に適く。

ユイウ 庚男 (晉)純の子。少うして清節あり、仕へて國子祭酒に至る。

ユイチヨク 魏良直 (宋)字は平叔。欲の人。彭澤に尉たり。有くも取らず、名を治らす。母老ゆるを以て仕へずして歸る。嘗て病あり。縣令盧知原、往きて之を視、同ふに後事を以てす。曰く、棺已に具り衣已に浣く先塋に附葬する他に須つ所なしと。盧、退いて遺るに錢五万を以てす。易直曰

遷り、成化の初致仕して卒す。ユカウシ 庚果之 (南北)字は景行。王統の長史たり。蕭河、儉に書を興へて曰く、盛府元僚、寔に其選に難し、庚景行は綠水芙蓉のこまじ、何ぞ其麗なるやと。時人蓮花幕と稱す。果之清貧、食に惟だ非蔬滿非生韭雜菜あるのみ、任叻之に戯れて曰く、誰か庚郎を賞なりと謂ふ、食鮭常に二十七種ありと。

ユガク 庚岳 (南北)延代の人。魏の相州刺史たり。法を執る平當、百姓之を稱す。鄴湖と圃池あり、時に果初めて熟す。丞吏之を送る。岳、受けずして曰く、未だ進御せず、吾何ぞ先づ食ふを得むやと。其の趣めるを此くの如し。

ユガフ 喻合 (晉)字は匡孫。南昌の人。愚を好み、榮寵を慕はず。廬山北阜に隱居し、衣蔬食する三十餘年、武帝徵せども起たず。

ユカン 喻備 (宋)字は伯經。義烏の人。慶元間、進士に登る。慶元府觀察推官を歴て奉議郎食香鎮南軍節度判官に改められ、尋て朝奉郎に陞る。初め偏久しく諸婦神に従ひて遊ぶ。幕中の新進少年多く、議論合はざると多し。偏嘆じて曰く、吾變已に種々なり寧んぞ能く剛々たる小兒と短長を較べむやと。遂に祠を請て歸る。著はす所、隨類錄二百卷、廣雅類稿五十卷あり、曾として六經の功用を論ずと云ふ。

ユカン 俞鑑 (明)字は元吉。桐廬の人。

ユウツシ 庚蔚之 (晉)諡幽鈔二十卷を著はす。

ユエキ 庚傑 (晉)字は叔預。亮の弟。少くして通簡を以て兄亮の稱する所たり。弱冠にして四陽王承辟すれども就かず。東海王冲、長水校尉となり、綱紀を清遠し、懼を以て功曹となす。暨陽の令に除せられ、又冲の中軍司馬となる。散騎侍郎に轉じ左衛將軍に遷り、蘇峻を討つ功を以て廣饒男に封ぜらる。出でて臨川太守に補し豫雍二州の軍事を歴監す。卒す。諡して簡といふ。

ユエキ 庚易 (南北)新野の人。字は幼簡。志性恬隱、外物に交はらず。建元の初、預章王辟して參軍となす。就かず。臨川王上表して之を薦め糧百斛を餉る。易、使人に謂て曰く、山中須むる所、飢時、白雲餐ふべし、大王の慮を煩はすなしと。固く之を辟す。子履晋。

ユエツ 庚說 (南北)字は詹實。新野の人。性夷簡特に林泉を愛し、十畝の宅山池半に居り、蔬食載衣産業を修めず。嘗て舟に乗じて田舎より還り、米一百五十石を載す。人あり三十石を寄載す。宅に至るに及び寄載せる者曰く、君三十我百五十と。説默然として言はず、其の取る所を悉にす。徵辟皆起たず。卒して貞節處士と謚す。

ユエン 俞瑛 (宋)字は玉吾。吳人。寶祐

正統中の進士。兵部職方主事を授けらる。時に郎中某、病に臥す。繼代りて北征に扈從し、十四年八月、土木の難に死す。贈諡せらる。

ユカン 俞諫 (明)字は良佐。桐廬の人。弘治三年、進士に擧げられ長清知縣を授けらる。河南食事に果選し、嵩賊を食らへ大帽の山賊を平け、蘇杭諸府の民例を興し、聲あり。武宗世宗の二朝に歴事し都察院事の官に卒す。太子太保を贈り、莊襄と謚す。

ユカンキウ 庚簡休 (唐)敬休の弟。官、工部左侍郎たり。

ユカンエン 俞漢遠 (明)名は尙理。上虞の人。翰墨に精しく、且つ丹青を善くす。戯れに枯木春草を作る、自ら一種の天趣あり。絶て畫家の誤運なし。

ユキ 喻階 (晉)簡卓令たり。四河記三卷を撰す。

ユキ 俞嬰 (宋)字は幾臣。象山の人。魁梧修偉、髪は滄浪に覆む。元豊の進士に登る。時に蘇軾、派沅の寇を平け、嬰が籌畫の功、幕府第一たるを奏す。建徳の寧に終る。子觀能。孫茂系。

ユギ 庚義 (晉)字は義叔。亮の子。吳國内史たり。時に穆宗頗る文を愛す。義都に至り、詩を獻し諷諫を存す。因て上表して曰く、事役殷繁百姓凋殘す數州の資を以て四海の務を贖る、其の内顧をなす豈盡く可ふ可けむや、臣恩を受くる突世、恐疑を盡すを思ふ、任を受けて東に到り親ら臥して見

ユカウ 俞綱 (明)襄興の人。諸生たり。初め郡府管理に除せらる。景帝の時、兵部侍郎に擢でられ、景泰中、南京禮部尙書に

ユカウシ 庚果之 (南北)字は景行。王統の長史たり。蕭河、儉に書を興へて曰く、盛府元僚、寔に其選に難し、庚景行は綠水芙蓉のこまじ、何ぞ其麗なるやと。時人蓮花幕と稱す。果之清貧、食に惟だ非蔬滿非生韭雜菜あるのみ、任叻之に戯れて曰く、誰か庚郎を賞なりと謂ふ、食鮭常に二十七種ありと。

ユカン 俞鑑 (明)字は元吉。桐廬の人。



ユキカウ 俞起蛟 (明) 鍾嶺の人。貢生より官、嘗て左長史を歴、憲王に相たり。憲王立つに及び、世子を易へんと欲す。起蛟力諫す。乃ち已む。大盜李青山、衆を率ゐて來り犯す。淑泰と共に出て撃ち、王、難を被るに及び、起蛟親屬二十二人を率ゐるに殉す。

ユキサイ 庚季才 (南北) 新野の人。八歳にして尚書を誦し、十二易に通じ玄象を占ふを好む。梁湘東王、引て外兵將軍を授け中書郎に累遷し太史を領す。宜昌縣の伯に封ぜらる。撰ぶ所、輿台、秘苑、無象志等の書あり。

ユキシ 喻希仕 (南北) 南齊に仕へ、先聖先師を釋典す、禮樂あり。

ユキノロウ 庚野雲 (南北) 字は子其。易の子。少うして學を好む。性淳孝。南齊に仕へて驛令たり。異蹟あり。父家に在りて疾に遭ふ。忽ち心驚き汗を流す。即ち官を棄て、歸る。毎夕、北辰を稽顙し身を以て父に代らむことを求む。父亡するや墓に廬す。散騎侍郎に終ふ。

ユキヨク 俞極 (宋) 宣城の人。禮を好み士を喜ぶ。乾道中、寧國府、その義居して累世析れざるを自言す。詔して門閭に旌し并せて其家を復す。

ユキレン 喻希運 (明) 字は魯。素業を襲す。江西玉山の人。正老を慕尚し兼て内學諸經にこじ皆約説あり。著冠世履、市井

ユク に行游し、平生端語をなます。王公大人の前と雖、鬼を脱ぎ怪を脱ぎて擲ばざるなり。詩を作る亦高古なり。行香山水俱に沈啓南を法とす。畫を作るに即寫字筆を用ふ。被法甚だ粗略なり。嘗て京師に遊び、匹紙數幅を接ぎ丈餘の鐘馗を寫し之を城牆に懸く。其放誕不羈類れ此の如し。萬曆頃の人。

ユク 奥區 (上古) 黃帝の時の人。

ユクン 俞勛 (宋) 字は怡叔。婺源の人。淳祐四年、進士に第し、歴官して來安縣に知たり。清廉の名あり。初め眞德秀、時文の浮靡を患ふ。省試に勛の文を得て其體厚なるを賞し之を高第に置き以て學者を勸す。

ユクンセン 俞君選 (宋) 婺源の人。景定三年の進士。武寧縣主簿を授けられ、後、揚州司理參軍となる。既にして致仕し、その居を良軒と號す。

ユクワ 庚蘇 (晉) 字は道季。亮の子。升平中、孔嚴に代て丹陽尹と爲り、重役を除くと六十餘事。民之に頼る。中領軍に遷る。ユクワウコウ 庚皇后 (晉) 廢帝の后。諱は道愷。潁川郡陵の人。初め東海王の妃と爲る。帝即位するに及び立ちて皇后と爲る。太和六年崩す。數平陵に葬る。帝廢せられて海西公と爲る。后を追認して海西夫人と曰ふ。太元九年、海西公、吳に薨す。又后を以て吳陵に合葬す。

ユクワウコウ 庚皇后 (晉) 明帝の后。諱は文君。潁川郡陵の人。后の性仁惠、柔儀

ユクワツ 元帝聘して太子妃と爲す。德行を以て重んぜらる。明帝即位して、皇后と爲す。成帝の即位に及び、尊んじ皇太后と爲す。群臣、帝の幼沖なるを以て萬機を攝するを請ふ。薛鳳、四、已むを得ずして朝に臨む。蘇峻逆を作し京師傾覆するに及び遂に憂を以て崩す。時に年三十二。諡して穆と曰ふ。

ユクワツ 俞括 (宋) 紹興中、承議郎を以て慶州に判たり。蘇軾、其の博學能文、政を行ふに敏く進み取るに澹きを稱す。嘗て軾に書を與へ、官を棄て、從ひ學ばんと欲し、慶より罷め歸り、遂に病んで廬陵に卒す。慶の士民、巷哭する者多し。

ユクワンノウ 俞觀能 (宋) 字は大任。慶の子。紹興の初、詔に應じて闕に詣り上書す。特に德安府參軍を授けらる。十二年進士に第す。その著、孝弟類要七卷あり。

ユケイキウ 庚敬休 (唐) 字は順之。新野の人。進士の第に擢てられ、又宏詞に中す。起所舎人に拜せらる。累遷して尚書左丞たり。性爽淡、聲色を近けず。弟簡休。

ユケイサン 俞景山 (明) 山水に工なり。ユケイシ 庚重之 (晉) 翼の子。父に代て湘州刺史を領す。父の風あり。尋で桓温の害する所となる。

ユケウ 庚喬 (南北) 蕞の子。仕へて荊州別駕たり。時に元帝、荊州刺史たり。而して州人范興話、寒賤を以て仕へて九流を叨にし、選ばれて主簿と爲る。又た皇太子に

ユケンカ 俞凱可 (宋) 欽の人。端拱の初、登第す。御史吏部郎中に歴して能稱あり。嘗て廣西運使と爲りて變寇を平定し、塞を築きて以て其隙を扼す。是より敢て邊を犯さず。龍圖閣學士に累官す。弟凱判。

ユケンケイ 俞凱卿 (宋) 字は陳可。欽の人。獻可の弟。景祐間、杭州に知たり。一日暴風あり。江湖溢れて陸を決す。獻卿、四山の石を擲り陸を作ると數十里。民、用ひて之を便す。

ユケンゴ 庚眉吾 (南北) 易の子。字は慎之。八歳にして能く詩を賦す。劉孝威徐防王圓等十人と共に晉安王府に在り、衆賢を抄撰す。高齊學士と號す。累官して太子率更令中庶子に至る。轉陽太守に終ふ。後ち隱居して天台逸民と號す。子信。

ユクウ 俞興 (宋) 理宗の時、嘉州に守たり。元兵、城を圍むと五旬。興、門を開いて力戦し、遂に圍を破る。尋いで興を以て四川制置副使、知嘉定府事、兼成都安撫副使と爲す。理宗曰く、俞興、嘉定城下の捷尤も奇偉と爲す。興に金帶を賜ふと。ユクウエン 庚弘遠 (南北) 炳の子。清定にして士譽あり。陳顯達の從史となる。顯

ユクカ 池敗れ、弘遠將に刑せられむとす。朝を察び之を著て曰く、子路繼を結ぶ、吾れ冠して死せざる可らず、吾れ賊に非ず乃ち是れ義兵、諸軍の爲に令を請ふのみと。

ユクカカン 俞克堪 (宋) 字は用可。永豊の人。景定の進士。龍興の寧を授けられて政績あり。刑部架閣承直郎に擢てらる。平生恬靜自ら守り躁進の心なし。嘗て詩を作りに以て志を見はす。

ユクダウエイ 由道榮 (南北) 道衡あり。天文、曆數、陰陽、藥性、通ぜざる所なし。瑯琊山に隠れ數年許け松朮を餌とし、養生の秘訣を求む。

ユクン 庚遜 (晉) 字は叔襲。郡陵の人。親に事へ孝を以て稱せらる。孝廉に察し秀才に擧げらる。清白異行皆志に降らず、世之を稱して異行となす。父在りし時、常に衰を戒むるに酒を以てす。後ち醉ふことに耽り自ら責めて曰く、汝先人の戒を廢し何を以て人たるやと。乃ち墓前に自ら戒むること二十。

ユクサ 俞山 (明) 字は積之。秀水の人。鄉舉より郎府伴讀たり。景帝の時、應詔右侍郎に拜す。

ユシ 俞侯 (宋) 宣和中、歸安縣に知たり。諸生と爲り、行誼に教し。父華、里役に充てられ、流人徐錚を送りて口外に至る。錚、華を毒殺して亡げ走る。侯、棍を拵けて歸る。嘗て必ず錚を報いんとす。漸くにして其甥楊氏の家に匿れしを聞き、夜半、卒を率ゐて家に入り、錚を縛して官に送る。侯はより復た錚に應せず。錚母を養うて終ふ。

ユジ 喻時 (明) 光山の人。嘉靖中、御史たり。嚴嵩等を劾して爲に擠陥せらる。累遷して南京兵部侍郎たり。

ユジウ 俞允 (宋) 字は公遠。鄞縣の人。嘉祐の進士。熙寧中、都水丞と爲りて功あり。天章閣待制に擢てられ、慶州に知たり。嘗て四夏を攻討する方略を面陳せんと欲す。未だ行ふに及ばずして卒す。



母照、張真、成興宣、學子訓、東方顯、陸元泰、季良、金欽、孫昌尚を十八學士と爲し、舍象亭に圖形す。御書畫を爲る。

ユシゲン 俞彦 (明)字は章施。吳縣の人。書を能くす。  
ユシケン 俞士干 (宋)字は吉仲。婺源の人。嘉熙の間、太學に游びて聲あり。寶祐の間、科に登り、德安郡博士に調せらる。稱人士、士千の學行昭著なるを以て、改めて郷郡に遷せんまふ。州、其事を奏す。旨ありて紫陽書院山長を兼ねしむ。

ユシツ 庚辰 (南北)字は行修。早に志尚あり、八歳にして梁元帝の玄覽言志等の十賦を誦す。童子耶に拜せらる。隋煬帝大業の初、太史令を授けらる。立言忠順、災異あることに必ず事を指して面陳す。  
ユシホウ 喻思偉 (明)保寧の賊劉烈の餘黨。烈已に殺さる。猶ほ陝西漢中を侵掠す。遂に捕殺せらる。

ユシヤウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヤウシヨノツマ 由尙書妻 (宋)胡氏。黃の子。由尙書の妻。俊敏強記。經史諸書畧ほ誦み成す。筆札を善くし時に詩文を作る。自ら惠齊居士と號す。時人之を李易安に比す。  
ユシヤクチヨ 俞若著 (宋)宜州守たり。黃庭堅、この州に講居す。時に黨禁甚だ嚴しく、士夫皆削削、跡を掃ふ。たゞ若著、黃の爲に會館を葺き薪爨を治め、二子を遣りて經を讀下し執らしむ。物論之を高しとす。

ユシユウケン 庚承宣 (南北)貞元八年の龍虎榜に登第す。  
ユシヨリン 俞汝霖 (宋)字は季澤。建安の人。智略あり。慶元の初、辰州の亂を平げて功あり。承信郎官都運轉使に補せられ金紫光祿大夫に階す。  
ユシヨレイ 喻汝楨 (宋)字は迪儒。仁壽の人。靖康の初、祠部員外郎となり和議に附かず、遂に冠を掛けて捫膝先生と號す。  
ユズキ 俞瑞 (宋)字は公美。新昌の人。文章高古。亂後秀その文を奇として曰く、此れ他日藝文の選なりと。弟漸と名を齊しうす。端平二年の進士。慶元に通判たり。  
ユセイ 俞靖 (宋)一名は猷仲。字は宋祐。婺源の人。結學砥行、晩に四郊老人と號す。朱軍曹先生等と共に星溪十友と稱せらる。  
ユセイイツ 俞誠一 (宋)字は則明。分水の人。嘉定の進士。南康教授白鹿書院山長より國子監丞に遷り奉議郎に轉す。平居、喜怒形せず、事に遇ひて剛果、禍福の爲に怖れず。官に在りて内外一の如し。著す所、南嶽集十五卷あり。

ユシヤウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヤウシヨノツマ 由尙書妻 (宋)胡氏。黃の子。由尙書の妻。俊敏強記。經史諸書畧ほ誦み成す。筆札を善くし時に詩文を作る。自ら惠齊居士と號す。時人之を李易安に比す。  
ユシヤクチヨ 俞若著 (宋)宜州守たり。黃庭堅、この州に講居す。時に黨禁甚だ嚴しく、士夫皆削削、跡を掃ふ。たゞ若著、黃の爲に會館を葺き薪爨を治め、二子を遣りて經を讀下し執らしむ。物論之を高しとす。

ユシユウケン 庚承宣 (南北)貞元八年の龍虎榜に登第す。  
ユシヨリン 俞汝霖 (宋)字は季澤。建安の人。智略あり。慶元の初、辰州の亂を平げて功あり。承信郎官都運轉使に補せられ金紫光祿大夫に階す。  
ユシヨレイ 喻汝楨 (宋)字は迪儒。仁壽の人。靖康の初、祠部員外郎となり和議に附かず、遂に冠を掛けて捫膝先生と號す。  
ユズキ 俞瑞 (宋)字は公美。新昌の人。文章高古。亂後秀その文を奇として曰く、此れ他日藝文の選なりと。弟漸と名を齊しうす。端平二年の進士。慶元に通判たり。  
ユセイ 俞靖 (宋)一名は猷仲。字は宋祐。婺源の人。結學砥行、晩に四郊老人と號す。朱軍曹先生等と共に星溪十友と稱せらる。  
ユセイイツ 俞誠一 (宋)字は則明。分水の人。嘉定の進士。南康教授白鹿書院山長より國子監丞に遷り奉議郎に轉す。平居、喜怒形せず、事に遇ひて剛果、禍福の爲に怖れず。官に在りて内外一の如し。著す所、南嶽集十五卷あり。

ユシヤウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヤウシヨノツマ 由尙書妻 (宋)胡氏。黃の子。由尙書の妻。俊敏強記。經史諸書畧ほ誦み成す。筆札を善くし時に詩文を作る。自ら惠齊居士と號す。時人之を李易安に比す。  
ユシヤクチヨ 俞若著 (宋)宜州守たり。黃庭堅、この州に講居す。時に黨禁甚だ嚴しく、士夫皆削削、跡を掃ふ。たゞ若著、黃の爲に會館を葺き薪爨を治め、二子を遣りて經を讀下し執らしむ。物論之を高しとす。

ユシユウケン 庚承宣 (南北)貞元八年の龍虎榜に登第す。  
ユシヨリン 俞汝霖 (宋)字は季澤。建安の人。智略あり。慶元の初、辰州の亂を平げて功あり。承信郎官都運轉使に補せられ金紫光祿大夫に階す。  
ユシヨレイ 喻汝楨 (宋)字は迪儒。仁壽の人。靖康の初、祠部員外郎となり和議に附かず、遂に冠を掛けて捫膝先生と號す。  
ユズキ 俞瑞 (宋)字は公美。新昌の人。文章高古。亂後秀その文を奇として曰く、此れ他日藝文の選なりと。弟漸と名を齊しうす。端平二年の進士。慶元に通判たり。  
ユセイ 俞靖 (宋)一名は猷仲。字は宋祐。婺源の人。結學砥行、晩に四郊老人と號す。朱軍曹先生等と共に星溪十友と稱せらる。  
ユセイイツ 俞誠一 (宋)字は則明。分水の人。嘉定の進士。南康教授白鹿書院山長より國子監丞に遷り奉議郎に轉す。平居、喜怒形せず、事に遇ひて剛果、禍福の爲に怖れず。官に在りて内外一の如し。著す所、南嶽集十五卷あり。

ユシヨウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヨウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヨウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。

ユシヨウ 俞尙 (宋)字は退翁。人と爲り古朴。蘇東坡と友と善し。卒するに及び、東坡、詩を作りて之を弔うて云ふ。吳興古君子、淡如朱弦琴、一鳴三嘆息、至今有遺音と。



人を傷けむとを恐れて市に買せず。子駿、純。

ユダウビン 庚辰感 (晋) 冰の孫。庚辰の孫下を見よ。

ユタン 俞濤 (宋) 字は清老。紫芝の弟。兄と同じく妻らず。滑稽諧謔、音律に曉んじ歌を能くす。荆公、亦之を喜ぶ。晩年、流家敬等の詞を作り山行して之を歌ふ。一日、公に見えて云ふ、吾れ浮屠たらんと欲すと。公欣然、爲に詞部を置き日を約して祝慶す。既にして公に見えて曰く、吾れ僧また爲し易からざるを思ふ。公、送る所の詞部、已に酒家に送りて酒債を償へり。荆公大に笑ふ。

ユタンレイ 俞端履 (宋) 金華の人。乾道四年、烏程尹に任せらる。嘉政あり。

ユヂ 庚持 (南北) 字は元德。頤陰の人。沙彌の子。少うして孤、性至孝、父の憂に喪に居り禮に通ぐ。篤志學を好み梁に仕へて尙書左丞となる。文帝の時典興太守となり以て郡丞となり掌書輪を兼ぬ。天嘉の初、崇禎縣主に封ぜらる。書を善くし詩を屬する毎に好んで奇字を爲る。集十一巻あり、世に行はる。

ユチウヨウ 庚仲雍 (晋) 江紀五卷を著はす。

ユチウヨウ 庚仲雍 (南北) 字は子仲。颶川人。孫にして叔父冰の養ふ所となる。長ずるに及び人事を杜絶して真精篤學、晝夜をを絶めず。初め安西法曹を參軍となり後尙

晋左丞となる。

ユチウエン 庚仲遠 (南北) 登の子。初め宋明帝の府佐となる。廢帝景和中明帝を疑防す、賓客故人門に到る者無し、惟だ仲遠朝謁して替らず。明帝位に即くや謂て曰く、卿は所謂疾風勁草を知ると。冠軍參軍より擢んで太子中庶子に拜す。

ユチウジヤウ 俞景城 (清) 字は桐川。浙江桐鄉の人。康熙五十一年の進士。官、編修たり。古文に工なり。嘗て制藝百二十家を選び、王荆公より始めて清朝の諸老に遊び、每家各小序を爲る。尤も大觀たり。

ユチウ 俞樾 (宋) 字は子才。建德の人。少にして伊洛の學を慕ひ、業を楊時を受く。建炎の時、進士に登る。工部員外郎に累官し衢州に知たり。孝宗位に即き、用ひて提舉浙東と爲す。常に治績を以て聞ゆ。樾人爲り質直、議論を好み尤も識鑒に善し。嘗て言ふ、沈晦、張九成、進士第一に當らむ。後ち果して然り。樾に二女あり、富人交々婚を請ふ。許さず。汪洋、張孝祥を見るに及びて曰く佳婿也と。遂に以て之に妻はす。著はす所、中庸、大學、論語解及び玉泉語錄あり。

ユチウヨウ 俞激 (宋) 字は子清。清介を以て自ら持す。至る所、治聲あり。刑部侍郎實録閣待制と爲る。意山水に放ち、南門の外二屋許、浮玉山に對する處に創め號して無隱と曰ふ。扁舟往來、酒を飲み詩を賦して樂と爲す。

ユツウカイ 俞通海 (明) 字は碧泉。其先は潑人。廷玉の子。初め應永安の命を衝み、水師を以て太祖に歸す。太祖喜びて天贊と云ふ。沈毅水戰に長じ屢々奇功を樹つ。中書省平章政事に累擢す。平江の役、流矢に中り創甚し。金陵に歸る。太祖其第に幸し問ひて曰く、平章子の來り疾を問ふを知るや。通海語る能はず。太祖憐を憐つて出づ。翌日卒す。年三十八。實に洪武二年なり。陳國公に追封し明年饒國公に改封し忠烈と諡す。

ユツウゲン 俞通源 (明) 字は百川。通海の弟。曾て征に従うて功あり。慶陽に克ち、興元を定むるや、皆先登たり。洪武三年、南安侯に封ず。頻年蠻族を平定す。二十二年、詔して郷に還らしむ。鈔五萬を賜ふ。第を某に置く。未だ行かずして卒す。子順。

ユテイチン 俞庭椿 (宋) 字は壽翁。臨川の人。乾道八年の進士。仕へて新檢令に終る。庭椿、大志あり。而して廉介自ら持す。見る者、其才を喜び其敏に服し其清を愛せざるなし。嘗て出て、金に使し北より還る。因りて其道路經る所の山水人物と夫の語言事蹟の用ふ可き者を紀次して北轅録を爲る。

ユヂウ 庚餘 (晋) 字は幼序。冰の弟。永和二年豫章太守となる。蓋驛自ら孝神皇帝と稱し臨川の人李高相となり數千人を衆めて郡縣を攻む。條討つ。之を平ぐ。

ユチウセイ 俞兆晟 (宋) 字は叔穎。時は

穎川。海陵の人。官、内閣學士に至る。書を善くす。

ユテンゲイ 俞天倪 (宋) 婺源の人。景定元年登第し、蕪湖の尉を授けられて邑事を攝す。時に宗室あり。樵夫が路を隔らざるを以て官に訴ふ。縣、判じて曰く、樵制を案ずるに賤け責を過ぐ、樵夫、宗室を過ぐべし、輕は重を過ぐ、宗室、樵夫を過ぐべしと。時人之稱す。

ユトクエン 俞德淵 (清) 字は陶泉。甘肅平羅の人。嘉慶二十二年の進士。庶百士より江蘇蕪湖知縣に改り兩淮鹽運使に累官す。卒して名宦祠に祀らる。

ユナンキヤウ 喻南遷 (宋) 義烏の人。少うして奇氣を負ふ。陳亮に從て遊ぶ。時に當路善類を排せむと欲し、亮を指して首と爲し、燈煉骨を刺す。門人嗜して敢て言はず。南遷同門を誚實して謂ふ、陳先生無辜にして罪を蒙る、吾曹弟子と爲り、當に怒髪冠を衝くべし、乃、影響味々、是れ人類と爲すを得むやと。亟かに走り避遁を見る。適曰く、子直義也と。即ち燭を秉り數字を作る。南遷之れを持して去り、諸公廟間に伸松す。亮竟遂に白す。

ユヒ 庚質 (唐) 代宗の時襄陽令たり。廉平寛恕、事煩苛ならず。三載を歴す。人皆之を頌す。

ユヒヨウ 庚泳 (晋) 蘇峻の軍、諸庚逃散す。泳時に吳郡たり、單身奔り亡ぐ。民吏皆去る、惟だ郡卒獨り小船を以て泳を載せ

ユテンゲ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

ユチウエ

て鏡鑿口に出て、鑿鑿之を覆ふ。時に峻、實事して冰の所在を究め、搜檢甚だ急なり。卒船を市清に舍て因て酒を飲み酔うて還り、棹を舞し船に向て曰く、何處にか庚吳郡を覓む。此の中便是なりと。泳大に懼怖せしが敢て動かさず。監司、船小裝狹なるを見、卒醉狂すと謂て都て復た疑はず。自ら送て浙江を過ぎ魏家に陰す。免るを得たり。後事平きて泳卒に報いむと欲す。卒曰く、下屬より出て名を願はず、器少にして執鞭に苦しまむ、恒に愚ふ快く酒を飲むを得ざるを、其れをして酒足らしめば餘事畢れりと。氷爲に大舍を起て奴婢を市ひ、門内に酒日斛あり、其の身を終らしむ。時謂ふ、此の卒惟だ智あるに非ずんば亦且つ生を連れむと。孫道愍、少うして孤貧、所生の母、交州に漂流す。道愍尙ほ襁褓にあり。長ずるに及び求めて廣州綏寧府佐となる。府、交州を去る尙遠し。乃ち自ら負擔し隙を賈して進み僅に自ら達するを得たり。其の母を求めて年を經れども獲ず。日夜悲泣す。嘗て村に入て暴風に値ひ一家に寄止す。乃ち一扉あり、扉を貫て外より還る。道愍心動き因て之を助へば乃ち其の母なり。是に於て俯伏號泣す。遠近衆り觀て涙を揮はざる莫し。

ユフ 俞附 (上古) 瓦醫也。疾を療するに湯藥を以てせず。乃ち皮を割き肌を解き腸胃を洗ひ五臟を瀉ぐ。

ユフ 俞鬼 (唐) 洪州南昌の人。徒りて分

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

ユフ

水に居り。進士の第に登る。詩を以て時に名あり。方干と賦詩相往還す。

ユブンシユン 俞文俊 (唐) 江陵の人。武后の時、山あり、新豊に出づ。稱して慶山と爲す。文俊、上書して言ふ、陛下、女主を以て陽位に居り、易の剛柔に反す、故に地氣隔塞し、山巖じて災を爲す、臣以爲らく慶に非ざる也と。后怒りて文俊を嶺南に流す。

ユブンチウ 俞聞中 (宋) 字は夢遠。邵武の人。朱熹に從ひて學ぶ。淳熙八年の進士に登り知婺州を累加せらる。意を撫字に添す。民夷、惠に感す。

ユヘン 庚駢 (周) 晋の大夫。

ユホウ 俞璽 (宋) 字は應南。建寧縣の人。乾道中に登第して秀州に知たり。召されて金部郎官と爲り中書舍人遷る。嘗て言ふ、命令は謹まざる可らず、守令は擇ばざる可らずと。吏部尙書に除せらる。上言すらく、入主、當に紀綱を振ふべし、外戚に假すに柄を以てす可らずと。報せず。華文館待制を以て奉祠し雲谷書院を築き以て自ら煇む。雲谷老人と號す。閉居十年。中順大夫に除せられて致仕す。

ユホウ 俞嗣 (明) 字は漢遠。上虞の人。善く詞を盡く。阿京に遊ぶ。名公卿の間に重し、性耿介なり。

ユボウキ 俞夢龜 (宋) 銅陵の人。始め生る、時、母、羽士ふれに黃龜を授くと夢む。因りて名づく。生れて即ち齒あり。能く言

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ

ユブンシ



ユボウケ 夢中、嘗て讀書の聲あり。六歳にして六籍を讀み、九歳にして童子科に應じ、秘書正字を授けらる。

ユボウケイ 俞茂系 (宋)象山の人。魏の孫。乾道の進士。和州通判に拜せらる。政に臨むに平允を以てし、時に稱せらる。

ユマウ 喻猛 (漢)字は驍孫。和帝の時、蒼梧太守たり。清白を以て治を爲す。郡人之を類して曰く、蒼梧交阯之城、大漢惟宗とし、遠るに仁徳を以てすと。

ユマンセン 庚曼倩 (南北)南郡の人。早くして令譽あり。梁に仕へて中録事たり。元帝劉之邁に謂て曰く、荆南信に君子多しと。

ユメイチウ 喻明仲 (唐)名は陟。陸州の人。長官に妙なり。節を數郡に持し、出て按行する毎に、山水佳處に至れば、馬上風に臨み、快く數弄を作す。

ユヨク 庚翼 (晋)字は推養。亮の弟。少うして經綸あり。累官して都督となり武昌の戎を鎮す。政嚴明、経略深遠、雅より大志あり、胡を滅すを以て己が任となさむと欲す。徒て襄陽を鎮す。卒して諡を肅といふ。子翼之。

ユリツ 俞棗 (宋)字は鑑若。溧水の人。崇寧中の進士。累官して襄陽に知たり。後、御史中丞に拜せられ、士風六弊を陳ぶ。翰林學士兵部尚書に累遷し、後、述古殿學士を以て江寧府に知たり。

ユリヤウ 廣亮 (晋)字は元規。數の從子。明穆元皇后の兄。風格峻整、動禮節に由る。時人之を夏侯太初陳長文に方ぶ。仕へて散騎侍郎となる。外戚を以て退を求め、復た起て中書監となり中書令を加へらる。蘇峻反す。亮、諸軍を督して之を平ぐ。亮武昌を鎮す。諸佐使殷浩の徒、秋夜に乗じて南樓に登る。亮怒ち至る。諸人起つて之を避く。曰く、老子此與に於ける復た復たらすと。便ち胡牀に據り、浩等と談詠し以て夕を竟る。其の坦率此に類す。世に稱す。庚文康は豊年の玉、王曜祭は荒年の穀と。亮亡し葬に臨んで何次道云ふ、埋玉樹着土中、使人情何能已と。已に卒して太尉を贈り文康と諡す。三子、彬、駿、頌。

ユクワ 庚詠 (晋)字は道季。庚亮の子。升平中孔羗に代つて丹陽の尹となる。重役六十餘事を除く。民之に頼る。中領軍に遷る。

ユリヤウノウ 喻長能 (宋)義烏の人。官を累して太常寺丞に至る。嘗て忠義傳二十卷を進む。孝宗深く嘆賞を加ふ。即ち命じて頒ち行ふ。開禧男を以て致仕す。著はす所、諸經講議、香山集、忠義傳あり。

ユリウノウツマ 庚龍妻 (晋)南氏。書を善くす。

ユレツ 俞烈 (宋)字は若晦。臨安の人。その祖徽、張九成、凌景夏の二人と名を齊しうす。烈、少にして警敏、熙寧八年禮部に試して第一たり。太學博士に累遷す。光宗、位に即きて、國子博士に進み秘書郎と

ユウキヨ 容居 (周)齊の大夫。

ユウシ 雍子 (周)楚人。晋に奔り以て謀主と爲る。語、左丘傳に見ゆ。

ユウシ 雍齒 (漢)沛人。高帝封つて什邡侯と爲す。

ユウシエン 容師偃 (明)香山の人。父彌疾を患ふ。扶持側を離れず。正徳十三年、寇其郷を掠む。師偃父を負うて逃る。俄に執はる。賊其父を焚かんすとす。師偃泣して代らんを請ふ。乃ち父釋され、師偃焚死す。

ユウセイ 容成 (上古)黃帝の臣なりといふ。

ユウセイ 庸生 (漢)名は譚。膠東の人。始め孔安國、古文尙書を以て都尉朝に授け、初、譚に授く。尙書の文學、未だ立つを得ず。中興、扶風の杜林、古文尙書を傳へ、同郡の賈逵、訓を作り、馬融、傳を作り、鄭康、注釋を爲る。是より古文尙書遂に世に著る。

ユウジヤウシ 容城子 (上古)曆を造るといふ。

ユウセウジヨウ 用脩衆 (明)涪人。天啓中、吏部都給事中たり。崇禎中太子少傅を加へ、戶部尙書に累擢せられ、後ち勅罷せらる。

ユウソン 雍存 (宋)全椒の人。隱居仕へず。文史を以て自ら娛む。城南に居り。南郭先生と號す。錢公輔が游山の詩に每徒南郭先生到とあるは存を謂ふ也。紹聖の初、

ユ井 俞偉 (宋)字は仲寬。四明の人。元祐の初、順昌縣に知たり。初め縣民、子を生めども多くは擧げず。偉、若老を集めて諭すに理を以てし、貧者には贖はずに粟を以てす。活くる所、計ふるに勝ふべからず。多くは偉の姓字を以て之に名づく。俗、婦妾、多きを尙ぶ。偉、戒むるに儉を以てし而して浮費を省く。民、隄訟の者あれば反覆開諭す。悉く感謝して去る。縣に一大溪あり。滂るに賑む。偉、富民を率ゐて賃を出さしめ舟を編みて梁と爲し以て之を濟す。廢寺の田數十畝を復繕し租を儲へ以て修繕に備ふ。縣を治むると幾んど阿考。木、連理を生じ、粟、一壘十二種あり。民、歌誦す。

ユキキ 庚域 (南北)孝行あり。母鵲涙を好む。域汝々として營み求む。一日鵲鳴下り來る。後ち巴四梓潼二郡に守たり。魏巴四を襲ふ。域固く守り、糧盡く。將士亂草食に供して離心有る無し。官に卒す。子子興、字は孝卿。

ユギナン 維祇難 (三國)高僧。本天竺の人。吳の黃武三年、同伴竺律炎と共に武昌に來る。曇鉢經の梵本を讀す。曇鉢は即ち

法句經なり、律炎と共に之を譯して漢文となす。

ユキゲン 惟儼 (唐)高僧。韓氏。蘇州の人。法を石頭に嗣く。藥山に住す。太和八年三月寂す。年八十四。弘道大師と號す。

ユキハク 惟白 (宋)高僧。靜江府丹徒の子。法を圓通法秀に嗣く。雲門の第七世。汴京の法雲禪寺に住す。續燈錄三十卷を撰す。

ユキブン 俞允文 (明)字は仲蔚。崑山の人。力を詩文書法に専らにす。其持論古今に接據す。盛名を以て終る。

ユウカウブン 雍孝聞 (宋)蜀の人。崇寧の間、廷對して力めて時政を諷る。七列を授く。卒に仕へず。政和の末、姓名を變じて道士と爲り、入内して法を説く。徽宗、其の林靈素の半を得たるを謂ひ、因て姓木を賜ひ、更に廣莫と名づく。竟に其の孝聞たるを知らざる也。嘗て自ら詠つて云ふ、百万人中隱一身、渾如勺水在滄溟、獨醒難負賢人酒、天淵難尋處士星、照影自憐湖水碧、高吟祇得蜀山青、城南老樹如相問、不枉翻空過洞庭と。

ユウキン 雍均 (宋)南克の人。御史臺主簿たり。時に章惇、事を用ひ、朝士、門に滿つ。均、獨り往かず。惇、出して蓬州に知らしむ。



金剛辨慈等を著す。隆興元年五月、奄然として化す。

ヨククワウコウ 異皇后 (清)景祖異皇帝の皇后。

ヨクケン 七條 (明)代州の人。永樂九年の進士。監察御史に除す。言を以て罪を得、免ぜらる。仁宗の時、大理少卿に起ち交趾右布政使を通り、事に坐し民に斥けらる。景泰中、罷め歸り卒す。

ヨクセウ 沃魚 (漢)吳人。神仙傳に見ゆ。ヨクホウ 異率 (漢)字は少君。齊詩を治む。蕭望之師を同じくす。宣帝の朝、封事を上り拜して中郎となる。子孫皆儒官たり。

ヨジヤウ 豫讓 (周)上黨の人。晋智伯に仕ふ。智伯、趙襄子に滅ぼさる。之が爲めに仇を報いむと欲し、姓名を隠して刑人と爲り、匕首を挟み襄子を刺さむと欲す。果さず。又身に漆し、癩と爲り炭を呑んで醜さ爲り、橋下に伏す。また襄子に獲らる。是に於て襄子面あり豫讓を殺めて曰く、子嘗て范中行を以て事へずや、智伯范中行氏を滅す、子爲めに難を報いず、反て吾を智伯に委ぬ、智伯已に死す、子獨り何爲れぞ難を報ゆるの深きや。豫讓曰く、臣、范中行氏に事ふ、范中行氏衆人を以て臣を以て、臣故に衆人を以て之に報ゆ、智伯は國士を以て臣を以て、臣故に國士を以て之に報ゆと。襄子乃ち喟然として歎泣して曰く、嗟乎豫子の智伯の爲にする、名既に成れり、

ヨシヤウ 豫章君 (晋)元帝の宮人。姓荀氏。初め寵あり。明帝及び瑯琊王衷を生む。虞后に妬忌せらる。自ら位卑しきを以て毎に怨望を懷き、帝亦漸く疎薄す。明帝即位するに及び、建安君に封し、別に第宅を立つ。太寧元年迎へて宮に入れ、供奉隆厚なり。成帝立ち尊重する太后に同じ、成康元年薨す。豫章郡君を贈り、別に廟を京師に立つ。

ラアイアイ 羅愛愛 (隋)女子。詩を善くす。ラアン 羅晏 (宋)閩州の人。見たりし時、山下に牧し、二道人の突するを見て、牧を捨て、之れを觀る。道人囊中の餅を出して之を與ふ。晏食ひ已み、家に歸れば腹中燥ゆるが如きを覺ゆ。因て狂を發すること累日。是より惟水を飲み、數日一食せず。稍し歸め羅福を言ふ、驗あらざるはなし。宣和中、靜應處士と賜ふ。羅漢廷で軍中に至る。晏曰く、相公恐る、勿れ、明日歸退かんと。晏果して然り。太和中、夷先生と加號す。蜀人相傳ふ、壽百八十歳に至る。

ラアワウ 羅亞旺 (清)廣西の人。成豊中、初以賊に屬して亂を爲し、洪秀全に應ず。奪て誅せらる。

ライアハチセキ 來阿八赤 (元)寧夏の人。太祖以て宿衛に補す。赤身兵を率ゐて宋と戰ひ大に之を敗る。湖廣行省右丞に遷り往て交趾を征す。交人毒矢を射る。其矢に中り首項股皆墮す。竟に道に卒す。

ライアン 賴菴 (元)番人。ライイウシウ 雷有終 (宋)饒州の子。初め葉蕪射を授けられ、召されて大理寺丞と爲り、出で、解州の州に知たり。眞宗の時、戸部侍郎を以て益州に知たり。賊を討ちて功あり。復た宣徽北院使に拜せらる。ライウ 羅友 (晋)襄陽の人。少くして志氣あり、博學にして文を能くす。會々郡を得る者あり。桓温僚佐を集めて之を饒す。友後れて至る。温之を問ふ、友曰く、中路鬼に逢ふ、邪論して云ふ、只汝が人の罪を作ると送るを見、人の汝が罪と作るを送るを見ず。温表して襄陽太守と爲す。友初め桓温に従ひ蜀を平げ、蜀の城關觀字を按

行し、内外道陌の廣狹、植種果木の多少、皆之を備記す。後、温、簡文と兵を集め蜀中の事を進ふ、遺忘する所あり。友皆名列して曾て遺漏なし。友性酒を嗜み、其酒ふ所に當り、士庶人を擲ばす。好て人の病を伺ひ、毒て飲食を乞ひ、以て蓋と爲さず。桓温常に之を責めて曰く、君大に不達、食を須むる何ぞ身に就て求めざると。友傲然として罵とせず。答へて曰く、公に就て食を乞ふ、今乃ち得べし、明日は已に復た無からんと。温大に笑ふ。

ライウキ 羅友實 (明)太祖に事へて池州の帥に任す。至正二十二年冬十一月、神山寨に據り張士誠に通ぜんとし、事敗れく誅せらる。

ライエウ 來曜 (唐)永壽の人。開元の末、節を廣西に持して、名を左領軍大將軍に著はす。子鴻。

ライエツ 雷凱 (宋)淳化中、知大寧監たり。

ライエンツ 雷續許 (明)太湖の人。崇禎の初の癘を以て特に刑部主事を授けられ兵科給事中に遷す。福王の時、事を以て自ら盡を賜ふ。

ライオウシユン 雷應春 (宋)字は春伯。嶺の人。詩名あり。監察御史に累官す。言事を以て權貴に忤ひ、出されて全州に知たり。就かず、北湖に歸隱す。後、隨江軍に知と爲る。嘗て新に塗に城き以て不虞に備へんと欲す。常路之を阻む。己未の亂に及ん

寡人手を合す亦已に足る、子自ら計を爲せ、寡人子を含さずと。兵をして之を環らしむ。豫讓曰く、臣聞く、明主は人の難を掩はす、忠臣は死を愛まざるを成す、君前に既に臣を寛容す、天下君の賢を稱せざる莫し、今日の事臣故より誅に伏す、然れども願はくは君の衣を請ひ得て之を擊たば、死すも雖も恨みず、望む所に非ず、敢て腹心を布くのみ。是に於て襄子之を義とし、乃ち使者をして衣を持し豫讓に與へしむ。豫讓劍を抜き、三躍して天を呼び之を擊ちて曰く、以て智伯に報すべしと。遂に劍に伏して死す。死するの日、趙國之士、之を聞きて皆爲めに涕泣す。

ヨシヤウクン 豫章君 (晋)元帝の宮人。姓荀氏。初め寵あり。明帝及び瑯琊王衷を生む。虞后に妬忌せらる。自ら位卑しきを以て毎に怨望を懷き、帝亦漸く疎薄す。明帝即位するに及び、建安君に封し、別に第宅を立つ。太寧元年迎へて宮に入れ、供奉隆厚なり。成帝立ち尊重する太后に同じ、成康元年薨す。豫章郡君を贈り、別に廟を京師に立つ。

ラアイアイ 羅愛愛 (隋)女子。詩を善くす。ラアン 羅晏 (宋)閩州の人。見たりし時、山下に牧し、二道人の突するを見て、牧を捨て、之れを觀る。道人囊中の餅を出して之を與ふ。晏食ひ已み、家に歸れば腹中燥ゆるが如きを覺ゆ。因て狂を發すること累日。是より惟水を飲み、數日一食せず。稍し歸め羅福を言ふ、驗あらざるはなし。宣和中、靜應處士と賜ふ。羅漢廷で軍中に至る。晏曰く、相公恐る、勿れ、明日歸退かんと。晏果して然り。太和中、夷先生と加號す。蜀人相傳ふ、壽百八十歳に至る。

ラアワウ 羅亞旺 (清)廣西の人。成豊中、初以賊に屬して亂を爲し、洪秀全に應ず。奪て誅せらる。

ライアハチセキ 來阿八赤 (元)寧夏の人。太祖以て宿衛に補す。赤身兵を率ゐて宋と戰ひ大に之を敗る。湖廣行省右丞に遷り往て交趾を征す。交人毒矢を射る。其矢に中り首項股皆墮す。竟に道に卒す。

ライアン 賴菴 (元)番人。ライイウシウ 雷有終 (宋)饒州の子。初め葉蕪射を授けられ、召されて大理寺丞と爲り、出で、解州の州に知たり。眞宗の時、戸部侍郎を以て益州に知たり。賊を討ちて功あり。復た宣徽北院使に拜せらる。ライウ 羅友 (晋)襄陽の人。少くして志氣あり、博學にして文を能くす。會々郡を得る者あり。桓温僚佐を集めて之を饒す。友後れて至る。温之を問ふ、友曰く、中路鬼に逢ふ、邪論して云ふ、只汝が人の罪を作ると送るを見、人の汝が罪と作るを送るを見ず。温表して襄陽太守と爲す。友初め桓温に従ひ蜀を平げ、蜀の城關觀字を按

て、隨江河卒備なし。人始めて其先見に服す。著す所、海虞、天虹、日邊、風鶴、清江の諸集あり。

ライオウツウ 雷應通 (明)嘉州の人。正徳中、賊白大開を衝く。戦を倡へて死戦す。執へらる。慷慨死に就く。

ライカウシヤウ 柯高翔 (清)咸同間、遊撃に官し、饒莊男の部下に隸す。莊男廣信を授ふ。諸將皆見るを欲せず。高翔、畢定邦と怒つて曰く、君等怯、何如んぞ来るなき、今當に諸君の爲に死を決して戦ふべし、明日我が軍を破るを觀よと。是に於て城を開きて出て、大に呼んで奮撃し、其の長圍を毀り、軍聲大に振ふ。莊男卒して後他軍に隸す。其用を竟へず以て卒す。莊男、嘉廟に附祀す。

ライカン 來漢 (漢)新野の人。武帝に事へて光祿大夫と爲り、樓船將軍楊漢に副として南越を撃つ。

ライカンエイ 賴漢英 (清)洪逆の妻の弟。賴剛男と呼ぶ。性兇猛。成豊中、白匪黨と江西を犯す。後ち楊逆の意を失し、囚禁せらる。子文鴻。

ライカンフ 雷簡夫 (宋)字は太簡。有郡の孫。仁宗の時、樞密使杜衍の校書郎と爲る。會々辰州の蠻酋彭仕義、内寇す。簡夫之を平げ、仕義内附す。

ライギ 雷義 (漢)字は仲公。陳重と友とす。善し。順帝の朝、茂才に擧げらる。重に應ず。刺史羅卞、義、遂に命に應ぜず。

後同じく孝廉に擧げられ同じく尙書郎に拜せらる。時に既に曰く膠漆堅しと雖も雷と陳とに如かずと。後漢郡公と爲る。

ライギ 來騷 (南北)廣陵の人。幼にして奇節あり。侯景、台城を陷る。時に祖暅、廣陵守たり。騷暗に説きて兵を起し、賊を討たしむ。暗曰く、固より願ふ所、死すとも且つ甘心せんと。爲に勇士秋光等百餘人を募り、襲つて景の黨、董紹先を殺す。暗敗るゝに及び、騷並に兄弟子姪死する者十六人。

ライキウ 來欽 (漢)父、哀帝の時、諫議大夫たり。欽、光武に事へて大中大夫に拜せられ、隗囂を説きて漢に歸せしむ。囂叛く。復た精兵を以て襲つて之を破る。隗囂に安し。進んで公孫述を攻む。蜀人大に懼れ、客をして欽を刺さしむ。遂して節侯と曰ふ。欽、信義あり。國を憂ひて家を忘れ、忠孝彰著なり。子襄嗣ぐ。帝、欽の忠節を嘉し、又その弟由を封じて宜内侯と爲す。

ライキカウ 來希皓 (宋)昭義軍大將。節度を授けんとす。固辭す。

ライク 羅威 (宋)字は文仲。長江の人。進士に第す。契丹入寇す。眞宗親征す。威、風從して渡湖に至り、宰相と機務を參議す。契丹和を乞ふ。威を遣はして報使と爲す。京に還り、乞うて里に歸る。給衣金帶錦飾を賜ふ。郷に還りて本州刺史を領す。

ライクワウ 雷玠 (清)字は貫一。一字は翠庭。福建寧化の人。雍正十一年の進士。



官、左副都御史に至る。高宗、事を言ふ者、外に直名を沽ひ、實は自ら便利を規るを患ひ、屢々詔勅を下す。鉉曰く、二者は諫臣と雖も免れず、然れども朝廷諫言を聞くを樂まば、但だ其言の是非を論じて、必ずしも其の利を計るを疑はず、並に其の名を好むを疑はず、官果して用ふ可くんば采りて之を納れよ、諫臣の得る所の者は名、政事の實する所の者は實なりと。旨を得て嘉獎せらる。鉉、文章簡要冲爽、古作者の風あり。其學、力めて程朱を宗とし、象山陽明に於ては之を辨するも甚だ力む。著、經筵堂等の集あり。

ライクワウテイ 雷光燾 (元)字は友光。江四寧州の人。家居教授す。九經集義五十卷、史辨三十卷、詩義指南十七卷を註す。屢々徵さるれども起らずして卒す。學者龍光先生と稱す。

ライクワン 雷煥 (晉)武帝の時、張華の薦によりて晉城令と爲る。繆象の學に妙を得たり。子華。

ライクワン 雷觀 (宋)齊化の人。靖康の間、太學に在り。屢々上書して時事を言ふ。ライケフ 雷鶴 (宋)字は彦一。寧化の人。易を以て名を知らる。政和の進士。信州上饒府に調せられ南安軍に遷る。

ライゲンイウ 雷彦雄 (五代)雷緒の子。彦恭の弟。兄と俱に盧揆を逐うし、遂に汴市に斬らる。

ライゲンキヨウ 雷彦恭 (五代)雷緒の子。自削す。都督周知を贈る。

ライコウ 父殺す。自立して揚行密に附く。嘗て攻劫して荆湖の患たり。遂に擒へて京市せらる。ライコウ 雷公 (漢)靈帝の中平二年、城に據り亂を作し變を行ひ、以て張角に應ず。已にして擒へて誅せらる。

ライセシ 賴仙芝 (宋)紹興間、東坡詩序に云ふ、正月二十四日、典兒子遇賴仙芝王原、同遊羅道院及西禪京舎と。ライソウ 雷濠 (宋)長沙の人。光宗の時、知宜軍たり。善政あり。民、祠を立て、之を祀る。

ライテン 來珙 (唐)永壽の人。曜の子。安祿山反す。珙、潁川を守り、前後賊を殺す。其功を以て防禦招討節度等の使を加へられ、潁州公に封せらる。蕭宗の末、相に拜せらる。

ライド 雷度 (宋)字は世則。臨川の人。易に精し。

ライトクワン 雷德遜 (宋)易義に深し。王元之の時に云ふ、當年直氣驅朱雲、能作皇朝諫議臣と。又云ふ、題詩野館光泉石、贈易新堂動鬼神と。

ライナンシユクノツマ 賴南叔妻 (明)萬安の賴氏の妻。蕭氏。夫早く死す。子無し。一女あり。寇至る。女を率ゐ罵て曰く、汝我刃利ならずと謂ふや、我を犯せば必ず汝を殺さむと。賊怒り火を縱つ。二人俱に焚死す。

ライハク 來怕 (唐)江都の人。護兒の長子。高宗の朝、文學を以て用ひに拜せらる。

ライバンシユン 雷萬春 (唐)張巡に事へて偏將と爲る。驍勇の名あり。

ライヒ 賴榮 (唐)字は忱甫。零郡の人。七歳にして文を能くし、弱冠にして九經を氏に通ず。乾元中進士に擧げられ、崇文館校書郎に拜す。就かず。退いて田里に居り。人其の居を稱して秘書里と曰ふ。

ライピン 來敏 (三國)魏の後。書籍を渉獵し左氏春秋を善くす。尤も爾雅訓詁に精なり。蜀漢に仕へて虎賁中郎將と爲り光祿

ライフ 雷孚 (宋)筠州の人。政和の初登第、宜春作を宰す。官に居る清白。年八十餘にして卒す。太子太師を贈る。

ライフク 來復 (明)高僧。字は見心。豫章の人。儒典に通じ、詩文に工なり。一時の名儒皆之と交る。文僧宗勸等と共に天下の僧教を掌る。後、詩を賦し上の意に忤ふを以て刑せらる。蒲菴集あり、世に行はる。

ライフク 雷復 (明)字は景陽。湖廣寧遠の人。正統初の進士。行人を授く。右副都御史に累擢し、山西を巡撫す。正統十年夏、官に卒す。

ライフツ 賴叔 (宋)字は昆仲。清流の人。紹興中程鄉尉たり。會盜起る。謀を運らし招捕し、境内悉く平く。鎮南軍節度使推官に累遷し又京秩に改められ南劍州に知たり。

ライブンコウ 賴文鴻 (清)漢英の子。常に李秀成に従つて官軍に抗す。已にして城陷る。終る所を知らず。

ライブンシ 賴文進 (宋)布衣なり。地理を善くす。元四天星に注す。

ライヘイカウ 來乘衡 (明)天啓四年、郷に擧げらる。未だ仕へず。崇禎十四年正月洛陽陷る。賊將劉宗敏の爲に執へらる。服を易へしめ之を官せんと欲す。可かず。南郊の民舎に隠す。願みて其友を見て謂て曰く、賊我を執するに官を以てす、我義として辱を受けず、恨むらくは母老子幼、死

ライフ 大夫に遷る。

ライマン 雷滿 (五代)武陵の人。人と爲り兇悍。唐の廣明中、湖南賊を盜賊起る。滿、之に乗じて同里の人と變族を集め、至る所掠奪を逞うす。遂に捕へられ、汴市に斬らる。

ライマン 羅隱 (唐)字は昭諫。錢塘の人。詩に工に、尤も詠史に長す。湘南雜詠あり。性傲倪、少くして桐廬章魯風と名を齊うし、宰相鄭畋に重ぜらる。畋の女、隱の詩を覽て諷詠已ます。畋、才を慕ふの意あるを疑ふ。隱、窮困なり、一日女之を窺ひ見、遂に口を絶てて詠せず。錢鏐時して從事節度判官副使と爲す。嘗て鏐に説き米温を討せしむ。曰く、縦ひ功を成さざるも猶退て抗越を保つべし、如何ぞ臂を交へて賊に事へ、千古の羞をさんやと。著す所、江南甲乙集等あり。令狐綯の子滿、登第す。隱、贊するに詩を以てす。綯、滿に謂て曰く、吾汝が弟を得たるを喜ばず、汝が羅公の詩を得たるを喜ぶのみと。

ライヨウ 雷膺 (元)字は彦正。源州の人。廟冠にして選を以て試に登る。浙西道按察使に遷る。歳歉す。朝に請ひて賑米二十萬石を發し、之を賑す。年六十二にして致仕す。成宗召見して白玉帶環を賜ふ。大徳の初卒す。馮翊郡公に追封す。文穆と諡す。

ライヨウケン 賴用賢 (清)字は鴻達。母の痼疾に侍し衣帶を解かざる者十年。殺せ

ライマン 一一八五

ライマン



しとき柘側に苦戦し高設曾立す。五世居を同す。世を以て之を多す。  
ライリ 雷龍 (明)字は惟化。中憲と號す。建寧府の庠生。山水人物を畫く。恬退仕進を求めず詩酒自ら娛しむ。米顛の風味ありて畫は即ち大に殊なり。

ライレイ 羅以禮 (明)桂陽の人。永樂十八年の進士。郎中より知府に陞す。官に在る凡そ二十七年。乃ち致仕す。

ライレイキ 來歴 (漢)欽の曾孫。公主の子たるを以て侍中と爲り、執金吾太僕に陞遷す。時に侍中周廣等、太尉楊震を譴陷す。歴、その忠貞を稱するを以て、絶して典に交らず。順帝立ちて車騎將軍に累遷し、大鴻臚に終る。弟祉、歩兵校尉たり。超、貨門侍郎たり。

ライエン 雷淵 (字は希顔。一の字は希默。應州渾源の人。父没して家に安んずる能はず。乃ち憤を發して大學に入る。衣は弊れ履は穿ち、盛擗に席なく、恒に兀坐して書を讀む。後、李之純に從ひ遊びて名を知らる。平生孔融、田疇、陳元亮の人と爲りを慕ふ。興定の末、召して英王府文學掾記室參軍とす。後ち監察御史となり彈劾權貴を避けず、終に罷めらる。後ち復た太學博士、南京轉運司、翰林修撰となり、一夕暴かに卒す。年四十八。淵編幹雄偉、顔渥丹の如し。

ライウ 老融 (元)又た智融といふ。俗姓は利。名は祉。草庵と號す。自ら老牛と

云ふ。年五十官を棄て妻子を諭し無隱寺に祝髮す。牛を畜て最も妙。熊を嗜み草を折り墨を懸し以て坡岸巖石を作す。尤も古勁となす。詩を作りて語無清絶字畫俗約なし。  
ライウイン 勞謹 (宋)任城の人。眞宗の時、京東轉運使と爲る。萊陽銀砂を産す。民私に採る者多し。事露はる。安撫使劫盜を以て論ぜんと欲す。諍曰く、山澤の利は人ごと之を有するを得、盜む所の者豈民の財ならんやと。貸免甚だ多し。

ライウエイ 耶味 (南北)四昌に隱れ探樵を業とす。或は擔うて郡市に入る。人の買うに遇へば曰く我は四昌の逸士酒中の人、我今公の所缺に献す、公當に我が無き所に惠めと。

ライウカン 耶簡 (宋)字は叔廉。臨安の人。幼より孤貧。書を嗜み、景徳間の進士に登す。知福清縣たり。邑人爲に生祠を立つ。臨州推官に調せらる。引對するに及びて眞宗曰く、簡、歴官過無くして一人の薦むる無し、是れ必ず進に恬なる者と。特に秘書省著作佐郎に改めらる。工部侍郎を以て致仕す。卒する年八十九。

ライウキ 耶頤 (漢)宗の子。少より父の業を傳へ兼て經典に明かなり。順帝の時、災異數々見はる。頤、上書して便宜七事を陳す。召して郎中に拜す。辭して受けず。

ライウキ 耶基 (南北)字は世樂。もと文吏にして而かも武略あり。北齊、擢て、海西鎮將軍と爲す。梁兵、城を攻む。基、木を

削りて箭を爲り紙を剪りて羽を爲りて固守す。朝に還りて侍御史に拜せらる。子茂。  
ライウキウ 牢丘 (漢)儒者。

ライウコ 老古 (周)晉文公、襄を迫て之れを失ふ。農夫老古に問うて曰く、吾、農、安づくにか在る。老古足を以て指さして曰く、是の如く往け。文公曰く、寡人問ふ、子足を以て指さすは何ぞや。老古衣を振つて起て曰く、一人人君の此の如きを意はざる也、虎豹の居や、間を厭うて人に近づく、故に得らる、魚鱉の居や、深きを厭うて淺きに之く、故に得らる、諸侯衆を厭うて其國を亡ぼす、詩に云ふ、維鷓有巢、維鳩居之、君放つて歸らざれば、人將に之れに君たらむます。是に於て文公老古を赦せて以て歸る。

ライウシ 勞史 (清)字は麟書。浙江餘姚の人。世々農たり。年十七にして朱子の大學中庸の序を讀み、慨然として憤を發し、道を以て自ら任す。嘗て學を論じて不妄語に始め、之を至誠無息に極む。晦前一夕、起して湯を具へ、沐浴衣を更へ、榻を正寝に移し、炳燭宴坐すること平時の如し。明晨之を擲すれば既に逝く。子武、學行あり。

ライウシゲン 耶士元 (唐)字は君賢。定州の人。天寶の進士。寶應元年、京畿の縣官に選ばれ、詔して中書に試みられて渭南尉に補せられ、右拾遺を歴て、出でて、昂州刺史と爲る。詩に工に、鐘起と名を齊しうす。時人語りて曰く、前に沈宋あり後に錢耶あり

と。著、集一卷あり。

ラウシヤウシ 老商氏 (周)何許の人なるを知らず。列禦寇の師なり。

ラウシヤウゼンウ 老上單于 (漢)匈奴の主。名精剛。冒頓の子。漢文帝復宗人の女翁主をして單于の閼氏たらしめ富者燕人中行説をして翁主に傳らしむ。説行くな欲せず曰く我必ず漢の患を爲さん。既に至り單于に説て曰く匈奴の人衆は漢の一郡に當る能はず然れども強き所以のもの衣食異にして漢に仰くなきを以てなり、單于俗を變じて漢の物を好まば則ち匈奴盡く漢に歸せんと。單于の左右に教へ、其人衆畜牧を計記せしむ。又日夜單于に教へて利害を俟ふ。文帝の十四年單于十四萬騎を率ゐて朝那蕭關に入り北地郡を殺し人民畜産を虜すること甚だ多し遂に彭陽に至り騎兵をして回中宮を燒かしめ侯騎雍の甘泉宮に至る。此後復漢を苦ましむ漢辭を厚くして和親を申す。文帝後四年に老上單于死す。

ラウセイ 牢成 (周)晉の戎右。

ラウセイハウ 老成方 (周)宋の大夫。著書十篇あり。

ラウソウ 耶宗 (漢)字は仲綏。京氏の易を學び風角星算を善くす。六日七分、能く氣を望み吉凶を占候す。襄卜自ら供す。漢の安帝之を徵す。對策して諸儒の表たり。後ち吳令に拜す。時に卒かに暴風あり。宗、占して當に京師大火あるべきを知り、時日を記識して人に遺る。後侯するに果して其

言の如し。諸公聞きて表上す。博士を以て之を徵す。宗、占候を以て知聞せらるるを耻ぢ、微書到るの夜、印綬を懸庭に懸て遁れ去り、遂に身を終る。仕へず。子頤。

ラウタン 狼臆 (周)晉人。襄公に事へて右たるを求む。可らず。襄公、秦の囚を縛し、戎右萊駒に戈を以て之を斬らしむ。囚、萊駒と呼ぶ。戈を失す。狼臆戈を取り以て囚を斬り之を食す。以て公の衆に從ふ。遂に以て右となす。彭衝既に陳するに及び、狼臆、其屬を以て秦師に馳す。晉師之に從ひ大に秦師を敗る。

ラウハウキ 耶方貴 (晋)少より志向あり。從父弟双貴と同居す。隋の開皇中、方貴、常に淮水の津所に寄渡す。舟人之を怒りて方貴を打つ。臂折る。家に至る。雙貴問うて之を知り恨みて遂に津に向ひ、船人を斃す。津者、執へて縣に送す。方貴を以て首とす。死に當る。雙貴、從坐流に當る。兄弟争うて首坐となる。縣主斷する能はず。諸を州に送る。兄弟仍各死を引く。州も定むる能はず。二人争うて水に赴きて死す。州、狀を以て聞す。上聞きて之を異とし、特に其罪を原し其門閭に表し物百段を賜ふ。

ラウボウ 耶茂 (南化)字は蔚之。基の子。七歳にして嚴雅を誦する。日に千餘言。暇日、嘗て陸州圖經集一百卷、周地圖志一百九卷を撰す。

ラウヨレイ 耶餘令 (唐)新樂の人。祖楚

之、兄蔚之と俱に名あり。蔚之、官大理卿に至る。餘令、博學文あり。進士に擢てられ魯王府參軍を授けらる。其從父知年も亦王の友たり。王毎に曰く、耶が家の二賢、俱に府に入る。培塿にして松栢を林と爲さる也と。官、著作佐郎に至る。

ラウライシ 老萊子 (周)楚の賢人。二親に孝なり。年七十、嬰兒の戯をなし、五彩斑斕の衣を著て堂に上り、跌をなして兒啼をなし、以て其親を樂ましむ。蒙山の下に耕す。楚王其賢を聞き請うて以て輔と爲さんとす。其妻魯策を引ひて來り曰く、何ぞ車跡の多きやと。老萊子具に之を言ふ。妻曰く、妾聞く、啖ふに酒肉を以てせば糠、之に隨ふべし、餌するに官録を以てせば斧、之に繼ぐべしと、妾は人の爲に制せらるる能はずと。其魯策を投じて去る。老萊子其妻に江南に隨うて止まり、曰く、鳥獸の毛、續きて以て衣るべし、其遺粒、食するに足ると。仲尼嘗て其論を聞き蹙然として容を改む。著書十五篇あり。道家の典を言ふ。終る所を知らず。

ラエイ 羅琳 (明)字は仲明。泰和の人。天順末の進士。編修より修撰に陞し、宋元通鑑綱目を預修す。洗馬に遷る。弘治中、南京祭酒に累擢し、之を久うして卒す。

ラエイフ 羅永符 (清)字は子信。歙の人。乾隆辛未の進士。庶吉士に選ばる。善く書を讀み、經史に通じ、詩古文に工なり。時に疏儒の奇士と推す。



ラエン 羅衍 (漢)成都の人。公孫述、蜀に據る。衍、述が尙書解文卿及び鄭文伯に脱き諫めて、漢に歸して子孫の福を爲さしむ。解卿之れに従ふ。述怒り、二子を薄雲に閉つ。二子志を固まらずして遂に愛死す。

ラオウケイ 羅應奎 (明)安邦彦の將たり。嘗て僞り降り、大に官軍を陥る。後ち誅斬せらる。

ラカ 羅可 (晋)性度寛宏。嘗て竊に其園蔬を刈る者あり。適々遇見し、却て草間に避く。又獲みて其難を殺す者あり。可、壺を携へ其妻孥を呼び、環坐醉を盡して歸る。是に由て相誡めて患なし。

ラガ 羅雅 (明)字は正伯。沙縣の人。嘗て工にして山水を善くす。高待詔以て二米前の身となす。

ラカウシ 羅亨信 (明)字は用實。東莞の人。永樂二年の進士。庶吉士より工科給事中に歴す。仁宗即位の初め御史に除せらる。景泰元年、左副都御史に累遷す。老を乞て歸る。卒する年八十一。

ラカウフ 羅孝芬 (宋)字は廷揚。平江の人。居側、大柿樹あり。雷之を折り、火其文を燒きて羅狀元の字を成す。下に三點あり、人能く測るなし。明年孝芬甲科第三人に擧げらる。始めて其兆を悟るといふ。吏部郎中に擢てらる。靖康の初め致仕す。嘗て錦綺野亭を建つ。時人之を榮す。

ラガン 羅含 (晋)字は君章。來陽の人。少き時嘗て鸞鳳す。夢に一鳥あり、文彩異

常、飛て口中に入る。是より羅思日に新なり。仕へて江夏從事と爲る。太守謝尚曰く、謂ふべし湘中の琳瑯と。後、桓温が參軍に補す。城西に於て茅舎を立て、以て居り。草を織て席を爲し、布衣蔬食晏如たり。或は謂ふ、含は乃ち荆楚の才と。温曰く、此れ江左の秀、豈惟荆楚のみならんと。徵されて尙書郎と爲り、致仕して家に歸る。南恩に羅擘山あり、含が嘗て琴を携へて此地に遊びしを以て名づく。

ラキ 羅崎 (宋)字は子瞻。元祐の初め涪州刺史と爲る。或は曰く、僻郡と。崎曰く、此れ歐陽公が醉郷なり、何ぞ貧僻と爲さんやと。明年廟宇を堂前に治し、蘭數十本を植ふ之を記して曰く、蘭之徳、有道君子也。予之於蘭、猶賢朋友、朝製其馨、暮撫其英、携香就觀、引酒對酌と。後に門を杜けて出でず。文海百餘篇を著す。

ラキ 羅綺 (明)磁州の人。宣徳五年の進士。英宗立ちて御史を授く。左副都御史に累遷す。累に坐し死を賜ふ。憲宗立ち赦して民とす。

ラキ 羅紀 (明)字は景鳴。南城の人。博學にして古文を好む。節義を以て自負す。成化の末進士に第す。編修官に拜す。南京東部右侍郎に擢拜す。致仕歸寧す。尋て卒す。嘉靖の初、詔を賜ひて文肅と曰ふ。學者、圭峰先生と稱す。

ラキウ 羅虬 (唐)鄒隱と名を齊うし三羅と號す。李季春が藉中の紅兒、聲色あり。

ラクカコウ 洛下公 (漢)神仙傳に見ゆ。ラクキ 駱起 (宋)進士第に擢てられ、龍起と名を聯む。

ラクケイド 駱惠度 (南北)歌を工にす。之を三公樂と云ふ。宋に仕へて辛中宣胡陶と友たり。

ラクシキ 駱指揮 (明)其名を詳かにせず。善く人馬を識く。吳趙興の筆意を得。

ラクシサイ 駱之才 (南北)字は旗門。年十二のとき相者曰く、此兒遠致ありと。陳の文帝、引て將となす。勇三軍に冠たり。

ラクジン 羅虞臣 (明)廣東順徳の人。嘉靖間、吏部主事に歴す。上疏旨に忤ひ、斥けて民とす。既に歸り、廬をり中に結び、讀書纂述す。年僅に三十五にして卒す。

ラクシヤウコウシユ 樂昌公主 (南北)陳の後主の妹。徐德言の妻。色美にして才徳あり。時に陳の政方に亂る。德言相保たざるを知り妻に謂て曰く、君の才容あるを以て國亡びば必ず權豪の家に入らん、斯れば永く絶えん、備し情縁未だ斷えざらば猶、相見るを期せんと。乃ち一鏡を破りて各其の半を執り約して曰く、他日必ず正月望日を以て之を都市に賣れ、我即ち以て之れを訪はんと。陳亡ぶるに及びて其妻果して越公楊素の家に向く。德言京に至りて期

の如く都市を訪へば若頭半鏡を賣る者あり。大に其價を高くす。人皆之を笑ふ。德言引て旅邸に至り遂に其故を言ひて半鏡を出して以て之に合す。仍て詩を題して曰く、

虬之に請うて歌はしむ。答へず。虬怒り衣を拂て去り、詰且絶句百篇を爲り比紅兒と號す。

ラキシヨ 羅其書 (清)其清の弟。巴州の人。嘉慶中、兄と與に乱を方山坪に作す。幾もなく討滅せらる。

ラキセイ 羅企生 (晋)字は宗伯。豫章の人。武陵太守に累遷す。未だ郡に之かず。桓玄、殷仲堪を攻む。仲堪企生を以て許諾參軍と爲す。仲堪敗れ、文武送る者なし。企生獨り從ふ。玄、荊州に至る。或は其玄に詣るを勸む。企生曰く、殷は我を遇するに國士を以てす、共に醜逆を殄す能はず、亦何の面目あつてか復た生を求めんやと。玄之を聞て大に怒り、遂に之を害す。

ラキセイ 羅其清 (清)巴州の人。嘉慶中、弟其書等と方山坪に據り乱を作す。已にして討平せらる。

ラキンジュン 羅欽順 (明)字は允升。整菴と號す。泰和の人。弘治間進士及第。南京國子監司業に累遷す。因知記を著す。年八十三にして卒す。太子太保を贈り文莊と號す。

ラキヤウ 羅翊 (唐)廬州の人。仕へて本州刺史と爲る。己の俸を捐て、藥を給し貧を濟ひ、淫祠を禁じて學を修め、士の其本を崇ぶを勸む。三年にして政化大治。節度使杜佑、治狀を上る。金紫服を賜ひ京兆に遷り襄陽縣男に封ぜらる。子讓、官、江西觀察使に至る。

鏡與人俱去、鏡歸人未歸、無復婦、空留明月輝と。公主詩を得て悲泣す。楊素之を訊ふ。公主乃ち實を以て對ふ。素是に於て德言 召して與に飲む。素、公主に命じて詩口占一絶を賦せしむ。公主乃ち鏡別自解の詩を作つて曰く、今日何遷次、新官對舊官、笑啼俱不敢、方信作人難と。江南聞く者感嘆せざるなし。

ラクシユン 駱俊 (三國)會稽の人。文武の才あり。子統を生む。

ラクジュン 洛遵 (明)萬曆中、官吏科都給事中たり。連りに大官を劾し、高拱の旨に忤ひて竟り陥らる。復起つて右會都御史巡撫四川に累遷し、罷め歸りて卒す。

ラクシヨウシヤウ 駱松詳 (明)内江の賊。范濂等と分つて州縣を劫掠す。一時衆二十萬と稱す。已にして勦討せらる。

ラクシヨウリン 駱鍾麟 (清)字は挺生。蓮浦と號す。浙江臨安の人。順治中、陝西藍屋縣に知たり。常州府に累官す。公官に在り疑獄を決し書院を建て諸務畢く舉る。歳大に早す。蔬食葛衣草履して歩いて烈日の中に禱る。雨大に至る。卒する年五十有三。

ラクセイタウ 駱世華 (宋)珍州の人。大觀の間、駱文質等と其地を以て内附す。授けられて奉訓大夫内殿崇班となる。國に忠し民を愛し久しくして而して替ることなし。

ラクトウ 駱登 (宋)太平中、殿中丞とな

ラキヤウ 羅向 (唐)廬州の人。少にして貧困、常に福泉寺に投じ、僧に隨て飯すること二十年間。後、節を持して歸郷し、僧房に書して云く、二十年來此布衣、鹿鳴西上虎符歸、故時實從道前車、到處松杉長野園、野老共遮官路拜、沙鴻遙認軍旗飛、春風一宿瑠璃殿、唯有泉聲懷素機と。

ラギヨクヒン 羅玉斌 (清)江西武營より海り副將に升る。咸豊八年擢して六合縣を授ふ。適々富明阿馮子才が兵潰れ、内外阻絶す。玉斌が麾下三百餘人、北門に分駐す。城陥り、勇を督して巷戦し、遂に害に遇ふ。三百餘人一も存する者なし。

ラキヨツウ 羅居通 (宋)益州の人。母死して墓に廬すること三年。開寶中詔して主簿と爲す。大中祥符、其門に旌表す。

ラキヨノツマ 羅許妻 (明)張氏。嘉靖中賊至り捕へらる。徒跣驅て營に至る。賊魁其美を見て之を留めむと欲す。罵詈雑言を絶たず。賊棄き出し之を殺さしむ。了に懼色無し。遂に害に遇ふ。屍を河に投ず。數日屍浮ぶ。生けるが如し。

ラクウジン 洛子仁 (明)字は少濶。涇陽の人。遼の子。萬曆十一年の進士。知縣より入つて大理寺評事に歴す。四箴を獻し又十小箴を劾し、爲に民に斥けられて卒す。天啓の初、光祿少卿を贈る。

ラクカクワウ 洛下園 (漢)閩中の人。洛亭に隱居す。武帝の時、待詔太史に徵され大初曆を改造す。



ラクトウ 駱統 (三國)字は公緒。後の子。父文武の才あり。統年二十試みられて烏程の相となる。孫權召して功曹となし、後に濡須の督となす。しばしば便宜を陳す。前後書數十を上る、言ふ所皆よし。官、建中將軍に至り、封ぜられて侯となる。嘗て歳の饑るに値ふ。統爲めに減食す。姊故を問ふ。曰く士大夫糧糧足らず、我何の心か獨り飽かんやと。姊粟若干を助く。統一日にして散じ盡くす。統、孫權の兄輔の女を娶る。

ラクヒンワウ 駱賓王 (唐)義烏の人。七才よく詩を賦す。最も五言に工なり。嘗て帝京篇を作る。當時以て絶唱となす。王勃、楊炯、盧照鄰と共に文章を以て名を齊しくす。海内四傑と稱す。初め越王の府屬たり。嘗て自ら能くする所を言はしむ。賓王答へず。武功の主簿を歴て武后の時しばしば上疏して事を言ふ。臨海の丞に除せられ、快々として志を得ず、官を棄て去る。徐敬業の爲めに獄を天下に傳へ、武后の罪を指斥す。后獄を讀み、嗔笑するのみ。一杯之士未乾、六尺之孤安在に至り武后驚き作者を問ふ。或は賓王を以て對ふ。后曰く、宰相は得失に安んず、此人此の如き才あり、而して流落不偶ならしむるは宰相の過也と。敬業敗る。賓王亡命して之く所を知らず。是時に當り、狄仁傑、委與にして以て大功

ラクブンガ 駱文牙 (南北)臨安の人。字を圖。徐敬業慷慨し以て大義をのぶ。而て賓王は敬業を佐くるもの也。或者乃ち謂ふ、敬業反して賓王誅せらるると。譯なり。詩文にはよく數を用ひ對に目す。人算博士と云ふ。宋之問嘗て靈隱寺に遊び、月夜行吟して一老僧を見る。問うて曰く、何ぞ寐ざる。之問曰く、偶々此寺に題せんと欲す。詩思未だ屬せず、僧請ふ上聯を吟せよと。即ち曰く何ぞ權觀滄海日、門對浙江潮と云はざると。之問愕然たり。知る者あり、曰く賓王なりと。

ラクヘイシヤウ 駱秉章 (清)字は穎門。廣東花縣の人。道光十二年の進士。編修を授けらる。咸豐二年、湖南を巡撫す。是時に當り、安慶江軍並びに賊に陥り、粵東四の土寇、賊を接して起り、貴州の教匪復た邊苗に結びて亂をなし、湖南の邊境、遊氣四逼す。曾國藩、命を奉じて團練を辦す。秉章同心戮力して省城克ひに藩なし。五年

ラクワン 羅頤 (宋)字は瑞真。汝楫の子。武岡邵陽淑浦の諸土寇、時々竊りに發す。公皆將を遣はし討て之れを平ぐ。自ら鄂州を援き、復餘力を以て黔粵を援け、江西を援く。徽調虚談なし。而して江西の結尤も偉なり。嘗て三百餘萬、珍域を分たす。十一年、四川に總督たり。時に藍朝柱何調梁等、衆數十萬を糾し、四十餘州縣を蹂躪し、將に成都に逼らんとす。同治元年、之れを平らぐ。六年冬位に薨す。年七十有五。官は大學士に至る。太子太傅を贈り文忠と諡す。

ラクゲイ 羅敏 (隋)大業中に戦功を以て虎賁將軍に補せられ後幽州總管に遷る。宇文化庭、山東に至り、使を遣はして勢を招かしむ。敏曰く、我が隋の舊臣、今大行顛覆するも、賊に辱しめられずと。其使者を斬り、煬帝の爲に喪を發すること三日。ラクゲイジュ 羅瓊樹 (清)廣東の人。大綱の弟。常に兄の帷幄に參し、雷策州邑を陷る。後兄と俱に誅に伏す。實に同治三年なり。ラクウ 羅倫 (明)字は維升。吉水の人。樂を張元貞に受く。弘治十二年の進士。新

會知縣に除せらる。正徳の初、大理右評事に改む。京師畢禮す。上疏して必死を請ふ。劉瑾大に怒り、原籍教職に改む。瑾敗れて復官す。病を引き去る。宸濠の反くや、王守仁に従つて之を討平。世宗即位し、家に即きて台州知府を授く。山東左參政に累擢す。年を踰じ、病を耐して歸る。ラクゲフ 羅鄴 (唐)隱の弟。詩中の虎なり。光化中、章莊奏す、詞人才子時に遺賢あり、一命を聖朝に沾らす、從て千年の恨骨を作す、李賀、陸龜蒙、羅鄴、方干、賈嶋、溫庭筠、劉德仁の如き、皆奇才あり、伏して望むらくは進士及第を賜ひ、補闕拾遺を贈れと。

ラクエン 羅憲 (三國)字は令則。襄陽の人。年十三にして能く文を屬し、黠周に師事す。性方亮嚴整。初め蜀漢に仕へて太子舍人と爲る。黃皓に附せざるを以て巴東太守に左遷せらる。蜀敗れ、節を持って武陵太守を領す。泰始の初め晋に入る。武帝、蜀の先輩宜しく時に叙用すべき者か問ふ。憲、常忌、杜軫等を薦む。武帝並に召して之を用ふ。ラクエン 羅研 (南北)成都の人。字は深微。文學あり。刺史鄧元起が屬吏と爲る。蕭淵藻私憾を以て元起を殺し、而して其反を誣ふ。研、闕に詣りて之を訟ふ。上、元起に征西將軍を贈る。後、刺史蕭恢、其名を聞き、辟して刑駕と爲す。時に群盜大に起る。或は之、囑て曰く、蜀人禍を樂み亂を貪る、一

に此に至ると。對へて曰く、蜀川の積弊實に一朝に由るに非ず、今百家村を爲して數家食あるに過ぎず、窮迫の人十に入九あり、束縛の吏旬に二三あり、乱を貪り禍を樂む怪むに足るものなし、若し家に五母難二母兼を畜ひ、牀に百錢の布被あり、甑に數升の黍飯あらしめば、蘇張、説を前に巧にし韓白、館を後に接すと雖も、一夫を以て盜を爲さしむる能はず、況んや亂を貪るをやと。後に散騎侍郎と爲る。ラクエン 羅宣 (清)字は伯宜。湘潭の人。道光丁酉の拔貢。咸豐四年、曾國藩に従ひ武昌、漢陽、田家鎮に克つ。六年、爲翼王石達開江西に入り、瑞臨、哀赤、無建諸郡を陥れ、會城孤懸なり。宣六丈より赴き援ひ、八戰して皆捷つ。同治八年、黃忠壯に従ひて清溪に入り、逆の數十寨を焚き、鎮及施京に克ち、將に黃平に違せんとす。道隘にして警深きを以て、伏賊に載られ遂に難に殉す。年四十三。累官して知府に至る。ラクエンクワイ 羅彥環 (宋)太原の人。周に仕へて官指揮都虞侯に至る。顯德の末、太皇陳橋より入る。彦環曰く、吾輩主なし今日頼らく天子を得べしと。范質等是由りて階を降り命を聽く。安國軍節度使に累遷し、李繼勳と共に大に契丹を破る。ラクエンホ 羅彦輔 (宋)字は經世。當塗の人。嘉祐の進士。江都湖口の令を懸、皆廉を以て稱せらる。後、池州に知たり。歳旱に屬す。荒政を以て事に従ひ、糶賑第一た

ラコウセン 羅洪先 (明)字は達夫。吉水の人。嘉靖間進士第一。修撰を授く。親に事へて至孝なり。父母死して苦塊蔬食室に入りざる者三年。其學王守仁を主とし、天文地理典章算數皆精究せざるなし。山中に虎穴あり、茅を茸きて之に居り、命して石蓮と曰ふ。客を謝し一榻に默坐して出でず。隆慶の初卒す。光緒少卿を贈り文莊と諡す。ラクウエン 羅公遠 (唐)宣宗の時の方士。明皇中秋を賞し月を玩ぶ。遠曰く、陛下宛中に至らんと欲するや否やと。柱杖を以て之を擲てば大橋銀の如きを成す。行くこと數里、精光目を奪ひ、大城闕に至る。遠曰く、此れ月宮なりと。門榜して廣寒清虛之府といふ。蟾蜍數千あり、大柱の下に歌舞衣の曲なりと。帝因て其詞を記す。遂に回り、却て其後を顧みれば歩に隨て滅す。乃



ち梨園の弟子を召して霓裳曲を作る。ラコクカイ 羅克開 (宋)字は達甫。知袁州事たり。立断して留滞なし。洞寇李元勳猖獗にして羽檄交々馳す。克開靖めて以て之を安んじ、民驚擾せず。

ラロクケン 羅國楨 (明)嘉定州の人。崇禎十六年の進士。巡按たり。孫可望等雲南に入り曲靖を破る。國楨方に其地を按部す。知府焦潤生と執はる。可望降さんと欲す。國楨屈せず。携へて昆明に至り、自楚して死す。

ラジウゲン 羅從彦 (宋)字は仲素。本沙縣の人。徙りて陽平に家す。楊時に蕭山に從學す。既にして毫を山中に築き、意を仕途に絶ら、充然として自得す。朱熹謂ふ、魯山東南に倡道し、士の其門に遊ぶ者甚だ多し、然れども潛思力行、重きに任じ極に詣る者は、唯仲素一人のみと。學者、豫章先生と稱す。卒して文貞と諡す。著す所、尊堯錄十三卷あり。世に行はる。

ラシキ 羅之紀 (宋)字は國張。號は獨心居士。瑞陽の人。孝宗の朝、邑を雲夢に攝す。雪の庭竹を壓するを見て詩を賦して曰く、吾道非耶真可耻、此君豈是折腰人と。官を棄て、歸る。方士に遇ひ丹經を授けられ養生法を修す。一室を葺して居るに子午靜逸成趣を以てす。易傳三卷文集二十卷あり。ラシチウ 羅志冲 (宋)合州の人。心を六經に潛り最も易に精し。

ラシン 羅十信 (唐)歷城の人。年十四のとき、齊郡通守張須陁、賊を濰水の上に撃つ。士信自ら効さんと請ふ。須陁之を少しとす。士信怒り、重甲を被り馬上に上りて願勝す。之を許す。陣纒に列するるとき、兵矛を執り馳せて賊營に入り數人を刺殺す。敢て抗する者なし。須陁之に乗じて大に賊を破る。後、高祖に降り、陝州道行軍總管に拜せられ鄆回公に封ぜらる。

ラシン 羅森 (清)直隸太興の人。順治四年の進士。累官して陝西督糧道浙江按察使たり。布政司に遷り、久しく外任に在り、吳三桂に降る。三桂、降者を忌む。是を以て賊黨相屠戮す。森、終る所を知らず。ラシントウ 羅信東 (清)字は介山。咸豐三年、易良幹、羅鎮南、謝邦翰と、羅澤南に從ひて江西を援ひ、南昌城下に戰死す。ラシナン 羅信南 (清)字は雲浦。澤南の弟子。咸豐の初め、澤南と分けて湘軍を領す。

ラシンホク 羅信北 (清)字は鎮楚。王壯武が信北に復するの書に云く、粵賊は破り易く、心賊は除き難し、欺を戒め偽を去り、意氣の爲に動かさるべからず、謹みて之を力行し致て忘れざれと。ラシヤウ 羅尙 (晋)愷が兄の子。善く文を屬す。泰康の末に梁州刺史と爲る。時に趙欽、蜀に反す。上表す、欽は雄才に非ず、日を計りて其敗を慮かんのみと。乃ち尙に節を假して西平將軍益州刺史と爲す。季特

蜀に叛す。尙、計を以て之を破り、斬て首を洛陽に傳ふ。ラシヤウ 羅璋 (明)遂寧の諸生。母大盜の爲に獲らる。璋長槍を挺して三賊を斃す。賊母を捨て去る。賊追ひ至る。璋力戦して執られ、心を刺り肝を剖いて其屍を裂く。正徳中旌表せらる。

ラシヤウイウ 羅尙友 (宋)字は明密。湖南萍鄉の人。少くして俊才を負ひ、文章、馬に倚て待つべし。嘗て開門使蕭注に謁す。其れをして詩を賦せしむ。人間酒客兼詩客、天上文章與將星の句あり。後、進士の第に登り、武昌軍節度推官を授けらる。時に李常、中丞を以て帥と爲る。燕集する毎に必ず尙友を召す。凡そ樂語詩調皆即席にして成る。因て日して席上才子と爲す。

ラシユク 羅祝 (宋)字は叔和。長汀の人。戸を閉ちて書を讀む。人、面を識る罕なり。經史を貫穿し、註疏と雖も亦皆研究す。元祐間、朝廷十科を行ふ。祝、明經を以て第に中る。潼州法曹に調ばる。本路漕、按行し、燭を乘て庫に入らんと欲す。祝堅く律に執て可せず。漕遂に止む。嘗て手づから六經を釋し及び唐書を註す。尤も律數に精なり。明州觀察推官に終ふ。ラシユセイ 羅守成 (宋)相定中慶州に知たり。民を愛し士を禮し、百廢修す。郡人祠を立て、祀る。ラシユンケツ 羅俊傑 (明)一貫の子。崇禎中、庶を以て副千戸たり。官、宣府總兵

たり。免し歸る。李自成甘州を犯し城陷る。之に死す。

ラシヨウ 羅昇 (宋)宜春の人。少くして貧、屠狗を業とす。晩に乃ち藥を市中に賣る。異人に遇ふ。授くるに六術を以てせらる。年幾百、忽ち一日親戚を辭し、奄然として逝く。時に政和二年なり。後、奄然として逝く。時に政和二年なり。後、奄然として逝く。其瀏陽市に在りて藥を賣るを見る。書あり、鄉人に寄す。其日を驗するに乃ち其歿するの明日なり。

ラジヨウ 羅拯 (宋)字は通濟。祥符の人。進士の第に登る。性和柔にして人と曲直を較せず。江淮發運使に累官す。嘗て副皮公彌と協はす。公彌劾せらる。拯力めて爲に辨理す。諫官錢公輔嘗て拯が短を論す。公輔が姻黨多く拯が部内に在り。往々之を薦進す。或は德を以て怨に報ずるを觀る。拯曰く、同僚協はざるは見る所異なればなり、諫官は職とする所を言ふなり、又何ぞ怨みんやと。時論其長者に服す。

ラシヨウシ 羅承之 (宋)巴州清化の人。幼に雄特、兵略を好む。乾徳中、文協、來を率ひて閬巴を攻む。承之、皆を竭して兵を募り、文協を擒にす。太祖召見して感義軍節度使を賜ひ、兼て巴州に知たらしむ。曾孫士堯、其母に事へて孝を以て聞ゆ。ラジヨシフ 羅汝楫 (宋)字は參濟。歙縣の人。進士の第に登り、刑部員外郎に累官す。高宗の時に御史と爲り、起居郎に遷り、侍讀を兼ね、後吏部尙書に遷り龍圖閣直學

士に終ふ。ラジヨブン 羅汝文 (明)沙縣の人。山水を善くす。

ラシヨヤク 羅處約 (宋)字は思純。益州華陽の人。父濟、蜀に仕ふ。宋に歸して官太常丞に至る。處約、太宗の時進士に擧げらる。形神豊碩、詞采あり。初め吳縣に知たり、後召されて史館に直す。卒する年三十三。文集あり、東觀集といふ。

ラジヨウヨウ 羅如塘 (明)字は本崇。廬陵の人。正統中の進士。行人に除す。北征に從ひ、妻子に訣る。翰林劉儼に屬して其墓に銘せしむ。儼驚きて之を拒む。笑て曰く行かば當に驗すべきのみと。後數日果して死す。時に正統十四年八月なり。

ラセイ 羅性 (明)字は子理。泰和の人。洪武の初の鄉舉。德安同知を授く。大盜あり。久しく獲ず。性至り二旬ならずして之を捕ふ。民以て神とす。秩滿京に赴く。桑木を用ひて軍衣を染るに坐し、西安に謫成せらる。年七十、貶所に卒す。ラセウセン 羅小川 (明)豫章の人。書を善くす。ラセキ 羅績 (明)沙縣の人。畫に工にして翎毛を善くし、工巧の處景昭に似たり。ラセン 羅戰 (宋)遂州の人。初め武學諭たり。上、學に幸す。百官先づ集まる。戰京、坐上に於て兵を談す。衆皆拱聽す。戰獨り屋角を仰視す。京大に怒りて其官を奪ふ。

ラセンカ 羅鸞可 (宋)字は養察。沙縣の人。高郵理曹と爲る。汴京陷り、張邦昌僞赦を以て高郵に至る。守之を拜せんを欲す。鸞可持して可かず。留むること數日にして高宗の赦至る。事聞す。命じて京秩を以て之を褒す。

ラゼンドウ 羅善同 (宋)字は信遠。上高の人。幼より詩書を勤め、善類を友とす。程明道嘗て贈るに書を以てして云ふ、人之所以爲君子、在不失其本心、要常自檢點、勿使一毫私意間之、斯可到聖賢地位矣と。自ら純古先生と號す。

ラリ 羅素 (明)晏狂と號す。進賢の人。嘉靖中書を以て江右に遊ぶ。花鳥の寫生は呂紀に倣ひ、人物は吳偉に倣うて能く眞を亂る。兼て山林樹石に長す。ラタイカウ 羅大綱 (清)廣東の人。初め海盜を爲し、凶狡を以て儼輩を凌辱し、衆に嫉まれ、奔つて洪秀全に歸す。咸豐中、誅に伏す。

ラタイクワウ 羅大絃 (明)字は公廓。音水の人。萬曆十四年の進士。行人より禮科給事中に改む。言を以て累を得、民に斥らる。卒す。天啓中、光祿少卿を贈る。ラダウセイ 羅道成 (宋)慶曆中に中獄に遊ぶの詩に云く、白驪代步若奔雲、閑人所至留詩迹、欲知名姓問源流、請看彬陽山下石と。後問へども言ふ所なし。蓋し眞人なり。道を得て白驪に乗じて石壁の上を行く。其述今に至るまで存すといふ。



ラダウツ 羅道宗 (唐)河東の人。博識を尚ぶ。貞觀の末に嘗て嶺南に謁せらる。友人同く斥けらるる者あり。荆襄の間に死す。終に臨み泣て曰く、人生、死あり、獨り憂を異國に委するか。道宗之を慰めて曰く、吾若し還らば、終に君をして此に留らしめずと。後果して其家に遷葬す。仕へて太常博士に至り名儒と稱せらる。

ラダクナン 羅澤南 (清)字は仲岳。號は羅山。湖南湘鄉の人。清光乙未、湖南大に早饑す。澤南、院試を罷め、徒歩して歸る。飢うること甚し。米を索るに有るなし。年二十三、始めて縣學生に補せらる。又八九年、廩生を以て孝廉方正に擧げらる。咸豐三年、曾國藩湘南を督治す。澤南因て國藩と東五技擊の法を講求し、晨夕訓練す。土寇を桂東に擊ち、逆黨を衡山に禽にし、南昌の圍を解き、安福の賊を破り、土匪を永興に殲す。四年、國藩請して武昌を攻む。澤南一圍を手に、國藩に就て策を決す。曾ふ、紫坊より武昌に出づるに二道あり、一は洪山大路、一は漢江より花園に出づ。當に重兵を以て花園を勵すべしと。澤南請うて其の堅き者にして洪山に出して、國藩之に従ふ。時に花園の悍賊堅壁を築くこと三、一は大江に枕み、一は青林湖に瀕し、一は長堤に跨る。八月丁巳、官軍水陸進で三壘を攻め、皆之を下す。明日鮎魚套を攻め亦之を敗る。己未武漢二城皆復す。既にし

て兵を引て北に渡り、廣濟黃梅を克つ。又兵を引て南に渡り、攻めて九江を圍み、進んで湖口を規す。未だ幾くならずして武昌再び陥る。尋て通城を攻め之に克つ。進んで桂口を攻め、崇陽及蒲圻に克ち、遂に贛寧を復す。是より武昌以南に賊踪なし。時に賊武昌城外に於て堅壁十三を築く。高き者城と等し。澤南奇兵を以て賊後を襲ひ、立ちどころに之を平らぐ。是に於て四路の賊亦盡く。六年三月朔、大霧す。小龜山の賊出づ。澤南親ら戦ひ、左額鎗子に中る。歸て而して創劇し。語の喃々たるもの皆時事なり。紙筆を索めて書して曰く、亂極時貼得定、纔是有用之學と。八日に至り、病て起つ能はず。汗出て、藩の如し。胡林翼の手を握て曰く、武漢未だ克たず、江西復危し、其れ勉勵せよ好く之を爲せと。語畢りて瞑す。年五十。官、道員加布政使に至る。忠節と諡す。湖南湖北江西各々專祠を建つ。著に周易附說一卷、讀孟子割記二卷、四銘講義一卷、太極行義一卷、姚江學辨二卷、小學韻語一卷、詩文集八卷あり。世に行はる。皇朝要覽稿に家に蔵す。

ラチナン 羅鎮南 (清)字は鳴春。咸豐三年、易良幹、羅信東、謝邦幹と、羅澤南に従ひて江西を援ひ、南昌城下に戦死す。ラチヤウカウ 羅步康 (宋)字は偉正。宜春の人。進士。守寺丞を歴して出て、永州に知たり。其父を迎へて以て養ふ。因て州署の後堂を名づけて戲果といふ。待制胡寅

之が記を爲る。ラツウ 羅通 (明)字は學古。吉水の人。永樂十年の進士。御史を授く。憲宗の時、賀軍務に擢し、太子少保を加ふ。尋て右都御史に進みて致仕す。成化六年卒。ラツウビ 羅通微 (唐)臨晉の人。少き時嶺を山中に採る。閩使君來に遇ふ。謂て曰く、子、骨相峻剛、長生を學ぶべしと。遂に五老山に冠褐して歩虚を學び粒を絶つ。唐貞觀中、忽ち一日人に罷て曰く、我歸らんと。明日大に士庶萬人を會す。俄にして雷震す。地下青龍躍り出づ。通微之跨て登る。

ラテキ 羅通 (宋)字は正之。寧海の人。進士に擧げられ、五縣の提點、兩浙京四刑獄に歴知し、朝散大夫に終ふ。易說赤城集一百卷あり、世に行はる。ラテン 羅點 (宋)字は春柏。號は此菴先生。淳熙中、鄭樵は侍讀、點は侍講を兼ね、胡晉臣は論徳を兼り浙西提舉に除せらる。楊誠齋の詩に云く、山嶽動搖用意氣、詔書宣布舞祥雲と。官樞密に至り、文恭と諡す。ラテン 羅典 (清)字は微九。號は慎齋。湘潭の人。乾隆十六年の進士。官は鴻臚少卿。歴々文衡を主り、經學を以て士を取る。文體爲に一變す。嶽麓書院に主講たること二十七年、人才を造究すること甚だ多し。嘉慶丁卯重れて鹿鳴の筵宴に赴く。

ラテンイウ 羅天酉 (宋)字は恭甫。新昌の人。開慶。進士。格非心去非人の對策を

以て丁大全に忤ひ外に擯けらる。知懷柔縣に歴官して惠政あり。父の憂に丁る、三釜爲親今莫及、萬鍾於我復何加の句あり。遂に起らず。著す所、柘岡文集あり。ラハクブン 羅得文 (宋)字は宗約。沙縣の人。李延平に従學して道學の傳を得。尋で薦を以て參議軍政府政と爲り、嘉州の官舎に卒す。薨に餘資なく、書數千帙あるのみ。同門の朱熹、其行を狀す。

ラパンクワ 羅萬化 (明)萬曆中、官御史たり。官事を以て山西按察知事に坐謫せられ、家に卒す。天啓中、太僕少卿を贈る。ラパンサウ 羅萬藻 (明)字は文止。臨川の人。天啓間郷に擧げられ、崇禎中祭酒に拜す。辭して就かず。居ること數月、卒す。

ラヒツ 羅泌 (宋)字は長源。廬陵の人。學問該博。著に、路史あり、世に行はる。ラヒツゲン 羅必元 (宋)字は亨父。進賢の人。嘉定の進士。撫州司馬に歴官す。眞德秀入りて大政に參す。必元移書して謂ふ、老弊嘗て云へらく、傷軀懷證性、獨參湯のみ救ふべしと、先生は其れ今の獨參湯かと。贛州に通判たり。上疏して賈似道を論ず。後、直寶章閣を以て致仕す。ラフ 羅敷 (漢)邯鄲の女子。姓は秦、名は羅敷。邑人千乘王仁の妻と爲る。仁、後ら趙王の家令と爲る。羅敷出て、秦を陌上と探る。趙王に登り見て之を悦び置酒して之を奪はんとす。羅敷善く箏を彈す。乃ち陌上桑の詩を作つて以て之を拒む。

ラフク 羅復 (宋)銅陵の人。嘗て昨城縣に知たり。靖康の難に値ひ吏民を率めて禦ぐ。敵軍肌體を傷くも終に職を去らざす。朝廷忠義を以て之を褒す。ラフクジン 羅復仁 (明)吉水の人。少より學を嗜む。陳友諒辟して編修とす。己にして其成す無きを知り、遁れ去つて太祖に九江に謁す。中書諸議を授く。累擢して弘文館學士に至り、劉基と同位たり。尋て致仕す。帝その衣襟に詩を題して之を褒賜す。薨を以て終ふ。

ラフクリヨウ 羅伏龍 (明)新喻の人。崇禎中の進士。故の詩知縣となり、甫て三日、福王の難に殉す。ラフセンヂヨ 羅浮仙女 (隋)趙師雄羅浮に遊さる。一日天寒く日暮る。松林の間に憩ふ。酒肆傍舍一女人を見る。淡粧素服、師雄與に語るに芳香人を誘ふ。因て與に酒家を押さ同じく飲む。少頃にして一練衣あり來つて笑談戲舞す。師雄醒ること之に久くして東方已に白し。起て視れば乃ち大梅花樹の下に在り。

ラフバイ 羅伯 (金)兄弟七人。活刺渾水阿蘭那石烈部に居り。素名聲あり。人之に推服す。烏春等の難を爲すに及び、機に乗し衆を擁して之に應ず。乃ち誅せらる。ラフブト 拉布敦 (清)姓は棟鄂氏。滿州正黃旗人。官は左都御史に至り漢軍都統を兼ね、四藏郡王珠爾默特那木扎勒、叛を謀る。公、之を剪除せんふとを計り、害に遇

ふ。一等伯を贈り壯果と諡す。ラハイ 羅勝 (清)字は遯夫。號は兩峰。歙縣の布衣。畫は高格に入る。尤善く鬼を畫く。鬼趣圖あり、時に重ぜらる。雍正十一年癸丑に生れ嘉慶四年己未卒す。年六十也。

ラハイチウ 羅乘忠 (明)初名は克羅儀。領占沙州衛都督僉事因即來の子。英宗復位し、乘忠に指揮使協理衛事を授く、左都督に累進し順義伯に封す。天順十六年卒す、榮壯と諡す。

ラボウカウ 羅茂衡 (宋)黃山谷贈るに詩を以てして云ふ、嗟來茂衡、學道如登と。ラボク 羅収 (清)字は飯牛。寧都の人。南昌に寓居す。山水に工みにして筆意蒼黃の間に在り。林壑森秀、墨氣澹然、誠に妙品と爲す。江淮の間、亦之を祖とする者あり。世の稱する所の江西派是なり。詩を能くし、飲を善くし楷法亦工なり、又善く茶を製す。卒する年八十餘。ラマウカウ 羅孟郊 (宋)興寧の人。生れて而して穎異。蚤く父を喪ひ、母に事へて至孝。兒たりし時に、牛を長岐莊に牧し盡して書を讀む。山人あり、過きて之を奇とし、與に語る。孟郊告ぐるに、父の喪、貧にして未だ葬らざるを以てす。其人地を指示す遂に從て葬る。弱冠にして盧羅頴に結び以て學ぶ。郷中の子弟之に従ふ。孟郊指授至て篤く、邑に始めて學ぶ者多し。青札を善くし、硯を洗ふの池水盡く黒し。人稱し



て墨地といふ。天聖八年進士第三人に擧げられ、諫議大夫翰林學士に累官す。歸て母を養はんと乞ふ。苜蓿蕭然。母冬月に饋を思ふ。孟郊衣を解て池に入り、魚を取て之を供す。郷人其池を目して曾子湖と爲す。ランセイ 藍瑛 (明)字は田叔。魏東と號す。錢塘の人。山水は宋元の諸家に法る。晩に自一格を成す。兼て人物花鳥梅竹に工みに名時に盛なり。論者推して浙派之最と爲す。天啓年間の人。

ランキン 蘭欽 (南北)字は休明。中昌魏の人。謀略武勇あり。號を智勇將軍に進めらる。衢州刺史となり、屢々惠政あり。甚だ民心を得たり。

ランキヨウシ 樂共子 (晉)晉の武公、翼を伐ち、哀侯を殺す。共子に謂て曰く、苟も死するなくんば、吾、子をして上卿たらしめん。辭して曰く、民三に生ず、之に事ふること一の如し、父之を生じ、師之を教へ、君之を食ふ、故に一に之に事ふ、惟其の在る所には則ち死を致す、君に從ひて二あらば、君焉んぞ之を用ひんぞ。遂に關つて死す。子枝。

ランギヨク 藍玉 (明)定遠の人。常遇春の妻の弟。征に従ひ功を擧げて大將軍に至る。素と不學、性また狼狽にして功を恃み暴横なり。初め胡惟庸の時、玉が謀に與れるを稱するものあり。帝その功の大なるを以て宥して問はず。玉、意に爵を進むるを望む。帝命じて太傅を加ふ。玉、秋を

纏て曰く、我れ太師と爲るべからざり耶と。事を突するに及んで帝從はず。玉懼れ退きて曰く、上、我を疑ふと。洪武二十六年遂に反を謀り密かに其部曲を召して謀議し、士卒及び家奴を募集し甲を伏せ將に變を爲さんとす。錦衣衛士將試の爲に上告せられ、捕訊、誅に伏す。列侯以下連坐するもの數百千家。國初の功臣、胡(惟庸)藍(玉)二黨に坐して夷滅殆ど盡く。

ランケイ 藍奎 (宋)字は秉文。程邗の人。性強記、書再閱せず。家に圖史なし。或は友に假り越宿にして則ち之を歸す。之を問へば輒ち能く誦を成す。嘗て詩あり云く、懶思身外無窮事、願讀人間未見書と。其學に志すこと此の如し。進士に第し、官、文林郎たり。稱して藍夫子と云ふ。

ランケウ 藍喬 (宋)龍川の人。進士に擧げられて第せず。乃ち霍山に隱れて仙を得といふ。

ランゲンハウ 藍元放 (清)字は簡侯。廷珍の孫。世職に由て參將に補せらる。提督に累官す。諡は襄毅、乃祖と同じ。時に小襄毅公と稱して以て之を別つ。誠に一時の佳話也。

ランゲンキ 藍元成 (宋)詩名あり。其寒時に曰く、朔風陣々送將來、日午柴門半不開、謝照只教添短褐、孟光重喚緊深林、苦吟磨角玲瓏玉、門撥爐頭拙骨灰、移步東籬紅日晚、細看凍蝶向依梅。其霜詩の題句に曰く、滄泉盡作龍鍾結、匝池潭潭雁鴈高

と。皆時の稱する所となる。ランサイクワ 藍榮和 (唐)唐末の逸士。ランシ 樂枝 (周)晉の文公四年、三軍を作る。卻敎を中軍に將とし、狐偃を上軍に將とし、樂枝を下軍に將とす。ランシヨ 樂首 (周)晉の景公厲公に嬖事して功あり。遂に中行偃と共に厲公を弑して悼公を立つ。

ランズ井 樂瑞 (明)初め江陰石牌海寇たり。至正十八年太祖の張士誠を討つに力り。虚に乗じて來り寇す。遂に擒へらる。ランソウキツ 樂崇吉 (宋)字は世昌。封邱の人。吏部令長を以て上書して事を言ふ。臨淄簿に調補せらる。文法に明習し、清白事を勤む。江南轉運使に累官し、衛尉少卿に遷る。將作監を以て致仕す。

ランソウシウ 蘭宗周 (唐)水氣略三卷を撰す。

ランダイ 藍臺 (明)崇禎中、官監紀同知たり。賊李自成に甘州城に敗れて捕斬せらる。時に崇禎十六年十二月なり。福王の時、太僕少卿を贈る。

ランタウ 藍濤 (清)雪坪と號す。瑛の子。其家學を繼ぎて亦た藍を善くす。ランテイ 樂選 (周)書の孫。晉の平公六年、罪ありて齊に奔る。八年、齊の莊公、選を遣して晉を襲はしむ。范獻子、擊ちて選を殺し、遂に樂氏の宗を滅す。

ランテイゲン 藍鼎元 (清)字は玉霖。鹿州と號す。福建漳州の人。雍正の朝薦を以

て召試を得、知縣を授けらる。官に在て政聲あり、漸に臨神の如し。監司に忤るを以て竟に官を罷む。鼎元、詩古文詞に工に、政体に通達す。經濟を語れば必ず諸葛武侯を曰ひ、文章を言へば必ず韓吏部を曰ふ。兄廷珍に從て臺灣を征す。鼎元之が謀主となり七日にして平ぐ。

ランテイズ井 藍廷瑞 (明)正徳三年、兵を漢中に起し攻て郡縣を陷る。順天王と稱す。勢威甚だ熾なり。年を経て誅に伏す。

ランテイチン 藍廷珍 (清)字は荆樸。福建漳州の人。幼にして學を失し壯にして農を力む。將略天然、規畫する所古兵法に合す。嘗て海賊を勦し深く入て窮追す。賊風を聞て膽を破る。皆曰く、誰て老藍を避けよと。是より威名日に盛なり。後ち朱一桂を討つ。賊其旗幟を見、即ち驚き逃れて曰く、此藍旗幟也と。兵を進めてより一桂を誅するに至るまで僅に七日。其兵を用ふる事神の如し。卒して太子少保を贈り襄毅と諡す。弟鼎元。

ランテウ 樂維 (晉)論語駁三卷、釋疑十卷を著す。尙書令に任ぜらる。

ランデン 藍田 (明)即藍の人。刑部主事に歴官し、關に伏して大禮を力爭す。世宗怒りて關獄に下し廷杖す。隆慶の初、復職す。

ランハ 樂巴 (漢)字は叔元。成都の人。桓帝の朝、四たび遷りて桂陽太守と爲る。婚姻の禮を定め、母校を興立す。道術あり、

能く鬼神を役す。帝、正旦、大に羣臣を會して酒を賜ふ。飲まず。怒り酒を含みて西に墜す。有司、巴の不敬を劾す。巴云ふ、臣、本縣城東、火患あり、故に酒を嚙して以て之を救ふ。數日にして成都果して火災を奏して云く、是日大に雨あり、東北より來る。火息んで酒氣ありと。

ランハウ 藍方 (宋)養素先生と號す。道を南嶽に修む。

ランヒン 樂實 (周)晉の靖侯の庶孫。樂邑に食む。因て姓とす。昭侯の時、曲沃の桓叔(文侯の弟成師)の相と爲る。

ランビン 藍敏 (漢)重風記一卷を著す。ランフ 樂布 (漢)梁人。彭越、家人たるを請うて大夫となす。越、誅せられて洛陽に鼻首せらる。命を下して曰く、敢て收め親る者あらば軋ち之を執へんと。時に布齊に使す。還りて事を奏し、越が頭を收め祠りて之を哭す。吏捕へて以て聞す。上之を烹んと欲す。布曰く、願くは一言して死せん、上の彭城に囚み樂陽に敗るゝに方りて越一顧して楚に與せば則ち漢破れん、漢に與せば則ち楚破れん、今天下已に定まる、彭王符を割きて封を受く、亦之を萬世に傳へんと欲す、今陛下、兵を王に徴す、病んで未だ至らずして陛下之を誅滅す、臣恐らくは功臣の人々自ら危んんことを、今彭王已に死す、臣生きんよりは死せんに如かず、請ふ就きて烹られんと。上其膽を壯とし、

拜して都尉となす。後吳楚反す。布、功を以て都尉に封せらる。燕齊の間皆布を立て歸して樂公社となす。

ランフツキ 樂弗忌 (周)三部、伯宗を害とし、歸して殺す。樂弗忌に及ぶ。韓獻子曰く、善人は天地の紀なり、而して之を絶つ、亡びずして何をか待たんぞ。

ランブンハク 樂文博 (南北)長安の宿儒。門徒數千人あり。

ランホウ 樂鳳 (明)高郵の人。諸全を知す。能聲あり。後ち部將將再興に掩殺せらる。

ランリ 藍理 (清)字は義甫。義山と號す。福建漳州の人。虎頭燕領、臂力人に過ぐ。聲は虎吼の如く名を聞て膽破る。理隨て臺灣を征する時、戰を督して礮に中り胸破れ腸腹外に出づ。因て自ら腹中に納め火を礎て賊を殺し遂に克つ。臺灣の功第一に居り。召されて上に見ゆ。上呼んで破腹將軍と爲す。官して提督を授けらる。卒す年七十有一。

ランリヨウコウシユ 蘭陵公主 (隋)字は阿五。文帝の第五女。姿容に美に性婉順なり。文帝特に鍾愛す。初め饒國王奉孝に嫁す。奉孝卒す。河東の柳述に適く。時に年十八。諸師並に驕蹇す。主婚道を守り舅姑に事へて謹めり。帝大に悦び述も漸く寵せらる。初め晉王廣、主を以て妃弟蘭陵に配せむとす。後述に述に適く。晉王因て悦ばず。述事を用ふるに及び蘭之を惡む。



文帝崩す。述懐表に徒さる。煬帝、主なし  
て禮を絶たしめむと欲す。公主死を以て自  
ら誓ふ。上表して主號を免し、述と與に同  
徒を求む。帝大に怒つて曰く、天下豈男子  
なからむ、述と同徒を欲するや。主曰く、  
帝妾を以て柳家に適す、今歸あらば妾よ  
り從坐すべし。帝悦ばず。主憂憤して卒す。  
年三十二。終に臨み上表す、生きて夫に從  
ふを得ず、死して乞ふ柳氏に葬らむ。帝妾  
を覽て愈々怒り竟り哭せず。主を洪濟川に  
葬る。資送甚だ薄し。朝野之を傷む。  
ラメウアン 羅妙安 (元)信州戎陽の人。  
鄭琪の妻。能く婦道を執る。至正の末、世  
亂る。常利刃を懷にす。兵、里に至るや  
即ち自到す。年二十九。  
ラユギ 羅喻義 (明)字は相中。益陽の人。  
萬曆四十一年の進士。庶吉士より檢討に改  
む。假歸を請ふ。天啓中、累遷して南京國  
子祭酒に拜す。崇禎間、禮部右侍郎協理詹  
事府に拜す。嘗て尙書を進諫する。因りて  
時事をいひ革職歸を乞ふ。傳を賜ふ。家居  
十年して卒す。  
ラリシン 羅理眞 (明)江寧の人。書工  
なり。魚鳥を寫して儼然生氣あり。魏國公  
嘗て畫く所の眞武が像を見て、百金を以て  
之を購はんを欲す。  
ラリフゲン 羅立言 (唐)宜州の人。貞元  
末の進士。陽武令と爲り河陰に遷る。立言  
始め城郭を築くや、地の當る所皆富人大家  
の占むる所。令を下して自ら築かしむ。民

其殿を憚り數旬にして畢る。銀を設けて汴  
流を絶つ。盜賊屏息す。後廣州刺史より召  
されて司農卿と爲り、京兆少尹に遷らる。  
ラリヤウ 羅瓦 (元)長汀の人。福州の國  
を解き、功第一たり。又數回京師に遷  
漕す。許晉國公を賜ふ。後賊漳城を圍む。  
堅守旬日に死す。  
ラレイ 羅厲 (三國)廬陵の民。吳の嘉禾  
の間、李桓等と衆を聚めて亂を作す。明年  
討滅せらる。  
ラレツ 羅烈 (宋)字は子剛。長汀の人。  
紹興の初め福州興寧の令たり。盜の出沒す  
るに會す。一出して縣に突入し、烈を執へ  
て去る。烈爲に動かす、理を以て之を諍す。  
賊敢て害を加へず、乃ち邑に送還す。未だ  
幾くならずして賊黨復合す。烈兵千餘を  
率ひ、直ちに其壘を掃きて大に之を破る。  
ラキ 羅成 (漢)字は徳仁。番禺の人。性  
至孝。寒きときは則ち身を以て親の席を温  
む。隣牛其糞を犯す。威則ち笞を其門に納  
る。牛家相諭して犯すなからしむ。出て、  
老種の途に負載するに遇ふ毎に、即ち爲に  
其任に代る。邑人之化する。令長召して門  
下吏と爲さんとし頼る力む。威乃ち母を奉  
じて増城に遷る。  
リアン 李晏 (金)字は致美。澤州高平の  
人。性警敏備備にして氣を尙ぶ。皇統六年

經戰進士に登第す。諸官を歴て沁南昭義兩  
軍節度使となり承安二年卒す。年七十五。  
文簡と諡す。子仲喜。  
リアンキ 李安期 (唐)百樂の子。  
リアンキ 李安期 (宋)字は泰伯。建寧縣  
の人。經史に淹貫し、筆を援て文を成す。  
詩を以て名あり。岳飛死す、表忠詩百二十  
首を作りて之を吊す。一日四川茶馬使王涯  
に謁す、涯其才を奇とし賢良を以て譽むと  
す。偶突に因て道を争ふ、安期評を推して  
曰く、公天下を平草す、亦此の如く反覆す  
べきかと。遂に衣を拂て去り竟に出ず。王  
涯深く自ら末壽を以て天下士を失ふを刻責  
す。著す所 蒙谷詩集あり。  
リアンジン 李安人 (南北)蘭陵の人。宋  
の時表を添して南に歸す。明帝大いに驚い  
て曰く、卿の南方にして田の如し、封侯の  
相なりと。南齊の時尙書左僕射に至る。  
出て吳興太守となり、清名あり。  
リアンセイ 李安靜 (唐)武后革命せむと  
す、王公百官皆上表勸進す。安靜正色之を  
拒み、制歌に下るに及び、來俊臣其反狀を  
詰る。安靜曰く、我は唐家の老臣、以て殺  
すべくは即ち殺せ、若し謀反を問はば竟に  
對ふべき無しと。俊臣竟に之を殺す。  
ライ 李頤 (明)字は惟貞。餘干の人。歷  
慶二年の進士。穆宗神宗の兩朝に仕へ。中  
書舍人より工部右侍郎に累遷す。仕官三十  
餘年にして卒す。兵部尙書を贈らる。  
ライアン 李易安 (宋)女子。名は清照。

濟南の人。李格非の十女。張汝丹に適く。  
未だ獨らならずして反目す。漱玉集三卷あ  
り、世に行はる。  
ライウ 李維 (晉)成劉第一世。字仲簡。  
特の第三子。身長八尺三寸、容貌魁偉。流  
死して其衆を領す。羅倫を攻めて之を破り、  
遂に成都を陥れ、成都王と稱す。越えて四  
年遂に帝と稱し、國を成さ欲す。在位三十  
年。年六十。武帝と諡し廟を太宗と稱す。  
ライウ 李祐 (唐)李愬の弟元濟を討ずる  
や、祐愬に謂て曰く、愬の精兵は皆細曲に  
在り、以て虚に乘じて直ちに其城に抵らば  
元濟必ず擒にすべしと。愬之に従ふ。祐及  
び李忠義先登す、壯士之に従ひ、遂に元濟  
を獲。功を以て神武將軍に封せらる。  
ライウ 李有 (元)字は仲芳。蕪州の人。  
原名は立義。古木竹石を畫く。筆意高遠な  
り。

す。期月ならずして平定せらる。  
ライウタウ 李友棠 (清)李毅の孫。官工  
部侍郎に至る。  
ライウ 李育 (漢)字は元春。涿人。少  
して公羊春秋を習ひ、班固に重んぜらる。  
草帝の時、議郎となり、後博士に拜せらる。  
昭して諸生と號せしむ。時の通儒たり。  
ライウ 李煜 (五代)南唐第三世。字は重  
光。善く文を屬し、書畫に工なり。嗣立し  
て宋の正朔を奉じて臣と稱す。立て十三年  
宋將曹彬の爲に亡さる。  
ライウ 李郁 (宋)字は光祖。光澤の人。  
少うして楊時に事へて學ぶ。時妻はすに女  
を以てす。紹興の初、嘗て召され入つて假  
殿に對す。既にして家に還り、室を西山に  
築く。學者號して西山先生となす。其の卒  
するや朱熹其の葬に歸す。著はす所易傳、  
參同契、論孟遺編あり。

以てす。  
ライテウ 李燾 (五代)仁福の子。父の  
後、延州刺史となり、彰武軍節度使たり。  
秩滿して代を受けず。州に據つて以て叛す。  
ライン 李胤 (晉)字は宣伯。襄陽の人。  
祖敏河内太守たり、官を棄て歸る。公孫度  
之を起さむと欲す。遂に舟に乗し海に浮ひ  
去る。父信之を求む數年得ず。悲哀粒を絶て  
死す。胤幼にして孤、力學して官尙書僕射に  
至る。家甚貧し、兒病む以て藥を市ふ無し。  
武帝之を開き錢十萬を賜ひ、司徒に拜す。  
ライン 李贇 (宋)本と建安の人。清節あ  
り。江南の李氏に仕へ諸司使に至る。宋の  
初、官を授けしも拜せず。進士に舉られ、  
衢州司理參軍となる。母の江南に在るを以  
て官を棄て、歸る。其の子贇已亦進士に舉  
げられ通判洪州を歴官す。時に龔夬秋高  
龔の母尚ほ恙なし。贇已親ら與して迎待す。  
龔夬草に至り其の山水を樂んで曰く、此以  
て吾の身を終る可きなりと、遂に東湖に第  
を築き以て居り。贇已官工部侍郎に至る。  
子贇晏殊との唱和集あり。

ライウ 李裕 (明)字は寶德。豐城の人。  
景泰五年の進士。御史と爲る。成化中、工  
部尙書に累遷す。孝宗の時、言官交劾す。  
帝省せず。裕連疏して休を乞うて去り、正  
徳中卒す。年八十八。  
ライウ 李佑 (明)字は育甫。清平衛の人。  
嘉靖二十六年の進士。江西副使を歴。瑞金  
廣東の賊を平げ、江西右參政に擢てらる。  
隆慶中、海寇林道乾、山寇張韶南等に敗ら  
れ、勅罷せらる。  
ライウシ 李祐之 (明)鳳州の苗帥。至正  
二十二年將英等と謀を通じ兵を擧げて反

ライウエ 李毓英 (明)固安に通判たり。  
崇禎中、賊來り犯す。家を擧て自ら縊る。  
ライクシヤウ 李毓昌 (清)字は果言。山  
東即墨の人。嘉慶十三年進士となる。獄を  
奉じて山陽縣の賑事を勘し、月口を尙稽し、  
廉して山陽令王仲漢が餽戸を浮開し、冒賑  
せるの狀を得て、清冊を具し將に知府に謁  
せむとす。山陽令之を愚ひ賂ふに重金を以  
てす。爲に動かず、遂に陰害に遭ふ。族叔  
察知して京師に走り冤を訟へて實を得。王  
仲漢を極刑に置き、毓昌に贈るに知府衛を

ライテウ 李因篤 (清)字は子德。天生  
と號す。陝西富平の人。明季諸生。天下の  
大亂を見て塞上に走り、奇傑の士を訪求し  
て、典に賊を殺して國に報いむとす。應ず  
る者なし。歸りて月を鑑して讀書す。經史  
貫穿、注疏を著はして重名を負ふ。甲申乙  
酉間、顧亭林と録双を肩して燕京に走り、兩  
ながら莊烈帝、擴宮に謁す。乙未博學鴻詞



に薦められ檢討を授けらる。尋て母の老いたるを以て休を乞ひ、門外に跪くも三日放歸せらるるに及ぶ。論者謂ふ清朝の兩大文章は、映樹が絶命疏、及び因篤の陳情表なりと。師を告げて後母を奉じて家居し、晨夕を離れず。其の學朱子を以て宗とす。音訓の學猶ほ一時に特絶す。

リウアン 劉安 (漢)淮南厲王の子。文帝の時に淮南に封ぜらる。人と爲り書を好み、學を好む。七狼狗馬の馳騁を喜まず。賓客方術士を招致すること數千人。内書二十一篇を作爲す。外書は甚だ多し。又中篇八卷あり。老莊に本づき神仙黃白の術を言ふ。武帝方に讒文を好む。安が屬に於て請父と爲り、辯傳にして善く文辭を爲るを以て甚だ之を尊重す。初め安が入朝して作る所の内篇を獻するや、上之を愛秘す。離騷傳を爲らしむ。且に詔を受け食時に上つる。又項禮及長安都國頭を上る。宴見する毎に得失及び方技賦頌を談説す。昏に及び後罷む。後謀反の事見はれて自殺す。

リウアン 劉晏 (宋)嚴州の人。遠の進士に擧げられ尙書郎と爲る。宣和中、象數百を率ゐて宋に歸す。通直郎を授けらる。金人京師を犯す。晏を以て遼東の兵を總べしめ赤心隊と號す。建炎の初、劉四彦に從つて淮西の賊を撃つ。群寇常山を犯す。晏奇策を出して之を破る。後賊を追撃する、と盛なり。定城に及び賊の爲に害せらる。龍圖閣待制を贈り、其四子を官にし、廟を死

リウアンセツ 劉安節 (宋)字は元承。永嘉の人。天資邁に近く、學を爲すに敏に、租伊川に師事す。文行を以て推重せらる。元符進士に登第し、官太常少卿に至る。弟安上。

リウアンヒ 劉安妃 (宋)徽宗の妃。寵あり、進んで淑妃に至る。建寧郡王、嘉國公、英國公を爲す。貴妃を加へらる。宣和三年卒す。年三十四。明節と諡す。帝之を悼み冊贈して皇后と爲す。

リウイ 留異 (南北)長山の人。太清の亂、侯景に從つて。異士を募り太守沈潛に從ひ入つて城を授け、城隍に還る。景平らき後王僧辨、異を以て東陽太守となす。

リウイ 劉彝 (宋)字は執中。懷安の人。幼にして介持あり。胡瑗に從つて學ぶ。善く水を治む。進士に第し胸山令と爲る。孤寡を恤み、賦役を平かにし、奸猾を抑へ、凡そ以て民に惠む所の者至らざるなし。邑人其事目を紀して油籠と曰ふ。官部水丞に終ふ。七經中論百七十七卷、明善集、居陽集各十卷を著す。

リウイウ 劉祐 (漢)字は伯祖。安國の人。河東の太守と爲る。時に令長に中官の子弟多し。祐其權強を黜げ、宛結を平理す。三たび大司農に轉す。時に中常侍蘇康、管霸、民の田業を占め、民多く困窮し、州郡氣を衰ふ。祐科品に依て之を没入す。其權實を過いざる。此の如し。

リウアン 劉安 (漢)淮南厲王の子。文帝の時に淮南に封ぜらる。人と爲り書を好み、學を好む。七狼狗馬の馳騁を喜まず。賓客方術士を招致すること數千人。内書二十一篇を作爲す。外書は甚だ多し。又中篇八卷あり。老莊に本づき神仙黃白の術を言ふ。武帝方に讒文を好む。安が屬に於て請父と爲り、辯傳にして善く文辭を爲るを以て甚だ之を尊重す。初め安が入朝して作る所の内篇を獻するや、上之を愛秘す。離騷傳を爲らしむ。且に詔を受け食時に上つる。又項禮及長安都國頭を上る。宴見する毎に得失及び方技賦頌を談説す。昏に及び後罷む。後謀反の事見はれて自殺す。

所に立つ。リウアン 劉菁 (宋)安福の人。見たりし時警額、日に萬餘言を誦す。元豊の初、進士に擧げられ繼て詞科に中る。官知峨眉縣たり改めて太學博士たり。元符中、南郊大禮賦を進む。徽宗の時、改めて著作佐郎と爲る。其文詞を爲る、剗則規頰、卓詭凡ならず。著す所龍雲集あり。

リウアン 劉安 (明)字は汝勉。慈谿の人。嘉靖五年の進士。南京工部主事より河南道御史に改めらる。甫めて一月、上疏して震怒に觸れて謫せらる。後治行卓異に擧げられ正三品の服を賜ふ。憂を以て歸り卒す。

リウアンガ 劉安雅 (宋)紹興の間、梅州に知たり。會々處賊陳榮等城を圍む。安雅命じて鈎吻草を取り研汁して酒中に投じて民居に散せしむ。賊人を遣はし膳を瀆らして金銀を求め、遂に之を獲す。盜民居に入り候飲して死する者百を以て數ふ。賊疑懼して退き去り、圍遂に解く。

リウアンシヤウ 劉安上 (宋)字は元禮。生れて淑賢あり端重にして學を嗜む。從兄安節と共に學行を以て郷里に推され、郷に聯屬せられ同じく太學に遊ぶ。一時賢士大夫慕て之と交る。劉と號す。並に紹聖の進士に登る。太學博士に除せられ阿漸學士を提擧す。陸贄して進對す。上近臣を顧みて其體積大臣の體あるを稱す。即、監察御史に除せらる。朝廷推擧れば多く以て安上に屬す。持法尤、審にして誠懇を悞す、平

リウイウ 劉俊 (漢)零陵の人。其父隸は本と彭城の人。零陵太守と爲るに及びて因て家を徙す。俊少にして佳聲あり。孝廉に擧げらる。獻帝の時、侍御史と爲り御史大夫に遷り再び尙書右僕射に遷る。朝綱總べざる所なく、臺閣之爲に肅然たり。

リウイウ 劉裕 (南北)宋の高祖武皇帝を爲す。見よ。

リウイウ 劉祐 (南)榮陽の人。開皇の初、大都督と爲り東陵縣公と封ぜらる。其占候する所符節を合するが如し。嘗て詔を奉じて兵書十卷を撰び同金縢と名づく。後復た陰策觀飛候支象要記等の書を著す。

リウイウ 劉宥 (宋)天水縣に知たり。饑ち致仕す。金兵天水本門を犯し宥の行囊を掠め、其賂命を視て曰く、我に隨て去れば北朝に官せむと。宥罵て曰く我南朝の鬼と爲るも、番賊の官隨と爲らずと。害に遇ふ。

リウイウ 劉照 (元)字は伯照。儒を善くす。山水は郭照を師とす。官秘書郎に至る。

リウイウ 劉雄 (明)臨淮の人。天順間、官四川都指揮食事たり。何洪と共に賊趙鐸を伐ち、陣に陥りて之に死す。都指揮同知を贈らる。

リウイウエキ 劉及益 (宋)永新の人。宋七び、萬山の間に卜築し門を杜して世と接せず。通鑑綱目五十卷を著す。研精覃思三十餘年を歴て後成る。

リウイウキウ 劉幽求 (唐)武強の人。聖歷中制科に擧げられ朝邑尉と爲る。初桓彦

反する所多し。殿中侍御史に遷る。蔡京が政を擅するに屬す。安上抗章して其罪數十條を直言す。又中丞石公弼と同列を率ゐて之を廷劾す。京太一宮使を以て相を罷めて遂に致仕す。安上右諫議大夫知婺州に遷る。奏して六尚衣造花羅敷を減じ、仍後ゆと爲さざらんことを乞ふ。田を市りて以て浮橋を造る。民、石に刻して之を紀す。宣和元年致仕す。官朝議大夫に至り、通議大夫文安縣開國男を贈る。

リウアンセイ 劉安世 (宋)字は器之。大名府元城の人。航の子。進士に登第して就かず。司馬光に從つて學問し、心を盡し己を行ふの要を問ふ。光之に教ふるに誠を以てす、且自ら妄語せざらしむ。始洛州法司に調せられ臺諫を歴、事を論する剛直、一時敬儒す。色を正しうして朝に立ち知て言はざるなく、言つて盡さざるなし。其面折廷諫するや、雷霆の怒赫然たるに至れば、即ち簡を執り却立して天威を伺ふ。少しく露るれば復前して極論す、一時奏對、且つ前み且卻く者或は四五に至る。殿廷觀る者皆汗縮凍聽し之を目して殿上の虎と曰ふ。哲宗の末、元祐の黨に坐して英梅等の州に安置せらる。徽宗即位して内郡に移さる。安世儀狀魁碩、音吐鐘の如し、忠孝正直、家に居て未だ嘗て惰容あらず。嘗て曰く吾元祐全人と爲つて司馬公に地下に見ねむと欲するなりと。年七十八にして卒す。忠定と諡し、元城先生と號す。

リウイウ 柳友直 (宋)湘陰の人。太學に遊び盛名あり。憂を以て歸る。兵火に罹り、清貧孤潔、妄りに取與せず。或は教ふるに生を治むるを以てす。曰く伯夷亦生を治むるやと。其刻意此の如し。

リウイウリヤウ 柳雄亮 (南北)柳の子。柳、黄衆賢に殺さる。雄亮等遺子三人、叔父慶に養はる。衆賢後ち歸順す、朝廷待つに優禮を以てす。居るふと數年、雄亮白日衆賢を長安城中に手及す。晋公護聞て大に怒り、慶及び諸子姪を執へ之を囚す。慶風せず、竟に俱に免る。

リウイク 柳瑒 (南北)字は幼文。隋に仕へて侍御史と爲る。節を持し河北に使ひし、五十二州を巡省す。奏して驢汚の者を免する二萬餘人。州縣肅然たり。上之を嘉みす。

リウイク 劉昱 (明)武城の人。吏科給事中より左通政に遷り、出で河南參政たり。後交趾に改めらる。治材あり、吏民畏憚す。永樂六年冬、大海の役に死す。

リウイシヨウ 劉易從 (唐)德威の次子。彭城の長史に累遷す。永昌中、酷吏周興の爲に誣られ、死罪を以て將に刑せられむとす。百姓奔走、争うて衣を解き地に投げて

範等、二張を誅して武三思を恐ます。幽求諫めて曰く公等葬地なからむと。果して然り。後官尙書左僕射同中書三品に至る。



曰く、長吏の爲に福を祈ると。有司平直す。乃ち十萬餘言。

リウイツ 劉鑑 (清)字は兼葛。江西豊城の人。幼にして孤なり。祖母卒して墓に廬すること三年。父の棺を象鼻山に厝す。乾隆壬戌大水あり、父の棺を暴發して漂没す。鑑棺を抱きて流に順ふこと數十里、白馬寨に至り筏に隔れて乃ち止む。母病み鮮魚を食せむことを思ふ。鑑舟を踏んで遠く求め歸つて虎に遇ふ、人立し吼ぶ。鑑之を叱して曰く、我を食へば母將に魚を食せざらむと。虎尾を揺して去る。隣に火あり、母の屍に及ばむとす。鑑外より歸り、烈燄の中を突き重衾を以て母を負ひて出で恙なきを得たり。而して鑑頭面焦灼す。

リウイツイク 劉一燧 (明)材の次子。萬曆二十二年の進士。庶吉士を授けられ、檢討に改む。兵部郎中に累遷し官に卒す。

リウイツケイ 劉一燾 (明)字は季晦。南昌の人。材の三子。萬曆二十二年の進士。庶吉士より檢討に除せらる。中外に歴官し、首輔に擢せらる。竟に告げ歸る。崇禎の初、官を復す。崇禎八年卒す。少師を贈る。福王の時、文端と諡す。

リウイツコン 劉一焜 (明)字は元丙。材の長子。萬曆二十年の進士。行人より考功郎中を歴、右倉部御史に累擢せらる。御史沈河と善らず、自ら引き去る。卒して工部右侍郎を贈らる。

リウイツン 柳棟 (南北)世隆の三子。字は文暢。早く令名あり。少くして驚什に工みに、尺牘に善く詩に長ず。太子洗馬に官す。王融、憚が播衣錦を願ふ、李卓木葉下、離曹林雲起に至つて、因て白園廬に書す。嘗て謝瀛と隣居し、相友愛す。謝曰く宅南柳耶儀表と爲す可しと。嘗て梁武帝景陽樓に登る詩に和して云ふ、太液微波起、長陽高樹秋、翠葉承瀛遠、雕甍逐風游と。深く爲めに嘆美す。兄弟十五人、迭ひ侍中と爲り、復方伯に居り。

リウウリヤウ 劉宇亮 (明)綿竹の人。萬曆四十七年の進士。東部右侍郎に累遷す。崇禎中、禮部尙書に擢てられ曾輔と爲る。

間、登弟して秘書郎となり給事中に遷る。封敎權貴を避けず。紹興中敷文閣直學士を以て致仕す。類稿五十卷あり。

リウイツシヤウ 劉一相 (明)長山の人。進士より吏科給事中を歴、故相張居止の事を追論す。執政之を惡み、出して隴右倉事とす。陝西副使に終ふ。

リウイツジュ 劉一備 (明)字は孟眞。夷陵の人。嘉靖三十八年の進士。刑部侍郎を歴、南京工部尙書に擢てらる。甯めて半歲、病を移し歸る。後徵せども起たず。天啓中、莊介と諡す。

リウエイ 劉英 (漢)楚王英を見よ。

リウエイ 劉永 (漢)梁孝王八世の孫。初め更始に従ひ封せられて梁王と爲る。更始敗るゝに及び、自ら天子と稱す。張歩、董憲等に官爵を授け遂に兵を連れ東海に據る。漢の將吳漢、蓋延の爲に滅せらる。

リウエイ 劉頤 (晉)女子。字麗芳。劉聰の妾。劉娥の姉。聰敏にして學に涉り、文詞辯辯。政事に曉達すること娥に過ぐ。初め娥と俱に左貴嬪に拜せらる。尋で卒す。諡して武德皇后と曰ふ。

諫、封州刺史となり兵萬人、戰艦餘艘あり。諫死して隱赤封州刺史となる。乾寧中虜州の將盧瑋瑊亂を作す。隱攻めて之を殺す。天祐三年節度使となる。三年遂に南平王に進む。此時中原既に亂れ、名臣世家嶺南に避くるもの多し。隱皆之を招禮す。乾化元年南海王となる。是歲卒す。年二十八。後襄皇帝と諡す。

リウイン 劉因 (元)字は夢吉。保定容城の人。儒を以て著はる。家居して教授す。至元三十年、年四十五を以て卒す。詩文を善くす。文章道徳なり。

リウインスウ 劉隱樞 (清)字は相斗。別字は喬南。陝西韓城の人。康熙十五年の進士。知蘭陽縣より貴州巡撫に累官す。滇黔に在ること各五年、斯民を教養するを以て己れの任と爲す。儒官を重んじ書院興學を建つ。農夫の孺子を見れば必ず教ふるに善を爲し惡を去るを以てす。苗獠と雖も亦然り。著す所春秋善疑等の書あり。

リウウ 劉瑒 (南北)穆之の孫。仕へて御史中丞に至る。微なる時貧に苦む。嘗て妻の家へ往て食單に檳榔を求む。妻の兄弟曰く、君嘗て飢に苦む、何ぞ此物を用ひんやと。後丹陽令と爲る。妻の兄弟を召し、金器を以て檳榔一斛を貯へて以て進む。

リウウ 劉迂 (宋)宜黃の人。隱居して仕へず。文章敏瞻、自ら一家を成す。諸子百家皆精究あり。朱陸の諸儒黨別に會するに迫り、嘗て詩を以て益を請ひ、理學に於て

るを以て重しと爲すと。從妻に在りし日、韓侂胄と面あり與に權好す。侂胄事を用ふるに及び顧之を謝絶す。刑部侍郎に累遷し、寶謨閣直學士を以て致仕す。



物の流れ入るを見れば、肌も爲に之を痛出す。獨人の負償背て償はされば立どころに其勢を放く。親の喪に居りて飲酒食肉せざるに終に三年。司馬光之を傳へ、以て今の士大夫の難き所となす。

リウエイシヤク 劉永錫 (清)字は欽爾。贛廬と號す。魏縣の人。崇禎丙子の舉人。崇禎朝を嘗て忠政あり。國變後桐城に隱居し時に絶食す。妻病み餓死し、子盜に遇て死す。永錫家を獲て、大に哭し、破船を買ひ一に江湖間を往來す。時に諸遺老に従ひて遊ぶ。嘗て舟を中流に泛べ、柁を放して歌うて曰く、白日墮兮野荒々、逐鬼雁侶分伴牛羊、壯士何心分跡故郷と。風水瀟瀟、秋聲伊鬱、聞く者之を感む。

リウエイソ 劉榮祖 (南北)懷智の庶長子。少して騎射を好み、宋の武帝の知る所となす。盧循攻めて京邑に逼るの時に及び、賊小艦に乘じ淮に入り櫓を桴く。武帝三軍に宣令して桴く賊を射ることを得ざらむ。榮祖憤怒に勝へず、桴を桴して之を射る。中る所遂に倒れて倒る。帝益々奇とす。戰功を以て太尉に遷す。從つて司馬休之れを討つ。上乃ち著する所の艦を解いて之を授く、陣を隔れれ身鎗を被る。帝北伐するに及びて饒州中兵參軍に轉ず。大に魏軍を半城に破る。帝大に將士を賞し、榮祖に謂つて曰く、卿寡を以て衆に克ち、攻むるに堅城なし、古名將と雖も何ぞ以て之に過ぎん。永初甲、輔國將軍と爲る。半城の功を

追論し、爵を賜うて都郷侯と爲る。榮祖人と爲り、財を輕んじ、義を費ひ、善く將士を撫す。官に卒す。

リウエイソ 劉永祚 (明)劉照祚の弟。字は叔道。選貢生より應、興化同知に遷る。賊曾旺を食にす。後副使を以て興化府事を知す。清兵城に入り、櫓を仰て死す。

リウエウ 劉暉 (漢)字は正禮。兄岱と名を齊す。興平中楊州刺史と爲る。袁術淮南に據る。暉乃ち居か山阿に移し、兵を遣して術を拒ぐ。楊州牧張武將軍を加へらる。孫策東渡するに及び遂に豫章を保つ。時に中國散乱し士友多く南に奔る。暉接收容、與に優劇を同し、甚だ名稱を得たり。

リウエウ 劉暉 (晉)漢(前趙)主第五世。字は永明。涪族子。幼にして孤、淵に養はる。年八歳淵に從て西山に獵し、雨に遇ひ樹下に止まる。迅雷樹に震す、旁人顔介せざるなし。暉神色自若たり。淵之を異として曰く、此吾が家の千里の駒なりと。身の長九尺三寸、文武の幹あり。淵の世に頗りに顯職を歴、相國都督中外諸軍事に拜せらる。斬暉を誅し、都を長安に定め、國號を趙と改む。暉石勒と兵を擄す。後遂に勅の爲めに滅せらる。在位十二年、改元するもの一、光初。

リウエキ 劉暉 (宋)祁州の人。性介烈。博學にして古を好み善く兵を談す。韓琦定州に知たりしとき、其著はす所の春秋論を上つる。大學助教、并州々學說書に除す。志を仕進に屈する能はず、居を廬州に移し、辟穀の術を習ふ。趙抃復た之を薦む。

リウエフ 劉暉 (三國)壽春の人。許都許其佐世の才を稱す。廬江の界山賊あり、險を守る。衆謂ふ伐つ可からずと。暉以て可と爲す。卒に度る所の如し。其他敵を料り勝を制する中らざるなし。明帝の時許を東亭侯に進む。暉朝に在り略交接せず。或は其故を問ふ。答て曰く僕漢に在つては枝葉と爲り、魏に於て心腹に備はる、偶寡く徒少し、宜に於て未だ失せざるなりと。卒して景侯と諡す。

リウエフ 劉暉 (三國)字は子陽。淮南成息の人。智勇兼全。年十三、母の爲に仇を復して仇人を殺す。頭を提て母の塚上に祭る。郭嘉之を曹操に薦む。操拜して從事と

爲す。庶官して大中大夫驍内侯と爲る。リウエフ 劉暉 (宋)字は仲文。字、字、字。崇安の人。民先の子。智謀あり兵を善くす。兄幹に從つて隨寇を平けて功あり、承信郎に補せらる再び從つて眞定を守る。適く虜城を圍む。幹、幹に命じて強弩を以て之を射む。虜犯す可からざるを知り退き去る。修武郎に轉ず。又幹に從つて河北を宣撫す。胆氣人を無れ少怯なし。疾を以て家に終ふ。

リウエン 劉衍 (漢)惠王を見よ。リウエン 劉延 (漢)賀王を見よ。リウエン 劉焉 (漢)簡王を見よ。リウエン 柳偃 (南北)字は彦游。年十二、武帝引見し、詔して何書を讀むやを問ふ。對て曰く尙書と。又問、何の美詞かある、對て曰く、德惟善政、政在養民と。衆咸な之を異とす。武帝の女長城公主に向す。附馬都尉都亭侯に拜し、都陽内史に位す。

リウトウ 柳愷 (南北)字は文深。少くして大志あり、玄言を好み、老易に通ず。武帝兵を擧げて姑熟に至る。愷、兄憚及び諸友と興に小郊に於て候接す。時に道路猶梗か、愷諸人と同しく道旅に愷うて食す。俱に去りて行くこと里餘、愷曰く寧ろ我れ人に負くも、人我れに負むく無し、若し復た追ふらば、此の密舍に愷ふに堪へむと。左右に命し道旅の命を燒き、以て後追を絶つ。常時其善斷に服す。位給事黃門侍郎を歴。琅琊王峻と名を齊し、俱に中庶子と

爲る。時人號して方正と爲す。後ら暉與王長史と爲る。リウエン 劉暉 (五代)南漢主第二世。初名は暉。暉の庶弟。騎射を善くし、手を垂るれば暉を過ぐ。暉の南海を鎮する興副使たり。唐の末帝の時暉の官爵を以て興に授く。貞明三年遂に皇帝の位に即く。性聰悟にして苛酷。刀鋸支解刑罰の刑を爲くる。人を殺すを見る毎に、覺けず菜蔬して垂涎呀呼す。人以此眞蚊蟻と爲す。又奢侈を好み、南海の珍寶を集めて玉堂珠殿を作る。誇大にして蠻夷に王たるを耻ぢ、唐の天子を呼て洛州刺史と爲す。十五年にして租す。天皇大帝と諡し、廟を高祖と號す。

リウエン 劉衍 (宋)字は成之。龍溪の人。治平間、及第して英州推官を授けらる。才識兼茂科に應じ、時務を慨言し、諷して新法に及ぶ。報罷せらる。後潮陽縣に知たり。歳大に歎す。衍縣幣を盡し家資を傾け、民困りて飢ざることを得たり。改めて新州に知たり。賊賊を擧ぐの功を以て特に朝奉郎を授けらる。秩滿ちて京師に詣る。會知杭州趙抃、日を伺うして行いて見る、育齒を贈して合はす。安石之を叱して曰く、汝等書を讀まざる故耳と。抃未だ對ふる能はず。衍曰く三皇五帝讀む所の者何の書をぞ。安石默然たり。力めて致仕を乞ふ。果れて時せらる。も起たす。

リウエン 劉炎 (宋)字は潜天。邵武の人。朱熹の門に游ぶ。

清儉にして難好なし。著す所要雅高士傳等の書、世に行はる。

リウエキ 劉暉 (南北)字は祖欣。芳の長子。父の風あり、頗る文翰を好む。魏に仕へて徐州別駕、兗州左軍府長史、司徒諮議參軍を歴。屢行臺と爲りて出使す。歴る所皆當官の稱あり。通直散騎常侍、徐州大中正、行鄆州事に轉ず。尋に安南將軍大司農卿に遷りて卒す。徐州刺史を贈らる。諡して簡と曰ふ。

リウエキ 劉易 (宋)祁州の人。性介烈。博學にして古を好み善く兵を談す。韓琦定州に知たりしとき、其著はす所の春秋論を上つる。大學助教、并州々學說書に除す。志を仕進に屈する能はず、居を廬州に移し、辟穀の術を習ふ。趙抃復た之を薦む。

リウエフ 劉暉 (三國)壽春の人。許都許其佐世の才を稱す。廬江の界山賊あり、險を守る。衆謂ふ伐つ可からずと。暉以て可と爲す。卒に度る所の如し。其他敵を料り勝を制する中らざるなし。明帝の時許を東亭侯に進む。暉朝に在り略交接せず。或は其故を問ふ。答て曰く僕漢に在つては枝葉と爲り、魏に於て心腹に備はる、偶寡く徒少し、宜に於て未だ失せざるなりと。卒して景侯と諡す。

リウエン 劉暉 (明)中部の人。父衛完、商邱名山を歴知し、字行あり。産性豪。崇禎四年、賊中部を陷る。暉父を負ひて免かる。十四年、郷舉より登封知縣を授けらる。士寇乱を爲す。暉壯士を練り、且つ守り且つ戰ふ。十五年、李自成其城を陷る、暉縛せらる、自成同郡の故を以て之を降さんと欲す。暉叱して曰く、豈に突世清白吏の肯て賊に降るあらんと。自成之を義とし、賊將を遣はして反覆説かしむ。暉執て彌厲し。乃ち殺さる。食事を贈らる。

リウエンカ 劉燕歌 (元)女子。詩を善くす。リウエンギ 劉婉儀 (宋)高宗の妃。恩を待んで權を招く。金人盟に叛かんす。劉錡を主とす。帝王繼先中より之を阻む。因て錡を誅せんと謀る。高宗憚はす。婉儀陰に其言を助得し以て帝意を寬譬す。帝繼先の言と合するを怪みて之を詰る。婉儀具に實を以て對ふ。帝大に怒て他の過に託して之を廢す。

リウエンシ 劉延嗣 (唐)武后の時潤州司馬と爲る。徐敬業潤州を攻む。延嗣刺史を以て固守す。俄にして城陷る。敬業遊へて延嗣を降さむと欲す。延嗣曰く吾世恩を蒙り、今城守らず、負く所多し、眼ぞ能く荷生して宗族羞をなさんやと。敬業怒つて之を斬らむとす。其黨魏思温救止して江都の獄に繋ぐ。

リウエンソン 劉延孫 (南北)道産の子。彭城呂縣の人。宋孝武の初、侍中たり、東



昌縣侯に封ぜらる。尙書右僕射に累遷し、金紫光祿大夫に除せられ、太子詹事を領す。出で、南徐州の刺史たり、復徴されて尙書侍中左僕射、領護軍たり。命を拜し未だ赴かずして卒す。司徒給班劭二十人を贈り、諡して文穆と爲す。

リウオウケイノツマ 劉暉景妻 (明) 邱氏、崇禎の末、賊に執へられて逼らる。從はず。賊油を其衣に注ぎて曰く、此婦個強、之を焚かむとす。邱氏晒て曰く、死か甘ずれば、溺と焚と又豈問あらむやと。賊怒り遂に焚殺す。

リウオウシウ 劉應秋 (明) 字は士和。吉水の人。萬曆十二年の進士。編修より南京司業に進む。好んで時事を論評し、爲に時に忌まる。疾を謝し歸り、數年にして卒す。崇禎中、禮部侍郎を贈り、文節と諡す。

リウオウシン 柳應辰 (宋) 拱辰の弟。熙寧間の進士。永州通判たり。嘗て梧溪の石怪、潭岩の水怪を除き、士民永く之を懐とす。

リウオウセツ 劉應節 (明) 字は子和。嘉靖二十六年の進士。戶部主事に拜す。嘉靖萬曆の交、中外に歴官して聲あり。南京工部尙書に累遷す。尋て劾罷せられて卒す。太子少保を贈らる。

リウオウセン 劉應選 (明) 四川白蓮賊の黨首。天啓二年の乱を作し、徐鴻儒に應ず。己にして捕殺せらる。

リウオウヘイ 劉應聘 (明) 字は伯衡。世

龍の曾孫。萬曆十一年の進士。庶吉士より檢討に進む。會々談話に中り論に當る。左を拂つて歸り家居すること十餘年。行人に起ち、太僕少卿に卒す。

リウオウリ 劉應季 (宋) 字は希慤。炳の孫。建陽の人。初の名業。咸淳甲戌進士に登り、定陽主簿に調ばる。元に入つて仕へず。退いて熊禾、胡庭芳と道を洪源山に講ず。居る所十有二年。後ち化龍書院を苜澤に建てて徒を聚めて講授す。學者雲集す。

リウオウリヨウ 劉應龍 (宋) 字は漢臣。高安の人。嘉熙中の進士。戶部侍郎廣東安撫に歴官す。賊を討つ功を以て封を開國男に進め、又寶琳閣學士兵部尙書たり。諱して九峰に歸る。實齋と號す。

リウオウリヨウノツマ 劉應龍妻 (明) 王氏。家貧し、女工を以て舅姑を養ふ。夫勇亡し姑に事へて孝、二十年を耐す。賊至る、其姑に謂て曰く、長孫を留め祖母に奉事せむと。遂に幼子を携へ非に投して死す。

リウオン 劉恩 (元) 字は仁甫。威州の人。男にして謀あり。材武を以て軍籍に隸す。至元間、宋將張萬、兵を以て來犯す。恩往て之を招諭す。萬降を乞ふ。旬月の間大小州邑を得ること六十四。四川四道宣慰使に擢せらる。後驗年にして卒す。

リウオンクワウ 劉恩廣 (清) 河南襄城の人。明季の寇亂に其父害せらる。恩廣年十歳父の屍を葬る。母卒して哀毀して死す。鄉賢に記る。

リウカ 劉賈 (漢) 高祖の従父兄。從て天下を定め霸王に封ぜらる。立て六年陳布反す、賈典に戰つて勝たずして殺さる。

リウカ 劉賢 (漢) 昌邑王。哀王の子にして武帝の孫。昭帝崩じて嗣なし大司馬霍光等賢を迎へて之を立つ。立て二十七日行ひ淫亂なり、光群臣と議して之を廢す。宣帝之を海昏侯に封ず。

リウカ 柳遐 (南北) 梁人。幼にして岐邁なり。謝舉之れを慕して曰く、江漢の英靈此に見らばると。周に仕ふ。

リウカ 劉訥 (唐) 字は希仁。曲江の人。善く文を屬す。馬植之を見て嘆じて曰く、韓愈の流なりと。薦めて侍御史と爲す。月を閉ちて出でず著書甚富なり。

リウカ 劉娥 (晉) 字は麗華。劉聰の妻。劉聡の女。幼にして聰慧。晝は女工を營み夜は書籍を誦す。諸兄と經義を論ずるに理趣諸兄に超越す。性孝友にして風姿に美なり。聰即位し召して右貴嬪に拜す。俄に拜して皇后と爲す。聰嘗て其廷尉陳元達に謂て曰く、外輔公の如く、内輔此後の如きあり、朕愛へなしと、死するに及び武宣皇后と諡す。

リウカイ 劉開 (漢) 孝王を見よ。

リウカイ 劉父 (唐) 少くして任俠。晩に節を折り書を讀む。韓愈天下の士に接すと聞き徒歩して之に歸す。韓愈水柱の二詩を作り、盧仝孟郊の右に出づ。因て愈の白金數斤を持して去る。曰く此墓中の人に映て得

る所、劉君に與へて毒をなすに若かずと。リウカイ 劉緒 (宋) 緒の子。初め父の隆を以て大理平事と爲る。咸平の初、進士に第す。嘗て太學頌を獻す。眞宗夜書を觀て緒の頌を得、頗る之を嘉賞す。出して以て輔臣に示す。且つ言ふ、緒孤幼にして能自立すと。召して直史館に試みらる。累遷して戶部郎中兼鑄副使に至る。

リウカイ 柳開 (宋) 字は仲塗。河中の人。少くして器識あり。文を作るに轉愈を法とす。嘗て書生に遇うて接語す、貧にして父を彈むる能ざるを以て、友に謁し資を求めんとすと。開問ふ費幾何ぞ。曰く錢二十萬を得ば可なりと。開即ち其案を擧ぐし白金數兩萬錢を得て之に贈る。

リウカイ 劉玠 (宋) 潭州の將官。建炎中、金人潭州を陷る。玠挺身血戰、數十矢に中つて陣死す。民爲に廟を立て、張栻之が記を作る。

リウカイ 劉階 (宋) 劉九升を見よ。

リウカイ 柳楷 (明) 字は文範。萬竹山人と號す。永嘉の人。詩文書畫並に皆雅なり。リウカイ 劉開 (清) 字は明東。孟鑰と號す。桐城の人。古文を以て世に鳴る。

リウカイ 劉愷 (漢) 愷の子。般死して許を弟憲に讓與し、遷徙して封を避くる、之を久しうす。永元十年帝崩して即ち拜し、侍中に遷る。愷の朝に入る、在位者其風行を仰がざるはなし。步兵校尉に遷る。十三年宗正に遷る。免せられて復侍中に拜し、

長水校尉に遷る。永初元年周章に代りて太常と爲る。愷性古直に篤し。處士徵舉ある毎に必ず嚴穴を先にす。論議弘正、辭氣高雅、六年張敏に代つて司空となる。元初三年夏勳に代つて司徒と爲る。永寧元年病と稱して相を辭す。帝初めて政を親からず、朝廷多く愷の徳を稱す。帝乃ち起居を遣問し、厚く賞賜を加ふ。陳思上疏し愷を薦め、遂に大尉に拜せらる。事を視る、みこ三年、疾を以て骸骨を乞ふ。之を久しうして乃ち許され家に卒す。使者に詔して喪事を護せしめ、東園秘器五十萬帛十疋を賜ふ。

リウカイセン 劉海嶠 (南北) 名は元英。明經を以て第に擢でられ燕王劉守光に仕へて相と爲る。素より性命の脱を喜ぶ。

リウカウ 劉邛 (漢) 膠西王。齊悼惠王の子。勇を好む。吳楚七國の反、膠東王と共に謀率たり。敗れて誅せらる。

リウカウ 劉康 (漢) 安王を見よ。

リウカウ 劉康 (漢) 濟南王康を見よ。

リウカウ 劉伉 (漢) 貞王を見よ。

リウカウ 劉綱 (三國) 字は伯賢。下邳の人。初め四明山に居り。上虞令となるに及んで漢末令王喬を慕ひ乃ち道を白君に受く。飄然として遠遊の意あり。

リウカウ 劉欣 (南北) 字は士光。平原の人。博學にして文あり。族弟許と隱居して山水書籍を以て相娛しむ。母兄に奉ずるに孝弟を以て稱せらる。寢食左右を離れず。常に人世を避けむと欲す。母老たるを以て

遠ふに忍びず。卒終論を著す。以爲らく形の神に於けるは遺族の館のみと。卒して人其行迹を誄して貞節先生と諡す。

リウカウ 劉翽 (五代) 京兆の人。建州に官たり。因て家す。官に居りて廉明、政を爲す慈惠。或は寇を攻め、或は賦を決し、或は貧を賑ふ、或は難を拯ふ。翽の至る所人則ち曰く、我を活す劉公至ると。其後孫領、嗣遂を攻め功あり、忠簡と諡す。孫純、邵冠を攻め、廟を賜ひ忠烈と諡す。從孫翰、節に死す、忠顯と諡す。翰の子子羽、忠定と諡す。子羽の子孫、忠肅と諡す。世に五忠劉氏と號す。

リウカウ 劉沆 (宋) 字は沖之。永新の人。曾祖景洪、彭玘に從はず萬餘人を活す。沆側備にして氣に任ず、天聖中進士に登り、右正言知制誥に擢でらる。陝西兵を用ふ、沆得失を極言す。執政悦ばずして曰く君の相と作るを復て之を行ふべしと。皇祐中果して相に拜す。後ち罷められ、工部尙書と爲り應天府に知たり。豫州に徙りて卒す、文安と諡す。子遠。

リウカウ 柳系 (宋) 字は善卿。崇安の人。水部に官す、少くして樂府に工なり。范鎮曰く、仁宗四十年の太平、鎮詞林に在りて此の如く久しきも、一語を出して其盛を詠ずる能はず、乃ち善卿に於て之を見る。仁宗嘗て曰く此人花前月下、淺斟低唱に任從す、豈官と作す可けんやと。遂に流落して仕へず。死するの日、家に餘資なし。群



被命を合せて之を郊外に葬り、春月毎に墓に上る。之を吊柳と謂ふ。

リウカウ 劉昂 (金)字は昂。興州の人。天資警悟、律賦自ら一家を成す。詩を作るに晚唐の体を得、尤も絶句に工なり。大定十九年進士に登る。擢てられて左司郎中となり、上京留守判官に降り、道卒す。

リウカウ 劉慶 (元)字は顯。成州涪水の人。至元間、太常博士より監察御史に拜す。卒する年八十一。嘗年宿衛を以て推重せらる。

リウカウ 劉校 (明)字は宗道。鄆城の人。性至孝。母胡氏、子に教ふることを厭なり。偶々悦ばざるあれば、鞭を長跪して辱を請ふ。正徳六年の進士。刑部主事を授けらる。父を迎へて至り、父途に卒す。校痛哭幾んぞ縋つ。父の面に塵あり、舌を以て之を拭ふ。武宗の南巡を止るの諫疏は校の草する所なり。坐して杖せられて將に死せんとす。大呼して曰く、校の死する恨なし、恨らくは老母を見ざるのみと。子元業、年甫めて十一、旁に哭す。校呼々として忠孝の義を降へ、遂に絶つ。世宗立ちて尙書卿を贈る。

リウカウ 劉綱 (明)字は之紀。禹州の人。建文二年の進士。府谷知縣より寧州知州に遷る。卒するに及び寧の民之を記る。

リウカウ 劉綱 (明)江西龍泉の人。父は九中、洪武五年の舉人。濼州巡檢に任ぜられ、道遠く家遠く、以て舟を返す能はず。后常悲泣す。其友之を憐み、唐四

監司に言ひ、轉して臨桂調等と爲す。尋て公事を假り還郷に赴くと雖も、葬處を知る者莫し。史註に入りて漸く葬の所在を得、乃ち負つて歸葬す。

リウカウ 劉綱 (明)邗州の人。應侯の子。萬曆二十三年の進士。庶百士となる。兩宮の災に由り言を上る。編修を歴。事に坐して外任に調せられ、遂に歸り卒す。

リウカウ 劉衡 (清)字は慶勛。江西南豐の人。嘉慶十八年知縣たり。少きより心を吏治に究め、律を讀むを喜む。牧令と爲りて門下を設けず、儲を堂に懸けて懸ふる者を持つ。鐘聲を聞けば立ちどころに出で罰斷す。民呼んで劉青天と曰ふ。著に庸吏庸言、廉律心得等の書あり。

リウカウアン 劉亭安 (元)范陽の人。後ら遼東に遷る。元將遼東を略す。亭安衆を率て大軍に従ひ、馬を躍らし突前す。宋兵潰走す。追撃百餘里。曉將を以て著はる。軍中獲る所の金帛は悉く將佐に推與す。故に士卒皆用を爲すを樂む。官に卒す。

リウカウシヤク 劉孝紳 (南北)小字は阿士。七歳能く文を作る。母舅王融稱して神童と爲す。且つ曰く天下の文章、我なれば常に阿士に歸すべし。薛暹後進の宗とする所と爲らん。一篇を作る毎に、朝成暮編好事の者皆爲に傳寫す。河朔平苑の柱壁、唱せざるはなし。嘗て梁武の宴に侍し、首を賦す。帝驚嘆賞して秘符を授け、拾に謂て曰く天下第一の官は第一の人を居

ふべしと。文集あり數十萬言時に行はる。兄弟及び群從子姪當時七十人あり、皆文を能くす。齊武帝の時、秘書丞に累遷す。孝紳、氣を負ひ才に依り陵忽する所多し、朝集會同する毎に公卿間に過く典に語る所なし。反つて驕卒を呼んで道途問の事を訪ふ。三弟孝綱、六弟孝威、俱に名を著す。子諒。

リウカウセイ 劉季賦 (宋)富順の人。性至孝。親の喪に甚に慮す。李見、其行を學の雁塔に紀す。

リウカウツ 劉康祖 (南北)慶の子。弓馬に便に、智力人に絶す。封を襲ひ員外郎に拜す。宋の季武、豫州刺史と爲り歷陽を鎮せしとき、康祖を以て征虜中兵參軍と爲す。既に委任せられて節を折り自ら修む。南王綏安豐府司馬を歴。魏の太武、親ら天衆を率て汝南を攻圍す。文帝將を遣はして援を求む。康祖總統前驅となり奮撃して之を破る。太武驚を燒き退き走る。左軍將軍に遷りて卒す。益州刺史を贈らる。諡して壯と曰ふ。

リウカウソン 劉孝孫 (南北)彭城の人。博學にして通敏なり。仕へて多く遊げず。嘗て嘆じて曰く、古人或は一脱を開て相稱に至り、立談して白璧を降す、書籍は忘れむ耳と。

リウカウチツ 劉剛中 (宋)字は德百。建寧縣の人。家世々儒を業とす。大父孝恭紹興辛未の第に登り、主簿に終る。叔父克明上庠に升る。少より慷慨力學、好んで文

を爲る。凡る應酬の事、遊説の樂、悉く文に於て之を現はす。莊老荀楊の書を讀み、詳解心に契するあれば、事毎に之が要を爲る。朱熹の門に登るに及んで熹首めて同ふ。何の書を讀み、如何に功を用ひたるやと。剛中樂とする所を對ふ。朱熹曰く老莊の書は人の心術を壞る、學ぶ所に非ざるなりと。是より篤く道志す。熹爲に其字を易へて近仁と曰ふ。黃幹と友とし善し切磋の益居多なり。既にして歸り、室を築いて學を講ず。號を學軒と云ふ。邦の人士翕然として之に従ふ。嘉慶四年登第して漢陽簿に調せらる。關漢丞に調せられて卒す。

リウカウチウ 劉孝忠 (宋)太原の人。母病んで三年を經、孝思股肉を割き左乳を斷ちて以て之を食せしむ。母心痛を病み劇し。又火に掌中を炙りて以て其痛を分つ。母尋て愈ゆ。母卒するに及んで富家に儲となり錢を得て以て葬る。富家養ひて己の子となす。後富家兩目明を失す、孝忠之を証り、復能く視ゆ。太祖太原を親征す、召見て慰諭す。

リウカウツ 劉康夫 (宋)侯官の人。少くして周希孟に從て學ぶ。熙寧中の進士。二十七篇を述ぶ。其文皆詩書を羽翼とし、仁義に根柢す。

リウカウレイ 劉好禮 (元)字は敬之。汴梁祥符の人。幼にして國語に通ず。益蘭京師を距る千里、俗陋治を知らず、舟航なし。釘造工匠を前に請ひ、以て其民に教ふ。

民之を便とす。美言す。象は力最巨なり、今上の乘輿象多し、危險甚たしと。後ち象果して驚き、從駕の者を傷つく。官北京路總管に至る。

リウカク 劉玘 (明)字は廷美。完雍と號す。長州の人。善く山水を寫す。林谷泉深く石亂れ水秀て、雲を生ず。綿密幽媚、風流飄然たり。冠を掛けて歸田す。高曠及ぶなし完雍集を著はす。

リウカク 劉廷 (明)汲人。貢士より照磨に進む。正徳中、武宗の南巡を諫め、遠へられて杖死す。世宗立ち刑部主事を贈る。

リウガク 劉岳 (五代)字は昭輔。洛陽の人。名家の子にして文辭に敏に談論を善くす。進士に擧げられ職を仕へて左拾遺侍御史と爲り、末帝の時、翰林學士と爲り果官して兵部侍郎に至る。梁亡び筠州司馬に貶せられ、明宗の時、兵部侍郎任贊と岳と其後に入朝せんとす。兵部侍郎任贊と岳と其後に入朝せんとす。岳曰く下鬼幽冊を遣すのみにと。兎園冊は都校但儒の川夫牧子を教ふるの誦する所、故に岳擧て以て道を贈る。道之を聞て大に怒り岳を秘書監に徙す。明宗岳に詔して古今を通知するの士を選び鄭餘慶の舊儀を刪定せしむ。岳太常博士段頤田敏等と増損して之を成す。官に卒す、年五十六。

リウガク 柳學 (宋)前に瀘州刺史にり。

成都を守るの功を以て東州節度使を加へらる。會々南詔復た黎州を陥れ、書を四川に遣り道を假り入て天子に見えて冤を訴へむと欲す。柳學、節度使牛勣に勸めて其使四十人を斬り、止だ二人を留め、授くるに書を以て之を晉特す。勣乃ち退く。

リウガク 劉亨 (金)劉彥宗の季子。大定の初、興中濟南の尹に累除し任國公に封せらる。罪あり刀を引いて自殺して殊せず、歸りて卒す。

リウガクキ 劉學箕 (宋)字は習文。坪の子。仕進に恬なり。年未だ五十ならずして南山の下に閑居し、扁して方壺間堂と曰ふ。將に身を終へむとするが如し。文を爲る高楚間雅其家傳を得たり。劉淮稱す其詩は香山の疊を磨し、詞は稼軒の肩を拍つ、松江唱扁の若きに至つては、直ちに坡仙と衡を争はむと欲すと。人以此知言と爲す。

リウガクキウ 劉學表 (宋)字は傳之。洪の仲子。父の隆を以て補承奉郎たり。多く州縣を歴。一に循良を以て治を爲す。吏民皆之に化す。嘗て撫州を守る、學校を修復し、規約を堂に刻し以て學者に示す。一時解脫義理の學を爲すに至る。移りて昌州に守たり。召し還さる。後ち果れて郡を得、病を以て赴かず。中散大夫に終る。

リウカクン 劉可綱 (明)澧州の人。萬曆間、鄉試に擧げられ刑部員外郎に歴官す。崇禎の初、諸賊を討平して功あり、尋て京師兵を破る、赴援して功を奏す。右倉部御

一三〇九



史に播弄す。事に坐し職を罷められ、家居して卒す。

リウカケイ 柳下惠 (周)展禽を見よ。リウカケイノツマ 柳下惠妻 (周)魯人。柳下惠既に死して門人將に之を誄せんとする。妻曰く將に夫子の徳を誄せんとするか、則ち二三子は妾が之を知るに如かざるなりと。乃誄して曰く、夫子之不伐兮、夫子之不墜兮、夫子之信誠、而與人無言兮、風采從容、不強察兮、窮恥救民、德彌大兮、雖遇三黜、終不敵兮、懼憐君子、永能厲兮、嗟呼惜哉、乃下世兮、庶幾遐年、今遂逝兮、嗚呼哀哉、魂神湛兮、夫子之誄、宜爲惠兮。門人之に從て以て誄を爲るに能く一字も遺るなし。

リウカツ 劉焯 (南北) 稟性剛烈。魏太和中、徐州後軍となり死を以て力戦す、衆軍散せず、遂に擒へらる。目を瞋らして大に罵り降風せず。賊の爲に殺さる。立忠將軍平州刺史上庸侯を贈る。

リウカフ 劉給 (宋) 字は仲偁、崇安の人。其先朝、五代の時京兆より関に徙る。子孫宋に仕へて忠と諡する者五人を得たり。世に五忠劉氏と號す。給進士に第し建州を縣知す。延康殿學士に累官す。宣和中再び眞定に知たり。金人京師を犯す、給を以て金營に便せしむ。金留めて用ひむと欲す。給曰く、吾生を偷んで以て二姓に仕ふるは死すとも爲さざる也と。隨て片紙に書して曰く、金人吾を以て罪ありと爲さず、予を

以て用ふ可しと爲す、夫れ貞女は二夫に事へず、忠臣は二君に事へず、況んや主辱めらるれば臣死す、順を以て正と爲すは妾婦の道なり、予必ず死する所以なりと。親信をして書を持して其子に報せしむ。軍中異姓を立てむと欲するを聞き、天を仰ぎて大呼して曰く、是有るか。遂に沐浴衣を更へ厄酒を酌み自ら椀る。金人其忠を歎す。建炎の初、資政殿大學士を贈る。後ち諡して忠顯と曰ふ。子三人。子羽、子驥、子翼。

リウカフ 劉甲 (宋) 字は師文。學の富。從て龍游に居り。淳熙の初の進士。國史院編修に累官す。金に使ひし宴に伴す。完顔なる者あり、名仁宗の諱を犯す。甲力めて完顔に辭し名を修と更めしむ。興元府を歴知す。金兵賊を立て、蜀王と爲す。甲上書して變を告ぐ。上之を覽て忠臣と稱する者再び。後ち寶慶閣學士に拜す。甲嘗て曰く吾他長無し、惟足實地を踐むのみと。蓋爲す所は夜に必ず之を書す。名づけて自鑿と曰ふ。文を爲るに平淡、美談十卷あり。卒して清惠と諡す。

リウカフツツバツト 劉哈刺拔都魯 (元) 河東の人。本性劉氏。家世々醫を業とす。世祖召見す、其目火光あるを異とし、遂に左右に侍せしめ、名を哈刺幹脱赤と賜ふ。元貞の初、御史中丞と爲りて卒す。

リウカン 劉感 (唐) 鳳泉の人。武德の初、驃騎將軍を以て涇州を守る。薛仁果の爲に圍まる。感を執へて城を以て降るを約せしむ。感給き諾して城下に至る。大呼して曰く、賊大に飢う、亡びむ。こと且暮に在らむ、奉王の兵且に至らんすと。仁果怒つて感の半身を土中に詰め、馳せて之を射る。死に至るまで罵ること亦甚だし。賊半ぎ、高祖平原郡公に追封し、其子に命じて爵を襲がしむ。

リウカン 劉侃 (元) 劉崇忠を見よ。リウカン 劉願 (五代) 劉獎を見よ。リウガン 劉願 (宋) 字は子望。彭城の人。古學を好みて草句を專とせず。進士に擧げられ、隆興縣に知たり。免官して家居し、著書を以て自適す。學者嘗て數十百人。著す所儒術通要、經濟編言あり。石介其書を見て嘆じて曰く、恨むらくは弟子の列に在らざることを。

リウカンヒツ 劉漢彌 (宋) 字は正甫。上虞の人。嘉定中の進士。嘉興府に知たり。侍御史に累官し侍講を兼ね。戶部侍郎を以て致仕す。漢彌の學、義理の辨を明にす。詔に應じて致災彌災の道を極論す。其他建明甚だ多し。卒して諡して忠と曰ふ。

リウキ 劉毅 (漢) 宗室北海敬王の子。初め平望侯に封せらる。永元中、事に坐して爵を奪はる。毅少くして文辨あり。元初元年漢德論并に憲論十二篇を上つる。時に劉珍、鄧耽、馬融等共に上書して其美を稱す。安帝之を嘉して錢三萬を賜ひ歸郡に拜す。

リウキ 劉毅 (晉) 字は仲雄。拔人。幼にして孝行あり、清節を厲む。大康の初、司

録校尉となり、豪右を糾正す、京師肅然たり。武帝嘗て問ふ、朕漢の何帝に方れると。對て曰く桓靈。帝曰く吾不徳と雖も之を方ぶるに桓靈を以てす亦甚だしからずや。毅曰く桓靈官を賣りて錢官庫に入る、陛下官を賣りて錢私門に入る、此を以て之を言へば殆んど如かざるなりと。帝笑つて曰く桓靈は此の言を聞かず、今朕直臣あり、固より同じからずと。累官して尙書左僕射に至る。

リウキ 劉毅 (晉) 字は希聖。沛人。曾祖距、廣陵の相たり。叔父鎮、光祿大夫たり。毅少にして大志あり、性剛猛沈斷、劉裕何無忌と時兵を起して桓玄を破る。累功を以て南平郡公に封せらる。復た都督荆湘雍梁益四軍事開府儀同三司荊州刺史を加へられ、持節故の如し。初、桓玄の南州に於て登を起し驍龍と號す。毅の少時の字なり、是に至つて遂に之に居り。後ち裕と相推伏せず、裕其己に貳あるを以て之を攻む、王鎮惡の爲に討はれ、毅自經して死す。家に擔石の儲なく、樽蒲百萬を一擲す。

リウキ 劉洎 (唐) 字は思道。江陵の人。貞觀中治書侍御史と爲る。尙書右丞に拜す。職務に勤む。太子初めて立つ。洎上言す、宜しく師を尊び道を重んずべしと。帝洎に勅して岑文本馬周日と東宮直せしむ。洎々侍中に遷る。帝怒ら群臣を謂つて曰く、朕今己の過ちを聞かむと欲す、卿等朕が爲に之を言へと。洎曰く頃日上書して言に稱

はざるものあれば、或は面たり窮詰せらる、言を違むる所以の路に非ずと。帝曰く卿の言善し、朕能く之を改めむと。

リウキ 劉錡 (宋) 字は信叔。德順軍の人。瀘州軍節度使仲武の第九子。容儀に美に、射を善くす。聖洪鑄の如し。嘗て父に従ひ征討す。中門水斛滿つ、箭を以て之を射、箭を抜けば水注ぐ、隨一矢を以て之を盡けらる。高宗位に即き、召見して之を奇とし、開門宣贊舍人を授け、岷州に遷知す。隴右都督と爲り、夏人と戦ひ屢々勝つ。夏人見怖げ輒ち之を怖して曰く、劉都督來る。金人二京を歸す、東京副留守節制軍馬に充てらる。所部軍總て三萬七千人、金人數十萬の衆を順昌に破る。金兵益々盛なり。乃ち峯を東村に移し、騎將開克を遣して壯士を募り、夜其營を斫る。是夕天雨ふらむと欲し、電光四に起る、鑼鑼の者を見れば輒ち之れを嚇く。金兵退くこと五十里。錡復た百人を募り以て往く。或は枚を衛まむと請ふ。錡笑て曰く枚を以てする無しと。命じて竹を斬り符を爲る、市井兒の戯を爲す者の如くし、之を以て持しめ以て號と爲し、直ちに會營を犯す。電の燭す所は則ち奮撃し、電止めば則ち止りて動かす。敵軍大に乱る。百人の者吹器の聲を聞けば即ち聚る。金人益々測る能はず、終夜自ら戦ひ、積屍野に滿つ。兀朮汗に在り、靴を索め馬に上り、七日ならず順昌に至る。

錡諸將を會して策を問ふ。衆舟を具へ師を全うして歸らんを請ふ。錡曰く朝廷兵を養ふは緩急の用の爲めなり、吾軍一び動き、彼其後を驅まば、則ち前功盡く廢せん、敵をして兩淮を侵蝕し、江浙を震盪せしめば、則ち生平報國の志、反て誤國の罪を成さむと。衆皆感動して曰く、唯大尉の命のまゝなりと。錡曹成等二人を募り得て之に諭して曰く、汝を遣はして間と作す、事捷たば重く賞せん、唯我曹の如くせば敵必ず汝を殺さず。今汝を神路騎中に置き、敵に遇へば則ち伴りて馬より墜ち、敵の爲に獲られよ。敵帥我を何如なる人と問はむ、則ち曰く、太平邊佛子、聖教を喜ぶ、朝廷兩國和を講するを以て東京を守らしむ、逸樂を圖る而已と。二人伴り執へられ言の如く兀朮に對して戰を約す。兀朮怒て曰く、劉錡何ぞ敢て我と戦はん、吾が力を以て爾の城を破るは、靴尖を用ひて邁倒する耳。謂曰く大尉但太子と戦ふを請ふのみならず、且請ふ、太子必ず河を濟るを敢てせずんば、願くは浮橋五所を獻し、濟て而して大に戦はん。兀朮曰く諾と。錡翌明果して五浮橋を頓河上に爲る。敵之に由て以て濟る。錡人遣はし頓の上流及び草中に毒せしめ、軍士に戒しむ渴死すと雖も河に飲む母れと。敵の人馬飢渴し、水草を食へば輒ち病む。錡奇兵を出して大に之を破る。捷聞す、帝喜ぶこと甚し。武泰軍節度使知順昌府治淮制置使







休養降らず。白曜崔氏に請ひて文暉と城下を巡視す。文暉哭泣し且爪髪を以て信と爲す遂に降る。平齊郡を立るに及んで休養を以て領軍令と爲す。

リウキカン 劉希簡 (明)字は以順。漢州の人。進士に第し、行人より工料給事中に擢てらる。直官を以て罪を得て罷せらる。旋々登昌知府に遷り、之を久うして卒す。

リウキキ 劉義季 (南北)魏の太祖の子。幼にして夷簡、鄰近の累なし。特に太祖に愛せらる。元嘉元年衛陽王に封せらる。食邑五千戸。五年征虜將軍と爲る。十六年臨川王義慶に代りて都督、荆湘、雍、益、梁、寧南北秦、八州の諸軍事安西將軍荆州刺史たり。持節故の如し。

リウキクワイ 劉起暉 (宋)字は建緒。朔の子。第に登り、貴溪令を歴。召されて秘書令と爲る。時望あり、議者其材職を辱めずと謂ふ。

リウキケイ 劉義慶 (南北)臨川王に封せらる。宋の宗子。潜居研志、墳籍に耽情し、宗室の表を作る。愛する所佳事清言輒ち采つて之を書す。類して之を編す世説新語と曰ふ。世に行はる。

リウキコ 劉熙古 (宋)字は曉淳。寧陵の人。博く經史に通じ、陰陽象緯等の書を究む。五代の時、第に擢んづ。周に仕へて亳州推官と爲る。宋に入り累官して參知政事たり。貴顯と雖も寒素を改めず。著す所歴代記要五十卷あり。

リウキン 劉器之 (金)祁陽の人。黒竹を以て名を得、兼て小景を畫くに工なり。

リウキン 劉冀之 (元)衡水の人。曹泰甫の妻。紅巾賊、河朔に至る。其姿色を慕び、金銀綺衣を出だして之に興ふ。賊之を棄つ。賊擁して馬に上す。乃ち爪を以て地に據る。頭、石に觸れて死す。

リウキン 劉敬柔 (金)字は君美。大興安次の人。性明敏果斷。諸官を歴、大定十年中都路轉運使に遷り、官に卒す。

リウキン 劉希仁 (宋)字は居厚。蒲田の人。嘉定四年の進士。安吉令、通判臨安府、提轄文思院を歴、引對せられて獻言す。皆貴近に渉る。時論之を壯とす。司封郎中を以て泉州を知す。淮東運判に改められ直秘閣令に除せらる。起引せられて事を奏す。尋疏を以て罷めらる。將作監に除す。希仁屢々勝を以て官を退く。中大夫に止まる。生平遷擢に遇ふ毎に必ず論建あり。屏居すと雖も猶傲を上る。

リウキン 劉季述 (唐)昭宗の時の宣者。帝の華に在りしとき季述、諸王十一人を圍殺す。又帝を小陽院に幽して太子裕を立つ。同平章事崔胤、神策將に説き季述を討誅して帝の位を復す。

リウキン 劉照祥 (明)字は仲藉。武進の人。父純仁、泉州推官。熙祚天啓四年の郷試に擧げらる。崇禎中、興寧知縣と爲る。又御史を授けらる。十五年冬、湖南を巡按す。李自成、荆襄諸郡を陥れ、張獻忠、靳

黃を破る。熙祚明年二月を以て岳州に抵り、諸將に檄して江濟を防ぐ。五月總兵尹先民副將何一德をして羅塘河を守らしむ。長沙の守る能はざる時、惠王吉王出奔せんとす。熙祚率て衡州に奔る。已にして衡州陥る。乃ち部將を遣し、二王を護りて廣西に走らしむ。已にして永州に返り拒守す。賊騎之を執ふ。賊忠跪かしむ。風せず。賊群之を歐ち、殿城より曳いて羅禮門に至る。膚盡く裂く。降將尹光兵をして之を説かしむ。終に變せずして殺さる。太常少卿を贈り、忠毅と諡す。

リウキソウ 劉起宗 (明)巴縣の人。初め衢州推官たり。嘉靖中召して戶科給事中に擢づ。延綏府に饑。帑金を請ひて振救す。嘗て嚴嵩を劾し、爲に陥らる。遼東苑馬寺に終ふ。

リウキソウ 劉義夏 (宋)字は仲夏。晋城の人。歐陽脩河東に使し、其學術を薦めて大理評事に試み著作佐郎に累遷し、終に崇文院檢討たり。義夏強記多識、尤も星曆術數に長す。唐史を脩むるの時、専ら律曆天文五行志を修む。十二代史竝に劉氏輯曆、春秋災異の諸書を著す。

リウキソウ 劉季孫 (宋)字は景文。饒州酒務を監す。時に王介甫江東提刑と爲り、酒務の事を按ず、屬上屏間小詩を見る。云はく、昵喃燕子語梁間、底事來驚夢裏閑、既興傍人渾不解、杖屨携酒看芝山と。即ち務事を問はず車に上て去り、羞して學事を

攝せしむ。季孫此に由て名を知らる。後臨州を知して卒す。家に餘財無く但書三萬、軸畫數百幅あるのみ。

リウキチ 劉季儂 (明)名は韶。字を以て行はる。餘姚の人。洪武中の進士。行人に除せらる。永樂中、工部主事と爲り、官に卒す。

リウキチウ 劉義仲 (宋)字は壯興。怒の孫。史學に長す。平居節操を厲み、祖父の風あり。後蔡京の薦を以て召されて修史檢討と爲る。京師に至る。時宰以下並びに造謁せず。京に忤ひて復仕へず。廬山に卒す。著す所大初曆あり。

リウキツ 劉吉 (明)字は祐之。博野の人。正統十三年の進士。庶吉士より修撰を歴。弘治中、少師兼太子太師華蓋殿大學士に累擢せらる。老を乞て歸り、卒す。太師を贈り、文穆と諡す。

リウキ子 劉嗣年 (宋)字は且老。孝宗の時武陵に知たり。寬嚴則あり。境内の胃耕蕪田を究正し、訟を息め賦を均し、版籍を定め、淫祠を毀ち、其倡首者を罪す。部使者朝に聞す。龜年秩滿して朝に遣る。遂に朝政府に謁せずして歸る。通判沅州に遷る。

リウキハイ 劉季表 (宋)字は少庭。福安の人。十歳文を能くす。紹興中の進士。秘書丞、監察御史、起居郎兼太子左庶子を歴。朝散郎秘書丞に終る。季表乾道の間十論を作り以て進む。中一篇屯田の事を論ずる

甚だ群なり。上方に兩淮に行かむと欲す。屯田の事大に稱賞せらる。經筵の顧問、對する所皆旨に稱ふ。著す所、論孟周易解、頤賢遺稿あり。

リウキヒ 劉貴妃 (宋)徽宗の妃。濟陽郡王棧、郡王機、信王様を生む。政和三年卒す。冊贈して后と爲し、明述と諡す。

リウキフ 劉欽 (漢)淄川王欽を見よ。

リウキブン 劉希文 (明)天啓元年、奢崇明の部將樊龍、興文を犯す。知縣張振徳之に死するや、教諭希文代て縣事を署す。甫めて半歳、賊復に城に薄る。死を誓ふ。去らず。妻白と共に賊を罵り死す。

リウキン 劉欽 (漢)字は子駿。父向と校秘書を領し六藝傳記諸子詩賦、術方技を講す。王莽位を篡ふ。欽遂に國師と爲る。

リウキン 劉歆 (南北)字は景興。芳の次子。魏靈太后朝に臨み稍光祿大夫に遷る。武帝の初、散騎常侍驍騎大將軍國子監宗酒に除せらる。尋て都官尚書を兼ね、又殿中尚書を兼ねる。

リウキン 劉瑾 (宋)沆の子。進士に登り天章閣待制に累官す。又瀛慶江福泰五州を歴知す。至る所能を以て稱せらる。

リウキン 劉均 (金)河南林慮の人。正大中、亳州觀察判官たり。天興元年元の兵至り大に抄掠して去る。六月宋兵復至る。提控楊谷均を脅して同く降らんとす。均伴りに之に應じ、其家に歸り朝服を取り妻子を顧みて曰く、我れ身を刀筆に起し、仰て上の

知を荷ひ、始めて朝著に列し又大藩を併く、死するも亦足ると。即ち髮を仰いで死す。

リウキン 劉謹 (明)浙江山陰の人。洪武中、父法と座して雲南に戍す。家人に問ふ。雲南は何くにか在る。家人四南を以て指す。曠ら朝夕之に向て拜す。年十四、嬰然として曰く、雲南萬里と雖も天下豈に父無き子あらんやと。身を奮て往く。六月を閉して著す。父逆賊に遇ふ。相持して號勸す。俄にして父逆軍を患ふ。謹身を以て代らんを請ふ。法令に、邊を戍する者は必ず十六以上、嫡長男にして始めて代るを許すと。時に謹未だ丁年ならず。伯兄も亦死す。乃ち家に歸りて兄の子を携へて往く。兄の子亦弱くして自立する能はず。復た歸りて悉く其産を購きて兄の子に早へ始めて父を奉じ、還るを得、孝養して身を終ふ。

リウキン 劉瑾 (明)興平の人。本と談氏の子。中官劉姓なる者に依り以て進む。其姓を冒す。武宗に東宮に侍す。武宗即位し、馬永成、高鳳、羅祥、魏彬、邱聚、孫大用、張永と並に瀆恩を以て幸を得、八虎と號す。而して瑾尤も狡狠なり。日々に鷹犬舞角、舐の戯を進め帝の微行を導く。帝大に之を厭樂して漸く信用せらる。内官監に進み團營を總督す。正德元年外廷、八人の帝を遊宴に誘ふを知り、大學士劉健等頻りに奏草して之を諫む。王岳、范亨、徐智等亦八人を誘ふ之を除かん欲す。八人夜帝の前に伏して環泣す。帝心動き岳及び亨を殺し、







平ぐ。十年卒す。固風伯を贈り殺敵と諡す。玉璽に起ると雖も、勇決人に過ぎず。子文。リウキヨヨウ 劉巨容 (唐)徐州の人。州の大將と爲る。勳功の反する、自ら抜いて歸る。補橋鎮邊使を授けらる。浙西突陣の將王郎反して明州を攻む。巨容箭筒を以て郡を射抄す。明州刺史に拜せられ、楚州團練使に徙る。黃巢江淮を亂す。斬黃招討副使を授けらる。襄州行軍司馬檢校右散騎常侍に徙る。果して賊功を立て、檢校禮部尚書に遷る。復た南面行營招討使に遷る。果して天下兵馬先鋒、開道軍糧使、檢校司空、彰城鎮使に遷る。

リウク 劉矩 (漢)字は叔才。沛州蕭の人。少くして高節あり。孝廉に擧げられ、雍邱令となり、尙書令に累官す。性亮直にして貴勢に附かず。延禧中、大尉となり黃瓊神高と心を同うして政を輔く。時に賢相と稱す。

リウク 劉訐 (南北)字は彦度。平原の人。玩弄、劉歆と三隱士たり。鍾山を築きて終焉の志あり。孝標嘗て東を興へて云ふ、訐は超凡越俗、中天的朱履の如し、歆は儒々出塵、雲中の白鶴の如し、皆歎詠の梁塵、終年の絳纈と。嘗て鹿皮の冠を着け、朝衣を被り、山澤に遊ぶ。風神頗俊、意氣飄々遠し。遇ふ者以て神仙と爲す。

リウク 劉响 (五代)字は日輝。涿州臨饒の人。其兄暉、弟緯と皆學を好むを以て名

を知らる。唐の莊宗の時太常博士翰林學士と爲り、黃唐書を監修す。長興三年相に拜せらる。晋の高祖の時、東都留守と爲り、魏を列す。開運中司空同中書門下平章事に拜す。目疾を以て罷め太保と爲る。是歲卒す、年六十。

リウク 劉翊 (明)字は叔温。壽光の人。正統十三年の進士。庶吉士より編修を歴。成化中、太子太保國子監大學士に累遷す。弘治三年卒す。文和と諡す。

リウク 劉夔 (漢)字は魯安。東海郡の人。初め幽州刺史と爲る。民夷其德に感化す。後大司馬と爲り封侯に進む。務めて寛政を存し、農殖を都督す。民年登を悦ぶ。曾徐の士庶、難を避け虞に歸する者百萬口を累ぬ。

リウク 劉愚 (宋)字は必明。龍游の人。上舍補第一に居り。江陵府教授に調せらる。蚤晩諸生の爲めに講説す、同僚相率ゐて以て日に聽く。養適、項世安と講論して倦まず。愚隱居して道を學ぶを以て樂みせなし、仕進を樂まず、遂に致仕す。妻徐氏亦賢操あり。

リウク 柳遇 (清)字は仙期。吳人。書を善くす、尤も人物に工みに、精密生動、布置樹石、欄廊點綴、幽花細草以て玩物許血に及ぶまで、色々佳妙なり。

リウク 劉愚妻 (宋)徐氏。初め室に在るとき、其の母、富者に嫁せしめんとす。徐泣いて曰く富人の妻となるを願はず。

願くは學士に嫁せんと、遂に愚に歸く。破屋の中に在りて日に機杼を事とす。

リウケン 劉君培 (明)新安の人。義行あり。崇禎六年冬、群盜河南を侵すや子及び從孫を擄へて難を避く。道にして賊に遇ふ、其從孫を殺さん欲す。君培曰く、我尙男あり、此子乃ら遺孤なり、幸に之を捨て、我を殺せと。賊其言の如くす。

リウケン 劉君長 (唐)瀘州の人。四世居を同す。門内尺布斗粟、私する所なし。隋末荒饑、妻之に居を異にせむ事を勸む。君長因て斥け去り、兄弟を召して復た同居す。天下亂る、鄉人共に之に依る。衆聚きて堡を爲り義賊と號す。其家六院一庖を同うし子孫皆禮節あり。貞觀中其門を旌す。

リウクワ 劉和 (晉)漢(前趙)主第二世。字は玄泰。涪の子。身の長八尺、雄毅にして姿儀に美なり。立つて一月衛尉劉毅宗正呼延攸が言を聽き宗室を誅せんとす、却て大司馬劉聰に破られて殺さる。

リウクワ 劉暉 (晉)字は大連。訥の姪。少くして文翰あり。乱を避けて江を渡る。元帝以て從事中郎と爲す。王敦の亂を作すに及び隗青除に都督たり。入見して王氏を誅せむことを奏す。帝從はず、遂に石勒に奔る。孫波。

リウクワ 劉綰 (南北)字は士章。後弟。中書郎に歷位す。永明の末、都下の人、盛んに文章を爲り、曾景陵王の西邸に

集り、給後進の領袖と爲る。時に張融は言辭の便捷を以て、周顒は清綺を以て名あり。而して繪音采富麗麗雅にして風則あり。時に語つて曰く、三人共宅夾清潭、周南周北劉中央と。

リウクワ 柳椿 (南北)慶の兄。魏興太守と爲り、賊黃兼襲に害せらる。其子雄亮、仇を復す。

リウクワ 劉魁 (明)字は煥吉。泰和の人。王守仁に學ぶ。嘉靖の初、選ばれて寶慶府通判たり。諸州府を歴て工部員外郎に遷る。安撫、事を陳して嘉納せらる。二十年秋、土木を諫むるに坐して獄に下る。後釋されて卒す。歴慶の初、贈郵制の如し。

リウクワ 劉綰 (明)字は子案。一字は少賢。光州の人。嘉靖十四年の進士。行人より戶科給事中に進む。俺答の亂、策を獻する所あり、帝其言を壯とす。出で重慶知府たり。上官交薦して政府に入んとす。忌む者あり之を論罷す。家居二十年にして卒す。

リウクワ 劉慎慎 (南北)彰城の人。少くして謹慎質直なり。宋の振威將軍彰城内史たり。高祖に従つて盧循を石頭に拒ぐ。屢戦て克捷す。輔國將軍を加ふ。彰城を鎮し、徐州刺史を加せらる。政を爲すに嚴猛、境内震肅す。子榮祖。

リウクワ 劉慎 (南北)彰城の人。宋武帝の從母兄。家貧寒にして躬耕す。學を好む。初め齊朔府司馬と爲る。孫思を

征して屢々功あり。費令となる、後司馬となる。江陵を平け東興縣侯に封せらる。

リウクワ 劉慎 (南北)字は道玉。平原の人。漢の膠東王の後。初め江夏王劉義恭に隨つて魯曹參軍と爲る。明帝召還して輔國將軍となし文惠侯に封す。出で竟陵太守に補せらる。建平王景壽、荆州と爲り、仍右都司馬に徙る。南郡太守沈攸之、湘南に寓す。慎珍曰く攸之の矜躁、慮楚服に加はり、兵を中流に阻して、劫主を聲劫すと。即ち璽子醫を遣して兵を領して京師を衛る。攸之許天保を遣はして來り説かしむ。慎珍之を斬る。攸之郢城を圍むに及んで慎珍復た建藩に令たり。平南將軍に進む。卒して諡して敬と云ふ。

リウクワ 劉愨 (南北)字は彦泰。宋に仕へて尙書郎中となる。父亡す、喪を持して醴醢を食せず、冬日祭衣を用ひず。姑弟妹を養ひ、寡叔母に事へ皆恩義あり。

リウクワ 劉廣 (五代)潞州節度使高潯の將。唐の廣明中、潯を逐ひ、遂に亂軍の爲に殺さる。

リウクワ 柳安 (宋)字は巨卿。建の人。咸平間、進士に擧られ、江州德化縣に知たり。盧山か過ぎ美を受して已まず。官九卿に至る。志、肥遁を樂み、卒に歸隱す。

リウクワ 劉廣 (明)太祖の時指揮食事を除せらる。永平を成り冠を擧げて戦死す。褒贈あり。

リウクワ 劉廣 (明)字は元博。長州の

人。書を善くす。

リウクワ 劉皇后 (南北)齊の高帝の後。名は智容。廣陵の人。祖玄之、父壽之、並に員外郎たり。嚴整にして規模あり。造次必ず禮法に依る。太子及び豫王誕を生む。泰豫元年殂す。

リウクワ 劉皇后 (南北)齊の明帝の後。名は惠端。彰城の人。光祿大夫道弘の孫。高帝、明帝の爲に后を納る。建元三年四昌侯夫人と爲る、永明七年卒す。明帝即位し追贈して皇后と爲す。

リウクワ 劉皇后 (南北)魏の道武帝の妃。劉眷の女。登國の初、納られて夫人となる。華陰公主及び明元を生む。魏の故事に後宮の產子、將に儲貳らむとするや其の母皆死を賜ふ。道武の末年后諸法を以て堯す。明元即位し、追尊して太廟に配饗す。此より後宮の帝母となる者皆配饗を正しす。

リウクワ 柳皇后 (南北)陳の宣帝の後。名は敬言。河東解縣の人。父偃。后九歳にして家事を幹理し成人の如きあり。侯景の亂、弟盼と共に江陵に往き梁の元帝に依る。帝以て宣帝に配す。後主を江陵に生む。宣帝即位し立て皇后となす。后姿容美に身の長七尺二寸、手垂るれば膝を過ぐ。後主創を患ふ。其の叔陵の誅戮、喪事邊境の防守、及び百司の衆務、後主の教に假く、と雖も實は皆后に決す。后性謙謹、未だ嘗て宗族を以て請をなまず、衣食と雖も亦分



遺する所なし。大業十二年東都に薨す。年八十三。

リウクワウコウ 劉皇后 (唐) 睿宗の后。祖德威。儀鳳中、帝の藩に在りしとき納れて攝人となす。俄にして妃となり、寧王曹昌代國二公主を生む。帝位に即きて皇后となる。睿宗二年武后の爲に殺さる。

リウクワウコウ 劉皇后 (五代) 唐の廢帝の后。父茂威。應州涇元人。后人と爲り強悍。廢帝之を畏懼す。初め沛國夫人に封ぜらる。廢帝即位して皇后と爲す。后弟延皓少くして任へて牙將、爲り、后の故を以て事を用ふ。延皓謀を法に處せむと請ふ。帝后の故を以て其官爵を削るのみ。石敬瑭反して其兵至らむとするに及び、皇王重美曰く新天子至る、必ず露坐せず、他日重く民力を勞せば、怨を身後に取るのみ。后以て然りき爲す。廢帝自ら焚死す。后及び重美と俱に死す。

リウクワウコウ 劉皇后 (五代) 唐の莊宗の后。魏州成安の人。初め魏國夫人に封せらる。后の父劉更、黃驪にして醫卜を善す。后生れて五六歳、晉王魏を攻め成安を掠む。神將裴建豐、后を得て之を晉宮に納る。貞簡太后教ふるに吹笙歌舞を以てす。既に弊して甚色あり、莊宗見て之を悦ぶ。莊宗已に晉王と爲る、太后其宮に幸し、醜酒して

毒を爲し、自ら起て歌舞す。太后劉氏に命し笙を吹き酒を佐けしむ。酒罷む劉氏を留め以て莊宗に賜ふ。其後劉氏子繼安を生む。莊宗以て已に類すを爲し之を愛す。是に由て劉氏寵益々厚らなり。劉氏多智、善く意旨を迎合す。其他の嬪御進見を得る無し。其父、劉氏の貴を聞き魏宮に至り上謁す。莊宗寔建豐を召して之を問ふ。建豐曰く臣始め劉氏を得る時、黃髮丈人あり之を護す。乃ち劉更を出だして之を示す。建豐曰く是れなりと。然れども劉氏方に諸夫人と寵を争ひ、門望を以て自ら高ぶる。因て大に怒て曰く、妾不幸にして兵に死す、妾時に戸を環り慟哭して去る、此の田舎翁安んぞ此に至るを得むと。因て命して劉更を宮門に管つ。同光二年冊して皇后と爲す。后微賤に出で次を踰え立つを以て佛力と爲す。又聚斂を好む。四方の貢賦必ず分ちて二と爲し、一は天子に上り、一は中宮に入る。宮中貨財山積す。惟佛書を寫し僧尼に饋賂す。莊宗愛姫あり甚色あり。后心に之を思ふ。元行飲、婦を喪うて側侍す。后愛姫を指さし帝に請うて曰く、帝行飲を憐む何ぞ之を賜はざる。莊宗伴り之を諾す。后行飲を趣がし拜謝せしめ、愛姫を與して宮を出でしむ。郭從謙反す。莊宗流矢に中りて傷み渴して飲を欲す。后宜者をして醫治を進めしむ。莊宗崩す后百騎を擁して師子門を出づ。大原に至り尼と爲らむと欲す。道に在り李存進と遇す。明宗立ちて人を遣は

し後に死を賜ふ。  
リウクワウコウ 劉皇后 (五代) 周の世宗の后。其世家を知らず。鹽し微時に娶る所なり。世宗太祖に魏に從ふ。后京師に留まる。太祖兵を擧ぐ。漢、太祖の家族を誅す。后も亦殺さる。太祖即位して彭城郡夫人に追封す。世宗顯德四年追冊して皇后と爲す。  
リウクワウコウ 劉皇后 (宋) 哲宗の妃。初め侍御と爲る。明體にして才藝多し。盛寵あり、賢妃に進む。獻愨太子を生む。孟后中宮に位せし時、后列妾の禮に循はず。且陰かに奇語を造て以て勝る。孟后廢せられ、后竟に代る。徽宗立ち、冊して元符皇后と爲る。明年太后と爲る。后頗る外事に干預し且不謹なるを以て遂に左右に遣られ簾鉤を以て自縊す。年三十五。  
リウクワウコウ 劉皇后 (宋) 眞宗の后。華陽の人。祖延慶、交通。眞宗位に即くに及び入つて美人と爲り、德妃に進む。眞宗卒に立つて后と爲す。后仁宗を養つて己の子と爲す。后性警悟、書史を曉り、朝廷の事を聞き、能く本末を記す。眞宗病むに及びて事後に決す。眞宗崩じて仁宗幼なり。遺詔して后を尊んで皇太后と爲し、權に軍國の事を處分せしむ。帝太后と五日に一たび承明殿に御し、簾を垂れて政を聽く。吾生日を稱して長寧節と爲さしめ、出入毎に大安堂に御して鞭を鳴らす。侍衛乘輿の如し。明道二年崩す。年六十五。后制を稱する十一年、號令嚴明、恩威天下に加はる。丁謂、

曹利用並に權を侮るを以て貶置せらる。小臣方仲弓上書して武后の故事に依て劉氏の廟を立てんとを請ふ。后其書を地に擲て曰く、晉祖宗に背くの事を作さざらん。晚に稍外家を進め崇勳勢中外を傾く。太后帝を保護して既に力を盡せり。帝の太后に奉ずる所以も亦備はれり。太后崩して後言者多く制を稱せし時の事を追証す。范仲淹以て言を爲す。上曰く此朕の聞くに忍びざる所なりと。詔を下して中外を戒め輒ち言なからしむ。

リウクワウサンノツマ 劉光燦妻 (明) 李氏。高陵の人。天授し志を勵まし節を守る。崇禎四年賊高陵を陷る、李氏年七十九、自刺して流血淋漓たり。賊飲食を與ふ。罵て曰く、吾れ賊食を啜らすと。遂に死す。

リウクワウシ 劉廣之 (元) 燕人。工に墨竹を畫く。  
リウクワウシヤウ 劉黃裳 (明) 繪の子。嘉靖中、兵部員外郎。拜す。倭寇を討ち功あり。錄して郎中に進めらる。  
リウクワウセイ 劉光世 (宋) 字は平叔。延慶の子。河北の賊を討つて功あるを以て鎮海軍節度使に拜す。後高宗に從つて南渡し、累れて戦功を立つ。楊國公に封ぜらる。卒して武僖と諡す。後鄭王に追封せらる。  
リウクワウセン 劉光先 (明) 里居詳ならず。豊縣を知す。清兵二千騎來り攻む。殉す。  
リウクワウツ 劉光祖 (宋) 陽安の人。進

士に登り、瀋州提刑司檢法と爲る。淳熙の初、召されて恢復の事を對論す。光宗の時殿中侍御史と爲る。道學の保る所を論ず。嘗て涪州學記を撰ぶ。諫官指して誘誦と爲す。職を奪はれて房州に謫居す。顯慶閣直學士に終る。卒して諡して文節と云ふ。著す所後漢集あり。

リウクワウツ 劉光祚 (明) 字は鴻基。翰林館の人。初め諸生たり。天啓中、遊擊と爲る。崇禎間、功を以て署都督僉事を加へられ山西副總兵に進む。後清軍と戦ひ項城に敗死す。

リウクワウツ 劉和仲 (宋) 恕の次孫。義仲の弟。超軼の才あり。詩を作る、清興刻厲、自ら一家を成さむと欲す。文を爲りて石介の俠氣あるを慕ふ。蚤く死す。  
リウクワウツ 劉著 (金) 彦宗の次子。遼の進士。金に歸して左司郎中に遷り殿中少監に至る。大祖崩す、宋夏各使を遣して弔慰す。凡そ詔見の禮儀、皆著が詳定する所。衛尉少卿に遷り、元帥府に從事し便宜を以て事に從ふを得、凡そ約束の廢置及び四方の號令多く經畫に従ふ。天會五年行臺右丞相に累遷す。九年平章政事に轉じ吳四公に封せらる。二年右丞相に拜し中書令を兼ね鄭王に封せらる。疾を以て解職を求め燕京留守を授けられ又曹王に進む。海陵即位して意頗る之を鄙とす。居ること數月にして卒す。  
リウクワワン 劉寬 (漢) 字は文饒。華陰の

人。司徒崎の子。性仁厚。桓帝の時、南陽太守に遷る。吏民過あれば必蒲鞭を用つて辱を示すのみ、終に苦を加へず。縣を行り父老を見る毎に、慰むるに農を務むるの方を以てし、勉るに孝弟の訓を以てす。人徳に感じて行を興し、日に化する所あり。嘉平中大尉に拜す。朝會に夫人試みに寬をして諱らしめむと欲し、侍婢をして肉羹を捧げ其朝衣を汚さしむ。寬神色異らず、乃ち徐に言て曰く、羹汝が手を爛せざるやと。其性度此の如し。寬嘗て坐に於て酒を被り睡伏す。帝曰く大尉醉るか。對て曰く敢て醉はず、但臣が任大に責重し、憂心醉へるが如しと。後遂郷侯に封ぜらる。寬嘗て外に行く。人の牛を失ふ者あり、寬の車中に就て之を認む。寬言ふ所なく駕を下り歩いて歸る。頃ありて認者牛を得たり、牛を以て送還し、叩頭謝して曰く惹づらくば長者に負く、刑罪する所。隨はむと。寬曰く物に相類あり、事に脱誤あり、幸に歸るるを勞す、何ぞ之を謝すと謂はむやと。州里其不校に服し皆悦んで化に従ふ。  
リウクワン 劉渙 (宋) 字は渙之。高安の人。天聖中顯上令と爲る。剛直にして逢迎を善くせず。官を擧て、廬山の陽に歸る。歐陽修と同年。修其節を高しとし、廬山高を賦し以て之を美さす。中に丈夫高、似君少の句あり。朱熹南康を守る。爲めに耻亭記を作る。蘇轍は其水清玉潔潔不撓、儼乎と今世の士にあらざるを稱す。張、云ふ。



文章は司馬遷に似て遷其氣節無く、風節は  
魏廣受に似て廣受其文學無しと。漢隱居す  
ると三十載。四壁蕭然たり。西潤先生と號  
す。

リウケイ 劉煥 (金)字は徳文。中山の  
人。稍長じて學に就く。天寒し、燭火を擁  
して讀書怠らず。天徳元年進士に登り、諸  
官を歴。世宗上京に幸するや、遼東路轉運  
使に遷りて卒す。

リウケイ 柳貫 (元)字は道傳。婺州浦  
陽の人。六經百氏、兵刑律曆、術數方技に  
至るまで通ぜざるなし。大徳中、翰林待制  
と爲る。官に到り七閏月にして卒す。字系  
二卷、近思錄廣輯三卷、金石竹帛遺文十卷  
を著す。

リウケイ 劉觀 (明)雄縣の人。洪武十  
八年の進士。縣丞より知府を歴。仕へて仁  
宗の時に至り、左都御史に歴遷す。事に坐  
し、謫せられ貶所に死す。

リウケイ 劉觀 (明)字は崇觀。吉水の  
人。正統間の進士。忽ち疾を引き告歸し、  
門を杜らして書を讀み、經史の學を求む。四  
方來學する者甚衆し。縣令書院を虎邱山に  
築き、名づけて養中と曰ふ。終日端坐して  
懈容なし。又勤儉恭恕の四箴を作り以て其  
家に教ふ。

リウケイ 劉貫道 (元)字は仲賢。  
中山の人。工に造熟人物鳥獸花竹を畫く。  
一古を師とし諸家の長を集む。故に尤も  
高く時輩に出づ。山水は郭熙を宗とし、佳

處眞に迫る。至元十六年、祐宗が御容を寫  
し旨に稱ひ、御衣局使に補せらる。  
リウケイ 劉景 (漢)定陶王。楚王紆の弟。  
成帝の時立てらる。王莽の時に絶へる。

リウケイ 劉惠 (漢)韓魏冀州の牧たりし  
とき惠治中たり、時に冀州刺史を起し、董卓  
を討を以て名と爲す。諫衆に謀つて曰く、  
冀氏を助けむか、董氏を助けんか。惠勃  
然として曰く兵を興すは國の爲にす、安ん  
ぞ董董の間はむと。衆其言に服す。

リウケイ 劉荆 (漢)思王を見よ。  
リウケイ 劉京 (漢)孝王を見よ。  
リウケイ 劉慶 (漢)孝王を見よ。

リウケイ 柳慶 (南北)字は更興。幼にし  
て聰敏、器量あり。博く群書に涉り、章句  
を爲めず。飲酒を好み寡對に習ふ。年十三  
のとき、父僧習、試に慶をして裸賦集中に  
於て、賦一篇千餘言を取て之を誦せしむ。  
慶立讀三遍、便ち之を誦して漏らさずしむ。  
家を奉朝請に起して相府東閣祭酒に除せら  
る。慶威儀端肅、樞機明辨。文帝詔命を發  
する毎に慶をして之を宣せしむ。天性抗直  
にして違違する所無し。文帝亦之を以て委  
使す。恭帝の初、位を驃騎將軍府同三  
司尚書右僕射に進む

リウケイ 劉景 (遼)字は可大。河間の人  
景宗のとき忠實を以て禮部侍郎に擢んでら  
る。尚書に遷り、宣政殿學士を兼ね。上方  
に備川せむと欲す。其勢に書して曰く、劉  
景宰相たるべしと。武定間遼二軍節度使を

歴。統和二年致仕す。卒する年六十七、太  
子太師を贈らる。  
リウケイ 劉榮 (清)字は敬子。山東諸城  
の人。康熙二十四年の進士。三十四年出で  
、長沙縣を知し官を布政使に累ぬ。官に居  
り廉潔、義を見て奮發し、尤も善く變に應  
ず。寧遠州に知たりし時歲大に飢う。粟を  
發して全活せる者算なし。寧人素と蠶を知  
らず。榮之を養ふことを教へ、復之を織る  
を教ふ。州人之を利とす。名づけて劉公  
綱と曰ふ。卒する年六十有二。

リウケイ オン 劉繼恩 (五代)吳漢主第三  
世。承約の妻。本姓薛。曼の女の子。立  
て二月其下に殺さる。

リウケイ クワ 劉敬和 (唐)高苑縣令たり。  
嘗て淄州高山郡平に令たり。皆聲あり。高  
苑に至りしとき適々飢う。即ち糧に倉を  
開きて民に賑はす。民歌うて曰く、高苑之  
樹枯已榮、淄州之水潭已澄、鄒邑之名仆已  
行と。其德政を述べ、碑を縣治に樹つ

リウケイ ゲン 劉繼元 (五代)東漢主第四  
世。承約の養子。本姓は何。曼の女の子。  
太平興國四年宋に降る。宋以て右衛將軍と  
爲し、彭城公に封す。

リウケイ コウ 劉繼興 (五代)劉榮を見よ。  
リウケイ セイ 劉繼聖 (清)字は衍泗。山  
東濰縣の人。歲貢を以て訓導を授けらる。  
湖、慈利縣に遷る。汝む所政あり。康熙  
四十二年家に卒す。

リウケイ セン 劉敬宣 (南北)字は萬壽。

卒の子。八歳母を喪ひ、悲泣自ら勝へず。  
成人卒之に謂て曰く、此兒惟は家の孝子の  
みに非ず、必ず國の忠臣とならむと。宋に  
仕へて官主右軍將軍たり。後者に遇ふ。

リウケイ ソウ 劉崇 (南北)丹陽の人。  
劉宋の竟陵王誕の子。景祥の侍書と爲る。  
誕廢陵に反す。宋の世祖、鎮北將軍沈慶之  
をして之を討せしむ。誕誅に伏す。詔して  
城中の男を殺す。特に係宗を赦し、以て東  
宮侍書と爲す。淮陵太守兼中書通事令人に  
累官す。永明四年富陽の民東遷す、係宗を遣  
はし軍に隨ひ慰勞せしむ。民以て安んず。  
係宗久しく朝省に在り職事に習ふ。武帝常  
に云ふ、學士輩經國に堪へず、唯書を讀ま  
しむべき耳、一國を經するは係宗足る、沈  
約、王融、百人と雖も事に於て何ぞ用ひむ  
と。其吏事時に重んぜらる、此の如し。

リウケイ ノツマ 劉慶妻 (明)馮氏。宣城  
劉慶の妻。年十九にして夫亡す、誓て節を  
守る。娣姁曰く守節は鐵釘を嚙斷する者に  
非ざれば能はずと。馮氏即ち越ち壁に釘を  
抜き之を嚙む、割然齒痕あり復た臂肉を抉  
り壁上に釘着す。老死するに至るまで壁釘  
の肉腐らず、齒痕新なるが如し。

リウケイ エン 柳慶遠 (南北)字は文和。  
雍州刺史と爲る。梁武帝曰く柳師を衣て鄉  
に還る、朕西顧なしと。

リウケイ ウ 劉暉 (宋)字は季高。吳興の人。  
劉暉、劉岑と共に三山と稱せらる。

リウケイ フ 劉紇 (南北)字は彦和。東莞人。

文心彫龍五十篇を撰み、古今文體を論す。  
定を沈約に取らむと欲するも自ら違するに  
由なし。乃ち書を讀みて約の車前に候す、  
狀を重んじ、謂ふ深く文理を待たり。又  
古よりの帝王賢達、魏の世に至る通じて三  
十卷を撰ぶ。名づけて要略と爲す。

リウケイ フ 劉鄩 (唐)字は漢海。句容の人。  
少くして李德裕の爲に知らる。後進士に擢  
げらる。德裕諷を抱いて海上に死するを傷  
み、乃ち狀を具して其冤を白して官爵を復  
することを得たり。世其忠を高しとす。

リウケイ ケン 劉賢 (漢)苗川王。齊悼惠王の  
子。吳楚七國の乱に與して誅せらる。

リウケイ ケン 劉建 (漢)哀王を見よ。

リウケイ ケン 劉顯 (南北)沈約、坐に於て顯  
に經史十事を策す。顯其九に對ふ。約曰く  
吾昏忘、策を受く可からず、然りと雖も聊  
か數事を試み、十に至る可からずと。顯  
其五を問ひ、約其二を對ふ。顯陸之聞き  
て席を擊つて喜んで曰く、劉郎人に可なり、  
吾家の平原、張壯武に詣り、王業、蔡伯喈  
に謁すと雖も必此對なしと。

リウケイ ケン 劉嶽 (南北)延の兄。五歳のと  
き舅氏の管寧傳を讀むを聞き、欣然として  
之を聽て曰く、此れ及ぶ可きなりと。袁粲  
其清徳を慕ふ、薦めて秘書郎と爲す。

リウケイ ケン 劉權 (隋)字は世略。沛國豊の  
人。少くして俠氣あり。移節を折りて學を  
好む。開皇中、車騎將軍を以て郷兵を領し

晋王廣に従つて陳平ぐ。開府儀同三司宋  
國公に拜せられ蘇州刺史に進む。誠信を以  
て下民を御す。煬帝の初、拜して衛尉と爲  
し南海太守に改む。路に盜起るに逢ふ。權  
詔諭を爲す。盜悉く降附す。帝聞て之を嘉  
す。任に抵つて異政あり。

リウケイ ケン 柳儉 (隋)字は道約。兗州刺史、  
職に在る十余年、民吏悅服す。後郷里に  
還る、散車高馬に乗り衣食贖せず。人皆其  
廉に服す。

リウケイ ケン 劉詢 (宋)常山の人。學を力め  
て倦まず。春秋に明なり。元祐の初、韓維  
薦めて京兆府教授と爲す。王巖叟又薦めて  
太學博士と爲す、皆就す。程顥毎に人の  
爲に言ふ、詢の如きは我及ぶなしと。

リウケイ ケン 劉謙 (宋)唐邑の人。曾祖直、  
淳厚を以て聞ゆ。其衣を盜む者あり。既に  
して得、亦問はず。謙保軍節度使に累官  
す。職を守り過ち寡し。嘗て上言して、邊  
城早く寒し、六月冬衣を給せられむことを  
請ふ。後以て例と爲す。眞宗に東封に従つ  
て山門を闕視す。設施方あり。卒して侍中を  
贈らる。

リウケイ ケン 劉謙 (金)字は光父。東軒と號  
す。工に山水を畫く。

リウケイ ケン 劉暉 (明)靈石の諸生。父先づ  
亡す。母年七十餘、兩目俱に瞽す。暉之に  
事へて常に謹む。正徳六年、流賊城に入る  
憲母を負うて城外に避く。賊母を殺さんと  
す。憲哀告して曰く、我を殺すとも母を害



する勿れと。賊乃ち釋す。後他の賊に殺さる。賊火を縱つも、獨り窟の宅のみ隨て焚けば隨て滅す。

リウケン 劉顯 (明)南昌の人。落魄して叢祠に之を自經せんと欲す。神あり之を饒り死せしめず。間行して蜀に入り、童子の師となる。已に籍を冒して武生たり。初め副千戸を授けらる。累進して都督同知に至る。萬曆九年冬、官に卒す。子綏。

リウケン 劉玄 (漢)字は聖公。光武帝の族兄。王莽の末に新市平林等の兵起る。光武及兄伯升等之に合す。王莽の地皇四年玄を號して更始將軍と爲す。衆多しと雖も統一する所なきを以て、共に天子を立てんとを謀す。諸將光武兄弟の威明を懼り更始を立て、帝と爲す。更始素より懦弱なり、南面して立ち群臣を朝せしむるに、羞愧して汗を流し、手を擧げて言ふ能はず。二年諸將長安を隔れ、更始洛陽より西に遷り長樂宮に居り。殿に升れば、次序を以て殿中に列す。更始羞怯、首を俛れて席を刮し敢て視ず。諸將後れて至る者あり、更始問ふ傍掠幾何を得しと。左右侍官皆宮省の久吏なり、各驚て相視る。既にして更始酒色に耽り政を趙崩に委す、群臣視る能はず、已を得ざれば乃ち侍中をして帷内に坐して與に語らしむ。諸將更始の聲に非ざるを知り、皆怨て曰く、成敗未だ知るべからず、自ら縱放なる此の如しと。更始の三年九月赤眉長安に入る。更始の軍戰て大敗す。更

始阜騎城門より出て、走り捕へらる。十月更始遂に内祖して赤眉に降り、其王莽より獲たる傳國の璽綬を上つる。尋て害せらる。是より先き光武既に位に即き玄を封じて淮陽王と爲す。後に大司徒鄧禹をして之を朝陵に葬らしめ、其三子を列侯と爲す。

リウケン 劉炫 (隋)字は伯光。河間の人。陣の子。精明にして目を視て眩せず。月を閉じて書を讀み、十年出でず。開皇中、敕を奉じて王劼と同じく國史を修む。俄に門下省に直して驛門を待つ。煬帝の時、又律令を修む。後郷里に歸り教授を以て樂と爲す。家に終ふ。

リウケン 劉暉 (宋)天水の人。天資耿介。時に王安石の新書盛に行はれ、學者靡然として風に向ふ。暉獨り附會の説を穿鑿するを喜ばず心を伊洛の學に潛む。後入行を以て擧げらる。

リウケン 劉源 (元)歸德中牟の人。母年七十餘。衰病行く能はず。火起り延て其家に至らむとす。源號泣趨り入り、母を抱き焚死す。

除せらる。元剛早に盛名を負ふ、已にして乃ち體々として通ぜず、圖を北山に築き、雲龍と號す。雲龍集あり。

リウケン 留玄圭 (宋)字は粹中。正の孫。門蔭を以て承事郎を授けられ、建安縣に知たり。賦に誇あり、久しく決せず。玄圭、一たび閉し便ら其情を得。後を均し、訟を省く。治蹟諸縣の最たり。

リウケン 劉元卿 (明)字は調父。安福の人。萬曆の初、會試して第せず。遂に意科名を絶ら、道を講求するを以て事と爲す。累りに罵を被り、召されて國子博士に拜す。尋て疾を引き歸り、撰述を以て家に終ふ。山居草、還山續草、禮律類要、大學新編等の著あり。

リウケン 劉玄佐 (唐)滑州匡城の人。少くして備儒。生業を事とせず。亡命して永平軍に従ひ將となす。李靈耀で、汴州に據る。玄佐宋州を襲取するに及び、詔して州を以て遂に其軍に歸す。節度使李勉表して刺史を署す。德宗の建中の初、宋季節度使李納叛す、李洧、徐州の納に歸するを以て急之を攻む。玄佐に詔して洧を援けしめ、大に納の兵を破る。首を斬る萬餘級。洧んで滑州を圍み、濮陽を拘へ皆其守を下降す。兵部尚書に遷る。李希烈の陳州を攻むるや、玄佐之を救ふ。希烈走る。遂に進んで汴州を取る。詔して汴宋節度使陳州刺史行營都統を加ふ。玄佐本名は冷。之に由て名を賜ひ、以て之を襲襲す。

リウケン 柳晉之 (南北)字は公正。父齊年。周の順州刺史。晉之身長七尺五寸。儀容其偉なり。風神爽亮、進止觀る可し。童兒たる時、周の齊王憲、之に塗に遇ひ異として與に語り、大に之を奇とす。因て奏して國子生と爲す。明經を以て第に擢んでられ、宮師に拜し、守廟下士に轉す。武帝太廟に事あり、晉之祝を讀む、音韻清雅、觀る者目を屬す。帝之を善しとし、擢て、宣納上士と爲す。開王の初、通事舍人に拜す。尋て内史舍人に遷る。兵部司勳二曹侍郎を歷。朝廷晉之の雅望あり諷誦を善くし、又酒を飲み一石に至るも乱れざるを以て、是に由て陳使至れば輒ち接對せしむ。光祿寺少卿に遷る。

リウケン 劉獻之 (南北)少くして孤貧、雅より詩を好む。曾て樂を渤海の程玄に受く。後遂に博く衆籍を觀る。名法の言を見、卷を捲て笑つて曰く、若し楊崇の流をして此書を爲さざらしめば、千載誰れか其小なるを知らむやと。曾て其親む所の人に謂つて曰く、人の身を立つる百行途を殊にすと雖も、要するに德行を以て首と爲す、子若し入つては孝、出ては弟、忠信仁讓ならは、月を出るを待たずして天下自ら知らむ、子若し能はずんば、博學を識と雖も土龍の乞食、人を眩惑するに過ぎず、將來立身の道に於て何の益あらむやと。是に由つて學者其行を高しとす。孝文中山に尊せしとを詔して典內校書に數さる。病を以て固辭

リウケン 劉慶之 (南北)彭城の人。産業を營まず、財を輕んじ施を好む。高祖四のかた司馬休之、晉宗之等を征す。參軍檀道濟、朱超石を遣し歩騎を以て襄陽を出てしむ。慶之、時に江夏の相たり。府郡の兵を率めて糧を聚め、以て道濟等を待つ。積日に至らず。宗之、子軌に襲はれ、戰敗れて殺さる。梁秦二州の刺史を追贈せらる。

リウケン 劉權之 (清)字は德典。雲陽と號す。長沙人。乾隆二十五年の進士。官體仁閣大學士に至り、太子太保を加へらる。卒して々格と諡す。歷秩四十餘年。學行を以て主の知を結び官能く其職に稱ふ。數奏する所を人をして知らしめず。典文を疊し計分を衡す。順天鄉試を較する一、吏部試を主とる一、安徽山東江蘇學政を督する各一、順天鄉試に監臨する再たび、殿試卷を讀む四、大考翰詹卷を閱する二、門生故吏天下に偏れし。而して鑑空衡平、未だ嘗て私昵する所あらず。



友とし善し。元豊中の士子、方に文華を尙ぶ。元振獨り載籍に沈潜し、深く理義に造る。是を以て有司に合はず、遂に歸る。萬意親を養ひ、情を泉石に放つ。家に卒す。友人劉彦深、其墓に銘す。

リウゲンシン 劉元振 (元)字は仲舉。黒馬の子。父に従て蜀に入り萬戸を攝す。時に年二十、號令嚴明、麾下の將皆敬憚す。世祖の時、成都經略使と爲る。瀘州の戰に於て功諸將に最たり。帝其功を善みし成都副戸侯と爲し、後ち瀘川路副招討使を兼らしむ。

リウゲンシン 劉元震 (明)字は元東。隆慶五年の進士。庶吉士に除せらる。萬曆中、吏部侍郎に歴官す。侍養を以て歸り卒す。天啓中、禮部尙書を贈り文莊と諡す。

リウゲンセイ 劉源清 (明)東平の人。正徳九年の進士。進賢知縣を授けらる。宸濠反す。源清漸を積みて屋に環し、家人に命じて曰く、事急ならば吾家を火けと。賊平ぎ、御史に除せらる。兵部左侍郎に累官す。譴者に誣ひられて削籍す。後ち俺答の京師に薄るに方り、家に即き之を起す。未だ赴かすして卒す。隆慶の初、兵部尙書を贈る。

リウゲンセイ 劉源清 (明)臨清は兵官。崇禎十五年清兵河間を圍むて張振秀等と力を合せて之を禦ぐ。城破れて死す。リウゲンソ 劉玄素 (金)字は守眞。河間の人。自ら通玄居士と號す。嘗く異人陳先生に遇ひて酒を飲み大醉す。寤むるに及

び自ら國術に洞達す。リウゲンソウ 劉彦宗 (金)字は魯開。宛平の人。唐の藩鎮の裔孫。石晋の時より遠に歸し六世相繼いで遠の相と爲る。彦宗彦の進士に登り、後金に歸す。太祖一見して器過し藩職に復せしむ。尋て同中書門下平章事を加へ樞密院を知し侍中を兼ねしむ。天會二年中京等の兩路多く命を拒むを以て特に遣はして百姓を撫慰し稼穡を勸めしむ。未だ幾くならず大舉して宋を伐つ、彦宗十策を備して之を進む。六年堯年五十三。郾王に追封し英敏と諡す。子善、善。

リウゲンチン 劉元珍 (明)字は伯元。無錫の人。萬曆二十三年の進士。南京禮部主事を授けられ郎中に進み、親老いて歸養す。南京職方に起ち、釐革する所あり。又上疏して旨に忤ひ名を除かる。光宗の時、起つて光祿少卿に至り、官に卒す。

リウケンテイ 劉獻廷 (清)字は君賢。聽莊と號す。順天大興の人。其學經世を主とす。象緯律曆、邊塞圖要、財賦政法の屬より旁ら黃釋老の言に及ぶまで窮究せざるなし。萬曆時、引て史館の事に參す。顧景范、黃子鴻、亦引き一統志の事に參す。獻廷聲音に於て別に類ふ所あり、遂に顧景范母の訛を削む。

リウゲンハク 柳元伯 (南北)齊齊の人。子五人、皆州を領し、五馬、庭に參差たり。リウゲンメイ 劉玄明 (南北)吏能あり。山陰建康令を歴、政常に天下第一たり。司

農圃に終る。後傳劉又玄明に代つて山陰令と爲る。玄明に問て曰く、曠はくは舊制を以て告げよと。答て曰く、我奇あり卿の家に載せざる所、別に臨んで相示すべしと。既にして曰く、縣令と爲つては唯日に一升の飯を食して酒を飲む莫かれ、此第一の策なりと。

リウゲンリン 劉元霖 (明)元震の弟。萬曆八年の進士。歴官して工部尙書たり。福王、邸洛陽に開き營建する所あり。執奏して之を罷む。母の老を以て兄と俱に歸る。卒して太子太保を贈らる。

リウゲンリヤウ 留元亮 (宋)泉州の人。淳祐間、知縣たり。仁惠あり民に及ぶ。民祠を立て、之を祀る。

リウゲンロク 劉原祿 (清)字は崑石。眞霽と號す。山東安邱人。力耕して富を致す。大に經史を購ひて初めて閱す。既にして宋儒の醇錄を讀み、乃ち篤く朱子の學を信じ、反覆推究すること四十餘年、明に於て薛文清を學び、清に於て陸隴其を學ぶ。其餘は以て是なりとせず。康熙三十九年卒す。

リウコ 劉沔 (宋)渭州瓦亭寨の監押。權りに鴻察を鎮す。擊つて黨留等の族を破る。時に任職敗れ、邊城閉閉ち、居民の畜産多く掠めらる。沔獨り門を開きて之を納る。逸人呼て劉開門と爲す。

リウコウ 劉興 (漢)靖王を見よ。リウコウ 劉洪 (晋)字は和季。沛國相の人。大安中、亂を作す。使持節、豫州刺史

荆州刺史に轉じ、昌を討つて之を斬り、悉く其衆を降す。時に荆郡の守軍、缺多し。洪補選を請ふ。帝之に従ふ。洪乃ち功を考へ、徳を遷し才に隨つて補授す。其だ論者に稱せらる。農桑を勸課し、刑を寛くし賦を省く。百姓愛悦す。其他惠政多し。

リウコウ 劉弘 (晋)字は季和。荆州刺史たり。舊制に峴方二山中漁禁を嚴し。弘令を下して曰く、禮に名山大川は封せず其利を與に共にすと。悉く民に捕魚を聽す。興革ある毎に、書を守將に遺る。争て之を迎へて曰く、劉公一紙書を待ば十部從事に賢ると。時に天下大に亂る。弘、江漢を督して、咸陽南に行にる。事成れば則ち曰く、衆人の功なりと。敗れば則ち曰く、老子の罪なりと。衆皆悦ぶ。

リウコウ 柳弘 (南北)字は匡道。少くして聰明、苻隸に工に、博く群書に涉る。嗣采雅贖。弘農の楊素と莫逆の交を爲す。市中外府に解く。建徳の初、内史上士に除せらる。小宮尹、御正上士を歴。陳主、僱人を遣はし來聘す。武帝、弘をして之を勞せしむ。僱人弘に謂て曰く、來日監中に至り、正に滋水の暴漲するに逢ひ、齧らす所の國信溺流す、今進む所は假なり、請ふ吏をして下流人を勸し此の物を尋ねしめよ。弘曰く、淳子公、空籠を獻す、前史以て美と爲す、足下假物を以て進むは何ぞ是れ陳君の命かと。僱人憐れて對る能はず。武帝憐之を嘉みし、盡く僱人の進む所の物

を以て弘に賜ふ、仍て報聘せしむ。專對敏捷時に稱せらる。後ち卒す。千御正大夫と爲り晋州刺史を贈らる。

リウコウ 劉弘 (隋)字は仲遠。彭城の人。少くして學を好み、節概を重んず。泉州刺史に拜せらる。會高祖亂を爲す。弘堅く城を守ること百餘日。賊其肌を知り、之を降さむと欲す。弘抗節彌勵む。城陥りて害せらる。上之を嘉嘆し、其子を官にす。

リウコウ 劉暉 (宋)字は伯醇。煇の子。建陽の人。靜齋と號す。丞務郎に補し江表縣に知たり。制置司幕官に辟せらる。李全を收むるの功を以て朗請大夫に轉じ常州衛州を知す。南劍州に遷る。疾を以て赴かず。學徒熊竹谷の輩と道を講じて其身を終ふ。

リウコウ 劉侯 (宋)字は碩翁。象山の人。總角にして日に千言を誦す。文を爲るに筆を操れば立どころに成る。紹興二十年進士に登る。伴紹興府。帥使朱熹、雅より之を敬す。委するに諸蠻蕭山の荒政を以てす。民を活るもの十萬。改めて岳州を知す。東宮に引見せられて事を言ふ。光宗其儀詳備、音叶明暢なるを見、注目首肯して悉く親可を爲す。郡に至り、邑を嚴し常賦の外、其板帳鑿空の者凡そ八日を減す。歲ごとに一萬一千有奇を減す。祭して定めて命を爲す。直秘書閣に除す。召して尙書禮部郎中と爲り卒す。至る所遺あり、民牛祠を立て、之を祀る。

リウコウエイ 劉公榮 (晋)人と酒を飲む

に非類に雜穢す。或は之を譏る。答て曰く、公榮に勝るものは興に飲まざる可からず、公榮に如かざるものは又飲まざる可からず、公榮が輩は是とするもの又興に飲まざる可からず、故に終りに飲んで醉ふ。王戎弱冠にして阮籍に詣る。時に公榮坐に在り、阮、王に謂つて曰く、偶二斗の美酒あり、當に君と共に飲むべし、彼公榮預るなしと。二人醵を交へ酬酢す。公榮遂に一杯を得ずして、言語談戲、三人異なる事なし。或は之を問ふ。阮答て曰く、公榮に勝る者は興に酒を飲まざるを得ず、公榮に如かざる者は興に酒を飲まざるを得ず、惟公榮は興に酒を飲まざるべしと。

リウコウカ 劉興哥 (金)鳳翔魏縣の人。群盜より起る。人呼て劉劉といふ。後ち元兵を拒き清化に戦死す。元兵至り、酒を酌して以て弔す。西州の耆老之を語り爲に泣下るに至る。

リウコウキ 劉洪熙 (五代)劉份を見よ。リウコウキ 劉孔暉 (明)邵陽の人。天啓元年の鄉試に擧げらる。新鄭を知す。崇禎中、李自成の兵米り襲ふ。固守すれども支ふる能はず。遂に難に殉す。士民之を子産祠に祀る。

リウコウキヨ 劉興居 (漢)濟北王。齊悼惠王の子にして高帝の孫。初、東牟侯たり。漢大臣諸呂を誅するや興居亦功あり。文帝代より來る興居先づ入つて宮を清む。封じて濟北王と爲す。後謀反して誅せらる。

リウコウ 劉公榮 (晋)人と酒を飲む

リウコウ 劉公榮 (晋)人と酒を飲む

リウコウ 劉公榮 (晋)人と酒を飲む

リウコウ 劉公榮 (晋)人と酒を飲む



リウコウケン 劉鴻訓 (明)字は默承。長

山の人。一相の子。萬曆四十一年の進士。神宗より思宗に歴事し、庶吉士より文淵閣學士に累進す。後事を以て諡せられ、成所に卒す。

リウコウケイ 劉敬 (唐)字は元河。彭城の人。資財巨萬徳を脩めて耀かす。人之を知る莫し。長慶の初、善く相する者あり、曰く久からずして天期且に至らんと。弘敬の曰く、嗚天は天也、先生其れ我を奈何たせむと。相者曰く夫れ相は徳に及ばず、徳は度量に及ばず、君壽ならずと雖も、徳に厚く、度量又寛なり、夫れ一徳は以て百邪を消し猶厚祿を享くべし、況んや壽なりと。後其女將に人に適むとす、維揚に抵り女奴を求む、錢八十萬を以て四人を得たり。内一人關孫と名づくる者、風骨姿麗、殊に皎者に類せず、乃ち名家の子なり。弘敬曰く此女は衣冠の後なり婢たりしむ可からずと。乃ち粧資を備へ先づ女を嫁せしむ。是夜夢に一人曰く我は關孫の父荷なり、君の女を嫁する以て報するなし、今天に告げて君が壽二十四年を延さむと、今年を過ぎ相者復至つて曰く、君が面を相するに二紀行を延ぶ可し、何の陰徳にて此に至れる。弘敬曰く、他なし、實を以て賤となすに忍びず、一婢を嫁せしむるのみと。後果して壽を延ぶる二紀にして終る。

リウコウケン 柳公權 (唐)字は誠懸。公綽の弟。學經術を貫く。元和の初の進士。

仕へ侍書學士と爲る。穆宗嘗て筆法を問ふ。對へて曰く筆正しければ心正しと。帝其筆諫を悟。文宗朝學士承旨に累官す。太子太保を以て致仕す。

リウコウジン 劉侯仁 (南北)豫州の人。白阜生、刺史司馬悦を殺し、城南に據つて叛す。悦の息胤走つて侯仁に投ず。賊軍く購募を加へ又其挿髪を殿にすと雖も、侯仁終に漏泄せず。胤遂に免るゝを得たり。有司其操行を奏し、府籍を免し一小縣に叙せんとを請ふ。許さる。

リウコウシヤク 柳公綽 (唐)字は孝寬。華原の人。性孝友。非聖の書を讀まず。初め校書郎に補せらる。嘗て儀を奏し以て憲宗の游散を諷す。帝之を座隅に置く。御史中丞に拜し、檢校左僕射に累官す。嘗て山南東道節度使と爲る。部を行り鄆に至りしとき、縣吏納賄舞文の人あり。縣令以爲へらく公綽案より法を持す、必ず貪者を誅するならんと。公綽判じて曰く、職吏法を犯すは法在り、姦吏法を壞るは法亡ぶと。文を舞はす者を誅す。第公權。子仲鄆。妻韓氏亦賢にして能く家を保む。

リウコウシヤクノツマ 柳公綽妻 (唐)韓氏。家を保むること嚴肅。婦神家の楷範と爲る。其子仲鄆を訓ふるに嘗て熊羆丸を和し夜咀嚼して以て勸を助けしむ。

リウコウツ 劉興祖 (宋)字は孝先。大庾の人。易春秋を習ひ、旁ら聲律に通ず。乾道五年進士に登第す。初め詔之錄參に調せ

らる。通直郎を以て致仕す。

リウコウチヨ 劉弘緒 (明)滕縣の人。車駕郎中を歴。難に殉して死す。

リウコウウド 劉洪度 (五代)劉均を見よ。

リウコウナン 劉南 (宋)字は子間。慈谿の人。嘉定の初の進士。國子博士と爲る。嘗て求言の詔に應じ上疏す、略に曰く、求言の詔に副ふ者當に敢言の氣を伸ぶべく、受言の規を宏むべき者は當に用言の實を盡すべしと。帝之を嘉納す。

リウコク 劉毅 (隋)彭城の人。時に庾季才、信義に篤く賓游を好み、常に吉日良辰、瑯琊の王褒、河東の裴政等と文酒の會を爲す。毅亦預る。

リウコクカウ 劉克剛 (唐)克莊の弟。泉州録參と爲る。眞徳秀薦めて沙縣に知さす。後ち惠州に遷る。清儉治辦、獎れたるを修め廢れたるを興す。官に卒す。

リウコクケツ 劉國傑 (元)字は國寶。女眞の人。世祖其勇を聞き管軍總管に遷す。南征して捷を奏し、俘獲を以て歸る。又西南夷を平定す。國久しく邊を行り瘴を患へて卒す。年七十二。齊國公に追封し、武宣と諡す。

リウコクサウ 劉克莊 (宋)字は潛夫。後村と號す。夙の弟朔の孫。父彌正淳熙中進士に擧げられ官起居舍人に至る。克莊生れて異質あり、日に萬言を誦す、文を爲るに筆が掣れば立どころに就る。龍圖閣直學士と爲る。眞徳秀、學は古今に貫き、文は曠

雅を追ふを以て、之を朝に薦む。著す所、梅花百咏後村文藻五十一卷あり。

リウコクツン 劉克遜 (宋)字は無競。克莊の弟。父の任を以て官に補し、古田令に調せらる。荒を救ひ盜を捕ふるを以て功績を著す。江西帥に辟され評を幹し令を提げて行く。奴にして主の空を告ぐる者あり、克遜曰く以て訓さ爲すべからずと。果官して邵武軍に知たり。賊愛重び行はれ、制盜を除き、教化を興す。潮州に改めらる。初め銀價平らかに毎丁銀五百を賦す。後ち銅貴く加へて四倍に至る。數を下し之を調く。曰く縦ひ罪を得るも恨みなしと。泉州に移り疾を以て奉祠す。克遜一生清貧、尤も詩に工なり。章適、趙汝誠、之を稱す。

リウコクノウ 劉國能 (明)延安の人。始め李自成、張獻忠等と共に盜を爲す。崇禎中、歸順し、征戰の功を積みて、官副總兵に至る。十四年九月、自成、洛陽を陷る。國能、執へられて害に遇ふ。詔して左都督を贈り、特に光祿大夫に進む。

リウコクバ 劉黑馬 (元)名は崑。字は孟方。生るゝ時家に白馬あり黒駒を産む。故に以て小字と爲す。後遂に小字を以て行はる。都總督萬戶に拜す。天下を巡撫して民の利病を察す。宋濂州を圍む。時に疾あり猶親督して糧ます。遂に卒す。秦國公に封し、忠宣と諡す。

リウコクヨウ 劉嗣谷 (唐)長安の妓。詩を善くす。進士郭昭述と相愛す。後、昭述、

任に咸陽に赴く。兩客、女僕をして矮駒を馳せて短書を齎らさしむ。長安の子弟多く之を諷誦す。

リウコツ 留躬 (漢)功臣。犂風侯に封ぜらる。遷りて東海に居り。

リウコン 劉昆 (漢)字は桓公。幽陽の人。易に深し。弟子五百餘人を教授す。王莽位を慕ふ。昆、河南負犢山中に匿る。光武の時、江陵令と爲す。縣、連年火災あり。昆、火に向ひて叩頭すれば、即ち能く雨を降し風を止む。弘農太守に遷る。是より先、穀暉驛道虎多くして行旅通ぜず。昆政を爲すと三年、仁化大に行はる。虎皆子を貢ひて河を渡る。帝之を異とし、徵して光祿勳と爲す。召し問ひて曰く、前に江陵に在りては風を返し火を滅し、後に弘農守と爲りては虎北けて河を渡る、何の徳を行ひてか。是事を致すと。對て曰く、偶然耳。左右皆其質訥を笑ふ。帝歎じて曰く、長者の言也と。願み命じて諸を策に書せしむ。

リウコン 劉根 (漢)京兆長安の人。成帝の時、嵩山に入りて道を學ぶ。神人授くるに秘訣を以てす。遂に仙を得たり。術を用て人を濟ふ。潁川の太守史祁、以て妖となし、吏を遣はし根を召して之を殺せんと欲す。府に至る。祁曰く、能く鬼を召して即ち三らば爾を殺せざらむと。根曰く、甚だ易しと。筆を借りて符を書す。忽ち兵甲二囚を廳前に縛するを見る。祁之を熱視すれば乃ち父母なり。祁、驚愕流涕す。鬼、其子を

賣めて曰く、汝何ぞ神仙を罪するを得む、乃ち吾を累はすこと此の如きと。太守罪に伏して赦されむことを求む。根遂に去て之く所を知らずといふ。

リウコン 劉琨 (晉)字は越石。中山の人。漢の中山靜王勝の後なり。少にして倚朝の名あり。詩を善くす。初め祁遼と俱に司州主簿たり。嘗て同じく殿内、中夜鶴鳴を聞く。遼、琨を獻て曰く、此れ惡聲に非ざる也と。因て共に起ちて舞ふ。常に人に謂て曰く、吾れ戈を枕にして且を待ち、叛逆を臆せんと志す、常に祖生が我先んて鞭を着けんとを恐るゝのみと。懷帝愍帝の時、官侍中大尉に至り并州に刺史たり。琨、軍を出す。適々長史、叛きて石勒に降る。幽州刺史段匹磾、時に薊城に在り。人を遣して琨を邀へしむ。琨、衆を率ゐて薊に奔り、匹磾と血を飲りて同じく晋室を翼戴せんと盟ふ。襲ひて薊を取らんことを請ふ。書、遷騎を遣して琨に内應せんとを請ふ。書、遷騎に獲らる琨實は知らざるなり。而かも竟に匹磾の爲に縊らる。琨嘗て晉陽に在り、胡騎に圍まれて計の出づる所を知らず。月明、櫓に登りて清嘯し、中夜、箭を奏す。敵人、懷郷の思に堪へず、闇を棄て去れり云ふ。

リウコン 柳渾 (唐)字は夷曠。襄陽の人。初め相者、其の天にして且つ賤しきを言ひ、浮屠によりて死を緩くすべきを勸む。渾曰く、聖教を去りて異端に入るは速かき死す



るに如かずと。力學愈々篤く、遂に群第して、貞元中、同平章事に至る。時に渾瑊、吐蕃と盟ふ渾瑊、吐蕃の必ず盟を切らすべきをいふ。既にして果して然り。徳宗曰く、卿は養生にして乃ち能く敵を料ること何ぞ此の如く善なると。

リウコンイツ 劉坤一 (清)字は祝莊。湖南湘鄉の人。資性忠憤、寛厚にして衆を容る。徵々たる一介の武弁を以て起り、夙に湘軍の勇將として曾國藩の幕下に識る。咸豐年間李鴻章等と共に長嶺賊を討ちて功あり。年四十にして湖南巡撫となり。後、廣湖總督に陞り、遂に曾國藩曾國荃の后を受けて兩江總督の榮職を襲ぐに至り。明治二十七八年即ち甲午戦争の時、召されて全軍の總大將となり、大兵を率ゐて山海關に至りしが未だ機伏に及ばずして購和條約なりき。明治三十三年(光緒二十六年)北清事變の際、全國動搖して人心恟々、天下將に多事ならんとす。而かも泰然動かず、南方の形勢に據り、日英を友とし、禍を事前に防ぎ、全局の糜爛を見るに至らざらしめたるは、偏に坤一の力なり。坤一、固より武官出身なるを以て、文字なく又華々しき政飾し人心を収むるの作用は、彭玉麟以後第一といふべし。兩江總督に就きしより在職十六年間、見るに足るべき治績なしと雖も、徐老虎を招きて哥老會を抑へ、長江沿岸の通商を安全ならしめしが如きは、外人の稱

贊する所なり。明治廿五年十月六日(光緒二十八年九月五日)病革りて其任地を薨す。壽七十有五。朝廷其功を思ひ其死を惜み、一等男爵大傅の位を追贈し、諡して忠正といひ、金三千兩を賜ふ。内外の新聞紙は筆を揃へて長江平和の保護者を失ひしを哀み、各國領事館は半旗を掲げ哀悼の意を表せり。次で上諭により、喪中の費用は江寧布政使より支出し、祭壇を賜ひ、江寧將軍額勒和布を派して祭らる。北京の忠貞祠に入祀し、立功の省城及湖南の原籍に專祠を建て、平生の歴史は史官に附し、其子孫各恩用せらる。リウサイ 劉斌 (晋)劉聰を見よ。

リウサイ 劉暉 (南北)字は士運。懷慰の字。年十四、父の憂に居り。性至孝、哭すれば輒ら血を嘔く、家貧なり。弟香齋、志を立て勤學す。暉するに及んで博涉多通。梁の天監中四喜相海運命を歴、並に和理を以て解せらる。母卒して慕側に處す。著す所、釋俗語八卷文集十卷あり。リウサイ 劉宰 (宋)字は平國。金壇の人。紹興の進士。州縣を歴任して能聲あり。理宗以て籍出令と爲す。太常丞に遷り及び樞密府に知とす、皆就かず。端平間、一時の審議者皆收召せられ略ぼ盡く、致す能はざる者は宰と暉與之のみ。暉處すること三十年、書に於て讀まざる所なし。著す所、漫塘集あり。既に卒す、朝廷其節を喜みし諡して文清と曰ふ。リウサイ 劉濟 (宋)字は應徐。崇安の人。

同邑の趙必選と時を同じうし、亦詩名あり。嘗て必選の梅花莊に題する詩、人に傳誦せらる。著日行辨、明德辨あり、世に行はる。リウサイ 劉濟 (明)字は汝楫。臨瀛の人。正徳六年の進士。庶吉士より吏科給事中に擢てらる。疏陳する所多からず。後大禮の議に坐して遼東に謫成せらる。嘉靖十六年皇太子を冊立し、諸諷成者を赦す。濟獨り與からず、成所に卒す。隆慶の初、官を復し、太常少卿を贈る。

リウサイ 劉敏 (明)字は振廷。崇仁の人。正徳十二年の進士。慈利知縣より禮科給事中に擢てらる。世宗の時、時政を疏陳して帝の震怒に遇ひ、極邊に謫せらる。之に久うして赦されて還り、二十餘年にして卒す。リウサイ 劉材 (明)南昌の人。嘉靖中の進士。累官して陝西左布政使たり。子一焜、一煜、一燦。リウサイシユン 劉采春 (唐)女子。浙人。嘗て囉囉曲を作る。リウサイセウ 劉才邵 (宋)字は美中。廬陵の人。鶴の後。紹興中、書舍人に累官し、樞密學士院を兼ぬ。高宗其文を稱す。出でて漳州に知たり。渠を開き田に溉ぎ、民甚だ之を徳とす。召して工部侍郎樞密部尙書に拜す。才邵、氣和に貌恭、樞臣事を用ふるの日に方つて雍和遜避、以て名節を保つ。著す所橋溪居士集あり。リウサウ 柳莊 (周)莊卒す、衛獻公方に祭る、尸に請て曰く、臣柳莊なる者あり、

社稷の臣なり、請ふ往かむと。祭服を釋かずして往き、遂に以て之に送し、之に邑表氏を與ふ。

リウサウ 劉蒼 (漢)滎王を見よ。

リウサウ 柳莊 (南北)字は思敏。解人。博く墳籍を究る。梁に仕へて黃門侍郎と爲る。隋の高祖、周に在り政を輔く、蕭、陳、莊をして書を奉じ關に入らしむ。高祖蕭を踐むに及び莊又入朝す。高祖深く之を慰勉す。莊、刑章に明習し、雅より政事に達す。蘇、其世務と學とを兼有するを稱す。

リウサウ 劉朗 (宋)字は復之。夙の弟。紹興庚辰南番に試みられ第一たり。孝宗初て立つ。召對して曰く陸下何ぞ憤激敢言の士を納れて、許直場(離)の言を聽き、因て以て自ら成敗得失を考察せざらんと。且つ曾觀龍大淵の彈狀に及ぶ。出で、福清縣に知たり。尋て奉祠す。再び召され入つて對す。時に虞允文方に恢復を實す。朗言ふ、宜しく兵を選び財を蓄へ、以て其變を待つべしと。出で、福建帥參たり道に卒す。子起略。

リウサウ 劉焜 (明)字は純道。武定の人。萬曆二十九年の進士。知縣より御史に擢てらる。天啓中、兵部右侍郎協理戎政に拜す。屢々中官の罔朝を弄するを言ふ、帝省せず。憤慨病を耐して去る。崇禎間、故官に起ち右僉都御史を兼ね、窮寇保定の軍務を總理す會々清兵來り寇す。累々能はざるに坐して棄せらる。

リウサウ 留贊 (三國)字は正明。金華の人。黃巾賊帥吳伯と戦ひ、手づから之を斬る。贊一足を削つて、自後屢臂伸びず、刀を操り其筋を剔る、血流れ氣絶す。家人驚怖、遂に其足を引く、足伸び創愈ゆ。略統關て之を奇とす。乃ち表して贊の戦功あるを薦む。稍々屯騎校尉に遷る。直言阿附せず、權貴之を憚る。諸葛恪に従つて東方を征討し、大に魏の師を取る。左將軍に遷る。リウサン 劉柔 (晉)漢(前趙)主第四世。字は士光、聰の子。立て一月新準の爲めに試せらる。

リウサン 柳瑛 (唐)字は紹之。河東の人。曾祖子華。祖公器。僕射公綽の再從弟なり。父道榮。瑛少くして孤貧、學を好み林泉に辟居す。晝は則ち採樵し、夜は木葉を燃やし、以て書を照らす。性審直にして練飾なし、宗人輩並、貴くして朝に仕ふ、瑛の撲鈍を鄙し、諸宗を以て之を齒ひせず。光化中、進士の第に登る。尤も進書に精はしく、魯國の顔冕、之を重んず。兖中書舍人と爲り史館に科す、引て直學士と爲す。瑛劉子玄の撰する所の史通の失を記し十卷と爲し、柳氏釋史と號す。學者其優贖に服す。左拾遺に遷る。公卿朝野託して機美を爲る。時譽日に洽れし、目して柳童子と爲す。昭宗文を好み、始め李漢、顧厚相を寵待す。瑛其死を得ず、心當に之を惜み、文字の漢に似たる者を集む。或は樂の高才を薦む。召し試みるに詩什を以てす、未だ幾は

リウサン 留贊 (三國)字は正明。金華の人。黃巾賊帥吳伯と戦ひ、手づから之を斬る。贊一足を削つて、自後屢臂伸びず、刀を操り其筋を剔る、血流れ氣絶す。家人驚怖、遂に其足を引く、足伸び創愈ゆ。略統關て之を奇とす。乃ち表して贊の戦功あるを薦む。稍々屯騎校尉に遷る。直言阿附せず、權貴之を憚る。諸葛恪に従つて東方を征討し、大に魏の師を取る。左將軍に遷る。リウサン 劉柔 (晉)漢(前趙)主第四世。字は士光、聰の子。立て一月新準の爲めに試せらる。

リウサン 劉三 (明)知都陽縣。崇禎十三年、賊仁壽を犯す。三策拒守す。城陷り、風せずして死す。尙書司丞を贈らる。リウサンノツマ 劉參妻 (晉)王氏。善く文を屬す。參死す、王氏諫を作て以て之を祭る。



取あり。家訓を述べて以て子孫を戒しむ。大畧に云ふ、余が家法を學ぶるを以て士林に稱せらる。人は當に德行文學を以て根柢と爲し、正直剛毅を以て枝柯と爲すべし。根ありて葉なれば或は時を俟つべし。葉ありて根なければ或は時を俟つべし。唐の世に家法の美を稱するは柳氏を以て稱首と爲す。

リウシ 劉詞 (五代)字は子謙。大名元城の人。少時勇悍を以て名を知る。唐の莊宗魏博に下りて陳と夾河に戦ふ。周軍功を以て長劍指揮使に遷る。泌州觀察使に累遷す。房州に徙る。歳餘政を爲すに苛撻せず。人服之を便とす。暇日には常に甲を被、戈を枕にして臥す。人に謂つて曰く、我此を以て貴を取る。豈一日も顧く之を忘れむやと。漢高祖功を以て漢高祖の使に拜す。周太祖入つて立つ。周太祖の使に拜す。周太祖入つて立つ。周太祖の使に拜す。

リウシ 劉擊 (宋)字は華老。東光の人。見たりし時、父居正諫するに書を以てし、朝夕少間あらず。或は問ふ、君止だ一子、獨り郵を加へざるやと。居正曰く、止だ一子なるを以て疑にす可からざるなり。御史に拜す。歸て家人に語つて曰く、趣に變せよ久安の計を爲すなかれと。章數十たび上つる。朝臣目を側つ。神宗問ふ、卿、王安石に従せざるか、安石極めて卿の器識を稱、と。對て曰く臣は北人、少くして孤にして獨學す、安石を識らざるなりと。尙書を加ふ。

僕射に累遷す。學問直氣節あり。時に母后廢を垂れて政を聽く、擊之を輔け能く元祐の治をして隆を嘉祐に比せしむ。然れども惡を疾む太嚴なるを以て、羣小にやてられ竄逐に死す。士論之を冤とす。忠憲と諡す。嘗て呂大防と位を同うす。國家大事は多く大防に決す。惟士大夫を進退するは實に其柄を執る。然れども心を持する怨多く、惡を去るに勇なり、竟に朋黨に奇中せられて大防と隙を生ず。

リウシ 劉砥 (宋)字は履之。世南の子。六歳にして日に千言を誦す。忠孝大節を見らる。至り轍ち激發感慨す。十歳九經傳記に通じ、能く詞賦を綴る。乾道間弟礪と共に童子科に中る。嘗て釋老の書を讀んで曰く、此書に足らずと。乃ち學子の業を治む。又曰く此書習するに宜からずと。因て徧く伊洛諸儒の書を取つて之を讀む。見る所あるを弟を率ゐて朱熹の門に登る。熹其篤志敏學を嘉みし、先天太極圖傳を授く。充然得るあり。熹晩に禮書を備む。砥預つて編次す。時方に學を攻むるを以て遂に又仕進の意なし。蔡元定黃幹と相友とし善し。二人嘗て其妻を往來す。因て其讀書の室に題して龍吟齋と曰ふ。年四十五にして卒す。編する所王朝禮、論語孟子解あり。皆未だ脱稿せず。

リウシ 劉氏 (明)京師の人。松江の人、邊を成る者あり、辭て妻無きを稱して劉を娶る。既にしく教に遇ふ、暫らく歸省すと

結き、復た至らず。劉氏松江に抵り之を助ふ。拒て納れず。乃ち尼と爲り市上に行乞す、市人憐て之を周す。後數十年、鄰火起り、遂に焚死す。

リウシ 劉氏 (明)懷慶の人。崇禎の末、亂兵焚掠す。舅夫と南京に在り、劉氏男女の離走して舟に登るを見て曰く、婦人の群を亂るは不義なりと。遂に江に投じて死す。

リウシ 劉汝 (明)字は顯政。萬安の人。正統十年の進士。御史に除せらる。景帝の時、山水按察使に擢つ。天順成化の間、南京刑部尙書に拜す。致仕して卒す。

リウシ 劉師男 (宋)度宗の時戦功を以て、環衛官を歴。魯港の師演、一主に從つて海上に至り、時事の不可なるを見て爲に憂憤し、酒を疑にして卒す。鼓山に葬る。

リウシ 劉子羽 (漢)世祖光武帝を見よ。宣和の末、營の機宜文字を主とするを以て其父を佐け睦寇を破る。直秘閣修撰に除し池州に知たり。書を以て宰相に抵り、天下の兵務を論す。張浚と密に謀りて范曄を誅す。浚陝州を宣撫するに及び、子羽が辭して參

謀軍事とす。官屬疑を遂て治み慶州に徙さむとする者あり。子羽叱して曰く、子羽斬る可きなりと。四川全く破れ、敵入寇せむと欲す。其諸險要に備ふ。金人其備あへて不知り引去る。後王彦、敵に敗られ、因て退きて三泉縣を守る。兵三百に滿たす。士卒と草茅木甲を取り之を食ふ。吳玠に書を遣り之と訣別す。玠の將楊政大呼して曰く節度劉待制に賀く可からず、然らずんば政も亦使節を會て去らむと。玠乃ち間道より子羽に會す。子羽潭毒の山形、斗拔なるを以て壘を築き之を守る。十六日にして成る。金人已に壘を距る十四里。子羽胡床に據り壘口に坐す。將位て之を告ぐ此れ待制の坐處に非ずと。子羽曰く吾今日此に死せむと。敵敢て攻めず尋で引去る。金の撤離、十八人を遣し書を持して子羽を招く、子羽盡く之を斬り、其一を留め之を縛つて還らしめて曰く、我が爲めに賊に誅れ、來らむと欲せば即ち來れ吾、死あるのみ、何ぞ招く可けむと。興元間、富平役の實に坐して軍州團練副使泉州處置を授けらる。吳玠上疏して子羽の功を論じ、節を納れ其罪を贖はむと請ふ。明年其官に復す。後常同に譴奏せられ、復た官を罷め潭州に安置す。張浚力めて之を薦め、鎮江府知府江安撫使を兼ねしむ。金人入寇す、子羽野を清めむと請ひ、淮東の人を皆鎮江に徙し、撫するに廉價を以てす。兵民無居すとも相犯さず。既にして金人主らず。浚子羽に面ふ。

子羽曰く金人異時入寇す、飄忽風雨の如し、今久しく避回す、必他意あらむと。未だ幾ばくならず果して使を遣はして和を請ふ。子羽天性孝友、慷慨自ら許す。雜事ある毎に衆人惶擾して措を失ふも、子羽色逾々厲しく氣逾々動し。事に遇て立どころに斷じ、廉として犯す可からず。其政を爲す好を發し伏を摘む神の如し。治る所強禦を畏れず。財を輕んじ義を重んず。人の乏絶を賑するに皆を傾け廉を倒にす。家塾を關名士を延き、郡中子弟の秀者を教ふ。吏部郎朱松疾病す、家事を以て子羽に托す。子羽室を築き之を舍傍に居き、其子熹と均とを教ふ。卒し皆道義成立す。官右諫議大夫に終る。卒して少傅を贈り忠定と諡す。子熹あり。

リウシ 劉從益 (金)字は雲卿。潭源の人。博學強記、經學に精しく文章を能くし、尤も九百詩工なり。大安元年進士に登る。應舉翰林文字となり、月を論えて卒す。年四十四。蓬門集あり。子那。



歿す。秀之真威、歎賞せざるもの十年。景平二年、南陽郡に除せられ、南陽郡丞となると二十五年、南陽、北陽、南陽三州諸軍事、南陽太守に除せられ、南陽、南陽二州の刺史たり。上其官に莅む清濁なるを以て、則ち錢二十萬布三百疋を賜ふ。

リウジウノツマ 劉柔妻 (晉)王氏。かくして敏賢、辭賦に長ず。敏賢賦を作す。リウシエイ 劉士英 (宋)字は冲發。武康の人。上舍を以て第に擢でられ、温州教授たり。方服寇擾す。士大夫皆遷れ去る。士英獨り留る。郡の諸生石礪を推して謀主と爲し、兵を率めて禦守す。民頼て以て全し。後太原に誦判たり。金人入る。將官王顯と歿く守る。城中食盡きて士英死す。時に年四十五。門人諱して安節先生と爲す。

リウシエイ 劉士瑤 (明)居居祥かならず。沐陽を知す。力を竭して城を捍ぐ。城破れて死す。山東軍事を勵る。

リウシカイ 劉子玠 (宋)字は君錫。砥の子。父卒す。乃ち外家に生鞠せらる。六歳にして其叔父を哭すること成人の如し。既に異じて黃幹に従つて學ぶ。名士に非ざれば交らず。義理の書に非ざれば存せず。嘗て先賢の短長を類列して之を論じ、以て其子姪を教戒して曰く、事を行ふに好人に倣へば足れり、饒く名利を求むるは吾志に非ざるなりと。平居退焉として無。如し、其疾を見るに及んで必ず流俗に類せざるを爲す、即ち人の能く離き所の者あり。嘗て田數

百畝を過り、諸子姪に與へ、以て母の志を成す。年四十八にして卒す。

リウシカウ 劉之亨 (南北)字は嘉會。此の子。司農補を以て出で、南鄭を討ち、大に克つ。執政の陥るゝ所と爲り、封賞行はれざるを久しうす。乃ち譚撫湯傳を上りて、其の功を絶域に立て中傷する者衆きを恨む。内侍張胤曰く、外聞するに論者竊かに之亨が之に似たるを謂ふと。上悟りて乃ち臨江子に封す。

リウシキ 劉子聲 (宋)字は彦冲。給の子。父の死を痛みて慕に慮すること三年、喪を執り、哀を致す。服除き、通判興化軍に除せらる。吏事に堪へざるを以て辭して武英山に歸る。妻死して再び娶らず。母兄に事ふ。孝友を盡くす。諸學倦まず。學者多く之に従ひ遊ぶ。屏山に家居す。園林水石の勝あり。屏山先生と稱す。晩年歌詠自適す。兄弟の間、怡々如たり。朱熹、道に入るの次第を問ふ。答て曰く吾易に於て道に入るの門を得たり。不復復は吾三字符也と。家に二齋あり、東を復齋と曰ひ、西を讀書と曰ふ。各記あり。

リウシクワ 柳子華 (唐)公綽の諸父。始め武に辟され南府を創す。池州刺史に累遷す。代宗將に華清宮に幸せむとし、先づ完事を命ず。子華を以て京兆尹と爲さむと欲す。尹其直方を恐み之を沮解す。遂に昭應令校書郎中と爲り官を修む。置園を市に設けしめ、邑中に拘て曰く、民、華清

宮の瓦石材用を得るあれば、園中に投せよ三日を論えて還さざれば死すと。日を終へずして已に山積す。營務略々足る。

リウシクワン 劉仕恒 (明)字は伯貞。安福の人。元の驥士明の子。父の學を受く。紅巾の賊に執へられ、之を久うして釋くを得。洪武の初、供役を以て張禧に辱められ、憤激して力學す。洪武十五年賢良に舉げられ、庶民按察司分司瓊州を授けらる。惠政あり。累官して朝議省僉事に遷る。後ち河を渡り風に遇ひ水に歿す。

リウシケイ 劉思敬 (元)城の子。世祖の南征に従ひ、先登して流矢に中り、傷甚し。帝親から勞して酒を賜ふ。瀘州叛く。思敬妻子爲し没す。乃ち兵を率めて討伐して其將を擒にし、遂に瀘州を復す。四川北道宣慰使と拜す。卒して瀘國公に封じ忠肅と諡す。

リウシケフ 劉之協 (清)白蓮教徒の首。嘉慶中、襄陽に在り。燒香求福を名とし、愚民を騙り、所在亂を作す。年を経て殊に伏す。

リウシゲン 劉士元 (明)彭縣の人。正徳六年の進士。御史と除す。畿輔を巡按す。會々帝出て獵す。士元其不可を陳す。尋で黃勳の罪を遇ひ、廷管せられて幾んど死す。嶺山驛丞と謫す。世宗即位して故官に復し、累擢して右副都御史巡撫貴州たり。居ること三年にして罷む。

リウシサウ 劉子壯 (清)字は克猷。一字

は雅利、黃岡の人。順治六年の進士。官修選たり。子壯名天下に滿つ。楚北の文章家推して最と爲す。

リウシジユ 劉子孺 (南北)字は季友。少くして文章を好む。性又敏速。嘗て御坐に在り賦を爲る、詔を受ければ便ち成る。文に點を加へず。梁武帝甚だ之を稱賞す。後其に壽光殿侍す。群臣に詔して詩を賦らしむ。時に子孺率と並びに辭して未だ成るに及ばず。帝子孺の板題を取りて之に戯れて曰く、張率東爲美、劉孺洛陽才、權筆何應就、何事久遲回。其親愛せらるゝ此の如し。散騎常侍に遷る。大同中出て、晉竟太守と爲る。

リウシジユ 劉志濤 (明)字は伯齡。密縣の人。幼より聰穎人として過ぐ。戯れに翎毛蝦蟹の類を畫く。落筆瀟灑、活動愛す可し。又詩を能くす。

リウシセウ 劉士昭 (宋)泰和の人。鄉人と同じく諱つて泰和を復せんとして敗る。指に血して帛に書して曰く、生ては宋人と爲り、死しては宋鬼と爲り、赤心國を報ず、一死あるのみと。因て其帛を以て自經して死す。其黨入獄多し、憐みを乞へば苟くも免る。王士敏なる者あり獨り慷慨挽ます。刑に臨み歎じて曰く、恨むらくは吾病んで聲を失ひ大に罵る能はざることをと。

リウシツウ 劉子聰 (元)劉秉忠を見よ。

リウシダウ 劉師道 (宋)東明の人。雍熙中の進士。樞密直學士に累官し左司郎中に

遷る。師道吏事を敏く、煩を削し、滯を折し、案に留置なし。至る所皆あり。性慷慨にして氣を尚び善く政務を談す。工詩を爲り、多く楊億の輩と酬唱す。當時之を稱す。

リウシチ 劉師知 (南北)沛國相人。學を好み當世の才あり。書史に涉り文章に工に、體道を善くす。臺閣の故事詳悉する所多し。寵榮一時に冠たり。高祖の崩するや順命を受く。已にして詔を矯むる所あり、事覺れて誅せらる。

リウシチヨウ 劉時寵 (明)上蔡の人。孝行あり。崇禎中、賊城を陷る。其父宗祀老いて行く能はず。之に命じて速に避けしむ遂に自殺す。時寵慟哭して一子三女を刺殺し、夫婦並に自刎す。

リウシツ 劉瑯 (漢)高唐の人。太原太守と爲る。嘗て直言を以て罪に坐す。陳蕃上疏して其の志、惡を去るに在るを訟ふ。許されず、竟に獄中に死す。天下之を冤とす。

リウシツ 劉實 (明)字は嘉秀。安福の人。宣徳五年の進士。庶吉士たり。正統景泰の交、宋元通鑑綱目を修す。知府に擢てらる。中官に陥られ、竟に瘞死す。南離の人哀て之を祠る。

リウシテイ 劉師貞 (唐)字は文通。彭城の人。少年にして母を失ふ。長ずるに及びて容狀を記せず。思辰に至れば終日涕泣追慕し、飲食を廢す。忽ち夢に母の狀を見る。覺るに及んで哀號し乃ち木を刻み像を爲

る。敬事すること生るが如し。時新の物ある毎に必ず先之を薦めて後に食す。

リウシト 劉士斗 (明)字は蘭甫。南海の人。崇禎四年の進士。大倉州を知す。政聲あり。上官に忤ひ、計典に中る。江西按察司知事に謫せらる。成都推官に擢つ。十六年御史劉之勃、薦めて建昌兵備僉事と爲す。明年八月賊將に境に入らんとす。之勃之を促して行らしむ。士斗曰く、安危生死公と共にせん、復何く往かん。城陥りて執はる。之勃の褫職忠と語るを見、大呼して曰く、此賊なり、公少しも風す可からずと。獻忠怒る。士斗之勃を返顧して語ること前

の如し。遂に圍門殺さる。

リウシホ 劉子輔 (明)慶陵の人。國子生より監察御史に擢てらる。至る所善聲あり。永樂十八年、賊謀利を征し、力竭き自ら縊れ死す。

リウシホウ 劉之鳳 (明)字は維鳴。中牟の人。萬曆四十四年の進士。南京御史を歴。天啓間、魏忠賢に擯さる。崇禎二年故官に起ち、刑部尙書に累擢せらる。高牆を劾し刑を修んと請ふ。帝怒りて獄に囚ふ。屢獄中より自ら白す。省せられず。竟に瘞死す。

リウシボツ 劉之勃 (明)字は安侯。鳳翔の人。崇禎七年の進士。行人より御史に擢てらる。張獻忠を拒ぎ、敗れて執へらる。同郷の故を以て之を放つ。福王の時、右僉都御史に擢てられ、巡撫四川たり。

リウシン 劉晨 (漢)剡溪の人。明帝の永



平中、阮肇と同じく天台山に入つて齋を採る。路迷ひ糧盡く。山頭を望めば桃あり、共に取て之を食す。山を下れば眞響を見る。一水を渡れば杯流れ胡麻飯屑を出す。二人相贈て曰く、人を去ること遠からずと。一山頭を度れば二女を見る。顔色殊妙、便ち劉阮の姓名を喚びて問ふ、来ること何ぞ晚きと。蕭相識の如し。因て遊へて家に至る。蕭前服侍婦、林煥、一寶璣、都て男子なし。須臾にして胡麻飯山羊脯を下す甚なり。又甘酒を設く。數客有り各三五の桃を持ち來りて女婿を慶すと云ふ。劉阮止宿して夫婦の禮を行ふ。住むこと半年天氣常に二三月の如く、百鳥哀鳴す。二人歸るを求む。女曰く此宿に來るは福の招く所仙女と交接するを得、罪愆未だ盡きず、君等をして此の如くならしむと。諸仙庭に歌吹を作して劉阮を送る。曰く此漏口より去れば還からずして大路に至らむと。其言の如くす。郷に還れば相識ある者なし。驗するに七代の子孫を得たり。聞く上龍山に入り探訪して還らすと。酒泊して還らむと欲するに所なし、女の家路を導す。晉太后八年忽ち二人の所在を失ふ。

リウジン 劉備 (漢)東平思王の孫。王莽居攝の時、東郡太守翟璜等謀りて兵を擧げて莽を誅せんとす。信を立て、天子と爲す。兵敗れて滅さる。

リウジン 劉誼 (三國)蜀の宗室、封せられて北地王と爲る。後主劉禪の降魏の儀に

從はむとするを以て怒て曰く、若運窮まり力屈し敗れば、便ち當に父子君臣城を背にして一戰すべし、同じく社稷に死して先帝に見ゆれば可なりと。後主納れず遂に置子を殺して後ち自殺す。左右涕泣せざる者なし。

リウジン 劉璋 (南北)字は宣舉、顯の子。年十八にして梁の東閣祭酒となる。高祖に隨ふ。初め饒同三司左僕射に進み、饒陽縣侯に封せらる。經史に耽悦し終日軍思す。兩漢書に精し。時に稱して漢靈と爲す。

リウジン 劉焯 (南北)字は子敬、焯の弟。方殺正直。宋の泰豫中、明帝の挽郎と爲る。晝嘗て夜燈を隔て、之を呼ぶ。寢床より下り衣を着け立つて方に應ず。焯其久しきを怪しむ。曰く向來東帝未だ竟らずと。其立操此の如し。

リウジン 劉進 (隋)管絃記十卷を著す。

リウジン 劉信 (五代)江西の人。楊隆演の將となり征南大將軍に任ぜらる。唐の莊宗、薛昭文を遣はして道を江西に假らしむ。信出て、之を勞す。詔つて曰く亞次、信ありと聞くや否や。昭文曰く天子新に河南ありす、未だ公の名に熟せざるなり。信曰く漢に韓信あり、吳に劉信あり、君還て亞次に對し、當に來りて射を淮上に較ぶべしと。徐溫吳を基ひ信を思ひ召して左統軍と爲し、託するに内備を以てして遂に其地を奪ふ。

リウジン 劉崱 (宋)字は仲純、吳興の人。

深陽に遷居す。博學にして士を愛し、古君子の風あり。進士に登第す。戶部侍郎に累官し、徽猷閣待制を以て致仕す。時に劉崧、劉瞻あり、名を等しうす、三山と稱せらる。

リウジン 劉焯 (宋)靖康の初、眞定路都鈐轄と爲る。金人來り攻む。焯衆を率ゐて靈夜搏戰す。城陷る。焯巷に戦ふ。敵せざるを知り、故に其弟を顧みて曰く、我は大将なり、賊の戮を受く可けむやと。自ら縊れて死す。

リウジン 劉誥 (宋)福清の人。進士に擧げらる。崇寧中、宗正簿監簿尉太常少卿に歴官す。誥音律に通ず。母の喪に居りて禮を盡す。

リウジン 劉仲 (遼)字は濟時、宛平の人。少くして穎悟。長じて辭翰を以て聞ゆ。重熙間の進士。彰武節度使、掌書記大理正を歴。嘗て賦を奏す。上適々近臣と語り顧みず。仲言ふ、古の帝王は必ず民命を重んず、願くは陛下臣の奏を省せよと。上大に驚異す。性法律に明らかにして寬恕多し、故に冤獄なし。崇寧軍節度使と爲る。政務簡靜なり。優詔して之を褒す。後ち相と爲り耶律乙辛と協はすして致仕す。大安二年卒す。

リウジン 劉誥 (元)字は桂籍、吉安慶陵の人。重厚醇雅。師道を以て自ら居り。聲譽日に隆し。遺逸を以て許さるれども就つず。著に桂籍集あり。至正十年卒す。年八十三。誥を女教と賜ふ。

リウジン 劉戰 (明)字は景元、安福の人。

弘治中、官侍講たり。嘗て安南に使す。餽遺一も受と所なし。清廉を以て稱せらる。

リウジン 劉深 (元)成宗の大德間、兵を貴州に擧ぐ。饑もなく誅に伏す。

リウジン 劉震 (明)金華の苗帥。至正二十二年、蔣英等と亂を作し、參將胡大海を殺す。至る所靡掠を絶まじにす。已にして誅に伏す。

リウジン 劉辰 (明)字は伯醇、金華の人。太祖のとき典義たり。永樂間、行部左侍郎に累進す。致仕して卒す。年七十八。

リウジン 劉晉 (明)撫を善くす。

リウジン 劉訥 (明)鄱陽の人。豫の子。正徳十二年の進士。寧國推官たり。世宗の時、歴官して刑部尙書に至る。後法司殿試に坐して黜けらる。然も時人之を稱す。

リウジン 劉迅 (唐)字は捷胤、京兆功曹參軍事を歴。嘗て疾に襲す。房琯聞き憂いて救れずして曰く、捷胤不諱あらば天理欺くなりと。陳郡の殷寅人を知るに名あり。迅を見て嘆じて曰く、今の貴族なりと。劉宴毎に其論を聞きて曰く、皇王の道盡せりと。

リウジンカウ 劉善文 (五代)字は求益。幽州の人。晉に仕へて三司使と爲る。時に諸者あり、天下の民田を檢して以て租を益さむと請ふ。善文曰く租定額あり、天下比年開田なしと。遂に止む。民賴て以て擾れず。尋て陳州防禦使に遷る。民の耕耨洒灑なるを視て、乃ち河北の耕器を取りて範と

爲し、民の爲に之を垂察す。

リウジンキ 劉仁軌 (唐)字は上則、高宗の朝に左僕射と爲る。時に戴至德、右僕射と爲り、更日と號を賜ふ。老邁あり膝を投ず。至德受け乾る。還復た之を取て曰く木と解事の僕射と投ず、乃ち不解事の僕射かと。

リウジンキヨウ 劉仁恭 (五代)深州樂壽の人。幽州の李可舉と事へ、能く地と穴して道々爲り以て城を攻む。軍中劉憲頭と號す。可舉死し其子匡威弟匡胤と送ける。仁恭之を討つて克たす晉に奔る。晉以て壽陽の鎮將と爲す。晉王、匡胤を擊破し、仁恭を以て幽州留後と爲す。後ち遂に之に據りて自立し、晉に結び以て梁に抗す。梁の開平元年其子守光の爲に幽せらる。乾化二年晉兵守光を封つて之を擒にし、併せて仁恭を殺す。

リウジンケイ 劉善瓊 (宋)范陽の人。初め殿直と爲る。太祖に從つて澤潞を平らぐ。軍器庫使に累遷す。太宗の時澤州と知たり。僞民の政あり。從つて河陽と知たり。年八十餘。筋力衰へず、鬚髮黝黒。孫爽、進士と及第して秘閣校理と爲る。

リウジンサン 劉仲山 (清)字は祐南。湘鄉の人。咸豐十年羅澤南に湘右營に歸す。從つて武漢と克つ。五年義寧に克つ。湖北を授け復た崇陽を克つ。進んで武昌を攻む。大小七十戰皆與かる。七年湖口を攻め梅家州を攻む。八年九江を復す。湘軍統を征し及び三河の戦ひに隨ひ、首として先づ

陣に臨み遂に害せらる。年二十二官副將に至る。諡して忠兵を贈り、忠毅と諡す。

リウジンシ 劉振之 (明)字は而強、蕪湖の人。性剛方、學行に敦し。崇禎の初、郷に擧げられ、教諭を以て鄱陽知縣と遷さる。十四年十二月、李自成許州を陷る。以南監城なし、振之吏民を集め共に守る。賊火に至り城陷る。振之笏を乘りて堂上に坐す。賊叩を索むれども與へず。縛して之を露中に置く。三日夜罵る口絶えず。亂交々下り、乃ち死す。初め振之一小簡に書して篋中に藏し、毎歳元旦取り觀る。輒ち紙を加へて其上に封す。死に及んで家人篋を發く。乃ち、不貪財、不好色、不畏死、三語なり。其立志此の如し。光祿寺丞を贈らる。

リウジンセイ 劉謙世 (明)鄆州知州。崇禎十四年十一月、李自成、羅汝才、城に薄る。執へられ賊を罵て死す。

リウジンセウノツマ 劉晉燾 (明)馬氏。山陰の人。萬曆中、夫客死す。家、立繼無し。伯氏權あり母と其上に寄居し、紡績給養し梯を下らざる。と數十年。常に瓦盆に新土を貯へ足を以て之に附けて曰く、吾土氣を服すと。年六十五卒す。

リウジンセン 劉仁瞻 (五代)彭城の人。南唐の清淮節度たり。壽州を鎮す。周師城を圍む。仁瞻堅守して下らず。副使孫羽翀つて城を以て降る。仁瞻之に死す。世宗遂に城を下寨に徙し、其軍を復して曰く、吾以て仁瞻の節を旌すなりと。



リウシヤウ 劉進忠 (清)遼東遼陽の人。初め明の總兵馬得功の部校たり。後、清に降り、調せられ廣東潮州を鎮す。後、耿精忠と謀を通し、漢閩の變に乗じて兵を擧げ反す。市に磔せらる。

リウシヤウツマ 劉錫妻 (晉)陳氏。聰辯能く文を屬す。嘗て正旦椒花頌を獻す。其詞に曰く、旋登周鼎、三朝肇建、青陽啟輝、澄景咸煥、探美靈葩、爰採爰獻、聖容映之、永壽於萬。又元日及び冬至、進見の儀を撰ぶ世に行はる。

リウシヤウレイ 劉善禮 (唐)彭城の人。徳威の子。徳威仕へて大理卿に至る。得る所の俸祿以て宗親に分ち、留蔵する事なし。審禮人と爲るに及び、尤も孝謹。少くして母を喪ひ、祖母元の養ふ所と爲る。元疾病ある毎に必ず親から藥を煮、嘗めて進む。元曰く兒の孝幽顯に通ず、吾願念せすと。疾軀愈ゆ。貞觀中左驍衛將軍を歴。繼母に事へて尤も謹。弟延景に對する友愛、祿を得て之を貢く。弟亦甚だ恭。而して妻子寒苦を執りて宴如たり。再從皆同居するを得、合せて二百口、内外間言なし。當時孝義の劉家と號す。

リウシヤウ 劉辰翁 (宋)字は會孟。廬陵の人。少くして進士に擧げらる。宋季の亂、遂に隱居して道を求む。著す所、頌溪文集あり。子尙友能く其學を繼ぐ。元の吳儂其父子の文を評して謂ふ、辰翁は奇詭變化、尙友は浩瀟灑邁、皆能其一家の言を爲すと。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

經抑揚盡く公論に合す。再び潭州教授に任ぜらる。士多く心を歸す。官に卒す。經進易解十卷あり。翰林洪邁、之の序を爲る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。

リウシヤウ 劉向 (漢)字は子休。沛人。字は休。博學。子幼にして聰慧。賓客見る者皆神童と號す。竊母に事へて孝を以て聞ゆ。十歳能く文を屬し、十二五經に通ず。梁に仕へて車騎大將軍に遷る。



偏略を撰び、以て之を高くし、竟に用ひず。峻乃ち辨命論を著して以て懷を寄す。東陽紫巖山に遊び室を築きて居り。卒して元靜先生と諡す。峻嘗て金華山に隠れて山樵志を著し、また世説新語を註す。識者謂へらく、前に古人なしと。

リウシユン 劉俊 (南北)字は士操。齊武帝と同じく直殿内たり。並に宋明帝の親待する所となる。後安遠護軍に遷り武陵内史たり。郡南の古江隄久しく廢す。俊修して未だ畢らず。江水忽ち至り、百姓舟役奔走す。俊親ら之を勸す、是に於て乃ち成る。明帝崩じて後、表して都に還る。吏人送る者千萬人、俊人々の手を執り保くるに涕泣を以てす。百姓之を感じ贈送甚だ厚し。

リウシユン 劉俊 (明)字は子士。江陵の人。洪武十八年の進士。兵部主事より右侍郎を歴。建文永樂の交、尙書に進み、該て軍務に參す。永樂六年大海の役、力竭き自經して死す。洪熙元年太子少傅を贈り節敏と諡す。子奎、給事中たり。偕に死す。

リウシユン 劉俊 (明)字は廷偉。蘭を香くす。人物山水俱に佳なり。リウジン 劉惔 (三國)平原の人。乱に遭ひ避けて廬陵に遊ぶ。吳の孫輔以て軍師と爲す。建安中孫權豫章に在るの時、星變あり以て惔に問ふ。惔曰く災丹楊に在り。懼曰く如何。曰く客主人に勝る。某日に到つて當に聞くを得べしと。是時邊鴻亂を作す、卒に惔の言の如し。惔術を善くし尤も

得たり。職に在る事六年、號して評平と爲す。時に以て張釋之に比す。元康中尙書と爲り光祿大夫を加へらる。卒して貞と諡す。リウシヨウ 劉鍾 (南北)字は世之。彭城の人。少くして貧賤なり。郷人中山太守劉同に依りて共に居り、慷慨の志あり。宋高祖に従ひ孫恩を伐て功あり。劉牢之が鎮北參軍と爲り、盧循を討ち、徐道覆を斬り、廣固を平ぐるの功を以て永新縣男に封ぜらる。

リウシヨウ 劉崧 (宋)字は伯高。岑、字は仲高。嶠、字は季高。吳興の人。東坡賦する所吳興丈人の詩劉季叔の諸孫なり。共に才學を以て三山と稱せらる。リウシヨウ 劉崧 (明)字は子高。泰和の人。嶠名は楚。家貧して力學す。寒に燭火無く、手皸裂するも鈔録廢まず。元末に舉せらる。洪武三年經明行修に擧げられ兵部職方司郎中より北平按察司副使に遷る。流亡を招撫して其業を復す。累官して國子司業に至る。洪武十四年三月疾で卒す。

リウシヨウ 柳升 (明)懷寧の人。父の職を嗣ぎ燕山護衛百戸たり。左軍都督僉事に累遷す。永樂の初、交趾を征し、尋て奇羅唐賽兒等を討平す。洪熙元年戰潰れて執へられ、風せずして死す。正統十二年融岡公を贈り褒敏と諡す。子溥。リウシヨウ 劉拯 (宋)字は彦修。南齊の人。神宗の時監察御史と爲る。蔡京、哲宗の黨を劾す。拯漢書の黨禍を歷陳す。京

怒る。出で、新州に知たり。張商英、入て相たり、召されて吏部尙書となる。リウシヨウキ 劉承鈞 (五代)東漢主第二世。晏の次子。立て十三年死す。リウシヨウサン 劉松山 (清)字は壽剛。湖南湘州の人。咸豐の初、王壯武の部下に隸し、從て湖南に戦ふ。江西諸行省を歴て名績あり。十年李秀成、李世賢、曾國藩を斬門に困ましむ。松山血を踏むこと二年、徽寧二府に克ち以て江浙の大定を致す。同治四年燃匪を河南に勦す。未だ幾ばくならず、圖て山東に還す。松山急に濟寧を扼し數々之を敗る。五年燃匪を陝西に勦し大に破る。七年甘肅の回匪を征し、六晝夜の力を竭くして北山土匪を竭くす。十七萬有奇。進んで靈州を勦し、塞堡數百を破り其城を復す。又馬化龍を金積堡に勦し、連りに五十餘寨を拔く。九年正月進て馬五寨を攻む、飛駝左乳に中りに死す。年三十有八。官提督に至る。忠壯と諡す。

リウシヨウ 劉松年 (宋)錢塘の人。清波門に居り。紹興間、晁院に待詔す。郭禮を帥とす。工に人物山水を畫く。名其師に過ぐ。寧宗の朝、晁院の圖を進め、金幣を賜はる。リウシヨク 劉寔 (晉)字は子眞。智の兄。少にして牛衣を賣りて自ら給す。博學にして清操を持す。司空に累遷す。世風奔競するを以て崇謙論を著して之を矯む。リウシヨク 劉子翼 (唐)字は小心。學行

る。一夕族父哭望の甚だ長きを聞き故を問ふ。曰はく、馬周の傳を讀み、其言の少にして父母を失ひ、犬馬の養應す所なしといふに至り、爲に悲感自ら止むる能はずと。諸父之を奇とす。兩郡擧を以て禮部に試みられ第七人たり。紹興二十一年永春縣主簿に調し秩滿ちて漳州教授を授けらる。終に平江府に遷りたり。年五十七。金紫光祿大夫を贈らる。子榮、皆進士に登第す。

リウジヨ 劉恕 (宋)字は道原。書目を過ぐれば誦を成す。嘗て書を讀む。家人食を設く、羹冷なるも顧みず。六經を反求し、夜は則燈を以て義理を尋思す。年十八、進士第一に擧げらる。官を歴て秘書丞に至る。博學強記史學を好む。司馬光の資治通鑑を修むるや、奏請して編修を同す。王介甫與に善あり、引て三司條例に置むと欲す。恕肯く新法に附せず、固辭して其失を直言す。卒する年四十七。著す所十國紀年通鑑、金紀、及び外紀等の書あり。恕が利州令たりし時、宋次道の家、書多し恕往き就て之を借視す。次道酒饌を具設して禮を爲す。恕曰く此れ大に吾事を廢す、願くは微法を添くまじと。獨閉を閉ちて晝夜攻誦、旬日にして其書を盡くして去る。

リウシヨウ 劉頌 (漢)懷王を見よ。リウシヨウ 劉頌 (晉)字は子雅。廣陵の人。咸寧中、守廷尉たり。時に尙書令史彪寅罪に非らずして獄に下さる。詔して考竟せしむ。頌無罪を執據す、寅遂に免るゝを

太乙に明かなり。其事を推演するの著書百餘編あり。リウジン 柳珂 (明)升の裔。兩廣を鎮す。平蠻の功あり。嘉靖十九年征夷副將軍に補せらる。安南莫登庸を征服し、太子太傅を加ふ。又黎賊を討じ少保を加へらる。卒して太保を贈り武襄と諡す。

リウジン 劉澤 (明)南陽の人。洪武の末、原武訓導たり。周王之を太祖に薦む。右長史に補す。之を久しうして致仕す。十餘年にして卒す。年九十有七。リウジン 劉準 (明)唐山の諸生。父の喪に慕ひ、冬月野火燐樹に及ばんとす。準悲號す。火遂に息む。正統六年産せらる。リウジンキ 劉應麟 (清)字は千里。號は廓庵。廣濟の人。著す所、芝在高集及び學庸古本解の諸書あり。

リウジンチヨク 劉洵直 (宋)字は子浩。年十二にして父を失ひ、十六にして母を失ふ。號精幾たびか絶ゆ。時に已に苦學を知る。篝燈几筵の傍、書を誦し率夜分に至る。一算燈九筵の傍、書を誦し率夜分に至る。

あり、性剛直、朋友過ちあれば之を面責し、退いて餘言なし。李百藥嘗て人に語つて曰く、劉子翼人を罵ると雖も、人終に恨みずと。隋の秘書監となる。唐太宗之を徵す。辭するに母老たるを以てして至らず。リウシヨク 劉子翼 (宋)字は彦禮。給の子。廬を以て官に補せらる。宣和中、給鎮定を守る。金人入寇す。給子翼を遣はし、入て戦守の事宜を奏せしむ。浙東提舉茶鹽事に累遷し、廣東轉運判司に改めらる。俄にして循吏に薦められ撫州を知し、信州に改む。子翼開明誠決、之に本づくに書を以てす。至る所簡易にして擾れず、民甚だ之を愛す。

リウシヨク 劉式 (宋)字は叔度。清江の人。太宗の朝、邦計を掌ること十余年。既にして卒す。家徒四壁立するのみ。惟遺書數千卷あり。夫人指して諸子に謂つて曰く、此乃ち父の墨莊なり。其後諸子及び孫並に高第に起ち時の名臣と爲る。

リウシヨク 柳植 (宋)字は子春。杭州の人。少くして貧、自ら學に勤む。進士甲科に擧られ、官翰林學士に至り、壽寧蔡州四州を歴知す。平居長懷、言笑寡し。至る所の官舎、蔬菜自ら給し、家に長物無し、人其廉を稱す。

リウジヨグ 劉如愚 (宋)字は明遠。崇安の人。才幹あり善く文を屬す。尤も吟咏を善くす。郷に居るの日、朱熹と唱酬す。從子珙と與に同じく登第して秀州海鹽尉に調

る。一夕族父哭望の甚だ長きを聞き故を問ふ。曰はく、馬周の傳を讀み、其言の少にして父母を失ひ、犬馬の養應す所なしといふに至り、爲に悲感自ら止むる能はずと。諸父之を奇とす。兩郡擧を以て禮部に試みられ第七人たり。紹興二十一年永春縣主簿に調し秩滿ちて漳州教授を授けらる。終に平江府に遷りたり。年五十七。金紫光祿大夫を贈らる。子榮、皆進士に登第す。

リウジヨ 劉恕 (宋)字は道原。書目を過ぐれば誦を成す。嘗て書を讀む。家人食を設く、羹冷なるも顧みず。六經を反求し、夜は則燈を以て義理を尋思す。年十八、進士第一に擧げらる。官を歴て秘書丞に至る。博學強記史學を好む。司馬光の資治通鑑を修むるや、奏請して編修を同す。王介甫與に善あり、引て三司條例に置むと欲す。恕肯く新法に附せず、固辭して其失を直言す。卒する年四十七。著す所十國紀年通鑑、金紀、及び外紀等の書あり。恕が利州令たりし時、宋次道の家、書多し恕往き就て之を借視す。次道酒饌を具設して禮を爲す。恕曰く此れ大に吾事を廢す、願くは微法を添くまじと。獨閉を閉ちて晝夜攻誦、旬日にして其書を盡くして去る。

リウシヨウ 劉頌 (漢)懷王を見よ。リウシヨウ 劉頌 (晉)字は子雅。廣陵の人。咸寧中、守廷尉たり。時に尙書令史彪寅罪に非らずして獄に下さる。詔して考竟せしむ。頌無罪を執據す、寅遂に免るゝを

あり、性剛直、朋友過ちあれば之を面責し、退いて餘言なし。李百藥嘗て人に語つて曰く、劉子翼人を罵ると雖も、人終に恨みずと。隋の秘書監となる。唐太宗之を徵す。辭するに母老たるを以てして至らず。リウシヨク 劉子翼 (宋)字は彦禮。給の子。廬を以て官に補せらる。宣和中、給鎮定を守る。金人入寇す。給子翼を遣はし、入て戦守の事宜を奏せしむ。浙東提舉茶鹽事に累遷し、廣東轉運判司に改めらる。俄にして循吏に薦められ撫州を知し、信州に改む。子翼開明誠決、之に本づくに書を以てす。至る所簡易にして擾れず、民甚だ之を愛す。

リウシヨク 柳植 (宋)字は子春。杭州の人。少くして貧、自ら學に勤む。進士甲科に擧られ、官翰林學士に至り、壽寧蔡州四州を歴知す。平居長懷、言笑寡し。至る所の官舎、蔬菜自ら給し、家に長物無し、人其廉を稱す。

リウジヨグ 劉如愚 (宋)字は明遠。崇安の人。才幹あり善く文を屬す。尤も吟咏を善くす。郷に居るの日、朱熹と唱酬す。從子珙と與に同じく登第して秀州海鹽尉に調



ば。海賊を獲、秋を政めて福州古田縣を  
知す。尋て行在審計院に除せらる。江四帥  
司參議官に終る。

リウジヨシウ 劉汝舟 (宋)字は元道。穀  
の子。政和の進士に第し、調ばれて興化軍  
司法たり。郡富民王氏死して嗣なし。汝舟  
二十萬を得たり。其妻遺腹を以て自訴ふ。  
守聽ずして其妻を縛せむと欲す。汝舟執て  
可かず。既にして男を生む。汝舟折す。  
守怒る。汝舟命を納れ歸を乞ふ。守怒り  
稍く奪ると雖も尙其半生を留す。王氏の子、  
名は濟、紹興中登第す。是より先、汝舟張  
汝と故あり。建元の初、汝に平戎十策を獻  
ず。汝舟詳して參謀官となす。

リウジヨシウ 劉汝舟 (宋)字は端父。準  
の子。父の訓を端守し、平居、戲言情容な  
し。郡の名士大夫、相繼ぎて來り居り、一  
時林下の衣冠盛と爲す。

リウジヨゼ 柳如是 (明)名は是、如是は  
其字。一字は隱燕。本と吳江の名妓徐佛の  
弟子にして姓は楊、名は愛柳と曰ふ。丰姿  
逸麗、詞として驚鴻の如し。性褻褻、詩を  
賦して尤近體七言に長ず。年二十餘虞山の  
詩宗伯に歸く。

リウシリン 劉之遴 (南北)字は思賢。此  
の子。入歳にして文を能くす。沈約、任昉、  
之を異として曰く、荆南の秀氣、果して奇  
才ありと。

リウシリン 劉之遴 (明)字は元誠。宜賓  
人。家世農を務む。力田の間、耕を賣り

以て書を購ふ。崇禎元年の進士。庶吉士に  
除す。累遷して兵部右侍郎たり。慶清寇を  
却け賞せらる。永平の役、流矢に中りて卒  
す。兵部尙書を贈る。

リウシキ 劉思尹 (宋)字は覺容。一字  
は元衡。新昌の人。少くして學を力む。嗣  
に謁して書を獻す。古今の理乱得失、足圖  
裕民、養才取士、選書練兵制勝の策を陳す。  
報せられず。初め長沙司馬參軍を授け、再  
が江陵府察推を授けらる。廉潔取るなし。  
自ら戒符と號す。上司に忤ひ官を棄て、  
歸る。詩酒自ら樂むこと幾んど二十年。五  
坡老人と稱す。官朝奉郎に至る。

リウスイ 劉暉 (金)字は居中。通州三河  
の人。少くして軍に従ふ。然れども意を經  
史に刻す。天眷二年登第す。諸官を歴て山  
東路都轉運使に遷り、官に卒す。

リウスイ 劉暉 (南北)字は道中。沛郡蕭  
の人。少にして志幹あり。初め州の從事た  
り。高祖京城に克ち建武軍に參す。從て京  
邑を平らげ參政軍事に轉じ、尋て建武將軍  
を加ふ。廣固を征して戰功居多なり。游擊  
將軍に轉じ建威將軍に遷る。江夏相衛將軍  
段は幹の族兄なり。幹心を高祖に盡し、殺  
と囚居せず。高祖愈々之を信ず。其大軍至  
るに及び幹其賊力を竭す。事平き滌縣侯に  
封せらる。

リウズキ 劉暉 (宋)考城の人。進士及第  
し、益州判官たり。後右司諫に遷る。終に  
天章閣待制たり。隨官官となり清直を以て

開ゆ。蜀に在りて事に臨みて明銳、人號し  
て水晶燈籠の比と爲す。卒す。帝其家貧な  
るを憐み錢六十萬を賜ふ。

リウスキカ 劉翠哥 (元)字仲義の妻。至  
正の末、大に饑す。賊其夫を執らへ之を烹  
むと欲す。翠哥曰く吾夫瘦小、食するに足  
らず、吾は肥大なり請ふ烹に就かむと。遂  
に烹殺せらる。

リウセイ 劉整 (三國)合肥守城の士。諸  
葛恪合肥を圍む。整爲に得らる。拷問所語  
を傳へて曰く、諸葛公汝を活さむと欲す。  
汝眞きに服すべしと。整罵つて曰く、死狗  
此れ何の言ぞや、我當に必ず死して魏國の  
鬼と爲るべし、然らずは活きて汝を逐ひ去  
らん。終に他辭なし。

リウセイ 柳靖 (南北)字は思休。少くし  
て方雅。博く墳籍を覽る。梁に仕へて正員  
外たり。周に入て大督を授けらる。隋文帝  
の時、德廣二縣に知たり。教化四方に布き、  
吏民畏れて之を愛す。然れども性簡素、利  
に於て澹如たり。秩滿して郷に還り、終焉  
の志あり。河南德廣二縣を歴、居る所皆政  
術あり。後ら門を閉ざりて自ら守り、對する  
所は惟書のみ、足圍亭に立たざること殆  
んど十載ならむとす。子弟之を奉する嚴君  
の若し。其過つ者あれば靖必ず鞭を下して  
自ら責む。是に於て長幼相率めて廷に拜謝  
す。靖然る後ら之を見るに最も禮法を以て  
す。鄉里亦慕て之に化す。或は不善なる者  
あれば、皆曰く惟柳德厚の知るを得るを異

リウセイ 柳晟 (唐)解人。少くして孝を  
以て聞ゆ。德宗幸天に幸するに從ひ、自ら  
賊に説くを請ふ。朱泚の爲めに捕繫せらる。  
晟械を毀ち夜亡げて、間に奉天に歸る。車  
駕京に還るに及んで、山西南宮に便に果遷  
す。同鶴に便し公爵に進む。

リウセイ 留正 (宋)字は仲至。後處士必  
ず其貧きを知り女を以て之に娶はす。處允  
文、興に暗り之を奇として以爲へらく宰相  
の器ありと。孝宗の朝、四郡を歴、召され  
て四府に還る。光宗の初左相に拜す。屢上  
疏して政を罷むむと乞ふ。許されず。  
帝重華宮に朝せず。正宰相を率めて進諫す。  
帝衣を拂つて起つ。正帝の稱を引て泣諫す。  
孝宗崩す。正衆人を率めて奏し乞ひて嘉王  
を立て宗社を安んぜざるべからざるを以て  
す。報せられず。六月を越て又前批を請ふ。  
事を歴る歳久しく閑に退かむと欲す。因て  
朝し伴に侍ひ、過に肩輿を以て逃れ去る。  
趙汝愚、朝に立ち復正を召還す、即ち左相  
と爲る。後韓侂胄の問する所と爲る。政を  
罷り出で、建康府に知たり。正、法度を謹  
み名器を惜み、毫釐も以て私にせず。周必  
大と俱に相業を以て稱せらる。卒して公に  
封せられ、忠宣と諡す。孫元剛、博學鴻詞  
科に中る。

リウセイ 劉正 (宋)字は道謙。侯官の人。  
出炎間、知尤溪縣たり。廉明にして阿れら  
りウセイ

ず。紹興の初、建劍寇起る。正民兵を訓練  
して縣境を衛る。弓手余招、酒に酔ひ馬を  
墮らして隊に入り其衆を擾す、隊長止むる  
能はず。正斬て以て徇ふ。部下肅然たり。  
鄉民林煥、鄭信、亡命を招集して亂を爲さむ  
と欲す。正豫め其情を得執へて之を戮す。  
民賴つて以て安し。

リウセイ 劉宸 (宋)字は淵都。科第より  
古田縣に知たり。性狷介、嘗て經を陳密に  
質し、史を鄭寅に評し、易を蔡淵に問ふの  
外は人と接する事なし。卒するに臨み猶諸  
孫の爲めに、飛賦集解孟子一章を讀す。著  
す所、易象圖考等の書あり家に蔵す。

リウセイ 劉整 (宋)鄧州の人。金より亂  
を避けて宋に入る。初め孟洪の麾下に隸し、  
從軍して功あり。累遷して知澶州兼滏川安  
撫副元たり。制置使愈興尤と隙を構へ、景  
定二年衆を率ひ元主に降り、頗々宋の權機  
を疑き以て元主を資く。而も終を令くせず。  
リウセイ 劉晟 (五代)南漢第四世。初の  
名は洪淵。雙の子。兄功を弑して自立す。  
衆の服せざるを懼れ益々刑法を嚴峻にす。  
又諸弟を殺して之を盡くす。十六年疽す。  
臨して明孝皇帝といひ、廟を中宗と號す。  
リウセイ 劉政 (金)涪州の人。性篤孝、  
母明を喪ふ毎に舌を以て舐る、旬を逾えて  
忽ち能く物を視る。特に太子掌飲丞となす。  
リウセイ 劉正 (元)字は青卿。青州の人。  
書を讀み吏事を習ふ。大徳の初、累遷して  
雲南左丞となる。時方に征緬を議す。正力

めて之を阻む。帥を出して果して功なし。  
武宗即位するに及びて中書左丞と爲る。仁  
宗の時平章政事に拜せらる。延祐六年卒す。  
趙國公に追封し忠宣と諡す。

リウセイ 劉政 (明)字は仲理。長洲の人。  
鄉試に中り應天に擧げらる。會々燕兵起る。  
燕を平ぐるの策を草し、將に之を上らんこ  
す。病を以て家人に沮せらる。方孝孺の死  
を聞き、遂に血を嘔きて卒す。

リウセイ 劉靜 (明)萬安の諸生。嘉靖の  
間、流賊其縣を陷る。賊母を殺さんとす。  
靜身を以て蔽す。賊、双々擡て殺す。猶  
母を抱いて解かず。萬曆元年、旌表せらる。  
リウセイ 劉成 (明)寶豐の人。統兵總管  
を以て耿炳文に從つて長興を定め、永興翼  
左副元帥に進む。後ら張士誠に敗られて戰  
死す。懷遠將軍を贈る。



清官軍五百を以て之を平らぐ。清書生を以て再たび兵を將とし、循吏を以て賊を殺し、明經を以て方面を濬り、武職に改めらる。國士の風あり。官布政使に至り、總兵を授けらる。道光七年家に卒す。

リウゼイ 劉丙 (宋)永州司理。賦を鞠し法家の爲に疏駁せらる。尚書、今疏駁者の駁意を觀るに大に古人の用心と同じからず、古より惟死中に生を求むるを聞かざり、生中に死を求むるを聞かず。疾に託して歸る。

リウゼイ 劉焯 (宋)荆南の人。時に荆南の舉人、多く名を成さず。焯初めて及第す。之を破天荒と謂ふ。

リウセイカウ 劉世亨 (元)字は嘉甫。敏の子。墨竹を嗜む。

リウセイケン 劉齊賢 (唐)祥道の子。爵を襲ひて侍御史と爲る。出て、晋州司馬たり。方直を以て帝に尊憚せらる。時に將軍史與宗、苑中に獵す。曰く晋州佳鶴を出す捕取すべしと。帝曰く齊賢豈捕鶴の人ならむやと。黃門侍郎修國史に累遷す。同中書門下平章事に進む。武后の時裴炎に代つて侍中と爲る。事を辨して及ばず。武后怒つて晋州刺史に左遷し、吉州長史に貶せらる。永昌中酷吏に陥られ、自から獄に經る。太子太保を贈る。

リウセイゲン 劉正彦 (宋)高宗の時、御營の將たり。苗傅と共に乱を作し、帝に請ひて位を皇子傅に讓らしむ。幾ばくもなく

して韓世忠、張浚等の爲に誅せらる。リウセイシ 劉清之 (宋)字は子澄。式の後、呂東萊、朱晦翁、汪玉山、李黼、張廣漢と稱する。學を講論す。天下の唱たり。光宗即位す。御史胡晉臣公に薦めて起らしむ。袁州の學者號して靜菴先生と爲す。

リウセイチ 劉成治 (明)字は廣如。漢陽の人。崇禎七年の進士。福王の時、戶部郎中に歴官す。國破れ後自經す。

リウセイチン 劉世珍 (明)字は武爽。儀眞の人。龍を善くす。

リウセイト 劉成都 (漢)中山王。東平思王の孫。平帝の時立てらる。王莽に滅さる。

リウセイノツマ 劉生嬰 (宋)歐陽氏。安福の人。事を以て出づ。惡少來り之を侵凌せむとす。辱を受けずして死す。

リウセイフ 劉正夫 (宋)字は德初。西安の人。未だ冠せずして太學に入り、聲あり。范致遠、吳材、江嶼と四俊と號す。仕へて左司諫と爲る。徽宗方に蔡卞の獄を究む。正夫入て對し徐に淮南斗粟尺帛の論を引く。上意遂に解く。正夫に謂て曰く、兄弟の間、人の言ひ難き所、爾能く此に及ぶ、必ず公輔と爲らむと。後果して兩府に位し康國公に封せらる。

リウセイヤウ 劉世揚 (明)字は實甫。閩の人。正德十二年の進士。庶吉士より判科給事中に進む。世宗の朝、大禮を争ひて杖を受く。既に釋され大官數十人を劾す。河

南提學食事に過り、告げ歸りて卒す。リウセイリ 劉青黎 (清)恩廣の子。康熙丙戌進士たり。庶吉士に選ばる。十歳父の喪に遇ひ、哀毀して病を爲す。後母に事へて甚だ孝なり。鄉賢に記らる。

リウセイリウ 柳世隆 (南北)字は彦緒。解人。晩年讒議を以て自ら高うす。喜んで學を彈す。時に稱す柳公雙瑛、士品第一と。劉宋に仕へ武威將軍と爲る。諸子中最も名を知らる。者、長は悦、次は俊、三は偉、四は愷、五は忱。

リウセイリヨウ 劉世龍 (明)字は元荆。慈谿の人。正德十六年の進士。知州より南京兵部主事を歴。嘉靖間、南京太廟災あり、詔に應じて三事を陳す。詔を杜き以て風俗を正す。廣く容納し以て言路を開く。二、舉動を慎み以て大體を存す。三、疏入りて罪を得、斥けられ家居五十年にして卒す。

リウセイキ 劉星輝 (清)字は映翰。號は圃山。武進の人。乾隆十三年の進士。官兵部侍郎たり。駢體文に工なり。卓然として名家の稱あり。著す所思補遺集あり。

リウセウ 劉勳 (三國)字は孔才。鄆郡の人。魏文帝の時、尙書散騎侍郎となる。詔を受けて五經群書を集め皇覽を作る。騎都尉に拜し律令を定む。嘗て趙都賦を作る。明帝之を美し、詔して許都洛都の賦を作らしむ。時に外は軍旅を興し内は宮室を營む。二賦皆諷諫を寓す。後經を執り學を講す。許都内侯を賜ふ。

リウセン 劉暎 (漢)敬王を見よ。リウセン 劉涪 (南北)字は孝儀。梁武帝の大和中、御史大夫中丞に累遷す。出で、臨海太守と爲る。時に政綱疏濶、百姓多く禁に違はず。孝儀取より下り條制を宣下し勸禁を極す。境内翕然として風俗大に變ず。人々爲り寛厚、内行尤も篤く、寡嫂に事へて甚謹む。家内の巨細、先づ必ず諮詢す。妻子と朝夕供事して未だ嘗て禮を失せず。時人此を以て之を稱す。文集二十卷あり。世に行はる。

リウセン 劉瞻 (唐)字は幾之。桂陽の人。進士に擧げらる。博學宏詞。官翰林學士中書平章事を歴。同昌公主薨するを以て、醫百餘人を連繫す。瞻固く争ふ。罷めて荆南節度使と爲る。僖宗立つ。復た中書侍郎に拜す。人と爲り頗直康約、俸餘親舊の貧者を濟ふ。家に餘儲なし。

リウセン 劉詮 (宋)字は全之。樂清の人。進士たり。隆慶中鹽海に知たり。大水稼を害すると數萬斛。費にして輸する能はざる者は朝に請く停開を得たり。富人に勸めて庫を發き飢民を賑はす。耕資なきは郡に代つて之を給す。學舍久しく廢す。主租二百斛を撤して之を倡修す。政務循良、飾るに儒術を以てす。而して名を求むるを恥づ。

リウセン 劉潛 (宋)定陶の人。少くして卓逸大志あり。好んで古文を爲る。進士に擧げられ蓬萊縣を歴知す。代つて還る時鄆州を過ぐ、母疾むと聞き亟かに歸る。母死

リウセウヒ 劉昭妃 (明)神宗の妃。嘗て熱寧宮に居り、太后の璽を掌とる。性謹厚にして諸王を撫愛す。莊烈帝之に事ふるこゝと大母の如し。嘗て帝假殿す、太妃戒むらく驚かす勿れと。頃らくして帝覺め、衣冠を揃して謝して曰く、阿夜文書を背し璽を

リウセフケイ 劉捷卿 (晉)續詩書禮樂春秋五說既に成る。人に語つて曰く天下滔滔我を知るもの希なりと。終に以て人に示さ

リウセン 劉潜 (宋)定陶の人。少くして卓逸大志あり。好んで古文を爲る。進士に擧げられ蓬萊縣を歴知す。代つて還る時鄆州を過ぐ、母疾むと聞き亟かに歸る。母死



リウセン 劉暉 (明) 暉の子。字は士端。洪武二十四年三月、伯を嗣ぎ、縣五百石を食む。洪武の末、事を以て貶せらる。尋て赦さる。建文帝及び成祖を敬すれども、遂に起らず。永樂間、卒す。子法。

リウセン 劉宣 (元) 字は伯宣。其先は潯人。金末に大原に徙る。至元中、東部尙書に遷拜す。上書して交趾及び日本を征する二役を諫む。後、丞相の奸を發す。遂に誣ひられ、遠へらる。宣憤に勝へず、自刺して死す。建文の初、彭城郡公に追封し、忠愍と諡す。

リウゼン 劉全 (漢) 悼王を見よ。  
リウゼン 劉善 (三國) 後皇帝を見よ。  
リウゼン 劉善 (南) 河間の人。博物治聞、尤も同筆を善くす。著作郎太子舎人を歴。劉德傳三十卷、劉善三十卷、四聲指歸一卷を著す。

リウゼン 劉善明 (南北) 懷珍の族弟。父懷恭、宋に仕へて齊北海二郡太守と爲る。元嘉末、齊州刺史。善明の家、積善あり、倉を開き以て糶を救ふ。百姓其家田を呼んで續命田と爲す。刺史劉道慶、辟して中從事と爲す。沈文秀叛す。善明其門宗部曲を收め、奔て懷恭に北海に從ふ。明帝以て北海太守と爲す。魏青州に克つ。母在り。乃ち布衣蔬食、哀感すること、哀の如し。北平の山

七。著す所の文集、河川に行はる。リウツウゲンノツマ 柳元妻 (唐) 楊氏。輪盤を善くす。  
リウツウシウ 劉宗周 (明) 字は起東。山陰の人。萬曆二十九年の進士。行人に除せらる。天啓崇禎の交、屢疏陳する所あり。省時政に切なり。清兵の國都を陥るゝに及び、社稷に殉せざるを悔い、一たび水に投じて殊せす。弘光元年閏六月八日卒す。年六十有八。門人の讒に殉する者甚だ衆し。  
リウツウシユン 劉崇俊 (五) 山陽の人。祖全、父仁知、相繼いで豫州刺史たり。崇俊南唐に仕へて亦豫州刺史と爲る。仁惠あり。定遠軍就り、崇俊を以て節度使と爲す。壽州に移りて卒す。太尉を贈り、諡して威と曰ふ。

リウツウ 劉復 (南北) 字は子齊。特の族弟。宋元嘉中、吳郡太守と爲る。閭門に至れば、便ち蔡伯の廟に至る。時に廟室頽毀し垣牆修まらず。復憤然として曰く、清廟尙ほ毀壞すべし、衛宇一に何を顧るゝやと。即ち命じて修葺せしむ。卒して太常を贈らる。  
リウタイ 劉岱 (漢) 字は公山。龍の弟。官山陽太守に至る。董卓洛陽に入る。岱侍中より出て、兗州刺史と爲る。已を慮しくして物を愛し、士人に附かる。黃巾賊兗州に入る。岱之を撃つて歿す。  
リウタイ 劉暉 (明) 字は子長。安福の人。隆慶五年の進士。刑部主事を授けらる。萬曆の初、御史に改む。時政を陳して時相張

リウツウ 柳崇 (宋) 字は子高。河東の人。儒學を以て名を著す。五季の末、終身布衣を御し、處士と稱す。王延政、建州に據る。其名を聞き、召して延平沙縣丞に補す。力請して仕へず。宋に入り、子遺法を以て當に官を授けらるべし。其子を戒めて曰く、喪請を以て我志を奪ふ可からずと。疾亟なるに及び、遺命して曰く、吾れ聞く聖人言ふ、朝に道を聞て夕に死すとも可なりと。浮屠法を以て吾身を灰にする母れと。後、尙書工部侍郎を累贈せらる。子七人、宣、真、實、安、來、密、察、共に登第す。宣仕へて大理司直に至る。真、宏、并に進士第に登る。察、年十七賢良に應じ、金馬門に待詔す。仕へて檢校兵部員外郎に至る。  
リウツウキ 劉崇龜 (宋) 字は子長。戶部尙書より出て、廣州刺史と爲る。一少年あり舟に泊す。江濱に一妙姫、蘭に倚るを見らる。殊に避けず。少年之を挑んで曰く、黃昏宅に到らむと。姫點頭す。是夕果して屏を啓きて之を待つ。未だ到らざるに一盜先入る。姫誤認して少年と爲し、即ち身を以て之に就く。盜執へらる。疑ひ遂に姫を刺死し、刀を遺して逃る。少年後に至り、其血を踐みて地に仆る。之を憐して、姫の已に死せるを見て急に出づ。明日其家血跡に隨て江岸に至る。岸上の人云ふ、夜某客此に泊せり。今已に去ると。捕者追獲し、實を具して吐せしむ。其刀を見れば、乃ち屠宰刀なり。崇

高紹、魏をして母を贖ひ歸さしむ。後、齊高帝に仕へ、心腹の功臣と爲る。明帝に代て推宣城二郡太守と爲る。新塗伯に封す。卒して諡して烈と曰ふ。  
リウツウ 劉暉 (晉) 漢(前趙)主第三世。字は玄明。一名は載。湘の第四子。才文武に通ず。劉淵の末に鹿蠡王に拜し、大司馬と爲る。兄和を殺して帝位を襲く。嘉平元年、晉を伐つて洛陽を陥れ、晉帝を虜にす。在位九年、昭武帝と諡し、廟を烈宗と號す。改元するもの四。光興、嘉平、建元、麟嘉。  
リウツウ 柳察 (唐) 字は伯齊。拔通する所、皆時の選たり。諺に曰く、黄金一箇を得るは、柳伯齊の一識に如かずと。  
リウツウ 劉綜 (宋) 字は居正。虞鄉の人。雍熙の初、進士に擧げられ、水陸運使通判を歴。大名府に起ち、建安軍に知たり。時に淮南轉運使王嗣宗、發運使を兼ね、規畫迂滯多し。綜因て上言して、復都大發運使を置き、専ら其職を幹せむことを請ふ。至道の初、太常丞職に遷る。出で、河北轉運使と爲る。時に靈州孤危、獻言する者あれば、或は之を棄んと稱す。綜其不利を極言して當に輕々之を棄つ可からずといふ。遂に其議に従ふ。兩河の兵、邊郡繁劇、轉漕の任尤も急務と爲す。綜其職を領す。誠して詳練と爲す。樞密直學士に歷拜し、開封府に知たり。諫議大夫に終る。綜強敏吏才あり、至る所事を収め、法を舉ぐ。時に幹治と稱す。又自ら建言する所多し。皆時政に切なりと

居正を効し、敢言死を避けず。海州に讒せられて、成所に卒す。光祿少卿を贈り、一子に廢す。天啓の初、殺忠と諡す。  
リウタイ 劉暉 (唐) 尹門の人。少くして穎悟日に、數千百言を誦し、文詞を善くす。時推所と爲る。德宗奉天に幸す。暉疾んで臥す。朱泚人を遣はして之を召す。固く疾篤しと稱す。車駕梁州に幸すと聞き、自ら牀下に投じ、臂を擗て天を呼んで食せずして卒す。諡して忠惠と曰ふ。  
リウタイクワイ 劉大槐 (清) 字は耕南。號は海峰。安徽桐城の人。剛た、順天府の榜に中る。乾隆丙辰、鴻博に召試せられ、庚午經學に擧せらる。皆報罷せらる。大槐の古文、喜んで莊子を學ぶ。尤力めて昌黎を追ふ。詩格亦た高きも、文名の掩ふ所と爲る。著に海峰詩文集あり。  
リウタイケン 劉體乾 (明) 字は子元。東安の人。嘉靖二十三年の進士。行人より兵科給事中に進む。清寧する所多し。穆宗を經て神宗の時に至り、南京兵部尙書に改む。萬曆二年致仕して卒す。太子少保を贈る。  
リウタイコウ 劉太后 (明) 莊烈帝の生母。海州の人。初め宮に入り、淑女と爲る。萬曆三十八年十二月、莊烈帝を生む。光宗の意を失ひ、體を被り、薨す。莊烈帝即位するに及び、尊諡を追す。  
リウタイシン 劉太眞 (唐) 宣城の人。天寶中進士に擧げられ、官刑部侍郎に至る。德宗曲江に宴し、時を爲る。群臣皆和す。太

リウツウ 劉善 (南) 河間の人。博物治聞、尤も同筆を善くす。著作郎太子舎人を歴。劉德傳三十卷、劉善三十卷、四聲指歸一卷を著す。

父懷恭、宋に仕へて齊北海二郡太守と爲る。元嘉末、齊州刺史。善明の家、積善あり、倉を開き以て糶を救ふ。百姓其家田を呼んで續命田と爲す。刺史劉道慶、辟して中從事と爲す。沈文秀叛す。善明其門宗部曲を收め、奔て懷恭に北海に從ふ。明帝以て北海太守と爲す。魏青州に克つ。母在り。乃ち布衣蔬食、哀感すること、哀の如し。北平の山

七。著す所の文集、河川に行はる。リウツウゲンノツマ 柳元妻 (唐) 楊氏。輪盤を善くす。  
リウツウシウ 劉宗周 (明) 字は起東。山陰の人。萬曆二十九年の進士。行人に除せらる。天啓崇禎の交、屢疏陳する所あり。省時政に切なり。清兵の國都を陥るゝに及び、社稷に殉せざるを悔い、一たび水に投じて殊せす。弘光元年閏六月八日卒す。年六十有八。門人の讒に殉する者甚だ衆し。  
リウツウシユン 劉崇俊 (五) 山陽の人。祖全、父仁知、相繼いで豫州刺史たり。崇俊南唐に仕へて亦豫州刺史と爲る。仁惠あり。定遠軍就り、崇俊を以て節度使と爲す。壽州に移りて卒す。太尉を贈り、諡して威と曰ふ。

リウツウ 柳崇 (宋) 字は子高。河東の人。儒學を以て名を著す。五季の末、終身布衣を御し、處士と稱す。王延政、建州に據る。其名を聞き、召して延平沙縣丞に補す。力請して仕へず。宋に入り、子遺法を以て當に官を授けらるべし。其子を戒めて曰く、喪請を以て我志を奪ふ可からずと。疾亟なるに及び、遺命して曰く、吾れ聞く聖人言ふ、朝に道を聞て夕に死すとも可なりと。浮屠法を以て吾身を灰にする母れと。後、尙書工部侍郎を累贈せらる。子七人、宣、真、實、安、來、密、察、共に登第す。宣仕へて大理司直に至る。真、宏、并に進士第に登る。察、年十七賢良に應じ、金馬門に待詔す。仕へて檢校兵部員外郎に至る。  
リウツウキ 劉崇龜 (宋) 字は子長。戶部尙書より出て、廣州刺史と爲る。一少年あり舟に泊す。江濱に一妙姫、蘭に倚るを見らる。殊に避けず。少年之を挑んで曰く、黃昏宅に到らむと。姫點頭す。是夕果して屏を啓きて之を待つ。未だ到らざるに一盜先入る。姫誤認して少年と爲し、即ち身を以て之に就く。盜執へらる。疑ひ遂に姫を刺死し、刀を遺して逃る。少年後に至り、其血を踐みて地に仆る。之を憐して、姫の已に死せるを見て急に出づ。明日其家血跡に隨て江岸に至る。岸上の人云ふ、夜某客此に泊せり。今已に去ると。捕者追獲し、實を具して吐せしむ。其刀を見れば、乃ち屠宰刀なり。崇

居正を効し、敢言死を避けず。海州に讒せられて、成所に卒す。光祿少卿を贈り、一子に廢す。天啓の初、殺忠と諡す。  
リウタイ 劉暉 (唐) 尹門の人。少くして穎悟日に、數千百言を誦し、文詞を善くす。時推所と爲る。德宗奉天に幸す。暉疾んで臥す。朱泚人を遣はして之を召す。固く疾篤しと稱す。車駕梁州に幸すと聞き、自ら牀下に投じ、臂を擗て天を呼んで食せずして卒す。諡して忠惠と曰ふ。  
リウタイクワイ 劉大槐 (清) 字は耕南。號は海峰。安徽桐城の人。剛た、順天府の榜に中る。乾隆丙辰、鴻博に召試せられ、庚午經學に擧せらる。皆報罷せらる。大槐の古文、喜んで莊子を學ぶ。尤力めて昌黎を追ふ。詩格亦た高きも、文名の掩ふ所と爲る。著に海峰詩文集あり。  
リウタイケン 劉體乾 (明) 字は子元。東安の人。嘉靖二十三年の進士。行人より兵科給事中に進む。清寧する所多し。穆宗を經て神宗の時に至り、南京兵部尙書に改む。萬曆二年致仕して卒す。太子少保を贈る。  
リウタイコウ 劉太后 (明) 莊烈帝の生母。海州の人。初め宮に入り、淑女と爲る。萬曆三十八年十二月、莊烈帝を生む。光宗の意を失ひ、體を被り、薨す。莊烈帝即位するに及び、尊諡を追す。  
リウタイシン 劉太眞 (唐) 宣城の人。天寶中進士に擧げられ、官刑部侍郎に至る。德宗曲江に宴し、時を爲る。群臣皆和す。太

リウツウ 劉善 (南) 河間の人。博物治聞、尤も同筆を善くす。著作郎太子舎人を歴。劉德傳三十卷、劉善三十卷、四聲指歸一卷を著す。

父懷恭、宋に仕へて齊北海二郡太守と爲る。元嘉末、齊州刺史。善明の家、積善あり、倉を開き以て糶を救ふ。百姓其家田を呼んで續命田と爲す。刺史劉道慶、辟して中從事と爲す。沈文秀叛す。善明其門宗部曲を收め、奔て懷恭に北海に從ふ。明帝以て北海太守と爲す。魏青州に克つ。母在り。乃ち布衣蔬食、哀感すること、哀の如し。北平の山

七。著す所の文集、河川に行はる。リウツウゲンノツマ 柳元妻 (唐) 楊氏。輪盤を善くす。  
リウツウシウ 劉宗周 (明) 字は起東。山陰の人。萬曆二十九年の進士。行人に除せらる。天啓崇禎の交、屢疏陳する所あり。省時政に切なり。清兵の國都を陥るゝに及び、社稷に殉せざるを悔い、一たび水に投じて殊せす。弘光元年閏六月八日卒す。年六十有八。門人の讒に殉する者甚だ衆し。  
リウツウシユン 劉崇俊 (五) 山陽の人。祖全、父仁知、相繼いで豫州刺史たり。崇俊南唐に仕へて亦豫州刺史と爲る。仁惠あり。定遠軍就り、崇俊を以て節度使と爲す。壽州に移りて卒す。太尉を贈り、諡して威と曰ふ。

リウツウ 劉善 (南) 河間の人。博物治聞、尤も同筆を善くす。著作郎太子舎人を歴。劉德傳三十卷、劉善三十卷、四聲指歸一卷を著す。

父懷恭、宋に仕へて齊北海二郡太守と爲る。元嘉末、齊州刺史。善明の家、積善あり、倉を開き以て糶を救ふ。百姓其家田を呼んで續命田と爲す。刺史劉道慶、辟して中從事と爲す。沈文秀叛す。善明其門宗部曲を收め、奔て懷恭に北海に從ふ。明帝以て北海太守と爲す。魏青州に克つ。母在り。乃ち布衣蔬食、哀感すること、哀の如し。北平の山

七。著す所の文集、河川に行はる。リウツウゲンノツマ 柳元妻 (唐) 楊氏。輪盤を善くす。  
リウツウシウ 劉宗周 (明) 字は起東。山陰の人。萬曆二十九年の進士。行人に除せらる。天啓崇禎の交、屢疏陳する所あり。省時政に切なり。清兵の國都を陥るゝに及び、社稷に殉せざるを悔い、一たび水に投じて殊せす。弘光元年閏六月八日卒す。年六十有八。門人の讒に殉する者甚だ衆し。  
リウツウシユン 劉崇俊 (五) 山陽の人。祖全、父仁知、相繼いで豫州刺史たり。崇俊南唐に仕へて亦豫州刺史と爲る。仁惠あり。定遠軍就り、崇俊を以て節度使と爲す。壽州に移りて卒す。太尉を贈り、諡して威と曰ふ。

リウツウ 劉善 (南) 河間の人。博物治聞、尤も同筆を善くす。著作郎太子舎人を歴。劉德傳三十卷、劉善三十卷、四聲指歸一卷を著す。

リウツウ 柳崇 (宋) 字は子高。河東の人。儒學を以て名を著す。五季の末、終身布衣を御し、處士と稱す。王延政、建州に據る。其名を聞き、召して延平沙縣丞に補す。力請して仕へず。宋に入り、子遺法を以て當に官を授けらるべし。其子を戒めて曰く、喪請を以て我志を奪ふ可からずと。疾亟なるに及び、遺命して曰く、吾れ聞く聖人言ふ、朝に道を聞て夕に死すとも可なりと。浮屠法を以て吾身を灰にする母れと。後、尙書工部侍郎を累贈せらる。子七人、宣、真、實、安、來、密、察、共に登第す。宣仕へて大理司直に至る。真、宏、并に進士第に登る。察、年十七賢良に應じ、金馬門に待詔す。仕へて檢校兵部員外郎に至る。  
リウツウキ 劉崇龜 (宋) 字は子長。戶部尙書より出て、廣州刺史と爲る。一少年あり舟に泊す。江濱に一妙姫、蘭に倚るを見らる。殊に避けず。少年之を挑んで曰く、黃昏宅に到らむと。姫點頭す。是夕果して屏を啓きて之を待つ。未だ到らざるに一盜先入る。姫誤認して少年と爲し、即ち身を以て之に就く。盜執へらる。疑ひ遂に姫を刺死し、刀を遺して逃る。少年後に至り、其血を踐みて地に仆る。之を憐して、姫の已に死せるを見て急に出づ。明日其家血跡に隨て江岸に至る。岸上の人云ふ、夜某客此に泊せり。今已に去ると。捕者追獲し、實を具して吐せしむ。其刀を見れば、乃ち屠宰刀なり。崇

居正を効し、敢言死を避けず。海州に讒せられて、成所に卒す。光祿少卿を贈り、一子に廢す。天啓の初、殺忠と諡す。  
リウタイ 劉暉 (唐) 尹門の人。少くして穎悟日に、數千百言を誦し、文詞を善くす。時推所と爲る。德宗奉天に幸す。暉疾んで臥す。朱泚人を遣はして之を召す。固く疾篤しと稱す。車駕梁州に幸すと聞き、自ら牀下に投じ、臂を擗て天を呼んで食せずして卒す。諡して忠惠と曰ふ。  
リウタイクワイ 劉大槐 (清) 字は耕南。號は海峰。安徽桐城の人。剛た、順天府の榜に中る。乾隆丙辰、鴻博に召試せられ、庚午經學に擧せらる。皆報罷せらる。大槐の古文、喜んで莊子を學ぶ。尤力めて昌黎を追ふ。詩格亦た高きも、文名の掩ふ所と爲る。著に海峰詩文集あり。  
リウタイケン 劉體乾 (明) 字は子元。東安の人。嘉靖二十三年の進士。行人より兵科給事中に進む。清寧する所多し。穆宗を經て神宗の時に至り、南京兵部尙書に改む。萬曆二年致仕して卒す。太子少保を贈る。  
リウタイコウ 劉太后 (明) 莊烈帝の生母。海州の人。初め宮に入り、淑女と爲る。萬曆三十八年十二月、莊烈帝を生む。光宗の意を失ひ、體を被り、薨す。莊烈帝即位するに及び、尊諡を追す。  
リウタイシン 劉太眞 (唐) 宣城の人。天寶中進士に擧げられ、官刑部侍郎に至る。德宗曲江に宴し、時を爲る。群臣皆和す。太



真の詩之が首たり。

リウタイシン 劉大紳 (清)字は奇庵。雲南寧州の人。乾隆四十八年の進士。山東新城縣、曹縣、權福縣を歴、皆惠政あり。平易にして民を近づく、民情固結して解く可からず、留まらむことを請ふ。其始め病を以て歸るや、送つて樊城に至る者あり、其繼いて順を以て歸るや、送つて漢陽に至る者あり。其民心を得る此の如し。大紳古文詩に工にして、忠孝廉節に根本す。五華書院に主講として後學を成就する者甚だ衆し。

リウタイジン 劉體仁 (清)順州の人。官銓實たり。山水碑林石迹を善くし、天真を厲興す。詩文に工なり。院卒の厚うする所と爲る。

リウタイシユンノツマ 劉太俊妻 (明)金氏。通渭の人。年十九、夫、風痺を病む。扶けて温泉に浴す。會々暴風雨す、夫動く能はず、金氏號泣堅持し遂に溺死す。屍數十里に流るも、手夫を挽て歸かず。

リウタイタイ 劉乃大 (清)字は有容。山陽の人。知縣たり。忠州に遷る。征苗の軍功を以て成都府に遷陸す。任に菴む數月にして卒す。山水を善くす。率筆圓勁豪邁を以て自ら喜ぶ。

リウタイチウ 劉大中 (宋)字は立道。鳳州の人。紹興七年兵部尙書より知處州たり。任に在りて瀾を善く清を好む。強を抑へ弱を扶け、所部蕭然たり。初め民秋租を輸す

るに監官盜取下瀆す。大中戸に輸して自ら解く、吏爲に擾す能はず。未だ幾くならず召還せらる。吏尙書に除す。尋て再び處州に知たり。祠を乞ふ。

リウタイヒ 劉太妃 (五代)唐の太祖の正室。代北の人。太祖晉王に封せられ、劉氏秦國夫人に封せらる。太祖兵を起し、劉氏劉氏常に征伐に従ふ。人と爲り明敏智略多く、頗る兵機に習ふ。常に其侍妾に騎射を教へ、以て太祖を助く。太祖、東、黃巢を追て歸り封禪寺に館す。梁主遊へて城に入れて置酒し、夜半兵を以て之を攻む。太祖の左右先づ脱歸する者あり、難を以て夫人に告ぐ。夫人叱色動かさず、告る者を斬り、陰に大將を召し軍を保ち以て還るを謀る。遲明太祖軍を還す。因て兵を擧げ梁を撃たんと欲す。夫人曰く公本と國の爲めに賊を討ち、今遽に兵を反して相攻む、天下之を聞かば曲直を分つ無し、若かず軍を敵め鎮に還り自ら朝に訴へむにはと。太祖之に従ふ。其後梁と交戦あり。梁將太原を圍み、晉兵屢敗る。太祖憂鬱爲す所を知らず。李存信太祖に勸め、亡て北邊に入り以て再舉を圖らしむ。太祖以て夫人に語る。夫人曰く此謀を爲す。曰く存信なり。夫人罵て曰く、存信は代北の牧羊兒のみ安くんそ興に成敗を計る可けむ、且公、王行瑜の邠州を棄て走ら笑ひ、自ら此を爲すや、今兵卒散亡して幾ばくも無し、一たび其守を失はば誰か肯て公に従がはむ、北邊其れ至るべ

けんやと。太祖大に悟り乃ち止む。夫人子無し、性質にして妬忌せず。嘗て言ふ、曹氏の相は貴子を生むべし、宜しく善く之を待つべしと。後ち曹氏莊宗を生む。故に曹氏太后と爲り、劉氏太妃と爲り諡無し。同光三年五月薨す。

リウタイチ 柳帶章 (南北)字は孝孫。軒の孫。深沈にして量度あり。少くして學を好む。身の長八尺三寸、風儀に美に應對に善し。太帝辟して參軍事と爲す。侯景亂を江南に作す。文帝夜帶章を江都二州に使はし、梁の邵陵南平二王と好を通せしむ。行て安州に至り、段實等反するに遇ふ。帶章乃ち文帝の命を矯めて以て之を安んず。並に即ち降附す。邵陵を見るに及び具さに文意を伸ぶ。邵陵使を遣はし、帶章に隨て報命す。奉使旨に稱ふを以て輔國將軍散騎大夫を授けらる。後ち建武、漢州を經略するに及んで、帶章を以て行臺左丞と爲す。軍に従ひ南討す。時に梁の宜豐侯蕭修、南鄭を守る。武之を攻めて未だ拔けず。乃ち帶章をして城に入り説て之を降さしむ。凡そ劇職に居る十有餘年、處斷得る無く、官曹清肅なり。官に卒す、諡して愷と曰ふ。

事を言ふ。

リウタイウ 劉暉 (漢)靖王を見よ。

リウタイウ 劉惔 (隋)字は士元。少くして劉焯と結盟して友と爲る。俱に文學を以て名を知られ、世に二劉と稱す。開皇中二劉王劼と同じく國史を脩む。卒して門人諡して宣德先生と曰ふ。

リウタイウ 劉焯 (宋)字は無言。誰の次子。未だ冠せずして太學に游ぶ。陳伯亨と興に稱して八俊と爲す。元祐三年蘇軾眞學を知す、其文章典麗なるを以て必ず蘇軾間の苦學なるを稱す。遂に甲科に中る。尤も書を善くす。筆勢遒勁。黃庭堅曰く、江の左右一羊欣を生ずと。館中に在りしとき召されて開帖十卷を修む。遺文五十卷あり、見南山集と號す。

リウタイウ 劉棠 (宋)字は君美。龍溪の人。元祐中の進士。樞密院編修を歴、出で、利州路提舉學士たり。後、兩浙常平を提舉す。朝請郎を以て致仕す。同邑陳補なる者あり。棠と俱に詩賦に聲あり。時に之を稱して曰く、劉棠陳補陳賦成と。棠既に登第す。補遂に隱居して仕へず。

リウタイウカノハハ 劉當可母 (宋)王氏。紹定三年、元兵興元を屠る。王氏辱を受けず。大に罵り江に投じて死す。婦杜氏、亦靡に及ぶ。當可奔りて江辭に赴き、母の喪を得て以て歸る。詔して和義郡太夫人を贈る。

リウタイウサン 劉道産 (南北)彭城の人。

リウタイウ

リウタイウ

大尉諸孫を軍簡の子。初輔國參軍無錫令となる。縣に在りて能名あり。父の爵晉安侯を襲ぐ。廣州の群盜寇を爲す。道産二十二人を誅し、其餘黨を宥す。卒して諡して襄と曰ふ。

リウタイウフ 劉桃符 (南北)九歳にして母を喪ふ。性恭謹にして學を好む。孝廉に擧げられ、射策甲科たり。中書舍人に累遷す。勳明を以て知らる。久しくして遷職せず。宣武謂つて曰く揚子雲黃門と爲り、頼に三世を歴、爾此任に居り始めて十年、辞するに足らざるなりと。

リウタイウク 劉錡 (明)廬陵の人。天啓中、刑部郎中より知府に遷る。魏忠賢の政を乱るを憤り、詩を作りて僧扇に書す。陰羅國事非の句あり。忠賢之を銜み、遂に陥れて杖殺す。太僕少卿を贈る。

リウタイウクセイ 劉澤清 (明)曹縣の人。初め將才を以て遼東寧前衛守備を授けらる。崇禎中、左都督太子太師に累擢せらる。福王の時、東平伯に封せらる。順治二年四月揚州事急なるに及び、潛に款を清に輸す。清其反覆を惡み之を磔誅す。

リウタイウタン 劉燾 (晉)字は眞長。沛國蕭の人。漢の後。雅裁あり、華門廟巷と雖も晏如たり。司徒左長史侍中并陽令を歴。政務を爲して鎮靜なり。病危し、家人禱らんと請ふ。燾色を正して曰く戒めて淫祀する勿れと。嘗て王蒙と共に行く、日旰にして未だ食せず、相識の小人其饗を貽る甚だ盛な

リウタイウ

リウタイウ

リウタイウ

リウタイウ

リウタイウ 柳忱 (南北)字は文若。年數歲、父世隆及び母關氏並に病む。忱帯を解かざるもの經年。裏に居るに及んで毀を以て聞ゆ。齊に仕へて四官郎主簿と爲る。東晉、巴四太守劉山陽を遣はし、荊州より武帝を雍州に襲。四中郎長史蕭穎胃、計未だ定らず。忱及び其所親席席等をして夜入て之を誅す。忱及び關文並に武帝に同するを勸む。穎胃之に従ふ。忱を以て甯朔將軍と爲す。侍中に累遷す。郢州平らぐ、穎胃都を夏口に遷すを諫す。忱、巴峽未だ實せず、宜しく輕々しく根本を捨て人心を搖動すべからざるを以て從はず。俄にして巴兵峽口に至る。遷都の議乃ち息む。論者以て幾を見るを爲す。武帝命を受るに及んで、忱を封じて州陵伯と爲す。五兵尙書秘書監散騎常を歴、改めて給事中光祿大夫を授けらる。疾篤くして拜せずして卒す。諡して穆と曰ふ。忱兄弟十五人、多くは少亡し、惟第二兄愷、第三兄儼、第四兄愷、及び忱、迭に侍中と爲り、後ち方伯に居り。當世比ひ罕れなり。

リウタイウ 劉湛 (南北)涇陽の人。博く史傳を學ぶ。自ら管葛に比して文章を爲らす、談議を喜ばす。劉宋に仕へて盧陵王となる。義眞長史たりし時、武帝の憂に居り、義眞驢酒を以て進む。湛曰く既に禮を以て自ら

リウタイウ

リウタイウ

リウタイウ

リウタイウ



處する能はず、又た禮を以て人を處する能はずと。後太子詹事に遷る。湛才氣を負ふ嘗て汲黯の人と爲りを慕ひ因て以て其子を黯と名づく。

リウタン 柳悛 (南北)字は文通。世隆の子。兄悦と名を齊うす。王侯曰く柳氏の二龍、一日千里といふべしと。

リウタン 留端 (宋)字は端父。恭の弟。邵州を歴知す。和羅を飼くを奏す。入て司徒寺丞と爲る。金に使用して其形勢を察し、歸て治邊の策を陳す。度支郎に除せらる。湖南江南刑獄に提點たり。廣州に移る。少鈔を擧ぎ以て擯寇を弭めんを請ふ。端平中直龍圖閣に除す。諸兄弟中惟だ端賢にして遺業三の一を振る。義庄を建て、從親以下諸孫の貧しき者を贖はす。子元英、元圭、元崇。

リウチ 劉智 (晋)字は子房。高唐の人。少くして貧なり。薪を賣ひて自給す。儒行を以て稱せらる。官鎮川守たり。

リウチウ 劉仲 (漢)高祖の兄。代王に封ぜらる。匈奴、代を攻む。仲堅く守る能はず。國を棄て同行して洛陽に走り自ら歸る。廢して合陽侯と爲す。

リウチウ 劉暉 (晋)字は王喬。訥の子。善く談じ理に明なり。永嘉中司徒左長史に至る。閩郡の爲に害せらる。其後王導司徒に拜す。嘆じて曰く劉君若し江を過らば我國り公たらざるなりと。其人に推服せらる。此の如し。

リウチウ 劉暉 (晋)字は王喬。訥の子。善く談じ理に明なり。永嘉中司徒左長史に至る。閩郡の爲に害せらる。其後王導司徒に拜す。嘆じて曰く劉君若し江を過らば我國り公たらざるなりと。其人に推服せらる。此の如し。

リウチウ 劉登 (南北)字は孔昭。學を受けて倦むことなし。嘗て戸を閉ちて讀書す。暑月唯だ蚊帳を着く。晝夜息まず。秀才に擧げられて第せず。乃ち文を屬するを學ぶ。言甚だ古拙、賦を制し六合を以て名づけ、魏收 呈して拜せず。收之を忿り謂つて曰く、賦、六合と曰ふ已に是れ大に、文又六合よりも愚に、君が體又文よりも甘しと。書忿らず。又邢子才に示す。子才曰く君、此賦、正に疥癩駝の伏して城窟なきに似たりと。

リウチウ 柳冲 (唐)虞郷の人。父廷賢、隋末河北縣長と爲る。唐に歸し、貞觀中都督刺史を歴。冲學を好み研綜する所多し。景龍中、國史及び性系録を修む。唐興て諸學者を謂へば、路敬淳を以て宗と爲し、柳冲章逸之に次ぐ。

リウチウ 劉縉 (宋)字は季治。長興の人。性素より剛鯁、經史に淹貫す。幼にして孤、伯父比に鞠はる。長じて父の禮を報ず。李潛稱して純德の士と爲す。平生の交遊名流多し。天竺山に讀書す、從學者者百餘人。母死して墓側に廬す。孝心篤志。士族あり之を賢し、女を以て妻はさんと欲す。縉曰く吾は囊夫、而も士族の女を得んこと必ず肯せずと。竟に謝して之を却く。既にして没す。鄉人追悼し之を爲に流涕す。著す所無石獨あり家に傳ふ。

リウチウ 柳忠 (明)嘉靖間、大同に五堡を築き、諸鎮卒をして成らしめんとす。成

リウチウ 劉俊 (五代)字は希賢。沛人。少くして時溥に事ふ。溥が梁の亂に非ざるを知り、所部を率ひ梁に降る。征戰して功あり、重用せらる。

リウチン 劉珍 (漢)字は秋孫。南陽蔡陽の人。少くして學を好む。永和中、謁者僕射となる。詔を東觀に奉じて、五經、諸子、傳記、百家の藝術を校定す。又建武以來の名臣の傳を作る。侍中に遷り宗正に拜せられ衛尉に轉す。著す所の誅類連珠凡七篇。又稱名三十篇を撰ぶ。以て萬物の稱號を辨す。

リウチン 劉鎮之 (南北)字は仲德。粹の族叔。衛將軍毅の父。宋の時、毅の貴顯なるを以て京口に間居し、未だ嘗て召に應ぜず。謂へらく、毅必ず我家を破らむと。毅甚だ之を畏懼し、京口に還る毎に未だ嘗て羽儀を以て鎮之の門に入らず。左光祿大夫を以て徵さる、就かずして卒す。

リウチン 劉鎮藩 (明)崇禎中、總兵官たり。張獻忠を征し、賊の計に陥りて死す。

リウチヤウ 劉暢 (漢)節王を見よ。

リウチヤウ 劉綰 (五代)南漢主第五世。初の名繼興。晟の子。性至愚、謂へらく群臣皆家室あり、子孫を顧みて忠を盡す能はず、惟宜者は親近すべしと。遂に政を宜者に委す。立て十二年宋潭州防禦使潘美に滅さる。

リウチヤウイウ 劉長佑 (清)字は子猷。印嶺と號す。先世江世に居り、明初湖南新

な徒ろふ厭はず。巡撫文錦之を許さず。忠遂に叛して文錦を殺す。

リウチウエイ 柳仲郛 (唐)字は論毅。公綽の子。母韓氏の嚴訓を受く。累官して侍御史京兆河南尹と爲る。浮屠を度せず。慶吊に非ざれば宰相の第に至らず。公より退て心を布き晝夜を捨てず。經三史一鈔し、魏晉南北史再鈔す。手書分門すること三十卷、柳氏と號して自ら備ふ。小楷精謹、一字の隸筆なし。會昌中、京兆尹に拜す、命を爲すこと嚴明なり。大中中、河南尹と爲る。寬惠を以て政を爲す。曰く警嚴の下は驕驕を先とし、郡邑の治は惠養を本とす。

リウチウクワイ 劉仲諤 (金)字は子忠。劉彦宗の孫。大定十四年太子少師兼御史中丞に轉す。十九年卒す。

リウチウサウ 劉中藻 (明)福安の人。進士より行人を歴。魯王の時、福安に駐る。清兵城を陥る。金屑を呑て死す。

リウチウシツ 劉仲質 (明)字は文質。分宜の人。洪武の初、宜春訓導たり。後京に入り翰林典簿に擢てらる。春秋本末を校正し、禮部尙書に進む。命を奉じ釋奠の禮を定む。又學規十二條を立つ。華蓋殿大學士に改む。事に坐し御史に貶す。後、老を以て致仕す。

リウチウシユ 劉仲燕 (金)字は師魯。宛平の人。大定三年登第す。諸官を歴て定海軍節度使に陞り、休を乞ひ泰和八年卒す。年七十五。性剛直從政に果にして尤も治民

海に遷る。道光己酉拔萃科に擧げらる。同里江源忠と友とし善し。咸豐二年源忠に従ひ賊を裝衣渡に勦し、劉陽を報章に破る。源忠湖北を授け賊衆に遇ひ困苦す。長佑長沙より赴援して大に之を破る。曾國藩、源忠に書を與へて曰く、印退救援の速かなる、神靈漢を渡るか如く、一擊千里、人をして愛敬已まざらしむと。源忠南昌を守る。從て吉安の圍を解き、奉和に克つ。六年西を授け萍鄉に克ち袁州を復す。分宜を保ら臨江を規す。七年臨都に克つ。明年大に石達開を新城に破り、撫所皆捷つ。十年廣西巡撫に拜す。楊洪侶の乱より土酋楊學謙て起り、甘棠なる者は桂昌、陳成養、柳州に據り、陳開、黃鼎鳳、潯州に據り、范亞音、容縣に據り、張萬友、鎮金剛、平樂に據る。修仁其、慶大思、南泗鎮の諸屬、大股數千人、俟ち兵候ち賊、究詰すべからず。長佑既に巡撫を授けらる。以爲らく土匪を平らぐるは必ず水師を興さざるべからずと、水師此れより盛なり。任を受くる三年都縣次を以て平定す。部將有名の者は、劉坤一、江忠義、席寶田、曾國藩、稱して三傑と爲す。同治二年直隸總督に任ず。時に捻酋張總愚、賴文光、齊豫の間を横行す。長佑戎馬を馳せ警告無く、直隸肅清なり。五年黃河水師を創設す。光緒元年金江上下肅清す。越南諸軍復た罷む。八年法人越南東京を陥る。越匪紛起す。長佑邊愚の深きを以て、漢粵三省を清師し兵を合せ北圻を規る。十三年



リウチヤ

六月家に終る。官總督に至る。武備と諡す。リウチヤウカウノセフ。劉長庚。明。雷氏。賊同州に及ぶ。長庚妻及び二子をして逃れしめ、雷氏及び其所生女を召し曰く、汝年少し吾に従ひ死すべしと。雷氏欣然たり。因て刀を抜き示す。雷氏刀を奪ひ自刎す。女方に七歳刀を壁に横たへ之に就て死す。長庚乃ち梁に縊る。

リウチヤウケイ。劉長卿。唐。字は文房。河間の人。開元の時、進士の第に擧げらる。正徳中監察御史となる。檢校祠部員外郎を以て轉運使判官知淮西鄂岳轉運留後たり。詩を善くす。元好問曰く詩を學ぶの家、白首にして長卿の一句を言ふ能はざる者有り。文集十卷あり。

リウチヤウノゾヨ。劉昶女。隋。長孫氏の婦。劉昶の女。父昶、隋の文帝と蕭あり、受禪に及び甚だ親重せらる。劉昶の弟居士、驕傲無賴、交黨三百餘人。時に人上官す居士、突厥を引き南寇せしめ、己れ京師に於て之に應ぜんとす。上大に怒り昶を獄に下し、居士を捕獲せしむ。憲司又昶の不幸の事を奏す。劉昶父の必ず免れざるを知り食はざること果日。日に飲食を調し、自ら捧持して大理に詣り父に饋し、歡歌嘯唱す。居士斬られ昶死を家に賜ふ。百僚嗟視す。女絶つて復し蘇へる者數々。遂に布衣蔬食以て其身を終る。

リウチヤウウヰ。劉長偉。清。長佑の從弟。曾國藩に從つて靖藩に戦ひ、陣歿す。後江

リウチヨ

西廣西雲南の諸行省の士民、其功德を思ひて祠を建て奉祀す。リウチヨウ。劉龍。漢。字は祖榮。牟平の人。明經を以て孝廉に擧られ會稽太守に遷る。頑奇を簡除し非法を禁察し、郡中大に化す。徵されて將作監大匠と爲る。山陰五六の老叟百錢を齎して龍を送る。且曰く明府下車してより以來、狗夜吠せず、民吏を見ず、某、山野の老郎、聖明に遭値す、今棄去らんと聞く、故に來つて奉送すと。龍之が爲に一大銜を選んで之を受く。果遷して司徒大尉に至る。

リウチエン。劉知遠。五代。漢の高祖皇帝を見よ。リウツ。李蔚。唐。字は茂休。系もと關西。進士に擧げられ、書判拔萃皆中る。監察御史に拜し尙書右丞に累擢せらる。懿宗浮屠に惑ひ、嘗て萬僧を禁中に飯し、自ら餐傷を講ず、蔚上疏して切諫す。帝聽かず。但だ虛禮を以て褒答す。リウテイ。劉楨。三國。字は公幹。東平の人。逸才あり、文章を以て魏の文帝に重んぜられ、王粲等と建安七子と號す。饒際云く、若し孔門詩を用ひば則ち公幹は堂に升り、子建は室に入らん、景陽潘陸は廊廡の間に坐すべしと。建安二十二年卒す。リウテイ。劉琨。明。字は省吾。颶の子。再敢にして父の風あり。庶を用て指揮使と爲る。諸盜を平定し諸蕃長服す。功を積み副總兵に拜す。朝鮮師を用ふるに會ひ、兵

王運開先づ自經す。廷標之を聞て曰く、我老いたり、先づ死すべし、王我に先んずと。遂に沐浴して詩三章を賦し、亦自經す。リウテイラン。劉廷蘭。明。潭浦の人。萬曆八年の進士。官を以て張居正に忤ひ斥けらる。兄廷憲廷芥と潭浦の三劉と稱せらる。リウテウ。劉超。晉。字は世輔。臨沂の人。元帝の時舍人となる。身を處すこと清苦、賜與せらるる毎に皆固辭す。後中書侍郎に拜す。右衛將軍蘇峻逆を謀り帝を石頭に遷す。超左右に歩し、幽厄中と雖も猶孝經論語を講授す。未だ幾くならずして峻、爲に害せらる。峻平ぎ、衛尉を追贈す。諡を賜ひて忠と曰ふ。

リウテウ。劉兆。晉。字は延世。濟南の人。武帝の時五度公府に辟し、三度博士に徵さる。皆就かず。貧に安んじ道を樂しみ、苦心著述し門庭を出ざること數十年。竟に仕へずして家に卒す。リウテウ。劉超。明。永城の人。賊にして殺なり。崇禎中、貴州總兵たり。河南總兵に改む。私怨を以て其郷官御史魏景琦一家三十餘人を殺す。罪を懼れ、縊つて以て反す。既にして諱に伏す。首を九邊に傳ふ。リウデウ。柳條。隋。御史僕射と爲る。楊素曰く、柳條通體弱、搖動不禁風と。條色を正して曰く、條信に取る無ければ、公以て御史と爲すべからず、條取る可き有らば、公此言を發すべからずと。

リウテイ

五千を率ゐ赴援す。既にして清兵至る。經力戦す。衆寡敵せず遂に戦死す。經死して舉朝大に悼る。經の用ふる所の鐵刀百二十斤、馬上輪轉飛ぶが如し。天下劉大刀と稱す。天啓の初、少保を贈る。祠を立て表忠と曰ふ。リウテイ。劉英。明。貴州の眞生。遂平知縣たり。崇禎中李自成攻め來る。衆と誓ひて死す。城陷り、賊を罵て死す。リウテイケン。劉廷訓。明。順大通州の人。歲貢生。吳橋訓導と爲る。崇禎十一年、清兵畿内に入る。知縣李素暉遇れんと欲す。廷訓之を止めて與に共に守る。薊隆城に縊して走る。廷訓乃ち堅拒三晝夜、矢に中りて死す。

リウテイコク。劉定國。明。知縣。天啓中、賊興山を犯す。定國堅守す。城將に陥らんぞす。吏を遣し、印を懷にして上官に送らしめ、賊を罵て死す。リウテイシ。劉定之。明。字は圭靜。永新の人。正統元年の進士。編修を授けらる。天順成化の間、太常少卿より禮部左侍郎兼翰林學士に累擢せらる。竟に官に卒す。禮部尙書を贈り文安と諡す。リウテイシヨク。劉庭式。宋。字は得之。齊州の人。進士に擧られ密州に通判たり、後太平觀を監す。壽を以て終る。初、庭式郷人の女を娶らんとを約す。進士に擧げらるゝに及び女疾を以て盲す、且貧しきこと甚し。其家敢て復言はず。庭式卒に之を娶る。

の人。世職指揮僉事より都司僉書に遷る。崇禎中、左都督太子太保に擢てらる。福王の元年揚州の役に戦死す。リウテウセン。劉漸。清。東鄉縣の人。嘉慶中、賊王三槐、寇、亂を作す。後徐賊と合す。已にして、へて弟せらる。リウテキ。劉遜。南北。廣の弟儀の子。文藻あり、詩賦に工なり。北齊に仕へて官儀同三司に至る。リウテン。劉煥。南北。字は士温。齊に仕へて尙書吏部郎儀典太守を歴。少くして文藻あり、篆隸丹青并に當世の稱する所となる。時に榮陽に毛惠遠あり、善く馬を畫く。煥善く婦人を畫く。并に當世第一たり。リウテン。劉展。唐。肅宗の時、宋州刺史に除せらる。人と爲り剛強自ら用ふ。故に多く人に惡まる。展亦自ら安んぜず、城に據り叛す。上元二年諱に伏す。

リウテン。劉典。清。字は克盡。湖南寧鄉の人。咸豐十年文襄に從ひ東征す。江西皖南に轉戦し毎に奇捷を得たり。時に李世賢、黃文金、賴裕信、長圍を以て困めんと謀る。曾左兩將苦戦して大に賊を浮梁に破る。樂平婺源の糧道乃ち暢通す。同治三年左宗棠關に入り賊を討す。典に詔して軍務を督せしむ。其秋復た陝西を督す。仍て典に詔して軍務を督せしむ。關の内外肅清なるは典の贊助の力多しと爲す。光緒四年疾を以て閩州に卒す。官通政使に至る。果敏と諡す。

妻死するに及びて之を哭すること甚し。蘇賦而曰く哀は愛に生じ、愛は色に生ず、是下の愛は何より生じ、哀何より出るかと。庭式曰く吾は吾妻を喪ふを知るのみと。賦深く歎じて以て及ばずと爲す。リウテイソン。劉鼎孫。宋。江陵の人。進士に第し翰林學士に累官す。徳祐の末、二王に從つて崖山に至る。陸秀夫王を負うて海に赴いて死す。鼎孫亦た家屬を驅り並びに輜重と海に沈む。死せず。元兵の爲めに執へらる。拷掠完膚無し。一夕脱するを得、海を蹈て死す。リウテイチン。劉廷珍。唐。彭城の人。沔の父。羽林軍を以て徳宗に奉天に扈し、屢戦功を立つ。官左驍騎大將軍たり。東陽郡王に封ぜらる。リウテイチヨク。劉廷敕。明。江右の人。白描の佛僧人物を善くす。リウテイデン。劉廷暉。明。故布政使九光の從子。任俠にして義を好む。崇禎中、流賊大に至るや、賊を罵て死す。リウテイヘウ。劉廷標。明。字は震起。上杭の人。眞生より永昌府通判を歴す。沙定州の亂に、黔國公沐天波、永昌に走り、孫可望等雲南に入る。時に廷標府事を攝す。方に兵を發して瀾滄を守る。天波子を遣はし欺を納れんとす。堅く聞かず。永昌の士民、賊の至る所屠戮するを聞き、泣いて欺を納れんと請ふ。可らず。衆大に哭す。廷標毒酒を取て飲まんぞす。乃ち散じらる。此夕

リウテウキ。劉肇基。明。字は鼎維。遼東

リウテイ

リウテイ

リウテウ



リウデン 劉傳 (明)字は良習。月川と號す。倉山人。國子生たり。善く雲山を畫く。高邱山何登の間に出入す。筆勢遒勁、意慮深遠、時に已意を出す。詩文書法近習を作らす。

リウデンエイ 劉傳登 (清)字は椒雲。漢陽の人。道光十九年郷に擧げらる。考古精博。好んで詩、古文辭を爲る。尤も心を輿地の學に究む。既にして義理の學を濬索し、諸を身に反求し、文人を以て自ら處らず。爲る所の日記多く痛く自ら踐檢す。二十八年卒す。年三十有一。

リウデンカン 劉傳漢 (宋)咸淳間南康軍に知さし、首として淳熙の政を行ふ。年荒る。己を捐て、以て貧を賑はす。用を節し田を買ひ、惠民倉を置き、廢寺田穀を撥して星子を助け、月に軍糧を解す。白鹿洞、貢士莊、修荒漸橋を創す。民を愛し士を重んじ、利を興し弊を補ひ、善政多しと爲す。

リウテンキ 劉天起 (金)本と匹夫より起り甚だ庸鄙なり。天興元年召見を得て都招撫使を授けらる。同輩皆其の饒倖を笑ふ。至るに及び殊に方略あり、出て戦ふ毎に數ば奇功を立つ。

リウテンキ 劉天賦 (明)臨桂の人。弘治十五年の進士。累官して工部主事に至る。會々屬僚の事に坐して詔獄に墜下し、貴州安莊驛丞に謫せられて卒す。嘉靖の初、官を復し祭を予ふ。

リウテンクワ 劉天和 (明)字は養和。麻城の人。正徳三年の進士。南京禮部主事を授けらる。出て陝西を按ず。事に坐し謫せらる。旋湖州知府に遷る。惠政あり。嘉靖の間、中外に歴官し、兵部尙書督團營に至りて致仕す。家居すること三年にして卒す。少保を贈り莊襄と諡す。

リウテンフ 劉天孚 (元)字は裕民。大名の人。延祐中、知河中府に遷る。丞相阿思罕、兵を擧げ關に向ふ。天孚免れざるを度り、佩刀を抜き河水を斫り、北望再拜水中に投じて死す。彰城郡侯を追贈し忠毅と諡す。

リウトウ 柳軒 (南北)字は仲盤。解人。後魏の大統中、洛陽行臺郎中と爲り、文翰を掌どる。後ち中書侍郎と爲る。時人、文體古今の異を論ず。軒時に古今有りて文に古今無しと爲し、文質論を作る。

リウトウ 劉度 (三國)魏の武帝に仕へて零陵太守と任ぜらる。蜀人之を攻む、度出て降る。

リウトウセイ 劉東星 (明)字は子明。沁水の人。隆慶二年の進士。庶吉士を授けらる。穆宗を経て世宗に至り、官に在ること三十年、工部尙書兼右副都御史に累擢せられ、官を卒す。天啓の初、莊靖と諡す。

リウトクキ 劉德基 (金)大興の人。王毅と俱に經義進士に登る。後夏兵の害に遇ふ。リウトクワウ 劉德渡 (清)涿州の人。父源汴、明季官鴻臚寺鳴贊たり。流賊京師を破り、劉鳴贊を求む。德渡父を他に送り往しめ、身賊所に詣つて曰く劉鳴贊は即ち我なりと。賊拷掠すること數百。默して言なし、遂に害せらる。而して父生て還ることを得たり。

リウトクシウ 劉德秀 (宋)豊城の人。進士に擧げられ、諫議大夫吏部尙書に歴官す。龍圖閣學士四川制置使に進む。改めて知潘州、簽樞密院たり。爵を郡公に進む。政を爲すに嚴にして苛ならず、蜀に帥として尤も去思あり。自ら退軒と號す。遺稿數十卷あり。

リウトウ 劉德秀 (宋)韓侂胄に用ひられて其の鷹犬と爲る。

リウトウ 劉德升 (漢)字は君嗣。郡中に至る。元和の初、大理少卿と爲る。刑部侍郎許孟容等七人と與に詔を奉じて開元已後の政格を定む。再選せられて右庶子と爲る。又衰病を以て秘書監に改められて拜せず。右散騎常侍を授け、致仕す。

リウトウ 劉澄 (唐)字は子固。遷の孫。進士に擧げらる。博學宏詞。翰林學士に歴官す。宰相澁を以て供軍使と爲さむと欲す。京兆山南劇賊あり。澄に詔して馳行て之を諭さしむ。澄挺身賊壘に入て曰く來歸せば爾の罪を赦さむと。盜皆列拜して澄に約し、館に就て降る。四川節度使に擢んで、右僕射を加ふ。卒して大司空を贈る。

リウトウ 劉騰 (五代)魏に事へて衛將軍儀同三司たり。權内外を傾く。曾て元又と謀を通じ宿將を殘殺し賢能を斥逐し太后を幽す。終に首を斬り梟せらる。

リウトウカク 劉騰鶴 (清)字は杰人。武烈公の弟。咸豊七年瑞州南城に戦ひ、左臂を破傷す。督戰益々力む。此夜城破れ賊盡く。九年調せられ九江を防ぐ。戦て牛嶺に勝つ。幾ばくもなく後隊火藥發す。賊隙に乗じ之を圍むこと數重。遂に之に死す。年二十有八。

リウトウケン 劉統勳 (清)字は延清。伊鈍と號す。駁子の子なり。康熙乙丑の進士。官東閣大學士加太子太保に至る。性強直にして清節を勵み、重臣を疏劾す。直聲大に震ふ。世宗懷舊の詩、五門臣を列する中に、遇事既神敏、乘復剛勁、得古大臣風、終身不

桓靈の世、行書を造るを以て名を擅にす。既にして草を創む亦甚だ妍美、風流婉約、當時に獨歩す。胡昭鍾繇並びに其法を師とす。而して胡の書體肥は、鍾の書體瘦せ、亦各其の美を繼ぐ。

失正の句あり。年七十。贊介景の額を御書して之を賜ふ。卒して太傅を贈り、賢良祠に祀らる。文正と諡す。

リウトウコウ 劉際淵 (清)字は寺衛。湘鄉の人。咸豊五年駱公命て湘勇五百人を率て巴陵の土匪李日達を毛田に平けしむ。其黨數千を平げ、進んで武昌城下に壁し之を破る。胡林翼、嶽を移し江西を援けしむ。命じて再び五百人を増募す。四月咸寧に克つ。乃ち蒲汀榮陽より轉戦し、至る所皆其城を復す。六月瑞州を攻む。郡に南北二城あり。七月巴に南城を拔き、亦戦て皆克つ。賊惟北城を守る。七年攻むる益々力む。城且に破れむとす。忽ち巨礮背に中り之に死す。累官して直隸州に至る。同治三年武烈と諡す。

リウドウシノツマ 劉全子妻 (宋)林氏。福清の人。全子元兵に敗られて死す。有司其妻を執らへ反狀を具す。妻叱して曰く、林劉二族は世々宋臣たり、忠義を以て國に報ず、事の成らざるは天なり、死して汝を地下に治めん、生きて汝等の辱を受けむやと。遂に害に遇ふ。

リウドウシヨウ 劉同升 (明)字は晉卿。應秋の子。崇禎十一年殿試第一たり。翰林修撰を授けらる。事を以て疾を移し歸る。福王立ち、召せども赴かず。是より先き京師陥り、南部亦守らず。家を挈へて福建に入んとす。楊廷麟と與復を謀り、吉安臨江を取る。羸疾を以て竟に贛州に卒す。官詹



欲するやと。影伏して敢て言はず。後ち左丞と爲る。色を正うして朝に立つ。三臺清

リウチイ 劉寧

(明)字は世安。其先は山陽人。永寧衛指揮使を襲ぐ。勇敢にして善く戦ふ。成化弘治の間、大同副將に擢てられ殊功あり。十七年卒す。廣昌伯を贈る。リウチイシ 劉寧止 (宋)一止の從弟。進士に擧げられ吏部侍郎より徽猷閣學士に至る。秀州に知たり。論議多く劉切なり。類忠堂類纂十卷あり。

リウハ 劉巴

(三國)字は子初。儂の長子。劉表辟して茂才に擧ぐ。就かず。漢昭烈、益州を定む。諸葛亮巴を薦む。後法正に代つて尚書令と爲る。朝、清儉を履み産業を治めず。昭烈帝曰く子初の才智人絶すと。亮曰く善を帷幄の内運すは吾れ子初に如かさること遠しと。

リウハ 劉汝

(晉)隗の孫。初め石季龍に仕ふ。季龍死するに及び晉に歸す。穆帝以て襄城太守と爲す。散騎常侍に累遷す。リウバイノチヨ 劉梅女 (明)劉氏。穎州の人。李之本に字す。之本死す。女泣血して食せず。越えて一年、父他勝を許す。女聞て縊死す。郡里市者市の如し。勝亦酒を杯前に酌ゆ。忽ち瓦盆碎け高さ丈餘に飛び、蝶の墜るが如し。觀る者恐震す。

リウハ 劉襄

(漢)恒帝の時、雲漢の圖を畫く。見る者熱を覺ゆ。又北風の圖を畫く。見る者寒を覺ゆ。

リウハ 劉邦 (漢)太祖高皇帝を見よ。リウハ 劉寶 (晉)字は道真。高平人。歴代史書考異を著す。

リウハ 劉芳

(南北朝)字は伯友。彭城の人。貧窮に處して幾事固を尙び、聽敏人に過ぐ。志を墳典に篤くし、晝は備書して以て自ら給し、夜は則ち經を窮めて寐れず。窮通論を著し以て自から慰む。魏に仕へて中書令に累遷す。撰述する所凡そ十有六書。リウハ 劉方 (隋)京兆の人。性剛決にして膽氣あり。初め後周に仕へ、戰功を以て備前に拜せらる。後、隋の文帝に仕へて爵を進めて公と爲る。仁壽中交州道行軍總督と爲り、俚人を討平して其宮室を汚にす。石に刻し功を記して還る。

リウハ 柳芳

(唐)字は仲敷。解人。譜學に精し。永泰中、宗正の譜牒、歷代以來の宗枝、昭穆の相承を按じて、皇宗譜二十卷を撰す。号して永泰新譜といふ。又章述と共に吳兢が次す所の國史百五十篇を續輯す。別に氏族論を作る。孫瑛。

リウハ 劉寶

(宋)岳飛の將。嘗て從て楊么を破つて功有り。飛害に遇ふに及び、寶遂に其部下の士卒を散す。華容山に隱居して卒す。

リウハ 劉襄

(宋)字は伯龍。十歲能く文を屬す。淳熙五年進士に登第す。官に居て聲あり。司門郎中に徐せらる。才高くして忌れ、久しく朝に仕ふることを獲ず。一絶を題して云ふ、去日紅塵吐紫絲、歸來

寒極剥金衣、沙鷗不入鷺鷥侶、依舊滄海鏡釣磯と。又歸隱の詩を賦して云ふ、石骨宵眠不得、半岩明月夜猿啼と。自ら梅山老人と號す。梅山詩集あり、塾に藏す。官朝慶邸に至り、西全州に知たり。

リウハ 劉方

(明)女子。軍人劉某、郷に還る時、其女方を飾つて男子と爲し從へて行く。某病んで途に卒す。方遂に容を改めずして房、劉家に依る。劉養つて子と爲す。後、劉又た子奇を養ふ。奇、方に教ふるに書史を以てす。頗る文墨に通ず。後主卒す。奇、方の女子なるを疑ひ燕某の詩を作りて之を探る。方詩を以て和す。遂に禮を以て完娶し後巨族と爲る。世、三韓劉家と稱す。

リウハ 劉滂

(宋)字は德霖。武義の人。大觀の進士。蔡京滂の祖と布衣の交りを爲す。滂京師に至る。京滂を挽て黨と爲むと欲す。滂曰く此れ胡ぞ我に及ばさむやと。京之を聞きて悦ばす。滂亦衣を拂つて去る。

リウハ 劉芳

(清)永寧の人。康熙己巳洛水溢る。父巨浪の爲に漂ふ。芳水に躍り入て之を援け免るゝを獲たり。

リウハ 劉訪

(隋)博陵望都の人。性輕狡して姦數あり。後周の武帝宣帝兩朝を歴て薛帝に至る。訪帝の幼にして且つ措、國政の負荷に堪へざるを以て、鄭譯と高祖を奉じ政を補く。之を以て上入將軍に拜し黃國公に封せらる。傳入語て曰く、劉訪前に奉き鄭譯後を補す。訪功を恃み頗る驕色あり。平生粗疎、財を貪りて飽くを知らず。

高祖殺之を疎忌す、訪亦之を知り稍々自ら安んぜず。竊かに圖る所あり。事泄れて誅に伏す。

リウハ 劉芳

(明)慷慨智略を負ふ。來乘衝とて郷に擧げられ、昌樂知縣と爲る。官を解き歸る。賊漸く逼る。義士を集めて干城社を爲り、有司を佐けて保障す。崇禎十四年正月洛陽陷る。芳突乃ち四城成樓に縊死す。

リウハ 劉邦采

(明)字は君亮。性識高明、力を用ふる果銳。嘉興府同知に擢拜す。官を棄て歸る。

リウハ 柳寶積

(唐)永徽中、潁州刺史たり。椒城塘を修め、澗水を引て田に溉ぐ二百頃。民之を利とす。

リウハ 劉彭離

(漢)濟東王。梁孝王の子。景帝の時に分封せらる。驕悍にして昏暴其奴亡命の少年數十人と劇を行ひ人を殺して財物を取り以て好と爲す。殺す所發覺する者百餘人。廢せられて國除す。

リウハ 劉伯根

(晉)惠帝の時、東萊愷縣令に任ぜらる。光熙三年春城に擲りて反し自ら愷公と稱す。幾もなく誅に伏す。

リウハ 劉伯正

(宋)餘干の人。開禧の初、進士に擧げられ監察御史に累官す。明堂に事あり、雷電忽ち至る。事を執る者多く次を讓じふ。伯正殿下に徹立し聲色動かす。左司諫に遷る。三たび章疏を上る。淳祐の間、參知政事に拜す。卒して少保を贈

る。時論其朝に立つや沈疇重鎮名譽を求めざるを稱す。

リウハ 劉白墮

(晉)河東の人。善く酒を醸す。久しく日中に曝して味變せず。之を飲むに醜めず。因て酒を名けて白墮と爲す。齋らして香に入る。劫盜之を飲み酔ひて皆擒にせらる。又鶴鶩と名づく。

リウハ 劉伯龍

(南北朝)少くして貧薄、長ずるに及んで尚書左丞少府武陵太守に歴位す。貧窶尤も甚だし。嘗て家に在り、慨然として左右を召して將に什一の利を營まむとす。忽ち見る一鬼傍らに在り掌を撫て、大に笑ふ。伯龍嘆じて曰く、貧窮固より命あり、乃ち復た鬼を笑はると、遂に止む。

リウハ 劉殷

(漢)宣帝の玄孫。楚孝王驚の曾孫。彭城に家し、累より殷に至るまで仁義を積累し、世々名節あり。建武中光武詔を下して殷を封じて蕭郎侯と爲し、孝王の祀を奉じて國に就かしむ。後ち國の楚に屬するを以て徙つて抒秋侯に封ぜらる。十九年沛に行幸す。詔して郡中諸侯の行能を問ふ。太守、殷の東海至行、諸侯の師と爲るを薦言す。帝聞いて之を召す。二十年車駕と沛に會し、徙つて洛陽に遷り、留つて侍祀侯と爲る。永平元年國の沛に屬するを以て、徙つて居巢侯に封ぜらる。肅宗即位して以て長樂少府となす。建初二年宗正に遷る。殷位に在り數々政事を言ふ。其九族を收恤し義を行ふこと尤も著し。時人之を

リウハ 劉藩

稱す。年六十にして卒す。

リウハ 劉璠

(南北朝)沛人。九歳にして孤なり、裏に居て禮に合す。少くして好んで書を讀み、善く文を爲る。嘗て蕭暉に謁す。暉甚だ之を重んず。母建康に居り疾に遷ふ。璠時に淮南に在り、未だ之を知らず。忽ち一日舉身楚痛す。尋て家信至る。曰く其母疾むと。璠即ち號泣して道を戒め、絶て復蘇す。身痛むの辰は即ち母死するの日に當る。喪に奔り毀瘠し、遂に風氣をなす。服闋て後ち一年、猶杖つて起つ。暉終るに及んで毘陵の故吏、數多し、璠獨り暉の喪を奉じて都に還り、璠を成して乃ち退く。後ち周文帝に得られ、以て中外府記室と爲す。黃門侍郎儀同三司に遷る。明帝の始め内史中大夫を授けられ論議を掌る。尋て平陽縣子に封ぜらる。著す所梁典三十卷及文集二十卷有り世に行はる。子祥。

リウハ 柳範

(唐)字は貞觀。貞觀中、侍御史と爲る。時に吳王恪山獵を好む。範之を強治す。太宗嘗て曰く、何ぞ廷にして我兒を折しぐ。範謝して曰く、主聖なれば則ち臣直なり、陛下仁明、臣敢て愚忠を盡くさざらんやと。帝乃ち解く。

リウハ 劉式

(宋)劉式の孫。敵の弟。字は貫父。博く群書を極む。兄と偕に進士に登る。熙寧の初、同知大常禮院たり。初王安石と甚だ相得たり。安石政を執るに及び屹として肯て附せず。後出て、曹州に知たり。政を爲すに寛平を尙ぶ。召して國



史編修と爲す、司馬光と同じく資治通鑑を修む。官中書舎人に至る。公非集あり。世に行はる。份善く獻る。嘗て王介甫に至る。客の策を獻する者あり曰く梁山泊を決すれば田萬頃を得べし、但貯水の堆を得ずと。介甫沈思すること久しうす。貢父聲を抗て曰く、此甚だ難からずと。介甫以て策ありとなし欣然として之を問ふ。曰く則に一梁山泊を穿てば則ち以て此水を貯ふるに足らむと。

リウハン 劉蕃 (清)字は季隱。蓉の弟。咸豐五年羅澤南に従つて大に賊を蒲圻に破る。先登して鎗に中つて亡す。年二十五。知縣を追贈す。

リウバンサイ 劉萬誠 (漢)嘉王を見よ。リウバンシ 劉萬子 (五代)胡敬璋の將たり。敬璋死して代つて刺史となる。尋て其將許從實に殺さる。

リウビ 劉暉 (漢)高祖の兄仲が子。高祖仲を封じて代王と爲す。匈奴代を攻む仲堅く守る能はず國を棄て、走り歸る廢して合陽侯と爲す。漢從、歸布を撃ち其軍を破る。上吳會稽の輕悍にして壯王の之を鎮するなきを患、乃ち漢を沛に立て、吳王と爲す。文帝の時、吳太子入て見ゆ皇太子に侍して飲博す。博して道を争ひ不恭なり。皇太子傳局を引て之を提殺す。吳王怨望疾と稱して朝せず。吳海に煮、山に鑄て國用饒屈作姓に賦なし。歳時に茂材を存問し閭里に賞賜す。此の如き者三十餘年故に能く其衆を

使ふ。景帝の時に至り冕錯上に脱て曰く吳王前に太子の隙あり錢を鑄、蠶を煮、天下の亡人を誘ひ乱逆を作すを謀る、今之を削るも亦反す削らざるも亦反せん、之を削らば其反する速くして禍大ならん。冕錯又上に言して楚の東海郡、趙の常山郡、膠西の六縣を削る。吳の會稽、豫章郡を削るの書至るに及び吳王遂に反す。膠西、膠東、菑川、濟南、楚、趙皆先きに約を定む是に至りて向く反す。帝太尉周亞夫をして三十六軍を率ゐ吳楚七國を撃たしむ。十國の兵敗る。吳王東越に走り人に錠殺せらる。兵を起してより三月にして滅ぶ。

リウビ 劉備 (三國)昭烈皇帝を見よ。リウヒ 柳妃 (隋)襄城王恪の妃。柳旦の女。妃貌姿端麗。年十餘、其家の子を以て、聘せらる。妃婦道を修め之に事ふる愈謹む。煬帝即位して邊に徙さる。帝使者をして之を道に殺さしむ。妃典に訣れて曰く、若し王死せば、妾誓て獨り生きず。恪死し、飲し訖る。使者に謂て曰く、若し身死して別に埋めざるを得ば君の惠なりと。遂に棺を掘り號慟し、自經して死す。

リウヒ 劉淑 (宋)餘干の人。嘉泰の間の進士。郡縣憲省院部に歴官す。後參知政事に拜す。相を攝すること八十日、母老なるを以て養を致さんと乞ふ。上之に従ふ。必幼より孝を以て著はる。

リウヒ 劉妃 (金)世宗の妃。遼陽の人。性聰慧、凡そ字、目を過ぐれば忘れず。初め孝經を讀み旬日にして巻を終る。佛書を喜ぶ。世宗東京留守たりしとき擊毬に因り見て之を奇とし、府中に貞懿皇后に見えしむ。其の進退閑雅、恣睢の色なきを觀、大定元年選ばれて東宮に入る。逾えて二年宣宗を生む。是の日大雨震電す。驚悸して疾を得、尋て卒す。年二十三。昭聖皇后と追諡す。

リウヒセイ 劉綱正 (宋)字は建翁。夙の子。淳熙中進士に第す。嘉泰の末入て糧料院を知す。時に韓侂胄相と爲り兵禍の萌あり。召して鏡鏡を贈せしむ。實は付するに邊事を以てせむと欲するなり。綱正固淮に行き久しうして後ち歸り貢ふ、故なくして先づ發するは天理順はず、預なくして軽く擧ぐるは人謀從はずと。嘉定の初攻功郎と爲り、吏部侍郎に終る。

リウヒセウ 劉淵邵 (宋)字は滄翁。夙の子。夙方に盛年にして歿す。家貧しく、數厨あり。淵邵先澤を概念して其間に起臥す。學子の業を爲さず、唯古を學ぶを以て心となす。六經より以下抄纂せざる無し。一に洙泗閩洛の語を以て法と爲す。事必ず道理を求め、實踐せむと欲す。童より志に至るまで確然として移らず。少くして貧を以て學に舍す。後ち棄て去る。郡博士いよく來て學を致す。俸を卻けて受けず。郡守楊棟、尊德堂を學宮に創し、以て之に處らし

む、久しく留まらず。棟建刑獄に提點たるに及び復た朝に論薦す、未だ報せられずして卒す、年八十二。

リウヒツタイ 劉必壽 (清)字は門人。南門の人。郡の廩生。父疾み、石鱗魚を食はんことを思ふ。伏月に得可からず。必壽夜深山中を馳せて行くこと百里。瑞雲宮を叩きて神助を乞ふ。果して魚を獲たり。以て父に奉す。後父歿す。墓に廬すること三年。兄に事へて父の如し。時に其孝友を稱す。

リウヒツタツ 劉必選 (明)官汾陽知縣たり。崇禎十六年正月太原已に陥り、汾陽の遂に支ふべからざるを知り、出て、賊に襲る袖中罵賊文を藏むと云。

リウヒン 劉斌 (元)山東歷城の人。少くして勇力あり。睢陽を攻めて之を敗り、又撃て太康の守兵を走らし其將を擒にす。前後の功を以て濟南新軍萬戸に累遷す。病作り、其子に謂て曰く、官に居る廉正自ら守り、貨に頼れ身を喪はす母れと。語畢て逝く。彭城郡公に追封し武莊と諡す。

リウヒン 劉玠 (五代)南漢第三世。初名は洪度。玠の子。初め秦王となる。立て二年弟洪熙に殺さる。諡して廟といふ。

リウビン 劉敏 (三國)優の孫。草書を能くす。孝廉に擧げらる。蜀の後主の時、侍御史に除せらる。名實を糾察し無辜を枉げず。揚威將軍と爲る。魏曹爽を遣して蜀を侵す。敏兵を率ゐて敵を迎へ費律に會す。魏の軍退くに至り、功を以て雲亭侯に封じ

らる。後中書侍郎を加へらる。禁掖に出入するもの爲に容を改む。成都太尹に拜す。政化行はるること治し。

リウビン 柳敏 (南北)字は白澤。河東解縣の人。性學を好み、經史に涉獵し、陰陽卜筮の學、習はざる無し。未だ弱冠ならずして家を起して散騎常侍と爲る。河東郡丞に累遷す。文帝河東に克ち、得て見て之を器とし、乃ち謂て曰く、今日河東を得るを喜ばず、卿を得るを喜ぶと。即ち丞相府參軍事に拜す。禮部郎中に遷り、封じて武陵縣子大都督と爲す。母の憂に遭ひ喪に居る、と旬日、髮髮半は白し微されて禮部に拜し、出て郢州刺史と爲り、甚だ物情を得たり。歸らんとするに及び、夷夏の士民其惠政に感じ、酒肴及び物産を瀦らし、路に従ふ。敏乃ち他道より還る。復た禮部に拜す。後ち禮部を改めて司宗と爲す、仍て敏を以て之に任す。

リウビン 劉晏 (五代)東漢主第一世。初名は崇。漢高祖の母弟。太原尹より累遷して中書令となる。周太祖漢祚を奪ひ、晏皇帝の位に太原に即き、竊に契丹主元欲と結んで叔姪と稱す。周の世宗と戰て大に破れ、憂悶して死す。

リウビン 劉敏 (元)字は有功。宣德帝の師。山西に次す。敏年十四、大將備みて之を收む。帝其貌を偉とし、留めて宿衛せしむ。能く諸部の語に通ず。帝宋を代ら陝右に至りしとき、敏疾を興して

至る。尋て歸りて燕に卒す。敏、よく墨竹を畫く。順正之を學ぶ。

リウビン 劉敏 (明)蕭寧の人。孝廉。擧げられ中書省吏たり。嘗て暮に蘆を龍江に市ひ且に家に載せ、妻を以て織滌し襪かため、以て母に奉す。性廉介。工部刑部を歴て徽州府同知に除せられ惠政あり。官に卒す。

リウビン 劉閔 (明)字は子賢。南田の人。性純愷。意を科擧に絶つ。二親に事へて至孝、鄉人欽重せざるはなし。屢々官を以て辟されて就かず。正徳の初、遂に儒學訓導を授けらる。

リウビンカウ 劉敏行 (金)平州の人。天會三年登第す。河北東路轉運使に遷り、致仕して卒す。

リウビンゲン 劉敏元 (晉)字は道光。北海の人。已を勵み學を修む。星曆陰陽術數を好む。永嘉の亂、同郡管平年老いたるを以て敏元に從つて四奔す。盜の爲に劫かきもなし。敏元賊に謂つて曰く、此公餘年幾くもなす、願ばくば身を以て代らむと。盜長之を舍さんと欲す。一賊聽かず。敏元劍を奮つて前んで曰く、吾豈生を望まむや、願ばくば諸君と此人を除かむと。盜長遽かに之を止め、相謂つて曰く義士なりと、俱に之を免す。後劉曜に仕へて中書侍郎となり、太尉長史に遷る。

リウビンチウ 劉敏中 (元)字は端甫。濟南軍丘の人。卓犖不羈。至元間、監察御史に

一三五九



拜せらる。權資を彈劾して忌憚せず。集賢大學士に擢拜せらる。延祐間卒す。齊國公に追封し文簡と諡す。中庵集二十五卷あり。リウヒヨウ 劉濼 (明)善く枯木竹石を畫す。

リウフ 柳溥 (明)升の子。初め中府たり。出て廣西を鎮す。廉慎にして而も將略なし。景泰天順の突、太傅に累進す。事に坐して落職す。尋て復起つて神機營を掌る。卒して武肅と諡す。

リウフ 劉溥 (明)字は原博。長洲の人。經史を究め兼て天文曆數に通ず。宣德間、溥醫を善くすと言ふ者あり。故に民惠局副使に拜し、大醫院吏に調せらる。目するに醫を以てせらるゝを耻ぢ、日に吟咏を事と爲す。以て身を終ふ。

リウフウ 劉涇 (南北)南陽の人。父中書郎たり。涇後母に事へて至孝なり。播楚を極むと雖も孝養衰へず。母亦感悟して慈愛す。弟濂、元魏に仕へて遠光諱議となる。リウフク 劉瓛 (三國)字は元穎。揚州刺史と爲る。州治を建立し、學校を立て、屯田を廣め、及び陂塘の利を興す。子靖、廬江太守に遷る。詔して曰く、卿の父昔彼州の令と爲る、卿復此城に據る、克く負荷すと謂ふ可きなりと。

リウフク 留福 (宋)徐州の人。屢戦功あり。開寶の間、觀察使を以て雄州に列たること凡五年、政平易を尙ぐ、民甚だ之を便とす。関に至り留を借らんとす。詔して

爲めに遺愛の碑を立てしむ。卒して節度使を贈る。福既に貴くして諸子、第を治せむと欲す。福怒つて曰く、我厚祿を受け、以て汝が曹を庇するに足る、福き身を以て國に許す、猶未だ尺寸の効あらざる、更に大第に居り、自安の計を爲さむと欲せんやと。太宗聞て之を喜ぶ。其卒するや金五千兩、市第を賜ひ以て其家を歸む。

リウフク 劉福 (宋)下邳の人。魁岸臂力あり。功を以て雄州防禦使に累官す。私私錢を出して以て宴を資け師を搞ふ。寇大に至ると雖も恃んで以て恐るゝなし。淳化の初、涼州觀察使に遷る。學ばずと雖も下を御するに方畧あり。政を爲すこと簡易、人甚だ之を徳とす。

リウフクカウ 劉復亨 (元)東平清河の人。李璵の變、濟南食に乏し。復亨盡く家貨を出だして以て濟ふ。世祖之を嘉して白金五千兩を賜ふ。固辞す。至元十年軍四萬を統べて日本を征す。淮南諸郡邑を招降す。淮四道宣慰使に累遷す。

リウフツ 劉敷 (宋)字は聲伯。樂清の人。太學生を以て上書して言ふ、朝廷大臣を進退する當に禮を以てすべしと。執政に忤ひ南安軍に送り安置せらる。既にして還り、復た政治得失を極言す。官吏部尙書に至る。二王海に泛び、陳宜中、駭を迎へて政を共にし麗浮に至る。疾を以て卒す。著す所撰川集あり。

リウフン 劉資 (唐)字は子華。昌平の人

賢良に應じて廷對し、宣寺の國に福するを極言す。考官馮宿等皆嘆服して之を長る。宣官政で收めず。李部曰く劉資下第して我を登科す、寧ろ厚顔なるなからんやと。

リウブン 劉文 (漢)清河の人。桓帝の建和中、南郡の妖賊劉鮪と通じ、共に清河王蒜を立んと欲す。事覺はれ誅に伏す。リウブン 劉開 (元)字は開庭。江西安福の人。天歷の進士。太常博士に官す。春秋通旨、容齋文集若干卷を著す。

リウブン 劉文 (明)陽和衛の人。指揮司知を襲ぐ。嘉靖八年總兵官を以て陝西を鎮して賊を平ぐ。都督同知に進む。後落職し、再び起つて延綏を鎮し、甘肅に改めらる。卒して武襄と諡す。

リウブンギヨク 劉文玉 (明)劉普仲の妹。同翰を能くす。リウブンクワン 劉文煥 (明)廣濟の人。洪武中、兄文輝と糧を運んで期を愆り死に當す。兄長を以て座す。文煥吏に詣り代らんと請ひ、叩頭血を流す。所司其狀を上し、命じて之を宥す。時に兄已に死す。太祖特に義民の二字を書して之を獎す。

リウブンセイ 劉文靜 (唐)武功の人。備虜にして大志あり。隋末普陽令たり。太宗と相友とし善し、遂に之と謀つて義兵を起す。高祖授くるに民部尙書を以てす。未だ幾くもあらずして右納言に遷る。太宗天下を定むる文靜の功許多なり。文靜自から材略功勳、裴寂の右に在りとなし、位其下に

居るを以て意平かならず。家數々あり、其弟文定、巫を召して厭勝す。文靜委あり寵なし。其兄をして體を上り之を高祖に告げしむ。高祖文靜を以て吏に屬す。太宗固く請うて曰く、昔晉陽に在りしとき文靜先に非常の策を建つ、寂が京城に克つに及んで任遇懸隔す、今文靜狀は則ちこれ有らん、敢て謀反に非ずと。寂曰く、文靜材略人に過ぐ、性復粗險、天下未だ安からず、之を留めば恐らくは後患を貽さんと。高祖卒に寂の言を用ひて之を殺し、其家を籍没す。文靜戦を起して大功あり、死其罪に非ず。聞く者之を冤とす。

リウブンヘイ 劉又炳 (明)字は慎琦。宛平人。孝純皇太后の姪。崇禎間新樂侯に封せらる。人と爲り謹厚、妄に交らず。時に天下多事、流賊益々張る。文炳忠義を慕りて守禦の計を爲す。常に曰く、死を以て國恩に報ずべしと。賊が都城に入るに及び遂に殉死す。弟及び諸子皆死す。福王の時、忠壯と諡す。

リウブンヨウ 劉奮庸 (明)洛陽の人。嘉靖三十八年の進士。兵部主事より禮部兼翰林待詔に進む。穆宗の時、疏陳する所詳からず、多く納れらる。嘗て高拱を極論す。後ち其門生に許かれて論せらるゝと、兩月、神宗の即位に會ひ、遷りて陝西提學副使に至る。病を謝し歸りて卒す。

リウヘイ 劉平 (漢)字は公子。彭城の人。鍾離憲朝に薦む。詔あり之を徵して特に辨

装鏡を賜ふ。初め母を奉じて乱を避く。弟の遺服の女あり。平弟の女を抱くこと己の子の如し。山澤中に匿れ出て、食を求む。賊に遇うて將に烹られむとす。平乞ふ、歸つて母に食せしめ乃ち烹に就かんと。既にして期の如く往く。賊戰として之を釋す。

リウヘイ 劉炳 (漢)頃王を見よ。リウヘイ 劉乘 (南北)字は彦節。宋の宗室。少くして才俊あり。朝野之を推譽す。泰始の初、丹陽尹たり。時に蕭道成政を專らにし、將に篡逆を圖らむとす。乘、袁粲等と之を誅せむと謀る。克たずして害に遇ふ。

リウヘイ 劉炳 (南北)字は延明。涼州の人。少くして郭瑛に就て學ぶ。瑛時に弟子數百人。女あり始めて弊す、瑛心を明に屬す、乃ち一席を設け、諸弟子に謂つて曰く、吾一佳婿の誰か此に坐する者を覓めんと欲すと。兩即ち衣を奮つて坐に登りて曰く、延明其人なりと。瑛女を以て之に妻す。

リウヘイ 柳平 (宋)字は子儀。武陵の人。元祐中、州に知たり。時、江南獨り訟に驚からず、子儀至て政益々清簡、漸く訟無きを以て、乃ち燕居の堂を新にし、榜して江西道院と曰ひ、以て其俗を鼓舞す。百姓悦ぶ。

登第す。宣宗其の忠を嘆じ才を異とすと雖も用ふる能はず、但だ御史台令史に補するのみ。リウヘイ 劉丙 (明)字は文煥。南雄知府實の孫。成化末の進士。庶吉士より御史に擢てらる。文武に歴官す。正徳中、工部右侍郎に擢てらる。風痺を犯し疾を得て卒す。尙書を贈り恭毅と諡す。

リウヘイ 鍾炳 (明)字は彦陽。鄱陽の人。詩を以て名あり。太祖の起りしとき書を獻じて事を言ふ。中書典籤と爲る。洪武の初、知縣と爲り、疾を以て告歸す。久しうして卒す。

リウヘイ 劉炳 (清)字は耀南。長州の人。幼にして孤。母に事へて至孝、母嘗て夏日病み、驚か食せんことを思ふ。賭市を索めて得ず、彷徨措くことなし。怒ち七人持して以て至る。熱て之を進む。疾遂に愈ゆ。乾隆六年卒す。

リウヘイジヨ 劉乘恕 (元)字は長卿。乘忠の弟なり。湖州平陽兩路總管に至る。リウヘイチウ 劉乘忠 (元)字は仲晦。初名は侃。後釋氏に從つて子聰と名づく。其先は瑞州の人。世々遂に仕ふ。子聰生れて風骨凡ならず。年十七にして府令史に補せらる。子聰刀筆の吏たるを喜ばず去つて天寧寺に僧たり。後僧海雲と俱に憲宗に見え、屢顧問を承く。子聰博學にして尤も易に深し。世祖之を悦ぶ。遂に留めて大計に參せしむ。日夜世祖の側に侍す。雖も猶ほ舊服を改め



リウヘイ

す。時人聴書記と爲す。太保彦預中書省事に拜せられ、劉に復して名を乗忠と賜ふ。裁定する所たり。年五十九にして精舎に端坐して逝く。藏春散人集十卷あり。趙國公に追封せられ文貞と諡す。

リウヘイチヨク 劉柔直 (元)字は清臣。大都武清の人。至正間、衛輝路總管と爲る。異政多し。

リウヘイノツマ 劉半妻 (元)胡氏。至元の初、夫成に當り、其妻と俱に沙河に宿す。虎あり夫を衝み去る。婦追ひて虎尾を持し刀を取り虎を殺し、夫を扶けて還る。

リウヘウ 劉表 (漢)字は景升。山陽高平の人。魯の共王の後、初平中荊州刺史と爲る。賊を討じて悉く江南を平す。李傕兵安に入る。因て使を遣はし貢を奉ず。表を以て鎮南將軍となし、成武侯に封じ節、假して以て己の援を爲す。是に於て荊州諸將、關四侯豫の學士歸する者蓋し數千。民を愛し士を養ひ、從容自ら保つ。曹操の袁紹と官度に相持するや、紹人を遣はして助を求む。表授けず。後、操自ら將として表を征せんとす。未だ至らず、表、疽、背に發して死す。

リウヘキ 劉闢 (唐)順宗永貞中、四川節度使南康武王韋皋の孫。闢自ら留後となる。朝廷、之を許さず。是に至り兵を擧げて叛す。憲宗の時に及び勅滅せらる。

リウヘキ 劉辟 (三國)汝南黃巾の賊首。リウヘキクワウ 劉辟光 (漢)濟南王。齊

リウベン

悼惠王の子。景帝の時、十國の反に興し誅せらる。

リウベン 劉卞 (晉)東平の人。少くして縣吏と爲る。太學に入り經を試みらる。蓋囚品史と爲る。命を訪問す。黃紙を一鹿車下に寫さしむ。卞曰く卞は人の爲めに黃紙を寫す者に非ざる也と。或人卞に謂て曰く君が才簡略、大に堪へて小に堪へず、守舍人と爲るに如かずと。卞其言に従ふ。并州刺史に累遷す。

リウベン 劉劭 (南北)字は伯猷。彭城の人。家貧なり。初廣州增城令となる。吏幹精進明爽。響復刺史劉道錫引て楊烈府主簿となす。稍後遠太守に遷る。元嘉末、蕭簡黃州に據つて亂を爲す。勳義兵を起して之を討つ。簡平刺史宗愨又命じて軍府主簿暨林太守と爲す。功を以て大亭侯に封じらる。員外散騎侍郎たり。復廣州刺史と爲る。勳擊南土に著し廣人之を思ふ。元徽中桂陽王休範亂を爲す。勳戰死す。事平き司空を贈る。諡して昭と曰ふ。

リウベン 柳翥 (南北)字は順言。本と河東の人。永嘉の亂、家を襄陽に徙す。祖懷、梁の左僕射たり。父懷、梁の都官尚書となる。翥少して聰敏、文を勉むるを解し、書を讀むを好む。覽る所は將に萬卷ならむとす。梁に仕へて著作佐郎と爲る。後、蕭齊荊州に據る。以て侍中と爲し、國子祭酒吏部尚書を領す。(晉俗語字)

リウベン 柳亮 (唐)字は敬叔。芳の子。

リウベン

博學にして文詞に富む。且つ世々史官たるを以て父子並びに集賢院に居り。貞元中朝に立つ。議論剴切、執政喜ばず。出で婺州刺史と爲る。尋て福建觀察使に徙る。

リウベン 劉沔 (唐)字は子汪。廷珍の子。少くして孤なり。振武節度使范希朝に客たり、牙將に擢せらる。希朝之を奇とし、召して謂て曰く、後日必ず吾坐に處せんと。希朝卒す。入つて神策將となり、大將軍に遷る。涇州節度使に擢でらる。檢校尚書左僕に進む。累れて戦功を立て又金紫光祿大夫に進む。

リウベンシ 劉沔之 (宋)字は致中。崇安の人。謙定に師事し心を伊洛の旨に究む。力耕自給す。紹興の間、召されて至る。秦檜と合はず、即ち病を謝して歸る。學者稱して白水先生と爲す。朱松卒す。嘯するも後事を以てす。且、燕を以て業を受け之を勉めしむ。燕を誨ふも子の如し。女を以て之に娶す。

リウホ 劉輔 (漢)河間の人。漢の宗室。孝廉に擧げ、諫大夫に擢んでらる。成帝、趙婕妤を立て、后と爲さんと欲し、詔して婕妤の父臨を封じ列侯と爲す。輔上書して言ふ、腐木は以て柱と爲す可からず、卑人は以て主と爲す可からずと。秘獄に繋がる。辛慶忌等悉く上書す。乃ち死を減じ論じて鬼薪と爲す。家に終ふ。

リウホ 劉輔 (漢)獻王を見よ。

リウホウ 劉勰 (明)上虞の人。染翰に精

リウボウ

し。太原令門下掾となる。時に赤眉二十餘萬の衆を率ゐて郡縣を攻め、長史及び府掾吏を殺す。茂太守孫福を負ひ、牆を踰り空穴の中に藏れて免るゝを得たり。其妻孟縣に奔る。晝は則ち逃隱し、夜は糧食を求め、百余日を積む。賊去りて乃ち歸ることを得たり。明年詔書して天下の義士を求む。福之を朝に言ふ。詔書して即ち茂を徵し議郎に拜す。

リウボウ 劉翥 (南北)字は仲華。芳の從子。聰敏にして學を好み、博く經史を綜ぶ。草隸を善くし、奇字を識る。魏の宣武の初め入朝し、位尚書外兵部郎中たり。芳甚だ之を重んじ、凡撰定する所の朝廷の軌儀、皆與り參畫す。時に殿中郎袁翻從政に違ふ、翥中の疑中、成訪て此二人に決す。既にして歩兵校尉に遷る。孝明の初、大軍陝右を攻む。翥頗る大功あり。大尉司馬に進む。家甚だ清貧、死するの日に、徒に四壁立つのみ。當時の才尙之を痛惜せざるなし。持節前將軍を贈り諡して宣簡と云ふ。著す所の詩文時に稱せらる。又諸器物造作始十五卷を撰び、之を名づけて物祖と云ふ。

リウボウエン 留夢炎 (宋)衢州の人。淳祐五年の進士。累遷して右丞相に至り、樞密使都督諸路兵馬を兼ねぬ。頗、賈似道を庇ふ。終に左丞相に進む。元將峻都の衢州を陥るゝや、夢炎出て、軍門に降る。

リウボウセイ

劉奉世 (宋)字は仲父。敵の子。人と爲り簡重にして法度あり。常に云ふ家世々唯々君に事ふ内省して愧ぢず。士大夫の公論を作すを知るのみ、得喪は常理なり、譬へば寒暑の如し。如し操生を能くすと雖も病む無き能はず、正に須らく安じて以て之に處すべしと。章惇が事を用ふるに當り外を刀乞す、乃ち出て、成徳軍を知す。父叔と名を齊しうす。世に三劉と稱す。著す所、兩漢列傳あり。

リウボウチウ 劉茂忠 (五代)安福の人。容貌魁雄。善く大將を用ふ。南唐に仕へ功を以て青州兵馬監押を授けらる。冀州刺史に累遷す。宋の江南を平ぐるや茂忠京に至る。太祖問ふ汝江南に在り、屢々邊邑を擾るは何ぞや。對て曰く臣結髮主に事へ、惟忠勇を是れ奮ふ、陛下親征、臣亦身を預すと雖も願みずと。太祖之を壯とす。

リウボウホウ 劉夢鵬 (清)字は雲翼。浙水の人。乾隆十六年の進士、官饒陽知縣。春秋義解十三卷を著す。

リウボウリン 劉季林 (宋)傳へいふ天台山に在り鶴に駕して輕く擧がる。鶴嘗て羽を墜る、故に其山を名づけて委羽山と曰ふと。王十朋の詩に曰く、應有赤城鸞鳳過、一聲長嘯入青冥。

リウボウリヤウ 劉夢良 (元)劉の人。梅花を鑑く。楊柳之を學ぶ。

リウボウロク 劉達孫 (清)字は申甫。嘉慶丁卯の舉人。經傳に淹貫し、老に至るま

リウボク

で倦まず。リウボクシ 劉稷之 (漢)敬王を見よ。リウボクシ 劉稷之 (南北)字は道相。葛人。居を京口に徙す。宋の武帝に從つて建業を平らぐ。諸大處分、倉卒立ごころに定る。尚書左僕射に累官す。帝北伐せしとき建業に留守し、内は朝政を總へ、外は軍旅を供す。決斷流るゝが如く、事變滯なし。後佐命の元勳を以て南康郡公に追封せられ文宣と諡す。

リウボツ 劉勃 (宋)眉山の人。元符の初め直官を求む。九たび上書して、宣仁太后の誣虐、司馬光の枉、范純仁、蘇軾兄弟の賢、蔡卞、呂惠卿、蔡京の奸を言ふ。改めて提舉湖北路常平たり。尋て元祐黨籍に坐す。

リウボンシ 劉盆子 (漢)太山式の人。城陽景王の後、王莽の末に琅邪の樊崇等兵を起し郡縣を寇掠し赤眉と號す。轉戦して四し遂に關に入る。方陽なる者あり更始の其兄を殺すを怨み崇等に説て劉氏の後を立て之を奉ぜしむ。盆子時に軍に屬して羊を牧す。崇等遂に之を立つ。盆子年十五被髮徒跣敝衣糝汗、諸將の拜跪するを見て恐畏して啼かんと欲す。既にして更始降り赤眉口々に長安を却掠す殿中酒を行ふに衆酒肉を争ひ相格闘す。盆子惶恐日夜啼泣して獨り中黃門と共に起臥す。既にして長安食盡く赤眉乃ち關を出つ。途に光武の大軍に遇ふ乃ち皆降る。光武大に兵馬を陳して洛水

リウボウ

リウボウ

リウボク



に嗜み益子君臣をして列して之を觀しむ。益子に謂て曰く自ら當に死すべきを知るや否や。對て曰く罪當り死に應ずべし猶幸に上の之を憐れ救するのみ。帝笑て曰く兒大詰と。之を憐みて趙王の邸中と爲す。後に病て明を失す榮陽均輸の官地を賜ひ以て列肆と爲し其稅を食せしめて身を終ふ。

リウマイ 劉邁 (晉)字は伯群。殺の兄。股仲城の中兵參軍と爲り、後亮陵太守と爲る。劉毅劉裕同じく義兵を起し桓玄を討たんふを謀る。邁之に應ぜんとす。事泄れて玄の爲に害せらる。

リウマウ 劉猛 (漢)尙書令たり。抗直を以て聞ゆ。リウマウセツ 劉孟節 (宋)壽光の人。少くして神放を師とす、篤く古學を好む。青州の南、歐治子錡の地に隱る。富弼爲に室を築きて以て居らしむ。嘗て詩を賦して之に饋して曰く、先生已歸隱、山東人物空也。范仲淹等皆之を優禮して薦めんと欲す。孟節辭して就かず。

リウミンセン 劉民先 (宋)字は聖任。其先崇安の人。五世の祖幹、五季の亂に當り地を避けて閩に入る。遂に崇安の五夫里に居り。隱居の初、計偕に與り累に禮部に至る。輒く合はせず。慨然として曰く、吾が親老たり、関く可からずと。是に於て潭溪に屏居し一杖堂を作り、朝夕奉養唯謹しむ。後、特奏を以て稱を擢く。常に人に謂て曰く、吾豈一命を貪る者ならんや、願みて是

に因て親を榮するのみと。母年九十に及んで果して恩を以て崇安縣太君に封せらる。時に以て榮と爲す。

リウン 李櫻 (明)字は長編。鄞人。萬曆末の進士。御史に擢拜せらる。天啓の初、重慶城陷る。櫻征て事を視る。時に兵三千に滿たず倉庫空虚なり。櫻兵を募り米を聚め、戰守の具を治む。既にして討伐し、櫻の向ふ所必勝つ。權貴に抑へられて官位超擢せず。識者之を惜む。家に卒す。

リウメイ 劉明 (漢)濟川王。梁孝王の子。景帝の時に分封せらる。武帝の時廢せられて國除す。リウメイデン 劉銘傳 (清)字は省三。安徽合肥の人。初め黨を聚め、私擄を擄ぎ、捕を拒み人を傷く。遂に軍に投ず。咸豐間江陰常州に克ち屢々功を立つ。同治四年命を奉じ撫臣を勸す。數省を馳逐する三年、幾んど一日の休息なし。六年軍機大臣に擢る。四年四鎮も亦平らぐ。光緒十年佛人海軍を擄す、銘傳往て之を拒く。明年遂に臺灣巡撫の命を拜す。奏す、番事を辨撫するに、宜しく先づ示すに威を以てし、後にに德を以てすべしと。二十一年家に卒す。壯烈と稱

を同じうすべし、今大事已に去る、爲す可からずと。山林に遁るゝの志あり。年を過えて宋亡ぶ。冠帯を改めて衣勤す。元、詔を下して賢を求むるに及びて揚州閩くに忍びず。遂に家を雲湖山に徙す。田を墾し、食を給す。自ら介白數人と號し、以て元臣たらざるを示す。

リウメンツ 劉綿祚 (明)永祚の弟。字は季延。崇禎四年の進士。吉安豐知縣と爲る。賊九連山に窟す。綿祚會勦を請ふ。賊怒り衆を率ひて攻む。綿祚、出で、撃ち、三戰三捷す。賊大に至る。綿祚、兵を黃牛洞に伏せて大に破る。積勞にて疾を得、告を請うて歸り卒す。兄弟三人並に王事に死す。

リウモウ 劉濼 (唐)字は仁澤。晏の曾孫。進士に擧げられ度支郎中に累遷す。會昌の初、給事中に擢てらる。李德裕の知る所と爲る。時に經略河湟を建てんと欲す。濼邊を按じて兵械糧餉を調す。宣宗立つ。德裕罪を得。濼貶せられて朗州刺史たり。大理卿に終ふ。

リウモウ 劉蒙 (宋)字は子明。渤海の人。狀として詞賦を爲る。擧子茂才異等を習はす。又自ら書らむと欲せず。後遺逸に擧られ擢て、潮陽縣に知たり。嘗て免役法を行はず、而して其害を條上し、即ち劾を投じて去る。卒するに及び門人之を誅して正思先生と曰ふ。

リウモウ 劉蒙 (宋)宜黃の人。治平の初、進士に擧られ、平陽武城霍邱三縣を歴。淮甸大に飢う、霍邱の民頼て以て全活する者甚だ衆し。累官して廣西に至る。蒙人と爲り清濬、干すに私を以てすべからず。得る所の補官は二弟を先にして二子を後にす。リウモウソウ 劉蒙叟 (宋)熙古の子。兄蒙正、射騎を善くす。内藏庫副使に累官す。

出で、治冀州三州に知たり。蒙叟學を好み善く文を屬す。乾德中進士たり。盧溥溥汝四州を歴知す。太常寺少卿を以て致仕す。嘗て所、五運甲子編年曆あり。子宗嗣、宗諱、皆進士に登る。

リウモク 劉沐 (宋)慶陵の人。文天祥府を南劍に開く。沐部曲を收めて之に會す。大府寺簿を授けらる。寧一軍に將とし督府の爲めに空坑を構る。兵敗れて執へられ其長子仲子と與に皆死す。季子後天祥に從ひ嶺南に死す。當時江西忠義は皆沐の號召する所と云ふ。

リウヤウセイ 劉養正 (明)舉人。正徳間、宸濠の叛を授けて誅せらる。リウヤウソウ 劉揚祖 (宋)字は弘宗。慈谿の人。幼にして志操あり。穎悟人に絶す。伊洛の正學を崇ぶ。景定三年進士に登第し江州教授に除せらる。學政修擧す。推せられて崇文院校書郎と爲る。時に賈似道政を執り、内外争ひ附く。揚祖獨挺然として忌むなし。事を言ひ皆に忤ひ斥けらる。沅東稅を監す。縣官交々之を罵む。通直郎を授けらる。時政の利弊を建言す。賈悅げず再び之を斥く。改めて守吉州編修提點刑獄たり。刑部員外郎に遷る。朝に入て益々諫言を勵み、事に遇へば敢言す。賈、黨樹を建て廣く珍玩を求む。揚祖又疏を持って謂ふ、朝廷當に經國の大務を忘れ、坐して其弊を待つ可からずと。賈又之を斥むと欲す。自後國事日に蹙る。嘆じて曰く人臣當に國と存亡

を同じうすべし、今大事已に去る、爲す可からずと。山林に遁るゝの志あり。年を過えて宋亡ぶ。冠帯を改めて衣勤す。元、詔を下して賢を求むるに及びて揚州閩くに忍びず。遂に家を雲湖山に徙す。田を墾し、食を給す。自ら介白數人と號し、以て元臣たらざるを示す。



克も城に逼る。初林翼因て密に誘して之を驚む。同治三年官軍中を収む。警府城に入り奔して、丁餉を免し忠烈を郵み、種を給し戸籍を葬り、以て人心を收む。四年甘肅境州陥る、四月之に克ち、李永和の餘黨盡く平ぐ。未だ幾ばくならず華陰に逃く。昭して猶撫を罷む。是に由て終に家に老す。文章を以て自ら娛む。集四十巻あり。

リウヨク 劉墀 (漢)字は子相。穎陰の人。陳留太守に累官す。歸る、及んで惟車馬に乗り他物を載せず。道に張季禮の遠く師の喪に赴くに遇ふ。寒氷に遇ひて車毀れ道路に頓委す。墀即ち下車して之を興へ、姓を告げず。一病死者を見る、軀を以て棺に易へ之を葬る。飯に困しむの人あるに逢ひ、又罵する所、牛を殺して之を食せしむ。或は之を止む。墀曰く死を見て救はざるは義士に非ざるなりと。

リウヨク 劉廣 (漢)安衆の人。兄望、荆州刺史が従事たり。正諫を以て合はず、傳告を投じて歸る。廣遂に曹操に歸し、丞相操となり、五官に轉す。著書數十巻あり。リウラウシ 劉宰之 (晉)字は道堅。彭城の人。漢元王支の後。面紫赤色、瞶目人な

リウヨク 劉翽 (南北)字は孝智。彭城の人。彌の弟。母の憂を以て墓に廬す、捕賊を嘗めず。夢粥を食するのみ。隆冬只單衣を着く、家人寒に勝へざるを慮り、中夜寢に炭を牀下に致す、覺因て暖に寐を得たり。之を覺知するに及んで號慟嘔血す。梁武帝其至性を聞き、數々省視せしむ。服闋り尙書左丞に除せらる。官に當つて清正私なし。リウランヂヨ 劉蘭女 (明)京師の人。父蘭卒す、志を失ひて嫁せず、以て其母を養ふ。崇禎元年母歿す、女遂に殉死す。時に年四十六。時に孝女と稱す。

驚かす。而して沉毅にして計畫多し。大元の初附芝蘭廣を鎮せしとき、宰之を以て參軍領と爲す、精銳を以て前鋒となり、百戰百勝、北府兵と號す。敵人之を畏る。復龍驤將軍となり江州事を領す。會稽太守に遷る。敬宜と桓玄を襲はんと謀り、猶豫決せずして死す。リウラン 劉蘭 (南北)武邑の人。年三十余、始て學を中山王に受く。保安三年、遂に儒學を以て名あり、學徒二百人を聚む。蘭左氏に長じ兼て諸經に通ず。是より先き張吾貴の解説、先儒の旨を擧げず。惟蘭の經傳、悉するに緯侯を以てし、諸説精悉なり。又陰陽博物に明なり、故に儒者に宗とせらる。リウラン 劉覽 (南北)字は孝智。彭城の人。彌の弟。母の憂を以て墓に廬す、捕賊を嘗めず。夢粥を食するのみ。隆冬只單衣を着く、家人寒に勝へざるを慮り、中夜寢に炭を牀下に致す、覺因て暖に寐を得たり。之を覺知するに及んで號慟嘔血す。梁武帝其至性を聞き、數々省視せしむ。服闋り尙書左丞に除せらる。官に當つて清正私なし。リウランヂヨ 劉蘭女 (明)京師の人。父蘭卒す、志を失ひて嫁せず、以て其母を養ふ。崇禎元年母歿す、女遂に殉死す。時に年四十六。時に孝女と稱す。

リウリウ 劉隆 (漢)南陽の人。漢の宗室なり。世祖に從つて騎都尉となる。誅虜將軍に累拜す。李憲を討平す。竟陵侯に封ぜらる。後馬援と交趾を撃ちて之を破る。僅侯に封せられて卒す。靖侯と諡す。リウリウタイ 劉留臺 (宋)少くして極貧、専ら時に趨謁す。郷人之を厭ふ。歳久しくして自ら存する能はず。一日泉州に往き親故徐司戸に謁す。司戸罪を得て他郷に移さる。復徒歩して漳州に至る。市の堂中に水浴して一金帯を拾ふ。浴し畢つて疾に托し房中に臥して去らざ。翌日一人あり號泣して來り自ら言ふ、閩を外に爲すこと八年、金八十五斤を取付し、一袋を以て之に盛る、昨晚酔て同行と携へて此に到り浴す、浴罷みて月に乘じて行くこと三十里始めて金の見えざるを覺る。劉遂に擧ぐ之を還す。商數片を以て之を謝す。一も受る所なし。還るに及んで郷人愈々之を薄し、責むるに金を拾ひ生を營む能はずして復歸り來れるを以てす。答へて曰く吾平生の賦分、止々合に此の如くなるべし、若他人の物を掩ひ以て己の有と爲さば、是れ心を欺くなり、必ず禍災あらん、況んや商人辛勤して積む所、一旦に失ひ去る豈哀まざらむや、或は郷に歸ることを待たずして非命に死せんか、其害言ふに勝り可らざる者あらむ、吾是を以て之を還す、惟吾分に安んじ以て餘生を過さむのみと。郷人皆其義に嘆服す。後一舉登第し、官四京留守に至る。五十年間子

孫仕途にある者二十三人。

リウリジュン 劉運順 (明)字は復禮。杞縣の人。崇禎七年の進士。修撰より石隴堡に遷す。十七年李自成の難に死す。年六十三。詹事を贈り文正と諡す。清の世祖亦文烈と諡す。

リウリン 劉霖 (宋)昌州永川の人。後、瀘州に居り。宋瀘州安撫使海應春、判官李丁孫、推官唐季瑞を殺し、城を以て叛きて元に降る。霖、合州張玘に詣り、瀘を復せんことを許る。玘初め許さず。霖員を以て質とせんと願ふ。玘乃ち決す。軍行て城下に至る。夜四鼓先人を遣はして城に拂し、開學を斬つて城に入り、巷戦して應春を殺す。遂に瀘州を復す。廷、霖を以て知南平軍とす。卒に兵に死す。

リウリン 劉麟 (宋)豫の子。字は元瑞。豫に從うて金に降り齊の尙書右丞相となる。豫廢せられて後、仍ほ金に仕へて參知政事尙書左丞となる。卒する年六十四。

リウリン 劉崧 (元)字は剛着。安福の人。博く五經に通ず。元季地を泰和に遷く。學者之を師尊す。書經通會、詩經圖疏、海島集を著す。

リウリン 劉麟 (明)字は元瑞。本と安仁の人。世々南京廣濟衛副千戸なり。因て家す。積學にして文を能くす。順慶餘韻と江東三才子と稱せらる。弘治九年の進士。孝武世の三期に歷事す。致仕の後、一壺を儲き神機と名け、其中に高臥す。文徵明繪

圖して之を遺る。卒する年八十有七。太子少保を贈り靖惠と諡す。

リウリン 劉林 (明)太祖に仕へて涼州衛百戸を授けられ、涼州を成る。帖木兒の叛に戦死す。逸人之を壯とし、其所居の壘を劉林壘とす。後褒贈あり。

リウリン 劉綸 (清)字は春涵。號は繩菴。江蘇武進の人。乾隆丙辰の廩生。博學鴻詞科に由つて編修を授けられ、官文淵閣太學士加太子大保賜紫禁城騎馬に至り、太子太傅を贈らる。賢良祠に祀られ、文定と諡す。政府に在ること十年、劉統勳と相得たり。南劉北劉の稱あり。文章、六朝に浸淫し漢魏に根底す。詩は獨り高青邱を喜ぶ。いふ能く唐人の門に入ると。著に繩庵内外集あり。學者之を宗とす。

リウリンシ 劉麟之 (晉)字は遠民。一字は子驥。晉末紫桑令と作る。人多く紫桑翁を以て陶淵明となし、遠民を知らず。遠公の名徳、墓ひ、白首同社す。時又陶淵明、周續之、劉麟之を以て潯陽の三隱と爲す。桓温荆州にあり張元侍中たり、使して江陵に至り陽收付を經。俄に一人あり半小籠の生魚を持ち、徑ち來りて船に遺る。云ふ魚あり鱗を作らむと欲す。張乃ち舟を維ぎて之を納る、其姓氏を問へば、稱す是れ劉遠民と。張素より其名を聞かば、大に款待す。劉了に定意なし。既に鱗を進めて便ち去る。云ふ川に此魚を得君が船上を見るに鱗具あるに似たるのみと。麟之陽岐に隱る。桓

沖嘗て其家に至る。麟之方に桑を條す。沖既に駕を狂く。麟之曰く光臨先づ宜しく家君に詣るべしと。沖遂に其父に詣る。父麟之をして自ら瀟湘蕙菜を持し質に供へしむ。沖人に勅して之に代らしめんとす。父曰く官人を使ふが如きは則ち野人の意に非ざるなりと。家を去ること百里、孤獨あり、疾みて將に死せんすと。人に謂つて曰く劉長史當に我を埋むべしと。麟之之を聞きて爲に棺を治して瘞す。

リウリンホ 劉林甫 (唐)隋の世に人を選ぶに十月に集り春に至つて罷む。人其期の促るを思ふ。貞觀元年林甫吏部侍郎と爲り四時の毒を聽き、闕に隨て注擬せんと諡す。唐の初、士大夫離亂の後なるを以て仕進を樂まず、官員充たず、州府多く赤牒を以て官を補ふ。是に至つて皆省選に赴かしむ。集まる者七千餘、林甫才に隨つて詮序す、各其所を得たり。時人之を稱す。

リウリヤウ 劉梁 (漢)字は曼山。一名は崇。宗室の子孫。少より孤貧書を市に賣り以て自ら資す。常に世の利交多く、邪曲を以て相黨するを疾み、乃ち破群論を著して之を譏る。賢者以爲らく仲尼春秋を作りて亂臣懼るゝを知る、今此論の作、俗士豈心に愧ぢざらむやと。桓帝の時孝廉に擧げられ北新城長に除せらる。大に學校を立て生徒を聚むるもの數日人。朝夕自ら往いて勸戒し、時に經卷を執りて殿殿を試む。儒化大に化はれ、此邑永く其教を稱す。光和中



病て卒す。孫植も亦文才を以て著はる。

リウリヤウ 劉良

漢季王を見よ。 (南北朝)中山の人。本名は道徳。個體にして計略あり。四魏に仕へ都督を以て征西に從く功あり。廣興縣に封せらる。屢々策を陳す。宇文泰曰く卿文武兼資、孤が孔明なりと。乃ち亮と賜ふ。卒して太尉を附り、褒と諡す。

リウリヤウ 劉諒 (南北朝)孝綽の子。字は求信。晋代の故事洞悉す。誠して皮裏骨書と曰ふ。

リウリヤウ 劉龍光 (清)字は聖蕭。長州の諸生。父廷陽外に出て窮屋惡水の間に客死す。卒に福を奉りて以て歸る。

リウリヤウ 劉某 (殷)龍を擾るゝとを蒙龍氏に學ぶ。帝孔甲に事へ能く制し飲食せしむ。帝氏を賜ひ御龍と曰ふ。以て承車氏の後を更ふ。

リウレイ 劉伶 (晉)字は伯倫、沛國の人。容顏甚だ陋、放情肆志、悠悠忽々、形骸を土木にし、常に宇宙を納め萬物を齊うするを以て心と爲す。妄に交遊せず。阮籍常康と相善し、欣然として神解す。性尤も酒を嗜む。嘗て酒徳頌一篇を著す。東晉に仕へて建威將軍と爲る。嘗て鹿車に乗じ一壺酒を携へ人をして銜を荷ひ之に隨はしめて曰く、死せば便ち我を埋めよと。又嘗て酒を妻に求む。妻曰く君飲むこと太だ過たり、攝生の道に非らず。伶曰く當に神に醫つて醫つべしと。妻乃ち酒を具ふ。伶跪きて祝

して曰く、天劉伶を生じ、酒を以て名をなす、一飲一石、五斗醒を解す、婦人の言は慎んで聽くべからずと。酒を引き肉を御し、陶然として復醉ふ。伶縱酒放達、或は衣冠を脱し、裸形屋中に在り、人見て之を驚る。伶曰く我天地を以て棟宇を爲し屋室を以て褌衣と爲す、諸君何すれ我が褌中に入るかと。竹林七賢の一。

リウレイ 劉勰 (宋)字は用之。碭の弟。幼にして穎悟孝弟童子科に擧げらる。後學を朱熹に受く。黃幹と最も友とし善し。儒學を禁ずるに及びて志向愈厲し。年四十七にして卒す。

リウレイカン 劉伶 (南北朝)梁の孝綽の妹。徐悱の妻。孝綽の三妹並に才學あり。令嫺最幼なり。兄孝綽官を罷めて出てす。時を爲て其門に題して曰く、閉門罷履帛、高臥謝公卿と。嫺續て曰く、花落掃仍合、葉凋續復生と。文尤も清拔なり。

リウレイテツ 劉憲 (南北朝)字は文明。齊高帝建元元年、齊郡太守前軍將軍たり。諸母崔氏及び兄の子景煥、魏に獲らる。布衣を爲し樂を聽かず。父懷珍卒するに及び當に許を讓ぐべし、憲固辭するに兄子魏に在り存亡未だ測られず、越えて茅土に當るべきなきを以てす。朝廷之を義とす。

リウレイツ 劉烈 (明)正徳間、衆を聚め亂を作し、陝西漢中等を侵掠す。未だ幾ならずして亂兵に殺さる。

リウレン 劉璉 (明)基の長子。字は孟謙。少くして穎悟、文を善くす。翰林學士承旨に累官す。出て、廬州に知たり。璉三たび貢學を典どる。始めて策論を以て天下の士を升降す。眞宗の朝、文翰の選に屬する者、璉、楊億と名を齊す。

リウキン 劉航 (明)羽の子。字は汝中。年甫て八歳。憲宗其聰敏を愛して中書舍人とす。歷官五十年。嘉靖中、太常卿兼五經博士に至り、仍内閣に供事す。學行を以て聞ゆ。

リウキンサイ 劉九濟 (唐)登人。少して孤。母に事へて孝。父辭に工なり。王勃と名を齊す。進士に擧げられ左史に累遷す。弘文館に直し、著作佐郎修國史と爲る。鳳閣舍人、壽州刺史に遷る。清白を以て稱せらる。入つて修文館學士と爲る。

リウキンシヨウ 劉允升 (宋)名は階。字を以て行はる。建州の布衣。岳飛の遺はるを聞き、嗣に詣り上書して其冤を訟ふ。秦檜大に怒り棘土に下して論死す。

リウキンテキ 劉允迪 (宋)玉山の人。隆興の初、進士たり。德安縣に知たり。政を爲す、一に儒術を本とす。惠愛を以て民を得たり。居し義學を建て、以て子弟及び郷人の學を願ふ者に教授す。累官して朝奉郎參議沿海制置使軍事に至る。

リウキンブン 劉允文 (元)廣漢の人。工に佛像を善くす。

リウエツ 劉錫 (明)球の長子。進士に擧げられ、廣東參政に累擢す。

文行あり。洪武十年考功監丞試監察御史を授けらる。太祖常に大に用ひんと欲す。胡惟庸の黨の爲に脅かされ、非に墮ちて死す。于鷹。

リウレンセフ 劉連捷 (清)字は南雲。湖南湘鄉の人。同族劉騰鴻に從つて賊を武昌に討つ。江西瑞州に轉戦す。所在功あり。咸豐八年曾國荃に從つて吉安に克つ。同治三年江寧に克つ。光緒十三年病みて卒す。官布政使に至る。勇介と諡す。著、臨陳心法一卷あり。

リウレンノツマ 劉漢斐 (明)馬氏。十七にして寡なり。家貧にして勇其再適を利し、其志を奪はむと欲し、百計之を苦勞せしむ。風せず。又陰に沈氏の聘を入れ、抱持して沈が舟に納れしむ。須臾に風雨晦冥、雷舟を擊つ。沈懼れて舟を還す。事縣に聞す。縣別居せしめ官之を贈す。

リウロク 劉祿 (明)軍邱の人。嘉靖中、行人司より戶科給事中に擢てらる。同官と偕に嚴嵩を劾して廷杖を受け邊方に謫せらる。自ら免じ歸る。

リウクワン 劉瑄 (明)家を郷舉に起す。戶部主事。崇禎中、張獻忠の部將、衆を率ゐて奄ひ至る。瑄郷兵を率ゐて敗る。賊の來るこ益衆し。戰敗れて執はれ、風せずして死す。

リウキ 劉鯨 (漢)南郡妖賊の魁。桓帝の建和中、清河の劉文と結び共に清河王蒜を擁立せんとす。事露はれ誅せらる。

リウエツ子イ 劉曰寧 (明)字は幼安。南昌の人。萬曆十七年の進士。庶吉士より編修を歴、右中允に進む。嘗て六經四書を陳す。可とせらる。官禮部右侍郎協理詹事府に卒す。禮部尙書を贈る。天啓の初、文簡と諡す。

リウエン 劉淵 (晉)漢主(又前趙といふ)第一世。字は元海、新興匈奴人。其先匈奴冒頓に出づ。漢高祖宗女を以て冒頓に妻はせ約して兄弟と爲る故に其子孫姓劉氏を冒す。父豹左賢王たり魏武に屬す。魏武其衆を分けて五部と爲し、豹をして左部を帥らしむ。淵生れて英慧、好て春秋左氏傳孫吳の兵法を學ぶ。嘗て同門生に謂ふ、吾書を觀る毎に常に隨隨の武なく綠濯の文なきを鄙とす。二生高祖に遇ひ封侯の榮を建つる能はず、兩公太宗に屬して序序の美を開く能はず惜い哉と。遂に武事を學び、衆に妙絶す。狼臂善く射、臂力人に過ぐ、姿儀魁偉にして身の長八尺四寸、鬚の長さ三尺。豹卒して代て左部帥と爲る、太康の末に北部都尉に拜す。刑法を明にし姦邪を禁じ財を輕じ施を好み誠を推して物に接す、五部の僑傑至らざるものなく、幽冀の名儒、後門の秀士千里を遠しとせずして亦皆往く。後建威將軍五部大都督と爲り漢光輝侯に封せらる。晋惠帝政を失ひ寇盜蜂起す。淵が從祖劉宣等議して曰く我が先人漢と約して兄弟と爲り憂泰之を同うす。漢亡びてより以來魏晋代々々興り我單子虛誠ありと雖

リウエツ 劉錫 (明)球の長子。進士に擧げられ、廣東參政に累擢す。

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウエツ

リウキ 劉瑄 (金)字は德玉。咸平の人。幼にして警悟、進士に擧げらる。諸官を歴て明昌三年尙書右丞に拜せられ、明年卒す。安敏と諡す。人となり極めて心力あり、事に臨み同眼あり。

リウキ 劉煒 (元)山水人物を善く。馬驥に似たり。

リウキ 劉煒 (明)字は有融。慈谿の人。正統四年の進士。南京刑科給事中に除せらる。都給事中に擢つ。景泰天順の交、廣東參政に累進す。兩廣を征し、勞瘁を以て官に卒す。

リウキケン 劉惟謙 (明)何許の人を詳にせず。吳元年才學を以て之を擧ぐ。洪武の初、刑部尙書に歴官す。嘗て命を奉じて新律を詳定し、繁を刪り舊を損し、輕重宜を得たり。後事に坐して免す。

リウキシ 劉祿之 (唐)劉子翼の子。博學詞賦に習ふ。高宗召して弘文館に入らしめ密かに朝政に參與せしめ以て宰相の權を分つ。時人之を北門學士と云ふ。

リウキ 劉惟輔 (宋)涇州の人。熙河馬歩軍副總管となる。金人秦州を陷る。惟輔迎へ戦ふ、殺傷大なり。又其將黑龍を刺殺す。金人熙河を掠む。惟輔積粟を出し焚きて山中に匿る。金人の爲に執へらる。之を誘ふも言はず。害に遇ふ。張浚制を承け、昭化軍節度使を贈り、其子孫十二人を官にす。

リウキ 劉錫 (宋)字は子儀。大名の人。

リウキ 劉錫 (明)球の長子。進士に擧げられ、廣東參政に累擢す。

リウエツ



も復尺士の業なし、司馬氏骨肉相殘す、邦を興し業を復する此れ其時なり、左賢王委器絶人、幹字輔世、天若し軍手を恢崇せずんば終に虚しく此人を生せずと。密に共に推して大單于と爲す。二旬の間衆已に五萬、離石に都す。晋永興元年漢王の位に即き元熙と改元し、蜀の後主を追尊して孝懷皇帝と爲し、漢高祖以下三祖五宗の神主を立て、之を祭る。既にして河東平陽を降し、遂に皇帝の位に即く。在位六年、改元するもの三、光熙、永鳳、河瑞。諡して光文皇帝と爲し廟を高祖と號す。

リウエンゼン 劉淵然 (明) 順陽の人。祥符宮道士と爲る。太祖を高道館朝天宮と賜ふ。永樂間號を長春真人と賜ふ。請うて朝天宮に歸る。御製山水圖歌を以て之に賜ふ。卒する年八十二。七日を閉し殮す。端坐生るが如し。

リウワン 劉暉 (宋) 字は仲固。幹の弟。門蔭を以て入り仕へて三州を伴し二郡を典し皆政聲あり。後朝散大夫を以て致仕す。室を縣南に築く。亭臺花木の勝あり。日夕賦詠自ら帝嘗と號す。屏山、晦菴の諸名賢と多く酬唱す。

リエイ 李璵 (五代) 南唐第二世。初名は景通。昇の長子。立て二十年周の世宗師を興して南征す。南唐の軍額に敗る。豫江北の地を納れ臣と稱す。都を洪州に遷す。尋て租す。明道崇文宣孝皇帝と諡し、廟を元陵と號す。

リエイ 李英 (金) 字は子賢。明昌五年の進士第。吏部主事、工部員外郎等を歴。後ち權を督して大名に至り、元兵に霸州に遇ひ、大に敗れて死す。

リエイ 李英 (明) 四番の人。父南哥、洪武中、來歸す。四寧衛指揮僉事に累進す。英官を嗣ぎ、永樂中、都指揮僉事に進む。尋て右府左都督に擢てられ會寧伯に封せらる。正統二年卒す。子昶。

リエイキ 李永奇 (宋) 青澗の人。唐以來蘇尾九族巡檢を世襲す。金人延安を陥る、永奇及其子顯忠に官を授く。奇泣て曰く、我宋臣なり、乃ち彼用を爲さんやと。劉崇顯忠をして兵を率めて沛に赴かしむるに會ふ。永奇密に戒て曰く、機に乗するを得ば即本朝に歸せよ、我が故を以て其志を成する毋れと。機に乗するに及び、金、顯忠に知同州を授く。計を以て金帥撒里を執へ、急に入を遣はし永奇に告げ、家を挈へて城を出てしむ。金人に及ばれ家屬二百口皆害に遇ひ、顯忠夏に奔る。

リエイシヤウ 李永昌 (明) 字は周生。休寧人。書畫を善くす。董思白と名を齊うす。

リエイチン 李永年 (宋) 錢塘の人。李嵩の姪。畫に工なり。

リエイハウ 李榮保 (清) 姓は高察氏。滿州鎮黃旗人。米翰の子。初め一等男を襲ひ、乾隆の朝、一等公に追封せられ壯烈と諡す。

リエウ 李鏞 (唐) 建中間、縉雲令と爲り、政聲あり。孝婦陶氏あり、姑を養ひ、土を

負ひ墳を成し、一哭三絶す。鏞爲めに碣を立て、陸羽に請て文を撰びて之を表す。其重する所を知る此の如し。

リエウケイ 李幼卿 (唐) 字は長夫。大歴間右庶子を以て潯州に守たり。義興の玉潭に於て自ら山居を作り、号して蒙溪幽居と曰ふ。獨狐及と往來唱酬す。時に杜牧之また云ふ、李侍郎、陽羨里に於て、富、泉石あり、僕陽羨里に於て粗は薄産ありと。詩を作りて蓄を述べ懷を叙す。

リエウレン 李幼廉 (南北) 高邑の人。幼時、人故らに金寶を以て之に授けしも取らず。州牧其の幼にして廉なるを以て故に名づく。北齊に仕へて數州の守を歴、所在稱せらる。出て南齊州刺史となる。卒して吏部尚書を贈らる。

リエキ 李益 (唐) 詩に長し李賀と相酬ゆ。一篇成る毎に樂工争て之を求む。征人早行篇等に至ては天下皆之を繪圖に施す。後才を買み物に徹る、集賢學士を以て坐して貶せらる。

リエキ 李憚 (五代) 京兆の人。進士に擧げられ後唐の翰林學士と爲る。時に請て學士院に下し、詩賦を作りて貢舉の格を爲らんとする者あり、憚曰く後生畏るべし、豈能く英俊と準格を爲さむと。聞く者其の休を知るを多とす。後、刑部尚書に遷り洛陽を分司す。

リエキ 李緯 (宋) 字は縉之。若拙の子。京兆萬年の人。幼に謹愼。自脩して進士第

に登り、兵部郎中に累遷す。江淮發運使に遷る。絹五十萬匹を内出し、資を東南に賣む。釋曰く百姓饑す、重いて授すべからずと。輒奏して之を罷む。甫て半歲、漕課常歲に視ぶれば五の一を増す。大常少卿に遷り、再び廷州に知たり。釋至る所、頗る治るを稱す。

リエキ 李益 (元) 渭州の人。工に人物を蓄く。

リエツクワウ 李開光 (宋) 紹興中、大政に參す。秦檜と議論合はずして瓊州に謫せらる。胡銓と海外に唱和す。其吏隱堂の詩に云ふ、旋移松竹成巖壑、時引笙歌入醉鄉、吏散簾垂公事畢、清風一榻傲羲皇。

リエツツ 李開祖 (宋) 字は守約。光澤の人。父呂、澠州と號す。朱熹と友たり。開祖篤志精思、熹之を家塾に留め、三子に命し從て事へしむ。爲に中庸或問輯要を編す。嘉定の進士に登り臨桂簿と爲る。仲弟相祖、季弟壯祖。

リエン 李弁 (宋) 字は季純。崇安の人。紹興八年進士に第し、汀の連城に宰たり。政務寛平、教ふるに孝友を以てす。人欺くに忍びず。伍氏兄弟あり、繼々争うて連年決せず。弁理を以て開諭す、皆感動して出づ。時人之が爲に諱つて曰、訟者息争、居者安仁、季公爲政、百里如春と。

リエン 李演 (金) 字は巨川。任城の人。泰和六年進士第一たり。應奉翰林文學となる。濟州の破る、や元兵に執はる。元將其

の名を知り撫するに好語を以てし、之に官祿を許す。釋かすして殺さる。年三十餘。

リエンシ 李瑛之 (南北) 字は景珍。狄道の人。少くして神童と稱せらる。書に於て讀ざる所なし、朝廷の大典、多く踏訪す。毎に云ふ、崔は博にして精ならず、劉は精にして博ならず、我既に精にして且つ博し、二子を兼ね可しと。崔劉は崔光劉芳を謂ふ。官大司徒に至る。

リエンジウ 李延壽 (唐) 字は遐齡。相州の人。仕て崇文館學士に至る。嘗て父の志を追述し、南北史一百八十卷を作り之を上る。又太宗政典を撰ぶ。高宗之を觀て嘆美し、直筆を以て帛を賜ひ、之を褒す。

リエンチン 李延年 (漢) 武帝の時の人。音律を善くするを以て知らる。其女弟宮に入りて寵せらる。

リオウシヤウ 李應祥 (明) 湖廣九谿衛の人。武生を以て軍に従ひ、功を積み廣西參軍に至る。楊柳番叛き、勢甚猖獗なり。應祥軍中に令して赤白の幟を樹てしめ、瓦民の賊に陷る者は赤幟の下に立たしめ、熟番の賊に附く者は白幟の下に立たしむ。即ち罪を免す。賊魁三十餘人を擒す。群番震驚、敢て邊患を爲さず。尋て官に卒す。左都督を贈る。應祥謀勇兼備、功諸將に最たり。

リオウシヨウ 李應昇 (明) 字は仲遠。江陰の人。萬曆末の進士。南康推官と除せらる。士民其公廉と服す。天啓間、御史に拜す。上疏して時政の失を言ふもの前後凡十

數。權臣其剛介を惡み、東林の黨と目して籍を削る。魏忠賢の怒猶已まず、詔獄に下す。獄三千に坐して酷掠に遇ひて斃る。年三十四。崇禎の初、太僕卿を贈る。福王の時忠毅と諡す。

リカ 李賀 (唐) 字は長吉。七歳にして辭草を能くす。鼻前滯、韓愈、其家を通き之をして詩を賦せしむ。筆を授て立ところになる。毎且出るに弱馬に騎し、小奚童をして古錦囊を背にし後に隨はしむ。作る所あれば輒ち其中に投す。暮に歸る。母靈を探り書する所の多を見、即ち怒て曰く、是の兒心肝を嘔出して乃已まんぞ、憲宗の朝、協律郎と爲る。一日晝、緋衣の人、赤虬に駕し一板書を持するを見る。云ふ上帝白玉權を成す、君を召し記を作らしむと。賀告るに母老て且つ病むを以て去るを願はざるを以てす。緋衣の人曰く、天上殊に樂しくして苦しからずと。賀泣下り襟を沾す、遂に卒す。時に年二十七。

リカイ 李潛 (金) 字は公度。相州の人。行書を能くし、山水を善く。

リカイ 李楷 (明) 中の族人。舉人より湯溪知縣に除せらる。後ち晉田に補せられ、倭寇を防ぎ功あり。知昌樂に進む。治行を以て聞ゆ。

リカイ 李介 (明) 字は守貞。高密の人。成化五年の進士。庶吉士より河南道事を歴。上書して時政數事を陳し、多く採用せらる。介政言、事の不可なるに遇へば同列を率ひ



論奏す。帝の意に忤ふこと再三。累擢せられて兵部侍郎兼左倉部御史に至る。先便宜二十事を條上す。卒して尙書を贈る。

リカイ 李楷 (清)字は叔則。一字は岸翁。舉人より寶應令たり。直を以て廢せらる。古賦を善くし、文機茂なり。著書百卷、文名一時に冠たり。人、河濱夫子と稱す。

リカイ 李鑑 (清)字は鐵君。多山人と号す。妻と偕に盤山に隱る。性若欲を嗜み、山谷幽邃の處に遇へば、轍ち葉を焚き泉を烹、竟日返るを忘る。見者曰く、此れ李山人の茶烟なりと。詩、古尊峭削、自ら門徑を闢く。高き者け杜少陵に胎源し、次なるもの孟東野に近し。著に含中集あり。

リカイ 李又 (唐)字は尙眞。趙州房子の人。人と爲り沈正方雅。監察御史と爲る。時に使を江南に遣はし、庫貨を發して賄生せしむ。又上疏して諫て曰く、其物を拯ふより民を優にするに若くは莫しと。後、吏部侍郎に進む。請謁行はれず。時人語て曰く、李下賤徑無しと。兄尙一、尙正、俱に文章を以て名あり。所著詩文共に一集と爲し花萼集と號す。

リカイ 李鑑 (清)字は公凱。順治十八年の進士。康熙乙未博學鴻詞科に召試せられ、編修り内閣學士に累官す。著に史斷、讀書雜述、懷庵集あり。

リカイ 李開先 (明)崇禎十六年、李自成襄陽に據る。使を遣はして之を激しむ。開先自ら賦らして大に罵り頭を牆に觸

れて死す。

リカイハウ 李開芳 (清)賊を爲して州縣を陷る。咸豐四年擒誅せらる。

リカイウ 李衛 (三國)武陵の人。建興間、丹陽太守と爲る。安遠將軍を加ふ。毎に産業を理めむと欲す。妻習氏許さず。衛密に人を龍陽に遣はし、橘千株を種みしむ。終に臨み其子に謂て曰く、汝が母吾家を營するを惡む、故に家貧なる此の如し、吾汜州に於て橘を種う、乃ち千頭の木奴汝の衣食を費やさずと。

リカイウ 李昂 (晉)西涼第一世。字は玄盛。隴西成紀の人。初め北涼王段業に事へ、敦煌太守と爲る。晉の隆安四年自ら涼公と稱し、熾燾酒泉に依る。昂又學に通じ述作頗る多し。在位十八年、武昭王と諡し廟を太祖と號す。

リカウ 李嗣 (唐)字は習之。趙郡の人。文章當時に推さる。進士の第に中り、元和の初、國子博士史館修撰となる。性峭鯁、嘗て宰相李逢吉の過を面折す。出て、蘆州刺史となり、後諫議大夫に拜す。卒して文と諡す。文集あり。

リカウ 李綱 (唐)高祖、舞胡安叱奴を以て散騎常侍と爲んと欲す。綱曰く、占者樂工は士を備ひせす、今天下新に定り、建義の功臣、行實未だ盡ならず、高才碩學、猶ほ卿寮に滯る、而して先づ舞胡を擢て五品と爲し、玉を鳴らし組を曳き、彫廟に趨翔せしむること後世に規模する所以に非すと。

稱首と爲る。卒して文靖と諡す。大尉中書令を贈らる。著す所五代史註三十卷あり。

リカウ 李綱 (宋)字は伯紀。政和二年進士に第す。宣和の初、起居郎と爲る。忽ち京城大水あり、綱言ふ此夷狄兵戎の象と。坐して謫せらる。召還せらる、とき適く金人來侵す。徽宗其言に因り、遂に決して位を欲宗と傳ふ。方に地を割くを議す、綱言ふ死を以て守るべしと。兵部侍郎に除せらる。靖康元年金兵河を渡る。率執議して欽宗に襄鄆に幸するを請ふ。綱力めて城を守らんことを請ふ。遂に綱を以て親征行營使を兼ねしむ。屢金兵を城下し却く、重圍既に解け廷臣地を割き和を講ずるの説を争ふ。綱師を出して遊撃の策を敷陳す。以へらく必勝期すべし、其再至は憂ふ可からずと。是に由て再び謫せらる。高宗立ち、首に召されて相と爲る。慨然として政事を脩め、夷狄を攘ふを以て己が任と爲す。借逆を誅し、經制を定め、民力を寛くし、士風を變じ、下情を通じ、弊政を改め、兵を招き馬を買ひ、財賦を整理し、要害を分布し、城壁を繕治す。張所をして河北を撫し、傅亮をして河東を收め、宗澤をして京城を守らしめ、四は關陝を顧み、南は樊鄆を畫め、且將に形便に據り以て中原を守り二帝を還すの計を爲す。位に在ること竟に七十餘日、親文殿學士を以て政事を罷む。後、潭州洪州福州を撫知す。事に因て獻言す。率皆天を畏れ民を恤み、自護自治の意にして、深く

後ち元吉、劉武周に破らる。高祖其相寶誼、宇文歆を斬らんと欲す。綱曰く、王年少にして驕逸、誼嘗て規諫なし、今日の敗は誼の罪なり、歆王を諫む、悛めず、尋で亦開矣す、乃忠臣なり、豈殺べけんやと。帝悦び綱を引て御坐に升せて曰く、朕公を得て濫刑なし、元吉自ら不善を爲す、二人の能く禁する所に非ざるなりと。太子少保に遷る。太子建成漸く小人を昵近す。綱屢々諫む。聽かず。骸骨を乞て歸る。帝驚て曰く、卿向き入潘仁の長史と爲る、乃ち朕の尙書と爲るを耻るか。綱曰く潘仁は賊なり、妄に諫臣を殺さんと欲す、則ち其長史と爲る、以て愧なかる可し、陛下は創業の明主、臣の言は水に石を投する如し、太子に於ても亦然り、臣何ぞ敢て久く天聽を汚し、東朝を辱しめん乎。帝曰く空の直士なるを知る、以て吾兒を勉輔すべしと。綱始て職に就く。

リカウ 李郊 (五代)梁の太祖の時に方り、張彥瑒等と汴宋の間を盜却す。遂に殺さる。

リカウ 李沆 (宋)字は太初。太原の人。炳の子。太宗の時進士に登り、右補門知制誥と爲る。上嘗て其風範端凝を稱す。眞宗の朝、日に四方の水旱盜賊を取て之を奏す。王且以謂らく細事帝聽を煩はすに足らずと。沆曰く、人主年少、當に四方の艱難を知らしむべし、然らざれば血氣方剛にして、意を聲色犬馬に留めざれば、則ち土木甲兵譟の事作らん、吾老いたり見るに及ばず、此れ參政他日の憂なりと。遂準始め

議和退避を以て非策と爲す。卒する年五十八。太師を累贈し忠定と諡す。易傳内篇十卷外篇十二卷論語詳說十卷詩文奏議日餘卷あり。

リカウ 李康 (元)字は寧之。桐廬の人。母に事へて至孝。人李孝子と稱す。詩文に工に、書畫琴奕、世に冠絶す。辟召皆就かず。著す所の詩文若干卷あり。

リカウ 李杲 (元)字は明之。東垣と號す。眞定鎮州の人。博聞強記。醫書を學び其秘を得。醫書若干編あり。東垣十書と號す。一代の儒醫と爲す。

リカウ 李行 (明)字は止仲。吳縣の人。父に従ひ藥を徐翁の家に賣る。翁授るに論語を以てす。一日にして語を成す。之れを奇とし悉く家書を讀ましむ。遂に經史百家言に通す。洪武の初、學校師と爲る。已にして謝し去る。其二子京に役す。往きて之を視、涼國公監玉の家を館す。玉、太祖に薦む。玉誅せられ父子亦坐して死す。

リカウ 李綱 (明)字は廷張。長清の人。天順元年の進士。御史を授けらる、太僕少卿に歷進す。成化中、左倉部御史に轉す。年か踰えて卒す。

リカウウ 李廣雲 (清)字は生甫。許齊と號す。江蘇嘉定の人。乾隆五十四年の進士、浙江孝豐縣に知たり。布政使に累官す。性廉正、散衣蔬食。監司に任ぜられて寒士に異るなし。縣令より藩縣に至り、所在成な惠政あり。

丁謂と善し、準、謂を沈に薦む。沈用ひず。準曰く謂の如き者、相公終に能く之を抑へて人の下と爲すや。沈曰く後日悔あり、嘗に吾言を思ふべしと。沈嘗て曰く、重位に居て補ひ無く、惟中外陳する所の利害、一切報罷、少しく以て國を報するのみと。沈嘗て論語を讀む。或は之を問ふ。沈曰く、沈宰相と爲り、論語中の用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てするの如きすら尙未たり能はず、聖人の言、終身之を誦して可なりと。沈性直諫、内行脩謹、位に居て愷密、聲譽を求めず、法度に違ひ大體を識る。人能く干すに私を以てする莫し。公より退き、終日危坐し未嘗て跛倚せず。帝一夕使を遣はし手詔を持し劉美人を以て貴妃と爲んと欲す。沈使者に對し、嬪を引き詔を焚き附奏して曰く、但道へ臣沈以て不可と爲すと。其請遂に廢む。帝嘗て沈の密裝なきを以て之れを謂て曰く、人皆密啓あり、卿獨り無きは何ぞや。沈曰く臣罪を宰相に待つ、公事は則之を公言す、何ぞ密啓を用ひん、人臣密啓ある者は、讒に非ざれば即佞なり、臣常に之を惡む、豈尤に效ふ可けんやと。嘗て第を封丘内に治む。驪事前僅に馬を施らすべし。或は其太だ盛きを言ふ。沈笑て曰く、居第は子孫に傳ふべし、此宰相の慶事と爲せば誠に盛し、太祝奉禮の慶事と爲せば己に寛しと。張詠曰く、吾が榜中、人を得る最多し、謹重推望は李沈に如くはなしと。故に宋初大臣の體を得る者沈

リカウ



リカウカン 李行簡 (宋)字は易從。同州の人。少くして苦學し石に坐して六經を誦し、常に夜分に至る。寒暑と雖も渝へず又木葉を聚めて書を學ぶ。筆法遒勁なり。進士に擧られ登第す。累擢して龍圖閣待制に至る。眞宗數々閣に幸して易を講せしめ、因て大臣得失を問ふ。行簡必其所長を稱す。人以此長者と爲す。仁宗即位して給事中に進む。疾を以て外を求め、河中府に知たり。虢州に徙りて卒す。年七十一。集あり二十卷。行簡端重安りに交はらず。一介も諸人に取らず。突を善すと雖も人知る者無し。諸子冠帯に非ざれば敢て見る莫し。聚書萬卷。其自録多し。人々を書樓と謂ふ。

リカウキ 李孝基 (宋)字は伯治。趙の孫。東之子。進士に擧らる。晏殊富弼其材を薦め館閣に任ず。之を一見せんとす。孝基曰く、名器は私謁すべけんやと。竟に往かず。孝基始め登第す。唱名に仁宗侍臣を顧て曰く、此れ李趙の孫邪、能く其家を世々にす、尙ふべしと。數州を歴知し、治皆異績あり。雄丘を知し、閩州に判たり、舒州隨州を知す。至る所劇事來ると雖ども亟かに斷つ、證左の爲めに曲枉を佐けず。光祿卿に累官し、父東之と同く事を謝す。人以て二疏に比す。

リカウキヨウ 李孝恭 (唐)少くして沈敏として識量あり。高祖已に京師を定め、山陽招慰大使に拜せらる。巴蜀を徇へりめ三十餘州を下す。進て朱榮を撃ち之を獲。詰

將之を坑せむと請ふ。孝恭曰く、今列城皆寇なり、若し獲れば則ち殺さば、後降者あらんやと。悉く之を縱す。是に因て至る所輒ち下る。又李靖と蕭銑を撃ち之を破る。帝悦び荊州大總管に遷す。詔して銑を破る状を圖して進めしむ。輔公祐反して壽陽に寇す。孝恭に詔し行軍元帥と爲し之を討す。公祐丹陽を棄て走る。孝恭追て擒にす。江南平く。貞觀の初、禮部尚書と爲り、河間王に改まり薨す。隋亡び盜賊天下に徧し。皆太宗自ら討定し、謀臣驍將並に麾下に隸し、特將軍勳の者なし。惟孝恭のみ獨り方面の功あり。

リカウクワウ 李孝光 (元)字は季祖。温州樂清の人。鳳陽山に隱居す。孝經圖說を進む。順帝大に悦ぶ。秘書監丞に終はる。孝光文章を以て重名を負ふ。文集二十卷。鳳山十記一卷あり。

リカウゲン 李行言 (唐)宣宗の時、海州刺史と爲る。是より先、上苑北に獵す。樵夫に遇ひ其縣を問ふ。曰く涇陽の人なりと。令を誦と爲す。曰く李行言なり。政を爲す何如。曰く性驚強、盜賊あり軍家に匿る、之を索むるに竟に與へず、盡く之を殺すと。上歸り其名を殺殿の柱に帖す。是月海州刺史に除せらる。入謝す。上之に金紫を賜ひ、問て曰く卿紫を衣る所以を知る乎。對て曰く知らずと。上命じて殿柱の帖を取り之に示す。

リカウシヨウ 李孝稱 (宋)及之の子。大

理少刺と爲り、賦空しと稱す。工部尚書に至る。

リカウセン 李孝先 (宋)含章の孫。陸を以て虞部員外郎に累官し、池杭二州に通判たり。力學好修、交はる所、李太白、楊次公が輩の如き皆當世の名士なり。柯山集十卷あり。

リカウノツマ 李昂妻 (明)仁和の人。陳氏。都御史李昂の妻。往典に通達し、時務に諳練す。晚年詩に工に、著作甚多し。詩四卷あり。

リカウヒ 李康妃 (明)光宗の選侍。時に宮中二李選侍あり、人東西李と稱す。康妃は西李なり。嘗て熹宗及び莊烈帝を撫視す。光宗不豫なり、封じて皇貴妃と爲す。帝崩す。乾清宮に居り、外議其政を聽くを欲するを疑ひ恠懼す。後ち移て仁壽殿に居り。尋て封せられて康妃と爲る。

リカウブン 李好文 (元)字は惟中。開州東明の人。太常博士に除せらる。太常集を上る。中外に頒示す。順帝の時、翰林學士承旨に遷る。年を引き致仕を乞ふ。仍て一品の祿を給し身を終へしむ。

リカク 李正 (唐)字は待價。甫めて冠し、明經に擧らる。李絳之を見て曰く、日角殊庭、庸人の相に非ず、明經祿、子の宜しき所に非ずと。乃ち進士に擧り高第す。穆宗の朝、侍御史に除す。宰相韋處厚之を稱して曰く、君は清廟の器、豈博擊の才ならんやと。後ち開成中相に拜す。文宗詩學士

を置かんと欲す。臣曰く詩人浮薄理に益無しと。後ち太子を立るを以て官官と合はす遂に政を致して歸る。

リカク 李革 (金)字は君美。河津の人。大定二十五年登第す。諸官を歴、興定元年知平陽府事兼河東南路兵馬都總官に改む。平陽破るもや自殺す。

リカクソン 李學遜 (宋)綱九世の孫。博學洽聞。天文を善くし、尤も易に達し。文を爲る典雅、人其片言隻字を得るれば實として之を藏す。著す所、易精中星儀象等の圖あり。

リカクヒ 李格非 (宋)字は文叔。濟南の人。進士に擧られ、累官して禮部員外郎と爲る。嘗て洛陽名園記を著す。謂ふ洛陽の盛衰天下治亂の候なりと。其後洛陽、金人に陥る。人以此知言と爲す。格非辭章に工なり。嘗言ふ文術も作る可からず、誠著はれざれば則工なる能はずと。

リカクヒノツマ 李格非妻 (宋)王氏。拱辰孫の女。字は清照。易安居士と號す。文を能くす。

リカトウ 李可登 (明)字は思善。輝縣の人。弘治の末、鄉薦を以て兵部に官たり。慷慨にして忠義を以て自許す。世宗に事(司務に除せらる。大禮を極諫し、杖せられて死す。穆宗位を嗣ぎ、寺丞を贈る。

リカン 李取 (漢)隴西の人。廣の子。校尉を以て征に従ひ、匈奴右賢王の旗鼓を奪ひ、斬首最も多し。爵關内侯を賜ふ。衛青

其父を殺すを怨み、撃ちて背を傷く。後、帝に従ひて甘泉に獵す。青の甥霍去病、亦た帝に従ひて獵す。政の背を傷くるを惡み、遂に之を射殺す。

リカン 李威 (漢)大鴻臚より大尉に拜せらる。相位に在りて身を約かにし下を率う、常食は粟飯糲菜のみ。刺史二千石、賤記公事に非ずんば省せず。骸骨を乞ひ許されて還る。賜はる所の物を繫牛車に乗せて去る。

リカン 李堪 (漢)中平中、潼關を據る。蒲阪渡の役、敗れて擒斬せらる。

リカン 李漢 (唐)字は南紀。少うして韓愈に事へ古學に通ず。屬詞雄偉。人となり剛にして略は愈に類す。愈愛重し、女を以て之に妻はす。進士第に擢てられ左拾遺に遷る。唐の敬宗、宮室を侈す。鮑買沉香の亭材を獻す、帝之を受く。漢諫めて曰、沉香を以て亭となす、何ぞ瑤台瓊室に異ならむやと。

リカン 李戡 (唐)字は定臣。渤海敬王七世の孫。幼にして孤、年十歳學を好み、新を授ひ自變く、夜膏燃し、默して所記を念ふ。年三十六明經を以て進士に擧られ禮部の試に就く。吏名を唱へ乃ち入る。戡之を耻ぢ徑に江東に返り、陽羨に隱る。里人闘争決せざる者、官に之かざして悉く戡に詣り以て辯す。嘗て詩の古に類する者を集め、元白の失を論ると云ふ。

リカン 李甘 (唐)字は和鼎。進士に第し

賢良方正異等に擧られ、侍御史に擢つ。鄭注宰相を求む。甘曰く鄭注何人ぞ宰相を得んと欲する、白麻出ては我必ず之を壞らんとと。

リカン 李滌 (遼)家世、宋に仕ふ。太宗汗に入り、來降す。世宗の時翰林學士を授けらる。穆宗の朝、通れて汗に歸らんと欲し派に至る。追得せられて南京に送らる。自殺せむと欲する者數たび。帝怒り之を殺さむとす。高勳諫救す。帝怒稍々解く。因て奉國寺に築錫す。凡六年艱苦萬狀。後ち上、太宗の功德碑を建てむと欲す。高勳諫す、滌にあらざれば筆を乘る者なしと。詔して之に従ふ。文成り以て進む。上悦び因を釋す。尋で禮部尚書宣政殿學士を加ふ。其遺文編を丁年集と曰ふ。

リカン 李衍 (元)字は仲實。蘄江の人。工に竹石枯槎を畫く。初め王澐游を學び、繼で文湖州を學ぶ。着色は李頗を師とす。落筆皆神趣あり、其手蹟を得るものは奇珍を得るが如し。時に尊重せらる。文簡公と號す。

リカン 李簡 (元)字は蒙齋。信都の人。憲宗九年、泰安州通判に官す。學易記九卷を著す。

リカン 李侃 (明)字は希正。東安の人。正統七年の進士。戶科給事中を授く。景泰天順の交、右倉部御史に歷遷す。憂歸して復出てす。家居十餘年にして卒す。二子德恢、德仁。



リカンクワ 李固和 (元) 衛に工也佛像十王を畫く。

リカンケイ 李漢卿 (金) 東平人。工に草蟲を畫く。

リカンシ 李罕之 (五代) 陳州項城の人。人さ爲り驍勇。少とき讀書を學び成らず。去つて僧となる。無賴を以て皆容れられず。行きて食を市に乞ふ。皆與へず。去つて盜と爲る。會黃巢起る。往て之に投ず。巢もなく梁に歸し晉に往く。復梁に降り疾を以て死す。子順。

リカンシ 李東之 (宋) 字は公明。趙の長子。典故に曉し。進士を賜ひ、龍圖閣直學士に累官し、太子大保を以て致仕す。子季基。

リカンシン 李翰臣 (明) 大同の人。正徳三年の進士。官御史。山東を巡按し、吏部主事梁穀、歸善王當溷謀叛すと誣ふ。翰臣穀が私を扶むを劾す。近侍方に功を遊へんと欲し、翰臣を以て叛人の爲に掩飾すとなし、詔獄に逮繫し、德州判官に謫す。山東副使に終ふ。

リカンシヤウ 李含章 (宋) 少くして上山に隱居す。學を好み文詞を工にし、器度深重。其夕に遇ふことに輒ち箴箴を吹いて吟嘯自若たり。識者之れを異とす。宋太平興國中、進士上第に擢てらる。嘗て戸部に列たり、度支歳計克く美れり。奏して膳道の供輸を免すること一年。尋て外洋に謫せらる。尋で本州に知たり。政簡易を崇び、訟

引去る。縣卒に完し。節度使其忠烈を表し號して楊烈婦と曰ふ。

リカンテウ 李漢超 (宋) 太祖の時、關南兵馬都監と爲る。漢超至る、關南の民其強て已女を娶りて妾と爲し、及び民錢を貸りて償はずと訟ふる者あり。帝召して謂て曰く、汝の女何人に適く可き。曰く農家。又問ふ漢超未だ關南に至らざる時、契丹何如。對て曰く歳々侵暴に苦しむ。曰く今復爾邪。對て曰く無。帝曰く漢超は朕の貴臣、汝の女之が妾と爲るは猶農婦に愈らずや、漢超關南に在らずんば汝が家尙能く其所有の貨財を保たんやと。其人を責て之を遣はし、密に漢超に諭さしめて曰く、亟かに其女及び貨る所を還せ、若し用足らざれば何ぞ朕に告ざると。漢超感泣、是に由て益政理を脩む。齊州吏民之を愛す。

リカンツマ 李侃妻 (唐) 楊氏。建中の末、李希烈、陳州を襲ふ。侃項城令と爲る。敵せざるを以て逃れ去らむと欲す。婦曰く守力足らざれば死せんのみ、君にして逃れば誰れか之を守らんと。侃乃ち吏民を召し死守を謀る、衆號泣命を奉ず。婦自ら鑿き以て衆に享す。侃流矢に中り家に還る。婦責めて曰く君在らざれば、人誰か肯て守らむ、外に死するは猶ほ牀に愈ると。侃遽に城に登る。會々賊將矢に中り死す。遂に

引去る。縣卒に完し。節度使其忠烈を表し號して楊烈婦と曰ふ。 麗娘 (周) 麗戎の女。晋の獻公驪戎を伐らて之に克ち、麗娘を獲て歸り、之を嬖して奚齊、卓子の二子を生ましむ。是より先獻公の夫人齊姜太子申生を遺して死す。麗娘奚齊を立てんを欲して獻公を惑亂し、太子を誣して之を殺し、群公子を逐ひて以て奚齊を立つ。獻公卒するに及びて奚齊立つ。太傅里克之を殺す。卓子立つ。又之を殺す。麗娘亦頼たれて死す。

リキ 李焘 (漢) 字は季和。銅鞮の人。嘗て管寧と同じく微さる。赴かず。靈帝の朝強て之を起す。問うて曰く、昔先君に辭して今孤召に應ずるは何ぞや。曰く先君禮を以て待つ、臣禮を以て自處するを得、陛下法を以て臣を繩す、臣故に法を畏て至ると。帝甚之を重す。中丞に官し抗言正色、羸粟を畏れず。俸入悉く親故に周す。居る所は僅に風雨を蔽ふのみ。

リキ 李焘 (明) 字は誠伯。繪畫を見れば職を慕ふ。百物像貌と雖とも曲盡せざるなし。 李義 (晋) 鄆縣の人。時に盜あり荆湖に起る、義家貨を傾け兵器を市ひ、縣人を率ひ擊て之を破る。圍境以て安し。荊州の牧陶侃召して麾下に至らしめ、兵を分つて賊と戦はしむ、屢々功あり。事平らぎて旌賞甚だ厚し。郷民祠を故居に立て、其の地を號して太尉原といふ。

リキ 李焘 (明) 字は子燾。三水の人。萬曆三十八年の進士。南京御史給事中に擢拜す。泰昌の初、時政の七事を陳す。中官に忌憚せらる。指して東林黨と爲う。未幾はくならずして卒す。 李育甫 (唐) 涇陽の子。育甫初め隱居に耽せられ、明州長史と爲る。德宗の朝に及び、隨州に貶せらる。時に吉

リキ 李焘 (明) 字は誠伯。繪畫を見れば職を慕ふ。百物像貌と雖とも曲盡せざるなし。 李義 (晋) 鄆縣の人。時に盜あり荆湖に起る、義家貨を傾け兵器を市ひ、縣人を率ひ擊て之を破る。圍境以て安し。荊州の牧陶侃召して麾下に至らしめ、兵を分つて賊と戦はしむ、屢々功あり。事平らぎて旌賞甚だ厚し。郷民祠を故居に立て、其の地を號して太尉原といふ。

響敏にして文章を善くす。乾元中、禮部侍郎に進み、中書侍郎同平章事に拜す。撰風儀に美に對し善し。帝曰はく卿は門戸第一の人物、文章當世の第一、眞に朝廷の羽翼と。故に時人頭々第一の說あり。德宗の朝、盧杞之を惡み、吐蕃に入らしむ。撰上に言て曰く臣遠行を憚らず、恐らくは道路に死せば詔命を達する能はずと。上之が爲めに惻然たり。至るに及んで諸酋長曰く唐第一の人李煥公ありと聞く、是なるや否やと。撰其留められんを畏れ、因て給て曰く彼李煥安ぞ肯て來らんと。還て鳳翔に至て卒す。東都に居り杜司徒と語り、事々第一に及ぶ。撰曰く若し門戸を道へば、門自ら承る所あり、官職は遺遇のみ、今形骸凋瘵、看即ち世に下る、一切空と爲る、何の第一か之あらんと。

リキ 李頎 (唐) 東川の人。開元十三年買季隣の榜の進士、新羅縣尉に調せらる。詩集あり、世に傳はる。論者謂ふ律詩高適と並馳し未先後を論ぜず、皆萬世の法程と爲すに足ると。

リキ 李嶠 (唐) 淄川王季同の孫。父の蔭を以て官たり。貞元の初、東遷して宗正少卿に至る。恩を特み驚横なり。久安の計をなし、竊に兵を募り甲を蓄ふ。遂に叛を謀り、子師回と共に腰斬せらる。

リキ 李琪 (五代) 字は台秀。燉煌の人。進士に擧げらる。即學安同。梁に仕へて翰林學士たり。梁兵四方を征伐するや詔書皆

琪の撰する所、筆を下せば輒ち太祖の意を得。梁亡びて唐に仕へ、累官して右僕射に至る。琪少くして文章を以て名を知らる。既に貴く乃ち牙版を刻し金字を爲りて前朝賢進士李琪といひ、常に坐側に置く。

リキ 李頎 (五代) 陳州項城の人。父望之と梁に仕ふ。既にして晋に歸し遂に唐に入る。天福中年七十にして卒す。

リキ 李燾 (宋) 字は師和。邵武の人。經書一覽すれば乃ち誦を成す。文停綴せず。眞黃履之を器とす。楊時と友とし善し。元豐二年進士の第に登る。嘗て華亭縣尉と爲り、政弊あり縣令に遷る。右文殿修撰に累官し、龍圖閣待制に終ふ。

リキ 李琪 (宋) 黃州の營妓。小慧にして願書を能くす。 李恁 (宋) 蕪之子。李燾の條を見よ。 李照 (明) 上元の人。弘治九年の進士。將樂知縣より御史に擢てらる。正徳元年同官と十事を陳して禍を得。世宗即位の初め、起つて饒州知府たり。浙江副使に改む。清操を以て聞ゆ。

リキ 李嶠 (明) 字は尙德。郟城の人。新鄉知縣、知東安等を歴、刑部郎中に擢てられ河南知府を授けらる。 李己 (明) 字は子復。磁人。嘉靖四十四年の進士。太常博士より禮科給事中に擢んでらる。世祖神の三宗に歷仕し獻替する所多し。右倉部御史巡撫保定六府に遷り年を踰え罷り歸りて卒す。



南唐州刺史。り、彼の門人以く憂と爲す。南唐州刺史として宰相の禮を以て彼に事ふ。彼遂に興に深く交る。未だ、ばくならず入て同平章事と爲る。裴相に謂て曰く、吉甫江湖に流落し、十五年を踰ゆ、一旦恩を蒙り此に至る、徳に報ずる所以を思ふに、惟賢か進むるに在り、而して朝廷の後進接する所望なり、君精監あり、願くは悉く我爲めに之を言へと、瑄筆を取り三十餘人を疏す。數月の間、選用畧盡く。當時翕然吉甫を稱して人を得と爲す。官、中書侍郎に終り、賀正縣侯に封ぜらる。子德祐。

リキオン 李德年 (唐) 玄宗の時の人。音樂を善くするを以て名あり。

リキオン 李季芳 (唐) 道州の刺史元結、期にいふ、季芳介直白金うす、門を杜ち著述し、人の知るを求めず、乞ふ州縣に令して會を造り田を給し、其月役を免し、以て高尙を表さんと。之に従ふ。

リキオン 李希閔 (元) 字は克孝。鄆郡人。工に山水竹石を善く。

リキオン 李及 (宋) 字は幼幾。杭州に知とし、俗の奢靡を戒む。郡に在ること數年、輿中の一物を市はず。去る比ひ惟だ樂天集一部を市ふのみ。

リキオン 李及之 (宋) 迪の従子。登第して安肅軍に選たり。後太中大夫を以て致仕す。嘗て唐史を撰次す。治體に益する者あり。君臣龜鑑八十卷を爲る。卒する年八十五。子季稱。

リキオン 李欽 (晋) 西涼第二世。字は士業。黒の第二子。立く九年北涼主蒙遜が爲に亡さる。

リキオン 李沂 (明) 字は景魯。嘉魚の人。萬曆十四年の進士。庶吉士より吏科給事中を歴。官に坐して除名せられて卒す。光宗立ち、光祿少卿を贈る。

リキオン 李錦 (明) 字は名中。成寧の人。天順の初、國學祭酒と爲る。喪を執るに禮を盡くして浮屠を用ひず。居る所僅に風雨を蔽ふ、布衣糲食、妄りに人に取らず。成化中松江同知に遷り卒す。

リキオン 李欽 (明) 張欽を見よ。

リキオン 李金全 (五代) 其先は吐谷渾に山づ。少くして唐明宗に厮養せらる。驍勇にして騎射を善くす。漢に入り、終る所を知らず。

リキオン 李向中 (明) 鍾祥の人。崇禎十三年の進士。知縣たり。福王唐王魯王に歷事し、兵部尙書に累遷す。竟に清兵に降る。

リキオン 李洪 (宋) 字は温之。永福の人。少くして功名を以て自奮ふ。金の國を犯すや、洪勇士三千余人を募り、兼程して進み之に戰死す。詔て其門に旌して忠義と爲す。

リキオン 李傑 (清) 字は剛主。直隸靈縣の人。明の諸生。性篤孝、學徒私誼して孝愷先生と云ふ。雍正十年旌表せらる。保定故と儒者多し、瑛獨り行を善し謀を密け、

實踐を責ぶ。同色の王法乾、王餘佑等と相期して有用の學をなす。晩に顔習賢を得。

リキヨウ 李順 (清) 字は中孚。陝西藍田の人。父信晉崇禎壬午軍事に死す。時に年十六、母日に忠孝節義を以て之を督す。經史百家の書觀ざるは無し。嘗て言ふ、學は身に反するに在り、道は約を守るに在り、功は過を悔い自ら新にするに在り。關學顯に至り復た盛なり。西巡して將に召見せんとす。顯之を聞て曰く、吾其死せん。其の子進を遣はす。著はす所四書反身錄二典集あり。御書閣中大儒の額を賜ふ。

リキヨウ 李虛己 (宋) 李黃の孫下を見よ。

リキヨウ 李昂 (三國) 荊州監軍たり。建衡二年馮襲を枉殺し、擅に軍を撤して退還す。誅に伏す。

リキヨウ 李巨川 (唐) 字は下己。蓬吉の從曾孫。乾符中の進士。初め河中王重榮に事ふ。從軍して殊功を樹つ。稍異志を挾み、企圖する所あり。斬誅せらる。

リキレツ 李希烈 (唐) 燕州遼西の人。平盧軍に籍し、李忠臣に従ひ海に浮び、河北に戦ひて勢あり。後崇義を平ぐ、勢威愈熾なり。遂に淮西に據りて王を稱す。貞元二年部將陳奇仙に殺さる。

リグ 李愚 (南北) 疎曠不羈、嘗て曰く予夙夜公に在り、華胥國に爛遊するを得ず、蝶夢を作り、莊周を以て第一祖と爲し、陳搏を配食せんと欲す。忙者は輿に籍を注し、職に供し難しと。

リグ 李愚 (五代) 字は子晦。渤海無祿の人。唐の時、安陵主簿と爲る。梁に仕へ、後唐の莊宗に歸し、明宗に歷事す。遂に大に用ひられず。怛々疾を以て死す。

リクアン 陸淵 (明) 字は伯陽。友蘭と號す。興化人。山水樹石を善く。

リクアン 六安女 (明) 其姓を失ふ。嶺南中流賊境に入る。其美を見て贈るに帕を以てす。女之を纏て曰く、我髪を汚す母れと。典ふる錦衣を以てす。曰く我身を汚す母れと。大に罵りて死を請ふ。賊怒り之を及す。既にして嘆じて曰く、眞に烈女なりと。

リクイ 陸辰 (唐) 字は祥衣。陸の族孫。進士と擧げらる。僖宗の山南に幸するに従ひ、翰林學士に累遷す。朕屬辭敏にして注射するが如し。昭宗甚だ優遇す。官中書侍郎同平章事に至る。嘉興縣男。

リクイウ 陸祐 (宋) 字は亦頤。侯官の人。宣和中進士に擧げられ莆田主簿、判湖廣兩路宣撫使となる。福建に遣はされて茶鹽司に官たり、公事を幹辦す。至る所、心を職事に盡し、冤獄を察し民に惠愛あり。生平樂進を求めず、或は勸むるに治生を以てすれば、笑て答へず。世務を醉醒するに俗の好尚を隨はず、人の是非を顧みず、率れ禮經を以て事に従ふ。母の憂に居り喪を終へて墳墓を去るに忍びず。尤も意を學問に刻し、諸大書中尙書を讀み、反覆玩味して其旨を窮む。士大夫其の學行を狀し、

添差教授を乞ふ、之に従ふ。

リクイウ 陸游 (宋) 字は務觀。放翁と號す。山陰の人。徽宗の宣和七年十月淮上の舟中に生る。性忠孝。淳熙二年范成大來りて蜀に帥たり。游を辟して參議官と爲す。成大本より詩を善くす。是に於て文學の交を以てして禮法に拘らず、人其頹放を譏る。因りて自ら放翁と號す。七年山陰に還る。白髮蕭然たり。官、太中大夫寶謨閣待制に至り致仕す。後渭南伯に封ぜらる。食邑八百戶。嘉定二年、年八十五を以て家に卒す。其臨終の時に云く、王師北復中原日、家祭無忘告乃翁。

リクイウ 陸友 (宋) 字友仁。博雅好古。漢隸八分の書に工なり。尤も鑿辨を能くす。鎮興銘刻法書名畫、皆精識あり。嘗て硯史、墨史、印史を撰著す。

リクイン 陸胤 (三國) 字は敬宗。遜の族子。始め尙書御史選郎となり後都尉に至る。赤烏十年交趾九真の夷賊、城を攻め邑を沒し、交部騷動す。胤を以て交州刺史安南校尉となす。胤南界に入り諭すに忠信を以てし、務めて招納を崇ぶ。交城清泰なり。就て安南將軍を加へらる。永安元年撤して四陵督となし、都督侯中書丞に封ず。胤雅より著述を善くす、撰ぶ所廣州先賢傳あり。世に行はる。

リクウ 陸羽 (唐) 字は鴻漸。復州の人。幼にして未だ生るゝ所を知らず。長するに及んで易を以て自ら笠一簍の漸に之くを得

たり、曰く鴻陸に漸む、其羽用つて儀と爲す可しと。乃陸を以て氏と爲し羽を名と爲し鴻漸と字す。上元の初、若溪に隱居し自ら桑苧翁と稱し又た竟陵子と號す。隴西公の幕府に在りて自ら東園先生と號し又た東岡子と曰ふ。後、門を杜ちて書を著し、或は獨り野中に行きて詩を誦し木を擊ちて徘徊し、意を得ざれば或は慟哭して歸る。性、茶を嗜み、茶經二篇を著す。

リクウテイ 陸宇炳 (清) 字は周明。郵人。慷慨にして大志あり。饒忠介江上の師、字炳實に之を左右す。饒死友毎に食む、咄嗟立ごころに辨す。仰いて天を視、俯して地を踏す、耿耿たるもの未だ嘗て一日も忘れざるなり。

リクウン 陸雲 (晉) 字は士龍。才理あり少くして兄機と名を齊うす。文章は機に及ばずと雖ども、持論は之に遇ぐ。世號して二陸と云ふ。嘗て機と共に張華に詣る。華雲の何くにあるかを問ふ。機云く雲笑疾あり、未だ敢て自ら見えすと。俄にして雲華に華、人となり姿勢多く、又好んで帛繩を繫に纏ふ。雲見て大に笑うて自ら已む能はず。是より先き嘗て衰經を著て船上にり、水中に於て顧みて其影を見、因て大笑して水に落ち、傍人に救はれて免るゝことを得たり。官清河内史に至り、屢々正言を以て旨に忤ふ。機敗るゝに及び、并に害せらる。年四十二。著す所の詩文亦多し。

リクウン 陸蘊 (宋) 字は敦信。侯官の人。



少うして名を知らる。進士に擧し御史中丞に累官す。蕭順の事論す。嘗て言ふ、御筆一日に數ば下る。而て前後相違せり、命を重んずる所以に非ず、今輔相大臣、官官威里、第を賜ひ轉給して樓まに居を徹す。縣官材を民に市ひ而て直を與へず、貴游子弟從官を以て問局を領し、朝請を幸じて員と爲るもの多し。事に益なし、又賜與制に過ぎ中外の用度、賦入の數よりも多し、私室に幸し、尊卑の分に乖く、亦臣下の福に非ずと。其の言皆時病に中る。後龍圖閣待制を以て福州に知たり。

リクウコウ 陸雲公 (南北)字は子龍。吳縣の人。九歳にして讀書を讀み、即ち能く記誦す。祖傳に従ひ沛國の劉暉に至る。暉十事を質問す。雲公の對失ふ所なし。暉之を歎異す。梁武帝召して儀曹侍郎となし、中書黃門兼著作に累遷す。

リクエイ 陸敬 (南北)定國の弟。字は思彌。年十餘、辟撫軍大將軍平原王を襲ぐ。沈雅にして學を好み、節を折て士に下る。年未だ二十ならず時人便ち宰相を以て之を許す。東徐州刺史博陵崔暉の女を娶ふ。時に學文尙未だ北人の姓を改めず。暉所親に謂て云く、平原王才度恐しからず、且だ恨む其の姓名殊に重複なすと。數婦し東徐より還り郡を経て李彪を見、甚だ之を敬悦す、仍て與に京に赴き以て館客となす。後北征都督となり、驪山を擊て大に之を破る。侍中郭尙書に遷る。

リクエウ 陸燾 (清)字は期夫。一字は奇來。江蘇吳江の人。乾隆十七年順天の鄉試に擧げられ中書を考授せらる。巡撫に累官す。官に在て清勤自ら勵み、下を取する方あり。切問齋文鈔を輯す。皆時務に切なるの文なり。鄉賢名宦祠に祀らる。

リクエフ 陸暉 (晉)字は士光。吳郡の人。機の從弟。喪に居り孝を以て聞ゆ。同郡の顧榮と時を全うす。

リクエフ 陸暉 (南北)字は仁崇。恭の子。志文學に篤し。齊律の序は則ち暉の辭なり。位通直散騎常侍に至る。弟寬字は仁惠、太子中書舍人待詔文林館。寬兄弟并に才品あり。暉著稱して三虎となす。

リクエン 陸瑛 (南北)字は溫玉。吳縣の人。幼にして孤、學を好み志節あり。陳に仕へて功曹參軍直嘉德殿學士たり。世祖其の博學を以て命じて左右に侍せしむ。嘗て刀銘を鑄せしむ、瑛筆を授け即ち成る。大建の初、武陵王功曹となし東宮管記を兼ねしむ。瑛の弟瑜も才學あり時人之を三應に比す。

リクカ 陸賈 (漢)楚人。客を以て高祖に從ふ。高祖嘗て賈を遣し南海の尉佗を立て、南粵王と爲す。佗、臣を稱して漢の約を奉ず。賈、歸り報す。功を以て太中大夫に拜せらる。賈、時に進んで詩書を説く。帝之を罵りて曰く、乃公馬上に天下を得たり、安んぞ詩書を事とせんぞ。賈曰く、陛下馬上を以て之を得るも寧んぞ馬上を以て之を治む

可けんや、文武並び用ふるは長久の術なり、秦をして天下を并せ仁義を行ひ先聖に法らしめば陛下安んぞ今日あるを得んぞ。帝曰く、試に我が爲に書を著し、秦の失ふ所以、吾が得る所以より古の成敗に及べと。賈、書十二篇を著す。秦する毎に、帝、善し稱す。號して新語と曰ふ。

リクガイ 陸凱 (三國)字は敬風。遷の族子。吳の黃武の初、永興階暨長となる。所在治蹟あり。建武郡尉に拜す、軍衆を統ぶ。雖も手に書を釋てず。寶鼎の初、相となる。

リクガイ 陸凱 (南北)字は智君。瑒の弟。陸厚學を好み、位太子庶子給事黃門侍郎。凱、凱樞要に在る。みと十余年忠厚を以て稱せらる。兄の死を痛み哭するに時節なし、目幾んど明を失ふ。寃を訴へて已まず。政始の初に至り兄の爵を復す、凱大に喜び酒を置き諸親を集めて曰く、吾數年中に病を抱き死を忍べる者は門戸の計を顧るのみ、今願已に遂げ吾が事畢れりと。頃らくして卒す。龍驤將軍除州刺史を贈り、諡を惠とす。

リクカウ 陸康 (漢)字は季寧。閩の孫。吳郡の人。少うして義烈を以て稱せらる。茂才に擧られ高成の令に除し武陵廬州太守を歴。恩信を以て治をなし賞罰を申明す、所在之を稱す。袁術城を攻む、康固守す。城陷り憤りて卒す。

リクカウ 陸抗 (三國)字は幼勳。遷の次

子。孫策の外孫。吳に仕へて諸軍事を都督す。嘗の武帝、羊祜をして襄陽を鎮し、穢かに吳の隙、伺はしむ。抗、祜と境を接して相持す。事は羊祜の條下に書なり。吳、依て安きを待たり。六子、晏、景、玄、機、雲、善、リクカウ 陸瀨 (清)字は平遠。書を善くす。

リクカウ 陸邛 (南北)字は雲去。代人。祖所之、魏安北將軍相州刺史たり。父子影、中書監たり。邛少より機悟、風神美なり。學を好んで倦まず、群書五經を博覽し、多く大義に通じ、善く文を作る。甚だ河間の邢都に賞せらる。邵父子影と交游す。嘗て子影に謂て曰く、吾卿の老蚌、遂に明珠を出すを以て、意爲に群拜記を爲らんと欲す、可ならんか。是に由り名譽日に高し。員外散騎侍郎となり、文襄大將軍主簿中書舍人兼中書侍郎を歴、本職を以て太子洗馬を兼ぬ。

リクカウチヨク 陸行直 (明)字は季衡。吳江の人。詩書を善くす。人、これを稱す。リクカン 陸監 (三國)華亭の人。少時陸靜方直抗烈。吳に仕へて後將軍司馬に除し、功を以て四陽亭侯に封せらる。

リクカン 陸備 (唐)敦信の孫。陸を以て深陽尉と爲る。民其惠を懷ひ之を祠る。リクカンシ 陸東之 (唐)吳縣の人。仁公の子。虞世南の甥。官、著作郎たり。少にして舅氏に依る。書に臨みては冠古無比なり。驍行皆妙品に入る。

リクカウ

リクキ

リクキ 陸倕 (南北)字は休猷。宋文帝の時、建康令に補す。清平無私。元嘉十五年、平越中郎將廣州刺史に除し、督を加へらる。清名王績之に亞ぎ、士庶の愛誦する所となす。後益州刺史となり亦督を加へらる。郵驛方あり、威惠無著者。寇盜靜息し、人物殷阜、蜀士之に安んず。官に卒す。亡するの日に家に餘財なし。文帝甚だ惜痛す。諡して簡とす。

リクキ 陸喜 (晉)雲の弟。平東祭酒たり。亦清譽あり。兩兄と同じく害に遇ふ。リクキ 陸機 (晉)字は士衡。吳郡の人。家は世々吳の名族たり。身の長七尺、其聲雷の如し。年二十の時、吳滅ぶ。乃ち菑里に退居して、學を積むこと十年、太康の末に至り、弟雲と俱に洛に入る。成都王穎、機を表して平原内史と爲す。太安の初、河間王穎と兵を起して長沙王を討ず。機に後將軍河北大都督を假して諸軍二十餘萬人を率わしむ。機以爲らく三世將と爲るは道家の忌む所、且羈旅の人を以て入りて驟かに群士の右に居るは怨心の歸する所なりと固辭して許されず。戎に臨むに及んで牙旗偶々折る。機意甚だ之を惡む。列軍朝歌より河橋に至る。鼓聲數百里に聞ゆ。長沙王天子を奉じて機と鹿苑に戦ふ。機か軍大敗す。群少交々機を諷して、其異志あるを誣ふ。穎大に怒りて秀密をして機を收めしむ。機戎服を釋て、白帟を着し、秀と相見る。神色自若。秀に謂て云く、吳朝の傾

覆せしより、吾兄弟宗族、國の重恩を蒙り、入りては帷幄に侍し、出でれば符竹を剖く、成都我に命するに重任を以てす、辭すれども得ず、今日誅を受く、豈に命にあらずやと。因りて頤に觸す、鬚甚だ凄惻なり。既にして歎て云く、華亭の鶴唳、豈復た聞くべけむやと。遂に害に軍中に遇ふ。時に年四十三。機天才秀逸にして、辭藻宏麗なり。張華嘗て之に謂て曰く、人の文を作る、常に才なきを恨むも、子は更に其多きを患ふと。葛洪も亦嘗て機の文を稱して、猶ほ方圓の積玉の夜光にあらざるはなきが如く、其弘麗研鑄、英銳深逸、亦一代の絶なるか。其人に推服せらる。この如し。

リクキ 陸凱 (南北)遷の子。魏に仕へて正平太守と爲る。郡に在ると七年、其史と號せらる。范曄と相善し。長子時、次子恭之、並に時譽あり。賈植、見て歎て曰く、僕老年を以て更に雙壁を睹る。リクキ 陸起 (宋)眞陽令。村巫あり。銀甕を以て二蛇を貯へ民を惑はす。觀る者路を塞ぐ。起、蛇を斬り巫を捕ふ。遠近服す。稱して神明と爲す。

リクキ

リクキ

リクキ

リクキ

リクキ

リクキ

リクキ

リクキ



リクキウシ 陸九思 (宋)字は子驥、進士に擧げられ、幼弟九淵の始めて生る、や、郷人抱養して子と爲すを求むる者あり。二親、子多きを以て之を許さんと欲す。九思力めて以て不可と爲す。是歳、九思また適々子漢之を生む。其妻と曰く、我子は山に付して之を乳すべきのみ、且つ小叔を乳す可しと。其妻忻然として従ふ。九淵既に長じて兄嫂に事ふる。父母に事ふるが如し。荆門に守るに及び、九思を迎侍して以て往く。半載ならずして九思還る。後、九淵書に因りて郡政を以て九思に告ぐ。九思猶ほその功に矜るを責む。其嚴毅此の如し。晩に恩を以て從侍郎を授けらる。

リクキウジヨ 陸九叙 (唐)字は子儀。九思の弟。善く生を治む。觀察を總てて以て家用を給す。諸弟四方の游あれば旅裝立るに具ふ。或は諸々事を論じて未だ決せざれば徐ろに出で、之を折衷す。人その高義に服し稱して五九先生と爲す。

リクキウセウ 陸九韶 (宋)字は子美。金谿の人。朱熹と時を全じうす。山中に隠れて學を誦す。其學淵粹なり。晝の言行、夜必ず之を書す。自ら校山老圃と號す。遺戒して藝に銘するを得しめず。著す所、校山文集あり。世に傳はる。

リクキウレイ 陸九齡 (宋)字は子壽。九韶の弟。乾道の進士。金州教授たり。嘗て弟九淵と共に學を鶴湖に講す。詩文あり、世に傳る。歿して直秘閣を贈り文達と諡す。

リクキウエン 陸九淵 (宋)字は子靜。生れて三四歳、其父に天地何の所に窮際するかと問ふ。父笑うて答へず。遂に深く思うて腹食を忘るゝに至る。乾道中の進士。官、知荆門軍に至る。象山に居り象山先生と號す。同書、朱晦庵に與へて周士が大極圖の不當を論じ、又た無極の二字を加ふ。生徒に教授すると數千百人。詩文語録あり。世に傳る。歿して文安と諡す。

リクキシ 陸昕之 (南北)字は慶始。定國の子。風望端雅、爵を襲ぎ獻文の女常山宮主に尙、附馬都尉に拜し、通直郎兗州二州刺史を歴、并に政蹟あり。諡を惠といふ。

リクキダウ 陸希道 (南北)字は洪度。觀の子。經史を歴覽し頗る文致あり。初め中散に拜せられ、通直郎に遷り、遂西に徙り、戰功を以て爵推陽男を賜ふ。前將軍涇州刺史に累遷す。希道昔々邊を取し甚だ威略あり。六子、士龍、士宗、士述、士綱、士廉、士凱。

リクキン 陸瑩 (明)始の姓は杜。字は懼南。禮居、古狂、青霞亭長の號あり。丹徒の人。成化中籍を京師に占む。經史釋官小説を勤學し涉獵せざるなし。進士に擧げられて第せず意を進取に絶す。文を作る奇古、六書に通じ、繪事を善くす。山水人物草木鳥獸妙にして誇らざるなし。胸中高古自然神采活潑す。

リクキモウ 陸龜蒙 (唐)字は魯望。長沙の人。松江に寓居し自ら江湖散人、天隨子、甫里先生と號す。高士を以て召さる。至らず。顔夔、皮日休、羅隱、吳融と益友たり。吳興實錄四十卷、松陵集十卷、笠澤叢書三卷を著す。自ら浩翁漁父、江上文人に比し、居る所の前後皆杞菊を樹み以て杯案に供す。門に巨石あり。乃ち遠祖績、鬱林太守と爲り罷めて歸るに裝なし、取て以て其船を重くする者。人々の廉を稱して鬱林石と號す。

リクキヨ 陸宥 (宋)字は居安。本と山陰の人。游の從祖父なり。居を餘姚に徙す。居る所江に濱し、一室蕭然として數十年、几席琴書皆未だ嘗て易へず。門を閉ち學に力め、妄りに人と交はらず。樂律を好み關雎鹿鳴諸書を考へ、抑揚音律に比合す。時々自ら之を歌ふ、中正簡古なり。上書して郷飲に用ひんと請ふ。會々疾ありて果さず。子沐進士に擧げられ禮官尉となる。

リクキヨウ 陸願 (明)字は能く人物を識く。其詩字と共に三絶と稱す。

リクキヨウシ 陸恭之 (南北)字は季順。觀の子。荆州刺史たり。卒して吏部尚書を贈り諡と諡す。著す所の文集詩賦凡そ千餘篇。

リクキヨク 陸旭 (南北)諡の從孫。性難澹、易緯の學を好み、五星要訣及び兩儀真圖を撰す。頗る其の旨要を得。太和中徵して中書博士に拜す、稍々駭駭常侍に遷る。天下將に亂れんとするを知り、遂に太行山に隱れ、屢ば徵せども起たず。後并汾恒肆四州刺史を贈る。

リクク 陸詡 (南北)吳人。少うして崔靈恩に三禮を習ふ。梁の時百濟國表して講禮博士を求む、詡して詡をして行かしむ。還りて給事中に除す。

リククワ 陸翥 (南北)一に陸翥に作る。陸翥の條を見よ。

リククワウ 陸園 (漢)字は子春。華亭の人。篤行學を好み穎川守となる、姿容玉の如く喜んで越布單衣を著く。光武之を見て曰く、南方佳人多しと。是より令を致し會稽をして越布を獻せしむ。

リククワウツ 陸光祖 (明)字は與繩。平湖の人。景子。嘉靖二十六年の進士。萬曆中、吏部尚書に累遷す。嘗て刑部尚書たる時、帝其名を御屏に書す。後致仕して卒す。太子太保を贈り莊簡と諡す。

リクク 陸詡 (南北)吳人。少うして崔靈恩に三禮を習ふ。梁の時百濟國表して講禮博士を求む、詡して詡をして行かしむ。還りて給事中に除す。

リククワ 陸園 (漢)字は子春。華亭の人。篤行學を好み穎川守となる、姿容玉の如く喜んで越布單衣を著く。光武之を見て曰く、南方佳人多しと。是より令を致し會稽をして越布を獻せしむ。

リククワウ 陸光祖 (明)字は與繩。平湖の人。景子。嘉靖二十六年の進士。萬曆中、吏部尚書に累遷す。嘗て刑部尚書たる時、帝其名を御屏に書す。後致仕して卒す。太子太保を贈り莊簡と諡す。

リククワウツ 陸光祖 (明)字は與繩。平湖の人。景子。嘉靖二十六年の進士。萬曆中、吏部尚書に累遷す。嘗て刑部尚書たる時、帝其名を御屏に書す。後致仕して卒す。太子太保を贈り莊簡と諡す。

リククワン 陸寬 (南北)諡の弟。諡の條を見よ。

リククワン 陸寬 (南北)諡の弟。諡の條を見よ。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。

リクケイ 陸慶 (南北)吳人。少にして學を好み偏く子經に通ず。節操甚だ高し。梁の永陽王その名を聞きて之を見んご欲す。慶、辭するに疾を以てす。後、王、壁を穿ちて之を觀て曰く、風神凝浚、殆ど測る可らずと。



漢河内南梁使と爲る。直清を以て開伊。仕へて監察御史に終る。

リクケツ 陸厥 (南北)字は韓胤。父開。揚州別駕たり。厥少うして風傲あり、善く文を作る。齊永明中秀才に擧げらる。父の刑せらるゝを傷み感痛して卒す。

リクケン 陸瓊 (宋)字は子應。其の先高郵の人。建炎の初、地を避けて始て崇徳に居り。父承謙光緒、長者を以て稱せらる。人に陰徳あり。瓊厚沈黙天性に出づ。清容あり、之を見れば鄙吝自ら消す。繼母に事へ奉を以て聞ゆ。從叔唐老なる者爾優を以て釋擯し、仕ふるに及ばずして卒す。母趙氏依るなし、迎へて養ふ、數事二十年一日の如し。弟秘書丞と居を同じうす。志を合せ友愛惟だ篤し。弟先づ歿す、之を念うて忘れず墓に屬す。

リクゲンカン 陸元感 (唐)字は遠禮。海城の人。父は梁の學士謀道、班馬の學を善くす。元感、其の傳を得。建安溧陽令黃州司馬を歴。二子南金趙登。

リクゲンシ 陸彦師 (南北)字は雲房。魏郡の人。學を好み文を能す。親殺するや兄印と慕に慮し、土を負ひて墳を成す。北齊其の間に表す。彦師に父の侯爵を襲ぐべし、以て彦師に讓る。固辭す、乃ち止む。時友悌華義一門に奉るを稱す。隋の初、彦師を以て尙書左丞吏部侍郎となす。

リクゲンシヤウ 陸彦章 (明)樹聲の子。萬曆十七年の進士。行人を授く。終養を以

尚書に卒す。

リクサウ 陸漢 (宋)泉州に知たり。高年崇尚し郡中の謝事五老を招致す。漢詩を賦して云、五老三百九十七、俱生仁祖承平時、名聲塵早久傳世、身異商山深采芝と。

リクサン 陸燦 (明)字は子餘。長洲の人。嘉靖五年の進士。庶吉士より工科給事中に改む。勁挺敢言、旨に忤ひ杖を受く。稍永新知縣に遷る。母歿して哀毀甚く、未だ喪を終らずして卒す。

リクサンサイ 陸山才 (南北)字は孔章。吳郡の人。少うして儒儒、文史を好む。家を起し國常侍に至る。後豫章を領し、武昌太守に累遷す。

リクシ 陸俊 (南北)字は由儀。瓊の子。幼にして聰敏なり。年八歳、沈約集を讀み回文碑銘を見て筆を授きて之に擬す。便ち佳致あり。十二歳、柳賦を作る。父瓊、以て之屬に示す。咸な其異才に感す。學業に篤好しして博く群書に渉る。年十五、太子舍人に遷る。後、隋に入りて東宮學士と爲る。嘗て司馬遷の史記を續けて隋に迄ふ。名づけて後史といふ。

リクシ 陸贊 (唐)字は敬輿。嘉興の人。年十八、進士の第に登り又た宏辭拔萃に申す。德宗の時、翰林學士と爲る。帝呼んで陸九と爲して名はす。奉天に幸するに從ふ。日に詔書旁午たり。恩、湧泉の如し。武夫擗卒、聞くもの感泣して奮を思はざる無し。中書侍郎同平章事に累遷す。裴延齡

リクサウ

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

て乞うて歸る。詔して月俸を給ふ。異數なり。母の歿後、出て南京刑部侍郎に至る。

リクゲンハウ 陸元方 (唐)字は季重。餘慶の從子。武后の時同平章事となる。旨に件ふを以て太子右庶子に除せられ、文昌左丞に進む。元方性清慎、終りに臨み奏稿を取り之を焚いて曰く、吾人を陰ふ後當に與るべき者あらんと。

リクゲンラウ 陸元期 (唐)字は德明。蘇州の人。名理の言を善くし、學を周弘正に受く。陳後主、太子たりし時、德明始て冠し、入講して下座に與る。國子祭酒徐孝克と申答して屢々其説を奪ふ。陳亡びて郷に歸る。隋の煬帝、秘書學士に擢て國子助教に遷す。王世充誠を借し、子芝怒の爲に德明を以て師とし、其廬に即て束脩の禮を行ふ。德明恥じて出仕せず。世充平ら及び、秦王詳して文學館學士と爲す。貞觀の始、國子博士に拜し、吳縣男に封ず。尋て卒す。撰著する所、經典釋文三十卷、老子疏十五卷、易疏二十卷ありと云ふ。

リクゲンラウ 陸元弘 (清)字は秋玉。常熟の人。志節を以て自ら勵ます。己の像を水廬尺幅中に圖し自ら水廬中人と號す。

リクコウ 陸座 (元)字は仁重。江陰の人。弱冠にして志氣強毅。浙西廉訪使に累遷す。上章して儒役を免し、及浙西助役法を行ふを奏す。卒して莊簡と諡す。

リクコウダウ 陸肯堂 (清)字は遠升。長洲の人。才氣磊落自ら喜ぶ。康熙乙丑會試

の議する所と爲りて忠州別駕に貶せらる。朝に在りて論議甚だ切、二に仁義に本づく。卒して宣公と諡す。著す所、奏議翰苑文集あり。

リクシ 陸師 (清)字は麟度。浙江歸安の人。康熙四十年進士となり、出て兗州新安儀徵等の縣に知たり。監察御史に累官す。疑獄を判斷するに神明の稱あり。莅む所皆憲政あり。孝友にして讀書を好み文名あり。心を先儒の書に究め實學を講求す。著、集靈書屋等の集あり。名宦祠に祀る。

リクジ 陸滋 (宋)字は元象。世に抗に家す。毛鄭二詩易春秋に通ず。母に仕ふるが爲に擯擧に應ぜず。退きて讀書吟哦を事とす。皇祐四年、詔して先朝の遺士を録す。府、滋を以て之を上る。因て抗州文學に拜せられて卒す。著す所、詩賦文論書詩合せて二十卷。

リクシウ 陸秀 (南北)字は伯琳。飯の第五子。年九歳、韻之に謂て曰く、汝が祖東平王十二子あり、我嫡長たり、今已に年老ゆ、汝幼冲豈陸氏の宗首たるに堪へんやと。秀對て曰く、苟くも力を圖はずに非ずんば何ぞ童幼を患へんやと。馘之を奇とし、遂に秀を立て世子となし爵を襲がしむ。秀沈毅少言、雅より讀書を好む。禮部尙書に累遷す。崔珍に陥れる。尋て赦されて爵を復す。

リクシウ 陸聚 (明)何許の人たるを知らず。元末歲に奔り、徐宿二州を以て太祖に

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

リクシ

殿試皆第一たり。條撰より侍讀に遷り、官に卒す。

リクコン 陸崑 (明)字は如玉。歸安の人。弘治九年の進士。清豊知縣を授く。廉幹を以て南京御史に擢てらる。武宗即位の初、風紀を重んずるの事を疏陳し、詔獄に下さる。劉瑾誅せられて官を復す。致仕す。世宗の初卒す。

リクザイシン 陸在新 (清)字は蔚文。江南長洲の人。人となり磊落、氣節を尚び、刻苦自勵す。康熙五年詔して策論を以て士人を取らる。舉を得て松江教授に除し、廬陵に遷る。任に莅み閑苦亭を衙西に建て亭中に坐して民隱を訪求す。時に糧を糞み供具を携へ山谷の間を歴、百姓を勞苦し、學校を修め、諸生を進め、徳藝を考論す。邑遂に大に治まる。卒して名宦祠に祀る。長洲の人亦郷賢を以て之を祀る。

リクサウ 陸操 (南北)廬の從孫。字は仲志。高簡にして風格あり。早く學術を以て名を知らる。雅より文を好む。兼敢騎常侍となり梁に聘使して還り、廷尉卿に遷る。齊文襄世子たり甚だ色を好む。指季舒嘗て掌謀をなす、時に薛翼の要元氏色あり迎へ入れて之に通ずんと欲す。元氏辭を正し且つ哭す。世子季舒をして廷尉に送附し之を罪せしむ。操曰く、廷尉は天下の法を守る、須らく罪状を知るべしと。世子怒り操を召し之を携背す、操遂に縊ます。仍ち之を口實す。後ち御史中丞に徙る。天保中、殿中

降る。撥亂反正の功を累ぬ。河南侯に封せらる。後、朔惟庸の黨に坐して死す。爵除かる。

リクジウ 陸柔 (清)字は次友。雅坪と號す。浙江平湖の人。康熙六年の進士、官内閣學士たり。文學を以て主知を結び、諸書局の事務を管理す。明史を纂修す。卒する年七十。著詩文集あり、世に行はる。

リクシウセイ 陸備醇 (南北)吳郡の人。早く文籍に通じ長じて神仙を慕ふ。廬山東林寺に棲み、陶潛及び僧慧遠と共に白蓮社を結ぶ。世に三笑を傳ふ。宋の文帝、其高風を表し、崇徳館、通仙堂を作り強ひて之を招きて道を説せしむ。元徽五年卒す。年七十二。簡寂先生と諡し、詔して其の居る所を以て簡寂觀と爲す。

リクジウテン 陸從典 (南北)字は師卿。餘干の人。少にして大志あり。里南と落々合はず。刺史趙政、之を器とす。播陽内史に累遷し妖賊を平けて餘干侯に封せらる。

リクシウフ 陸秀夫 (宋)撫城の人。景定の初の進士。李庭芝、淮南を鎮す。辟して幕中に置く。宴集ある毎に尊祖の間に坐し、矜莊終日、未だ嘗て少しも希合あらざ。徳祐の初、禮部侍郎を以て軍前に使す。和議就らず。二主温州に走る。秀夫追うて之に従ふ。益王、福州に立つや、端明殿學士會書樞密院事に遷る。王殂す。又た衛王を立つ。秀夫を以て左丞相と爲す。時に君臣海濱に播越すれども、朝會ある毎し秀夫儼然

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ

リクジウ



笏を正して立つと治朝の如し。遼流離の中と雖も猶ほ日に太學章句を書して以て勤講す。至元中、崖山破る。秀夫、妻子を驅りて先づ海中に入らしめ、尋いで王を負ひ海に赴きて死す。

リクシキ 陸士季 (唐)吳縣の人。顧野王に從て左氏春秋司馬史記班氏漢書を學ぶ。隋の時、著作郎たり。貞觀の初、終に太學博士兼弘文館學士たり。曾孫南金。

リクシキ 陸士繼 (南北)字は叔後。希道の子。陸士秀 (南北)字は南容。吳人。博く百家の言に通ず。隋に在りて學士たり。

リクシキ 陸士仁 (明)字は文近。澄湖と號す。師道の子。蓋は荆關を師とし、文待詔を臨模して其心印を得たり。

リクシキ 陸士述 (南北)字は幼文。希道の子。符置郎中たり。

リクシキ 陸士宗 (南北)字は仲彦。希道の子。尙書左外兵部郎中と爲る。

リクシキ 陸師道 (明)字は子傳。元洲と號す。小楷清絶、顔魯公に似たり。晚歲尤も隸書畫法に工に、獨り倪元鎮を喜び、而して傳染精麗なるもの遂に趙吳輿に減ぜず。自ら官を棄てて後、往て弟子の禮を執りて文徵仲に從ひ甚だ慕し、故に他の文藝多く徵仲に類す。而して名徳亦相亞ぐと云ふ。

リクシキ 陸質 (唐)字は伯冲。春秋に明

かなり、趙映に師事し一家の學を傳ふ。門人質の能文にして、聖人の書、後世に通ずるを以て、私に諡して文通先生といふ。

リクジツ 陸宗 (宋)字は元珍。台州寧海縣丞に任ず、事に遇うて立るに決す。杭州仁和縣尉州司工曹事を歴、至る所治政を以て稱せらる。後ち京畿常平等事を提擧す。金入關を犯し諸司皆通れ去る、遂に便宜を以て燕山の戍卒數千を招集し、難ふるに保甲を以てし、日夜部勒習教して要害を扼振す。虜犯す能はず而して潰卒も亦亂をなさず。措置號令赫然として大將の風采あり。

リクシハイ 陸士佩 (南北)字は季偉。希道の子。安東將軍たり。

リクシベン 陸師閔 (宋)父の任を以て官に稱せらる。熙寧の末李璣、成都路茶場を提擧す。時して公事を幹當せしむ、三年ならずして本路常平を提擧す、遂に稷の職に居り。蜀の茶額三十萬、稷既に増して五さす師閔又増して百萬となす。稷死す、師閔其の前功を領す。詔して稷に田千頃を賜ひ、師閔を進めて都大提擧成都永興路權茶位視轉運とし、戶部侍郎に累遷す。

リクシン 陸震 (明)字は汝亨。蘭谿の人。學行を以て知らる。正徳三年の進士。泰和知縣に除す。惠政あり。泰和の人を牛祠す。兵部主事に擢て、遼東前線に改む。會孝貞皇后崩す。武宗北出んことを、震抗疏して之を諫め、爲に詔獄に下さる。杖創甚しく獄に卒す。死に臨み諸子に書を興へ曰

く、吾死すと雖も汝等當に忠孝を勉むべし、吾筆乱るも神乱れずと。世宗立ち太常少卿を贈る。

リクシン 陸深 (明)字は子淵。上海の人。弘治間の進士。國子司業祭酒に累拜す。輔臣に忤ひ外に補せらる。四川布政使に遷る。諸番亂る。兵食を調して功あり。詹事府詹事に進む。致仕して卒す。文裕と諡す。

リクシンチウ 陸信忠 (元)蓋を善くす。リクジヤウ 陸襄 (南北)縉の子。年數歳、宣帝、引きて殿内に入る。進止、父の風あり。詔して名を辯慧、字を敬仁と賜ふ。後、少府卿と爲る。子觀。

リクシヤウセン 陸象先 (唐)字は景初。恬淡高簡。崔暹嘗て曰く、陸公は人に一等を加ふ。時に太平公主、權を擅にし嫡を廢して庶を立てんと欲す。象先、力諫して免るゝを得たり。劍南江東の觀察に歴す。至る所之を尸祝す。毎に曰く、天下本無事、庸人自ら之を擾す耳、苟も其源を澄さば何ぞ治らざるを憂へんと。卒して文貞と諡す。

リクジヤウノハハ 陸護母 (隋)馮氏。性仁愛にして母儀あり、護は其子なり。開皇の末、驪州刺史と爲り職罪あり、有司に覆案せられ將に刑に就かむとす。馮氏遂頭垢面朝堂に詣りて護の罪を數め、流涕嗚咽、盃粥を持し食を勸む。既にして上表して哀を求む、同情切迫なり。上感然として容を改む。獻皇后甚だ其意を奇とし、上に請ふ。因て死を減し名を除く。詔を下し護

美し、馮氏に布五段を贈ふ。

リクシヤクイウ 陸錫熊 (清)字は健男。耳山と號す。江蘇上海の人。生れて萬夫の裏あり。乾隆二十六年進士となり副都御史に累官す。文學を以て時趨の知を受く。自ら四庫全書、通鑑輯覽を總輯す。外に契丹國志、勝國殉節諸臣錄、唐桂二王本末、河源記略の如き書を奉じて編輯せる者二百餘卷有り。晩年心を經濟學に覃む。嘗て杜氏通典馬氏通考を取り合するに清朝會典を以てす。凡ち食貨農田漕漕兵刑の諸大政皆其の因を審かにし利弊を革む。口誦じ手之を繕ふ。未だ就らずして卒す。其の後皇朝欽定通典通考諸書あり錫熊に由り其の端を發す。

リクジユセイ 陸樹聲 (明)字は與吉。松江華亭の人。初め林姓を冒す。貴及び乃ち復す。嘉靖二十年の進士。庶吉士より編修に改む。官に出入すること三次。隆慶中、召されて起たす。神宗の時、禮部尙書に擢てらる。時政十事を陳して可か。乞うて歸り卒す。年九十有七。太子太保を贈り文定と諡す。子彦章。

リクジユトク 陸樹德 (明)字は與成。樹聲の弟。嘉靖末の進士。世穆神の三宗に歴仕し、嚴州推官より右僉都御史に累進す。議合はずして乞。歸り、之を久うして卒す。

リクシユン 陸燦 (宋)字は子高。大學に入り、紹熙の進士に登り、文林郎紹興府觀察推官を授けらる。憂を以て起たす。再び將州教授に調す。老成を尊禮し小學を興す。

是に由り皆學に趨き、始て進士を以て家を起す者あり。秩滿ちて兩浙轉運司幹辦公事を授けらる。強を抑へ弱を扶け中外翕然たり。國子錢に除し武學博士に遷り秘書省校書郎に除す。城平生清修寡欲。益齋集十卷あり。

リクジヨウ 陸時雍 (宋)淳安の人。幼にして孤貧。兄と機を力めて母を養ふ。稍長して郡學生に補せらる。母兄の食給せざるを念ひ、拳膳に語つて曰く、吾自ら飯す、盡く炊く勿れ、願ばくば一膳を暇めて母に遺らんと。自ら一膳を以て分ちて晨午となす。其の苦節孝養此くの如し。後宣和進士の第に登り、博學宏詞科に中り秘書丞を歴す。復た請うて恩を以て其の兄の子に官す。

リクシヨク 陸續 (漢)字は智初。永平中楚王英の事に坐し洛陽の獄に繋がる。一日食に對し悲泣して曰く、母來りしも相見るを得ずと。獄卒問ふ何を以て知るやと。曰く、羹を食して母の和する所なるを知る、母肉を截る未だ嘗て方ならずばあらず、葱を斷つ寸を以て度となす、是を以て之を知る。使者上書して狀を言ふ、之を赦す。

リクシリウ 陸子隆 (南北)字は與世。吳人。陳に仕へ中兵參軍たり。屢に戰功を立つ。都督張昭遠賊と戰つて利あらす、子隆來り授ひ大いに賊徒を破る。都督卞州諸軍事に遷る。朝陽縣伯に封ぜられ、荊州を鎮し夷夏を綏集し甚だ民の和を得たり。碑を立て功を頌す。卒して諡を威といふ。弟子

才幹略あり官信州刺史を歴す。子之武官泓農太守に至る。

リクシリヨウ 陸士龍 (南北)字は元偉。希道の子。野郡公を賜ふ。

リクシレン 陸士廉 (南北)希道の子。建州刺史。

リクシ井ツ 陸子遜 (宋)山陰の人。嘉定の間、溧陽令となる。溧陽の俗故と武健にして淫祠を信す。巫覡白雲宗なる者あり、妖術を以て良民を誘致す、轉じて相繼結す。子遜至る乃ち學校を興し禮讓を習はしめ、民の秀てし者を擇び之に教へ而て其の愚を勸化す。諸巫に謂て曰く、是固立せず、我有れば若輩無しと。乃ち其の魁者二人を誅劾す。白雲宗の據る所の民業に就き其の主に歸す。是に由り縣境肅然として習俗頗りに革まる。乃ち農暇を以て流演を治し、公署を新にし、郵傳橋路皆井然として觀る可し。

リクスギ 陸倕 (南北)字は佐公。慧曉の子。讀む所一編、必ず口に誦す。嘗て漢書を借りて五行志四卷を失ふ。乃ち暗寫して之を還す。畧々遺脱なし。

リクセイリヤウ 陸世良 (宋)字は君晉。同の子。德安府に知たり。陸倕の時事を言ふ者三、孝宗首肯して嘉納す。復た銅錢の透漏及び沿邊の守禦要害を問ふ、世良問に隨つて奏對詳敏なり。既にして條上五事に至る、上施行する者三。宰相周必大之を薦め廣東提刑に除す。未だ幾ばくもなく祠



を請うて歸り、自ら居歴居士と號す。藏書萬卷父子里中に徇。時人之榮とす。リクセウ 陸昭符 (五代) 秣陵の人。開寶の初、師を江南に問ふ。後主、師を緩めんとせず、昭符を以て進奏使と爲す。嘗て常州刺史と爲る。善政あり。一日郡廳に到る。忽ち雷雨暴おに至り電光金の如く庭を繞る。官吏震懼す。昭符之を叱す。雷電頓に止む。案牘を擧ぐるに及びて大殿索を得たり。重さ數百斤。人尤も之に駭く。而して昭符神色自若、命じて索を收めて官庫に付して後人に示さしむ。

リクセキ 陸績 (三國) 字は公紀。吳郡の人。父康、武陵守たり。績、年六歳、九江に於て袁術に見ゆ。術、橘を出す。績、三枚を懷にす。皆辭して地に墮す。術曰く、陸郎、賓客と作りて橘を懷にするかと。績曰く、歸りて以て母に遺らんとすと。術大に之を奇とす。既に長じて博學多識。吳の孫堅、辟して奏曹掾と爲す。直道を以て憚られ、出て鬱林太守と爲る。軍事ありと雖、著述廢せず。渾天圖注、易釋玄を作る。並に世に傳ふ。

リクセン 陸統 (宋) 字は介夫。餘杭の人。進士に第す。繁達之才あり。熙寧中西夏を鎮撫し、復た交趾の難を靖んす。仕へて天章閣待制に至る。リクセン 陸宣 (明) 字は廷旬。華亭南橋の人。節義と號す。詩を善くし、書を善くし、尤も傳神に長ず。山水甚だ工ならず、而して清淡蕭散俗塵の氣なし。一時の名人多く之れと遊ぶ。リクソウゲフ 陸崇業 (唐) 太原の人。右羽林將軍晉陽公たり。リクソウ 陸遜 (三國) 字は伯言。康の從孫。初め吳の孫權に仕へて小吏たり。呂蒙これを權に薦む。權乃ち召して偏將軍右都督に拜し、蒙に代らしむ。功を以て華亭侯に封せられ進みて婁侯に封せらる。黃武の初、蜀漢の兵を夷陵に破り輔國大將軍に加拜せられ荊州牧を領す。後、吳蜀復た通ず。時事宜しき所は輒ち權、遜をして諸葛孔明に語らしむ。並に權の印を刻して遜の所に置き、凡そ對に入る書札、皆遜の裁可を経しむ。後、黃賊を假して大都督と爲し、魏の曹休を皖城に破る。權、左右に令して御璽を以て遜を覆ひて殿門を出せしめ、凡そ賜ふ所、皆御物上珍、時に寵遇典に比するなし。赤烏七年、相に拜せらる。次子抗、爵を襲ふ。

リクタイジユ 陸大受 (明) 字は凝遠。武進の人。萬曆三十五年の進士。行人より戶部郎中に擢てらる。鄭妃の事に坐し廢せらる。天啓の初、韶州に補し、都御史に遷る。未だ幾ならずして卒す。リクタン 陸耽 (晉) 雲の弟。東平祭酒となる。亦た聲譽有り、雲と同じく害に遇ふ。大將軍孫惠、淮南内史朱誕に書を與へて曰く、意はざりき、三陸開朝に相携へ一日に運没せんとば、道業論亡し、國儲望を喪ふ。

リクタン 陸探微 (晉) 吳の人。明帝の侍從たり。書を善くす六法の妙を得たり。平生好んで古聖賢の傳を寫す。リクチ 陸治 (明) 字は叔平。包山と號す。吳の諸生なり。而して風雅を嗜び室を支那に築く、山下雲霞四封流泉繞繞す。手づから花數百を植う。歲時佳客過ぎる毎に從て即ち迎へて花所に至り、蜜脾を割き竹萌を剗し而して之を進む。荷くも其人に非ざれば強て造るものあるも即ち一石門を支へ刺味聞かざるが如し。山水下筆輕淡法都秀。毎に作る所を見るに多くは是れ秋晴の景氣。最も寫生を工にす。徐黃道の遺意を得たり。リクチウカウ 陸仲亨 (明) 涇人。太祖に歸して滁洲を征し、大柳樹の諸寨を取り、青山の群盜を逐ふ。從つて江を渡り、吉安侯に對す。後胡惟庸と謀を通じて誅せらる。

著はす所易提綱諸經雜說あり、世に行はる。リクチン 陸珍 (南北) 字は潤玉。安雅にして制度あり。學を好み能く文を屬す。直天保殿學士たり。リクチメイ 陸知命 (隋) 字は仲道。當陽の人。學を好み大体を識る、正介を以て自ら持す。大業の初、侍御史に拜す。侃然色を正し、百僚敬憚す。卒して御史大夫を贈る。

リクチヤウ 陸暢 (唐) 字は達夫。吳縣の人。早く才名あり。進士に擧し官、秘書丞を授けらる。性謙和、事に臨みて周旋、公事を剖斷するに人人宛ならず。終り長吟して公牘を視す。王仲舒發言す。竟に衣を拂つて去る、曰く偶々大夫の爲に薦引せらる而も志業を廢すべからざるなりと。此に由り美譽益々彰はる。

リクチヤウゲン 陸長源 (唐) 字は沐之。餘慶の孫。文學に曉む。都官郎中に累遷し、出で汝州刺史となり宣武に徙る。軍亂に遇うて害せらる。長源清白を以て自ら持す、汝州を去るや送軍二乘、曰く吾祖魏州を罷むるさき車一乘あり、而して圖書之に半す、吾前人に及ばざるを愧つと。リクチヨ 陸著 (漢) 字は文伯。桓靈の間、交々辟すれども就かず、惟だ接應を娛しむ。子弟を誡めて云く、吾少より未だ嘗て世に官せざるふと四十余年、汝等必ず義に矜り苟くも濁世に仕ふる毋れと。遂に三代仕へず、皆盛名あり。

リクチヨウ 陸澄 (南北) 字は彦淵。吳縣の人。祖勳、臨海太守たり。澄、少にして博學遠覽、知らざる所なし。王儉曰く、陸公は書圖なりと。南齊永明の初、度支尚書と爲り、國子博士を領し、後、祭酒を領す。卒して諡して靖と曰ふ。リクチヨウ 陸澄 (明) 歸安の人。世宗の時、南京刑部主事に官たり。初め追尊の非を極言して遠はる。稍高州通判に調す。リクツウ 陸通 (周) 即ち楚狂接輿なり。春秋の時、楚三たび之を聘す。通大に笑つて應ぜず。妻曰く、妾先生と躬ら耕して食ひ、親ら績きて衣、義に據りて動か、樂亦足る、今人の重祿を受け、人の真剛を求め、人の醜態を食ふ、將た何んぞ以て之を待たんと。通曰く、吾許さず。妻曰く、君に從はざれば忠に非ず、之に從はば義に違ふ、如かず之を去らむはと。與に姓名を變易して蜀に入り、峨嵋山中に隱居す。リクツウ 陸通 (南北) 性至孝。母、吳人なり。魚を食ふを好む。北土、魚少く、之を得ると甚だ願む。後、宅側に忽ち泉出で、魚あり。得て以て母に供す。時に之を孝魚泉と謂ふ。後、大司寇と爲る。

リクテイ 陸暹 (南北) 字は季明。暹の弟。家を羽林監に起し、獨り文雅を兼ね。禮部御史中大夫を歷明府儀同三司に進む。陸贄詳明、所在處を著はす。進みく公評となる。リクテイコク 陸定國 (南北) 麗の子。隋縣に在る時、文成その邸に幸し詔して宮内

に養ひ常に獻文と同處せしむ。年六歳、中庶子と爲る。獻文踐跡するに及びて散騎常侍に拜せられ許東郡侯を賜ふ。リクテイリヨウ 陸道龍 (宋) 華亭の人。咸淳の鄉貢進士。宋亡び即ち據隱授して其の身を終ふ。衣冠易へず。嘗て自ら儒像を贊す。其の略に曰く、勤勤勸勸、耽嗜慕悅而不吝者、聖賢之書、燈燈起超、畏懼退縮而不敢者、世利之途、或者見之指笑、此必抱遺經、行古道之士。リクテウヘキ 陸道璧 (唐) 南金の弟。リクデン 陸佃 (宋) 字は農師。山陰の人。貧居苦學、月光に映じて書を讀む。進士に擢てらる。嘗て經を王安石に受く。而かも新法を以て是と爲さず。郟州教授に累官し數州を歴知す。徽宗の時、尙書左丞と爲る。著す所、埤雅春秋後傳禮義等の書二百餘卷あり。リクトウ 陸燦 (南北) 字は顯聖。後魏の孝武四遷す。郟に留り陽城郡守となす。文帝大統九年魏軍東陽城を討つ執へらる。宇文泰之を釋して曰く、卿本に背かずと謂ふべき乎と。累進して位驃騎大將軍となり江州刺史に轉す。リクドウ 陸同 (宋) 字は彦和。歷城の人。建炎の間父有常臨淄縣に知となり、佛に抗して節に死す。同恩を以て官に補し建康戶曹に調す。強禦を畏れず、望江縣に知たり。是より先朝延慶田を行ひ、民の未だ樂ふ復せざる者は之を繕す。民を募り粟を耕聚す、



民既に業に復すれば猶ほ賦外に并せ輸せしむ、名けて附種といふ。營山の民多く逃れ徒る。同請うて之を調く。改めて廬江に知りたり。中外交も薦む。名を御屏に書せらる。リクタクメイ 陸徳明 (唐)名は元期。字を以て行ける。元期の條を見よ。

リクタクヨ 陸徳興 (宋)字は載之。崇徳の人。從弟。嘉定の初進士となる。後十年徳興童子科に登第し文名あり、兩浙知貢舉を歴、官吏部尚書に至る。弟文興。リクトクシン 陸敦信 (唐)嘉興の人。高宗の朝左侍承檢校左相に拜し、嘉興縣子に封せらる。子齊望。

リクナフ 陸納 (晋)字は祖言。玩の子。少にして清操あり、眞厲俗に絶す。吏部郎を以て出で、吳興太守と爲る。都に至りて魯祿を受けず。既にして召されて左民尚書と爲る。發するに臨みて止だ被僕を携ふるのみ。謝安、嘗て納に詣る。納、供辨なし。惟だ茶菓のみ。其兄の子叔、密かに爲に具を治む。安至る。遂に盛饌を陳ぬ。客罷む。納大に怒りて飯を杖するといふ。其舉止多くは之に類す。

リクナンキン 陸南金 (唐)字は季孫。常州の人。貞觀の初年、太常率禮郎と爲る。開元の初、盧崇道を匿すを以て按捕せられて重法に當る。弟趙璧、自ら言ふ、崇道を匿す者は我なり。御史之を怪む。趙璧曰く、母未だ葬らず、妹未だ歸せず。兄能く之を辨す、我れ生きて益なし、死するに如くは之に類す。

かす。御史驚きて上狀す。玄宗皆之を宥す。官太子洗馬に至る。リクバイ 陸培 (明)字は龍庭。崇禎末の進士。行人たり。南京已に覆り瀕王又降ると聞き、繩を二僕に授け、從容就く縊れ死す。年二十九。

リクハウレツ 陸邦烈 (清)字は又超。平湖の人。毛奇齡の弟子。嘗て毛の經說を取り聖門釋非録五卷となす。リクバツ 陸誠 (南北)侯の長子。多智にして父の風あり。文成見て之を悦ぶ、與安の初、出て相州刺史となる。爲政清平、強を抑へ弱を扶く。州中の有徳、宿老の名聖素より著しき者あれば友禮を以て之を待す。此の如き者十人號して十善といふ。州縣の強門百余人を簡取し、以て假子となし、騁接殷勤、賜ふに衣服を以てし、各家に歸り耳目たらしむ。是に於て奸を發し伏を捕す、事驗せざるなし。百姓以て神明となす。六子あり秀軌最も著名なり。

リクハフクフ 陸法和 (南北)泰より道術あり。能く先づ禍福を知る。北齊の文宣の時、江夏都督と爲り十州の諸軍を理む。關を昭陽殿に安す。賜養甚だ厚し。法和悉く親故に散す。復た江陵日里洲に隱る。梁の侯景の亂、任約、湘東を擊つて江陵に至る。法和、變兵を率めて約を敗つて之を擒す。功を以て江陵縣公に封せらる。梁室日に頌

あり。能く先づ禍福を知る。北齊の文宣の時、江夏都督と爲り十州の諸軍を理む。關を昭陽殿に安す。賜養甚だ厚し。法和悉く親故に散す。復た江陵日里洲に隱る。梁の侯景の亂、任約、湘東を擊つて江陵に至る。法和、變兵を率めて約を敗つて之を擒す。功を以て江陵縣公に封せらる。梁室日に頌

るを慮り、嘗て大に兵艦を聚めて襄陽を護はんと欲す。元帝、人をして之を止めしむ。法和乃ち州に還り、其城門を望して麻衣蓋坐す。梁の敗滅するを聞くに及び、喪服して身を終る。

リクパンゲン 陸萬言 (明)字は君策。華亭人。嘗て工にして山水景を收む甚だ豊かなり。用筆極めて簡、其巖岫を爲る多く輕線を川ひて之を染す、被を略し數筆明秀を覺ゆ。

リクビゲン 陸微言 (南北)侯の子。委容美にして鬚眉鬚くが如し。西里侯に叙せられ蜀郡長史と爲る。リクフク 陸頤 (南北)襄の長子。父の風あり、魏の文成帝見て之を悦びて曰く、晋嘗て陸侯の智その軀に過ぎたるを歎す、是子また其父に踰えたりと。官、太保に至り、建鄴侯に封せらる。六子あり。惟秀、名を知らる。

リクブンケイ 陸文圭 (元)江陰の人。幼にして穎悟、博く經史百家及び天文地理歴律醫算數の學に通す。宋亡び、隱居して仕へず。元の初、科擧を設けり、有司之を強ひて試に就かしむ。再び鄉試に中る。文圭の文を爲るや經傳を融貫し、縱橫變化其の涯を測る莫し。東南の學者皆之を宗師とす。元数は使幣を遣はしし聘すれど起たす。リクブンヨ 陸文興 (宋)徳興の弟。經史に通す。仕へて按察使判官と爲る。宋亡び、隱居して仕へず。

陸文禮 (明)橋李の人。陸五馬の女。幼にして敏。讀書を好む。嘗て碧桃の詩を作つて曰く、本是輕盈質、翻爲淺淡粧、衆皆誇麗質、汝獨愛尋常、匹李鏡些辨、殊梅少段香、梨花相掩映、夜月欲昏黃と。

リクベンケイ 陸辯懸 (南北)陸襄の後の名。リクボウハツ 陸夢發 (宋)字は太初。秋人。幼にして穎悟、稍長じて博覽精研、尤も春秋の學に深し。寶祐四年進士と登る、江東安撫司幹辦公事に充つ。時に馬光祖安撫司兼沿邊制置たり、所部未決の事を取り悉く之を委し以て其の才を規ふ。經に本き律を傳へ、裁決流るゝが如し。是に由り深く相敬異す。大府趙觀文、朝に薦め、特に安撫府左廂公事を授けられ、再び大理寺丞に除す。時に海寇命を拒む。旨あり夢發をして使を奉じて兵を率ひ討捕せしむ。朝士多く之を危ぶむ。夢發歎じて曰く、既に臣となり命を受く當に身を致すべきのみと。義軍利を失ひ夢發遂に王事に没す。年五十三、朝議大夫を贈る。夢發人となり氣節を尚び、喜んで後進を推挽す。文を爲る現奇典雅、能割尤も精し。詩文あり烏衣集并に折南集といふ。

リクボウリヨウ 陸夢龍 (明)字は君啓。會稽の人。萬曆三十八年の進士。刑部主事より員外郎を歴。神宗光宗熹宗に歴し、右參政に進み、靜海州の役に戦死す。太僕

李靜玉 (唐)字は文山。澧陽の人。詩を能す。太中間、裴度入りて相たり、之を薦む。詔して弘文閣校書郎を授く。群玉奇辭あり、深く湘娥を慕ひ、遂に身を江に投じて死す。詩集有り世に行ける。リクンシン 李君賜 (明)指揮。崇禎中流賊の犯すに際し、數賊を殺して死す。

リクンセキ 李君興 (唐)宣宗の時、醴泉令と爲る。帝渭上に校獵す。父老十數人あり、佛祠に集る。上之を問ふ。對へて曰く、醴泉の百姓なり、縣令李君興與政あり、考滿ら罷て府に詣るべし、留を乞ふ。故に佛史所に所願を諧ふるを冀ふのみと。醴泉刺史關るに及び、上手書して君興を除す。宰相之を測る莫し。君興入謝す。上此を以て獎勵す。衆始て之を知る。

リクブンノツマ 李君問妻 (元)處州龍泉の人。萬氏。李死す。萬節を守つて再適せず。富家婦を求め、父姑亦其志を奪はんとなす。萬枕上楊梅詩を詠じて以て意を示す。求むる者遂に寢む。リクク 陸瑜 (晉)字は幹工。瑛の弟。太子中書舍人に至る。少くして篤學、詞藻美なり。瑛と時を同うして東宮學士と爲る。才學を以て左右に侍す。時人之を三應に比す。リクヨケイ 陸峻慶 (唐)吳縣の人。祖珣、陳に仕へて右將軍たり。餘慶方雅博學制策甲科に擧げらる。武后の時、監察御史に擢て

られ太子詹事に累官す。中宗の朝、侍臣貴主の斜封大に行はる。慶獨り能く道を以て自ら持す。リククリケン 陸履謙 (明)字は道卿。常熟の人。善く山水を畫く。リクレイ 陸曉 (南北)馘の弟。少にして忠勤を以て入て左右に侍す。太武特に之を親昵す。舉動審愼にして慈失なし。爵、章安子と賜ふ。稍々南郡尚書に遷る。太武崩じ南安王餘立つ。既にして常侍宗愛等の殺す所となる。百僚憂懼爲す所を知る無し。屬主として大議を立て、文成を范中に奉迎して之を立つ。社稷安に復するは麗の謀なり。是に由り心管の任を受け、朝に在る者其の右に出る無し。與安の初平原王に封す。頻りに辭す。文成曰く、朕天下の主となる、豈二王を得て卿父子を封する能はざらむやと。卒して諡を簡といふ。朝廷に配享す。

リクレウ 陸偉 (南北)慧曉の子。學子史に渉る。子微言。リクレツ 陸烈 (漢)字は伯元。高帝の時、吳令となり豫章都尉に遷る。卒す。吳人之を思ひ迎へて胥屏亭に葬る。子孫遂に吳人となる。

リクレン 陸連 (晉)吳人。天監五年詔して五館を開き五經博士を置く。連沈峻と博士に補し各々一館を主る。經を懷にし策を貢ふもの雲集す。リクローキ 陸融其 (清)字は稼書。一字は三角。松江平湖の人。康熙九年の進士。



知縣を授けられ、御史に累官す。卒して内閣學士兼禮部侍郎銜を贈らる。清獻と諡し、浙隸江南名宦浙江鄉賢祠に祀り、孔子の廟廷に配享す。其官に在るや清直諫を以て著はる。官を去るの日百姓を焚いて以て之を祝す。勳文を作る、獄囚之を聞て痛哭す。刑部縣に知たりし時六事を陳す。一正月開倉太急宜緩、一開荒越科爲限宜寬、一水利宜興、一積穀宜廣、一州縣存留公使錢宜復、一審丁裕額宜裁と。御史たりし時詔に應じて陳言す、一請罷免直隸被災帶征各錢糧、一言直隸編審人丁宜求均平、一請停捐免保舉之法。直言世の忌む所となる。其學に力むるや敬に居り理を窮むるを以て主となす。人に教ふるや必ず授くるに朱子小學及び程氏を以てし、讀書は年日の程を分ち、學者をして序に備ひ功を致さしむ。著に學術辨、四書大全、困勉錄、續錄、讀書志疑、讀禮志疑等の書あり。

リクワ 李華 (唐)字は遐叔。含元殿賦を作る。賦成り以て蕭穎士に示す。穎士曰く、景福の上靈光の下と。華、文辭編麗にして宏傑の氣少し、穎士健康自肆にす。而して華自ら疑ふ之に過ぐと。他日古戰場を吊する文を作る、穎士と之を讀む。問ふ今人誰か及ぶ可き。穎士曰く君精思を加へば便ち能至らんと。華愕然として服す。

リクワ 李果 (唐)洛陽令と爲る。

リクワ 李果 (清)字は客山。長洲の布衣。康熙の朝、詩を以て名あり。晩年文譽露、

吳門を過ぐる者争うて其の面を識る。著石渠渠あり。

リクワイ 李愬 (周)魏文公、上地守と爲す。人の善射を欲す、乃令を下して曰く、人の狐疑の認める者は之をして射しめ、中る者勝ち、中らざる者負けんと。令下る人皆争て射を否ふ。秦人と戦ふに及び大に之を敗る。

リクワイ 李恢 (三國)字は德昂。建寧の人。都督鄧方卒す。先主恢に問ふ、誰か代る可き者ぞ。恢曰く先零の役、趙雲曰く老臣に踰る莫しと、臣自ら量らず、惟陛下之を察せよ。先主曰く孤の本志已に卿に在りと。遂に恢を以て都督交州刺史と爲す。後亮に隨ひ南土を平定す。軍功居多、封じて安漢將軍と爲す。

リクワイ 李繪 (南北)魏の曾孫。六歳にして學に就く。既に長じて神情朗暢なり。魏に仕へ中書侍郎を歴。每朝君臣對揚す、繪先づ言端を發す、音詞辨正、風儀都雅、聽く者悚然たり。弟緯、才學あり中散大夫に位す。

リクワイ 李懷信 (唐)渤海靺鞨の人。本姓は茹。軍功を以て開府儀同三司都虞侯に至る。勇鷲にして誅殺を縱まにす。親屬と雖も回貸せず。部將牛名俊に殺さる。年五十七。

リクワイ 李懷信 (明)大同の人。世廢を以て都指揮僉事を歴。萬曆中、總兵官に擢でらる。遼東の事急なるに方り、熊廷弼の

諸將を凌ぐと憤り疾を引き去る。天啓二年起つて大同を鎮す。明年罷む。功を録して左都督に進む。之を久うして家に卒す。

リクワイ 李懷仁 (唐)陝西狄道の人。永徽間宗室子弟を以て朝議郎を授けられ、襄陽縣令となる。政を爲すに學校を以て先となし、耕桑を以て急となす。能く士民をして業を樂しましむ。盜竊屏息し、老殘廢疾と雖も咸な憐むなし。德政碑あり。

リクワイ 李懷遠 (唐)字は廣德。邢州柏人の人。少うして孤、學を嗜む。宗人以て高陸に籍らむと欲す。懷遠辭退して曰く、人の勢に因るは高士之を耻づと。乃ち四科第に擢てられ、累官して同平章事に至り爵趙郡公たり。懷遠貴くして益々素約、居室を治めず、常に款段に乗す。卒して諡を成さば。

リクワ 李廣 (漢)隴西成紀の人。其先李信、秦の時に將と爲る。廣能射を以て名を知らる。嘗て夜山行す。石を以て虎と爲し、弓を引て之を射る。箭を没し羽を飲む。文帝の時匈奴を撃ち功あるを以て散騎常侍に拜す。數々獵に従ひ猛獸を格殺す。上谷隴西北地地門雲中太守を歴。文帝曰く惜らば廣時に逢はず、高帝の時に當らば萬戸侯を取る何ぞ難からむと。武帝の時北平太守と爲る。匈奴之を畏れ號して飛將軍と曰ひ之を避く、數戰敢て右北平に入らず。匈奴と大小七十餘戰皆捷つ。廣部伍行陣無く、水艸に就て舍止す。人々自便す、刁斗

を擊ち自衛せず、士卒其儀を得て皆用を爲すを樂む。子三人、當月、叔、致、孫陵。

リクワ 李鑑 (明)大同右衛の人。世擢擢同知たり。正徳中、都督僉事に擢てらる。賊王浩を撃つ。未だ全く平らげず、直背に發して軍に奉す。右都督を贈る。

リクワ 陸王猷 (明)崇禎中、武舉を以て子王に從つて太湖の賊を征す。戰敗れて死す。後、贈廉せらる。

リクワ 李光翰 (明)新郷の人。弘治十二年の進士。南京戸科給事中を授けらる。正徳元年光翰、同官と偕に大官數人を誅劾す。旨に忤ひ刑籍せらる。已にして起つて台州知府たり。治行卓異に擧げらる。尋て卒す。

リクワ 李光型 (清)字は儀型。光地の弟。官刑部主事。著台灣私議、崇雅堂文集、樹庭錄等の書あり。

リクワ 李皇后 (南北)周の武帝の后。名は嬌姿。楚人。子臨江陵を平ぐ、后の家籍没せられて長安に至る。周文、后を以て武帝に賜ふ。宣帝を生む。開皇元年出俗して尼となり名を常慈と改む。

リクワ 李皇后 (南北)魏の獻文帝の母。梁國蒙縣の人。姿質并麗なり。高祖に幸ふ齊康中、遂に嬪むあり。獻文を生むに及び貴人に拜せらる。

リクワ 李皇后 (南北)魏の獻文の妃。中山安喜の人。南郡王暹の女。姿儀婉淑、年十八、選を以て東宮に入る。獻文即

位して夫人となす。孝文帝を生む。

リクワ 李皇后 (南北)齊の文宣帝の皇后。名は祖娥。趙郡李希宗の女。容儀甚だ美。初め太原公夫人たり。帝擁護を好み、嬪御を襲する者あるに至る。唯だ后獨り禮敬を蒙る。武成踐阼して后に逼りて淫す。後ら嫉むあり。太原王紹德關に至るも見るを得ず。愾つて曰く、姊の腹大なり故に親を見せずと。后之を聞、大に愾つ。是に由て女を生むも擧げず。帝刀を横へ附つて曰く、爾我が女を殺す、我何ぞ爾の兒を殺さばらんやと。后の前に紹德を殺す。后大に哭す。帝愈々怒り后を裸して亂打して之を墮ち、盛るに相繼を以てす、流血淋漓たり。之を溝水に投ず、其久しうして蘇す。懷軍を以て妙勝尼寺に載送す。齊亡びて趙郡に還るを得たり。

リクワ 李皇后 (五代)漢高祖の后。父農たり。高祖已に貴くして魏國夫人に封ず。隱帝を生む。開運四年高祖軍士を賞するに幣を充るに足らず、餓を民に取らむとす。后諫めて曰く今號して義兵と爲し、先づ民財を奪ふは、新天子民を救ふの意にあらず、今後宮の有所を悉く出せば、不足と雖も士亦以て怨みと爲さばらん。高祖容を改め之を謝す。高祖即位して立て皇太后と爲る。高祖崩じ隱帝冊尊して皇太后と爲す。帝年少く、小人郭允明等宮中に遊戯す。后厭々之を切責す。帝省せず遂に亡に至る。周太祖兵を起し兵京師に擣ふ。

帝自ら出て兵に臨まんと欲す。太后之を止めて曰く、郭威は本と吾の家人、今危疑に由て此に至る、詔を以て之に諭さば威必ず説あらん、則ち君臣の際全しと。帝從はず以て難に及ぶ。周太祖即位して、太后に事ふる母の如くせんと請ふ。太后感謝して語を下して之を許す。是に於て大平宮と遷す。顯徳元年春崩す。

リクワ 李皇后 (五代)晉高祖の后。唐明宗の女。初め永寧公主と號す。清泰二年魏國長公主に封ず。廢帝常に高祖の反を疑ふ。三年公主手書節に入朝す。辭して歸る。之を留む。得ず。廢帝辭て公主に語つて曰く、爾歸る何速か、石郎と反せむと欲するや。公主歸り以て高祖に語る。高祖是に由つて益々自ら安んぜず。高祖即位す公主當に皇后と爲るべし、天福二年有司言ふ皇太妃尊號已に正し請ふ。寶冊を上つらんと。太妃は高祖の庶母なり。高祖宗廟の未だ立たざるを以て謙讓す。七年五月高祖病む已にして崩す、故に后亦冊命なし。出帝天福八年七月冊して皇太后と爲す。后人と爲り強敵。高祖常に之を嚴彈す。出帝の馮皇后、事を川。數々之を訓誡す出帝從はず、乃ち敗に及ぶ。開運三年十二月契丹耶律德光、已に晉軍を降し將を遣はして京師を犯す、太后表を奉じて罪を謝せしむ。德光報じて曰く憂無かるべしと。四年正月丁亥朔德光京師に入る。帝太后と肩輿して郊外に至る、德光見ず封禪寺に詣す、其時



雨雪寒凍皆飢を苦む。太后寺僧に謂て曰く、吾嘗て此に於て僧數萬に飯せしむ、今日豈相憫まざる。僧辭するに廣惠測り難きを以てす。辛卯徳光帝を降し眞義侯と爲し、太后を留め帝を引き去らむとす。太后從はず。是に於て帝太后及び皇族を以て去り、帝と太后とを懷密州に徙す。黃龍府を去る西北一千五百里。明年三月太后疾に發す醫藥無し。天を仰て泣き南望敵を手にし、杜重威李守貞を罵つて曰く、爾を地下に殺さずと。八月疾亟なり帝に謂て曰く、我死せば、其骨を焚き范陽佛寺に送れ、我を以て廢地の鬼と爲らしむる勿れと。遂に崩す。帝宮人宣者と被髮徒跣して其柩を舁ひ、賜地に至り其骨を焚き以て葬る。

リクワウコウ 李皇后 (宋)光宗の后。安陽の人。嘉王を生む。光宗位に即くに及びて皇后と爲る。帝嘗て宮中に手洗つ。宮人の手の白きを見て之を悦ぶ。他日皇后を遣はして食合を帝に送らしむ。帝之を啓けば則宮人の兩手なり。又黃貴妃の寵せらるゝを嫉みて之を殺す。是夕風雨大に作り黃墮燭盡く滅して禮をなす能はず。帝是より疾劇しく朝政を見ず。事多く后に決す。寧宗立つに及びて太上皇后と曰ふ。年五十六にして崩す。

妃嫔して先朝嫡御の中に處り未だ嘗て自異とせず。順容より宸妃に進む。年四十六にして薨す。呂夷簡奏して喪するに一品の禮を以てし后服を以て殯し水銀を用て棺を實たさしむ。劉后崩するや燕王仁宗の爲に言はく、陛下は乃ち李宸妃の生む所にして妃は非命に死せるなりと。仁宗哀痛の詔を下して自責む。宸妃を尊んで皇太后と爲す。リクワウコウ 李皇后 (宋)太宗の妃。風定の人。乾州坊梁使英の女。容徳あり。楚王元佐を生む。既にして眞宗を生む。太宗位に即きて未幾げくならずして薨す。年三十四。眞宗位に即くに及びて賢妃と追封し、又尊んで皇太后と爲す。

リクワウコウ 李皇后 (明)穆宗の后。昌平の人。穆宗裕王たりし時妃と爲る。憲懷太子を生む。三十七年四月薨す。穆宗即位して諡を孝懿皇后と曰ふ。リクワウチ 李光地 (清)字は晋卿。福建安溪の人。康熙九年の進士。官文淵閣大學士に至る。海賊鄭錦叛して泉州に據す。光地計を設け之を破る。前後官に在り清勤を以て自ら勵む。民を恤み、尤も心を農田水利に盡す。其學は程朱を主とす。御覽朱子全書及び群經性理諸篇等の書、纂訂する所多し。著述甚だ富む。經子百家皆傳註あり。卒して文貞と諡す。郷賢に祀る。リクワウテツ 李光堽 (清)光地の弟。軍功を以て都督に至る。リクワウハ 李光坡 (清)字は紹卿。光地の弟。性至孝、家居して仕へず。心を經學に潛め、二禮述註六十九卷を著はす。リクワウヒツ 李光弼 (唐)柳城の人。肅宗の朝節度使に拜せらる。安史の亂を平げ、郭子儀と名を齊うす。世に李郭と稱す。光弼の兵を用ふる、謀定て而後ち戰ふ、少を以て衆を撃つ。中興の戰功推して第一と爲す。其子儀に朔方に代るや、當壘士卒應幟更はる所なし、而して光弼の號令氣色乃ち益々精明なり。代宗の朝、臨淮郡王に封ぜらる。卒して武穆と諡す。詔して鐵券を賜ひ名を太廟に載し、形を凌烟閣に畫く。リクワウリ 李廣利 (漢)貳師將軍となり大宛を伐ち、海西侯に封ぜらる。リクワウコク 李華 (清)字は夷池。竹谿老人と號す。江陵の人。山水を善くし、性情樂易、人と進ふなし。リクワウツマ 李科妻 (宋)謝氏。侯昌故村の人。盜中に囚はるゝと數日、之を犯さむと欲す。謝氏其面に唾して曰く寧ろ萬段となるも、我れ汝に徇せずと。盜怒り之を刺す。リクワン 李桓 (三國)廬陵の人。嘉禾同、衆を聚め亂を作す。幾もなく誅に伏す。リクワン 陸紹 (宋)字は權叔。常熟の人。進士に擧げらる。兄弟産を別つ、船先つ嘴を推して之に付す。俸を捐て族に救うし、篤く孤を教ふ。各々登科す。揚子雍邱二縣に歴知し終に尙書職方郎中たり。著はす所春秋新解三十卷あり。

リクワン 李瑛 (宋)海陽の人。早く父を喪ひ、母に事へて至孝なり。春秋餘經諸子に通ず。皆其大略を知る。隱居して仕へず。都邑子弟を教授す。實者其雜札を助く。尤も醫術に精しく、郷人之に頼る。北源先生と號す。文集あり。リクワン 李完 (金)字は全道。朔州馬邑の人。諸官を歴、終に南京路按察使たり。人となり吏治に長し、至る所姦惡悉く屏む。リクワン 李瑄 (明)豊城の人。萬曆五年の進士。御史より福建僉事に擢てらる。直言を以て罪を得、斥けられて家居すること三十年。卒す。リクワン 李灌 (清)字は向若。陝西郿陽の人。崇禎癸酉の擧人。國變の後、祝髮して僧となり太華黃河の間に放浪す。山に入つて藥を採り、或は果樹向ふ所を知らず。或は黃冠緇衣、行きて都市に笑す。清初屢ば微々とも起す。晚歲乳羅山に石室を鑿ち以て居り。田數十畝を得、名けて小桃源といふ。居ること數月にして遷れ去る。リクワリヨウ 李化龍 (明)字は子田。長垣の人。萬曆二年の進士。知縣に除す。年甫めて二十。兵部右侍郎と爲る。叛臣楊應龍を討滅し、功を以て兵部尙書に進み、少保を加ふ。尋て戎政尙書を以て柱國少傅を加へ、太子太保を兼ねぬ。官に卒す。年七十。薨殺と謚し少師を贈り太師を加贈す。リクワ 陸輝 (南北)字道暉。觀の子。尙右月三公郎に至る。著す所的文章數十篇。

リクキ 陸倕 (晋)字は元容。凱の子。晋に仕ふ。左丞相領四大將軍事華嚴嘗て喪喪して禱を薦めて曰く、禱体質才剛、器幹強固、董率の才、魯肅も過ぎず、戎に在りて果毅、財に臨んで節ありと。リクキ 陸贄 (清)字は日爲。華亭の人。性穎辯、山水を善くし、自ら一家を成す。リクキ 陸筠 (宋)金溪の人。紹興中進士となる。平生篤く孟子を好み、眞孟音解九十一條を著はす。リクキ 陸允明 (唐)字は信夫。吳郡の人。贛の從子。元和三年集賢校理を以て出で華化縣令たり、悃悃にして華なく、民を規る子の如し。歳大旱に屬す、郷境人相食む。允明其の民を輯和し、糜食を振ひ以て道路の餓者に給す。活を全うする數萬人。治行天下第一たり。復た龍潭溪に石を壘み水を障ぎ、渠を鑿つて流を引き、廣平湖一通じ江に達す。湖田數千頃。後其の堰を名けて寶園といひ、渠を新河といふ。今に至りに賴る。在邑五年、卒して民祠を立て、祀る。リケイ 李暎 (唐)字は景望。絳の子。太中の末、進士に擢てらる。戶部郎中に累進し東都を分司す。黃巢、都を陷る。暎尙書の八印を執にして河陽に走る。時に留守光韋賊の爲に脅され、人を遣して暎に就て印を索めしむ、拒んで與へず、光韋亦悟り賊に臣たらず。高駢僞命を受く、暎苦諫す。入つて中舍人翰林學士と爲る。乾寧中禮部尙

リクワン 李瑛 (宋)海陽の人。早く父を喪ひ、母に事へて至孝なり。春秋餘經諸子に通ず。皆其大略を知る。隱居して仕へず。都邑子弟を教授す。實者其雜札を助く。尤も醫術に精しく、郷人之に頼る。北源先生と號す。文集あり。リクワン 李完 (金)字は全道。朔州馬邑の人。諸官を歴、終に南京路按察使たり。人となり吏治に長し、至る所姦惡悉く屏む。リクワン 李瑄 (明)豊城の人。萬曆五年の進士。御史より福建僉事に擢てらる。直言を以て罪を得、斥けられて家居すること三十年。卒す。リクワン 李灌 (清)字は向若。陝西郿陽の人。崇禎癸酉の擧人。國變の後、祝髮して僧となり太華黃河の間に放浪す。山に入つて藥を採り、或は果樹向ふ所を知らず。或は黃冠緇衣、行きて都市に笑す。清初屢ば微々とも起す。晚歲乳羅山に石室を鑿ち以て居り。田數十畝を得、名けて小桃源といふ。居ること數月にして遷れ去る。リクワリヨウ 李化龍 (明)字は子田。長垣の人。萬曆二年の進士。知縣に除す。年甫めて二十。兵部右侍郎と爲る。叛臣楊應龍を討滅し、功を以て兵部尙書に進み、少保を加ふ。尋て戎政尙書を以て柱國少傅を加へ、太子太保を兼ねぬ。官に卒す。年七十。薨殺と謚し少師を贈り太師を加贈す。リクワ 陸輝 (南北)字道暉。觀の子。尙右月三公郎に至る。著す所的文章數十篇。

リクキ 陸倕 (晋)字は元容。凱の子。晋に仕ふ。左丞相領四大將軍事華嚴嘗て喪喪して禱を薦めて曰く、禱体質才剛、器幹強固、董率の才、魯肅も過ぎず、戎に在りて果毅、財に臨んで節ありと。リクキ 陸贄 (清)字は日爲。華亭の人。性穎辯、山水を善くし、自ら一家を成す。リクキ 陸筠 (宋)金溪の人。紹興中進士となる。平生篤く孟子を好み、眞孟音解九十一條を著はす。リクキ 陸允明 (唐)字は信夫。吳郡の人。贛の從子。元和三年集賢校理を以て出で華化縣令たり、悃悃にして華なく、民を規る子の如し。歳大旱に屬す、郷境人相食む。允明其の民を輯和し、糜食を振ひ以て道路の餓者に給す。活を全うする數萬人。治行天下第一たり。復た龍潭溪に石を壘み水を障ぎ、渠を鑿つて流を引き、廣平湖一通じ江に達す。湖田數千頃。後其の堰を名けて寶園といひ、渠を新河といふ。今に至りに賴る。在邑五年、卒して民祠を立て、祀る。リケイ 李暎 (唐)字は景望。絳の子。太中の末、進士に擢てらる。戶部郎中に累進し東都を分司す。黃巢、都を陷る。暎尙書の八印を執にして河陽に走る。時に留守光韋賊の爲に脅され、人を遣して暎に就て印を索めしむ、拒んで與へず、光韋亦悟り賊に臣たらず。高駢僞命を受く、暎苦諫す。入つて中舍人翰林學士と爲る。乾寧中禮部尙

書に進む。太子少傅に遷る。昭宗素より之を器とす。李茂貞等諸して之を殺す。後官爵を復し諡して文獻といふ。著に文集及註解諸書あり。リケイ 李瓊 (五代)字は子玉。幽州の人。祖傳正、涿州刺史たり、父英、涿州從事たり。瓊幼にして學を好み史傳を涉獵す。周に仕へて太子洗馬に累官す。嘗て安州防禦使となる、治を爲すに寛簡、民石を立て徳を頌す。徳宗の初め、召して太子賓客となる、右饒衛上將軍を以て致仕す。卒して太子少傅を贈る。リケイ 李經 (金)字は天英。錦州の人。詩を作るに極めて刻苦し、喜んで奇語を出す。人稱して當時の太白となす。聲名大に震ふ。後終る所を知らず。リケイ 李洞 (元)字は澹之。睢州の人。文宗の時、經世大典を修め以て進む。尋て疾みて起さず。洞秀眉疎髯、目光電の如く、顔水玉の如し。文を爲るに筆筆縱橫、皆條理あり。濟南に寓居し、亭を作り天心水面と曰ふ。文集四十卷あり。リケイ 李暉 (明)鎮の子。正徳十二年の進士。行人に官たり。武宗の南巡を極諫し、廷杖に死す。リケイ 李晟 (明)字は德宇。順義の人。洪武中、國子生より知府を歴。仕へて宣宗に至り太子少保工部尙書兼領兵部事に累進す。宣徳二年病で卒す。リケイ 李燾 (清)字は滄巨。江蘇元和の



人。少くして孤、母之に教へて成立す。乾  
隆十七年進士となり、廣東茂名に官し知縣  
となる。滋惠を以て政をなす。嘗て其の家  
住に題して云く、窮秀才微官、何必十分受  
用、清苦隨出世、總憑一点良心と。訟を聽  
く毎、必ず心を平らかにして違を察す、未  
だ嘗て一たびも暴刑を用ひず。後誣に坐し  
て官を去る。士、香を執つて送る者道に隨  
籍す。既にして歸、靈巖山下に隱れ、野服  
幡然、山水を以て自ら樂しむ。卒する年七  
十有一。

リケイシ 李慶嗣 (金)洛人。醫術に達す。

著はす所傷寒類四卷、改證活人書二卷、  
傷寒論一卷、鍼經一卷あり、世に傳ける。

リケイシウ 李迥秀 (唐)母に事て至孝。  
中宗の時、門閭に旌表す。迥秀の母本と徴  
賤。迥秀婢を叱す、母之を聞て悦ひず、迥  
秀即時に之を出す。或は問、何ぞ速に此の  
如き。迥曰く妻を娶るは本と以て親を養  
ふなり、今顔色に違伴す、安ぞ敢て留めん  
やと。

リケイジヤウ 李景讓 (唐)武宗の時、浙  
四節度使と爲る。初景讓の母鄭氏、性嚴明  
早く寡にして家貧しく子幼し、毎に自ら之  
を教ふ。宅後牆隙り錢を得て船に置つ。母之  
を祝して曰く、吾拙く勢なくして獲るは身  
の災なりと、天必ず先君の餘慶を以て其貧  
を矜み之を賜ふなり、則ち願くは諸孤學問  
成るありて後此を取らざらんやと。遂に命  
じ掩て之に鑿く。景讓官達して薨已に瘞白  
やと。

リケイシウ 李迥秀 (唐)母に事て至孝。  
中宗の時、門閭に旌表す。迥秀の母本と徴  
賤。迥秀婢を叱す、母之を聞て悦ひず、迥  
秀即時に之を出す。或は問、何ぞ速に此の  
如き。迥曰く妻を娶るは本と以て親を養  
ふなり、今顔色に違伴す、安ぞ敢て留めん  
やと。

少しく過らざれば挫楚を免れず。弟景淵景  
壯下弟す、景讓終に背て主司に屬せし、曰  
く朝廷士を取る自ら公道あり、豈人の關節  
を求む可む乎と。

リケイセン 李繼遷 (宋)夏主第一世。本  
姓拓跋氏。唐の時、姓李と賜ふ。世。恩德  
を著し四人多く之に附す。繼遷に至り其族  
繼遷と諱あり、奔つて邊患を爲す。遂に銀  
州を襲て之に據る。是は雍熙二年なり。三  
年契丹女を以て之に嫁し、冊して夏國王と  
爲す。淳化の初宋、歸款す。宋銀州の察  
使を授け姓を趙、名を保吉と賜ふ。尋て復  
叛す。乃ち賜ふ所の姓名を削る。咸平二年  
蕃部を集め、靈州を攻陥す、以つて西平府  
と爲す。六年靈州に都す。宋和を請して河  
西銀夏等五州を割き繼遷に與ふ。景德元年  
潘羅支と戦つて敗れ、流矢に中つて死す。  
元昊の時、追諡して神武といひ廟を太祖と  
號す。

リケイセン 李繼宣 (宋)開封の人。乾德  
中、材武を以て殿直に補せらる。年幾に十  
七、命じて虎を峽州に捕へしむ、凡殺すも  
の二十餘、二虎一豹を生擒して以て獻す。  
遂に授くるに邊任を以てす、至る所戰功あ  
り。嘗て北虜を新城に追ひ、其實恩相公を  
斬る。兵を高陽に監し、兵を率て虜境に  
入り、聚落を燒き生口を獲て以て歸る。時  
に虜方に瀛鎮の間に寇す、之を聞て遂に引  
還る。又嶺邊寇、曹彬、李繼隆、米信に従  
ひ契丹と戦ふ、未嘗て捷ざるあらす。是に

リケイセン 李繼宣 (宋)開封の人。乾德  
中、材武を以て殿直に補せらる。年幾に十  
七、命じて虎を峽州に捕へしむ、凡殺すも  
の二十餘、二虎一豹を生擒して以て獻す。  
遂に授くるに邊任を以てす、至る所戰功あ  
り。嘗て北虜を新城に追ひ、其實恩相公を  
斬る。兵を高陽に監し、兵を率て虜境に  
入り、聚落を燒き生口を獲て以て歸る。時  
に虜方に瀛鎮の間に寇す、之を聞て遂に引  
還る。又嶺邊寇、曹彬、李繼隆、米信に従  
ひ契丹と戦ふ、未嘗て捷ざるあらす。是に

至て勝之を畏る、既にして鎮州の鈴轄に任  
す。主帥傅潛、怯懦なり、嘗ありて行を請  
ふも皆爲に抑へらる。高瓊と同一く軍事を  
主とするに及び、遂に虜衆を逐ひ界河を越ゆ。  
嘗て秦翰、楊延勳、延昭、張斌と虜軍に遇  
ふ。陣に臨み、馬矢に中り、凡三たび之を  
易ふ。虜軍皆引去る、獨り繼宣所部を引て  
接戦し、薄暮方に營に至る。詔して之を稱  
獎す。官を積み四方館使康州刺史に至る。  
卒する年六十四。

リケイチウツマ 李敏中妻 (明)胡氏。  
麗明の孫女。夫死す、三日、家人に告げて曰  
く、妾不幸にして所夫を失ひ子無し、死者  
に地下に従はむとす、他日叔に子あらば亡  
人の爲めに嗣を立てよ、歳時夢飯を奠せば  
足ると。家人之を止む、願みずして死す。

リケイテイ 李繼貞 (明)字は徵尹。太倉  
州の人。萬曆末の進士。兵部職方主事に累  
遷す。崇禎の初、軍書旁午、繼貞事を處す  
る精敏、執政之に倚信す。性強項にして請  
諷行はれず。奸權の臣之を銜み帝に請す、  
故に言多く用ひられず。詔して水師を統し  
遂を授ふ。戰艦具はらざるに坐し、名を除  
かる。明年召して兵部右侍郎に拜す。疾を  
得て途に卒す。右都御史を贈り一子を官に  
す。

リケイハク 李景伯 (唐)中宗侍臣を實  
し、各過波辭を爲らしむ。時に景伯諫議大  
夫たり、進て曰く瀛波爾酒屈を持す、微臣  
職儀規に在り、侍臣既に三爵に過ぎ諫諍す

リケイハク 李景伯 (唐)中宗侍臣を實  
し、各過波辭を爲らしむ。時に景伯諫議大  
夫たり、進て曰く瀛波爾酒屈を持す、微臣  
職儀規に在り、侍臣既に三爵に過ぎ諫諍す

窟に恐る儀に非ずと。上悦けず。蕭志忠曰  
く此眞の諫官なりと。

リケイリウ 李繼隆 (宋)字は霸圖。涪州  
上黨の人。都監處耘の子。父の旗を以て供  
奉官に補す。乾德中、選ばれて果閩監軍と  
爲る。年方に弱冠、母其專に堪へざるを憂  
へ、輔くるに處耘の左右を以てせんとす。  
繼隆曰く、是の行、兒自ら立つところあり  
豈此輩を須たんや、願くは慮さ爲す勿れと。  
母慰めて之を遣はす。代り還ふ、江南を征  
するに會ひ、雄武の卒三百を領し邵州を成  
る。止て刀盾を給して蠻賊數千其道を截つ。  
繼隆衆を率ゐ力戦して遁れ去る。手足毒矢  
に中る。太祖其勇敢を聞て之を器重す。又  
石曠と袁州を襲ひ桃田峯を破る。大祖之を  
嘉し、其父を追念し之を拔用せむと欲し、  
昇州を平くる功を以て莊宅副使に遷る。太  
宗即位して六宅使に改む。從て太原を征し、  
四而提舉都監に遷る。端拱の初、侍衛馬軍  
都指揮使を授け、保順節度使を領す。後出  
て定州都部署と爲る。初朝議寇至るあれば  
壁を堅し戦ふなからしむ。一日契丹驟に至  
る。繼隆出んと欲す。中黃門林延壽詔書を  
以て之を止む。繼隆曰く閭外の事は將軍專  
を得と。乃ち袁繼忠と出て、戦ひ大に之を  
破る。淳化四年召還す。太宗面たり之を獎  
す。眞宗即位して中書門下平章事を加ふ。  
兵柄を解き本鎮に歸る。後復石保吉と契  
丹を瀘淵に敗る。上至り北門に幸し兵を觀  
るに及び、召問慰勞し、其所部の整肅なる

窟に恐る儀に非ずと。上悦けず。蕭志忠曰  
く此眞の諫官なりと。

を見て歎賞久しうす。京に還り開府儀同三  
司を加ふ。疾起る會ふ。上親しく臨問す。  
卒して中書令を贈り忠武と諡す。

リケイリウ 李景隆 (明)文忠の長子。小  
字は九江。讀書典故に通す。太祖に事へて  
左軍都督府事を掌り、太子太傅を加へらる。  
建文帝の時、至り肺腑を以て親任せられ、  
大將軍に進む。後事を誤り勅せられ、永樂  
の末、私第に縊死す。

リケイリヤク 李景略 (唐)德宗の朝、河  
東行軍司馬と爲る。李說之を忌む。同紇使  
梅録入貢し太原を過ぐ。說之を宴す。梅録坐  
次を争ふ。說過むる能はず。景略之を叱す。  
梅録其聲を諷り、前に趨し之に拜して曰く、  
豊州李端公に非ずやと、遂に下堂に坐す。  
坐中皆日を景畧に屬す。說益不平なり。乃  
ち崔文場に賂ひ之を去らしむ。同紇の入寇  
を傳ふる者あるに會ふ、上豊州の虜衝に當  
るを以て守る可き者を擇ぶ。文場景畧を薦  
む。豊州窮邊氣寒く土瘠せ民貧し、景畧勤  
儉を以て衆を率う。二歳の後、諸備完實北  
邊。雄なり。

リケウ 李嬌 (唐)字は巨山。贊皇の人。  
十五にして五經に通す。進士に舉られ給事  
中に累官す。來俊臣の狄仁傑を構するに會  
ひ、嬌大理少卿張德裕等と覆讒し、卒に其  
枉を明かにす。神龍の初、中書令と爲る。  
張說其の文章を論じて曰く嬌の文は眞金美  
玉の如く、應ずして不可なるなしと。一  
時學者法を取る。子暢、虔州刺史と爲る。

リケウ 李嬌 (唐)字は巨山。贊皇の人。  
十五にして五經に通す。進士に舉られ給事  
中に累官す。來俊臣の狄仁傑を構するに會  
ひ、嬌大理少卿張德裕等と覆讒し、卒に其  
枉を明かにす。神龍の初、中書令と爲る。  
張說其の文章を論じて曰く嬌の文は眞金美  
玉の如く、應ずして不可なるなしと。一  
時學者法を取る。子暢、虔州刺史と爲る。

リゲウゲン 李襲官 (宋)江陵の人。熙寧  
中侍御史に除せらる未だ七旬ならず即ち印  
綬を上る。其の兄立言亦瀘州より政を納む。  
又季疎あり亦疾を引き時を同じうして里居  
す。郡人之語をなして曰く、元豊濟々稱多  
士、南部堂々有三季、萬鍾於我何加焉、一  
瓢樂在其中矣。

リゲウフ 李曉夫 (元)道釋人物鬼神を畫  
く。

リケツ 李傑 (宋)邵陽の人。親に事へて  
孝、財に臨んで廉、貧困を周急す。邦人之  
を徳とし、孝行節義十事を列舉し幸に告げ  
て以聞す。詔して其の門に旌表す。張栻爲  
に其の額に題す。

リゲツソ 李月素 (隋)女子。詩を善くす。  
リゲフ 李業 (漢)字は巨游。梓潼の人。  
少くして志操を勵し、明經に擧らる。王莽  
居攝に直ひ乃山谷中に匿る。公孫述素より  
其名を聞く、徵て博士と爲す。述致す能は  
ざるを羞ち、尹融に詔を奉し之を切さしむ。  
若し起ば則ち公侯の位を授くべし、起され  
ば賜ふに醜酒を以てせんと。業歎じて曰く、  
古人危邦に入らず、亂邦に居ず、此が爲め  
の故なり、君子危を見て命を授く、乃誘ふ  
に高位重餌を以てする乎。融曰く宜く家室  
を呼て之を計るべし。業曰く大丈夫、之を  
心に断ずる久し、何ぞ妻子をこれ爲んぞ。  
遂に毒を飲で死す。述不士を殺すを耻ぢ、  
錢百萬を贈して其家を吊す。子襲逃れ去り  
て受げす。光武立て其閭に表す。

リゲツソ 李月素 (隋)女子。詩を善くす。  
リゲフ 李業 (漢)字は巨游。梓潼の人。  
少くして志操を勵し、明經に擧らる。王莽  
居攝に直ひ乃山谷中に匿る。公孫述素より  
其名を聞く、徵て博士と爲す。述致す能は  
ざるを羞ち、尹融に詔を奉し之を切さしむ。  
若し起ば則ち公侯の位を授くべし、起され  
ば賜ふに醜酒を以てせんと。業歎じて曰く、  
古人危邦に入らず、亂邦に居ず、此が爲め  
の故なり、君子危を見て命を授く、乃誘ふ  
に高位重餌を以てする乎。融曰く宜く家室  
を呼て之を計るべし。業曰く大丈夫、之を  
心に断ずる久し、何ぞ妻子をこれ爲んぞ。  
遂に毒を飲で死す。述不士を殺すを耻ぢ、  
錢百萬を贈して其家を吊す。子襲逃れ去り  
て受げす。光武立て其閭に表す。



リゲフコウ 李樂興 (南北)長沙の人。博く百家圖緯、風角天文占候に渉り、討練せざる無し。孝廉に擧られ校書郎と爲る。造層の功を以て屯田縣子に封ぜらる。術業精微、當時及ぶ無し。子崇祖其業を傳ふ。

リゲフシ 李鄭嗣 (清)字は果堂。鄭人。明の諸生なり。清に入り巾服を棄て、日に著書を以て務めさす。詩は品格高超なり。著書に盧江令と爲る。莽の末に寇賊大に起る時を以て偏將軍と爲す。寇擊て賊を破り郡に據り自ら守る。更始元年自ら淮南王と稱す。建武二年遂に自立して天子と爲り公卿百官を置き九城衆十餘萬を擁す。六年漢の將軍馬成等の爲に滅せらる。

リケン 李頌 (漢)潁川許昌の人。王莽の時、盧江令と爲る。莽の末に寇賊大に起る時を以て偏將軍と爲す。寇擊て賊を破り郡に據り自ら守る。更始元年自ら淮南王と稱す。建武二年遂に自立して天子と爲り公卿百官を置き九城衆十餘萬を擁す。六年漢の將軍馬成等の爲に滅せらる。

リケン 李頌 (唐)射洪の人。少くして俊穎、書を讀み目を過れば即ち悟る。進士に擧る。詩に工なり、時人之を陳子昂李白に比す。

リケン 李兼 (宋)宣城の人。博く詩を學ぶ。楊萬里之を推許す。台州に知たり、官に居る守あり。既に卒す。吏民之を爲に巷哭して市を罷む。自ら雪巖と號す。著す所詩文及び郡志あり。

リケン 李頌 (宋)夏主第十二世。夏の宗室。初め南平王たり。立て二年蒙古の爲に滅せらる。

リケン 李謙 (元)字は受益。鄆州東阿の人。至元間左德諭に遷る。東宮に侍し十事を疏陳す。年七十にして致仕す。仁宗の朝に比す。

リケン 李謙 (元)字は受益。鄆州東阿の人。至元間左德諭に遷る。東宮に侍し十事を疏陳す。年七十にして致仕す。仁宗の朝に比す。

リケン 李賢 (明)彬の子。宣德三年従つて塞に出で、還りて諸城を修む。正統の初、大同を鎮し、尋て南京を守備す。景泰二年卒す。豊國公を贈り忠愍と諡す。

リケン 李賢 (明)字は原德。鄆人。宣德八年の進士。檢討主事に除せらる。景泰天順の交、首輔。累擢せられ、太子太保を加ふ。成化三年卒す。年五十九。太師を贈り文忠と諡す。

リケン 李賢 (明)安邦彦に屬して屢々官軍を苦しむ。後誅斬せらる。

リケン 李殿 (三國)南陽の人。少うして郡職史となり、才幹を以て稱せらる。劉璋用ひて成都の令と爲す。後、昭烈に歸し偏將軍に拜せられ尙書令に進む。昭烈疾率るや、嚴諸葛亮と并に遺詔を受け幼主を輔く。中都護となり内外の軍事を統ぶ。留つて永安を鎮し、郡縣亭侯に封ぜらる。

リケン 李欽 (南北)南皮の人。家素と貧し、常に春夏農を務め、秋冬乃ち入つて學

リケン 李固 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

リケン 李憲 (唐)字は若思。折津の人。仲禧の子。壽隆の初、宋に如き和議を結ぶ。還りて參知政事に拜す。道宗晩年勳に倦み、人を用ふる賢否を擇ばず、各般子を投じ、勝を采れば之を官にす。儼嘗て勝を采る多し、之を相とす。號を經邦佐運功臣と賜ふ。皇朝實錄七十卷を脩む。乾統間漆水郡王に封ぜらる。天祥之を寵任す。天慶中薨す。尙父を贈り諡して忠懿と曰ふ。性廉潔、經籍一覽して誦を爲す。然れども昂ら逢迎を務め、善く人主の意を伺ふ。是に由て權寵比なし。識者之を薄んす。三子、處貞、處廉、處能。

人。萬曆十一年の進士。推官より戶科給事中に改め、屢禮科都給事中に遷る。六科の諸臣と併に疏陳する所あり。旨に忤ひて家に廢せられて卒す。天啓の初、光祿卿を贈る。

リケンガイ 李元愷 (唐)邢州の人。博學にして天步曆に善し。性恭順、未嘗て敢て人に語らず。宋璟嘗て師とす、既に國に當る、厚く束帛を遺り以て將に之を薦んとす、拒て答へず。年八十餘にして卒す。

リケンキョウ 李言恭 (明)文忠の裔。庭竹の子。字は惟寅。學を好み詩を能くす。節を折り寒素に處す。初め南京を守備し、入つて京營を督し、累りに少保を加へらる。子宗城。

リケンクワウ 李元欽 (唐)字は大綱。萬年の人。父道廣、武皇の時同鳳閣鸞臺平章事たり。初め襄陽一、雍州刺史と爲り、元欽司戸參軍と爲る。時に太平公主僧寺と碾磑を争ふ。元欽判して僧寺に歸す。從一公主の威勢を畏れ、命じて改判せしむ。元欽判後に署して曰く、南山可移、此判無動と。從一奪ふ能はず。果官して尙書侍郎に至る。再世宰相たり、俱に清節あり。

リケンジュン 李乾順 (宋)夏主第六世。乘常の子。三歳にして立つ。年五十七にして殂す。聖文皇帝と諡し廟を崇宗と號す。

リケンセイノヒ 李玄盛妃 (晉)尹氏。涼の武昭王李玄盛の後。天水眞の人。幼にして學を好み、清辯志節あり。初め馬元正に

リケンチウ 李建中 (宋)字は得之。益州の人。幼にして學を好み。太宗の時の進士。累官して太常博士たり。嘗て時政を諷陳す。後ち曹暉領蔡州を歴知す。終に大府事に判す。建中、性簡靜、榮利に恬に、書札を善し、草隸篆籀俱に妙なり。集三十卷あり。子

リケンチウ 李建中 (宋)字は得之。益州の人。幼にして學を好み。太宗の時の進士。累官して太常博士たり。嘗て時政を諷陳す。後ち曹暉領蔡州を歴知す。終に大府事に判す。建中、性簡靜、榮利に恬に、書札を善し、草隸篆籀俱に妙なり。集三十卷あり。子

リケンチウ 李建中 (宋)字は得之。益州の人。幼にして學を好み。太宗の時の進士。累官して太常博士たり。嘗て時政を諷陳す。後ち曹暉領蔡州を歴知す。終に大府事に判す。建中、性簡靜、榮利に恬に、書札を善し、草隸篆籀俱に妙なり。集三十卷あり。子

リケンチウ 李建中 (宋)字は得之。益州の人。幼にして學を好み。太宗の時の進士。累官して太常博士たり。嘗て時政を諷陳す。後ち曹暉領蔡州を歴知す。終に大府事に判す。建中、性簡靜、榮利に恬に、書札を善し、草隸篆籀俱に妙なり。集三十卷あり。子



す願は吾刀を假せと。玄通舞竟て嘆息して曰く大丈夫、國の厚恩を受け方面を鎮し、守る所を保全する能はず、亦何の面目ありてか世間に視息せむやと。刀を引て自刺して死す。

リケントク 李乾徳 (明)張鵬翼と同邑の人。崇禎四年の進士。十六年、右倉都御史を歴て、助陽を治撫す。未だ赴かずして湖南に赴く。時に武昌陷る。乾徳岳州を守る。張獻忠攻むる急なり。長沙に走る。次て岳州、長沙、衡永、皆隨て陷る。地を失ふを以て諷せらる。乾徳蜀に入る。其郷邑陷り父亦難を被る。嘉定に據る。劉文秀、雲南より至り嘉定を陷る。乾徳乃ち水に赴いて死す。

リケンノウ 李献能 (金)字は欽叔。河中の人。母に事へて孝。諸官を歴て行省左右司郎中となり、趙三の恨む所となり害せらる。年四十三。

リケンハク 李彦博 (唐)廣陵の人。學通せざる無し、尤も地理を好み、嘗て地志圖を爲る。内五侯九伯より外要荒蠻貊に至るまで、禹跡の窮むる所、漢譯の通ずる所、皆書に據りて畫し、方面に隨ひ萬邦を區別し、錯時炳焉たり。

リケンハク 李元白 (宋)名は齊。字を以て行はる。寧化の人。博覽強記、學子の業に倦就する能はず。乃ち力に詩に肆し、少陵に出入し、集中幾んど眞に逼る。杜詩を慕し押韻を爲し、又其句を集め一編と爲す。

す皆世に行はる。嘗て大觀昇平詞若干首を集めて進む。初品官を得。即故郷に歸り泉石に笑傲して終老す。

リケンホ 李献甫 (金)字は欽用。博く書傳に通じ尤も左氏及地理學に精し。興定五年登第、諸官を歴て鎮南軍節度副使たり。蔡州に難に死す。年四十。天倪集あり世に傳はる。

リケンメイ 李献明 (明)字は思泉。壽光の人。崇禎元年の進士。保定推官を授けらる。明年十一月清兵遷化に隨む。巡撫王元雅、推官何天球、遷化知縣徐澤、及び先任知縣武起潜等と、城に憑り拒守す。時に献明は官庫を察核するを以て、城中に駐まる。或人謂ふ、此邑は君の轄する所に非ず、去るも罪なからん。献明色を止して曰く、王土に非ざるなし、安ぞ敢て危を見て難を避けん。請うて東門を守り、城破れて之に死す。

リケンメイ 李原名 (明)字は資善。安州の人。洪武十五年、通經儒士を以て御史に擢てらる。累遷して禮部尚書たり。嘗て郊祀宗廟社稷獻瀆の諸制を更正す。帝善と稱す。後老を以て致仕す。

リケンヤウ 李元亮 (宋)才を抱き氣を尚ぶ。崇寧中大學に處り。時に蔡巖學録を爲る。亮之を輕んず。後巖和州を守る。元亮猶布衣なり、州を過つて謁せず。巖駕を命じ先づ其館に至る。餉るに錢五十萬を以てし、且書を致し譽を諸公に延く。遂に科

に登る。

リケンレイ 李元禮 (元)字は庭訓。眞定の人。性端重。妄に言笑せず。世祖及び順聖皇后の尊諡を撰す。五臺山佛寺成る。大后往て祈祝せむとす。元禮土疏して之を切諫す。成宗大に悟り乃ち罷む。尋て國子司業と爲る。卒して隴西郡侯を贈る。

リケンロ 李彦魯 (五代)崇本の子。父を弑す。尋て義弟保衡に殺さる。

リケンキ 李彦威 (五代)壽州の人。梁の太祖に仕ふ。人と爲り頓悟。善く人意を揣る。太祖之を憐み、養うて子とし、姓名を朱友恭と賜ふ。嘗て昭宗を廢し太子年を立つ。後、事に坐し流され、道に誅斬せらる。

リコウ 李固 (漢)字は子堅。部の子。少くして學を好み、常に姓名を改易し、策を杖つき驢を驅り、笈を負ひ師に従ふ、千里を遠とせず。竟に墳籍を覽て世の大儒と爲る。大學に到る毎に、密に公府に入り、父母に定省す。同業諸生に其部の子たるを知らしめず。順帝の時大山太守と爲る。杜喬兗州を按察す。固を奏す、政天下第一なりと。大尉に累遷す。質帝暴に崩す。竇憲蓋香侯を立むと欲す。固等清河王を立るを欲す。冀怒り太后に白し、策して固を免し、又固の妖賊と通するを誣ふ。固を收め獄に下して死す。尸を市に暴し、敢て臨者あれば其頭を加ふ。汝南の郭亮、南陽の董班相繼て上書して收葬せよと。太后憐みて之を許す。子愛。

リコ 李虎 (元)堂邑の人。武宗の時、兗徒を聚めて春りに民害を爲す。遂に捕斬せらる。

リコ 李湖 (清)字は又川。江西南昌の人。乾隆四年の進士。官廣東巡撫に至る。官に在り清嚴を以て政を爲す。廣東と盜を患ふ、湖、廣東を撫し、時に巡りて盜首二百有奇を擒ふ。盜遂に跡を絶つ。恭毅と諡す。

リコウ 李后 (周)趙人李園の女弟。楚の考烈王の后なり。初李園其女弟を取て春申君に與ふ。嬖めり。時に考烈王子なし。春申君に謂て曰く妾嬖めり、今君の重きを以て妾を楚王に進めば王必嬖せん、妾天に賴りて子男あらは是君の子王たらんと。春申君之を然りして以て王に進む。考烈王果して之を幸して子悼を生めり。乃ち立て、后と爲し、悼を以て太子と爲す。王死するに及びて園春申君を殺して以て其口を滅す。悼立つ幽王是なり。后考烈王遺腹の子猶を立てて哀王と爲す。考烈王の弟公子負芻の徒、幽王が考烈王の子に非ざるを聞て哀王を疑ひ遂に襲て哀王を殺す。后亦難に死す。

リコウ 李弘 (漢)字は仲元。成都に居り、里中之よ化し廉讓風を成す。嘗て召され令と爲る、邑人共に之を饒す、月餘去す。刺史罵を趣がす。曰く元と行に就くに心なしと。遂に遁れ去る。楊淮曰く夷ならず惠ならず、可否の間に居りと。

舍人に進み、賜に金紫を以てす。憲宗の初政、軍國の大事ある毎に必ず諸學士と之を謀り、或は月を閱て對を賜はす。韓旨ふ臣等飽食言はず、其自計を爲は則ち得、國に負くを如何せん、陛下道理を詢訪し、直言を開納す、實に天下の幸、臣等の幸に非ずと。上遂に召對す。上嘗て苑中に遊獵せむと欲し、蓬萊池西に至る。左右に謂て曰く李絳必諫めん、且止るに若すと。絳嘗て吐突承璀の專横を極言す、言極めて懇切。上色を作して曰く卿が言太過ぐ。絳泣て曰く陛下を腹心耳目の地に置く、若し臣をして左右を長邊し身を愛して言はざらしめば是臣陛下に負くなり、之を言て陛下聞を惡む、乃ち陛下に負くなり。上怒解く曰く卿の言ふ所は乃人の言はざる所、眞に忠なりと。未だ幾何ならずして相に拜す。嘗て帝に謂て曰く、人臣當に顔を犯し口を苦くし得失を指陳すべし、若し君を惡に陥れば豈忠と爲を得んやと。上輔臣を謂て曰く李絳は直宰相也と。時に京兆尹元義方に吐突承璀に媚事す。絳之を惡み、出して郎坊觀察使と爲す。義方入謝し、因て絳其同年許季同に私するを言ふ。上曰く朕李絳を諳んず、必爾らずと。明日上以て絳を詰て曰く人同年に於て情ある乎。對て曰く同年は乃ち四海偶々科第を同するのみ、情に於て何かあらん、宰相の職は才を量り、任を授くるに在り、若し其人果して才あらば子姪の中に在りと雖も猶用ふべし、況や

同年をや、嫌を避け才を棄るは是私に拘ふなりと。上以て然と爲す。嘗て君臣成敗十五種を撰次して奏上す。憲宗深く歎賞し、薄屏を爲り別殿に張り、毎に之を閱視す。

リコウ 李紱 (唐)字は子玄。寧道の人。唐太和二年、學士第一たり。時に劉蕡の對事切直なり、考官敢て取らず。郎曰く、實逐はれ、我留る、吾其の厚を願はむやと、乃ち上疏して之を極論す。帝納れず。後賀州刺史を歴。

リコウ 李觀 (宋)字は泰伯。南陽の人。五經に通ず、生徒常に數百人、魯滄南等皆其高弟なり。文章を爲るに自ら一家を成す。天下其名を知る。皇祐間、范仲淹薦めて大學助教に試み、大學説書に除す。既に歿す。滄南其退居類黨、皇祐續黨并に後集を上つる。詔して其子參魯を官にす。

リコウ 李恒 (元)字は德淵。中統の初、尙書斷事官と爲る。諸國を征討して尤功あり。厓山の戦に敵の汲路を絶つ。宋の勢日に蹙る。竟に以て宋を亡す。功成り入觀す。中書左丞に拜す。後ち交趾の蠻を征す。毒矢右膝を貫く。卒。其子、州に至る。毒發して卒す。滕國公に追封す。

リコウ 李穀 (元)守賢の子。征蜀の役、賊の不意に乗じ、長驅して成都に至る。憲宗南伐す。宋の舟師、萬艘至る。穀一旅を以て先づ犯し、諸軍繼て進み、遂に之を破る。至元七年卒す。



リコウヂン 李興元 (清)字若始。直隸道化人。康熙の朝、官雲南按察使に至る。吳三桂反す。興元害に遇ふ。太常寺卿を贈る。リコウシ 李洪芝 (南北)梁の將。曾て兵を率ゐて齊を侵し戦敗れて死す。

リコウシヤウ 李鴻章 (清)字は少荃。一字は漸甫。道光三年(文政四年)安徽省合肥縣に生る。家代々儒たり。道光二十七年の進士の第に中る。三十年廣西の人洪秀全亂を起し自ら太平王と稱し勢ひ猖獗にして當るべからず。遂に金陵を陷る。咸豐四年(安政二年)鴻章、蘆洲に在り、官軍日に振はざるを見て奮然として蹶起し、自ら資を籌ちて義勇兵を募り、大に賊を討す。九年(安政六年)福建延平の道臺に任ぜらる。既にして浙江の敵勢益々盛なりしかば兩江總督曾國藩と疏して鴻章を推薦し同治元年(文久二年)江蘇省巡撫を命ぜらる。是に於て鴻章上海に赴き米人マドと共ニ常勝軍を指揮し類に賊と戦ふ。マド戦死するに及び英國大佐ゴルトン鴻章を助けて賊に當る。賊終に支るを得ず城を出て降る。是より先き官軍城中に告ぐるに賊若し城を捨て降らば必ず其生命を斷たざるべきことを以てす。然るに賊の降り來るや鴻章夜窺かに部下に令じて悉く降將二十餘人を斬らしむ。鴻章の偽計は當時激烈なる非難を承けしと雖も當時の敵情を見れば、降將等傲頑風せず依然長髪を存して部下を解かさる等、更に悔悛の情を示さず、再び朝廷に

抗せんとするの色段なりしが爲め、鴻章竟に之を斬行したるなり。同治九年(明治三年)天津に暴徒起り佛人及露人を殺害せし事あり。時に直隸總督曾國藩、責を引て辭するに及び鴻章代之に任じ、爾來光緒廿一年(明治廿八年)に至る迄其職に留り、鐵腕を揮て管下の治平に努め、光緒十七年及十八年に於ては内蒙古に起れる一揆を平定したり。而して天津は實に諸外國使臣北京に至るの途上にあり。故に鴻章絶えず外人と接して多く研究經營する所あり。されば清國に於る世界的智識を有する政治家は獨り鴻章の他に之を求むるを得ず。是を以て清國の外交は常に鴻章に依りて折衝せらる。談判應接悉く鴻章を俟て然る後行はるるを例とす。例へば光緒二年(明治四年)英國通譯官マーカレーの被害及び雲南に於る英吉利宣教師の迫害等依り英國の談判を受て芝罘協商を締結し、同十年に於ては安南事件に關し佛國の艦長フルニエールと協主權を抛ち、續て翌年及び東京に對する宗比翌々年に於ける天津協商に於て全く兩大國の争を絶つたる如き、或は光緒八年朝鮮を勤めて歐米と通商を開かしめ、後三年日本と天津協商を結びて朝鮮問題に關して日清兩國の衝突を和解し、同十三年には露國と談判して巨文島の兵を撤退して再び朝鮮の地を占領する事なきを誓はしめたる等、一として鴻章の手に依りてなされざるはな

し。時治も清國國歩艱難の時に際し、外列強の壓迫あり、内頑途固陋の國民跳梁し、益々外交の困難を甚しからしめたるが爲に鴻章が遂行せる通商條約は清國に取りて不利の條項少からざりしと雖も、是を以て決して鴻章の無能を責むる能はず。寧ろかゝる多難の秋に際會し多少の不利を犠牲としても能く清國全土の平和を維持し主權を失墜せしめざりし功は決して没却するを得ざるべし。明治二十七年の日清戦役は鴻章の籌畫その宜しきを得ざりしに原因すと雖も、戰局一旦定まり和を講ずるに及び、清國の廟議を制して臺灣及び遼東半島割讓の事に一致せしめたるは、尋常人の能くする所にあらず。鴻章は後北京に召還せられて總理衙門に入りしが英人は鴻章が専ら露國を以て之を嫌忌し、終に排斥運動を試みて彼を放逐したり。後兩廣總督となり、再び之を罷めて直隸總督北洋大臣内閣大學士を以て竟に身を擧るに至り。享年七十九。時に明治三十四年(光緒二十七年)十一月七日なり。朝廷特に侯爵を贈り文忠と諡す。國葬を賜ふ。

リコウセウ 李孔昭 (清)字は潜夫。蕪州の人。明の崇禎癸未の進士。甲申都城陷る、白衣冠し田間に哭する者三年。清屢に徵せども起たず。妻王氏蕪州に於て城陷りし時節に殉す。義再び娶らず、平居生徒に教授す、門人私かに安節先生と諡す。

リコウチヨ 李公緒 (南北)靈の後。博く經傳に通ず、尤も天文圖緯に善し。魏の末冀州司馬鳳となり、疾を以て官を去り冀州山に隱る。北齊御史を以て徵せども就かず。沈冥道を樂しむ。著はす所典義、禮實疑、喪服章句、古今畧記、玄子趙語若干卷あり。子少通學行あり、齊の功曹參軍たり。戰國春秋音譜を撰す。

リコウリン 李公麟 (宋)字は伯時。舒州の人。元祐の進士。泗州録事參軍と爲る。公麟博雅詩に長し、多く奇字を識る。夏商より以來の鍾鼎尊彝、皆能く世次を考定し、款識を辨別し、考古圖を爲る。朝廷一玉璽を得、衆辨する莫し。公麟曰く此秦璽、藍田玉を用ゆ、昆吾刀に非ざれば治む可からずと。上其識を嘉す、丹青を善くし、妙絶世に冠たり。黃庭堅謂ふ其風流古人に減せずと。弟公權、公實亦進士に擧げられて名あり。元符間歸老して龍眠山莊に居り、龍眠居士と號す。

破り、再び陝西に破り、復た湖廣に破る。五年流賊張獻忠を西充に滅す。上嘗て紫貂冠服及金甲鞍馬等の物を賜ふ。定新將軍に累官し、三等侯に封ぜらる。軍に薨じ太子太保を贈られ敏壯と諡す。

リコクフ 李國樞 (明)字は元治。高陽の人。萬曆四十一年の進士。神光熹思四宗に事へ、庶吉士より左國柱少師兼太子太師吏部尚書中極殿大學士に累進す。崇禎元年乞て歸り卒す。太子を贈り文敏と諡す。

リコクヨウ 李克用 (五代)後唐の太祖武皇帝を見よ。

リコクヨウ 李克膺 (元)元亡ぶ。猶ほ阿魯恢等と遂安縣に退守す。至正年中敗れて自殺す。

リコクリン 李國倫 (明)字は明卿。官、河南參政に至る。詩を善くす。

リコゲン 李固言 (唐)文宗の朝、中書同平章事に拜す。

リコツランキツ 李忽蘭吉 (元)本名は庭李。隴西の人。管軍千戸都總領に拜す。諸軍を統べ西蕃を討ち、諸蕃を招降す。蜀に在ること二十餘年。老を以て骸骨を乞ふ。卒して襄放と諡す。

リコン 李暉 (隋)字は金戈。穆の第十子。姿貌魁偉、鬚美なり。家を周の左侍上士尉に起す。累官顯仕し。心漸く驕傲なり。後、事を以て殺さる。

リコン 李悝 (清)家貧しうして木工を以て生を營む。歲數、粟米一石を得、日に升

ばかりを春き以て父に供し、自ら糲糶を咽む。父病みて須臾も離れず、卒に餓死す。

リサイ 李材 (明)字は孟誠。豐城の人。遂の子。嘉靖四十一年の進士。世宗を経て穆神二宗に事へ、刑部主事より右僉都御史に擢てらる。事に坐し鎮海衛に謫す。之を久うして赦され還る。卒する年七十九。

リザイ 李在 (明)字は以政。莆田の人。雲南に遷る。宣德中畫院に入る。山水は李唐の郭熙を宗とす。

リサウ 李早 (金)人物を畫く甚だ佳。而して樹石稱はす。明昌中盛名あり。

リサウツ 李壯祖 (宋)光澤の人。閔祖の季弟。進士に擧げられ閔清尉と爲る。眞徳秀之を薦めて曰く、其人物典型と爲すに足ると。

リサウテイ 李壯丁 (明)安定縣の人。嘉靖中、北寇入り犯す。父母の爲に賊を仆し、賊に殺さる。

リサウヒ 李莊妃 (明)光宗の選侍。東李と稱す。仁慈寡言なり。位西李の上に在りて寵及ばず。莊烈帝幼にして母を失ひ、西李に育せらる。既にして西李女を生む、光宗東李に命じて撫視せしむ。天啓元年二月莊妃に封ず。魏忠賢、客氏事を用ひ、妃の正を持するを惡み、宮中禮數、多く裁損せられ鬱々として薨す。

リサコウ 李佐厚 (清)字は奉軒。湖南平江の人。咸豐五年李元度の平江軍に入る。九年屈蟠に従つて大に賊を太湖に破る。十



一年廣信を防ぎ力戦して傷を受く。同治二年屈蟠に従つて浙を授け龍游に克つ。二年賊を鄱陽草田渡に破る。三年廣信を防ぎ康王汪海洋を敗る。六年陝甘を勦、伏に遇ふて死す。官提督に至る。壯烈と諡す。宣して史館に付し傳を立つ。

リサンヤ 李左車 (漢)行唐の人。初趙に仕ふ。廣武君に封ぜらる。韓信張耳兵を引て趙を撃つ。左車陳餘に説て曰く韓信張耳勝に乗じ遠く歸ふ、其鋒當る可からず、臣聞て後に襲げば師宿飽せず、今井陘の道、車軌を方ふるを得ず、騎列を成を得ず、糧食必其後に在らん、足下溝を深し壘を高く與に戰ふ勿れ、十日ならずして兩將の頭麾下に致す可しと。陳餘自ら義兵と稱し、詐謀奇計を用ひず。韓信遂し背水陣を用ひ、陳餘を斬り趙王を擒す。信募る左軍を生得する者は千金を予へんと。縛して麾下に致す者あり、信其縛を解き東嚮して之に師事し、燕を攻め齊を伐つの策を問ふ。左車曰く亡國の大夫以て存を圖る可からず、敗軍の將以て勇を語る可からず、信曰く向きに陳餘子の計を聽かば僕も亦擒と成らん。卒に其策を用ひ、燕齊諸城を下す。

リサンヤ 李三才 (明)字は道甫。順天通州の人。萬曆二年の進士、戶部主事より郎中を歴。執政を劾し、礦稅に抗し、浙賊を平げ、魏國に殉す。反つて旨に忤り落職す。天啓中、南京戶部尚書に起す。未だ

上らずして卒す。リサンセキ 李三錫 (金)字は懷邦。錦州安昌の人。三び武勝軍節度使に遷る。察廉第一たり。安國軍節度使、河北四路轉運使等を歴。政事強明にして至る所治を稱す。リシ 李氏 (漢)安帝の宮人。順帝の母。關后の妬忌に遇ひ鳩殺せらる。順帝立つに及びて尊諡を上つり恭愍皇后と曰ふ。

リシ 李德 (金)字は子友。定州安信の人。天眷二年進士第に登す。北京留守同知、沂州防禦使等を歴。陝西四路轉運使に進みて卒す。リシ 李耳 (周)字は伯陽。諡して聃といふ。所謂老子なり。楚の苦縣の厲郷、曲仁里の人。周の守藏室の吏なり。孔子、周に適き禮を老子に問ふ。孔子去りて弟子に謂て曰く、老子は猶ほ龍の如きかと。老子道徳を修め自ら隠れて名なきを以て務とす。周に居て其の衰ふるを見、乃ち去りて關に至る。關の令尹喜いふ、子將に隱れんとす、吾が爲に書を著せと。是に於て老子上下篇を著し、道徳の意をいふと五千餘言。去りて終る所を知る莫し。

リシ 李時 (明)字は居中。北京の人。儒を尊くす。リジ 李時 (明)字は宗易。任邱の人。柴の子。弘治十五年の進士。庶吉士より編修に進む。正徳中、侍讀右諭徳を歴。世宗に仕へて禮部右侍郎に擢せらる。憂を以て歸り、戶部右侍郎に起ち、禮部尚書に進む。

常に機務に參し輔弼する所多し。少傅太子太師吏部尚書蓋殿大學士と爲り、嘉靖七年十二月官に卒す太傅を贈り文康と諡す。リシイウ 李師雄 (金)字は伯威。鳳門の人。材力あり喜んで兵を談じ、古の英雄を慕ふ、故に師雄と名づく。皇統二年武勝軍節度使に遷る。事を以て河州防禦使に降り、後疾あり汴に歸りて卒す。

リシウ 李脩 (南北)館陶の人。父亮の醫術を傳ふ。魏に仕へて常に禁城に在り。針藥效あり。賞賜累加す。大學令に卒る。リシウ 李周 (五代)邢州の人。父矩、亂に遭ひて仕へず。嘗て周に謂つて曰く、今世道平らかならず、汝當に軍旅に従ひ以て吾が門を興すべしと。盧嶽の家を太公に徒すや周之を送る。嶽曰く、子方頭隆準、眉目疎散、眞に將相なり、吾天象を相するに晋必ず天下を有らん、宜しく留りて晋に事ふべしと。後節度使となり、四鎮を歴。リジウ 李充 (漢)字は大遜。陳留の人。家貧しく兄弟同居し衣を易へて出て、日を寛ふ。食するに、妻其私を挾み、分ちて異にせんと欲す。充、之を黜く。延平中、博士と爲り、左中郎將に遷り、年八十餘にして卒す。

リジウ 李充 (晉)字は宏度。妙に楷書を善し、魏王に參す。嘗て學箴を著す。征北將軍褚裒引て參軍と爲す。家貧を以て外出を求む。出て刻縣令と爲る。子顯文義あり

孝廉に擧らる。リジウ 李荒 (宋)字は粹之。建寧縣の人。學行、郷里に推重せらる。同邑の謝敷謝曾業を其門に受く。朝に立つ者其行を薦む。未だ授けられざるに卒す。集あり世に行はる。

リジウ 李充 (宋)字は仲實。弱冠、上庠に入る。元祐中進士に擢づ。直州司戸に除せらる。秩滿ちて宣德郡に改められ臨海縣に知たり。青溪二浙の州郡相繼いで守を失ひ、太守城を棄て去る。左獨り判判李景淵と戮力守禦す。寇至り全部を獲、使者以聞す。詔書を以て獎諭し、奉議郎に陞る。宣和の末山東盜賊猖獗、遠近繹繹す。充嘆息して引き去る。虜騎長驅するよ及び充獨り害を免る。リジウシ 李充嗣 (明)字は士修。内江の人。給事中蕃の孫。成化二十三年登第す。累進して刑部郎中たり。累に坐し謫せらる。旋々雲南按察使に遷る。正徳中、治行卓異に擧げらる。世宗の時、宸濠を討平す。官南京兵部尚書に至りて致仕す。之を久うして卒す。太子太保を贈り康和と諡す。

リシウセイ 李秀成 (清)咸豐中、髮賊に投下江寧を守る。忠王と號す。官軍の攻圍甚急なり。遂に竄れて蘇杭に出づ。同治中、誅に伏す。リシカウ 李士衡 (宋)成紀の人。後ち家を京兆に徙す。進士及第。數州を歴知して刑部侍郎に遷る。嘗て三司使と爲る。眞宗、

寛物利論を作り以て之に賜ふ。仁宗即位して尙書左丞に拜す。子丕孫。リシカウ 李士行 (元)字は道道。文簡の子。竹を畫く。家學に本づく。山水は其長ずる所なり。

リシカウ 李至剛 (明)名は綱。字を以て行はる。松江華亭の人。洪武二十一年の進士。明經に擧げらる。太祖より仁宗に歴事し、官位頗る顯はる。諱に遇ひて知府に貶せられ、官に卒す。年七十餘。リシキ 李至規 (宋)女子。淡軒と號す。狀元黃朴の女。尙書李珣子に適く。善く琴を撫し關を畫く。郎中孫榮甫の爲に九腕圖を作る。リシキ 李師變 (金)字は賢佐。奉聖州永興の人。偶儒にして大志あり。靜江軍節度留後、武平軍節度使、東京路陝西四路轉運使を歴、致仕して任國公に封せられて卒す。年八十五。リシギ 李之儀 (宋)趙州の人。尺牘に工なり。蘇軾以て發遣三昧を得と爲す。仕へて樞密編修官と爲る。後ち罷歸り穎昌に寓す。范純仁に代て遺表を作る。帝之を讀み悲愴已ます。之儀自ら姑溪老農と號す。文集六十卷あり。リシケン 李士謙 (南北)平棘の人。幼にして孤、母に事て至孝。其伯父瑒稱して曰く、吾家の曾子なりと。群籍を博覽し、天文術數に善し。北齊の時、徵辟せられて就かす。家富む。嘗て粟數千石を出して郷人に貸

す。歲饑に値ふ、債家を召し酒を設け券を播き、春に至て糧種を出し趙郡に分給す。農人曰く此李參軍の遺徳なりと。人の疾む者あれば、藥を合せて以て之を救ふ。元魏に仕へ參軍と爲る。隋に於て仕へず。卒する比ひ北郡の士女聞て流涕し相與に碑を墓に樹つ。リシコ 李師古 (宋)緯の子。進士に擧げられ河南都轉運使に累官す。時政の得失を言ふ。呂惠卿以て上を罔ふとなし和州團練使に貶す。官に在り威罰を責はず、務めて信を以て人を服す。去るの日、民道に遮り泣いて留む。杜衍、范仲淹、富弼、皆其の王佐の才あるを薦む。リシサイ 李之才 (宋)字は挺之。胙社の人。性朴直、古文章を爲るに語直にして意遠し。程修を師として易を受く。修の易、之を仲放に受け、故之を陳搏に受く。其の圖書象數變通の妙、秦漢より以來知る者鮮し。之才嘗て權共城令たり、邵雍其の學を傳ふ。官殿中丞に至る。リシジツ 李士質 (明)正徳間、宸濠の逆に與る。遂に生擒せられて市に磔せらる。リジセイ 李自成 (明)米脂の人。狡黠にして騎射を善くす。毅宗即位の初め賊高迎祥に依りて團將と號し山西河南の地に轉寇す。迎祥禽せらるゝや其黨に推されて團王となる。崇禎十六年遂に襄陽に據りて奉天倡義大元帥と稱し、襄陽を改めて襄京となし官廳を設く。翌年、王を西安に稱し國を大順と號し永昌と改元す。遂に京師を陷る。



帝、万歳山に登りて自經す。是時に當り清の太祖既に中原に下り勢甚だ盛なり。遂に自成を辰州に攻め殆んど之を獲す。自成出でて、食を村落中に求む。村民共に之を撃殺す。時に唐王即位の年なり。

リシセウ 李之紹 (元)字は伯宗。東平人。郷里に教授す。薦を以て國史院編修官を授く。至治の初告歸す。卒する年七十三。性事に遇うて断少し。故に果齋と號し以て自ら号む。文集あり家に藏す。

リシダウ 李師道 (唐)師古の異母弟。憲宗の朝、常に疎斥せられて外に在り。曾て東都に留後たる時、潛に兵を院中に内れ、宮闈を焚き事を舉んとす。謀洩れ誅せらる。封事を上りて時政を言ふ。進士に擧げられ河、都轉運使に累官す。官に在りて威罰を責ばず、務むるに信を以て人を服せしむ。包拯の參知政事たるや、或は云ふ朝廷此より多事ならんと。師中曰く、包公何ぞ能く爲さん。王安石、眼に白多し、他日天下を亂す者必ず斯の人ならん。後二十年、言乃ち信あり。唐介英州に貶せらる。朝中の士大夫詩を以て送る者甚だ衆し。獨り師中の一篇頗る傳誦せらる。

リシチウ 李思忠 (明)初め鎮士誠に屬して紹興を守る。至正二十六年太祖の軍門に降る。

リジチン 李時珍 (明)字は東璧。蘄州の人。好んで醫書を讀む。時に醫書混亂を病む。乃煩を交り開を補ひ、三十年を歴て成る。本草綱目と曰ふ。之を朝に上らむとして遷に卒す。神宗詔して購求せしむ。其子建言、父の遺表及び其書を獻す。命じて天下に刊行す。

リシツ 李實 (明)字は文彬。德慶の人。材略あり。元末、何眞の麾下に居り。洪武元年眞に従ひ太祖に歸す。初め中書斷事を授く刑部尙書に擢つ。治獄平恕なり。出でて浙江行省參政たり。居る三年惠績著聞、尋て靖江右相に拜す。王罪ありて廢せられ、質竟に坐死す。

リシツクワ 李日華 (明)字は君實。九疑と號す。嘉興の人。萬曆壬辰の進士。董文敏に亞く。詩文奇古、書に妙に鑒賞に精し、人となり和易安雅、仕進に恬たり。嘉靖乙丑に生れ、崇禎乙亥卒す。年七十一。

リジツツチ 李日知 (唐)榮陽の人。進士に及第す。武后の時、司刑丞を歴。時に法令嚴に東争て酷を爲す。日知獨り寛平なり。嘗て一囚の死を免す。少卿胡元禮曰く元禮

刑曹を離れずば此囚終に生理無し。日知曰く、日知刑曹を離れずば此囚終に死法無しと。竟に兩狀を以て列す。上曰く日知果して直なり。侍中に累遷し、尋て禮部尙書と爲り致仕す。

リジツハウ 李日芳 (明)衛士。正徳八年往て宸濠に歸し、頗る諛辭を獻し器用せらる。其亡るや市に磔せらる。

リシデン 李士傳 (元)字は仲芳。薊州の人。山水人物は李伯時を學ぶ。尤も善く宋の徽宗の墨戲に倣。

リシハウ 李之芳 (清)字は鄂園。山西武定の人。順治四年進士となり、官文華殿大學士に至る。言路に在り嘗て諤を以て聞ゆ。初め兩浙を督す、會吳三桂反す。之芳孤軍、險を扼し堅守するもの三載、浙水以西をして匹馬無らしむ。大小百四十餘戰向ふ所皆捷つ。中外に歴すること四十年、精勤を以て職を奉じ、恪誠を以て主に事へ、天下の善人君子其の志を行ふを得るを以て愉快とす。卒して文襄と諡す。

リジピン 李時敏 (明)平樂の人。景泰中、信宜知縣たり。嘗て孔端と共ニ徭亂を平げて功あり。知化州に遷る。粵人孔李を以て並び稱す。

リシフ 李集 (南北)齊の典御丞たり。北帝を面諫す、桀紂より甚しきもの有り。帝縛して中流に至らしめ、沈没すること之を久しうして復た引き出さしめ、謂て曰く、吾桀紂と何如と。集曰く、向來彌よ及ばず

所意の如くならざるなし。還りて左翼屯田萬戸を授けらる。元貞元年卒す。

リシン 李新 (明)郷官陝西會州たり。崇禎中、李自成斬州を陥れ其民を屠る。新家を擧て執はる。賊之を屈せしめんと欲す。新叱して曰く、我昔秦中に官たり、爾輩は方に厮養たり、今日皆て膝を厮養に屈せんや。賊怒る。遂に双に就く。

リシン 李新 (明)濠州の人。太祖に従征して管軍副千戸を授け崇山侯に封せらる。洪武二十六年有司を督して閩贛河を濠水に開き、西は大江に達し、東は兩浙に通じ、以て漕運を濟す。河成り民甚だ之を便とす。二十八年、事を以て誅せらる。

リシン 李震 (明)南陽の人。都督僉事の子。指揮使を襲ぐ。景泰天順の交、右都督に擢て、興寧伯に封せらる。

リジン 李任 (明)永康の人。燕山衛指揮僉事たり。成祖に従つて兵を起す。都指揮同知に遷る。仁宗の初、黎利反す。之を撃ちて克たす。自經して死す。

リジン 李仁 (明)唐縣の人。初め陳友諒に仕ふ。明師の武昌に克つや、來歸す。常遇春の薦を以て知黃州府に除す。侍郎を歴官し尙書に進む。事に坐して青州に謫せらる。政最たり。戸部侍郎に擢てらる。

リジンカウ 李仁孝 (宋)夏主第七世。乾順の子。學校を國中に立て、小學を禁中に立て親ら訓導を爲す。立て五十五年にして祖す。聖徳皇帝と諡し廟を仁宗と號す。

と。帝又之を沈しめ引き出して更に問ふ。此くの如きもの數四。集答ふること初の如し。大に笑つて曰く、天下此くの如き癡漢あり、方を知る龍逢比干是れ俊物に非るな。遂に之を解放す。

リシフ 李賢 (明)當塗の人。字は伯羽。元末の老儒。太祖の太平を取るや、父老を率ゐて太祖に迎謁す。帝喜び、左司員外郎を授け以て太平知府と爲す。年八十餘。官に卒す。

リジブン 李侍問 (明)字は存吾。或はいふ存我。崇禎庚辰の進士。官、中書たり。文章に工に、書法に精し。甲申、節に殉して死す。

リシフヨ 李襲譽 (唐)狄道の人。通敏にして識度あり。高祖召して大府少卿を授く。江南巡撫使に擢つ。政を爲す嚴肅。得る所の俸賜は宗親に分給す。餘資を以て書を寫す。歸るに及び惟書を載すること數車。嘗て諸子に謂て曰く、吾性財を喜ばず、遂に屢々乏きに至る。然も負京の賜田千頃あり、能く之を耕さば以て食するに足る、河内の桑干枝、之を事とせば以て衣するに足る、江都の書、力めて之を讀まば以て進むべし、吾が没後能く此を勤めば人に警らるゝなからんと。

リジベン 李時勉 (明)名は懋。字を以て行ける。安福の人。永樂二年の進士。庶吉士たり。太祖實錄を預修す。翰林侍讀に擢つ。正統中、老を以て致仕す。景泰元年卒

す。年七十七。文毅と諡す。成化五年禮部侍郎を贈り忠文と改諡す。

リシン 李紳 (唐)汝陽王に封ぜらる。嘗て上前に醉うて殿を下る能はず。上人をして扶け出さしむ。罪を謝して曰く、臣三斗肚臍、覺えずして此に至ると。杜甫云ふ、汝陽三斗始朝天。又贈るに詩を以てす、云はく、霜蹄千里駿、鳳翔九霄鵬と。

リシン 李振 (五代)字は興緒。唐の金吾將軍たり。梁太祖に附し昭宗を弑す。時人目して鸚鵡とす。後唐の莊宗の梁を亡すや、振も亦誅斬せらる。



リシヤウイ 李信圭 (明)字は君信。泰和人。清河知縣、知新州、處州知府等を歴て官に卒す。清河の民爲に祠を立て之を祀る。

リジンシノツマ 李蓮臣妻 (明)熊氏。其夫父に従ひ任縣に之を、熊氏留守す。崇禎の末、賊至り、隻身山谷に竄る。胡姓なる者あり子婦と爲さむとす。婦曰く吾頭は斷す可し、事は従ふ可からず。既にして蓋臣歸り賊に遇ひ殺さる。婦勸すること三日、自ら縊れ死す。

リシヤウイ 李信圭 (清)字は祥雲。邵陽の人。年十八、曾國荃に隨つて賊を江西に討ち、安福に轉戦し吉安を攻めて功あり。咸豐八年安慶に克つ。陳玉成楊輔清僅かに身を以て免る。同治三年江蘇に克つ、功第一たり。七月軍に卒す、年二十七。官提督に至り一等子爵を賜ひ忠壯と諡す。

リシヤウイ 李信甫 (宋)侗の子。仕へて監察御史に至る。正を持するを以て朝に容れられず、出て、衡州に知たり。

リジンホウ 李人鳳 (清)字は亦凡。長洲の諸生。嘗て其の祖母の爲に糶を砥む。父の喪に居りて食はざること七日。弟人彪亦た股を封いて親の病を療す。時に一門兩孝子、稱す。

リシヤウイ 李心唯 (明)孝行に敦し。崇禎中、賊至る。母の喪を守りて殺さる。子果、聲を勵まして賊を罵り、又殺さる。

リシヤウイ 李祥 (晋)海澄の人。隆安中内史袁松に従て厩濁暴に樂き孫恩を禦ぐ。崧

の賊に害せらるゝや、祥白刃を突いて崧を取め歸りて葬る。時皆之を義とす。其の居る所の城を名けて教義里といふ。

リシヤウイ 李草 (元)字は君平。東平の人。書を善くす。晩年墨竹を畫くを以て名を得。

リシヤウイ 李湘 (明)字は永懷。泰和の人。永樂中才を以て東平知州に擢てらる。

リシヤウイ 李相 (明)元に事へて都事たり。至正十八年明師大學來り攻む。遂に款を通じ師を導く。尋て誅せらる。

リシヤウイ 李常 (宋)字は君輝。建昌の人。皇祐間の進士。熙寧中右正言を爲る。時に王安石方に法を更ふ。常、其不便を言ふ。哲宗の朝、七事を上言し御史中丞に拜す。少くして兄弟と書を廬山の白石僧舎に讀む。既に第に擢てられ抄する所の書萬卷を室に留め、名づけて李氏山房と曰ふ。蘇軾歎して仁者の用心と爲し、爲めに其事を記すと云ふ。官兵部尚書に至る。

リシヤウイ 李商隱 (唐)字は義山。懷州河内の人。博學強記、詩を善くす。當時牛李の黨人、互に相陥排せし時なりしに、義山一往一反の間に遠遊して、其官も亦達せずして卒す。詩、怪詭を以て一格をなす。四傑体と稱す。

リシヤウイ 李昌期 (明)永年の人。推官たり。崇禎十五年清兵四萬騎城下に薄る。鄧澤錫王繼新等と死守す。食事を贈らる。

リシヤウイ 李昌祺 (明)名は諱。字を以て行はる。慶陵の人。永樂二年の進士。庶

吉士に除せらる。永樂大典を預修す。廣西左布政使に擢てらる。宣德正統の交、上書して時務を陳す、皆可かる。景泰二年卒す。

リシヤウイ 李祥和 (清)湘鄉の人。咸豐の間、羅澤南に従つて東征し、屢ば奇功を立つ。同治元年太平に克ち蕪湖を抜く。三年大軍に従ひ江寧を抜く。四年劉松山に従ひ河南に戦つて陝西を援ふ。功皆最たり。六年宜川の燃匪を勦し陣に歿す。累官して提督に至り、諡を武壯といふ。

リシヤウイ 李嘗之 (清)字は百韻。湖南平江の人。明季の諸生。清に入て巾服を棄て、躬耕讀書す。兼て壬運術に精し。嘗て衡岳カ巖武當天台武夷諸名山を遍遊せり。武夷に居るふと最も久しく高僧遺老と方外の交を結ぶ。書に工にして晋人の神韻を得たり。著に破草鞋等の集あり。同時に八大山人、一壺先生あり、皆高尙の士なり。

リシヤウイ 李相如 (漢)靈帝の時、隴西の太守に任す。中平四年、韓遂と連和す。未だ幾ならず誅に伏す。

リシヤウイ 李相祖 (宋)光澤の人。因祖の仲弟。心を用ふる精功。書説を編する、と三十卷。

リシヤウイ 李相祖 (金)字は達道。曹州濟陰の人。山東西路轉運使に累官して卒す。年六十一。人と爲り吏事に長じ能く繁劇を治す。

リシヤウイ 李昌符 (五代)仕へて鳳翔節度使たり。後兵を擡へて誅せらる。

リシヤウイ 李昌齡 (明)字は玉川。鎮番衛の人。崇禎中、延綏總兵官たり。數々功あり。剛直を以て罷めらる。榆林に居り。賊至る、或は之に去るを勸む。肯せず。城を守りて死す。

リシヤウイ 李鏞 (晋)字は茂潛。河東安邑の人。汝陰の太守李矩の妻。中書郎充の母なり。隸書を善くす。

リシヤウイ 李肇 (清)字は伯茹。湖北孝風の人。順治九年貢生を以て將樂縣に知たり。徳を以て民を化す。時に親ら民の疾苦する所を問ふ。牧豎婦女皆環集す、之を道くに善を以てす、愉然として家人の如し。官を罷めて後、士民像を繪いて之を祀る。

リシヤウイ 李若谷 (宋)長社主簿に赴く、自ら妻孥を控き、故人韓億爲めに行李を負ふ。將に境に入らんこす、韓に謂て曰く、縣吏の迎至るを恐ると。億止だ錢六百あり。其半を以て韓に遺り相持して大に哭して別る。

リシヤウイ 李若水 (宋)洛州曲周の人。上舍を以て登第し、太學博士と爲る。靖康の初、金人入寇す。若水を選び使と爲し粘罕を雲中に見る、纒に歸り、兵已下南す。粘罕を攻るに及び、若水を以て吏部尚書と爲す。金人帝を遊へて郊に出てしむ。計中變して帝に逼り服易せしむ。若水抱持して哭し、金人を詆り狗と爲し、大に罵りて罵せず。遂に害せらる。忠愍と諡す。

リシヤウイ 李若星 (明)字は紫垣。息

縣の人。萬曆末の進士。御史に擢拜せらる。首として弊政を切諫す。言用ひられず病を謝して去る。天啓の初、右倉部御史に拜す。魏忠賢客氏の奸を發く。奸黨誣ふるに附を以てし、獄上に杖する。百、廉州に謫成す。桂王召して吏部尚書と爲す。未赴かすして亂に遭ひ兵に死す。

リシヤウイ 李若拙 (宋)字は藏用。西安の人。奇偉にして氣節を尙ぶ。兩湖運使を歴、五知先生の傳を作る。謂ふ時を知り、難を知り、命を知り、退を知り、足を知る。

リシユ 萬朱 (周)即ち萬裏なり。百歩にて秋毫を見る。

リシユ 李壽 (晋)成親王第四世。字は武考。特が季弟。驪の少子。封せられて漢王たり。李期を試して自立し、國號を漢と改む。在位六年、年四十四。諡して昭文皇帝といひ、廟を中宗と號す。

リシユクセイ 李叔正 (明)字は克正。初名は宗頤。靖安の人。年十二、詩を能くす。長じて益々淹博なり。時に江西の十才子に數へらる。國子學正より渭南丞に遷る。同州蒲城の人。地界を争ひ久しく決せず。叔正單騎立り立るに決す。監察御史に擢てられ、禮部尚書に進む。官に卒す。太祖曾て曰く、人は言ふ老御史は懦なりと、乃ち明斷此くの如きと。

リシユクセイ 李淑妃 (明)太祖の妃。壽州の人。父饒、洪武の初北征して陣に卒す。十

七年九月冊して淑妃に封じ六宮の事を攝せしむ。未だ幾ばくならず歿す。

リシユクセイ 李叔明 (唐)開州の人。明經に擢てられ洛陽の令に拜せらる。遺民を招徠し、能吏と號す。乃ち京尹に遷る。長安歌つて曰く、前尹赫赫、具瞻尤若、後尹熙々、具瞻尤斯。

リシユケン 李守賢 (元)字は才叔。大寧義州の人。祖父皆金に仕ふ。守賢款を大祖に納れ、大軍に會し沐を圍む。敵の備なきを伺ひ、潜に健兒數十輩を遣はし、崖に縋り懸附して上り、守卒を殺し、入て之を敗る。兩句ならずして諸塞皆下る。關東洛西遂に平定す。甲午冬十月卒す。

リシユセイ 李守誠 (清)字は次生。江西宜黃人。咸豐中、六合縣に選ばる。從て湘浦を征す。八年九月守城陷り、賊中に死す。

リシユツ 李守素 (唐)趙州の人。氏姓の學に通じ、世に肉譜と號す。虞世南與に江右山東人物を論じ、歎じて曰く、肉譜眞に長るべしと。時に滑州刺史李淹亦譜に明かり、守素の論する所は惟淹のみ能く之に抗す。

リシユテイ 李守貞 (五代)河陽の人。晉の高祖に従ひ西征して功あり。即位の後客省使監に拜す。守貞固より杜重威と蓄あり。重威の殺さるゝに及び、守貞亦自ら安んぜず。遂に意を決して叛す。城破るゝに及び妻子と共に焚死す。

リシユヒン 李孺娥 (五代)漢の高祖のと

一四〇九

リシヤウ



き、威武節使に拜す。天福中、福州を以て唐に降る。尋て族せらる。  
リシユン 李藩 (明)和州の人。旺の子。成祖に従つて兵を起し、都指揮使に累擢し、襄城伯に封ぜらる。永樂三年十一月卒す。子隆。

リシユン 李純 (元)文宗の朝、詔を奉じて四行す。賊兵に遇ふ。賊帥を揮ひて前む。純刀を抜くに及ばずして斃る。

リシユン 李傳 (清)字は孝臣。高郵の人。乾隆庚子の進士。知縣に遷る。經を治めて通敏、尤も詩及春秋三傳に深し。晩に歴算を好み宣城梅氏の書に通ず。同郡の劉端臨、王懷祖、汪容甫と善し、力めて古學を唱へ、内行に篤く、恂々として退讓す。友朋の患難に遇へば則ち義を執つて回らず。歴代官制考、車制政、杜公長歷補、渾天圖說、羣經識小録の諸書を著す。

リシユンイウ 李純祐 (宋)夏主第八世。仁孝の子。立て十四年饒夷郡王安全の爲めに廢せらる。監して昭簡皇帝といひ、廟を祖宗と號す。

リシユンギヨク 李遠頊 (宋)夏主第十世。夏の宗室。初め進士及第を以て大都督府主と爲る。金人併立して夏國王と爲す。宋と約して金を攻め功なし。立て十三年殂す。諡して英文皇帝といひ廟を神宗と號す。

リシユンジ 李順兒 (元)女子。驪の女。順る經史に渉る。年十八のとき賊起る。女父母に告げ去らしめ、後園に於て自經して死す。

兼位中書舍人たり。  
リシヨイ 李如意 (晉)琅邪王獻の保母。廣漢の人。王氏に歸く。性柔慎勤恭、善く文を屬し、草書を能くす。  
リシヨウ 李崧 (五代)深州饒陽の人。幼より聰敏文章を能くす。唐に仕へて鎮州參軍たり。後内憂を以て職を去り、暇餘して仕官す。遂に晉に降り漢に歸す。卒する年八十八。  
リシヨウ 李升 (元)字は子雲。費賈生と號す。濠梁の人。工に墨竹を蓄く。蕭疎宕逸の致あり。  
リシヨウウン 李乘雲 (明)高陽の人。郷に擧げらる。崇禎の初、浮山縣を知す。流賊數萬來り寇す。乘雲手づから一矢を發して其魁を斃す。衆遂に通る。山西僉事に遷る。十四年秋、才を以て河南大梁道に調せられ、禹州に駐まる。十二月李自成連りに郡陳留の諸縣を陥れ、遂に禹州を犯す。乘雲死を誓て固守す。賊俄に十萬衆を以て堞を攀じて登り、乘雲執て跪かしむ。乘雲怒りて賊を叱す。賊猝りに之を杖つ。大に罵り聲を絶たず。諸樹に縛して之を射るに、罵り已まず。亂刃交々下りて死す。光祿卿を贈らる。  
リシヨウキ 李承箕 (明)字は世卿。嘉魚の人。日に山水に登渉し、古今の事を縱論す。黃公山に隱居し復仕へず。兄承芳と皆學を好む。嘉魚二李と稱す。卒する年五十四。

死す。  
リシユンシン 李舜臣 (宋)字は子思。井研の人。易學に造し。著す所四書辯證等の書あり。  
リシユントク 李純德 (宋)字は德之。諱の孫。光澤の人。少くして周禮を治め、左氏春秋を兼み、文を爲るや簡古にして時好を逐はず。諸弟、善人の道を問ふ。答へて曰く、事に臨んで陳據便利の心なければ斯れ可なりと。邑嘗て民兵を以て純德に屬す。爲に戰陣擊刺の法を制し、時を以て閉習す。甚だ觀る可きあり。令其の勳を奇として以聞せんと欲す。純德笑つて謝す。人益々之を高しとす。紹興五年特奏し恩を以て將に入つて廷對を奉せんとす、先だちて卒す。  
リシユンツマ 李純妻 (明)邵氏。曲周の人。遂進る、姑姉妹俱に洞中に避く。邵氏を執へ洞の所在を問ふ。給きて隨行せしめ、井傍に至り、井を投じて死す。洞中五十餘人因て免るゝを得たり。  
リシユンハツ 李春發 (清)洪秀全に事州興化の人。嘉靖二十六年の進士。修撰に除せられ、簡ばれて西苑に入る。禮部尙書に累擢す。上書して宗藩條例を制す。眷りに國務を視み。三疏して休を乞ひ、郷に父母に侍す。父母歿して數年の後卒す。年七十有五。太師を贈り文定と諡す。  
リシユンハツ 李春發 (清)洪秀全に事州興化の人。嘉靖二十六年の進士。修撰に除せられ、簡ばれて西苑に入る。禮部尙書に累擢す。上書して宗藩條例を制す。眷りに國務を視み。三疏して休を乞ひ、郷に父母に侍す。父母歿して數年の後卒す。年七十有五。太師を贈り文定と諡す。

リシヨク 李式 (晉)平允を以て嘗稱せらる。楷隸に善し。歷官して侍中に至る。弟亮。  
リシヨウクン 李承勛 (明)字は立卿。嘉魚の人。田の子。弘治六年の進士。知縣より南京刑部主事に改む。正徳中、賊を討ち功を彰はす。三朝に歴事し、致々として國に奉じ、知つて言はざる無し。嘉靖十年卒す。少保を贈り康惠と諡す。歴官四十年、家に餘貲なし。  
リシヨウケウ 李鍾儒 (清)字は世邨。抑亭と號す。光地の猶子。康熙壬辰進士となり、官詞子監丞に至る。著論語孟子講義十卷、詩經測義十卷、易解文八卷あり。  
リシヨウサ 李鍾佐 (清)字は世諧。光地の子。歴算に精し。  
リシヨウシ 李鍾泗 (清)字は演石。甘泉の人。嘉慶六年の舉人。書一たび見れば忘れず。經を治め左氏春秋に精しく、規模過等の書を撰す。  
リシヨウツマ 李拯妻 (唐)盧氏。拯、襄王愔に屬す。愔敗れ拯死す。盧氏尸に伏し哭す。王行瑜の兵之に逼る。脅に従はず。刃を以て一臂を斷ちて死す。  
リシヨウリン 李鍾倫 (清)字は世德。光地の子。康熙癸酉舉人となる。經史性理を治め諸子百家に及ぶ。著周禮三訓二十一卷あり。  
リシヨウエン 李鍾遠 (清)長年の兄。  
リシヨク 李燾 (三國)張儉の部將。

る。  
リシユンフウ 李淳風 (唐)岐州雍の人。幼にして爽秀、群書に通し、步天曆算に明らかなり。貞觀の初、將任郎を以て太史局に直す。渾天儀を制し、法象書七篇を著して之を上る。太史令に累遷す。太宗識を得て武姓を求め之を殺さむと欲す。淳風曰く天の命する所去る可からずと。乃止む。昌樂縣男に封ず。撰する所典章文物志、乙巳占等の書あり。  
リシユンホ 李純甫 (金)字は之純。屏山と號す。弘州襄陰の人。人と爲り聰敏なり。中年其才の行はれざるを度り、仕進の意を絶ちて歸隱し、日に禪僧士子と遊び、文酒を以て事と爲し、嘯歌祖習、禮法の外に出づ。沈醉すと雖、未だ嘗て著書を廢せず。晩年に至り、佛を喜み、其奥義を探れり。卒する時年四十七。  
リシユンミン 李俊民 (元)字は用章。澤州の人。金末西山に隱る。程氏の學を講明す。世祖頗りに辟すれども就かず。死して莊靜先生と諡す。  
リシヨ 李燾 (南北)字は彦鴻。世々柏人に居り。弱冠より文章を以て名を知らる。北齊に仕へて東平太守に位し、文章を以て吏事を飾る。後文林館に待詔し、通直散騎常侍に除せらる。燾に聘せらる。實にして居宅無し、佛寺の中に寄止す。常に巾幘を著け終日酒に對して賓客を招致す。風調詳雅。從父兄子耶、燾の流亞にしく吏能を

リシヨク 李植 (五代)遠の子。隴西成紀の人。字は仲和。幼より聲譽あり。群書を涉獵す。尤も騎射に工なり。四朝に歴任し、勢威最も重し。後不軌を企て、謀泄れて擊殺せらる。  
リシヨク 李植 (宋)泗州の人。幼にして明敏篤學。靖康の初、趙功郎に補せらる。湖南の向子諶、犒師の銀兩數百艘を督せしむ。植より濟に趨き、卒に計を以て達す。高宗大に悦びて曰く、一士を得ること拱壁を獲るが如し、豈特に軍餉のみならむと。戸部員外郎に累官す。秦檜國に當る。植乞祠して親を奉ずること十九年、仕へず。冊卒して墓に廬す。後數州に歴知し寶文閣學士を歷て致仕す。卒して忠襄と諡す。臨淮集十卷あり。  
リシヨク 李璽 (宋)壽の子。李璽の條を見よ。  
リシヨク 李燾 (元)字は孟幽。滕州の人。幼にして穎敏。入歲能く經史を記誦す。順帝の時、治書侍御史に遷る。丞相に従ひ徐州を平らぐ。致仕して京に卒す。齊國公に追封し文穆と諡す。性孝友恭儉、朋友に篤く、其遺孤を撫する甚だ厚し。人皆之を稱す。  
リシヨク 李植 (明)字は汝培。江都の人。承式の子。萬曆五年の進士。庶吉士より御史に擢でらる。右僉都御史巡撫遼東に累遷す。致仕し卒す。兵部右侍郎を贈る。  
リシヨクギ 李燾宜 (清)字は克讓。希庵と號す。湖南湖湘の人。兄弟五人皆忠勇な